

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ者	ガッコウホリゾン バイカクエン 学校法人 梅花学園									
フリガナ名称	ハイジヨウシガク 梅花女子大学 (Baika Women's University)									
大学本部の位置	大阪府茨木市宿久庄2-19-5									
大学の目的	本学は、キリスト教精神に基づいて人格の形成に努め、教育基本法及び学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授研究するとともに、国際社会の発展と文化の向上に寄与する人間性豊かな女性を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	舞台芸術に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、アート思考・デザイン思考を活用し、既存の枠にとらわれない創造力と課題解決力を備え、国内外の芸術文化と社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次人	人			年 月 第 年次		
	文化表現学部 [Faculty of Cultural and Expression Studies] 舞台芸術表現学科 [Department of Performing Arts]	4	40		160	学士 (舞台芸術表現) 【Bachelor of Performing Arts】	文学関係・ 美術関係	令和8年4月 第1年次	大阪府茨木市宿久庄2丁目19番地5号	
	計		40		160					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	文化表現学部舞台芸術表現学科[定員増] (40) 食文化学部食文化学科[定員減] (△10) 看護保健学部看護学科[定員減] (△10) 看護保健学部口腔保健学科[定員減] (△20) 令和8年4月名称変更予定 文化表現学部 国際英語学科→国際教養学科									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	文化表現学部 舞台芸術表現学科	35科目	65科目	32科目	132科目	126単位				
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人
			教授	准教授	講師	助教	計			
	文化表現学部 舞台芸術表現学科		5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	47 (36)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)		5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a, b又はcに該当する者を除く)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計(a~d)		5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)				
分	計		5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	- (-)	

既	文化表現学部 国際教養学科	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	53 (53)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 4人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)			
	文化表現学部 日本文学学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	68 (68)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 4人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a～b）	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)			
	文化表現学部 情報メディア学科	3 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (8)	0 (0)	68 (68)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	3 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	3 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (8)			
心理こども学部 こども教育学科	5 (5)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	72 (72)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	12 (12)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	5 (5)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	12 (12)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5 (5)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	12 (12)				
心理こども学部 心理学科	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	72 (72)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)				
分									

既	食文化学部 食文化学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	63 (63)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)				
既	食文化学部 管理栄養学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	5 (5)	46 (46)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (8)				
設	看護保健学部 看護学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	19 (19)	0 (0)	54 (54)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	19 (19)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	19 (19)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	6 (6)	4 (4)	5 (5)	4 (4)	19 (19)				
設	看護保健学部 口腔保健学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	16 (16)	0 (0)	70 (70)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	16 (16)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	7 (7)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	16 (16)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	7 (7)	4 (4)	1 (1)	4 (4)	16 (16)				
分	計	43 (44)	30 (30)	8 (8)	8 (8)	89 (90)	6 (0)	- (-)	
	合計	48 (49)	32 (32)	11 (11)	9 (9)	100 (101)	6 (6)	- (-)	

職 種		専 属		その他		計		大学全体		
事 務 職 員		34人 (34)		80人 (80)		114人 (114)				
技 術 職 員		－人 (－)		－人 (－)		－人 (－)				
図 書 館 職 員		2人 (2)		4人 (4)		6人 (6)				
そ の 他 の 職 員		－人 (－)		－人 (－)		－人 (－)				
指 導 補 助 者		－人 (－)		－人 (－)		－人 (－)				
計		36人 (36)		84人 (84)		120人 (120)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		大学全体		
	校 舎 敷 地	26,750.14 m ²	0m ²	0m ²		26,750.14 m ²				
	そ の 他	36,885.38 m ²	0m ²	0m ²		36,885.38 m ²				
	合 計	63,635.52 m ²	0m ²	0m ²		63,635.52 m ²				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計		大学全体		
		55,219.80m ² (55,219.80m ²)	0m ² (0m ²)	0m ² (0m ²)		55,219.80m ² (55,219.80m ²)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	121 室	教 員 研 究 室		25 室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能な ため、大学全体の数		
	文化表現学部 舞台芸術表現学科	385,231 [75,431] (384,081 [75,261])	24 [0] (24 [0])	3,343 [372] (3,263 [360])	15 [14] (15 [14])	5205 (5145)	107 (107)			
	計	385,231 [75,431] (384,081 [75,261])	24 [0] (24 [0])	3,343 [372] (3,263 [360])	15 [14] (15 [14])	5205 (5145)	107 (107)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体		
		2,490.90 m ²		1,494.08 m ²		3920.82 m ²				
経費 の見積り 及び 維持 方法 の概 要	経費 の見 積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は大学全体 図書費には、電子ジャー ナル購入費及びデータベ ース 運用経費を含む
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		3,800千円	3,800千円	3,800千円	3,800千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	300千円	150千円	150千円	150千円	150千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	20,000千円	12,000千円	8,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,790千円	1,670千円	1,670千円	1,670千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等								

既設大学等の状況	大学等の名称		梅花女子大学						所在地	備考	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
	文化表現学部									大阪府茨木市宿久庄2丁目19番地5号	※令和5年4月より入学定員変更50人→60人(情報メディア学科)
	国際教養学科	4	30		120	学士(人文科学)	0.68	平成16年度			※令和6年4月より入学定員変更60人→65人(情報メディア学科)
	日本文化学科	4	30		120	学士(人文科学)	1.15	平成16年度			
	情報メディア学科	4	65		225	学士(人文科学)	1.24	平成16年度			
	心理こども学部										※令和5年4月より入学定員変更70人→60人(こども教育学科)
	こども教育学科	4	50		250	学士(人文科学)	0.76	平成22年度			
	心理学科	4	60		225	学士(人文科学)	1.12	平成22年度			
	食文化学部										※令和6年4月より入学定員変更60人→50人(こども教育学科)
	食文化学科	4	60		240	学士(家政)	0.77	平成24年度			
	管理栄養学科	4	40		160	学士(家政)	0.81	平成29年度			
	看護保健学部										※令和6年4月より入学定員変更55人→60人(心理学科)
	看護学科	4	90		360	学士(看護学)	1.16	平成22年度			
	口腔保健学科	4	70		280	学士(口腔保健学)	0.77	平成27年度			
	大学等の名称		梅花女子大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地		
	現代人間学研究科										
	[修士課程]										
	心理臨床学専攻	2	12		24	修士(心理臨床学)	0.91	平成16年度	大阪府茨木市宿久庄2丁目19番地5号		
	看護保健学研究科										
	[修士課程]										
	口腔保健学専攻	2	5		10	修士(口腔保健保健学)	0.3	平成29年度			
	文学研究科										
	[修士課程]										
	日本語日本文学専攻	2	5		10	修士(文学)	0	昭和52年度			
	英語英米文学専攻	2	5		10	修士(文学)	0	昭和52年度			
	児童文学専攻	2	5		10	修士(文学)	0.2	平成4年度			
	(※博士前期課程)										
	文学研究科										
	[博士後期課程]										
	児童文学専攻	3	2		6	博士(文学)	0	平成6年度			
	附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(文化表現学部舞台芸術表現学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キリスト教科目	聖書の世界	1前		2			○								1
	澤山保羅と建学の精神	1後			2		○								1
	小計(2科目)	—	—	2	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	1
キャリア基礎科目	初年次セミナー	1前		2				○		1		2	1		
	問題発見・解決セミナーⅠ	1後		2				○		1		2	1		
	問題発見・解決セミナーⅡ	2前		2				○		1		2	1		
	美しい日本語(話し方)	1前		2				○							1
	美しい日本語(書き方)	2後		2				○							1
	エレガンスセミナー	1・2・3・4後			2			○							1
	ナレッジイノベーション論	1・2・3・4前			2		○								1
	実践・産学連携演習	2・3・4後			2			○							1
	情報処理演習Ⅰ	1前		1				○				1			
	情報処理演習Ⅱ	1後		1				○				1			
小計(10科目)	—	—	—	12	6	0	—	—	1	0	3	1	0	5	
コミュニケーション科目	英語会話Ⅰ	1前		1				○							1
	英語会話Ⅱ	1後		1				○							1
	英語会話Ⅲ	2前		1				○							1
	英語会話Ⅳ	2後		1				○							1
	小計(4科目)	—	—	4	0	0	—	—	0	0	0	0	0	0	2
教養科目	健康とスポーツ(実技)	1前			1				○						1
	健康とスポーツ(理論)	1後			2		○								1
	フランス語会話	1・2・3・4前			1			○							1
	中国語会話	1・2・3・4前			1			○							1
	ハングル講座	1・2・3・4前			1			○							1
	手話入門	1・2・3・4前			2			○							1
	女性と法	1・2・3・4後			2		○								1
	美しい日本語(硬筆入門)	1・2・3・4前			2			○							1
	図書館の文化史	2・3・4後			2		○								1
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○								1
	人間と法(法学)	1・2・3・4前			2		○								1
	政治学	2・3・4前			2		○								1
	生物・化学の基礎	1・2・3・4前			2		○								1
	情報科学	1・2・3・4前			2		○								1
	アニマルセラピー入門	1・2・3・4前			2			○							1
	和装で学ぶ日本の美	1・2・3・4前			2			○							1
	生成AI活用学	1・2・3・4前			2			○							1
小計(17科目)	—	—	—	0	30	0	—	—	0	0	0	0	0	16	
主専攻科目	基本科目	演劇史	1後	○	2			○			1				
		ミュージカル入門	1後	○	2			○				1			
		舞台芸術入門	1前	○	2			○				1			
		パフォーマンスアーツ概論	1後			2		○							1
		アート・プロデュース論	2・3前	○		2		○			1				
		舞台制作・企画実務	1前	○	2				○		1				
		脚本・演出基礎	1後	○	2				○				1		
		エンターテインメントキャリア論	2前		2		○					1			
		身体基礎演習Ⅰ	1前		1					○		1		1	
		身体基礎演習Ⅱ	1後		1					○		1		1	
		舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅰ	1前	○	2				○		1		1		
		舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅱ	1前	○		2			○		1		1		
		舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅲ	1後	○		2			○		1		1		
		舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅳ	1後	○		2			○		1		1		
		舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅰ	1前	○	2				○			1			1
		舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅱ	1前	○		2			○			1			1
		舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅲ	1後	○		2			○			1			1
		舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅳ	1後	○		2			○			1			1
		舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅰ	1前	○	2				○		1				
		舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅱ	1前	○		2			○		1				
舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅲ	1後	○		2			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
基本科目	舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅳ	1後	○		2				○		1						
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅰ	2前			2				○						1		
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅱ	2前			2				○						1		
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅲ	2後			2				○				1				
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅳ	2後			2				○				1				
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅰ	2前			2				○							1	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅱ	2前			2				○							1	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅲ	2後			2				○							1	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅳ	2後			2				○							1	
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅰ	2前			2				○		1						
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅱ	2前			2				○		1						
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅲ	2後			2				○		1						
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅳ	2後			2				○		1						
	舞台芸術総合演習Ⅰ	3前	○		2				○		1	1		1			共同
	舞台芸術総合演習Ⅱ	3前	○		2				○				2				共同
	舞台芸術総合演習Ⅲ	3後	○		2				○		2						共同
	舞台芸術総合演習Ⅳ	3後	○		2				○		2						共同
	公演実習	3後			3					○	2	1	2	1			共同
	卒業演習Ⅰ	4前	○		2				○		3	2	1				
	卒業演習Ⅱ	4後	○		2				○		3	2	1				
小計(41科目)	-	-	-	35	46	0					5	2	2	1	0	5	
主専攻科目	English for Performing Arts I	1前			2				○		1						
	English for Performing Arts II	1後			2				○		1						
	English for Performing Arts III	2前			2				○		1						
	English for Performing Arts IV	2後			2				○		1						
	ロンドン研修	2後	○		2				○		1	1					共同
	Performing Arts I	3前			1				○		1	1		1			共同
	Performing Arts II	3前			1				○		1	1		1			共同
	Performing Arts III	3前			1				○				2				共同
	Performing Arts IV	3前			1				○				2				共同
	Performing Arts V	3後			1				○		1	1		1			共同
	Performing Arts VI	3後			1				○		1	1		1			共同
	Performing Arts VII	3後			1				○				2				共同
	Performing Arts VIII	3後			1				○				2				共同
	シェイクスピア劇上演論	3・4後				2		○			1						
	近代演劇論	3・4前				2		○			1						
	近現代演劇特講	3・4後				2		○			1						
	演劇鑑賞論	3・4前				2		○				1					
	歌劇論Ⅰ	2・3・4前				2		○				1					
	歌劇論Ⅱ	2・3・4後				2		○				1					
	モダンドラマ論	2・3・4後				2		○			1						
	パフォーマンス・スタディーズ	2・3・4前				2		○			1						
	舞台制作・企画演習	3・4前				2			○		1						
	即興芸術論Ⅰ	3・4前				2		○			1						
	即興芸術論Ⅱ	3・4後				2		○			1						
	即興芸術演習Ⅰ	3・4前				2			○		1						
	即興芸術演習Ⅱ	3・4後				2			○		1						
	舞台技術	2・3・4後				2			○							1	
舞台製作実習Ⅰ	2・3・4前				1			○							1		
舞台製作実習Ⅱ	2・3・4前				1			○							1		
舞台製作実習Ⅲ	2・3・4後				1			○							1		
舞台製作実習Ⅳ	2・3・4後				1			○							1		
舞台芸術表現特別実習Ⅰ	4前				3			○		1							
舞台芸術表現特別実習Ⅱ	4後				3			○		1							
小計(33科目)	-	-	-	18	38	0					5	2	2	1	0	2	
卒業研究他	卒業制作・論文	4通				6			○		3	2	1				
	小計(1科目)	-	-	0	6	0					3	2	1	0	0	0	
副専攻科目	メディカル心理学	1・2・3・4後			2		○									1	
	メディカルヨガⅠ	1・2・3・4前			1				○							1	
	メディカルヨガⅡ	1・2・3・4後			1				○							1	
	メディカルピラティスⅠ	2・3・4前			1				○							1	
	メディカルピラティスⅡ	2・3・4後			1				○							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員
副専攻科目	食とカラダの診断学	1・2・3・4前			2		○								1	オムニバス
	メイクアップ理論	1・2・3・4前			2		○								2	
	色彩学入門	2・3・4前				2		○							1	
	基礎医学	1・2・3・4後				2		○							2	
	美と健康の薬膳学	1・2・3・4前				2		○							1	
	メディカルアロマセラピー概論	1・2・3・4後				2		○							1	
	メンタルヘルス入門	1・2・3・4前				2		○							1	
	美容整体&ボディデザイン	1・2・3・4前				2			○						1	
	心身を整えるセルフケア	1・2・3・4後				2			○						1	
	メイクアップテクニックⅠ	1後				1				○					1	
	メイクアップテクニックⅡ	2前				1				○					2	
	ヴォイストレーニングⅠ	1前				1				○		1			1	
	ヴォイストレーニングⅡ	1後				1				○		1			1	
	ヴォイストレーニングⅢ	2前				1				○		1			1	
	ヴォイストレーニングⅣ	2後				1				○		1			1	
	バレエⅠ	1・2・3・4前				1				○					2	
	バレエⅡ	1・2・3・4後				1				○					2	
ダンスⅠ	1・2・3・4前				1				○					1		
ダンスⅡ	1・2・3・4後				1				○					1		
小計(24科目)		—	—	0	34	0	—	—	—	—	0	0	1	0	0	17
合計(132科目)		—	—	71	162	0	—	—	—	—	5	2	3	1	0	47
学位又は称号	学士(舞台芸術表現)			学位又は学科の分野			文学関係・美術関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
(卒業要件) 本学に4年以上在学し、次の要件を満たした者。 1.キリスト教科目2単位(「聖書の世界」の2単位必修) 2.キャリア基礎科目12単位(「初年次セミナー」「問題発見・解決セミナーⅠ」「問題発見・解決セミナーⅡ」「美しい日本語(話し方)」「美しい日本語(書き方)」「(各2単位)」「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」(各1単位)の8科目12単位必修) 3.グローバルコミュニケーション科目4単位(「英語会話Ⅰ」「英語会話Ⅱ」「英語会話Ⅲ」「英語会話Ⅳ」(各1単位)の4科目4単位必修) 4.学科主専攻科目74単位以上(必修科目53単位、選択必修14単位、選択科目7単位を含む) 5.学科副専攻科目34単位(キリスト教科目・キャリア基礎科目・学科主専攻科目の要件単位超過分、教養科目・他専攻科目の修得単位は副専攻科目の修得単位に充当される) 以上、126単位を修得すること(履修科目の登録の上限:48単位(年間))							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業の標準時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要				
(文化表現学部舞台芸術表現学科)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キリスト教科目	聖書の世界		ユダヤ教、キリスト教、イスラームという世界で多数を占める一神教の世界観は、旧約聖書の物語を共通の土台とする。梅花女子大学の基礎にあるキリスト教では、これに新約聖書の物語が続く。講義では、歴史を通じて多くの人々や文化に影響を与えて来た。この聖書について、それがどういった書物であるのかを全体的に理解し、そこに収められた物語についての基礎的な知識を得て、その幾つかを味わうことを目的とする。	
	澤山保羅と建学の精神		梅花女子大学の創立者・澤山保羅とは何者であり、どのような願いと夢を託していたのか。そして澤山先生に決定的な影響を及ぼした聖書とはいかなる書物で、その書物を絆とする共同体「教会」とはどのような集まりなのか。初めてキリスト教に触れる学生にも分かりやすい講義を心がけつつ、イエス・キリストのメッセージについて耳を傾ける講義とする。講義の概要としては、梅花学園の創立者の生きざまと思想に触れ、梅花女子大学の建学理念を確認する。その後聖書の多彩な読み方を学び、イエス・キリストの歩みと、イエスと出会い、交わりを深めた人々を中心にして、イエスの教えを知る。	
キャリア基礎科目	初年次セミナー		前半は「キャンパスライフをスタートしよう」というテーマのもと、大学生活への取り組み方を学びながら、自己の客観視およびクラスメイトとの交流を行う。後半は「大学での学びの基礎固めをしよう」というテーマをもって、情報の収集、整理およびプレゼンテーションの基礎力を身につける。	
	問題発見・解決セミナーⅠ		論理的に考えることができるよう、文章を分析しながら読むための知識を学ぶ。そのうえでグループに分かれ、テーマについてディスカッションをする技法を身につける。さらにその内容を整理して「意見」や「主張」を立て、グループ全員でプレゼンテーションを行う。	
	問題発見・解決セミナーⅡ		学生同士が協働して産学連携事業に取り組む。企業から提案された課題の解決(商品開発やイベント企画等)にチームとして取り組む中で、社会人として必要な資質能力を養う。	
	美しい日本語(話し方)		不特定多数の誰にでも公平に聞こえる「ことば」、正しく美しい「ことば」の基礎知識と表現方法を学習する。	
	美しい日本語(書き方)		日本語の文章を書くことについて、基礎的な知識及び能力を身につけることをめざす。用語・表記法や、文章を組み立てる手順について学び、実践に役立て、美しい文章とは何かを理論的に理解し日常の様々なシーンに役立つ実践を重ねていくことを学ぶ。	
	エレガンスセミナー		「マナー」はエレガントな女性に必須の要素である。この授業では、社会人として知っておきたいマナーの知識や美しく見える「ふるまい」を学ぶ。同時にマナー・プロトコル検定3級を取得することもめざす。	
	ナレッジイノベーション論		先行き不透明で予測不能な時代に、いかに「鋭い直感力」を身につけ、どのように「独創的アイデア」を作り、どのようにして「実践に移す」か、が主テーマである。	
	実践・産学連携演習		この授業はタイトル通り、商品開発や企画発案、広報実践などの企業とのコラボレーションでの企業向けの提案作りに、複数のチームで取り組む。個別の事案における問題点を発見し、その解決策について教室で検討し、実際に企業にむけて提案等をプレゼンテーションする。提案内容が、他チームの学生や企業側のスタッフに正確に、かつわかりやすく伝わるようにプレゼンテーションする。実際の企画内容は授業第一回目に公表する。	
	情報処理演習Ⅰ		この科目では、大学での学びおよび舞台芸術表現において必要となるデジタルスキルを身に付ける。将来様々な職種について役に立つスキルでもある。自分のキャリアパスを考え、それを成し遂げるために今何をすべきかを考えてこの授業に取り組む。学習内容としてはパソコンの基本的な操作(ファイルフォルダの操作)と文書作成のスキル(文字・段落書式の設定、表やリスト、参考資料、グラフィックの挿入など)からデジタル画像、生成AIや人工音声などの技術を活用して動画編集のスキルなどを身につける。これらのスキルを習得するだけでなく、実技を通して自分のキャリアを視野に入れ、キャリアを開発していく。	
	情報処理演習Ⅱ		この科目では、前期に引き続きデジタルスキルを身に付ける。デジタルスキルは、ビジネスの現場では必須といわれるもので、業界を問わず必須になっており、生成AIや人工音声など最新技術も活用したデジタルスキルを身につける。舞台芸術などの現場においても動画などの舞台・映像表現、音声編集のスキルなどが不可欠になっている。デジタルスキルの実技を通して自分のキャリアを視野に入れ、キャリアを開発していく。	
グローバルコミュニケーション科目	英語会話Ⅰ		フォーマルな場面にも相応しい、丁寧で相手に失礼のない表現や、複雑な表現を含む会話をロールプレイ形式で練習し、実用的な英語運用能力を養う。表現のバリエーションを増やし、会話を発展させるコミュニケーション能力も同時に養う。	
	英語会話Ⅱ		英語会話Ⅰの内容を踏まえ、さらにフォーマルな場面に相応しい、丁寧な表現、複雑な表現を含む会話をロールプレイ形式で練習し、実用的な英語運用能力を養う。高度な表現のバリエーションを増やし、会話をスムーズに展開させる能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
グローバルコミュニケーション科目	英語会話Ⅲ		(英文) Students will be taught useful English phrases to help them communicate with native English speakers. Students will build their vocabulary and practice English through communication activities. Students will practice conversations and situations to help improve fluency, pronunciation and communication confidence. (和訳) 英語ネイティブ教員とのコミュニケーションを図るために有効な英語のフレーズを学習する。語彙を増やし、種々のアクティビティを通して英語の練習を行う。さまざまな会話や状況を設定して自然な話し方、発音、コミュニケーションへの自信を身につける。	
	英語会話Ⅳ		Building on the skills acquired in English Conversation III, students will learn additional practical phrases to communicate more fluently with native speakers. They will expand their vocabulary and engage in communication activities to enhance their English skills. Through various conversation exercises and real-life scenarios, students will work on improving their fluency, pronunciation, and confidence in communication. (和訳) 英語会話Ⅲを受け、さらに発展的なフレーズを身につけて英語ネイティブ教員とのスムーズなコミュニケーションに繋げる。語彙を増やし、アクティビティを通して技術を高める。日常生活における状況設定を様々に変化させることにより、自然な話し方、発音、コミュニケーションへの自信をさらに高める。	
教養科目	健康とスポーツ (実技)		「だれもが、いつでも、どこでも」楽しむことができる生活文化として、スポーツ・運動の果たす役割は大きい。加えて、児童期から高齢期に至る各ライフステージにおいて、スポーツや運動を継続することは生活の質を高める。そこで、いろいろなスポーツを体験し運動の必要性を理解し、ひととの交流を深める。	
	健康とスポーツ (理論)		運動や栄養、睡眠等といった、健康を保持増進する上で基礎となる内容及び、運動やスポーツを効果的かつ安全に実施するための基礎理論、事前準備について学ぶ。また、運動やスポーツを社会的、文化的な側面から捉えることによる見方や考え方などについて思考し、グループワーク等を通して、生活の「質」を高めるライフスタイルについて考える。	
	フランス語会話		初級文法をしっかりと学びながら、実用的なコミュニケーション能力を養う。またフランス語という言語を学ぶ事を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。	
	中国語会話		まずは正しい発音を身につける。次に中国語の基本的な表現や文法を習い、会話文を繰り返して発音練習を行う。また中国語簡体字の書き方、パソコンなどの入力の仕方も習う。そして中国語の聞き取りも練習する。授業中は学生同士二、三人のグループで会話実演も行う。中国の文化にも触れ、中国の歌や映画、ドラマは学生のニーズに応じて紹介する。	
	ハングル講座		ハングル文字の構成を学習し、読み書きができるようになる。たくさんの練習を通して、コミュニケーションな朝鮮語を取得し、発話能力・聞く能力・作文能力と読解力を養成する。自己紹介、挨拶、日付、曜日、時間など日常会話に必要な表現を習得する。	
	手話入門		手話は言語である。ろう者の大切なコミュニケーション手段の手話の学習を通し、手話で挨拶や自己紹介などの簡単な日常会話ができるように学ぶ。聞こえない障害とその暮らしについて理解を深め、聴覚障害者の社会参加を拒む障壁とその解消方法について考え、聴覚障害者の社会への完全参加と平等の実現への行動ができるようにすることをめざす。	
	女性と法		日本国憲法には男女の平等が定められており、性差別を解消するための法律もある。しかし、現実の社会には男女の格差が存在し、その格差に法が十分対応できていないわけではない。法が格差の維持に貢献してしまっているように見えることもある。本講義では、なぜそのようなことが起こるのか、どうすれば解決に向かうのかを、現在の法制度を説明した上で一緒に考える。講義はパワーポイントを利用して進める。	
	美しい日本語 (硬筆入門)		硬筆による書美を日常の書に活かすことができるように、その知識と技術を学ぶ。文字文化への理解を深め、硬筆への興味を高めるとともに、各自の書写技術の向上をめざす。	
	図書館の文化史		本科目は、情報資源を収集、保存する図書館の歴史や記録メディアがどのように発展していったのか歴史について学ぶ。あわせて、社会における図書館の役割と意義、今後の図書館の在り方について考察する。	
	日本国憲法		日本国憲法を支える基本的な考え方や基本的人権の内容、統治の仕組みについて、具体例を用いつつ、体系的に講義する。	
人間と法 (法学)		法は堅苦しく一般市民にとっては縁遠いものに思われがちだが、私たちの日常生活と密接に関わっており、私たちが社会生活を円滑に送るために必要不可欠なルールを定めている。とはいえ、難解であることもまた事実で、この授業では、時事問題や具体的な社会問題にも言及しながら、法学の基本的な考え方について講義する。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
教養科目	政治学		人間が集団としてしか生きていけない動物である以上、我々の生活と政治は切り離すことはできない。しかし政治に関するニュースを耳にしても、「何が起きているのか分からない」という人は多い。この授業では、いま「何」が「なぜ」問題となっているのかを理解し、それが「どのように」私たちに関係するのかを考察する。そして政治という社会現象を通じて、社会全般について考える能力を養いたいと考える。		
	生物・化学の基礎		ヒトを主たる対象とした生物学を学ぶ。加えて、生体を構成する物質の化学を学ぶ。		
	情報科学		情報化社会において、情報の力は無視できず、それを適切に利用する能力の獲得が必要である。また、発達した科学は、利用者に情報の隠ぺい化と一般化をもたらす、AIに代表されるようにその仕組みはわからないままに利便性を提供している。 本講義では、情報と人間・科学と人間の関係を題材に、前半では情報や機器における基礎知識を習得し、後半はその利用方法やプログラミングを学び、情報を選択し活用できる力の獲得をめざす。		
	アニマルセラピー入門		「アニマルセラピー」ならびに「ヒト動物の関係学」という分野について、歴史的背景や理論的背景について触れながら紹介していく。私たち人間と動物との関わりがどのような作用をもたらすのか、授業を通しながら考えていく。私たち人間を含めた、アニマルセラピーに関わる全ての動物について掘り下げていく。		
	和装で学ぶ日本の美		実際に自分で着物を着られるように着付けを学ぶ。 浴衣や簡単なおでかけ着を自分で着る他、卒業袴をお互いに着せることができる授業である。TPOや色合わせ等の基本的な和装知識に加え、着物の歴史を学ぶ。		
	生成AI活用学		本講義では、生成AIの利活用を実践的な演習を通じて学びます。まず、生成AIの登場背景や概要、利点と課題を理解し学習やビジネスの場面での活用方法を実践します。さらに、各自が発見した課題について生成AIと対話を重ね調査を交えて解決策を提案します。最終的には、生成AIを活用したスライド作成を行いプレゼンテーションを実施します。社会的変化に対応し生成AIを適切に活用する力を養うことを目的とします。		
主専攻科目	基本科目	演劇史	○	「演劇史」は、古代から現代に至るまでの演劇の歴史とその発展を体系的に学ぶ講義科目である。この授業では、古代ギリシャ・ローマの演劇から中世の宗教劇、ルネサンス期のシェイクスピア劇、そして現代の実験演劇に至るまで、さまざまな時代と地域の演劇文化を詳しく探求する。各時代の社会的・文化的背景を考察し、それが演劇に与えた影響を理解することをめざす。また、代表的な劇作家や作品を取り上げ、その特徴や意義について深く学ぶ。受講者は、演劇の進化の過程を追うことで、現代演劇の多様性とその根底にある伝統を理解し、自らの視点で批評する力を養う。	
		ミュージカル入門	○	「ミュージカル入門」は、ミュージカルの基礎知識とその独自の魅力を学ぶことを目的とした講義科目である。この授業では、音楽の観点からミュージカルの歴史的背景、主要な作品や作曲家、演出家について学び、ジャンルの発展とその社会的・文化的影響を探求する。また、音楽、ダンス、演技がどのように組み合わせられて一つの物語を紡ぎ出すのかを理解するために、具体的な作品の鑑賞と分析を行う。受講者は、ミュージカルの制作過程やパフォーマンスの要素についても学び、自らの視点で作品を批評する力を養う。初心者から経験者まで幅広く対応し、ミュージカルの世界への理解を深め、楽しさを共有できる内容を提供する。	
		舞台芸術入門	○	「舞台芸術入門」は、舞台芸術の基礎知識とその多様な表現形式について学ぶことを目的とした講義科目である。この授業では、演劇、ダンス、オペラ、ミュージカルなど、さまざまなジャンルの舞台芸術の歴史や発展過程を概観する。また、舞台芸術における演技、演出、舞台美術、照明、音楽などの要素がどのように作品全体に影響を与えるかについても考察する。実際の作品の鑑賞や分析を通じて、舞台芸術の魅力やその社会的・文化的意義を理解し、受講者が自らの視点で批評する力を養う。初心者から経験者まで幅広く対応し、実践的な学びを提供する。	
		パフォーマンスアート概論		現在、パフォーマンスアートは個別のジャンルに区分できないほど複雑に展開している。その全貌を掴むのは困難だが、本講義では、舞台芸術の歴史を辿りつつ、そのジャンルの特徴と成立背景、社会的意味を概説する。具体的には、演劇、オペラ、舞踊、ミュージカルなどのジャンルである。そうした柱となる既存ジャンルの特徴や成立経緯を理解するとともに、特に本講義ではジャンル相互の影響関係を俯瞰する視点を立てる。その上で創る・再現する・参加する・観る・支えるといった様々な立場に目を配りながら、現代社会におけるパフォーマンスアートにはどのような機能があるかを検討する。	
		アート・プロデュース論	○	演劇やパフォーマンスをプロデュースするプロセスを様々な観点から考察していく。アート・マネジメントや文化政策論、アート・ファシリテーション論の概説も兼ねる。アート・マネジメント、文化政策、アート・ファシリテーションといった理論を基盤に、プロジェクトの立ち上げから企画構築、マーケティング、資金調達、リスク管理、チームマネジメント、観客動員など、実務に即した知識を提供する。また、参加型アートや文化政策との関わりを深め、社会におけるアートの役割を考察する。最終的には、学生がプロジェクトを実際に企画し、成果を発表することを通して、プロデューサーとしての実践的スキルを養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
主専攻科目 基本科目	舞台制作・企画実務	○	「舞台制作・企画」は、舞台芸術の制作と企画の基本原則を学ぶことを目的とした科目である。この授業では、舞台作品の制作プロセスを理解し、企画から公演までの全体像を把握する。プロデューサー、ディレクター、舞台監督、デザイナーなど、制作チームの各役割を学び、それぞれがどのように連携して作品を完成させるかを探求する。また、予算管理、スケジュール調整、マーケティング、観客動員などの実務的な側面についても学ぶ。受講者は、実際の舞台制作をシミュレーションしながら、創造的な企画力と問題解決能力を養い、舞台芸術の現場で必要とされるスキルを身につけることをめざす。	
	脚本・演出基礎	○	この授業の前半では、物語構造やキャラクター設定、台詞の役割など脚本の基本要素を理解し、短い脚本の作成に取り組む。後半では演出の基礎として、舞台空間の使い方、俳優への指示の出し方、リハーサルを進め方を学ぶ。実践的な演習を通じて、脚本家と演出家の視点を体験し、舞台作品の創作プロセスを総合的に理解することを目指す。初心者でも安心して取り組めるよう、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れ、創造的な表現力とコミュニケーション能力の向上を図る。	
	エンターテインメントキャリア論		舞台芸術に関する仕事を生業にする場合、特定の組織に所属しない場合も多く、いわゆる「会社員」とは異なる様々な知識、スキル、能力が求められることになる。本講義では、そうした人が必要とする知識、スキルを習得しつつ、自分らしいキャリアデザインの第一歩を踏み出すためのサポートを行う。働き方、時間、健康、お金などに関する基礎知識を学んだ後、舞台芸術関連分野の職業理解を進める。座学だけでなく様々な職業のゲスト講師から話を聞く機会や、グループワークやプレゼンテーションなど受講生同士のコミュニケーションの機会も多く設ける予定である。	
	身体基礎演習Ⅰ		「身体基礎演習Ⅰ」では、全身の柔軟性を高めるストレッチと、体幹や脚・腕の筋力を鍛えるトレーニングを行う。バランス力や可動域を広げ、ダンス時の動きをスムーズにし、ケガ予防にも役立つ。この授業では、身体的基本的な動きや姿勢を理解し、ダンスに必要な体力と柔軟性を養うことに重点を置く。具体的には、身体各部位を意識したウォームアップやストレッチ、基本的なリズム感や動きの練習を通じて、体の使い方を学ぶ。基礎をしっかりと身につけることで、次の「身体基礎演習Ⅱ」へとスムーズに進むための土台を作る。	
	身体基礎演習Ⅱ		「身体基礎演習Ⅱ」では、ターンやジャンプ、リフトなどの動きを重点的に練習する。正しい姿勢、バランス、筋力を意識し、各テクニックを滑らかかつ美しく見せるためのコントロール力を養う。スピードや精度も向上させる。この授業では、身体の動きや表現力をより高度に発展させるためのトレーニングに重点を置く。具体的には、リズム感やダンスのテクニックを強化し、複雑な動きや振り付けの習得をめざす。ウォームアップやストレッチに加え、体幹の強化やパートナーとの連携を意識した練習を行い、ダンスの精度と表現力を向上させる。	
	舞台芸術基礎演習A (演劇学分野)Ⅰ	○	「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅰ」は、演技の基本的な理論と技術を学ぶことを目的とした入門科目である。この授業では、演技の基礎理論を理解し、主要な演技メソッドやテクニックを学ぶ。具体的には、実際の上演台本を読み、その内容を深く理解できるように読解力の訓練に力点を置きながら、演技や身体表現との関係を考える。受講者は、基本的な演技スキルを身につけ、自己表現の方法を理解しながら、次の「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅱ」への準備を行う。演技の基本をしっかりと押さえ、理論と実践を両立させる力を養う。	
	舞台芸術基礎演習A (演劇学分野)Ⅱ	○	「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅱ」は、演技の基礎理論を発展させ、より高度な技術と理解を深めることを目的とした科目である。この授業では、舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅰで学んだ基礎をもとに、さまざまな演技メソッドやスタイルを探求する。具体的には、実際の上演台本を読み、その内容を深く理解できるように読解力の訓練に力点を置きながら、異なるアプローチの演技理論を学び、それぞれの特徴と実践方法について考察する。また、キャラクターの深化やシーンの構築、役作りのプロセスについても掘り下げ、より複雑な演技スキルの習得をめざす。受講者は、演技の多様なアプローチを理解し、自己の演技スタイルを確立するための技術と知識を身につけながら、次の「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅲ」へのステップアップを図る。	
	舞台芸術基礎演習A (演劇学分野)Ⅲ	○	「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅲ」は、演技の高度な技術と理論を探求し、プロフェッショナルな演技スキルを磨くことを目的とした科目である。この授業では、「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅱ」で学んだ基礎をもとに、より複雑な演技メソッドや実践的な技術を深める。具体的には、メソッド・アクティングや伝統的な演技スタイルなど、特定の演技アプローチを詳細に学び、演技の深層を掘り下げる。また、役作りの心理的側面や舞台での即興演技、シーンの創造的なアプローチについても研究し、複雑なキャラクターや状況に対応する能力を養う。受講者は、理論と実践を融合させた高度な演技スキルを習得し、次の「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅳ」へとつなげるための準備を行う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
主専攻科目	基本科目	○	「舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅳ」は、演技の最も高度な理論と実践を学び、プロフェッショナルレベルの演技スキルを完成させることを目的とした科目である。この授業では、前期の舞台芸術基礎演習Aで学んだ技術をさらに深化させ、演技の最前線に立つための専門的なアプローチを探求する。具体的には、現代演技理論の最先端や国際的な演技スタイル、複雑なキャラクターの深層心理分析を行う。また、実際の舞台やスクリーンでのパフォーマンスにおける高度なテクニックや、演技における自己の独自性を追求する方法についても学ぶ。受講者は、演技の理論と実践を統合し、プロフェッショナルなパフォーマンスを実現するための準備を整え、業界での活動に向けた総合的なスキルを磨く。	
		○	「舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅰ」は、行動意図理論の授業である。キャラクターの心情や目的を理解し、それに基づいた自然な動作や表現を学ぶ。歌やセリフ、ダンスが一体となるように、感情と行動のつながりを意識し、ストーリーを効果的に伝える力を養う。さらに、実践的なダンステクニックの基礎を学び、振付の基本要素や構成方法についても触れる。受講者は、理論的な知識をもとに、多様なダンスの独自のアプローチを理解し、次の「舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅱ」への土台を築くことをめざす。	
		○	「舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅱ」は、行動意図実技の授業である。レッスンでは、キャラクターの感情や目的を具体的な動作で表現する。歌やダンスの中で、セリフに込められた意図に沿って体を使い、感情を自然に動きに反映させる練習を通じて、より深い演技力を身につける。さらに、振付の創作プロセスや舞台上での演技力の向上をめざし、実際の作品の分析や創作を通じて理解を深める。受講者は、ダンスの高度な技術と理論を統合し、自身の表現力を高める。	
		○	「舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅲ」は、ダンス即興理論の授業である。レッスンでは、音楽やテーマに対して自由に体を動かし、自分の感情や考えを即座に表現する力を養う。事前の振り付けにとらわれず、瞬間的な創造力を高め、体の動きと感覚のつながりを意識することがポイントである。受講者は、ダンスの理論を実際の振付やパフォーマンスに応用し、創造的な表現力を高めることをめざす。この授業を通じて、次の「舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅳ」へのステップアップに向けた専門的なスキルと知識を身につける。	
		○	「舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅳ」は、ダンス即興実技の授業である。レッスンでは、音楽やテーマに合わせて即座に動きを作り出す。振り付けに頼らず、その場の感覚や感情に基づいて自由に体を動かし、自分の個性やクリエイティビティを表現する練習である。瞬時の判断力と表現力を養う。また、実践的な振付作業や舞台演出、パフォーマンスの創造的なアプローチに取り組み、受講者自身の独自のダンス表現を開発する。授業では、実際の舞台制作やパフォーマンス経験を通じて、理論と実践の統合を図り、舞台上で活躍するためのスキルと知識を完成させる。	
		○	この授業は舞台芸術の企画制作の基礎を学ぶ第一歩として、西洋文学の古典作品を用いた台本の本読みと立ち稽古を通じて演劇表現の基礎を養う。学生は、言葉の表現力や発声の基本を学び、作品の背景やキャラクターの理解を深めることで、台詞の意味や感情を正確に伝える技術を習得する。また、仲間との共同作業を通じて、舞台上での役割とチームワークの重要性を体感し、舞台に立つための基礎力を築いていく。舞台制作の中級的な技術と知識を習得し、次の「舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅱ」へのステップアップに備える。	
		○	この演習では、企画制作の基盤となる西洋文学の古典作品に基づく台本の本読みと立ち稽古を引き続き行い、より深い表現力の向上をめざす。キャラクターの心理を深く探求し、動きと声を効果的に組み合わせた表現力を磨く。また、異なる役柄やシーンに取り組むことで、舞台上での即興力や柔軟な対応力を強化する。演技力の向上だけでなく、観客に感情を伝える技術も養い、舞台芸術の理解をさらに深める。受講者は、舞台制作の中級的な技術と知識を習得し、次の「舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅲ」へのステップアップに備える。	
		○	この演習では、古典作品の台本をもとにした立ち稽古を中心に、演技の表現力と一体感をさらに高める。異なるキャラクター同士の関係性や場面展開に注目し、舞台上でのリズムやテンポ、空間の使い方を意識した演技を実践する。個々の役割を持つ物語の役割を理解し、それを表現するための身体的、感情的なテクニックを強化することで、舞台表現への理解と実践力を磨く。この段階で受講者は、舞台制作の中級的な技術と知識を習得し、次の「舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅳ」へのステップアップに備える。	
		○	最終段階となる本演習では、企画制作での活用を念頭に置きながら、作品の最終的な舞台表現について考える。各シーンやキャラクターの奥深さを追求し、立ち稽古で学んだ技術を統合し、舞台での総合的なパフォーマンスを想定する。また、舞台作品の一部を通して発表し、他者からのフィードバックを受けることで自己表現を確立し、観客に対して最大限の影響を与える演技とは何かについて考察する。この演習の成果は「研究演習C」(企画制作分野)へと繋がる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
主専攻科目	基本科目	舞台芸術研究演習A (演劇学分野) I	「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) I」は、演技技術の基礎を築くための演習科目である。本授業では、演技に必要な基本的スキルを身につけることをめざす。具体的には、発声訓練、身体表現、感情表現の基礎技術を実践的に学ぶ。基本的なウォームアップやストレッチ、簡単な即興演技を通じて、自分自身の表現力を引き出し、演技の基礎的な技術を磨く。また、グループでの演技練習やフィードバックを通じて、他者との協力や自己改善のスキルを養う。演技の基礎を固めることで、次のステップである「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) II」以降の高度な技術習得に向けた土台を築くことができる。	
		舞台芸術研究演習A (演劇学分野) II	「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) II」は、演技の基礎技術をさらに深化させるための演習科目である。この授業では、演技力の向上を図るために、より複雑な演技課題に取り組む。具体的には、キャラクターの深掘りや感情の幅を広げるための演技テクニック、シーンの構築と分析、エモーショナル・アプローチなどを学ぶ。実際のシーンやモノローグの練習を通じて、表現力と役作りの技術を強化し、演技のパフォーマンスをよりリアルで感情豊かなものにする。また、グループでのディスカッションやフィードバックを受けることで、他者の視点を取り入れながら自己改善を図る。「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) I」で培った基礎を基に、より高度な演技技術を習得し、次の「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) III」への準備を整えることが期待される。	
		舞台芸術研究演習A (演劇学分野) III	「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) III」は、演技技術のさらなる発展をめざす演習科目である。本授業では、複雑なキャラクターの役作りやシーンの構築を中心に学ぶ。具体的には、脚本分析を通じたキャラクターの内面的な理解や、感情の深層に迫るための演技テクニックを取り入れた実践的なトレーニングを行う。また、演技の精度を高めるための詳細なフィードバックを受けることで、演技の表現力や信憑性を向上させる。グループ内での協働や個別のパフォーマンスレビューを通じて、自己表現の幅を広げ、演技力を高めることをめざす。「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) II」での学びを基に、さらに複雑で挑戦的な演技課題に取り組む。次の「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) IV」へとつながるスキルと自信を養う。	
		舞台芸術研究演習A (演劇学分野) IV	「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) IV」は、演技技術の集大成をめざす演習科目である。この授業では、これまでに学んだ演技の技術や理論を統合し、高度なパフォーマンスを実現するための練習を行う。具体的には、複雑なシーンやキャラクターの演技に取り組み、自己表現の精緻さや演技のリズムを追求する。また、自己主導のプロジェクトや独自のシーン制作を通じて、創造力と自主性を発揮する機会を提供する。演技の実践に加えて、他者とのディスカッションやフィードバックを受けながら、演技力の最終的な仕上げを行う。これにより、自己表現の幅を広げ、プロフェッショナルなパフォーマンスをめざすための実力を養う。「舞台芸術研究演習A (演劇学分野) I」から「III」までの学びを総括し、次のステップに向けた準備を整えることが期待される。	
		舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) I	「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) I」は、ジャズダンス基礎の授業である。リズム感や音楽に合わせた動きを学ぶ。アイソレーションやターン、キックなど、体の各部位を正確にコントロールする基本動作を中心に練習し、柔軟性とリズム感を養う。明るく力強い表現力を高めることが目的である。授業では、基本的なステップやポーズの練習、簡単な振り付けの習得を行い、身体の使い方やダンスのリズム感を養う。また、個別のフィードバックやグループでのパフォーマンスを通じて、自己表現の幅を広げることをめざす。「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) II」以降の舞踊技術を学ぶための基盤をしっかりと築くことが期待される。	
		舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) II	「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) II」は、ジャズダンス初級の授業である。基礎をもとにダンスのテクニックを少しずつ進めていく。アイソレーション、ターン、ジャンプなどの基本動作を組み合わせ、簡単な振り付けを通してリズム感や表現力を向上させる。楽しい音楽に合わせて、明るい動きを楽しむことが目的である。これにより、ダンス技術の基盤を強化し、舞踊に対する理解と表現力を高める。個別のフィードバックを受けながら、技術の向上と自己表現の幅を広げることをめざし、次の「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) III」への準備を整える。	
		舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) III	「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) III」は、シアタージャズ基礎の授業である。ジャズダンスの基本動作を学びながら、演技力と表現力を高める。アイソレーション、ターン、ジャンプなどのテクニックを練習し、劇的な要素を取り入れた振り付けを通じて、ストーリーテリングを意識したダンスを楽しむことが目的である。さらに、グループでの演技やパフォーマンスレビューを通じて、他者との協働やフィードバックを受けながら技術を磨く。「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) II」で培った基礎を基に、コンテンポラリーダンスのスキルを深化させ、次の「舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) IV」へとつなげる準備を整えることが期待される。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
主専攻科目 基本科目	舞台芸術研究演習B (舞踊学分野) IV		「舞台芸術研究演習B(舞踊学分野) IV」は、シアタージャズ初級の授業である。基礎テクニックをさらに発展させ、振り付けを通じて演技力を高める。リズム感やダイナミクスを意識しながら、アイソレーション、ターン、ジャンプを組み合わせ、ストーリー性のあるダンスを楽しむことをめざす。表現力豊かな動きを習得する。授業では、自己表現の精緻さを追求し、フィードバックを受けながら技術の最終的なブラッシュアップを図る。これにより、舞踊の総合的なスキルを身につけ、プロフェッショナルな舞台に向けた準備を整えることが期待される。	
	舞台芸術研究演習C (企画制作分野) I		この授業では、舞台芸術の企画制作分野での基礎的な理解を深めるため、著名な舞台作品の映像資料を視聴・分析する。舞台芸術における演出や舞台構成の要素を学び、それらが作品に与える影響について考察する。また、舞台制作の基礎的な企画立案方法を学び、自らのプランを作成する練習を行う。これにより、舞台作品の制作プロセスにおける重要な要素を理解し、独自の企画力を育むことをめざす。また、グループでのプロジェクトや簡単な舞台設営の想定を通じて、チームワークや問題解決能力を養う。授業の最後には、基礎的な舞台制作のプランを作成し、フィードバックを受けることで、自身の理解を深め、次の「舞台芸術研究演習C(企画制作分野) II」へとつなげる準備を整えることが期待される。	
	舞台芸術研究演習C (企画制作分野) II		舞台芸術研究演習IIでは、映像資料を活用し、さらに高度な舞台作品の分析を行う。作品のテーマやメッセージを深掘りし、演出や美術、照明などの各要素がそれぞれどのように意図され、観客に影響を与えているかを探究する。また、実践的な企画立案として、特定のテーマに基づいた舞台制作プランを立て、より具体的な計画を練り上げる力を養う。また、舞台制作のスケジュール管理や予算計画についても学び、現実の制作現場での課題に対応する力をつける。授業の最後には、実際の舞台作品の制作に向けた計画を立て、フィードバックを受けることで、次の「舞台芸術研究演習C(企画制作分野) III」への準備を整える。	
	舞台芸術研究演習C (企画制作分野) III		本授業では、映像資料をもとに複雑な舞台作品の分析を行い、舞台芸術のさらなる理解を深める。各要素間の関係性や演出意図を踏まえ、作品全体の構造を読み解く力を養う。また、作品制作において独自の企画を具体化するためのプラン作成に取り組む。受講者は、自身の企画案をグループで検討し、他者からのフィードバックを受けることで、実際の制作に向けた構想力を強化する。また、プロジェクト管理やトラブルシューティングの技術を学び、制作過程で直面する様々な問題に対処する力を養う。	
	舞台芸術研究演習C (企画制作分野) IV		最終段階として、より深い分析力と企画力を身に付けることを目的とする。映像資料から学び得た知識をもとに、自らの企画を発展させ、具体的な制作プランの完成をめざす。グループワークを通じて、プロジェクトの進行管理やチームでの協力方法についても学び、舞台制作の実務的なスキルを身につけることを重視する。最終的に、自分の企画書・予算書を完成させ、発表に向けた準備を行う。グループでの協力による制作活動を通じて、プロジェクトマネジメント能力やチームワークの重要性を学び、舞台芸術における実践的なスキルを身につけることが目的である。学生による舞台公演を予定している。	
	舞台芸術総合演習 I	○	「舞台芸術総合演習 I」は、ミュージカルの舞台創作に特化した基礎的な授業である。学生は、舞台芸術の基本的な要素とミュージカル制作のプロセスを学ぶ。授業では、脚本の構築、キャラクターの創造、音楽やダンスの統合など、ミュージカル作品の主要な要素に焦点を当てる。実践的なワークショップやグループプロジェクトを通じて、創造力を発揮し、演技、振付け、音楽のバランスを取るスキルを養う。授業の最後には、学生による短いミュージカル作品の発表を行い、学んだ知識と技術を実践する機会を提供する。	共同
	舞台芸術総合演習 II	○	「舞台芸術総合演習 II」は、ミュージカルの舞台創作における中級レベルの授業で、より高度な技術と創造性を探求する。学生は、ストーリーテリングの深化、キャラクターの発展、複雑な振付けや音楽の統合に取り組む。授業では、既存のミュージカル作品の分析や、独自のミュージカルシーンの構築を通じて、作品全体の流れを構成する技術を学ぶ。また、演技や振付け、音楽の融合を深めるための実践的なワークショップを行い、グループでの創作活動を通じて協力する力を養う。最後には、各自が制作したミュージカルシーンを発表し、フィードバックを受けながら、さらなる改善をめざす。	共同
	舞台芸術総合演習 III	○	「舞台芸術総合演習 III」は、ミュージカルの舞台創作における上級レベルの授業で、より複雑な作品の制作に挑戦する。学生は、オリジナルのミュージカル作品を作成する過程で、プロットの緻密な構築やキャラクターの深層化、テーマの統合に取り組む。授業では、実際の舞台制作現場を模したワークショップを通じて、脚本の書き換えや舞台演出、照明・音響の調整を実践的に学ぶ。また、演技と音楽のパフォーマンスを組み合わせた複合的なシーンの制作にも挑戦し、作品全体の統一感を追求する。最終的には、グループで完成させたミュージカルの完全な公演を行い、成果を発する。この過程を通じて、舞台芸術における高度な表現技術と実践力を養うことが目的である。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基本科目	舞台芸術総合演習Ⅳ	○	「舞台芸術総合演習Ⅳ」は、ミュージカルの舞台創作における最上級の授業で、プロフェッショナルレベルの制作能力を養う。学生は、企画から実演までの全プロセスを統括し、実際の公演に向けたフルスケールのミュージカル作品を創作する。授業では、脚本の完成度を高めるための詳細な編集、キャラクターの深化、演出の革新を追求する。また、プロジェクトマネジメントやチームのリーダーシップも重視し、現場での実務経験を積む機会を提供する。さらに、舞台設営やリハーサルの実施、観客からのフィードバックを受けての最終調整も行う。最終的には、完成したミュージカル作品を公演し、観客の前で発表することで、学んだスキルを実践的に証明する。	共同
	公演実習		「公演実習」は、舞台公演の企画から実施までの全過程を実践的に学ぶ授業である。学生は、舞台公演の準備、演出、演技、技術面の調整など、多岐にわたる業務を体験する。授業では、作品の選定、キャスティング、リハーサルの進行、舞台設営、照明・音響の調整といった実務的な内容を学び、各自の役割を果たしながらプロジェクトを進める。実際の公演に向けた準備を通じて、チームでの協力や問題解決能力、クリエイティブな演出力を養い、観客の反応を受けてのフィードバックを活用し、また、作品の完成度を高めるための改善も行う。授業の最後には、実際の舞台公演を行い、学生全員が制作した作品を発表することで、学んだスキルを実践的に示す機会を提供する。	共同
	卒業演習Ⅰ	○	「卒業演習Ⅰ」では、舞台芸術に関する卒業論文・制作を支援することを目的としている。この授業では、学生が個々の研究テーマを設定し、論文の構成や執筆の進め方について指導を受ける。初期段階では、研究課題の明確化と文献レビューの方法、資料収集のテクニックを学び、研究の方向性を定める。学生は指導教員との個別相談やグループディスカッションを通じて、論文のテーマを掘り下げ、研究成果をまとめるための基礎を構築する。また、研究の進捗状況に応じたフィードバックを受けることで、論文の品質向上を図る。最終的には、卒業論文の草稿を完成させ、次期の「卒業演習Ⅱ」に向けた準備を整える。	
	卒業演習Ⅱ	○	「卒業演習Ⅱ」では、舞台芸術に関する卒業論文・制作の最終仕上げと発表を行う。この授業は、前期の「卒業演習Ⅰ」で作成した論文・作品の草稿を基に、さらなる深化と完成をめざすものである。学生は研究の進捗をもとに最終的な校正や修正を行い、論文・作品の論理性や構成を強化する。指導教員との個別相談やグループレビューを通じて、最終的なフィードバックを受け、論文・制作の完成度を高めることが求められる。また、卒業論文の発表に向けた準備とプレゼンテーションを行う。最終的に、学生は自らの研究成果を発表し、舞台芸術に関する深い理解と専門的な見解を示すことによって、学びを総括し、卒業論文を完成させる。	
主専攻科目	English for Performing Arts I		「English for Performing Arts I」は、英語でのパフォーマンスアートの基礎を学ぶ入門授業である。学生は、英語での演技や舞台表現の基本技術を習得し、言語スキルとパフォーマンス力を融合させる方法を探求する。授業では、発音、イントネーション、アクセントに重点を置きながら、シンプルな台本を用いた演技練習を行う。また、演技に必要な表現力やコミュニケーション能力を身につけることで、言語の理解を深め、実際の舞台でのパフォーマンスに活かすことを目的として、即興劇やスキットを通じて、英語での即興力や演技力を養うことをめざす。授業の最後には、学生による短いパフォーマンスを発表し、フィードバックを受けながらさらにスキルを磨く。さらに、この授業では海外研修の準備も行う。	
	English for Performing Arts II		「English for Performing Arts II」は、英語でのパフォーマンスアートにおける中級レベルの技術を学ぶ授業である。学生は、より複雑な台本やシーンを用いて、演技の深さや表現力を向上させる。授業では、キャラクターの心理描写や感情表現に焦点を当て、英語でのディープな演技スキルを養い、舞台上での動きや身体表現、声の使い方に関する高度なテクニックも学ぶ。グループでのディスカッションや共同演技を通じて、協力や即興力も強化する。さらに、劇的なテキストの分析や役作りに取り組み、より成熟したパフォーマンスをめざす。授業の最後には、学んだ技術を活かした短編作品の発表を行い、フィードバックを受けてさらなる改善を図る。この授業では海外研修の準備も行う。	
	English for Performing Arts III		「English for Performing Arts III」は、英語でのパフォーマンスアートの最上級技術を探求する授業である。学生は、複雑な劇作品やシナリオを扱い、演技技術や舞台表現を深化させる。授業では、詳細なキャラクター分析やストーリーテリングに重点を置き、英語での演技力をさらに高めることをめざす。高度なテクニックとして、複雑な舞台構成や複数のキャラクターの同時演技、深い感情表現などに取り組む。また、実際の舞台公演に向けた準備やプロジェクト管理のスキルも強化し、実務的な経験を積むことができる。学生は、グループでの共同作業やリーダーシップの役割を果たしながら、総合的なパフォーマンスの完成度を高める。授業の最後には、完成した作品を公演し、観客からのフィードバックを受けて、技術と表現力の最終的なブラッシュアップを行う。さらに、この授業では海外研修の準備も行う。	
発展科目				

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
主専攻科目 発展科目	English for Performing Arts IV		「English for Performing Arts IV」は、英語でのパフォーマンスアートの最終段階での学びとなる。ここでは海外研修で学習した成果を英語でまとめ、1年半に及ぶこれまでのスキルの完成度を自ら英語スピーチで発信する。本学科の学びの基軸でもある国際的なエンターテインメントの理解を深めるためにも、身体表現に関する経験をいったん言語化しておくことにより、3年次以降の舞台芸術表現研究を一層進化させることにつながる。さらに英語で演じられた海外のパフォーマンスをDVDやYouTubeなどのメディアを通じて鑑賞し、世界の一流のパフォーマンスアートの世界にも触れながら、自らの身体表現術の向上に結びつける。	
	ロンドン研修	○	事前学習（学内）において、英国演劇の歴史と基礎知識について学ぶ。英国ではMOUNTVIEW Academy of Theatre Artsのカリキュラムに則った研修を受けることによって、古くから演劇や舞台芸術の学術的評価が確立している英国演劇について理解を深める。さらに、自身が演じたり舞台を創作する経験を通して、舞台芸術の知識と技術を習得することを目指す。帰国後の事後学習では、ロンドン研修における課題を発表し、学習内容を総括する。	共同
	Performing Arts I		「Performing Arts」の授業はIからⅧまであり、いずれも国際的な身体表現法を意識して学ぶ。「Performing Arts I」は、ミュージカル制作の基礎を学ぶ入門授業である。学生は、ミュージカルの基本的な構成要素と制作プロセスを理解し、初歩的な技術と知識を身につける。授業では、ミュージカルの歴史や構造、脚本の基本的な書き方、キャラクターの創造方法などを学ぶ。また、簡単な振付けや音楽の統合方法を実践し、舞台制作の初期段階に必要なスキルを習得する。学生は、グループプロジェクトを通じて、シンプルなミュージカルシーンの制作に挑戦し、基礎的な演技力や舞台表現力を養う。授業の最後には、短いミュージカルシーンの発表を行い、学んだ技術を実践する機会を提供する。基礎から応用へと段階的に学びを進めるための第一歩となる授業である。	共同
	Performing Arts II		「Performing Arts II」は、ミュージカル制作における中級レベルの技術と知識を深める授業である。学生は、ミュージカル作品の構築におけるより複雑な要素に取り組む。授業では、ストーリーテリングの高度な技法やキャラクターの発展、シーンごとのドラマティックな構成を学ぶ。また、振付けのデザインや音楽のアレンジメント、舞台演出の技術も強化する。学生は、グループでの制作プロジェクトを通じて、より完成度の高いミュージカルシーンの創作に挑戦し、チームでの協力や問題解決能力を養う。授業の中で、実際の舞台公演に向けたリハーサルを行い、舞台上でのパフォーマンス技術や演出力を高める機会を提供する。最終的には、創作したミュージカルシーンを発表し、観客からのフィードバックを受けて作品をブラッシュアップする。	共同
	Performing Arts III		「Performing Arts III」は、ミュージカル制作の上級技術を探求する授業で、作品の制作における高度なスキルを養う。学生は、複雑な物語構造やキャラクターの深層分析に取り組み、演出や振付け、音楽の統合を深める。授業では、劇的なテンションや感情表現の技術を磨き、実際の舞台でのパフォーマンスを想定したリハーサルを行う。加えて、舞台設計や照明、音響など、技術的な要素についても学び、総合的な舞台制作能力を向上させる。学生は、グループでのプロジェクトを通じて、ミュージカル全体のコーディネートやプロジェクトマネジメントを実践し、チームでの協力とリーダーシップを発揮する経験ができる。授業の最後には、完成したミュージカル作品の公演を行い、観客からのフィードバックを受けて作品をさらにブラッシュアップする。	共同
	Performing Arts IV		「Performing Arts IV」では、舞台制作の専門分野における高度な技術と知識を深める。前半は、舞台構造や照明、音響などの技術的要素を徹底的に学び、実際の舞台制作における技術的課題への対応力を養う。後半では、複雑な演出や舞台転換のプランニング、演技と演出の統合方法について実践的に学ぶ。チームプロジェクトを通じて、実際の制作現場に即したスキルを身につけ、舞台芸術の創造的なアプローチと問題解決能力を向上させることをめざす。	共同
	Performing Arts V		「Performing Arts V」では、ミュージカル制作の高度な技術と芸術性に焦点を当て、さらに深い専門知識を習得する。この授業では、複雑なストーリーテリング技術やキャラクターの深掘りを通じて、物語をより魅力的に伝える方法を探求する。さらに、舞台デザインや衣装、メイクの高度な技術を用いて、視覚的な演出を深化させる。実際のプロジェクトやケーススタディを通じて、制作プロセスの管理能力やチームでの協働スキルを強化し、演出家やプロデューサーとしての視点を養う。各学生が独自の制作ビジョンを実現し、舞台芸術の高度な表現力を身につけることをめざす。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	Performing Arts VI		「Performing Arts VI」では、ミュージカル制作の最前線を学び、プロフェッショナルとしての技術と知識をさらに深める。この授業では、舞台演出の最先端技術やトレンドを取り入れた実践的な演習を行い、先進的な舞台効果や視覚表現の活用法を探求する。また、国際的な舞台芸術の動向や成功事例を分析し、グローバルな視点からのアプローチを学ぶ。プロジェクトベースの学習を通じて、実際の制作環境に近い形でチーム作業や問題解決に取り組み、現場で求められるスキルとリーダーシップを養う。各学生が独自の創造性を発揮し、未来の舞台芸術シーンに貢献できる能力を育成することをめざす。	共同
	Performing Arts VII		「Performing Arts VII」では、舞台制作の最も高度な技術と理論に焦点を当て、舞台芸術の先駆者としてのスキルを培う。この授業では、複雑な舞台構造や革新的な演出技法の習得に加え、大規模なプロジェクトの管理や長期的な制作計画の立案について学ぶ。舞台芸術の歴史的背景や文化的な文脈を深く掘り下げ、現代の作品に応用する方法を考察する。実際の公演やパフォーマンスのシミュレーションを通じて、リアルな制作環境での問題解決能力を高め、プロフェッショナルな制作プロセスを体験する。各学生は、独自のビジョンと技術を駆使して、高度な制作成果を達成し、舞台芸術の未来を切り拓くための能力を身につけることをめざす。この授業では主に演技演出と歌唱を学ぶ。	共同
	Performing Arts VIII		「Performing Arts VIII」では、舞台制作の専門性を極める最終ステージとして、創造的なリーダーシップとプロフェッショナルな制作管理を学ぶ。この授業では、学生たちが独自の舞台を企画し、制作するプロジェクトを通じて、全ての制作過程を統括する能力を養う。具体的には、企画立案、キャスティング、リハーサルの指導、マーケティング戦略の策定、そして公演の運営に至るまで、舞台制作の全側面を実践的に経験する。また、業界の著名なプロフェッショナルからのフィードバックを受け、現実の舞台芸術の現場で必要とされる高度なスキルと知識を身につけ、最終的には、自らの制作ビジョンを具体化し、プロフェッショナルな舞台芸術のプロジェクトを成功に導く力を養うことをめざす。ここでは主に演技演出と歌唱を学ぶ。	共同
	シェイクスピア劇上演論		シェイクスピアの演劇に焦点を当て、彼の作品が持つ歴史的、文化的、そして芸術的な影響を深く掘り下げる。この講義では、シェイクスピアの主要な戯曲を読み解き、彼の劇作技法やキャラクター描写、テーマについての詳細な分析を行う。また、シェイクスピアの作品が上演される当時の社会背景や劇場環境についても学び、演劇が社会に与えた影響を考察する。さらに、近代および現代の演出や解釈におけるシェイクスピアの位置づけを探り、彼の作品がどのようにして時代を超えて愛され続けているのかを考える。学生がシェイクスピアの演劇が持つ普遍的な魅力とその現代的な意義を理解し、自らの演劇観を深めることをめざす。	
	近代演劇論		20世紀の主要な演技論であるスタニスラフスキシステムから、その対抗的な演技システムであるビオメカニカや異化的演技まで幅広く演技論を取り上げて、その演劇との関係を理解するとともに、上演の解釈との関係も考察する。また近現代演劇の主要な理論を、身体、言語、劇場との関係から読み解いていく。	
	近現代演劇特講		多文化主義、ポストコロニアリズム、戦争、災害、エコロジーなど現代世界の諸問題に演劇がどのように向き合ったのか、具体例を通して考察していく。現代社会の変化に適応する演劇のあり方を検討する。最終的には、演劇が単なる娯楽にとどまらず、社会的・政治的なメッセージを伝える手段としてどのように機能するのかを批判的に考察し、受講者自身が現代演劇の意義について主体的に議論できるようになることを目指す。	
	演劇鑑賞論		本講義は舞台芸術における「良い観客」を目指すものである。一期一会の舞台鑑賞で得られるものは人によって様々だが、素直な感性と適切な知識は作品から多くのもを受け取ることを助けてくれる。さらに「良い観客」による批評・感想は舞台の作り手を励まし、勇気づける。舞台芸術とは舞台と客席の両方で作り上げるもの。良質の観客なくして良質の舞台は生まれない。もちろん、舞台の創り手もまた「良い観客」であるべきだ。前・後期ともに様々なジャンルから舞台作品を取り上げ、事前の予習・鑑賞（映像）・事後の振り返り・感想交換を行う。前期は4作品の鑑賞を通じて、感じたこと・考えたことを自分の言葉で紡ぎ、伝えていく力を身につける。	
	歌劇論 I		本講義は日本の舞台芸術において独特の存在感を示している宝塚歌劇（タカラヅカ）について取り上げ、様々な視点から深く掘り下げる。授業は1、2を前期で受講することを推奨。いわゆる「タカラヅカ様式」とも言うべき独自性を確立した契機が『ベルサイユのばら』の大ヒットだと考えられるため、前期（1）では「ベルばら」ブームまでの歩みを主に取り扱い、宝塚歌劇が他の様々なジャンルの舞台芸術から影響を受けながら「タカラヅカ様式」を獲得するまでの試行錯誤の道のりを振り返る。各回の内容に繋がる作品の鑑賞と感想交換を織り交ぜながら進める。また大学の立地を活かして、宝塚大劇場での観劇会も実施したい。	

主専攻科目

発展科目

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	歌劇論Ⅱ		本講義は日本の舞台芸術において独特の存在感を示している宝塚歌劇(タカラヅカ)について取り上げ、様々な視点から深く掘り下げる。授業は1、2を通過期で受講することを推奨。いわゆる「タカラヅカ様式」とも言うべき独自性を確立した契機が『ベルサイユのばら』の大ヒットだと考えられるため、後期(2)では「ベルばら」ブーム以降の重要な動向であるスターシステムの確立と変容、翻案ミュージカル上演に加え、学校システムやファンコミュニティにも視野を広げていく。各回の内容に繋がる作品の鑑賞と感想交換を織り交ぜながら進める。また大学の立地を活かして、宝塚大劇場での観劇会も実施したい。	
主専攻科目	発展科目	モダンドラマ論	19世紀末から20世紀にかけて展開された近代演劇の流れを概観し、その革新性と意義を探究する。本講義では、イブセン、チャーホフ、ブレヒト、ベケットらを中心に、彼らの作品とドラマツルギーを詳細に分析する。とりわけ、社会問題の反映、演劇形式の変革、観客との関係性の再構築といった視点を重視し、モダンドラマの特質を明らかにする。また、不条理劇やエピック・シアターなど、従来の演劇観を覆した革新的手法にも焦点を当て、現代演劇への影響を考察する。最終的に、学生はモダンドラマの本質を批評的に理解し、自らの視点で評価を行うことを目指す。	
		パフォーマンス・スタディーズ	20世紀中盤に起こったパフォーマンス・スタディーズを解説しつつ、日常がいかにかパフォーマンスとして理解できるかを考察する。日常生活、儀礼、祭り、スポーツなど様々なジャンルから考察するとともに、それらが集約的にパフォーマンス・アートに結実していることを、その具体的作品を通して解説する。	
		舞台制作・企画演習	「舞台制作・企画演習」では、舞台制作と企画の専門的な知識と実践的なスキルを深めることをめざす。舞台制作の前提となる戯曲の精緻な解釈のもとに、舞台の美術プラン(セットと衣装)を想定したり、照明や音響の在り方を考える。この演習では日本の戯曲作品(三島由紀夫の『班女』等)をテキストとして用いながら、本読みや立ち稽古を通して、感情表現や身体表現を豊かにする技術を身につけ、舞台上演を想定しながら制作面での知識と実践的なスキルを体得する。	
		即興芸術論Ⅰ	「即興芸術論Ⅰ」では、即興芸術の基礎を学び、即興演技の技術と創造的な思考を育むことを目的とする。即興演技の基本的な理論と実践を組み合わせ、学生が自信を持って即興的な状況に挑むためのスキルを習得することをめざす。この授業では、即興演技の基本的なルールやテクニックを習得し、即興的な状況に対する柔軟な反応力を養う。主な活動として、即興ゲームやエクササイズ、シチュエーション即興などを通じて、発想力や即座の対応力を高める。また、即興演技におけるチームワークや相手へのレスポンスの重要性を学び、パフォーマンスの質を向上させるための方法を探求する。	
		即興芸術論Ⅱ	「即興芸術論Ⅱ」では、即興演技の技術をさらに深化させ、より高度な即興的アプローチとパフォーマンススキルを養う。この授業では、複雑な即興シナリオや長編の即興劇に挑戦し、創造的なストーリーテリングやキャラクターの構築に焦点を当てる。授業では、即興演技の先進的なテクニックや理論、そして実際のパフォーマンスでの応用方法について学び、さらに、実践的なワークショップやフィードバックセッションを通じて、自らの即興パフォーマンスを磨き、ステージでの即興的な対応力を強化する。最終的には、即興の場面での細やかな感情表現やテーマの掘り下げ方、より深い演技力など即興芸術の高い専門性を身につけ、複雑な状況でも自信を持ってパフォーマンスできる能力を育成することをめざす。	
		即興芸術演習Ⅰ	「即興芸術演習Ⅰ」では、即興芸術の基礎技術と応用力を養うことを目的とする。この授業では、即興演技の基本的なルールやテクニックを学び、瞬時に反応する力や創造的な思考を育成する。具体的には、即興ゲームやエクササイズを通じて、スピードと柔軟性を高め、状況に応じた効果的なパフォーマンス方法を探求する。また、チームでの協働やリスニングスキルの向上を図り、他者との即興的な対話を通じて、演技の幅を広げる。授業では、即興演技に必要な感受性や創造性を引き出し、現場での即興対応能力を高めるための実践的なアプローチを提供する。最終的には、即興芸術の基本的なスキルを確立し、自信を持って即興的な状況に挑むための基盤を築くことをめざす。	
		即興芸術演習Ⅱ	「即興芸術演習Ⅱ」では、即興芸術の高度な技術とパフォーマンススキルをさらに発展させる。この授業では、複雑な即興シナリオや長編の即興劇に挑戦し、深いキャラクター構築や複雑なストーリーテリングを探求する。学生は、即興演技の高度なテクニックを学び、リアルタイムでの演技の細やかさや感情を表現する方法を習得する。また、即興の場面でのテーマの掘り下げや、ストーリーラインの構築における戦略的アプローチを実践する。授業では、チームでの協働や即興演技のディレクションを行い、演技力と創造力を高めるためのワークショップやフィードバックセッションも取り入れる。最終的には、即興演技におけるプロフェッショナルなスキルを身につけ、複雑な状況でも自信を持ってパフォーマンスできる能力を育成することをめざす。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
主専攻科目	発展科目	舞台技術	本授業では、舞台技術および舞台づくりに関する基本的な知識を学び、舞台芸術の技術的要素を体系的に理解することを目的とする。まず、劇場の構造や舞台の基本的な仕組み、専門的な舞台用語について学習する。その後、音響、照明、舞台美術、衣裳といった舞台制作に欠かせない技術要素について幅広く扱い、各分野の役割や基礎技術を理解する。授業では講義に加え、実際の舞台機材の見学や簡単な実習を交え、実践的な理解を深める。最終的には、舞台技術が舞台芸術に与える影響を考察し、舞台作品の技術的側面を分析できる力を養う。本授業を通じて、舞台技術の基礎知識を修得し、将来的に舞台制作に関わる際の土台を築くことを目指す。		
		舞台製作実習Ⅰ	本授業では、舞台製作の基礎知識と技術を習得することを目的とする。舞台に必要な小道具や衣装の基本的な構造や素材の特性を学び、実際に製作を行う。劇場空間における視覚的要素の役割を理解し、舞台芸術における物作りの重要性を考察する。演出意図を踏まえた造形や加工の技術を身につけ、創造的な発想を実践に活かすことを目指す。		
		舞台製作実習Ⅱ	舞台製作の応用的な技術を学び、実践的な製作作業を進める。演出プランや美術デザインを踏まえ、具体的な小道具や舞台衣装等の製作を行う。素材の選定や加工技術の幅を広げ、舞台上での効果的な見せ方を探る。チームでの作業を重視し、舞台製作における協働の重要性を理解することを目的とする。		
		舞台製作実習Ⅲ	舞台作品の具体的な演出に基づき、より高度な舞台製作を行う。プロダクションのニーズに応じた衣装デザインの考案や、演出家・美術担当との協議を通じて、創作のプロセスを深める。素材の応用や特殊効果の活用についても学び、演劇作品における視覚的表現の可能性を追求する。		
		舞台製作実習Ⅳ	これまでの学びを総合し、舞台製作の実践的なプロジェクトを遂行する。公演に向けた具体的な衣装や小道具の製作を行い、現場で求められる技術や対応力を養う。完成度の高い舞台空間を創出することを目標に、企画から実制作、運営までを経験することで、舞台芸術における総合的な製作力を身につける。		
		舞台芸術表現特別実習Ⅰ	「舞台芸術表現特別実習Ⅰ」では、舞台芸術の実践的な表現技法を深め、最終学年の学生が自身のプロジェクトを進めるための実習を行う。この授業では、個別のプロジェクトやチームによる制作に取り組み、舞台芸術の具体的な表現方法を実践的に学ぶ。学生は、演出、振付、舞台設計、音響、照明など、舞台芸術の各要素を統合し、実際の公演やパフォーマンスに向けて作品を創り上げる。授業では、専門家による指導やフィードバックを受けながら、制作過程での問題解決力やチームワークを強化し、自らの創造的ビジョンを具現化する。また、舞台芸術における最終的な成果物を準備し、実際の公演でのプレゼンテーションを通じて、実務的な経験を積むことができる。最終的には、舞台芸術の高度な技術と表現力を習得し、卒業後のキャリアに備えることをめざす。		
		舞台芸術表現特別実習Ⅱ	「舞台芸術表現特別実習Ⅱ」では、舞台芸術の最終的な制作と公演に向けた実践的なプロジェクトを進める。この授業は最終学年の学生を対象に、卒業前の総仕上げとして、舞台芸術の高度な表現技法と実務経験を深めることを目的とする。学生は、自らの創造的なプロジェクトを完成させるために、演出、振付、デザイン、音響、照明などの全ての要素を統合し、プロフェッショナルなクオリティの作品を制作する。授業では、専門家による指導やフィードバックを受けながら、実際の公演に向けたリハーサルやプレゼンテーションを行い、現場での問題解決能力やチームでの協働を強化する。最終的な成果物として、舞台芸術における総合的な表現力とプロジェクト管理能力を身につけ、卒業後のキャリアに向けた実務的な経験を積むことができる。		
		卒業制作・論文	「卒業制作・論文」では、舞台芸術分野に関する個別の研究テーマに基づいて、学術的な卒業制作や論文の作成を行う。卒業制作には、戯曲等の文芸作品制作、舞台衣装の制作、個人による身体表現発表等を含む。卒業論文では、舞台芸術の歴史、理論、実践など、多岐にわたる分野から自らの興味に合った研究テーマを選ぶ。研究課題の設定、文献レビューの方法、データ収集と分析の手法について指導を受ける。具体的には、研究の目的と問題提起を明確にし、論理的な構成で論文を執筆するスキルを身につける。		
		副専攻科目	メディカル心理学	本講義では、心理学の基礎となる理論と実践について、成立ちと代表的な理論について学ぶ。同時に、心の問題（悩みや困難）とその対応に関する理論について理解を深め、心の健康に関する幅広い知識と対処法についても学ぶ。ストレスや感情が身体に及ぼす影響、患者の心理状態が病気や治療に与える影響、また心理的支援が治療効果を高める方法を探求し、医療現場でのカウンセリング技術とコミュニケーションスキルを習得する。	
			メディカルヨガⅠ	ヨガの基本的なポーズや呼吸法を学び、心身の健康を促進するための基礎知識を身につける。医学的視点から、ヨガがもたらすリラクゼーション効果やストレス軽減、柔軟性・体力向上に与える影響を理解する。メディカルヨガインストラクターとして様々な対象者に指導できるように解剖学的な視点からアーサナ（ポーズ）の効果・効能を理解する。メディカルヨガインストラクターの資格習得、心と身体の健康を保つためにヨガを学ぶ。	
メディカルヨガⅡ	疾患別にヨガが持つ治療的効果を学び、対象者に合わせてレッスンを作れる知識とスキルを体系的に習得する。メディカルヨガインストラクターとして様々な対象者に指導できるように解剖学的な視点からアーサナ（ポーズ）の効果・効能を理解する。メディカルヨガインストラクターの資格習得、心と身体の健康を保つためにヨガを学ぶ。				

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	メディカルピラティスⅠ		解剖学的な視点からエクササイズの効果効能を理解する。解剖学や生理学の基礎知識を基に、各種ピラティスのエクササイズが筋肉や骨格系にどのように作用するかを理解する。特に、姿勢改善や腰痛予防、体幹の安定性向上に重点を置き、実技を通じて正しいフォームと安全な指導方法を習得する。これにより、学生は健康維持やリハビリテーションに応用できるピラティスの基本スキルを身につける。	
	メディカルピラティスⅡ		解剖学的な視点からエクササイズの効果効能を理解する。授業では、個別の患者やクライアントに合わせたピラティスプログラムの設計方法を学び、リハビリテーションや慢性的な痛みの緩和に焦点を当てたエクササイズを実践する。さらに、臨床データやケーススタディを通じて、ピラティスが心身の健康に与える総合的な効果を深く理解し、医療現場での実践に役立つ高度なスキルを体系的に習得する。	
	食とカラダの診断学		中医学の診断学理論に基づき、体質診断チェックシートの集計だけで日本人に多い4タイプの体質分類が誰でも簡単に行う。さらに薬膳理論を集結させた「食材マップ」を使用し、体質改善に効果的な食材選びや食事の摂り方を体質別に指導できるようになる。このプログラムを学ぶことで、東洋医学や薬膳からの体質改善カウンセラーを育成する。	
	メイクアップ理論		JMAメイクアップ知識検定対策に準じており、基礎編では、皮膚の基礎知識・スキンケア・顔分析・基本のメイクアップ方法・メイクアップの修整方法を学ぶ。応用編では顔の配置バランスを変えて見せるテクニック理論や、色・形・質感を操作してキュート・エレガント・フレッシュ・クールなどの印象に見えるイメージメイクテクニック理論を学ぶ。その他、皮膚の構造や働き、化粧品学、色彩の知識などにも触れる。 (オムニバス方式/全15回) (46 奥田 利子 8回/47 毛利 美保 7回)	オムニバス方式
	色彩学入門		日常生活の中にある色の基本知識を理解し、ライフスタイルを快適に過ごすことができるデザインの機能や目的に応じた、色について解説する。生活の中に存在する色の見え方から、配色と調和、色彩計画、色彩の心理的効果などを、色を表すための表色系や配色カードを使用して実用的な知識も習得する。	
副専攻科目	基礎医学		たった1個の細胞からスタートした私たちの体は最終的には30兆個を超える細胞から構成される。私たちの体はさまざまな機能を持った細胞の活動によって支えられている。基礎医学では細胞の集まりである私たちの体がどのような構造を持ち、どのような生理機能を果たして日々の命を維持しているのかを解説する。人体の正常構造と機能について細胞をはじめとして、DNAなどの分子、特定の機能を持った細胞の集まりである組織、複数の組織により構成される器官および器官系のレベルまで学ぶ。正常構造や機能について学習することで、それらの破綻による疾病のメカニズムについて理解し、代替・補完医療としての統合医療に関する技術・知識を身につけるための基盤とする。 (オムニバス方式/全15回) (48 深見 秀之 14回) 1 全身の筋肉、骨格、関節の構造とその動きの理解 これはパフォーマンス向上のための身体メカニズムの知識となる。 2 神経系による運動機能調節 脳と身体の連携メカニズムを学習することで、効果的な身体表現の取得に基盤となる。 3 1, 2のみならず循環器、消化器、呼吸器など全身機能についての理解 障害の予防や長期的な身体ケアの基礎知識を修得。 (49 森崎 市治郎 1回) リンパ免疫系	オムニバス方式
	美と健康の薬膳学		前半は中医学で体のバランスの崩し方を、後半は薬膳で食材の効能や使いこなし方を紐つけて学ぶ。普段気になる症状に合わせた食材の選び方や食べ方、季節に合わせた体の調え方を具体的に身につける。食材の知識についてはスーパーで買える身近な食材の効能から薬膳食材まで幅広く網羅し、体調の変化や舌診の仕方を学びながら普段の生活に密着した日本で薬膳を実践するのに効果的な方法で生きた食の知識を紹介する。	
	メディカルアロマセラピー概論		統合医療とは、さまざまな医療を融合し患者中心の医療を行うものであり、科学的な近代西洋医学のみならず、伝統医学と相補(補完)・代替医療、更に経験的な伝統・民族医学や民間療法なども広く検討されている。本講義では、アロマセラピーとハーブ療法を中心に、家庭・医療・保健・福祉の場面に活用できることを目的とし、五感を通じた香りや植物との関わりを学び、これらをどのように活用するかを享受する。	
	メンタルヘルス入門		日々の生活でストレスや心の不調を感じた時にどうすればいいのか、身近な人の心のサインをどのように受け止めたらいいのかなど、こころの健康づくりは身近なテーマとなっている。しかしこころの病気については誤解されることも多いため、この科目ではその理解を深める具体的な内容を取り上げメンタルヘルスについて学ぶ。	
	美容整体&ボディデザイン		身体の美しさと健康を促進するためのトレーニングとコンディショニングの技術を学ぶ。体型や体脂肪の管理、筋力トレーニング、姿勢改善、柔軟性向上に焦点を当てたエクササイズプログラムを実践的に学ぶ。また、栄養学や生活習慣の改善が美容と健康に与える影響についても探求し、個々の体質や目標に応じたカスタマイズされたプランの作成方法を習得する。理論と実技を通じて、全体的なボディコンディショニングの技術を高め、クライアントに対して効果的な美容と健康のアプローチを提供する力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	心身を整えるセルフケア		自己管理を通じた健康維持とコンディショニングの技術を学ぶ。授業では、運動、栄養、メンタルヘルスなど多角的な視点から、個々のライフスタイルに応じた健康促進方法を探る。ストレッチやエクササイズの基本理論、バランスの取れた食事、ストレス管理の技術などを実践的に学び、個別にカスタマイズされた健康プランを作成するスキルを養う。これにより、受講者は、自身や他者の健康を効果的にサポートするための知識と実践力を身につけ、セルフケアの重要性を深く理解する。	
	メイクアップテクニックⅠ		メイク接客の基本となる道具のセッティング、クレンジングからスキンケアまでの基礎化粧品の効果的な使い方に加え、モデルの肌の美しさを引き立てるベースメイク法までを実践的に学ぶ。様々な肌悩み等、モデルの肌の状態に応じたカスタマイズ法も紹介し個々の美しさを引き出すためのテクニックを身につける。さらに顔型の分析方法を知る事で、骨格にあわせたチーク・ハイライト・ローライトの適切な施術ができるようになる。メイク接客の基礎スタイルが身につく、日本メイクアップ技術検定3級合格をめざせる。	
	メイクアップテクニックⅡ		アイブロウ、アイシャドウ、アイライン、リップ等、各パーツのメイクの基本知識を知り、ベースメイクからポイントメイクまで繰り返し実習を行い、実践的にプロフェッショナルなスキルを磨く。特に難しいとされる眉のバランスやアイラインに関しては重点的に訓練を行い、モデルの美しさを引き立てるポイントメイク技術を養う。モデルの顔型からパーツのバランスまで総合的に分析ができ、基本のプロポーションをめざした美しいメイクアップを施術できるようになることをめざす。フルメイク技術の基礎が身につく日本メイクアップ技術検定2級合格をめざすことができる。 (オムニバス方式/全15回) (46 奥田 利子 8回/47 毛利 美保 7回)	オムニバス方式
	ヴォイストレーニングⅠ		「ヴォイストレーニングⅠ」は、声の基礎的な発声技術を学ぶことを目的とした実技科目である。この授業では、正しい姿勢、呼吸法、発声法を中心に、声帯のメカニズムや声の健康を維持するための基本知識を習得する。具体的には、リラクゼーションやプレスコントロールを通じて、安定した発声を実現するためのトレーニングを行う。また、発音や共鳴の改善にも焦点を当て、自然で豊かな声を引き出す技術を身につける。クラシック、ソルフェージュや譜面から音符やリズムなどを読み取る訓練も行う。「ヴォイストレーニングⅡ」以降の学びに備えるための基礎固めをめざす。	
	ヴォイストレーニングⅡ		「ヴォイストレーニングⅡ」は、ヴォイストレーニングⅠで学んだ基礎を発展させ、さらに高度な発声技術を習得することを目的とした実技科目である。この授業では、より複雑な呼吸法や発声法を学び、声域の拡大や声量のコントロールに取り組む。具体的には、リズムやイントネーションの精度を高め、表現力豊かな声を養うためのトレーニングを行う。また、ジャズ、ミュージカル、芝居の実践訓練を取り入れ、異なる音楽スタイルやジャンルに対応した発声技術も探求し、受講者が自分の声を多様な状況で効果的に使えるよう指導する。このコースは、声のさらなる使い方を学び、次の「ヴォイストレーニングⅢ」への準備を整える。	
副専攻科目	ヴォイストレーニングⅢ		「ヴォイストレーニングⅢ」は、ヴォイストレーニングⅡで培った技術をさらに深化させ、専門的な声の表現力を磨くことを目的とした実技科目である。この授業では、個々の声の特性を最大限に引き出すためのトレーニングに重点を置き、より高度な呼吸法、発声法、そして表現技術を学ぶ。具体的には、感情表現やニュアンスの細やかなコントロールを追求し、ジャズ、ラテン、日本、ミュージカルなど様々な歌唱法を実践的に取り入れ、歌唱やスピーチにおける個性的で力強いパフォーマンスをめざす。また、実際のパフォーマンスを通じて、受講者はフィードバックを受けながら自らの技術を磨く。「ヴォイストレーニングⅣ」へのステップアップを視野に入れている。	
	ヴォイストレーニングⅣ		「ヴォイストレーニングⅣ」は、ヴォイストレーニングシリーズの最終段階であり、プロフェッショナルレベルの発声技術と表現力を完成させることを目的とした講義科目である。この授業では、これまでに習得したすべての技術を統合し、複雑な音楽やパフォーマンスにおける声の運用を最適化する。具体的には、個々の声の可能性を最大限に活かした高度なテクニックや、ステージ上での表現力を極めるための実践的なトレーニングを行う。また、コンサートや舞台パフォーマンスにおける実践的な経験を積みながら、プロフェッショナルとしての自信と技術を確立する。「ヴォイストレーニングⅢ」と同様、ジャズ、ラテン、日本、ミュージカルなど様々な歌唱法を実践的に取り入れる。受講者は、このコースを通じて、声の専門家としてのスキルを完成させる。	
	バレエⅠ		「バレエⅠ」は、バレエの歴史や文化的背景についての基礎知識も取り入れ、芸術としてのバレエを深く理解するとともに、クラシックバレエの基礎を学ぶことを目的とした演習科目である。この授業では、バレエの基本的なポジションや動作、姿勢を中心に、正しい身体の使い方を学ぶ。バレエレッスンやセンターワークを通じて、柔軟性、バランス、筋力の向上をめざし体幹を整える。また、音楽との調和を意識しながら、優雅で力強い動きを習得する。初心者でも参加できる内容で、次の「バレエⅡ（基礎）」へのステップアップをめざす。	
	バレエⅡ		「バレエⅡ」は、「バレエⅠ」で学んだ基礎をさらに発展させ、より確かな技術と知識を習得することを目的とした演習科目である。この授業では、より高度なバレエのポジションや動作を学び、複雑なバレエレッスンやセンターワークを行う。ジャンプ、ターンなどの難易度の高い動作を取り入れ、身体の柔軟性や筋力・体幹をさらに強化する。また、振り付けの練習を通じて、表現力や舞台での動きの調和を深めることをめざす。バレエの歴史や作品の背景となる文学作品や文化の理解を深めるとともに、自己の踊りに個性や表現力を加える方法を学ぶ。	

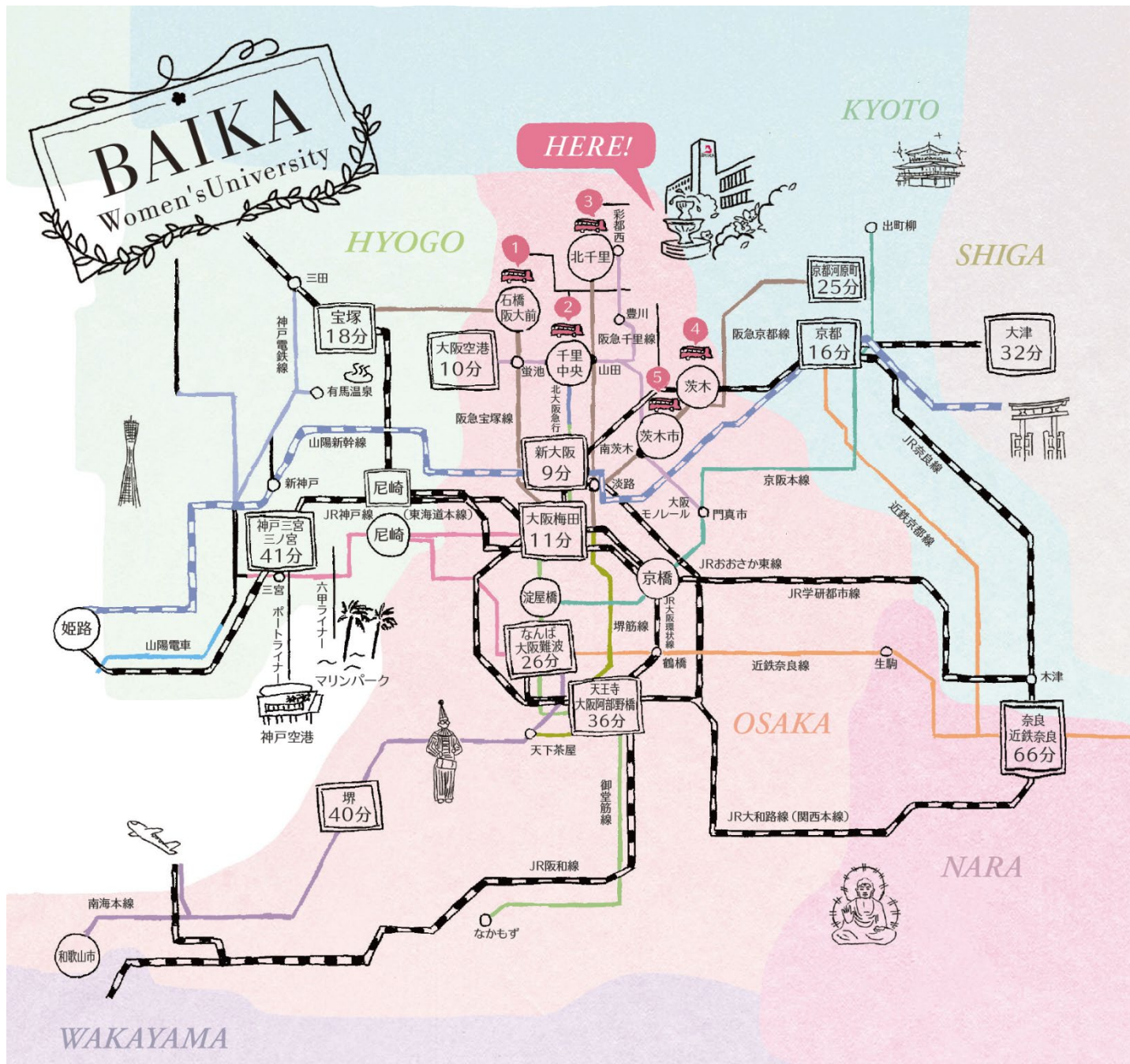
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ダンスⅠ		踊る上で基本となる自分の身体にフォーカスを当て、まずは自分の体を知ることが大事にします。ジャンルはあえて指定せずにテーマに沿ってジャズやコンテなど幅広く挑戦していきます。その中でいろんなアクティビティを行い創造力を高め、身体を使って表現する力を身につけます。	
副専攻科目	ダンスⅡ		踊る上で基本となる自分の身体にフォーカスを当て、まずは自分の体を知ることが大事にする。ジャンルはあえて指定せずにテーマに沿ってジャズやコンテなど幅広く挑戦する。その中でいろんなアクティビティを行い創造力を高め、身体を使って表現する力を身につける。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

(1) 都道府県内における位置関係の図面

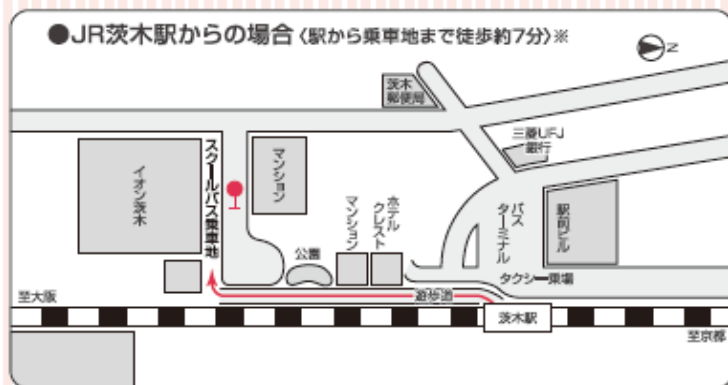
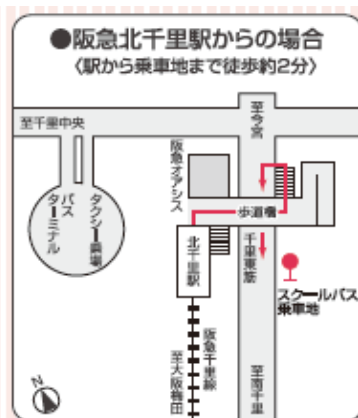
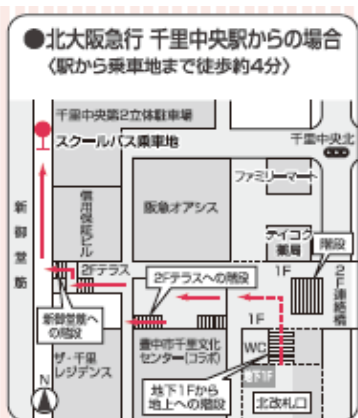
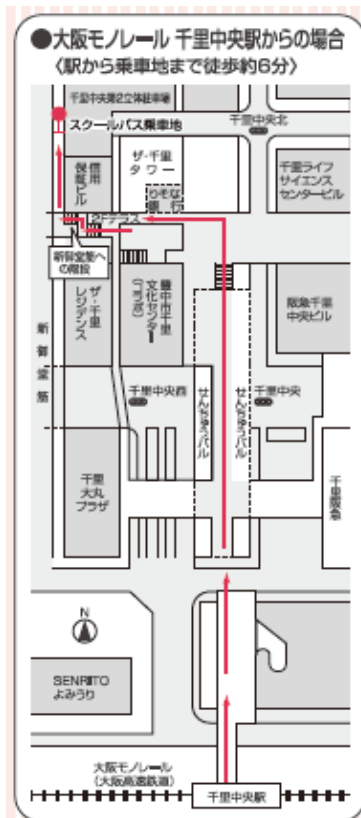
梅花アクセス map



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面

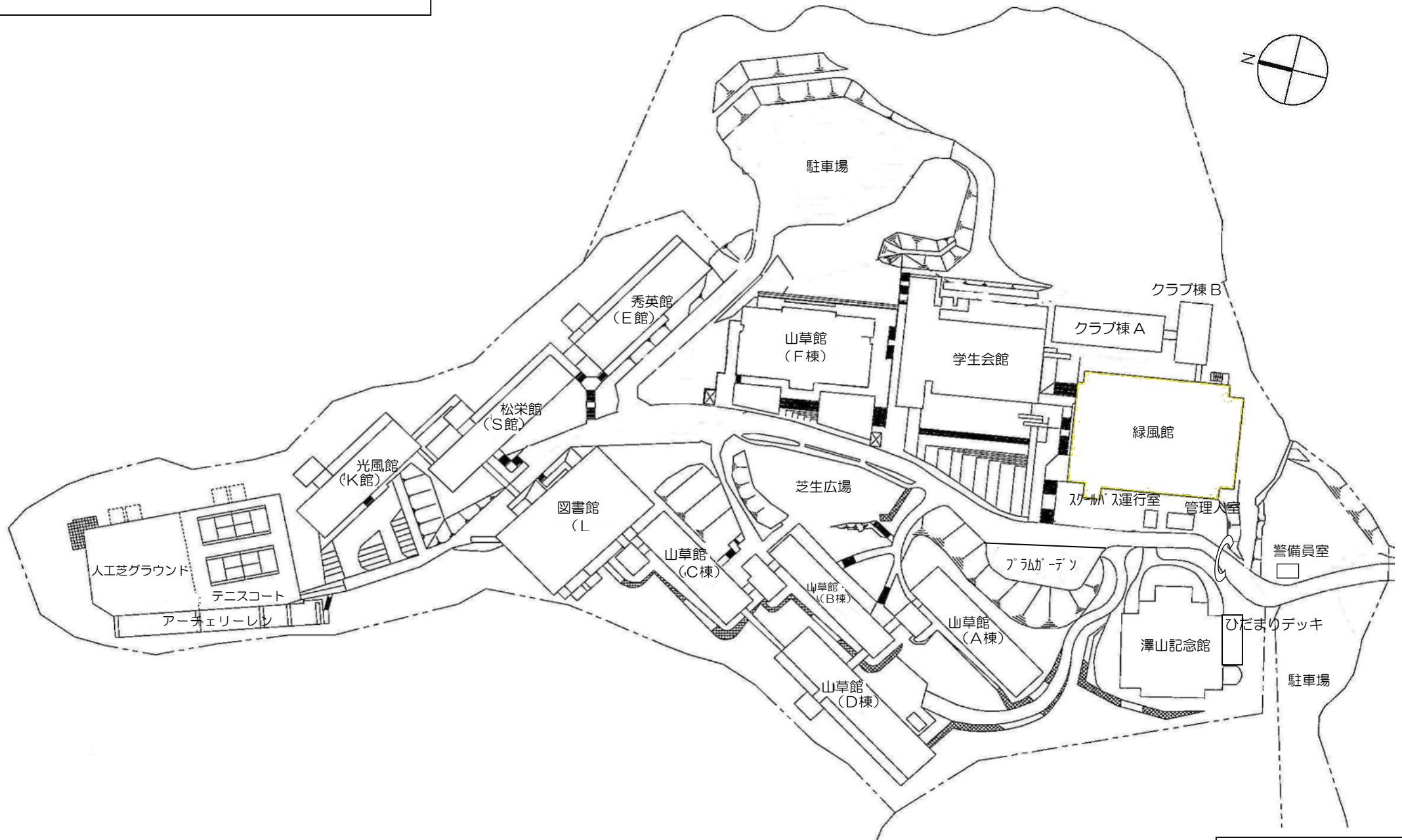
<交通アクセス>

本学へは、JR茨木駅、阪急茨木市駅、阪急北千里駅、北大阪急行千里中央駅、阪急石橋阪大前駅の5つの駅からスクールバスが運行。所要時間は、各駅からキャンパスまで約20分～30分。(距離:5km ~ 10km)



梅花学園 茨木エレガンスキャンパス

校舎配置図



梅花女子大学学則(案)

第1章 総 則

(目的)

第1条 梅花女子大学(以下「本学」という。)は、キリスト教精神に基づいて人格の形成に努め、教育基本法および学校教育法に従い、深く専門の学芸を教授研究するとともに、国際社会の発展と文化の向上に寄与する人間性豊かな女性を育成することを目的とする。

(自己点検・評価等)

第2条 本学は教育研究水準の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため自己点検・評価を行い、その結果を公表する。

2 本学は、前項の自己点検・評価の結果について、学校教育法施行令第40条で定める期間ごとに、文部科学大臣の認定を受けた認証評価機関による評価を受ける。

3 自己点検・評価に関する規程は、別にこれを定める。

(情報の公表)

第3条 本学は、教育研究活動等の状況について、適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載やインターネットの利用、その他広く周知を図ることができる方法によって公表する。

(学部・大学院)

第4条 本学に学部および大学院を置く。大学院の学則は別にこれを定める。

第2章 学部、学科、学生定員および修業年限

(学部、学科、学生定員等)

第5条 本学に文化表現学部、心理こども学部、食文化学部および看護保健学部を置く。

2 前項の学部には置く学科は、次のとおりとする。

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| (1) 文化表現学部 | 国際教養学科、日本文化学科、
情報メディア学科、舞台芸術表現学科 |
| (2) 心理こども学部 | こども教育学科、心理学科 |
| (3) 食文化学部 | 食文化学科、管理栄養学科 |
| (4) 看護保健学部 | 看護学科、口腔保健学科 |

3 前項の学部および学科の人材育成に関する目的は、次のとおりとする。

(1) 文化表現学部

言語や文学、文化や情報に関する専門的な知識を学ぶことによって、豊かな感性と国際的な視野を身につけ、多様な手段を用いて文化を創造し、広く社会に発信することができる人材を育成する。

ア 国際教養学科

英語を中心とする実践的な語学教育や海外研修を通じて、コミュニケーションスキルを身につけるとともに、多様な価値観に触れることで広い視野を養い、国際社会の課題解決に貢献できる人材を育成する。

イ 日本文化学科

日本文化に関する幅広い知識と教養を身につけ、国際的な視野に立って、自らの考えを多様な手段で積極的に発信できる人材を育成する。

ウ 情報メディア学科

情報メディアに対する基本的な知識と技能を基盤に、多様な分野の学びを通じて情報社会の発展に貢献できる人材を育成する。

エ 舞台芸術表現学科

舞台芸術に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、0から1を生み出す芸術的想像力であるアート思考と、他者と協働しながら課題を整理し、形にする構想力であるデザイン思考の両者を兼ね備え、これらを活用し、既存の枠にとらわれない創造力と課題解決力を備え、国内外の芸術文化と社会の発展に貢献できる人材を育成する。

(2) 心理こども学部

<こども><こどもをめぐるひと><こころ>を重視する問題意識を持ち、知識・理解力・表現力・技術を鍛えて、こどもをめぐる現代社会の困難な課題に立ち向かっていくことのできる人材を育成する。

ア こども教育学科

こどもとこどもの本に関する専門性を身につけ、児童教育、幼児教育・保育、児童文学・絵本のそれぞれの視点からこどもにアプローチできる人材を育成する。

イ 心理学科

心理学をさまざまな分野から、自らの興味や必要性に応じて総合的に学んでいく中で、確かな知識と豊かな感性をもって人のこころと向き合い、支え合うことのできる人材を育成する。

(3) 食文化学部

食の営みにおける様々な事象を分析・理解し、人間の食行動に対する総合的理解を通じて、人間生活の向上に寄与できる人材を育成する。

ア 食文化学科

食の営みにおける様々な事象を分析・理解し、食文化の総合的理解を通じて、人間生活の向上に寄与できる人材を育成する。

イ 管理栄養学科

食と栄養を中心に、保健・医療・福祉における総合的な知識と技術をもとに、栄養管理から人々の健康増進に寄与し、豊かな社会づくりに貢献できる人材を育成する。

(4) 看護保健学部

豊かな人間性と高い倫理観を備え、保健医療に関する専門的で高度な技術、知識を

身につけた実践力のある人材を育成する。

ア 看護学科

人々が健康と幸福を享受できる公正な社会の創造に向けて貢献するとともに、深い人間愛とヒューマンサイエンスにもとづく看護が展開できる看護専門職の人材を育成する。

イ 口腔保健学科

口腔ケアに必要な専門的な知識と技術力に加え、豊かな人間性を備え、実践力と柔軟な対応力を持った人材を育成する。

4 学生定員は、次のとおりとする

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文化表現学部	国際教養学科	30人	120人
	日本文化学科	30人	120人
	情報メディア学科	65人	260人
	舞台芸術表現学科	40人	160人
心理こども学部	こども教育学科	50人	200人
	心理学科	60人	240人
食文化学部	食文化学科	50人	200人
	管理栄養学科	40人	160人
看護保健学部	看護学科	80人	320人
	口腔保健学科	50人	200人

5 編入学を志願する者があるときは、学長は入学定員に欠員がある場合に限り、選考の上、入学を許可することがある。

(修業年限、在学期間)

第6条 本学の修業年限は4年とする。

2 在学期間は修業年限の2倍を超えることができない。

第3章 学年、学期及び休業日

(学年)

第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第8条 学年を次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、必要がある場合は学長は学期の開始日および終了日を変更することができる。

(授業期間)

第9条 年間の授業期間は、試験等の実施期間を含め、原則として35週にわたるものとする。

2 各授業科目の授業期間は原則として前期、後期それぞれ15週とする。

(休業日)

第10条 定期休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日および「国民の祝日に関する法律」に規定する休日
- (2) 創立記念日 1月18日
- (3) 春期休業 3月26日から3月31日まで
- (4) 夏期休業 8月1日から9月26日まで
- (5) 冬期休業 12月24日から翌年1月7日まで

2 学長は臨時に前項の休業日を変更、もしくは臨時に休業日を定めることができる。また、必要に応じて休業日に授業等を行わせることができる。

第4章 入学、編入学、退学および休学

(入学の時期)

第11条 入学の時期は毎年1回学年の始めとする。

(入学資格)

第12条 本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する女子とする。

- (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。(通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。)で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者。
- (6) 文部科学大臣の指定した者。
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達した者。

(編入学資格)

第13条 本学に編入学できる者は次の各号の一に該当する女子とする。

- (1) 大学に2年以上在学して所定の単位を修得した者。
- (2) 短期大学もしくは高等専門学校を卒業した者。

(3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者。
ただし学校教育法第56条に規定する大学入学資格を有する者に限る。

2 編入学の時期は学年の始めとし、第3年次に編入する。

(入学、編入学の出願)

第14条 本学に入学または編入学を志願する者は、本学所定の書類に検定料をそえて提出しなければならない。

(入学者、編入学者の選考)

第15条 前条の入学志願者、編入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学、編入学の手続きおよび入学許可、編入学許可)

第16条 前条の選考結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、入学宣誓書、保証人連署の在学保証書およびその他本学所定の書類を提出するとともに、入学金および授業料等を納入しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に入学または編入学を許可する。

(保証人)

第17条 保証人は父母またはこれに代わるべき者で、独立の生計を営むものでなければならない。

2 保証人は、保証する学生の在学中における事項について、その一切の責務を果たさなければならない。

3 保証人に住所・氏名等の変更が生じたとき、もしくは保証人を変更するときはただちに届け出なければならない。

(転入学)

第18条 転入学は別に定めるところにより、学長がこれを許可する。

(転学部、転科)

第19条 転学部、転科は別に定めるところにより、学長がこれを許可する。

(休学)

第20条 病気その他やむを得ない事由により、休学しようとする者は、所定の書類を添えて願い出なければならない。

2 休学を願い出た者に対して、学長がこれを許可する。

3 休学の期間は半年または1年とする。

4 休学の期間は連続して2年を超えることができない。

5 休学の期間は通算して3年を超えることができない。

6 休学の期間は第6条第2項に定める在学期間に算入しない。

(復学)

第21条 休学者が復学を希望するときは、所定の書類を添えて願い出なければならない。

2 復学を願い出た者に対して、学長がこれを許可する。

(留学)

第22条 外国の大学等において学修することを希望する者があるときは、別に定めるところ

るにより、教育上有益と認められる場合に限り、学長は留学を許可する。

2 留学の期間は原則として、半年又は1年とする。特別の事由がある場合は期間の延長を許可することがある。ただし、留学期間は計2年を限度とする。

3 前2項の許可を得て留学した期間は、2年を限度として、第6条に定める在学期間に算入することができる。

4 留学中に修得した単位については、第39条第3項の規定を準用する。

(退学)

第23条 本学を退学しようとする者は、事由を付して保証人連署の上、退学願を提出しなければならない。

2 前項の願い出があったときは、学長がこれを許可する。

(除籍)

第24条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

(1) 正当な理由もなく授業料等の納入を怠り、督促を受けても納付しない者。

(2) 第6条第2項に定める在学期間を超えた者。

(3) 第20条第4項および第5項に定める休学期間を超えた者。

(4) 在留資格が得られない者。

2 前項第1号で除籍された者については、別に定める期間内に、除籍取消しを願い出ることができる。

(再入学)

第25条 退学した者、もしくは第24条第1号の理由により除籍された者が再入学を希望するときは、別に定めるところにより、学長がこれを許可する。

第5章 教育課程及び履修方法

(授業科目及び単位数)

第26条 本学における授業科目、単位および履修方法は別表第1のとおりとする。

(授業の方法)

第27条 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかによりまたはこれらの併用により行うものとする。

2 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 本学は、前2項の授業を外国において履修させることができる。

(単位の計算方法)

第28条 各授業科目の単位数は、45時間の学修を必要とする内容をもって1単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、授業科目によっては、30時間をもって1単位とすることができる。

(3) 実験、実習および実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、授業科目によっては、40時間または45時間をもって1単位とすることができる。

2 前項によるほか、単位の計算方法に関する特例は、別にこれを定める。

3 前2項の規定にかかわらず、卒業論文・卒業制作等については論文・制作等の学修の成果の評価をもって6単位とする。

(教育内容等の改善)

第29条 本学は、授業内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施する。

(教職に関する科目)

第30条 教育職員免許状を得ようとする者は、第26条に定める単位のほか、教育職員免許法および同法施行規則に基づく所定の単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

- | | | |
|-----|----------------|--|
| (1) | 文化表現学部国際教養学科 | 中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語） |
| (2) | 文化表現学部日本文化学科 | 中学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（国語）
高等学校教諭一種免許状（書道） |
| (3) | 心理こども学部こども教育学科 | 幼稚園教諭一種免許状
小学校教諭一種免許状 |
| (4) | 心理こども学部心理学科 | 高等学校教諭一種免許状（公民）
特別支援学校教諭一種免許状
(知的障害者、肢体不自由者、病弱者) |
| (5) | 食文化学部食文化学科 | 中学校教諭一種免許状（家庭）
高等学校教諭一種免許状（家庭） |
| (6) | 食文化学部管理栄養学科 | 栄養教諭一種免許状 |
| (7) | 看護保健学部看護学科 | 養護教諭一種免許状 |
| (8) | 看護保健学部口腔保健学科 | 養護教諭一種免許状 |

3 本学における教職に関する科目およびその単位数は、別表第1のとおりとする。

(司書・司書教諭に関する科目)

第31条 司書の資格を得ようとする者は、第26条に定める単位のほか、図書館法および同法施行規則に基づく所定の科目の単位を修得しなければならない。

2 司書教諭の資格を得ようとする者は、第26条に定める単位のほか、学校図書館法および学校図書館司書教諭講習規定に基づく所定の科目の単位を修得しなければならない。

3 本学における司書に関する科目および司書教諭に関する科目ならびにその単位数は、別表第1のとおりとする。

(保育士に関する科目)

第32条 児童福祉法第18条の6第1号に基づく保育士を養成する心理こども学部こども教育学科（「保育士養成課程」という）に在籍する者は、別に定める履修規程により、児童

福祉法施行規則に規定する修業教科目および単位数ならびに履修方法の定めに基づく所定の科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位数は、別表第1のとおりとする。

(調理師免許に関する科目)

第33条 調理師法第3条第1項第1号の規定に基づく調理師の免許を得ようとする者は、食文化学部食文化学科に在籍し、調理師法施行規則に規定する科目および単位数を別に定める履修規程により修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位数は、別表第1のとおりとする。

(栄養士に関する科目)

第34条 栄養士法第2条第1項に基づく栄養士を養成する食文化学部管理栄養学科（「栄養士養成課程」という）に在籍する者は、別に定める履修規程により、栄養士法および栄養士法施行規則に規定する修業教科目および単位数ならびに履修方法の定めに基づく所定の科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位数は、別表第1のとおりとする。

(管理栄養士に関する科目)

第35条 栄養士法第5条の3第4項に基づく管理栄養士を養成する食文化学部管理栄養学科（「管理栄養士養成課程」という）に在籍する者は、別に定める履修規程により、管理栄養士学校指定規則に規定する修業教科目および単位数ならびに履修方法の定めに基づく所定の科目の単位を修得しなければならない。

2 前項の授業科目および単位数は、別表第1のとおりとする。

第6章 課程修了の認定および学修の評価

(単位の授与)

第36条 授業科目を履修し、その試験またはその他の課題等に合格した者には所定の単位を与える。

(試験)

第37条 試験は、学期末または学年末に期間を定め、履修した科目について筆記、口述、論文、実技等により行う。

2 前項の実施に関する規程は別にこれを定める。

(学修の評価)

第38条 試験等による成績の評価は、秀、優、良、可、不可をもって表わし、秀、優、良、可を合格とする。

2 成績と評価基準は、次のとおりとする。

成 績	評 価
100 - 90点	秀
89 - 80	優
79 - 70	良
69 - 60	可

(他の大学または短期大学における授業科目の履修)

第39条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学との協議に基づき、学生に当該大学または短期大学の授業科目、および当該大学または短期大学が本学学生のために設定する授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学または短期大学等に留学する場合に準用する。

3 前項の規定により履修した授業科目および修得した単位については、60単位を超えない範囲で本学において修得した単位として、学長がこれを認めることがある。

(入学前の既修得単位の認定)

第40条 本学が教育上有益と認めるときは、第1年次に入学した者が、本学入学以前に大学または短期大学等において修得した授業科目の単位(科目等履修生として修得した単位を含む)については、60単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として、学長がこれを認めることがある。

2 前項により修得したとして認めることのできる単位数は、編入学、転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(編入学前の既修得単位の認定)

第41条 教育上有益と認めるときは、第3年次に編入学した者が、本学入学以前に、大学または短期大学等において修得した授業科目の単位(科目等履修生として修得した単位を含む)については、74単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として学長がこれを認めることがある。

(転入学前の既修得単位の認定)

第42条 教育上有益と認めるときは、転入した者が、本学入学以前に、大学または短期大学等において修得した授業科目の単位(科目等履修生として修得した単位を含む)については、37単位を超えない範囲で、本学において修得した単位として、学長がこれを認めることがある。

第7章 卒業および学位の授与

(卒業および学位)

第43条 本学に4年(第13条の規定により入学した者は2年)以上在学し、第26条に定める授業科目を履修して、その単位を修得した者には、卒業の資格を認めて卒業証書を与える。ただし、卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第27条第2項の授業方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

2 本学を卒業した者に学士の学位を授与する。学位およびその授与に関する規程は、別にこれを定める。

第8章 入学検定料、入学金および授業料等

(入学検定料等の金額)

第44条 本学の入学検定料、入学金および授業料・施設設備費・教育充実費（「授業料等」という。）の金額は、別表第2のとおりとする。

2 入学検定料、入学金、授業料等の減免は、別表第2、学費納入規程および梅花学園学費減免規程によるものとする。

3 特待生の授業料等は、梅花学園特待生奨学金規程によるものとする。

4 本学に入学した者が4年を超えて在学するとき、または第3年次に編入学した者が2年を超えて在学するときの在籍料および授業料等は、学費納入規程によるものとする。

5 私費外国人留学生の授業料減免は、梅花学園私費外国人留学生授業料減免規程によるものとする。

(授業料等の納期)

第45条 授業料等は年2回に分割して納入するものとし、前期および後期の始めに指定する期日までに納入しなければならない。

2 やむを得ない理由のため授業料等の納入が困難となった者については、願い出により納入期限を延期し、また分納を許可することがある。

3 留学する者の授業料等の納期については、別にこれを定める。

(退学および停学の場合の授業料等)

第46条 学期の途中で退学する者または退学もしくは停学を命ぜられた者も、その期の授業料等の全額を納入しなければならない。

(休学の場合の在籍料)

第47条 授業料等は休学期間中もこれを納入しなければならない。ただし、前期または後期のいずれかの学期を全期間休学する者は、授業料等を免除し、在籍料として当該期の授業料等の5分の1相当額を納入しなければならない。

2 第44条第4項に該当する者が、前期または後期のいずれかの学期を全期間休学する場合は、別に定める在籍料を納入しなければならない。

(納入した授業料等)

第48条 既に納入した授業料等は、別に定める場合を除き、いかなる理由があってもこれを返還しない。

第9章 教職員組織

(教職員)

第49条 本学に教授、准教授、講師、助教、助手ならびに事務職員、教務職員およびその他必要な職員を置く。

(役職)

第50条 本学に学長、学部長、部長、館長、センター長等を置く。

第10章 教授会および部長会

(教授会)

第51条 本学に教授会を置く。

2 教授会は専任の教授、准教授、講師をもって構成する。

(教授会の運営)

第52条 教授会は学長がこれを招集し、その議長となる。

2 教授会の運営に関する規程は別にこれを定める。

(教授会の審議事項)

第53条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学および卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、および学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

(部長会)

第54条 学長は諮問機関として部長会を置く。

2 部長会の運営に関する規程は別にこれを定める。

第11章 科目等履修生および外国人留学生

(科目等履修生)

第55条 本学所定の授業科目のうち1ないし数科目の履修を願い出る者があるときは、当該科目の授業に支障がないと認められた者につき、科目等履修生として、学長がこれを許可する。また、履修した科目の試験に合格した科目等履修生には所定の単位を授与する。

2 本学に科目の履修を願い出ることができるのは、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 第12条に定める資格を有する者。

(2) 本学と単位互換協定を締結した大学または短期大学の学生。

(3) 本学と高大連携授業の協定を締結した高等学校またはこれに準じる学校の生徒。

3 前項各号に関する規程は、別にこれを定める。

(聴講生)

第56条 本学所定の授業科目のうち1ないし数科目の聴講を願い出る者があるときは、当該科目の授業に支障がないと認められた者につき、聴講生として学長がこれを許可する。

2 聴講を願い出ることができるのは、第12条に定める資格を有する者とする。

3 聴講生には単位を授与しない。

4 聴講生に関する規程は、別にこれを定める。

(外国人留学生および短期留学生)

第57条 外国人で、大学等で教育を受ける目的で入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、学長が入学を許可する。

- 2 外国の大学、短期大学またはこれらに相当する教育機関の学生で、本学において短期留学生として半年または1年間学修することを希望する者があるときは、学長がこれを許可することがある。
- 3 外国からの短期留学生に関する規程は別にこれを定める。

第12章 図書館

(図書館)

第58条 本学に図書館を置く。

- 2 図書館に関する規程は別にこれを定める。

第13章 公開講座

(公開講座)

第59条 本学は市民文化の向上その他教育研究活動に資するため、必要に応じ、期間を定めて公開講座を開設することがある。

第14章 賞 罰

(表彰)

第60条 本学の学生で、本学の目的に添い、成績優秀で他の模範となる行為のあった者はこれを表彰することがある。

- 2 表彰に関する規程は別にこれを定める。

(懲戒)

第61条 本学の学生で、学則または学内の規則に反し、その他、学生としてふさわしくない行為があった者には、学長が懲戒を行うことがある。

- 2 懲戒は訓告、停学および退学とする。
- 3 懲戒の手続きに関する規程は別にこれを定める。

第15章 厚生・保健施設

(厚生・保健施設)

第62条 本学に厚生・保健の施設を設ける。

附則

- 1 本学則は、1964年4月1日から施行する。
- 2 本学則は、1976年4月1日から施行する。

第4条に掲げる学生の総定員については、学年進行中の各年度に限り、次のとおりとする。

1976年度	日本文学科	420名	英米文学科	440名
1977年度	日本文学科	440名	英米文学科	480名
1978年度	日本文学科	460名	英米文学科	520名
- 3 本学則は、1977年4月1日から施行する。

1976年度以前から在学する者については、改正後の第45条の規定にかかわらずなお従前の例による。
- 4 本学則は、1978年4月1日から施行する。

1977年度以前から在学する者については、改正後の第45条の規定にかかわらずなお従前の例による。
- 5 本学則は、1979年4月1日から施行する。

1978年度以前から在学する者については、改正後の第45条の規定にかかわらずなお従前の例による。
- 6 本学則は、1980年4月1日から施行する。

1979年度以前から在学する者については、改正後の第45条の規定にかかわらずなお従前の例による。
- 7 本学則は、1981年4月1日から施行する。ただし、1980年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第45条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 8 本学則は、1982年4月1日から施行する。ただし、1981年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第45条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 9 本学則は、1983年4月1日から施行する。ただし、1981年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第46条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 10 本学則は、1984年4月1日から施行する。ただし、1983年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第48条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 11 本学則は、1985年4月1日から施行する。ただし、1984年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第49条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 12 本学則は、1986年4月1日から施行する。ただし、1985年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第49条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 13 本学則は、1987年4月1日から施行する。ただし、1985年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第49条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 14 本学則は、1988年4月1日から施行する。ただし、1985年度以前の入学生にかかる授業料等の額は、第49条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 15 (1) 本学則は、1989年4月1日から施行する。ただし、1988年度以前の入学生の授業科目は第25条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 第48条の規定にかかわらず、1988年度以前の入学生にかかる施設費の額は次のとおり改定し、授業料および維持費の額については、なお従前の例による。

施設費 1985年度以前の入学生

111,650円（前期 55,000円、後期 56,650円を納付）

1986年度～1988年度の入学生

121,800円（前期 60,000円、後期 61,800円を納付）

- 16 (1) 本学則は、1990年4月1日から実施する。ただし、1989年度以前の入学生にかかる授業科目は、第25条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 1989年度以前の入学生のうち、教職課程履修者にかかる当該授業科目及び単位数は、第16条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (3) 1989年度以前の入学生にかかる授業料については、第48条の規定にかかわらず次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付額	後期納付額
1984年度入学生	授業料	590,000円	295,000円	295,000円
1985年度入学生		620,000円	310,000円	310,000円
1986年度～ 1988年度入学生		630,000円	315,000円	315,000円
1989年度入学生		670,000円	335,000円	335,000円

- 17 (1) 本学則は、1991年4月1日から実施する。ただし、1990年度以前の入学生にかかる授業科目は、第27条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 第4条の規定にかかわらず、1991年度から1999年度までの入学定員は次のとおり

とする。

日本文学科	170名
英米文学科	200名
児童文学科	100名

- (3) 1989年度以前の入学生のうち、教職課程履修者にかかる当該授業科目及び単位数は、第16条第1項及び第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。(4) 1990年度以前の入学生にかかる授業料については、第50条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付額	後期納付額
1985年度入学生	授業料	620,000円	310,000円	310,000円
1986年度～ 1988年度入学生		630,000円	315,000円	315,000円
1989年度入学生		670,000円	335,000円	335,000円
1990年度入学生		780,000円	390,000円	390,000円

18 本学則は、1992年1月30日から実施する。

19 (1) 本学則は、1992年4月1日から実施する。ただし、1991年度以前の入学生にかかる授業科目は、第28条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(2) 第4条の規定にかかわらず、1991年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。

日本文学科	170名
英米文学科	200名
児童文学科	100名

(3) 1989年度以前の入学生のうち、教職課程履修者にかかる当該授業科目及び単位数は、第16条第1項及び第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(4) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については、第51条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付額	後期納付額
1986年度～ 1988年度入学生	授業料	630,000円	315,000円	315,000円
1989年度入学生		670,000円	335,000円	335,000円
1990年度入学生		780,000円	390,000円	390,000円
1991年度入学生		800,000円	400,000円	400,000円

- 20 (1) 本学則は、1994年4月1日から実施する。ただし、1991年度以前の入学生にかかる授業科目は、第29条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 第5条の規定にかかわらず、1991年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。
- 日本文学科 170名
- 英米文学科 200名
- 児童文学科 100名
- (3) 1989年度以前の入学生のうち、教職課程履修者にかかる当該授業科目及び単位数は、第17条第1項及び第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (4) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については、第52条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付額	後期納付額
1988年度入学生	授業料	630,000円	315,000円	315,000円
1989年度入学生		670,000円	335,000円	335,000円
1990年度入学生		780,000円	390,000円	390,000円
1991年度入学生		800,000円	400,000円	400,000円

- 21 (1) 本学則は、1995年4月1日から実施する。ただし、1994年度以前の入学生にかかる授業科目は、第16条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 第5条の規定にかかわらず、1991年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。
- 日本文学科 170名
- 英米文学科 200名

児童文学科 100名

- (4) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については、第52条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付額	後期納付額
1989年度入学生	授業料	670,000円	335,000円	335,000円
1990年度入学生		780,000円	390,000円	390,000円
1991年度入学生		800,000円	400,000円	400,000円

- 22 (1) 本学則は、1996年4月1日から実施する。ただし、1994年度以前の入学生にかかる授業科目は、第16条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 第5条の規定にかかわらず、1991年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。

日本文学科 170名

英米文学科 200名

児童文学科 100名

- (3) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については、第53条の規定にかかわらず次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付額	後期納付額
1989年度入学生	授業料	670,000円	335,000円	335,000円
1990年度入学生		780,000円	390,000円	390,000円
1991年度入学生		800,000円	400,000円	400,000円

- 23 (1) 本学則は1997年4月1日から実施する。ただし、1994年度以前の入学生にかかる授業科目は、第16条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 第5条の規定にかかわらず、1997年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。

日本文学科 160名

英米文学科 170名

児童文学科 100名

- (3) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については、第53条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付金	後期納付金
1990年度入学生	授業料	780,000円	390,000円	390,000円
1991年度入学生		800,000円	400,000円	400,000円

- 24 (1) 本学則は1998年4月1日から実施する。ただし、1994年度以前の入学生にかかる授業科目は、第16条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- (2) 第18条に規定する司書及び司書教諭に関する科目については、1998年4月1日現在に在籍するすべての者に適用する。

- (3) 第5条の規定にかかわらず、1997年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。

日本文学科 160名

英米文学科 170名

児童文学科 100名

- (4) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については、第54条の規定にかかわらず、次のとおりとする。

入学年度	費目	年額	前期納付金	後期納付金
1990年度入学生	授業料	780,000円	390,000円	390,000円
1991年度入学生		800,000円	400,000円	400,000円

- 25 (1) 本学則は1999年4月1日から実施する。ただし、1994年度以前の入学生にかかる授業科目は、第16条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- (2) 第5条の規定にかかわらず、1997年度から1999年度までの入学定員は次のとおりとする。

日本文学科 160名

英米文学科 170名

児童文学科 100名

- (3) 1991年度以前の入学生にかかる授業料については第54条の規定にかかわらず次のとおりとする。

入 学 年 度	費 目	年 額	前 期 納 付 金	後 期 納 付 金
1990年度入学生	授 業 料	780,000 円	390,000 円	390,000 円
1991年度入学生		800,000 円	400,000 円	400,000 円

- 26 本学則は2000年4月1日から実施する。ただし、1994年度以前の入学生にかかる授業科目は、第16条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 27 (1) 本学則は2001年4月1日から実施する。ただし、2000年度以前に入学した日本文学科、英米文学科、児童文学科、比較文化学科及び人間福祉学科生にかかる授業科目は、第16条の規程にかかわらず、なお従前の例による。
- (2) 2000年度以前の入学生のうち、人間福祉学科及び人間科学科生にかかる授業科目及び単位を一部改める。
- 28 本学則は、2002年4月1日から実施する。
ただし、第54条第1項の梅花高等学校に係る内容は2002年度の出願者及び入学者から適用する。
- 29 本学則は、2003年4月1日から実施する。
ただし、第54条(1)(イ)及び(2)(イ)の規程は2002年10月1日から適用する。
- 30 本学則は、2004年4月1日から実施する。
ただし、2003年以前の入学生及び2004年、2005年度の編入学生については、なお従前の学則を適用する。
- 31 本学則は、2005年4月1日から実施する。
ただし、2003年以前の入学生及び2004年、2005年度の編入学生については、なお従前の学則を適用する。
- 32 本学則は、2007年4月1日から実施する。
ただし、2003年以前の入学生及び2004年度、2005年度の編入学生については、なお従前の学則を適用する。
- 33 本学則は、2008年4月1日から実施する。
ただし、2007年以前の入学生及び2008年度、2009年度の編入学生についてはなお従前の学則を適用する。

- 34 本学則は、2009年4月1日から実施する。
ただし、2008年度以前の入学生及び編入学生については、なお従前の学則を適用する。
- 35 本学則は、2010年4月1日から実施する。
ただし、2009年度以前の入学生、2010年度および2011年度の編入学生については、なお従前の学則を適用する。
- 36 本学則は、2011年4月1日から施行する。
ただし、2011年3月31日において在学する者（以下「在学者」という。）および在学者の属する年次に編入学・転入学または再入学する者については、なお従前の例による。
- 37 (1) 本学則は、2012年4月1日から施行する。
(2) 2012年3月31日において在学する者（以下「在学者」という。）および在学者の属する年次に編入学、転入学または再入学する者については、なお、従前の例による。
(3) ただし、第28条第3項に規定する、別表第1の中の司書に関する科目のうち、「情報サービス演習Ⅰ」「情報サービス演習Ⅱ」の2科目については、2012年4月1日以降に編入学、転入学または再入学する者には、第2項を適用しない。
- 38 (1) 本学則は、2013年4月1日から施行する。
(2) 2013年3月31日において在学する者（以下「在学者」という。）および在学者の属する年次に編入学、転入学または再入学する者についてはなお従前の例による。
(3) ただし、第31条第3項に規定する、別表1の司書に関する科目は、2012年4月1日以降に編入学、転入学または再入学する者には、前記(2)は適用しない。
- 39 (1) 本学則は、2014年4月1日から施行する。ただし、第20条および第21条の規定は、2014年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学または再入学する者についても適用するものとする。
(2) 2014年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学または再入学する者については、第20条および第21条の規定を除き、従前の例による。
- 40 (1) 本学則は、2015年4月1日から施行する。ただし、2015年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、第5条および第26条の規定にかかわらず従前の学則による。
(2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て学長が行う。

- 41 (1) 本学則は、2016年4月1日から施行する。ただし、2016年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、第5条および第26条の規定にかかわらず従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て学長が行う。
- 42 (1) 本学則は、2017年4月1日から施行する。ただし、2017年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。
- 43 (1) 本学則は、2018年4月1日から施行する。
- ただし、2018年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。
- 44 (1) 本学則は、2019年4月1日から施行する。
- ただし、2019年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。
- 45 (1) 本学則は、2020年4月1日から施行する。
- ただし、2020年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。
- 46 (1) 本学則は、2021年4月1日から施行する。
- ただし、2021年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。
- 47 (1) 本学則は、2022年4月1日から施行する。
- ただし、2022年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。
- (2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

48 (1) 本学則は、2023年4月1日から施行する。

ただし、2023年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。

(2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

49 (1) 本学則は、2024年4月1日から施行する。

(2) 2024年度から2026年度までの文化表現学部情報メディア学科、心理こども学部こども教育学科および心理学科の収容定員は、第5条第4項の規定にかかわらず次のとおりとする。

	2024年度	2025年度	2026年度
文化表現学部 情報メディア学科	225人	240人	255人
心理こども学部 こども教育学科	250人	230人	210人
心理こども学部 心理学科	225人	230人	235人

(3) 学則第26条に定める教育課程の取り扱い、学則第44条第1項に定める学費の取り扱いに関しては、2024年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。

(4) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

50 (1) 本学則は、2025年4月1日から施行する。

(2) 学則第26条に定める教育課程の取り扱いに関しては、2025年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。

(3) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

51 (1) 本学則は、2026年4月1日から施行する。

ただし、2026年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。

(2) 本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

別表第1

(卒業要件)

本学に4年以上在学し、下表に定める要件を満たした者

(単位)

分 学部・学科	授業科目区	キリスト 教科目	キャリア 基礎科目	グローバルコ ミュニケー ション科目	教養科目	主専攻 科目	副専攻 科目	他専攻 科目	総単位数
	文化 表現 学部	国際教養学科	2	14	4	—	70	34	—
日本文化学科		2	14	4	—	70	34	—	124
情報メディア学科		2	14	4	—	70	34	—	124
舞台芸術表現学科		2	12	4	—	74	34	—	126
心理こ ども 学部	こども教育学科	2	12	4	—	80	26	—	124
	心理学科	2	14	4	—	70	34	—	124
食文 化学 部	食文化学科	2	12	4	—	70	36	—	124
	管理栄養学科	2	10	4	—	103	5	—	124
看護 部 保健 学	看護学科	2	4	4	—	110	6	—	126
	口腔保健学科	2	4	4	—	106	8	—	124

●教養科目の修得単位は副専攻科目に充当される。

●他専攻科目の修得単位は副専攻科目に充当される。

●キリスト教科目、キャリア基礎科目、グローバルコミュニケーション科目の要件単位超過分は副専攻科目に充当される。

●主専攻科目の要件単位超過分は副専攻科目に充当される。

(キリスト教科目)

授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考
	必修	選択必修	選択		
聖書の世界	2			講義	
澤山保羅と建学の精神			2	講義	

(キャリア基礎科目)

授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考
	必修	選択必修	選択		
初年次セミナー	2			演習	
問題発見・解決セミナーⅠ	2			演習	管理栄養学科・看護保健学部を除く
問題発見・解決セミナーⅡ	2			演習	看護保健学部を除く
キャリアデザイン	2			講義	舞台芸術表現学科・こども教育学科・食文化学部・看護保健学部を除く
美しい日本語(話し方)	2			演習	看護保健学部を除く
美しい日本語(書き方)	2			演習	
エレガンスセミナー			2	演習	
ナレッジイノベーション論			2	講義	
実践・産学連携演習			2	演習	
情報処理演習Ⅰ	1※			演習	
情報処理演習Ⅱ	1※			演習	

(グローバルコミュニケーション科目)

授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考
	必修	選択必修	選択		
英語会話Ⅰ	1※			演習	
英語会話Ⅱ	1※			演習	
英語会話Ⅲ	1※			演習	
英語会話Ⅳ	1※			演習	

(教養科目)

授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考
	必修	選択必修	選択		
健康とスポーツ(実技)			1	実技	
健康とスポーツ(理論)			2	講義	
フランス語会話			1※	演習	
中国語会話			1※	演習	
ハングル講座			1※	演習	
手話入門			2	演習	
女性と法			2	講義	
美しい日本語(硬筆入門)			2	演習	

図書館の文化史			2	講義	管理栄養学科は必修
日本国憲法			2	講義	
人間と法(法学)			2	講義	
政治学			2	講義	
生物・化学の基礎			2	講義	
情報科学			2	講義	
アニマルセラピー入門			2	演習	
和装で学ぶ日本の美			2	演習	
生成AI活用学			2	演習	

(履修区分/単位欄の※印は、30時間の授業をもって1単位とする演習科目)

授 業 科 目	単位/履修区分			授 業 形 態	備 考	
	必修	選択 必修	選択			
基本 科目	Speaking Skills I	2※			演習	
	Speaking Skills II	2※			演習	
	Speaking Skills III	2※			演習	
	Speaking Skills IV	2※			演習	
	Speaking Skills V	2※			演習	
	Speaking Skills VI	2※			演習	
	Writing Workshop I	1※			演習	
	Writing Workshop II	1※			演習	
	Writing Workshop III	1※			演習	
	Writing Workshop IV	1※			演習	
	Reading Workshop I	1※			演習	
	Reading Workshop II	1※			演習	
	Reading Workshop III	1※			演習	
	Reading Workshop IV	1※			演習	
	TOEIC I	2			演習	
	TOEIC II	2			演習	
	ビジネス英語 I			2	演習	
	ビジネス英語 II			2	演習	
	英文法			2	講義	
	国際英語演習 I 1		2		演習	
国際英語演習 I 2		2		演習		
国際英語演習 I 3		2		演習		
国際英語演習 I 4		2		演習		
国際英語演習 II 1		2		演習		
国際英語演習 II 2		2		演習		
国際英語演習 II 3		2		演習		
国際英語演習 II 4		2		演習		
卒業演習 I 1		2		演習	4単位以上修得すること	
卒業演習 I 2		2		演習		
卒業演習 I 3		2		演習		
卒業演習 I 4		2		演習		
卒業演習 II 1		2		演習		
卒業演習 II 2		2		演習		
卒業演習 II 3		2		演習		
卒業演習 II 4		2		演習		
発 展 科 目	メイクアップテクニックI			1	実習	
	メイクアップテクニックII			1	実習	
	エアラインビジネス論 I			2	講義	
	エアラインビジネス論 II			2	講義	
	エアライン研究			2	講義	
	エアラインの英語 I			2	演習	
	エアラインの英語 II			2	演習	
観光ビジネス論			2	講義		
旅行観光業研究 I			2	講義		
旅行観光業研究 II			2	講義		
観光英語 I			2	講義		
観光英語 II			2	講義		

発展科目	国際観光フィールドワーク			2	演習
	ホスピタリティ論 I			2	講義
	ホスピタリティ論 II			2	講義
	国際観光論			2	講義
	国際秘書学総論			2	講義
	Area Studies(Europe) I			2	講義
	Area Studies(Europe) II			2	講義
	Area Studies(North America) I			2	講義
	Area Studies(North America) II			2	講義
	Area Studies(Asia&Oceania) I			2	講義
	Area Studies(Asia&Oceania) II			2	講義
	Cultural Studies(Beauty Values)			2	講義
	Cultural Studies(Beauty and Cinema)			2	講義
	Cultural Studies(Beauty and Photography)			2	講義
	世界遺産を学ぶ			2	講義
	Advanced English for TOEIC I			2	演習
	Advanced English for TOEIC II			2	演習
	留学試験の英語 I			2	講義
	留学試験の英語 II			2	講義
	英語圏の文学 I			2	講義
	英語圏の文学 II			2	講義
	言語学 I			2	講義
	言語学 II			2	講義
	海外実習			4	実習
	海外修得単位			1~10	認定
	資格関係	英語科教育法 I			2
英語科教育法 II				2	講義
英語科教育法 III				2	講義
英語科教育法 IV				2	講義
卒業論文			6		

文化表現学部 日本文化学科主専攻科目

分野	授 業 科 目	単位/履修区分			授業 形態	備考	
		必修	選択 必修	選択			
基本 科目	日本文学入門	2			講義	10単位以上修得すること	
	日本語学入門	2			講義		
	日本文学の歴史(古典)		2		講義		
	日本文学の歴史(近代)		2		講義		
	絵本の歴史		2		講義		
	中国文学の歴史		2		講義		
	現代の日本語		2		講義		
	歴史を探る		2		講義		
	作品を読む(古典)		2		演習		
	作品を読む(近現代)		2		演習		
	絵本を読む		2		演習		
	日本語演習Ⅰ			2	演習		
	日本語演習Ⅱ			2	演習		
	日本文学演習(古典)Ⅰ			2	演習		
	日本文学演習(古典)Ⅱ			2	演習		
	日本文学演習(近現代)Ⅰ			2	演習		
	日本文学演習(近現代)Ⅱ			2	演習		
	日本史演習Ⅰ			2	演習		
	日本史演習Ⅱ			2	演習		
	歴史文化フィールドワーク			2	演習		
	観光フィールドワーク			2	演習		
	漢文を読む			2	講義		
	書写研究			2	講義		
	書道の基礎(国免)			2	演習		
	図書館情報資源概論			2	講義		
	情報サービス論			2	講義		
	専門演習Ⅰ	2			演習		
	専門演習Ⅱ	2			演習		
	卒業演習Ⅰ	2			演習		
	卒業演習Ⅱ	2			演習		
	発 展 科 目	日本の文化1			2		講義
		日本の文化2			2	講義	
日本の文化3				2	講義		
日本の文化4				2	講義		
関西の歴史と文化				2	講義		
旅と歴史				2	講義		
アニメで学ぶ日本の歴史				2	講義		
マンガで学ぶ日本の歴史と文学				2	講義		
近現代の小説				2	講義		
日本語演習Ⅲ				2	演習		
日本文学演習(古典)Ⅲ				2	演習		

発展科目	日本文学演習(近現代)Ⅲ			2	演習
	日本史演習Ⅲ			2	演習
	日本文化演習			2	演習
	地域観光学演習Ⅰ			2	演習
	地域観光学演習Ⅱ			2	演習
	観光ビジネス演習Ⅰ			2	演習
	観光ビジネス演習Ⅱ			2	演習
	Web出版			2	演習
	書道の基礎(書免)Ⅰ			2	演習
	書道の基礎(書免)Ⅱ			2	演習
	書道Ⅰ			2	演習
	書道Ⅱ			2	演習
	書道Ⅲ			2	演習
	書道Ⅳ			2	演習
	書道の歴史Ⅰ			2	講義
	書道の歴史Ⅱ			2	講義
	書論研究Ⅰ			2	講義
	書論研究Ⅱ			2	講義
	硬筆書写			2	演習
	図書館サービス概論			2	講義
図書館制度・経営論			2	講義	
資格関係科目	国語科教育法Ⅰ			2	講義
	国語科教育法Ⅱ			2	講義
	国語科教育法Ⅲ			2	講義
	国語科教育法Ⅳ			2	講義
	書道科教育法Ⅰ			2	講義
	書道科教育法Ⅱ			2	講義
卒業論文・卒業制作				6	

文化表現学部 情報メディア学科主専攻科目

分野	授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考	
		必修	選択必修	選択			
基本科目	情報メディア基礎演習	2			演習		
	Webサイト制作基礎	2			演習		
	オフィスアプリケーション	2			演習		
	情報検索論	2			講義		
	Webコンテンツ基礎	2			演習		
	クリエイティブデザイン	2			講義		
	マスコミ概論			2	講義		
	ライブパフォーマンス概論			2	講義		
	デザイン基礎演習			2	演習		
	ビジュアルデザイン演習			2	演習		
	プログラミング入門			2	講義		
	ITシステム基礎			2	講義		
	ITビジネス基礎			2	講義		
	図書館情報資源概論			2	講義		
	情報サービス論			2	講義		
	サウンドデザイン論			2	講義		
	図書館情報技術論			2	講義		
	ファッション情報概論			2	講義		
	カラーコーディネート論			2	講義		
	3Dグラフィックス			2	講義		
映像制作論			2	講義			
情報メディア演習 I	2			演習			
情報メディア演習 II	2			演習			
卒業演習・制作 I	2			演習			
卒業演習・制作 II	2			演習			
発展科目	デジタルデザイン	Webデザイン			2	講義	
		グラフィックデザイン			2	講義	
		プログラミング			2	講義	
		プログラミング演習			2	演習	
		データサイエンス基礎			2	講義	
		Webアニメーション			2	講義	
		ゲーム制作入門			2	講義	
		インテリジェントプログラミング			2	講義	
		3Dアニメーション			2	講義	
		ゲームプログラミング			2	講義	
		ヴォイスパフォーマンス基礎演習			2	演習	

マスコミ・パフォーマンス	ボディパフォーマンス基礎演習			2	演習	
	マスコミ研究			2	演習	
	ソーシャルメディア演習			2	演習	
	広告入門			2	講義	
	広告・コピーを創る			2	演習	
	ジャーナリズム論			2	講義	
	番組制作			2	講義	
	ヴォイスパフォーマンス応用演習Ⅰ			2	演習	
	ヴォイスパフォーマンス応用演習Ⅱ			2	演習	
	ボディパフォーマンス応用演習Ⅰ			2	演習	
	ボディパフォーマンス応用演習Ⅱ			2	演習	
	ファッションビジネス	アパレル基礎論			2	講義
		ファッションビジネス論			2	講義
		ファッションデザイン演習			2	演習
ファッション史				2	講義	
ファッション雑誌研究				2	講義	
アパレル制作実習Ⅰ				2	実習	
アパレル制作実習Ⅱ				2	実習	
ファッションカルチャー論				2	講義	
医療事務・図書館司書	医療事務総論			2	講義	
	医療秘書学			2	講義	
	医療管理学概論			2	講義	
	医学一般			2	講義	
	情報サービス演習Ⅰ			2	演習	
	診療報酬請求事務			2	講義	
	社会福祉概論			2	講義	
	情報サービス演習Ⅱ			2	演習	
	児童ソーシャルワーク			2	講義	
	図書館情報学概論			2	講義	
	図書館サービス概論			2	講義	
	図書館制度・経営論			2	講義	
卒業論文・卒業創作・卒業制作				6		

文化表現学部 舞台芸術表現学科主専攻科目

分野	授 業 科 目	単位/履修区分			授業 形態	備考
		必修	選択 必修	選択		
基本 科目	演劇史	2			講義	
	ミュージカル入門	2			講義	
	舞台芸術入門	2			講義	
	パフォーミングアーツ概論	2			講義	
	アート・プロデュース論	2			講義	
	舞台制作・企画実務	2			演習	
	脚本・演出基礎	2			演習	
	エンターテインメントキャリア論	2			講義	
	身体基礎演習Ⅰ	1			実習	
	身体基礎演習Ⅱ	1			実習	
	舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅰ	2			演習	
	舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅱ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅲ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習A(演劇学分野)Ⅳ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅰ	2			演習	
	舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅱ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅲ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習B(舞踊学分野)Ⅳ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅰ	2			演習	
	舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅱ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅲ		2		演習	
	舞台芸術基礎演習C(企画制作分野)Ⅳ		2		演習	
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅰ		2		演習	
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅱ		2		演習	
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅲ		2		演習	
	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)Ⅳ		2		演習	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅰ		2		演習	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅱ		2		演習	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅲ		2		演習	
	舞台芸術研究演習B(舞踊学分野)Ⅳ		2		演習	
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅰ		2		演習	
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅱ		2		演習	
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅲ		2		演習	
	舞台芸術研究演習C(企画制作分野)Ⅳ		2		演習	
	舞台芸術総合演習Ⅰ	2			演習	
	舞台芸術総合演習Ⅱ	2			演習	
	舞台芸術総合演習Ⅲ	2			演習	
	舞台芸術総合演習Ⅳ	2			演習	
	公演実習	3			実習	
	卒業演習Ⅰ	2			演習	
	卒業演習Ⅱ	2			演習	

発展科目	English for Performing Arts I	2			演習	
	English for Performing Arts II	2			演習	
	English for Performing Arts III	2			演習	
	English for Performing Arts IV	2			演習	
	ロンドン研修	2			演習	
	Performing Arts I	1			実技	
	Performing Arts II	1			実技	
	Performing Arts III	1			実技	
	Performing Arts IV	1			実技	
	Performing Arts V	1			実技	
	Performing Arts VI	1			実技	
	Performing Arts VII	1			実技	
	Performing Arts VIII	1			実技	
	シェイクスピア劇上演論			2	講義	
	近代演劇論			2	講義	
	近現代演劇特講			2	講義	
	演劇鑑賞論 I			2	講義	
	演劇鑑賞論 II			2	講義	
	歌劇論 I			2	講義	
	歌劇論 II			2	講義	
	モダンドラマ論			2	講義	
	パフォーマンス・スタディーズ			2	講義	
	舞台制作・企画演習			2	演習	
	即興芸術論 I			2	講義	
	即興芸術論 II			2	講義	
	即興芸術演習 I			2	演習	
	即興芸術演習 II			2	演習	
	舞台技術			2	演習	
	舞台製作実習 I			1	実習	
	舞台製作実習 II			1	実習	
	舞台製作実習 III			1	実習	
	舞台製作実習 IV			1	実習	
	舞台芸術表現特別実習 I			3	実習	
舞台芸術表現特別実習 II			3	実習		
卒業研究・他	卒業制作・論文			6	演習	

単位欄の※印は30時間の授業をもって、1単位とする演習科目、☆印は40時間の授業をもって1単位とする実習科目

分野	授業科目名	単位・履修区分			授業形態	備考	分野		
		必修	選択必修	選択			児童教育	幼児教育	保育
学科必修科目	こども学入門	2			講義		○	○	○
本質・目的	教育原理			2	講義		○	○	○
	保育者論			2	講義				○
	教師論(初等)			2	講義		○	○	
	教育社会学			2	講義		○	○	
	保育原理			2	講義				○
	社会福祉			2	講義				○
	子ども家庭福祉			2	講義				○
	社会的養護 I			2	講義				○
対象の理解	発達心理学			2	講義		○	○	○
	保育の心理学			2	講義				○
	初等生徒・進路指導論			2	講義		○		
	教育相談			2	講義		○		
	幼児理解・教育相談			2	演習			○	○
	子どもの保健			2	講義				○
	子どもの健康と安全			1※	演習				○
	子どもの食と栄養			2	演習				○
	子ども家庭支援論 I			2	講義				○
	子ども家庭支援論 II			2	講義				○
教科内容・指導法	国語科内容論			2	講義		○		
	社会科内容論			2	講義		○		
	算数科内容論			2	講義		○		
	理科内容論			2	講義		○		
	生活科内容論			1	講義		○		
	家庭科内容論			1	講義		○		
	音楽			1	講義		○		
	図画工作			1	講義		○		
	体育			1	講義		○		
	外国語(英語)の内容論			1	講義		○		
	国語科指導法 I			2	演習		○		
	国語科指導法 II			2	演習		○		
	社会科指導法			2	演習		○		
	算数科指導法 I			2	演習		○		
	算数科指導法 II			2	演習		○		
	理科指導法			2	演習		○		
	生活科指導法			2	演習		○		
	音楽科指導法			2	演習		○		
	図画工作科指導法			2	演習		○		
	家庭科指導法			2	演習		○		
	体育科指導法			2	演習		○		
	道德教育の指導法			2	演習		○		
	特別活動及び総合的な学習の指導法			2	演習		○		
特別支援教育			2	講義		○	○		
外国語(英語)の指導法			2	演習		○			
内容・方法	保育・教育課程論			2	講義		○	○	○
	教育方法論(ICT活用を含む)			2	講義		○	○	
	保育内容総論			2	演習			○	○
	幼児と健康			1	講義			○	○
	幼児と人間関係			1	講義			○	○
	幼児と環境			1	講義			○	○
	幼児と言葉			1	講義			○	○
	幼児と表現			1	講義			○	○
	保育内容指導法(健康)			2	演習			○	○
	保育内容指導法(人間関係)			2	演習			○	○

内容・方法	保育内容指導法（環境）			2	演習			○	○
	保育内容指導法（言葉）			2	演習			○	○
	保育内容指導法（表現）			2	演習			○	○
	乳児保育Ⅰ			2	講義				○
	乳児保育Ⅱ			1※	演習				○
	障害児保育			2	演習				○
	社会的養護Ⅱ			1※	演習				○
	子育て支援			1※	演習				○
	子育て政策論			2	講義				○
	保育指導法			2	講義				○
	表現・技術	音楽の演習（入門）			1※	演習		○	○
音楽の演習（基礎）				1※	演習			○	○
音楽の演習 2A				1※	演習			○	○
音楽の演習 2B				1※	演習			○	○
音楽の演習 3				1※	演習		○	○	○
物語伝達の理論と演習				2	演習			○	○
自然とあそびのワークショップ				2	演習		○	○	○
おもちゃ学演習				1※	演習		○		
児童文学・絵本	児童文学講義		2		講義	4単位以上修得	○	○	○
	絵本学講義		2		講義		○	○	○
	絵本読み話りの理論と演習 1		2		演習		○	○	○
	絵本読み話りの理論と演習 2		2		演習		○	○	○
	絵本制作		2		演習		○	○	○
演習実践	教職実践演習（小学校）			2	演習		○		
	保育・教職実践演習（幼稚園）			2	演習			○	○
実習	教育実習（初等）			5※☆	実習	事前事後指導 1単位含む	○	○	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）			1※	演習				○
	保育実習Ⅰ（保育所）			2☆	実習				○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）			1※	演習				○
	保育実習Ⅱ（保育所）			2☆	実習				○
	保育実習指導Ⅰ（施設）			1※	演習				○
	保育実習Ⅰ（施設）			2☆	実習				○
	保育実習指導Ⅲ（通所施設）			1※	演習				○
	保育実習Ⅲ（通所施設）			2☆	実習				○
	幼稚園現場体験			2	演習			○	○
	小学校現場体験			2	演習		○		
	こども音楽療育実習			1	実習		○	○	○
応用	児童館・放課後児童クラブの機能と運営			2	講義				○
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法			2	講義				○
	在宅保育			2	講義				○
	リトミックⅠ			1※	演習			○	○
	リトミックⅡ			1※	演習			○	○
	こども学海外研修			2	演習		○	○	○
	マナー・プロトコール			2	講義		○	○	○
	こども音楽療育概論			2	講義		○	○	○
	こども音楽療育演習			1	演習		○	○	○
卒業研究	卒業論文・卒業制作演習ⅠA	2			演習		○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅠB	2			演習		○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡA	2			演習		○	○	○
	卒業論文・卒業制作演習ⅡB	2			演習		○	○	○
卒業論文・卒業制作				6			○	○	○

心理こども学部 心理学科主専攻科目

(履修区分/単位欄の※印は30時間の授業をもって1単位とする
演習科目、☆印は40時間の授業をもって1単位とする実習科目)

	授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考
		必修	選択 必修	選択		
基本科目	学科必修科目	心理学概論	2			講義
		臨床心理学概論	2			講義
		心理学研究法	2			講義
		心理学統計法 I	2			演習
		心理学実験A	2			実験
		心理学実験B	2			実験
		心理学演習 I A	2			演習
		心理学演習 I B	2			演習
		心理学演習 II A	2			演習
		心理学演習 II B	2			演習
	学科選択科目	発達心理学 I			2	講義
		発達心理学 II			2	講義
		感情・人格心理学			2	講義
		社会・集団・家族心理学			2	講義
		神経・生理心理学			2	講義
		倫理学			2	講義
		祈りと心			2	講義
		公民科教育法 I			2	講義
	公民科教育法 II			2	講義	
発展科目	公認心理	公認心理師の職責			2	講義
		司法・犯罪心理学			2	講義
		障害者・障害児心理学			2	講義
		福祉心理学			2	講義
		心理学的支援法			2	講義
		音楽療法概論			2	講義
		サイコドラマ入門			2	講義
		心理的アセスメント			2	講義
		健康・医療心理学			2	講義
		教育・学校心理学			2	講義
		関係行政論			2	講義
		精神疾患とその治療			2	講義
		認知・行動療法			2	講義
		プレイセラピー			2	講義
	絵とイメージの心理療法			2	講義	
	死生心理学			2	講義	
	心理演習			2	演習	
	心理実習			2	実習	
	キャリア心理	社会学			2	講義
		生活と経済			2	講義
社会調査入門				2	講義	
社会調査法				2	講義	
消費者行動の心理				2	講義	
心理学統計法 II				2	演習	
ビジネス学(産業・組織心理学)			2	講義		

発展科目	キャリア心理	味と香りの心理学		2	講義	
		色彩心理学		2	講義	
		社会調査実習A		1	実習	
		社会調査実習B		1	実習	
	アニマルセラピー	知覚・認知心理学		2	講義	
		学習・言語心理学		2	講義	
		ペットビジネス		2	講義	
		動物社会学		2	講義	
		ドッグトレーニング		2	演習	
		アニマルセラピー(ホース)		2	講義	
		アニマルセラピー(ドッグ)		2	講義	
		アニマルセラピー(ドッグ)実践演習		2	演習	
		アニマルセラピー論		2	講義	
		小動物臨床看護学		2	講義	
	動物行動学		2	講義		
	特別支援教育	特別支援教育概論		2	講義	
		知的障害者の心理・生理・病理		2	講義	
		肢体不自由者の心理・生理・病理(人体の構造と機能及び疾病)		2	講義	
		病弱者の心理・生理・病理		2	講義	
		知的障害者指導法		2	講義	
		肢体不自由者指導法		2	講義	
		病弱者指導法		2	講義	
		視覚障害者の心理・生理・病理		1	講義	
		聴覚障害者の心理・生理・病理		1	講義	
		重複障害・LD等の心理・生理・病理		2	講義	
		視覚障害者の理解と指導法		1	講義	
		聴覚障害者の理解と指導法		1	講義	
		発達障害教育方法論		2	講義	
		こども音楽療育概論		2	講義	
		こども音楽療育演習		1	演習	
		こども音楽療育実習		1	実習	
		特別支援教育指導法演習A		2	演習	
特別支援教育指導法演習B			2	演習		
特別支援教育コーディネーター論		2	講義			
特別支援教育実習		3※☆	実習	事前事後指導1単位含む		
卒業論文		6				

(単位欄の※印は30時間の授業をもって1単位とする演習科目、*印は45時間の授業をもって1単位とする実験・実習科目)

	授業科目	単位数/履修区分			授業形態	備考
		必修	選択必修	選択		
社会と健康・環境	公衆衛生学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	公衆衛生学Ⅱ	※1	※2	2		講義
	健康管理論	※1		2		講義
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	解剖生理学Ⅱ	※1	※2	2		講義
	解剖生理学実験	※1		1*		実験
	生化学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	生化学Ⅱ	※1	※2	2		講義
	生化学実験Ⅰ	※1	※2	1*		実験
	生化学実験Ⅱ	※1		1*		実験
	疾病の成り立ちⅠ	※1	※2	2		講義
	疾病の成り立ちⅡ	※1		2		講義
	微生物学	※1		2		講義
食べ物と健康	食品学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	食品学Ⅱ	※1		2		講義
	食品学実験Ⅰ	※1	※2	1*		実験
	食品学実験Ⅱ	※1		1*		実験
	食品衛生学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	食品衛生学Ⅱ	※1	※2	2		講義
	食品衛生学実験	※1	※2	1*		実験
	食品加工学	※1	※2	2		講義
	食品加工学実習	※1	※2	1*		実習
	食文化論	※1		2		講義
	調理学	※1	※2	2		講義
	調理学実習Ⅰ	※1	※2	1*		実習
	調理学実習Ⅱ	※1	※2	1*		実習
	調理科学実験	※1		1*		実験
栄養学 基礎	基礎栄養学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	基礎栄養学Ⅱ	※1	※2	2		講義
	基礎栄養学実験	※1	※2	1*		実験
応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	応用栄養学Ⅱ	※1	※2	2		講義
	栄養と身体活動	※1		2		講義
	応用栄養学実習	※1	※2	1*		実習
栄養論	栄養教育論Ⅰ	※1	※2	2		講義
	栄養教育論Ⅱ	※1	※2	2		講義
	栄養教育論実習	※1	※2	1*		実習
	栄養教育論演習	※1		2		演習
臨床栄養学	臨床栄養学総論	※1	※2	2		講義
	臨床栄養学各論Ⅰ	※1		2		講義
	臨床栄養学各論Ⅱ	※1		2		講義
	臨床栄養マネジメント論	※1		2		講義
	臨床栄養学実習Ⅰ	※1	※2	1*		実習
	臨床栄養学実習Ⅱ	※1		1*		実習
栄養学 公衆	公衆栄養学Ⅰ	※1	※2	2		講義
	公衆栄養学Ⅱ	※1		2		講義
	公衆栄養学実習	※1	※2	1*		実習
管理論 給食経営	給食経営管理論Ⅰ	※1	※2	2		講義
	給食経営管理論Ⅱ	※1	※2	2		講義
	給食経営管理実習Ⅰ	※1	※2	1*		実習
	給食経営管理実習Ⅱ	※1	※2	1*		実習
演習 総合	総合演習Ⅰ	※1		2		演習
	総合演習Ⅱ	※1		2		演習
臨	臨地実習Ⅰ(給食の運営)	※1	※2	1*		実習

地 実 習	臨地実習Ⅱ(給食経営管理)	※1		1*			実習
	臨地実習Ⅲ(公衆栄養学)	※1		1*			実習
	臨地実習Ⅳ(臨床栄養学)	※1		2*			実習
専 門 関 連 科 目	食品栄養関連演習Ⅰ					2	演習
	食品栄養関連演習Ⅱ					2	演習
	卒業研究Ⅰ					2	演習
	卒業研究Ⅱ					2	演習
	有機化学			2			講義
	管理栄養士演習					2	演習
	学校栄養教育概論					2	講義
	学校栄養指導論					2	講義

※1の科目は管理栄養士養成課程の科目

※2の科目は栄養士養成課程の科目

(単位欄の★印は60時間の授業をもって1単位とする実習科目)

授 業 科 目	単位/履修区分			授業形態	備考
	必修	選択必修	選択		
基本科目	食品衛生学Ⅰ	※	2		講義
	食品衛生学Ⅱ	※	2		講義
	食品衛生学Ⅲ	※	2		講義
	食品衛生学実習	※	1		実習
	栄養学Ⅰ	※	2		講義
	栄養学Ⅱ	※	2		講義
	調理理論Ⅰ	※	2		講義
	調理理論Ⅱ	※	2		講義
	調理理論Ⅲ	※	2		講義
	調理科学演習	※	2		演習
	食品学Ⅰ	※	2		講義
	食品学Ⅱ	※	2		講義
	食と嗜好のサイエンス	※	2		演習
	公衆衛生学Ⅰ	※	2		講義
	公衆衛生学Ⅱ	※	2		講義
	パティシエ基礎実習		1		実習
	基礎調理実習Ⅰ	※	1★		実習
	基礎調理実習Ⅱ	※	1★		実習
	基礎調理実習Ⅲ	※	1★		実習
	専門調理実習Ⅰ	※	1★		実習
	専門調理実習Ⅱ	※	1★		実習
	専門調理実習Ⅲ	※	1		実習
	総合調理実習Ⅰ	※	1★		実習
	総合調理実習Ⅱ	※	1		実習
	食育論	※	2		講義
	食品アレルギー論	※	2		講義
食文化概論	※	2		講義	
日本文化と食	※	2		講義	
発展科目	食と生命			2	講義
	パティシエ理論Ⅰ			2	講義
	パティシエ理論Ⅱ			2	講義
	製菓技能士特論			2	講義
	パティシエ実習Ⅰ			2	実習
	パティシエ実習Ⅱ			3	実習
	パティシエ実習Ⅲ			3	実習
	製菓技能士実習Ⅰ			2	実習
	製菓技能士実習Ⅱ			2	実習
	介護食士演習	※		2	演習
	HACCP・食品安全管理学			2	講義
	HACCPワークショップ			1	実習
	食品加工演習			2	演習
	食ビジネス概論	※		2	講義
	食マネジメント論			2	講義

発展科目	起業概論			2	講義
	食の企画と演出	※		2	演習
	店舗デザイン	※		2	演習
	食空間デザイン	※		2	演習
	食と近現代	※		2	講義
	食とワイン			2	講義
	大阪の食と文化	※		2	講義
	家計と経済			2	講義
	住まいと暮らし			2	講義
	衣と暮らし			2	講義
	保育学			2	講義
	衣服演習			2	演習
	ブライダルプランナーⅡ			2	講義
	家庭科教育法Ⅰ			2	講義
	家庭科教育法Ⅱ			2	講義
	家庭科教育法Ⅲ			2	講義
	家庭科教育法Ⅳ			2	講義
卒業研究	食文化演習Ⅰ		2		演習
	食文化演習Ⅱ		2		演習
	卒業研究Ⅰ		2		演習
	卒業研究Ⅱ		2		演習

※の科目は調理師養成課程の科目

(単位欄の※印は30時間の授業をもって1単位とする演習科目、*印は45時間の授業をもって1単位とする実習科目)

分野	授業科目名	単位/履修区分			授業形態	備考			
		必修	選択必修	選択					
基盤科目	人間の心と行動	生涯発達心理学	2			講義	選択より2単位以上修得		
	人間の心と行動	健康教育論			2	講義			
	人間の心と行動	精神保健学	2			講義			
	人体と環境	衛生学			2			講義	
		公衆衛生学	2					講義	
		保健統計学	2					講義	
		生化学	1					講義	
		栄養学	2					講義	
		薬理学	2					講義	
		免疫・微生物学	2					講義	
		形態機能論Ⅰ	2					講義	
		形態機能論Ⅱ	2					講義	
		形態機能論Ⅲ	2					講義	
		臨床病理・病態学Ⅰ	4					講義	
		臨床病理・病態学Ⅱ	2					講義	
		臨床病理・病態学Ⅲ	2					講義	
		社会文化	キリスト教の看護と倫理Ⅰ	1					講義
	キリスト教の看護と倫理Ⅱ		1					講義	
	文化人類学				2			講義	
	社会福祉論				2			講義	
	保健医療福祉行政論Ⅰ		2					講義	
	専門科目	基礎看護	看護学概論	2				講義	
			基礎看護援助論Ⅰ	2※				演習	
			基礎看護援助論Ⅱ	2※				演習	
			医療コミュニケーション論	1				講義	
			看護過程論	1				講義	
フィジカルアセスメント			1			演習			
看護過程とフィジカルアセスメント演習			2			演習			
基礎看護学実習Ⅰ			1*			実習			
基礎看護学実習Ⅱ			2*			実習			
急性慢性看護		急性期看護学概論	2			講義			
		慢性期看護学概論	2			講義			
		急性期看護援助論	2※			演習			
		慢性期看護援助論	2※			演習			
		急性期看護学実習	3*			実習			
		慢性期看護学実習	3*			実習			
老年看護		老年看護学概論	2			講義			
		老年看護援助論	2※			演習			
		老年看護学実習	3*			実習			
母性看護		母性看護学概論	2			講義			
	母性看護援助論	2※			演習				

専門科目	一護	母性看護学実習	2*			実習
	小児看護	小児看護学概論	2			講義
		小児看護援助論	2※			演習
		小児看護学実習	2*			実習
	精神看護	精神看護学概論	2			講義
		精神看護援助論	2※			演習
		精神看護学実習	2*			実習
	在宅看護	在宅看護学概論	2			講義
		在宅看護方法論	2※			演習
		在宅看護学実習	2*			実習
		地域生活実習	1			実習
	生公 看護	公衆衛生看護学 I	2			講義
	看護の統合と実践	看護研究方法論	2			講義
		看護研究演習	2※			演習
		総合実習	2*			実習
		グローバル・ナーシング I	1			講義
		グローバル・ナーシング II			1	講義
		災害看護学 I	1			講義
		災害看護学 II			1	講義
		感染看護論	1			講義
		家族看護学	1			講義
		看護管理学	1			講義
		助産論			2	講義
		臨床判断能力入門	1			講義
		臨床判断能力展開			1	講義
		看護教育学			1	講義
		エンドオブライフケア論			1	講義
	養護に関する科目	学校保健			2	講義
		養護概論			2	講義
		健康相談の理論及び方法			2	講義
	保健師課程に関する科目	産業保健学			2	講義
		公衆衛生看護学 II			2	講義
		公衆衛生看護活動論			2※	演習
地域アセスメント演習				1	演習	
公衆衛生看護管理・政策論				1	演習	
保健医療福祉行政論 II				1	演習	
公衆衛生看護学実習				4*	実習	
産業保健学実習				1*	実習	

(単位欄の※印は30時間の授業をもって1単位とする演習科目、*印は45時間の授業をもって1単位とする実習科目)

授業科目		単位数/履修区分			授業形態	備考		
		必修	選択必修	選択				
専門基礎分野	人体の基礎	生物学・化学	2			講義		
		解剖学・組織発生学	2			講義		
		生理学	2			講義		
		栄養と代謝	2			講義		
		口腔解剖学・口腔組織発生学	2			講義		
		口腔生理学	2			講義		
		口腔構造機能演習	1※			演習		
		病理学・口腔病理学	2			講義		
		免疫・微生物学	2			講義		
		薬理学・歯科薬理学	2			講義		
	口腔保健の基礎	人体と環境	口腔衛生学Ⅰ	2			講義	
			衛生学	2			講義	
			公衆衛生学	2			講義	
			口腔衛生学Ⅱ	1※			演習	
			社会福祉論			2	講義	
			精神保健学			2	講義	
			学校保健			2	講義	
			産業保健学			2	講義	
			健康教育論			2	講義	
			健康相談の理論及び方法			2	講義	
		公衆衛生看護学			2	講義		
		養護概論			2	講義		
		発達段階と食育			2	講義		
		学校保健と口腔保健学			2	講義		
		介護予防			2	講義		
		災害歯科保健医療			1	講義		
		生活習慣改善と疾患予防			2	講義		
		専門分野	口腔保健の実践	臨床歯科医学	口腔保健学概論	2		
	口腔保健学入門				1※			演習
	臨床歯科医学概論				2			講義
	歯周病学				2			講義
	歯科保存学				2			講義
歯科補綴学	2						講義	
口腔外科学	2						講義	
小児・障害者歯科学	2						講義	
歯科矯正学	2						講義	
高齢者歯科学	1※						演習	
全身疾患管理と臨床検査	1※						演習	
歯科予防処置	歯科予防処置論				1※			演習
	う蝕予防処置		2※			演習		
	歯周病予防処置Ⅰ		2※			演習		
	歯周病予防処置Ⅱ		2※			演習		
歯科保健	歯周病予防処置Ⅲ		2※			演習		
	口腔保健指導論		1※			演習		
	口腔衛生管理指導		2※			演習		
	口腔機能管理指導		2※			演習		
			歯科健康教育	2※			演習	

専門分野	口腔保健の実践	1日 指導	口腔保健指導 I	1※			演習	
			口腔保健指導 II	1※			演習	
		歯科診療補助	歯科診療補助論	1※			演習	
			歯科診療補助 I	2※			演習	
			歯科診療補助 II	2※			演習	
			歯科診療補助 III	2※			演習	
			歯科材料学	1※			演習	
			歯科放射線学	1※			演習	
			麻酔学・感染予防学	1※			演習	
			看護学概論	2			講義	
			看護技術演習	2※			演習	
			臨床・ 臨地 実習	基礎実習	1*			実習
		臨床臨地実習 I (一般歯科診療所)		8*			実習	
		臨床臨地実習 II (専門歯科診療所)		3*			実習	
		臨床臨地実習 III (病院歯科)		4*			実習	
		地域歯科保健実習 I (障害者・高齢者施設)		2*			実習	
		地域歯科保健実習 II (保健施設)		1*			実習	
		地域歯科保健実習 III (教育機関)		1*			実習	
		臨床看護実習				2*	実習	
			総合演習	2※			演習	
	口腔保健研究演習	2※			演習			

副専攻科目

国際教養学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必 修	選 択 必 修	選 択		
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
色彩学入門			2	講義	
基礎医学			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メディカルヨガI			1	実技	
メディカルヨガII			1	実技	
メディカルピラティスI			1	実技	
メディカルピラティスII			1	実技	
医療管理学概論			2	講義	
医療事務総論			2	講義	
医療秘書学			2	講義	
医学一般			2	講義	
診療報酬請求事務			2	講義	
秘書学総論			2	講義	
秘書実務1			2	演習	
秘書実務2			2	演習	
動物飼養管理概論			2	講義	
ペットビジネス			2	講義	
動物社会学			2	講義	
小動物臨床看護学			2	講義	

日本文化学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必 修	選 択 必 修	選 択		
医療管理学概論			2	講義	
医療事務総論			2	講義	
医療秘書学			2	講義	
医学一般			2	講義	
診療報酬請求事務			2	講義	
秘書学総論			2	講義	
秘書実務1			2	演習	
秘書実務2			2	演習	
色彩学入門			2	講義	
デザイン基礎			2	演習	

イラストレーション			2	演習	
ブライダルドレス			2	講義	
ブライダルプランナー I			2	講義	
AI. データサイエンス			1	演習	
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
基礎医学			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メンタルヘルス入門			2	講義	
メディカルヨガ I			1	実技	
メディカルヨガ II			1	実技	
メディカルピラティス I			1	実技	
メディカルピラティス II			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	

情報メディア学科

授 業 科 目	単位/履修区分			授業 形態	備考
	必修	選択 必修	選択		
色彩学入門			2	講義	
デザイン基礎			2	演習	
イラストレーション			2	演習	
ブライダルドレス			2	講義	
ブライダルプランナー I			2	講義	
色彩心理学			2	講義	
AI.データサイエンス			1	演習	
社会調査入門			2	講義	
社会調査法			2	講義	
基礎医学			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
メディカルヨガ I			1	実技	
メディカルヨガ II			1	実技	
メディカルピラティス I			1	実技	
メディカルピラティス II			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
舞台技術			2	演習	
バレエ I (入門)			1	実技	
バレエ II (基礎)			1	実技	
ダンス I			1	実技	

ダンスⅡ			1	実技	
ミュージカル総合Ⅰ			2	実技	
ミュージカル総合Ⅱ			2	実技	
ミュージカル総合Ⅲ			2	実技	
ミュージカル総合Ⅳ			2	実技	
ミュージカル総合Ⅴ			2	実技	
ミュージカル総合Ⅵ			2	実技	
食とカラダの診断学			2	講義	
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メンタルヘルス入門			2	講義	

舞台芸術表現学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
メディカル心理学			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
食とカラダの診断学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
色彩学入門			2	講義	
基礎医学			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メンタルヘルス入門			2	講義	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
メイクアップテクニックⅠ			2	実技	
メイクアップテクニックⅡ			2	実技	
ヴォイストレーニングⅠ			1	実技	
ヴォイストレーニングⅡ			1	実技	
ヴォイストレーニングⅢ			1	実技	
ヴォイストレーニングⅣ			1	実技	
バレエⅠ			1	実技	
バレエⅡ			1	実技	
ダンスⅠ			1	実技	
ダンスⅡ			1	実技	

こども教育学科

授 業 科 目	単位/履修区分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
動物飼養管理概論			2	講義	
ペットビジネス			2	講義	
動物社会学			2	講義	
小動物臨床看護学			2	講義	
基礎医学			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
舞台技術			2	演習	
バレエⅠ（入門）			1	実技	
バレエⅡ（基礎）			1	実技	
ダンスⅠ			1	実技	
ダンスⅡ			1	実技	
食とカラダの診断学			2	講義	
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
色彩学入門			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メンタルヘルス入門			2	講義	

心理学科

授 業 科 目	単位/履修区分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
医療管理学概論			2	講義	
医療事務総論			2	講義	
医療秘書学			2	講義	
医学一般			2	講義	
診療報酬請求事務			2	講義	
基礎医学			2	講義	
秘書学総論			2	講義	
秘書実務1			2	演習	
秘書実務2			2	演習	
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	

メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
色彩学入門			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
デザイン基礎			2	演習	
イラストレーション			2	演習	
ブライダルドレス			2	講義	
ブライダルプランナーⅠ			2	講義	
AI. データサイエンス			2	演習	

食文化学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
色彩学入門			2	講義	
基礎医学			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
食とカラダの診断学			2	講義	
ブライダルドレス			2	講義	
ブライダルプランナーⅠ			2	講義	

管理栄養学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	

メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
色彩学入門			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メンタルヘルス入門			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
舞台技術			2	演習	
バレエⅠ（入門）			1	実技	
バレエⅡ（基礎）			1	実技	
ダンスⅠ			1	実技	
ダンスⅡ			1	実技	

看護学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
色彩学入門			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	
メンタルヘルス入門			2	講義	

口腔保健学科

授 業 科 目	単 位 / 履 修 区 分			授 業 形 態	備 考
	必修	選択 必修	選択		
医療管理学概論			2	講義	
医療事務総論			2	講義	

医療秘書学			2	講義	
医学一般			2	講義	
診療報酬請求事務			2	講義	
美容総合学			2	講義	
化粧品学			2	講義	
メイクアップ理論			2	講義	
ネイル基礎知識とケア技術			2	演習	
ジェルネイルの基礎知識と技術			2	演習	
色彩学入門			2	講義	
メディカル心理学			2	講義	
メディカルアロマセラピー概論			2	講義	
美と健康の薬膳学			2	講義	
メンタルヘルス入門			2	講義	
メディカルヨガⅠ			1	実技	
メディカルヨガⅡ			1	実技	
メディカルピラティスⅠ			1	実技	
メディカルピラティスⅡ			1	実技	
心身を整えるセルフケア			2	演習	
美容整体&ボディデザイン			2	演習	

教職課程

(中学校・高等学校教諭一種免許状)教科及び教科の指導法に関する科目

分野	授業科目名	単位/履修区分			単位	授業形態	備考
		必修	選択必修	選択			
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	2				講義	
	国語科教育法Ⅱ	2				講義	
	国語科教育法Ⅲ	中2				講義	
	国語科教育法Ⅳ	中2				講義	
	書道科教育法Ⅰ	2				講義	
	書道科教育法Ⅱ	2				講義	
	英語科教育法Ⅰ	2				講義	
	英語科教育法Ⅱ	2				講義	
	英語科教育法Ⅲ	中2				講義	
	英語科教育法Ⅳ	中2				講義	
	公民科教育法Ⅰ	2				講義	
	公民科教育法Ⅱ	2				講義	
	家庭科教育法Ⅰ	2				講義	
	家庭科教育法Ⅱ	2				講義	
	家庭科教育法Ⅲ	中2				講義	
家庭科教育法Ⅳ	中2				講義		

(中学校・高等学校教諭一種免許状) 教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習(探究)の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育実践に関する科目
(単位欄の※印は、30時間の授業をもって1単位とする演習科目、☆印は40時間の授業をもって1単位とする実習科目)

分野	授業科目名	単位/履修区分			単位	授業形態	共通開設	備考
		必修	選択必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2				講義	養・栄	中免は必修
	教師論	2				講義	養・栄	
	教育社会学	2				講義	養・栄	
	教育心理学	2				講義	養・栄	
	特別支援教育論	2				講義	養・栄	
	教育課程論	2				講義	養・栄	
道徳、総合的な学習(探究)の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と方法	2				講義	養・栄	
	特別活動・総合的な学習の指導法	2				講義	養・栄	
	教育の方法と技術及び情報通信技術の活用	2				講義	養・栄	
	生徒・進路指導論	2				講義		
教育実践に関する科目	学校カウンセリング	2				講義	養・栄	
	教育実習(中学)	5※☆				実習		
	教育実習(高校)	3※☆				実習		
	教職実践演習(中・高)	2				演習		

事前事後指導1単位を含む

(養護教諭一種免許状)教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育実践に関する科目(単位欄の※印は、30時間の授業をもって1単位とする演習科目、☆印は40時間の授業をもって1単位とする実習科目)

分野	授業科目名	単位/履修区分			単位	授業形態	共通開設	備考
		必修	選択必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2				講義	中・高	事前事後指導1単位を含む
	教師論	2				講義	中・高	
	教育社会学	2				講義	中・高	
	教育心理学	2				講義	中・高	
	特別支援教育論	2				講義	中・高	
	教育課程論	2				講義	中・高	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と方法	2				講義	中	
	特別活動・総合的な学習の指導法	2				講義	中・高	
	教育の方法と技術及び情報通信技術の活用	2				講義	中・高	
	生徒指導の理論と方法	2				講義	栄	
	学校カウンセリング	2				講義	中・高	
教育実践に関する科目	養護実習	5※☆				実習		
	教職実践演習(養護教諭)	2				演習		

(栄養教諭一種免許状)教育の基礎的理解に関する科目・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・教育実践に関する科目)

分野	授業科目名	単位/履修区分			単位	授業形態	共通開設	備考
		必修	選択必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	2				講義	中・高	
	教師論	2				講義	中・高	
	教育社会学	2				講義	中・高	
	教育心理学	2				講義	中・高	
	特別支援教育論	2				講義	中・高	
	教育課程論	2				講義	中・高	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と方法	2				講義	中	
	特別活動・総合的な学習の指導法	2				講義	中・高	
	教育の方法と技術及び情報通信技術の活用	2				講義	中・高	
	生徒指導の理論と方法	2				講義	養	
	学校カウンセリング	2				講義	中・高	
教育実践に関する科目	学校栄養実習事前事後指導	1				演習		
	学校栄養実習	1				実習		
	教職実践演習(栄養教諭)	2				演習		

大学が独自に設定する科目(幼稚園教諭一種免許状)

分野	授業科目名	単位/履修区分			授業形態	備考
		必修	選択必修	選択		
大学が独自に設定する科目	こども学入門	2			講義	
	物語伝達の理論と演習	2			演習	
	音楽の演習(入門)			1	演習	
	音楽の演習(基礎)	1			演習	
	音楽の演習2A	1			演習	
	音楽の演習2B	1			演習	
	音楽の演習3			1	演習	
	問題発見解決セミナーⅠ	2			演習	
	問題発見解決セミナーⅡ	2			演習	
	自然とあそびのワークショップ			2	演習	

大学が独自に設定する科目(中学校・高等学校教諭一種免許状)

分野	授業科目名	単位/履修区分			単位	授業形態	備考
		必修	選択必修	選択			
大学が独自に設定する科目	人権教育	2				講義	

大学が独自に設定する科目(養護教諭一種免許状)

分野	授業科目名	単位/履修区分			単位	授業形態	備考
		必修	選択必修	選択			
大学が独自に設定する科目	歯科健康教育	2				演習	
	発達段階と食育		2			講義	
	学校保健と口腔保健学		2			講義	
	学校救急法演習	1				演習	

司書課程科目

司書に関する科目

(単位欄の※印は、30時間の授業をもって1単位とする演習科目)

分野	授業科目名	単位/履修区分			授業形態	備考
		必修	選択必修	選択		
司書科目	生涯学習概論	2			講義	履修区分の必修・選択必修・選択は、当該資格の履修対象者のみに該当
	図書館情報学概論	2			講義	
	図書館制度・経営論	2			講義	
	図書館情報技術論	2			講義	
	図書館サービス概論	2			講義	
	情報サービス論	2			講義	
	児童サービス論	2			講義	
	情報サービス演習Ⅰ	2			演習	
	情報サービス演習Ⅱ	2			演習	
	図書館情報資源概論	2			講義	
	情報資源組織論	2			講義	
	情報資源組織演習Ⅰ	1※			演習	
	情報資源組織演習Ⅱ	1※			演習	
	ストーリーテリングの理論と演習		2		演習	
	図書館情報資源特論		2		講義	
	図書館の文化史		2		講義	
図書館総合演習		2		演習		

学校図書館司書教諭に関する科目

分野	授業科目名	単位/履修区分			授業形態	備考
		必修	選択必修	選択		
司書教諭科目	学校経営と学校図書館	2			講義	履修区分の必修・選択必修・選択は、当該資格の履修対象者のみに該当
	学習指導と学校図書館	2			講義	
	情報資源組織論	2			講義	
	図書館情報資源概論	2			講義	
	読書と豊かな人間性	2			講義	
	情報メディアの活用	2			講義	

別表第2

単位:円

入学検定料	35,000	*ただし、学内推薦入試に出願する者の入学検定料は徴収しない。
入学金	250,000	*ただし、学内推薦入試およびファミリー入試によって入学する者の入学金は全額免除する。

1年次

学部	学科	授業料	施設設備費	教育充実費	合計金額
文化表現学部	国際教養学科	750,000	300,000	170,000	1,220,000
	日本文化学科	750,000	300,000	160,000	1,210,000
	情報メディア学科	750,000	300,000	200,000	1,250,000
	舞台芸術表現学科	750,000	300,000	490,000	1,540,000
心理こども学部	こども教育学科	750,000	300,000	160,000	1,210,000
	心理学科	750,000	300,000	160,000	1,210,000
食文化学部	食文化学科	750,000	300,000	240,000	1,290,000
	管理栄養学科	750,000	300,000	300,000	1,350,000
看護保健学部	看護学科	800,000	300,000	570,000	1,670,000
	口腔保健学科	750,000	300,000	300,000	1,350,000

2年次以降

学部	学科	授業料	施設設備費	教育充実費	合計金額
文化表現学部	国際教養学科	880,000	300,000	170,000	1,350,000
	日本文化学科	880,000	300,000	160,000	1,340,000
	情報メディア学科	880,000	300,000	200,000	1,380,000
	舞台芸術表現学科	880,000	300,000	490,000	1,670,000
心理こども学部	こども教育学科	880,000	300,000	160,000	1,340,000
	心理学科	880,000	300,000	160,000	1,340,000
食文化学部	食文化学科	880,000	300,000	240,000	1,420,000
	管理栄養学科	880,000	300,000	300,000	1,480,000
看護保健学部	看護学科	900,000	300,000	570,000	1,770,000
	口腔保健学科	880,000	300,000	300,000	1,480,000

(2) 学則の変更事項を記載した書類

1. (第5条2項) 文化表現学部国際英語学科が、2026年4月届出(名称変更)により、文化表現学部国際英語学科から文化表現学部国際教養学科へ名称変更した。
2. (第5条2項) 文化表現学部にて2026年4月設置認可申請により、舞台芸術表現学科(設置構想中)を追加した。
3. (第5条3項) 文化表現学部国際教養学科および舞台芸術表現学科の人材育成の目的を追加した。
4. (第5条4項) 食文化学部食文化学科、看護保健学部看護学科、口腔保健学科の入学定員の変更、文化表現学部舞台芸術表現学科の入学定員を追加した。

(3) 梅花女子大学学則変更条文新旧対照表

文化表現学部舞台芸術表現学科の設置に伴う学則の一部変更について (案)

変更理由：文化表現学部舞台芸術表現学科を 2026 年 4 月に設置するため。

変更案	変更前
<p>第 2 章 学部、学科、学生定員および修業年限 (学部、学科、学生定員等)</p> <p>第 5 条 本学に文化表現学部、心理こども学部、食文化学部および看護保健学部を置く。</p> <p>2 前項の学部に置く学科は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 文化表現学部 <u>国際教養学科、日本文化学科、情報メディア学科、舞台芸術表現学科</u></p> <p>(2) 心理こども学部 こども教育学科、心理学科</p> <p>(3) 食文化学部 食文化学科、管理栄養学科</p> <p>(4) 看護保健学部 看護学科、口腔保健学科</p> <p>3 前項の学部および学科の人材育成に関する目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 文化表現学部</p> <p style="padding-left: 2em;">言語や文学、文化や情報に関する専門的な知識を学ぶことによって、豊かな感性と国際的な視野を身につけ、多様な手段を用いて文化を創造し、広く社会に発信することができる人材を育成する。</p> <p>ア <u>国際教養学科</u></p> <p style="padding-left: 2em;"><u>英語を中心とする実践的な語学教育や海外研修を通じて、コミュニケーションスキルを身につけるとともに、多様な価値観に触れることで広い視野を養い、国際社会の課題解決に貢献できる人材を育成</u></p>	<p>第 2 章 学部、学科、学生定員および修業年限 (学部、学科、学生定員等)</p> <p>第 5 条 本学に文化表現学部、心理こども学部、食文化学部および看護保健学部を置く。</p> <p>2 前項の学部に置く学科は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 文化表現学部 国際英語学科、日本文化学科、情報メディア学科</p> <p>(2) 心理こども学部 こども教育学科、心理学科</p> <p>(3) 食文化学部 食文化学科、管理栄養学科</p> <p>(4) 看護保健学部 看護学科、口腔保健学科</p> <p>3 前項の学部および学科の人材育成に関する目的は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 文化表現学部</p> <p style="padding-left: 2em;">言語や文学、文化や情報に関する専門的な知識を学ぶことによって、豊かな感性と国際的な視野を身につけ、多様な手段を用いて文化を創造し、広く社会に発信することができる人材を育成する。</p> <p>ア 国際英語学科</p> <p style="padding-left: 2em;">英語のネイティブ・スピーカーによる授業や英語圏の教育機関での海外実習などを通して、幅広い知識や教養とともに即戦力としての英語力を身につけ、自らの考えを積極的に発信できる人材を育成する。</p>

する。

エ 舞台芸術表現学科

舞台芸術に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、0 から 1 を生み出す芸術的想像力であるアート思考と、他者と協働しながら課題を整理し、形にする構想力であるデザイン思考の両者を兼ね備え、これらを活用し、既存の枠にとらわれない創造力と課題解決力を備え、国内外の芸術文化と社会の発展に貢献できる人材を育成する。

4 学生定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文化表現学部	国際教養学科	30人	120人
	日本文化学科	30人	120人
	情報メディア学科	65人	260人
	舞台芸術表現学科	40人	160人
心理こども学部	こども教育学科	50人	200人
	心理学科	60人	240人
食文化学部	食文化学科	50人	200人
	管理栄養学科	40人	160人
看護保健学部	看護学科	80人	320人
	口腔保健学科	50人	200人

(新設)

4 学生定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
文化表現学部	国際英語学科	30人	120人
	日本文化学科	30人	120人
	情報メディア学科	65人	260人
心理こども学部	こども教育学科	50人	200人
	心理学科	60人	240人
食文化学部	食文化学科	60人	240人
	管理栄養学科	40人	160人
看護保健学部	看護学科	90人	360人
	口腔保健学科	70人	280人

第 30 条 教育職員免許状を得ようとする者は、第 26 条に定める単位のほか、教育職員免許法および同法施行規則に基づく所定の単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

- (1) 文化表現学部国際教養学科 中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）

附則

50（1）本学則は、2025年4月1日から施行する。

（2）学則第 26 条に定める教育課程の取り扱いに関しては、2025 年 3 月 31 日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。

（3）本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

51（1）本学則は、2026年4月1日から施行する。

ただし、2026年3月31日において在学する者および在学者の属する年次に編入学、転入学又は再入学する者については、従前の学則による。

（2）本学則の改廃は、部長会の議を経て理事会が行う。

第 30 条 教育職員免許状を得ようとする者は、第 26 条に定める単位のほか、教育職員免許法および同法施行規則に基づく所定の単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

- (1) 文化表現学部国際英語学科 中学校教諭一種免許状（英語）
高等学校教諭一種免許状（英語）

教授会運営規程

制定 2014年4月1日

改正 2023年5月17日

(目的)

第1条 この規程は、学則第52条第2項の規定に基づき、教授会の運営に関する必要な事項を定めたものである。

(構成)

第2条 教授会は専任の教授、准教授、講師をもって構成する。ただし、専任教員の採用と昇任の審議については、専任の教授で行う。

(審議事項)

第3条 教授会の審議事項は、学則第53条の規定のとおりとする。

(招集および議長)

第4条 教授会は学長が招集し、その議長となる。

2 学長に事故があるときは、あらかじめ学長が指名した者が議長となって、その職務を代行する。

(会議)

第5条 教授会は、定例の教授会および臨時教授会とする。

2 定例教授会は、原則として毎月一回開催する。

3 前項のほか、学長が必要と認めたとき、または構成員の3分の1以上の連署により付議すべき議案を示して教授会の招集の請求があったときは、学長はすみやかに臨時教授会を招集しなければならない。

(議案)

第6条 教授会構成員は、議長を通じて議案を提出することができる。

2 議案は教授会の3日前までに全構成員に通知するものとする。緊急やむを得ない場合には、議長は臨時に議案を付議することができる。

(成立の要件)

第7条 教授会は、その構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、次の各号の一に該当する者は構成員の員数に加えないものとする。

(1) 国外研究員規程、国内研究員規程に該当する者

(2) 公務出張中の者

(3) 就業規則が規定する休暇を取得中の者

(4) 就業規則が規定する就業禁止、謹慎または出勤停止を命じられた者および健康要保護者として指定され、欠席した者

2 前項各号に該当しない教員が、やむを得ず欠席しようとする場合は、予め学長にその旨を届け出て許可を得なければならない。

(採決の要件)

第8条 教授会の採決は出席者の過半数の同意を必要とする。可否同数の場合は議長の決するところによる。

2 教授会出席者の身上に関する事項を審議する場合は、議長はその者の退席を求めることができる。

(採決の方法)

第9条 採決の方法は、無記名投票、挙手、その他の適当な方法によるものとし、議長がこれを定める。

(記録者の同席)

第10条 議長は、教授会の議事を記録するために、総務部長またはその代理者を教授会に同席させる。

(議事録)

第11条 議長は、教授会の議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、教授会の開催日時、場所および出席・欠席者名ならびに議案の件名、議事の経過概要、議決事項、その他議長が必要と認める事項を記載しなければならない。

3 議長は、議事録の記載事項（人事に関する事項は除く。）について次回の教授会で確認を求めるものとする。

4 人事に関する議事録は公開しない。

(構成員以外の者の出席)

第12条 議長は、必要があると認めたときは、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。ただし採決に加えることはできない。

(代議員会)

第13条 学長は、教授会に属する教員のうちの一部の者をもって構成される代議員会を置くことができる。

2 学長は、代議員会の採決をもって、教授会の採決とすることができる。

3 代議員会の運営等の細目は別にこれを定める。

附 則

1 この規程は、2023年5月17日から施行する。

2 この規程の改廃は、部長会の議を経て学長が行う。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

1. 設置の趣旨および必要性	2
2. 学部・学科等の特色	12
3. 学部・学科等の名称および学位の名称	14
4. 教育課程の編成の考え方および特色	14
5. 教育方法、履修指導方法および卒業要件	22
6. 入学者選抜の概要	30
7. 教育研究実施組織等の編制の考え方および特色	34
8. 研究の実施についての考え方、体制、取組	35
9. 施設・設備	38
10. 管理運営	42
11. 自己点検・評価	43
12. 情報の公表	45
13. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	47
14. 社会的・職業的自立に関する指導等および体制	48

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨および必要性

(1) 大学の沿革と新学科設置の経緯

1) 梅花女子大学および梅花学園の沿革

梅花女子大学（以下、「本学」という）は「キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性」の育成を建学の精神として掲げ、昭和 39（1964）年に開設し、我が国における女子教育の発展に大きな役割を果たしてきた。梅花学園のあゆみは明治 11（1878）年、梅花女学校の設立に始まり、校祖澤山保羅が愛唱した聖書の言葉、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい（マタイによる福音書 7 章 12 節）」は、現在も学園のスクール・モットーとして受け継がれている。建学の精神を現代にもわかりやすく、端的に学内外に発信すること、基盤を整理し、女子の小規模な学園としての個性化・特徴化を明確にしていくことを目的として平成 23（2011）年「チャレンジ&エレガンス」のキャッチコピーを設定した。自ら問題を発見し解決する力、挑戦し続ける力と、キリスト教主義教育により育まれる思いやりと品性を兼ね備え、一人ひとりが個性や特性をいかし、社会で活躍し続けることのできる女性の育成をめざしている。学校法人梅花学園は豊中キャンパスに高等学校・中学校・幼稚園、茨木キャンパスに大学・大学院を擁し、3年後の令和 10（2028）年に学園創立 150 周年を迎える。

現在、本学は 4 学部 9 学科（「文化表現学部」に「国際英語学科」「日本文化学科」「情報メディア学科」、「心理こども学部」に「心理学科」「こども教育学科」、「食文化学部」に「食文化学科」「管理栄養学科」、「看護保健学部」に「看護学科」「口腔保健学科」）を設置している。また大学院には修士課程として「文学研究科」に「英語英米文学専攻」と「日本語日本文学専攻」、「現代人間研究科」に「心理臨床学専攻」、「看護保健学研究科」に「口腔保健学専攻」を、また博士前後期課程として「文学研究科児童文学専攻」を設置し、3 研究科 5 専攻を設置している。

2) 舞台芸術表現学科の設置構想の経緯

本学園では、令和 10（2028）年に創立 150 周年を迎えるのを契機に、人材需要に的確に対応した学部学科を設置しているのか、最新の知見に基づく教育内容・教育方法を展開できているのか、「学部学科で養成する人材像」や「学部学科の教育の質」等について、改めて検討を行った。

現代社会において資本集約型・労働集約型経済から知識集約型経済へと移行する中で、現時点では想像もつかない仕事に従事していくことも予想され幅広い知識を基に、新しいアイデアや構想を生み出せる力が強みとなる。

（「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」 p 8）

本学では「アート思考」「デザイン思考」を新学科の教育理念の中心に据えその両者を兼ね備えた人材育成を構想した。アート思考とは、0 から 1 を生み出す芸術的想像力、デザイン思考とは、他者と協働しながら課題を整理し、形にする構想力と意味づけた。具体的には、舞台芸術（主としてミュージカルや演劇など）を媒介とした学びを通じて、専門的知識と技能を実践的に習得するとともに、多様な分野の学芸に触れ、芸術文化を国際的視野から理解する力を育む。そして、自らの感情や思考を身体と言葉で表現し、社会に発信する力を涵養することを目的とする。舞台芸術は、人と人とが直接対面し、長期的な準備と協働を要する芸術形態であり、その過程自体が「アート思考」「デザイン思考」を体現する高度な学びの場である。本学がこれまで「梅花歌劇団 劇団この花」において培ってきたオリジナルミュージカルの上演実績と実践型カリキュラムをさらに体系化し、より高度で専門的な教育課程として展開するため、本学科の設置を決定した。その結果、大学全体の入学定員の配分を見直し、令和 8（2026）年 4 月に文化表現学部にて 4 つ目の学科として「舞台芸術表現学科」を設置する構想を固めた。なお、入学定員は 40 人とし、すべて既設の学部学科からの振り替えにより充当する計画である。

（2）新学科設置の背景と必要性

1）社会的背景と必要性

ア. 身体表現系科目と舞台芸術：初等中等教育との接続の強化

我が国の小・中学校においても、身体を使った表現活動の重要性が認識され、小学校では平成 23（2011）年度から「表現運動」が、中学校では平成 24（2012）年度から「ダンス教育」がそれぞれ必修化された。この学習指導要領の改訂は、生きる力の育成に向けてより具体化し充実させるという視点から行われた（資料 1）。個性や創造性の伸長、コミュニケーション能力の育成につながる学習内容として位置づけられ、自己表現力や協調性が涵養されることが期待されている。高等学校においても身体表現は、発達の段階、生徒の興味や関心に応じて取り組む試みが始まっており、一部のカリキュラムに取り入れられてきている。

しかし、舞台芸術表現における身体表現は、「表現運動」や「ダンス教育」等の「体育科」「保健体育科」の延長にとどまらず、そこに人類が数千年にわたって蓄積してきた知識と経験を取り込みながら表現することを意味する。現在、日本全国に、表現科、舞台表現科、舞台芸術科、演劇科、芸能文化科等、舞台芸術表現に関する特色ある学科を設置する高等学校があり、身体表現と文化表現を同時に学習の領域に組み込む教育が行われている（資料 2）。

学校法人梅花学園では、平成 25（2013）年に梅花高等学校、平成 26（2014）年に梅花中学校に舞台芸術を学ぶコースができ（資料 3）、また、平成 28（2016）年には梅花女子大学に拠点を置く梅花歌劇団「劇団この花」を設立し（資料 4）、学園全体として舞台芸術分野に係る教育事業を推進してきた。梅花学園の歴史においても、日本最多の宝塚音楽学校入学者（131 名）がいることなど、本学園が明治の開校期から教育において暗記教育だけではなく、想像力・表現力・思考力を養うことを重要視してきた。表現し自らの力を伸ばす自立し

た女性の育成目的とした教育が行われている歴史的背景からも、舞台芸術表現を学ぶ学科が大学に設置されることは、長年学内外から待望されていた。梅花女子大学においては、平成 28（2016）年の梅花歌劇団「劇団この花」の学問と芸術の融合により実践を繰り返してきた。

このような教育環境の中、中央教育審議会大学分科会高等教育の在り方に関する特別部会がまとめた「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」では、初等中等教育と高等教育の接続の重要性が次のように指摘されている。

初等中等教育段階においては、「知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱をバランス良く育成することをめざすとともに、（中略）高等学校段階までに培われた資質・能力を高等教育においてどのように伸ばしていくかという高大接続の視点から高等教育段階における学修の在り方を再構築していく必要があり、初等中等教育段階における多様な学びに対応した大学入学者選抜の改善を促進するなど、初等中等教育と高等教育との接続の強化を図ることが重要である。（中教審第 211 号、本文 p.15）

舞台芸術表現学科は、現在パブリックコメントが行われているこの中教審答申案における「初等中等教育の接続強化」を具現化しようとするものであり、とりわけ、本学園の中学校、高等学校の舞台芸術を学ぶコースに一貫性を持たせるべく開設を構想するものである。

イ. 社会基盤と舞台芸術

次に、本学の周辺地域における舞台芸術関連の施設設備を見ると、令和 5（2023）年以降、高槻市の高槻城公園芸術文化劇場、大阪市の扇町ミュージアムキューブ、大阪梅田の Sky シアターMBS などがすでに開業し（資料 5）、令和 7（2025）年に開催される大阪関西万博の跡地には、エンターテインメント施設建設の構想もあることなどから（資料 6）、近隣地域の文化芸術関連施設を支える人材の育成も急務となっている。

政府は令和 5（2023）年からの 5 か年を対象とした「文化芸術推進基本計画」において、コロナ禍後の文化芸術を再興させるための方策を策定し、「ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた中長期的な文化芸術の振興方策」「文化と経済の好循環を想像するための方策」「文化芸術行政の効果的な推進のあり方」の 3 本柱を据え、文化芸術の担い手となる団体関係者や文化芸術活動への支援強化、芸術教育の充実を打ち出している（資料 7）。

また、令和 5（2023）年度に採択された独立行政法人日本芸術文化振興会の交付金は、音楽、舞踊、演劇の 3 部門における人材育成に助成金の 70 パーセントが交付され、中でも演劇に多くの交付金が割り当てられたことは注目に値する（資料 8）。

このような官民の舞台芸術への社会的な関心の高まりは、直近の文化芸術を鑑賞する国民の意識にも表れており、特にミュージカル系の鑑賞割合がコロナ禍後に急伸している（資料 9）。現在構想中の舞台芸術表現学科の成果発表（3～4 年次）の形態は、ミュージカルを予定している。文学的なシナリオをもとに、演劇、舞踊、歌唱のすべての要素を網羅することのできる総合芸術という判断からである。

2) 本学に設置する意義

「社会的背景と必要性」で述べたように、身体表現を学ぶ児童、生徒の数は、身体表現系科目の必修化によってその裾野が広がっている。また、本学の付属校を含め、高等学校における舞台芸術系学科あるいはコースの設置により、専門的に舞台芸術を学ぶ生徒は相当数存在する（資料 2）。一方、全国大学志願者数推移を学科系統別に見た場合、「舞台・演劇」志願者は令和 4（2022）年、令和 5（2023）年とも 3,000 人前後と推計されるが、この学問領域の学科を有する大学は全国で 14 大学しかなく、入学定員の総数も 1,050 名と志願者数の 3 分の 1 程度と少ない状況である（資料 10）。本学の通学圏でもある北摂地域（大阪北部）および大阪市内に舞台芸術系の高等教育機関が存在しないこと等を勘案すれば、この地域の需要に応じて本学科を設置することの意義は大きいと考える。

平成 28（2016）年に本学に拠点を置く梅花歌劇団「劇団この花」が設立されたことはすでに述べた。「劇団この花」は地域社会の文化や芸術の振興に寄与するとともに、現代演劇に貢献することを目的とし、舞台に関する総合的な学びの場として、バレエ、ダンス、ミュージカルを通して舞台芸術の基本的な技術や知識、豊かな自己表現力を身につけ、劇団員一人ひとりの可能性を広げながら舞台人としてのあこがれを現実の世界へと導くとともに、日々の活動を通じて清楚で礼儀正しく精神力豊かな人材を育成するという目標を持っている（資料 11）。ミュージカル上演は、長いプロセスの必要な芸術形態であることから、そのプロセスの中で、問題を発見し解決すること、個性のぶつかり合いを集まった人たちが乗り越えることが求められる。題材を演じる事により、国際的な問題や時空を超えた遠い事柄も我が事として考えることにつながる。演劇の特徴は、一人では成立せず俳優、観客も必要であり、作り手も一人では成立しない表現形式である。これら演劇の特徴により今日的課題である協調性や多様な視点を育み、地域の身近な問題から国際的な問題など、人類、人間社会のありよう、価値観を深く考えることができ、上演までの長い時間とプロセスの中で内在化させていくことができる。最終的に演劇（特にミュージカル）を学ぶことによって文学・歴史、今日的課題を、協調して取り組み、内側からの表現を高いプレゼンテーション力を身につけることができる。つまり演劇（特にミュージカル）はアクティブラーニングの高度な手法である。「劇団この花」の創作活動は、大学の共通教育科目に連動しており、劇団員は様々な学部学科に在籍しながら、「ミュージカル総合」などの科目履修として実践してきた。オリジナルミュージカルの上演をはじめ、テレビコマーシャルに出演、地域の福祉施設の訪問

など、地域の文化の向上に寄与している。「劇団この花」には高校生も研修生として参加しており、劇団員と同じく、公演やイベントの出演に選出されることもある。このように、付属中学校・高等学校の舞台芸術コースの設置、大学における「劇団この花」の 8 年間に およぶ水準の高い授業内容と活動実績をさらに体系化し学科の設置をすることは、舞台芸術表現系の学問領域の学びの場が醸成される準備が整っていると考える。

舞台芸術表現学科では、本学に在職する教員に加え、梅花歌劇団「劇団この花」の講師陣を中心に、国内外で評価の高い一流の演出家、脚本家、プロデューサー、舞踊家、声楽家が新たに指導にあたる。一線で活躍する講師陣から学ぶことで、高い水準の学びを得る事ができる。

3) 教育研究上の目的

本学文化表現学部は、「社会の多様な文化の在り方を見つめ、社会に対して自分自身の思考や感性を表現していく力を育む」というディプロマ・ポリシーを掲げ、「その能力や資質を涵養するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、自らの将来を切り拓く力を育成する」ためのカリキュラム・ポリシーを提言している。また、同学部では文学、歴史、文化、創作、教育、言語、コミュニケーション、情報、メディア等にわたる幅広い領域について研究、教育を実践するため、各学科の特色に適ったアドミッション・ポリシーを掲げている。

舞台芸術表現学科は、これらの 3 つのポリシーの精神を踏襲しながら、思考や感情を身体を通じて表現する舞台芸術の総合的理解と創造的実践を学びの基本理念とし、わが国および諸外国の芸術文化の継承発展に寄与することを教育研究上の目的とする。また、国際的なエンターテインメントを学ぶ機会を設け、質の高い学びにより様々な現場で活躍できる舞台人や表現する人をファシリテートできる人材を育成することにより、演者にとっても観客にとっても東京一極集中となっている芸術文化が、関西圏において一層醸成される方略の一助になればと考える。研修先である演劇のメソッドの本場であるイギリスロンドン「MOUNTVIEW 演劇学校」は、在籍学生約 600 名（うち留学生 25 ヶ国、25%）、日本の大学の受け入れは初となるが、国際的な学生の受け入れをはじめ多様化に積極的な演劇学校である。また学位の得る学修プログラムと同等の高度な内容が研修プログラムの内容となっている。充実した講師陣や施設で深い学びとなる予定である。

現在、文化表現学部情報メディア学科のマスコミ・パフォーマンス専攻には、想像および創造することの楽しさ、日々のアンテナのはり方、感性の養い方、またその技術や表現の仕方を学ぶカリキュラムがすでに用意されている。同様に、文化表現学部の各学科の副専攻科目には「舞台技術」「バレエ」「ダンス」等の身体表現系科目が展開されている。舞台芸術表現学科ではこれら既存科目の学びを集約し、さらに体系的・専門的に学ぶために科目を再構成、補充強化することによって、円滑に教育課程の編成が進むものと考え、ここに文科系教授陣による歴史文化の教育研究の成果を組み込むことによって、本学科の教育研究の趣旨・目的が具現化されるものと考え。

4) 中心的な学問分野

「舞台芸術表現学科」は文化表現学部の中に設置するため、この領域における学問分野は文学、歴史、文化、創作、教育、言語、コミュニケーション、情報、メディアなど、人間の文化的活動やその表現形式に焦点を当てた幅広い領域を学ぶ。2000年以上ある人類、人間や社会のありようを人の身体を通して表現し発信していく。演劇、舞踊、歌唱などの身体表現系の演習・実習、さらに舞台企画制作領域において、演出法に加え、戯曲の読解・読み合わせを重点的に行う演習が加わる。様々な表現方法があるが、「舞台芸術」の特徴である、人が人の目の前で人の身体を使い行うコミュニケーション、プレゼンテーションの手法を用いることにより今日的課題についても問題発見・解決し、相互理解を深めていく。

演劇の分野では「演劇史」「舞台芸術概論」等を配置して理論と実践を専門的に学ぶことで、クリティカルに考え、論じ、鑑賞し、発信し、表現することで学びを深める。

舞踊の分野では「ミュージカル入門」等の講義科目を配し、「舞台芸術基礎演習」「舞台芸術研究演習」等の演習科目で舞踊分野の実践的な領域を補う。

身体表現系の分野では「身体基礎演習」を置き、芸術的な身体表現を行う準備を整える。

舞台企画制作分野では、「舞台芸術基礎演習」「舞台芸術研究演習」で、国内外の戯曲を重点的に読み込む訓練を行い、文芸作品の持つ深い意味を探り、それを発話や身体を通して表現する技術を身につける。

(3) 人材育成

1) 育成する人材像

ア. 本学がめざす人材像

本学では、「他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性の育成」を建学の精神とし、キリスト教精神に基づき、自ら問題を発見して解決できるチャレンジ精神と、気品や思いやりを備えたエレガントな女性を育成することをめざしている。

イ. 文化表現学部がめざす人材像

さらに文化表現学部では、「地域的な広がりや歴史的な流れの中で培われてきた、言語や文学、文化や情報に関する専門知識を学ぶことによって豊かな感性をみがき、広い国際的な視野を身につけるとともに、そこから得られた新たな価値観をもとに、多様な手段と方法を用いて文化を表現し、発信することのできる想像力豊かな女性の育成をめざす」という人材育成の方針を掲げ、「多様性、国際性、発信力」を打ち出している。

ウ. 舞台芸術表現学部がめざす人材像

舞台芸術表現学部では、舞台芸術に関する専門的な知識と技能を修得するとともに、0から1を生み出す芸術的想像力であるアート思考と、他者と協働しながら課題を整理し、形に

する構想力であるデザイン思考の両者を兼ね備え、これらを活用し、既存の枠にとらわれな
い創造力と課題解決力を備え、国内外の芸術文化と社会の発展に貢献できる次のような
人材の育成をめざす。

【人材像】

- ①舞台芸術全般の知識や技術を身に付け、アート思考を通じて**舞台芸術の未来**を担い、発信
していく意欲を持つ人
- ②舞台芸術を通じて世界の多様性を理解した上で、身体と言葉を使って**自分自身を創造的
に表現**できる人
- ③地域社会や国際社会の課題を見出し、デザイン思考を通して社会との協調関係を築き、舞
台芸術によりつつ**課題解決**に向き合える人
- ④舞台芸術の経験を基礎に、人に対して自らの言葉で考えを伝え、また人の言葉に耳を傾
けることのできる、**人間的コミュニケーションの力**を持つ人
- ⑤舞台芸術を通して身に付けたこれからの時代の**女性としての多様な生き方**を社会に向け
て発信できる人

2) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ア. 本学のディプロマ・ポリシー

本学は、建学の精神および教学の理念に基づき、次に掲げる能力を有し、かつ各学部学科の
学位授与方針に定める基準に達して所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与す
る。

- ① キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、社会の発展と文
化の向上に貢献する力。
- ② 多様な価値観を認めて、隣人とコミュニケーションを深め、連携・協働する力。
- ③ 専門的な知識・技能を修得するとともに、主体性や思考力、実践力などを身につけ、
新たな課題を発見し解決する力。

イ. 文化表現学部のディプロマ・ポリシー

文化表現学部では、自分たちの置かれている社会の多様な文化のあり方を見つめ、社会に対
して自分自身の思考や感性を表現していく力を育むために各学科が定めたカリキュラムを
履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- ① 各学科の専門分野における基礎的な知識を持ち、その分野を広く見渡せる力。
- ② 各学科の特性に合ったそれぞれの方法で新たな文化を創造し、社会に貢献する力。
- ③ 自ら行った研究の内容を論文や創作などの形にまとめ、主体的に表現する力。

ウ. 舞台芸術表現学科のディプロマ・ポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

(学位授与の方針) 以下の能力を有する学生に学位を授与する。

- ①舞台芸術に関する専門的な知識と技能を体系的に修得し、世界の多様な文化や価値観を理解するとともに、アート思考を活かして舞台芸術を実践していく力
- ②舞台芸術の歴史や劇作品を、とりわけ実践を通して、自己の身体を媒介にアート思考を用いた創造的な表現活動を行う力
- ③舞台芸術の総合的な学識と実践経験を踏まえ、デザイン思考を活用してさまざまな社会課題を発見し、舞台芸術を応用して協働的に解決していく力
- ④舞台芸術を通じて、自己と他者をよりよく理解し、デザイン思考に基づく対話や協働を通じて社会と円滑な関係を構築・維持できるコミュニケーションの力
- ⑤舞台芸術や関連する表現活動で培ったアート思考とデザイン思考を基盤に、これからの時代の女性としての自己の生き方を主体的に社会に発信していく力

3)教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

⑥. 文化表現学部のカリキュラム・ポリシー

文化表現学部では、多様な文化のあり方を主体的に探求するとともに、その成果を各学科の特性に合わせた様々な方法で表現・発信する能力を身につけるよう、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

- ① 主専攻科目には、基本科目と発展科目を置く。
- ② 基本科目には、各学科の学びの基礎的または包括的な内容の科目を置く。
- ③ 発展科目には、各専攻の専門性を高め学科の特性を生かした人材育成のための科目を置く。

イ. 舞台芸術表現学科のカリキュラム・ポリシー

舞台芸術表現に関する知識と技能を基盤に、アート思考とデザイン思考を活用して創造力と課題解決力を培い、国内外の舞台芸術の発展に貢献できる人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

- ①舞台芸術の演出技法、台本制作、デジタル技術の応用、演技、マネジメントなどの理論と実技を段階的に学び、アート思考を活用して独創的な表現力を養うカリキュラム編成
- ②舞台芸術の劇作品の読解や演技、身体表現や言語表現の訓練を通じて、アート思考による自由な発想と創造性、表現力を高め、舞台上でのアンサンブルを深化させるカリキュラム編成

- ③国際的課題や地域社会の課題を理解し、デザイン思考を活用して課題を発見・構造化し、多様な組織や社会への参加を行いながら、舞台芸術を実践的に企画し、プロジェクトとして実現していく力を育成するカリキュラム編成
- ④上演と創作を踏まえて、鑑賞・批評・記録・アーカイブ化などの観客としての視点を深め、他分野の学びや国際交流を通じて学際性・国際性とともによりアート思考の多角的活用力を育成するカリキュラム編成
- ⑤ゼミ（演習）などを活用した少人数教育を重視し、学生一人ひとりの適正に応じた課題発見能力を高め、デザイン思考を取り入れた対話型・協働型の主体的学びを支援するカリキュラム編成

4) 入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

ア. 本学のアドミッション・ポリシー

本学は、キリスト教精神に基づき、隣人を愛し他者を思いやることを備え、積極的に社会に貢献しようとする自立した女性の育成をめざしている。入学者受け入れにおいては、この建学の精神に理解を示し何事にも積極的に取り組むチャレンジ精神に溢れ、学位授与の方針に謳われた学修目標を実現し、社会に貢献しようとする意欲ある学生を求めている。入学者選抜の方針は以下のとおりである。

- ① 多様な能力および個性をもった学生を受け入れ、互いに尊重し合い、互いに高め合う教育環境を通して、様々な社会分野で活躍、貢献できる女性を育むために複数の入学者選抜を実施する。
- ② 入学者選抜方法には、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を設ける。
- ③ 上記の入学者選抜方法においては、学力試験の他、面接、小論文、高等学校における調査書および課外活動などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

イ. 文化表現学部のアドミッション・ポリシー

文化表現学部では、文学、歴史、文化、創作、教育、言語、コミュニケーション、情報、メディア等にわたる幅広い領域について研究し、教育が行われている。入学者受け入れにおいては、各学科の特性を理解し主体的に学び自ら探求して得たものを表現していく意欲のある学生を求め、選抜を行う。各学科の学びの基礎となる基本的な知識については、各学科のアドミッション・ポリシーに掲げられた教科を十分に学習しておくことを求める。

- ① 本学部では、幅広い視野と教養を身につけ、専門教育で培った能力をそれぞれに合った方法で発揮し、その成果を創造的に発信していく意欲を持った学生を求める。
- ② 各学科の学びの基礎となる教科だけでなくその背景にある知識・教養を身につけるため、関連する教科も十分に勉強しておくことを求める。
- ③ 筆記試験においては基礎知識と読解力、小論文では読解力と文章力、面接では高等学

校までに積極的に行った学習やその他の課外活動について適切に表現する力を評価する。

ウ. 舞台芸術表現学科のアドミッション・ポリシー

舞台芸術表現学科は、舞台芸術を文化的・歴史的背景と結びつけて深く学び、理論的理解と実践的応用を通じて新たな価値を創造できる人材を求める。特に以下の素養を有する入学者を歓迎する。

【アドミッション・ポリシー】

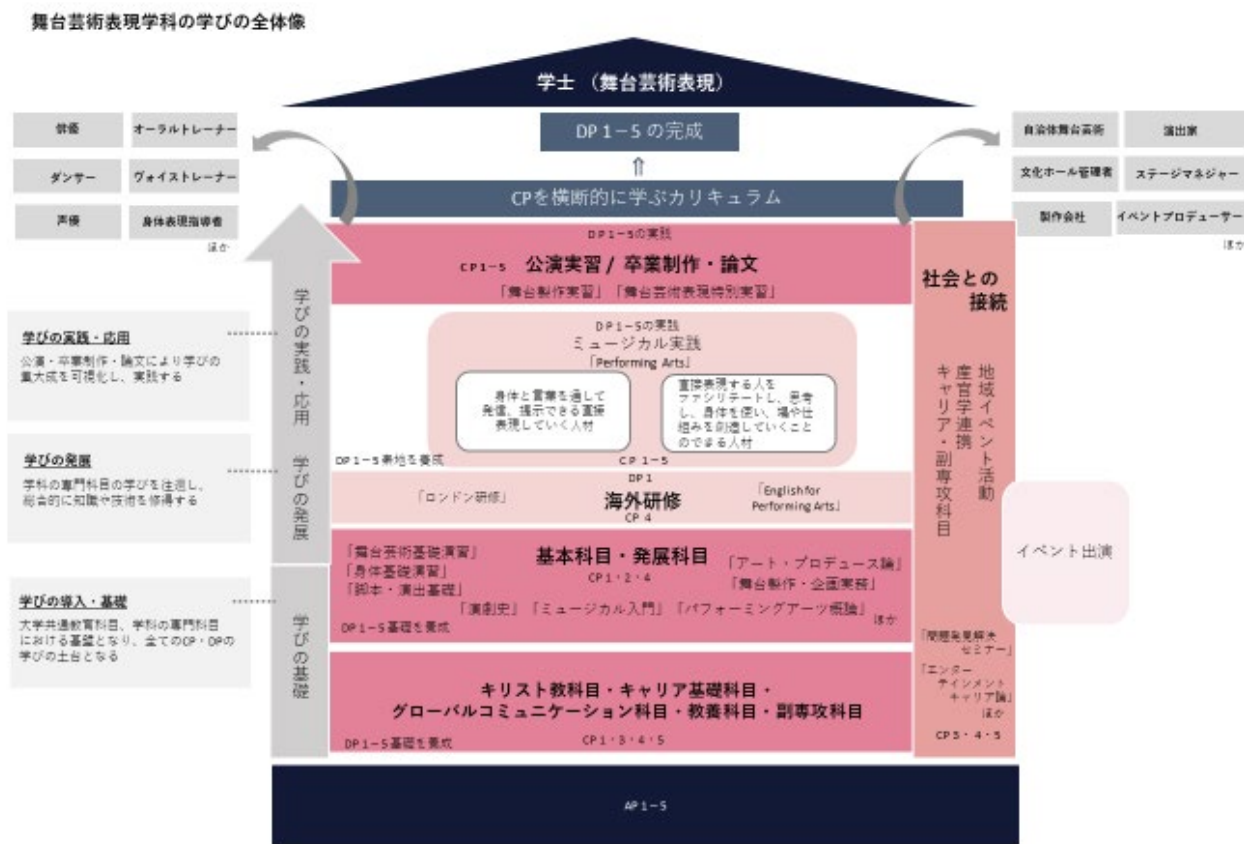
(入学者の受け入れの方針) 以下のような学生を受け入れる

- ①舞台芸術に広く関心を持ち、協働的な演劇創造に主体的に取り組む意欲のある人
- ②舞台芸術に関わる自己表現に関心を持ち、自ら舞台表現に取り組む意欲のある人
- ③世界の諸問題や現代社会の課題に広い関心を持ち、舞台芸術を通じて社会との関係を構築していきたいと考えている人
- ④舞台芸術全般に広い関心を持ち、歴史・理論・実践の諸側面から総合的に舞台芸術を学びたいと考えている人
- ⑤これからの社会の中で女性としての自己実現のあり方を舞台芸術に関わることで見つけていきたいと考えている人

5) 3つのポリシーの関係

舞台芸術表現学科の3つのポリシーでは、文化表現学部のポリシーでも打ち出されている「国際性」「多様性」「発信力」という共通するキーワードを軸に、一貫した教育システムを構築している。ディプロマ・ポリシーでは、カリキュラムでの学びを通じて、舞台芸術を多角的に理解し、「実践的応用」の能力や「社会での課題解決」に取り組む力を修得した学生に学位を授与することを掲げ、さらに「論理性」「創造性」を求めている。カリキュラム・ポリシーでは、舞台芸術に関する「理論と実践」（「論理性」と「創造性」）を学び、幅広い教養と専門技能（「国際性」「多様性」）を身につけ、国内外の舞台芸術の発展に貢献できる人材（「発信力」）を育成する教育課程を設計している。そのうえで、アドミッション・ポリシーでは、基本的な知識・技能を習得したうえで、舞台芸術を「学問的に探究」し、創造的な表現や「協働」を通じて「社会貢献」をめざす資質を持つ学生を求めている。このように、3つのポリシーは本学科の一貫した教育上の学問と実践を結びつける教育理念を支えている。(図1)

(図1)



6) 卒業後の進路

舞台芸術表現学科を卒業した学生のめざす職種としては、パフォーマンスに係る業界、エンターテインメントに係わる業界、マスコミ（放送・出版）業界、地域の文化事業を促進する団体、舞台制作に係る業界、イベント企画に係る業界、観光業界等が想定される。本学に拠点を置く「劇団この花」の卒業生には、劇団四季、東宝などのミュージカル俳優やテーマパークダンサー、振付家として活躍する者も輩出しているので、俳優業をめざす者も少なからず想定される。

2. 学部・学科等の特色

「舞台芸術表現学科」では、劇文学、演劇、歌唱、舞踊など、舞台芸術の各分野における深い理解と実践的な技術を習得できる教育課程を提供する。また、国内外の芸術文化との接点を大切にし、国際的な視野も養うことをめざしている（ロンドン研修を実施）。特に、舞台芸術の創造的表現や発信力を強化する実践的な学びを重視し、学生が現代社会における

舞台芸術の役割を理解し、積極的に社会に貢献できる能力を養う（ミュージカル公演を予定）。加えて、地域社会やグローバルな舞台との連携を促進し（インターンシップ・産官学連携を予定）、芸術活動を通じて社会に影響を与える力を育成する。このように、舞台芸術表現学科では経験豊かな教授陣により学生一人ひとりが持つ多様な可能性を引き出し、舞台芸術を通じて社会に新たな価値を創造することをめざす。

(1) 舞台芸術の確かな知識・技術を修得する教育

舞台芸術の多様な分野における基礎から応用までを体系的に学び、実践を通じて確かな技術を習得する。演劇、舞踊など、各分野の専門知識を深めることをめざし、理論（「舞台芸術基礎演習」等）と実技（「舞台芸術研究演習」等）をバランスよく組み合わせたカリキュラムを提供する。学生は、舞台芸術の歴史や理論的背景を学ぶ一方で、演技や演出（「舞台制作・企画実務」等）などの実技的なスキルを身につけ、現場で即戦力として活躍できる能力を養う。また、プロジェクト型の授業や公演実習を通じて、集団での創作や実際の舞台制作に携わり、実践的な経験を積むことができる。このように、知識と技術の両面から学生を支え、舞台芸術の専門家として社会で活躍できる人材を育成する。

(2) 社会応用を志向する人材の育成

舞台芸術が持つ社会的な役割と影響力を深く理解し、それを社会に活かす方法を学ぶ。学生は、舞台芸術が地域社会や文化的環境に与える影響について探求し、芸術を通じて人々との交流や社会問題に対する意識を高めることをめざす（産官学連携プロジェクト）（資料12）。実践的なプロジェクトや地域連携活動を通じて、舞台芸術の持つ可能性を広げ、社会的課題の解決に貢献できる力を養う。また、舞台芸術を通じて新たな価値観や視点を創出し、文化的多様性を尊重する姿勢を身につける。このように、舞台芸術の専門的知識と社会的な貢献意識を併せ持つ人材を育成し、社会にポジティブな変化をもたらすことをめざす。

(3) 現場重視の実践教育

実際の舞台制作や公演活動に参加し、現場で必要とされるスキルを身につけることを重視する。授業は理論や技術を学ぶだけでなく、演劇公演や企画制作実務に直接関わる機会を提供する。学生は、演出、演技、制作などの多岐にわたる分野を実際の舞台で体験し、チームワークやコミュニケーション能力を養いながら、プロフェッショナルとしての感覚を磨く。また、プロの舞台スタッフやアーティストと共に制作に参加することで、業界の実情や舞台制作の流れを理解し、現場で求められる柔軟な対応力や問題解決能力を育てる（資料13）。このように、学びの場としての「学校」と「舞台現場」をつなげることで、学生は即戦力として活躍できる実践的な知識と技術を修得する。

3. 学部・学科等の名称および学位の名称

(1) 学部・学科の名称および学位名称

学部名称は現行通り、「文化表現学部」とする。新学科は文化表現学部において、「舞台芸術」を「文化表現」の一形態と捉え、以下のとおりとする。

学科の名称：舞台芸術表現学科学

学位名称：学士（舞台芸術表現）

(2) 英語名称

学部の英語名称は現行通り、「Faculty of Cultural and Expression Studies」とする。また学科の英語名称を以下のとおりとする。

英語名称：Department of Performing Arts

学位の英語名称：Bachelor of Performing Arts

4. 教育課程の編成の考え方および特色

(1) 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

1) 本学のカリキュラム・ポリシー

本学は、学位授与の方針に掲げる能力や資質を涵養するとともに、学生の能力を最大限に引き出し、自らの将来を切り拓く力を育成するために、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

ア. 思考力・判断力・表現力等の能力

幅広い視野と豊かな人間性を育み、知性と品性を備え、社会で活躍できる女性となるための基礎的な力を身につけることを目的として、「共通教育科目」にキリスト教科目（思考）、キャリア基礎科目（判断）、グローバルコミュニケーション科目（表現）、教養科目を置く。

イ. 知識・技能

各学部学科の「専門教育科目」は、学生が専門的な知識や技能を修得するとともに、主体性や、思考力、実践力、課題発見・解決力などの育成を通して、学生が社会的に自立し活躍できる力を身につけることを目的として編成する。

ウ. 多様性・国際性・主体性・協働

より広い知識と教養を身につけるために、他学部他学科の科目や他大学の科目（多様性）を履修することができ、さらにはグローバルな視野を養うために海外の協定大学での学習の機会（国際性・主体性・協働）を設ける。

2) 舞台芸術表現学科のカリキュラム・ポリシー

舞台芸術表現に関する知識と技能を基盤に、アート思考とデザイン思考を活用して創造力と課題解決力を培い、国内外の舞台芸術の発展に貢献できる人材を育成するため、次の実施方針に基づきカリキュラムを編成する。

- ①舞台芸術の演出技法、台本制作、デジタル技術の応用、演技、マネジメントなどの理論と実技を段階的に学び、アート思考を活用して独創的な表現力を養うカリキュラム編成
- ②舞台芸術の劇作品の読解や演技、身体表現や言語表現の訓練を通じて、アート思考による自由な発想と創造性、表現力を高め、舞台上でのアンサンブルを深化させるカリキュラム編成
- ③国際的課題や地域社会の課題を理解し、デザイン思考を活用して課題を発見・構造化し、多様な組織や社会への参加を行いながら、舞台芸術を実践的に企画し、プロジェクトとして実現していく力を育成するカリキュラム編成
- ④上演と創作を踏まえて、鑑賞・批評・記録・アーカイブ化などの観客としての視点を深め、他分野の学びや国際交流を通じて学際性・国際性とともアート思考の多角的活用力を育成するカリキュラム編成
- ⑤ゼミ（演習）などを活用した少人数教育を重視し、学生一人ひとりの適正に応じた課題発見能力を高め、デザイン思考を取り入れた対話型・協働型の主体的学びを支援するカリキュラム編成

(2) 科目区分および教育課程の編成

1) 全学共通科目の編成および履修方法

本学を卒業するには、4年以上在学し、下記に示した単位（卒業要件単位）を修得しなければならない。卒業要件を満たした学生は卒業が認められ、学位「学士」が授与される。

学部・学科		キリスト教	キャリア	グローバルコミ	教養科目	主専攻科目	副専攻科目	他専攻科目	総単位数
		科目	基礎科目	ユニケーション 科目					
文化表現 学 部	国際英語学科	2	14	4		70	34		124
	日本文化学科	2	14	4		70	34		124
	情報メディア学科	2	14	4		70	34		124
	舞台芸術表現学科	2	12	4		74	34		126
心理こども 学 部	こども教育学科	2	14	4		80	26		124
	心理学科	2	14	4		70	34		124
食文化 学 部	食文化学科	2	12	4		70	36		124
	管理栄養学科	2	10	4		103	5		124

看護保健	看護学科	2	4	4		110	6		126
学 部	口腔保健学科	2	4	4		106	8		124

ア. カリキュラムの特色

本学の建学の精神であるキリスト教について学ぶ授業をはじめ、現代社会において求められる幅広い知識と教養、さらには各種のスキルを身につけるための科目を配置する。

① キリスト教科目

キリスト教の精神を教育の基礎とする本学では、必修科目「聖書の世界」において、キリスト教の精神を聖書に基づき学ぶ。選択科目「澤山保羅と建学の精神」では、本学の創立者について学ぶ。キリスト教の愛の精神、自由と共生の心にふれることによって、豊かな人間性を育む。

② キャリア基礎科目

大学入学時から、将来を見据え自分のキャリアを開発する意識を育む科目が必修となっている。大学で学ぶ基本的な事柄を学ぶ「初年次セミナー」、大学で学ぶ姿勢作りにつながる「問題発見・解決セミナー」、卒業後に社会で働く自分の姿をイメージする「キャリアデザイン」、コミュニケーション能力を養成する「美しい日本語」、情報社会に対応するための「情報処理演習」など、多彩な科目を学ぶ。

③ グローバルコミュニケーション科目

国際社会における必須言語である英語について、その運用方法を「英語会話Ⅰ～Ⅳ」で学ぶ。

④ 教養科目

現代社会を生き抜くのに必要な幅広い知識と教養を学ぶための多彩な科目を配置する。

イ. 全学共通科目の履修方法について

科目区分ごとに、履修しなければならない科目や単位などを定める。

① キリスト教科目

1年次に「聖書の世界」を必修科目としている。いずれも学部・学科ごとに指定するクラスで受講。

② キャリア基礎科目

「初年次セミナー」「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」など、学部・学科ごとに定められた卒業要件に示されている必修科目を、指定するクラスで受講する。

③ グローバルコミュニケーション科目

1年次に「英語会話Ⅰ」「英語会話Ⅱ」、2年次に「英語会話Ⅲ」「英語会話Ⅳ」を必修科目とする。入学後に実施するプレースメントテストにより能力別クラス分けを行う。

④ 教養科目

人文、社会、自然科学分野の多彩な科目の中から授業を選択できる。

2) 専門科目の編成および履修方法

舞台芸術表現学科の専門科目は、カリキュラム・ポリシーに基づいて、基礎から応用まで段階的に学べるように編成されている。1・2年次では基本知識を修得する講義系科目に加え、「舞台芸術基礎演習」や「舞台芸術研究演習」など、技術や表現の基礎を学び、舞台制作の基本的なスキルを養う。3年次以降は「舞台芸術総合演習」を通じて、具体的な舞台作品の創作や運営を実践的に学ぶ。また、「舞台制作・企画」系科目では、専門技術や舞台芸術の分析・研究も行われる。4年次には「卒業演習」として、自身の集大成となる作品や論文を制作、もしくは「舞台芸術表現特別実習Ⅰ/Ⅱ」を通して舞台制作に取り組むこともできる。専門科目は、以下カリキュラム・ポリシーに基づいて74単位以上の取得を要する。(本学の「履修の手引き」の規程に則り、「講義」科目は15時間をもって1単位、「演習」は15～30時間をもって1単位とする。また「実習」「実技」科目は30～45時間をもって1単位とする。)

(以下、*は「主要授業科目」)

ア. 「1. 知識・技能」を実現するために、「基本科目」に「舞台芸術入門」* (講義2単位) 「ミュージカル入門」* (講義2単位) 「演劇史」* (講義2単位) の講義系科目 (必修3科目6単位)、「脚本・演出基礎」* (演習2単位) 「エンターテインメントキャリア論」(講義2単位) 「舞台制作・企画実務」* (演習2単位) 「身体基礎演習Ⅰ」(実習1単位) 「身体基礎演習Ⅱ」(実習1単位) の演習・実習系科目 (必修4科目6単位) を置き、知識・技能を習得する。

イ. 「2. 思考力・判断力・表現力等の能力」を開発するために、「発展科目」に「English for Performing ArtsⅠ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ」(演習各2単位：必修4科目8単位) を配置し、海外で舞台芸術を学ぶことを想定して自ら考え、判断し、英語で発信する能力を身につける。さらに「ロンドン研修」* (演習2単位：必修) 科目において、学術的評価が確立しているイギリスの演劇学校にて約1週間にわたる実技・講義などを含む授業をおく。この方針は同じく「発展科目」の「Performing ArtsⅠ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ/Ⅵ/Ⅶ/Ⅷ」(実習各1単位：必修8科目8単位) にも共通しており、舞台芸術について深く考え、適切な判断を行うことで、豊かな表現力が発揮されることをめざす。4年次には「卒業演習Ⅰ/Ⅱ」* (演習各2単位：2科目必修4単位) を置き、「思考、判断、表現」の能力を最大限に引き出す科目とする。

ウ. 「3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を実現するために、1・2年次の「基本科目」に「舞台芸術基礎演習Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ」* (演習各2単位：Ⅰは3分野必修6単位、Ⅱ/Ⅲ/Ⅳは選択必修6単位以上) と「舞台芸術研究演習Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ」(演習各2単位：選択必修8単位以上) の連動する演習授業を置き、演劇、舞踊、企画制作の各分野で3年次の「公演実習」(実習3単位必修) に向けた協働作業を行う。また、同じく「基本科目」の3

年次配当「舞台芸術総合演習 I/II/III/IV」*（演習各 2 単位：4 科目 8 単位必修）は「公演実習」のための理論と実践を同時に実施する。

エ.「発展科目」に「シェイクスピア劇上演論」（講義 2 単位）「舞台制作・企画演習」（演習 2 単位）「即興芸術論 I/II」（講義各 2 単位）「即興芸術演習 I/II」（演習各 2 単位）「モダンドラマ論」（講義 2 単位）「パフォーマンス・スタディーズ」（講義 2 単位）などを置き（選択 7 単位以上）、上記、ア、イ、ウの教育課程の補足的ではあるが専門性の高い学びを提供する。

以上、舞台芸術表現学科のカリキュラム編成にあたっては、74単位以上の専門科目を、本学の規程通りに単位認定しても、必要かつ十分な教育効果が上がるよう、時間数が確保されている。

3) 副専攻科目教育目的および履修方法

副専攻科目の教育目的は、「主専攻で学ぶ専門分野を基盤として、将来の多様なキャリアに合わせた実践的科目や資格関連科目を設置することによって、多様な分野で活躍できる女性の育成をめざす」ことにある。この科目群には、他学部他学科と共通の科目が配置され、舞台芸術表現学科にとって専門科目の有効な学習に資する学びの場となり、以下の科目群より 34 単位を修得することができる。

科目	形態	配当学年	単位
基礎医学	講義	1	2
メディカル心理学	講義	1	2
メンタルヘルス入門	講義	1	2
メディカルヨガ I	実技	1	1
メディカルヨガ II	実技	1	1
メディカルアロマセラピー概論	講義	1	2
メディカルピラティス I	実技	2	1
メディカルピラティス II	実技	2	1
心身を整えるセルフケア	実習	1	2
メイクアップ理論	講義	1	2
メイクアップテクニック I	実習	1	1
メイクアップテクニック II	実習	2	1
美容整体&ボディデザイン	実習	1	2
食とカラダの診断学	講義	1	2
美と健康の薬膳学	講義	1	2

色彩学入門	講義	2	2
ヴォイストレーニングⅠ	実習	1	1
ヴォイストレーニングⅡ	実習	1	1
ヴォイストレーニングⅢ	実習	2	1
ヴォイストレーニングⅣ	実習	2	1
バレエⅠ	実技	1	1
バレエⅡ	実技	1	1
ダンスⅠ	実技	1	1
ダンスⅡ	実技	1	1

4) 教育課程編成の特色

舞台芸術表現学科の教育課程は、「中教審のガイドライン」「設置の手引き」「教学マネジメント指針（追補）」を踏まえ、学問的基盤と実践的な技術の両面を重視して設計されている。基礎的な教養科目に加え、舞台芸術の専門知識や技能を体系的に学べる科目を配置し、演劇、舞踊、舞台制作・企画といった多分野にわたる学びを提供する。学生は、段階的に専門性を高めるとともに、実践的なプロジェクトや公演実習を通じて現場経験を積むことができる。さらに、多文化理解や国際的視野を養う科目や地域連携を重視したプログラムを設け、社会的課題への応用力を育成する。この教育課程は、学生が卒業後に舞台芸術の専門職や多分野で活躍できる能力を身につけることをめざしており、学問と実践を融合させた独自性のあるカリキュラムを展開している。

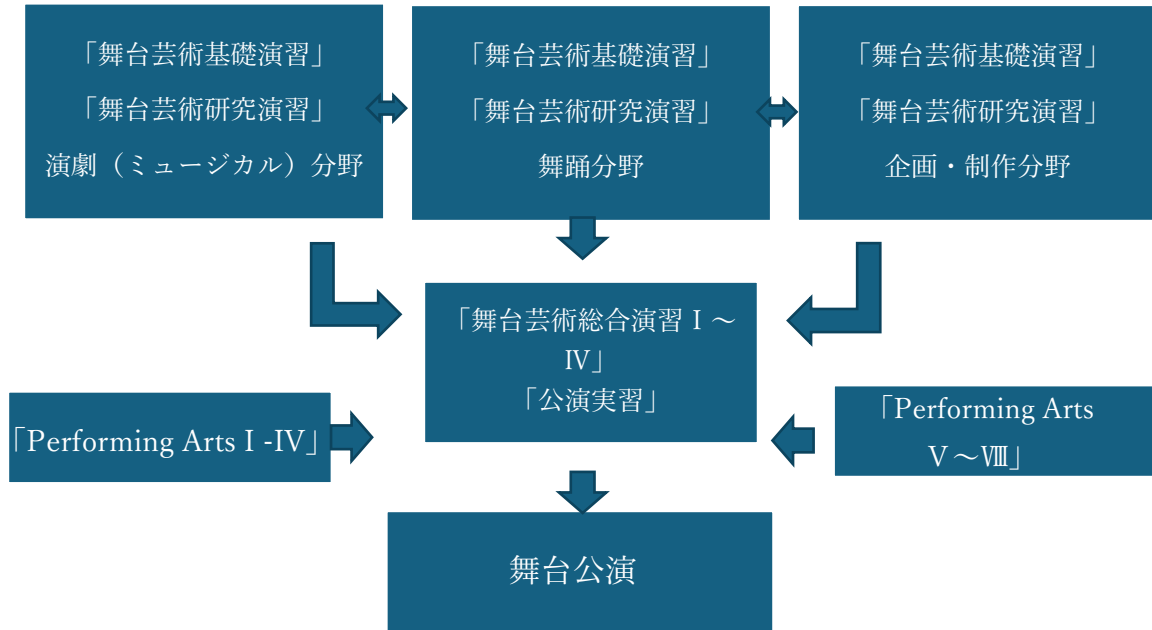
ア. 本学および文化表現学部のカリキュラム・ポリシーを踏まえた文化表現学系科目の配置
 本学の教育課程は、他学部他学科の特に基本科目の講義系科目を履修することができるように設計されている。舞台芸術表現学科においてもまた、全学の学生が履修することを意識した科目を配置する。学科の学生にとっても基本科目となる「舞台芸術入門」「演劇史」「ミュージカル入門」「エンターテインメントキャリア論」などは、特に文化表現学部既存学科の学生にとっても有用な知識を提供する内容となる。また、「脚本・演出基礎」「舞台制作・企画実務」は専門的な科目名ながらも、戯曲・台本を徹底的に読み込みながら、演技演出や舞台制作に繋げる方策を模索する内容となり、作品解釈を基本に据える。

イ. 専門科目をパフォーマー分野と企画・制作分野に大別した科目配置

パフォーマー分野では主に「演劇（ミュージカル）」分野と「舞踊」分野に関する授業運営が行われる。さらに、企画・制作分野では前述のように文学的解釈に立脚した企画・制作を主眼に据えた授業運営が行われる。これらの科目間は選択必修科目（一部必修科目）として柔軟に履修ができるように設計している。

ウ. 舞台公演に収斂する演習・実習系の科目配置

3年次の2月(予定)に実施される舞台公演に向けて、3年次配当の「公演実習」「舞台芸術総合演習Ⅰ～Ⅳ」「Performing ArtsⅠ～Ⅷ」が用意されている。すべての学生はこれらの科目を通して舞台公演について総合的に学ぶことが出来る。



エ. 「国際性」「主体性」「多様性」「協働」を明確に意識した科目配置

2年次には、ロンドンでの舞台芸術研修を実施している。多様な芸術文化に触れ、主体的に協働作業が行える人材の育成が目的である。「English for Performing ArtsⅠ～Ⅲ」(1年次前期～2年次前期)において事前指導および出発前指導を実施し、英語表現力を向上させ、「English for Performing ArtsⅣ」(2年次後期)において、帰国後の事後指導を実施する。

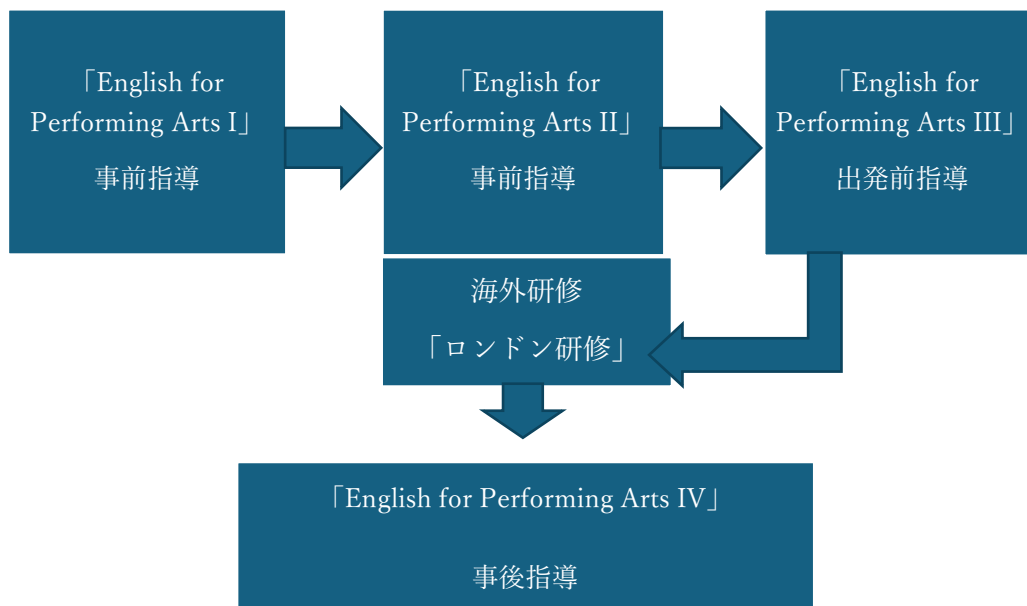
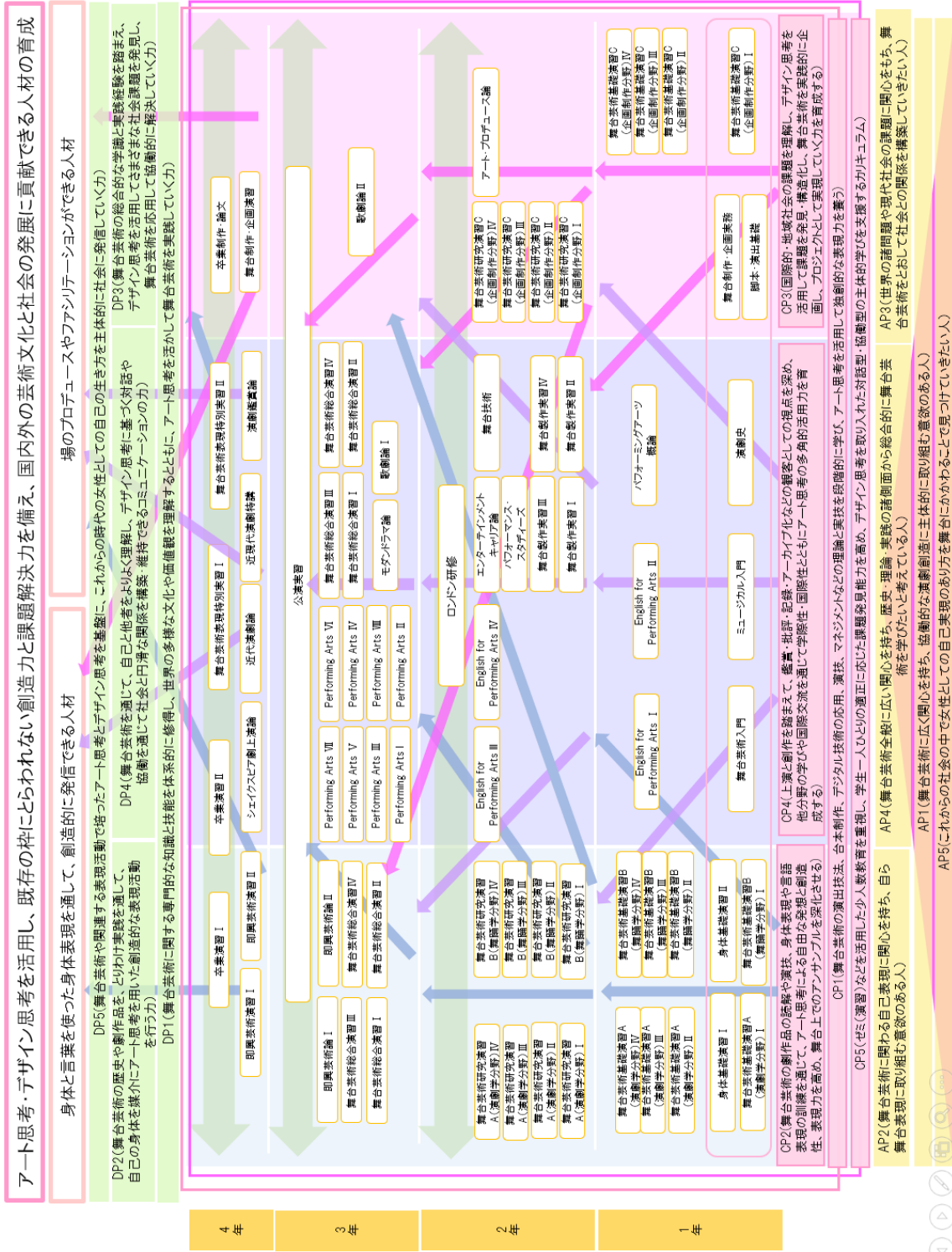


図2 カリキュラムポリシー



5. 教育方法、履修指導方法および卒業要件

(1) 授業の方法、指導方法、受講人数、配当年次

授業は、講義および演習、実習を基本とする。

1) 講義科目

以下、3科目は基本科目に配置される必修科目。

・「舞台芸術入門」(1年次担当、受講生40名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「ミュージカル入門」(1年次担当、受講生40名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「演劇史」(1年次担当、受講生40名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「エンターテインメントキャリア論」(2年次担当、受講生40名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

以下、2科目は基本科目に配置される選択科目。

・「パフォーミングアーツ概論」(1年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「アート・プロデュース論」(2・3年次担当、受講生15名)

以下、10科目は発展科目に配置される選択科目。

・「シェイクスピア劇上演論」(3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「即興芸術論 I/II」(3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、楽器や身体所作を使ってアクティブラーニングを採用する。

・「近代演劇論」(3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「近現代演劇特講」(3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「演劇鑑賞論」(3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「歌劇論 I/II」(2・3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「モダンドラマ論」(2・3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

・「パフォーマンス・スタディーズ」(2・3・4年次担当、受講生15名)

講義形式ではあるが、映像、音声、絵図を用いながらアクティブラーニングを採用する。

2) 演習科目（以下、演習科目であっても、全体で受講する必要があるものについては受講生 40 名で授業を行う。選択必修によって細分化されるものについては 15 名程度とする。「基礎演習」「研究演習」ともに選択必修は「演劇分野」「舞踊分野」「企画制作分野」に分かれるが、「基礎演習 I」のみ 3 分野を必修とする。）

- ・「脚本・演出基礎」(1 年次担当、受講生 40 名)
- ・「舞台制作・企画実務」(1 年次担当、受講生 40 名)
- ・「舞台芸術基礎演習 I」(1 年次担当、受講生 40 名) 舞踊分野は 2 クラス配置
- ・「舞台芸術基礎演習 II」(1 年次担当、受講生 3 分野各 15 名)
- ・「舞台芸術基礎演習 III/IV」(1 年次担当、受講生 3 分野各 15 名)
- ・「舞台芸術研究演習 I / II」(2 年次担当、受講生 3 分野各 15 名)
- ・「舞台芸術研究演習 III/IV」(2 年次担当、受講生 3 分野各 15 名)
- ・「舞台芸術総合演習 I / II / III / IV」(3 年次担当、受講生 40 名)
- ・「卒業演習 I / II」(4 年次担当、受講生 10 名)
- ・「English for Performing Arts I / II」(1 年次担当、受講生 40 名)
- ・「English for Performing Arts III/IV」(2 年次担当、受講生 40 名)
- ・「ロンドン研修」(2 年次担当、受講生 40 名)
- ・「舞台制作・企画演習」(3・4 年次担当、受講生 15 名)
- ・「即興芸術演習 I / II」(3・4 年次担当、受講生 15 名)
- ・「舞台技術」(2・3・4 年次担当、受講生 15 名)

3) 実習科目

- ・「身体基礎演習 I / II」(1 年次担当、受講生 40 名) 2 クラス配置 (各 20 名)
身体表現を行うための準備科目。
- ・「Performing Arts I / II / III / IV / V / VI / VII / VIII」(3 年次担当、受講生 3 分野各 15 名)
「舞台芸術総合演習 I / II / III / IV」を細部にわたってサポートするために実践的な専門訓練を行う。3 分野に分かれて共同授業方式を取る予定。
- ・「舞台製作実習 I / II / III / IV」(2・3・4 年次担当、受講生 15 名)
- ・「公演実習」(3 年次担当、受講生 40 名)
- ・「舞台芸術表現特別実習 I・II」(4 年次担当)

4) 課外における実践活動

イベント出演など課外で行う活動も充実させていき、舞台芸術表現学科の学びを補完する。

(2) 卒業要件

卒業に必要な単位を 126 単位（共通教育科目 18 単位、主専攻科目 74 単位、副専攻科目 34 単位）以上とする。主専攻科目のうち必修科目が 31 科目 53 単位、選択必修科目 14 単位以上、選択科目 7 単位、学科科目として 74 単位以上の取得を必要とする。

基本科目のうち、必修科目は以下の科目とする。

「演劇史」

「ミュージカル入門」

「舞台芸術入門」

「舞台制作・企画実務」

「脚本・演出基礎」

「エンターテインメントキャリア論」

「身体基礎演習 I / II」

「舞台芸術基礎演習 I」の演劇分野、舞踊分野、企画制作分野の 3 科目

「舞台芸術総合演習 I ~IV」

「公演実習」

「卒業演習 I / II」

発展科目のうち、必修科目は以下の科目とする。

「English for Performing Arts I~IV」

「ロンドン研修」

「Performing Arts I~VIII」

(3) 履修モデル

1, 2 年次に「舞台芸術基礎演習」「舞台芸術研究演習」で演劇分野を履修した場合の時間割モデル。ゴシック体は学科主専攻科目。下線部は学科副専攻科目。その他は共通教育科目。

1 年次の時間割モデル

1 年 前期	月	火	水	木	金
1	舞台芸術基礎演習 C(企画制作分野)I	舞台芸術入門	舞台制作・企画実務	English for Performing Arts I	初年次セミナー
2	メイクアップ理論	ヴォイストレーニ ング I	英語会話 I	美しい日本語(話 し方)	バレエ I
3	情報処理演習 I	身体基礎演習 I	舞台芸術基礎演習 A(演劇学分野)I		
4	聖書の世界		舞台芸術基礎演習 A(演劇学分野)II	舞台芸術基礎演習 B(舞踊学分野)I	

1 年 後期	月	火	水	木	金
1		演劇史	ミュージカル入門	English for Performing Arts II	問題発見・解決セミ ナー I
2	メイクアップテク ニク I	ヴォイストレーニ ング II	英語会話 II		バレエ II
3	情報処理演習 II	身体基礎演習 II	舞台芸術基礎演習 A(演劇学分野)III	パフォーマンスアーツ 概論	
4	脚本・演出基礎		舞台芸術基礎演習 A(演劇学分野)IV		

2 年次の時間割モデル

2 年 前期	月	火	水	木	金
1	基礎医学	ヴォイストレーニ ング III	舞台芸術研究演習 A(演劇学分野)I	エンターテインメント キャリア論	
2	メディカルピラテ イス I		舞台芸術研究演習 A(演劇学分野)II		アート・プロデュース 論
3		英語会話 III	メディカルヨガ I	English for Performing Arts III	問題発見・解決セミ ナー I
4					ダンス I

2年 後期	月	火	水	木	金
1		<u>ヴォイストレーニングIV</u>	舞台芸術研究演習A(演劇学分野)III		
2	<u>メディカルアロマセラピー概論</u>		舞台芸術研究演習A(演劇学分野)IV	美しい日本語(書き方)	
3		英語会話IV	<u>メディカルヨガII</u>		キャリアデザイン
4				English for Performing Arts III	<u>ダンスII</u>

3年次の時間割モデル

3年 前期	月	火	水	木	金
1					
2				即興芸術演習I	<u>メディカル心理学</u>
3	Performing Arts I	Performing Arts III	舞台芸術総合演習I	<u>美と健康の薬膳学</u>	パフォーマンス・スタディーズ
4	Performing Arts II	Performing Arts IV	舞台芸術総合演習II	即興芸術論I	

3年 後期	月	火	水	木	金
1					
2				即興芸術演習II	
3	Performing Arts V	Performing Arts VII	舞台芸術総合演習III		
4	Performing Arts VI	Performing Arts VIII	舞台芸術総合演習IV		
5	公演実習	公演実習	公演実習	即興芸術論II	舞台制作・企画演習

4年次の時間割モデル

4年 前期	月	火	水	木	金
1_2					
3		近代演劇論			卒業演習Ⅰ
4	歌劇論Ⅰ				
5	舞台芸術表現特別 実習Ⅰ	舞台芸術表現特別 実習Ⅰ	舞台芸術表現特別 実習Ⅰ		

4年 後期	月	火	水	木	金
1_2					
3	シェイクスピア劇上 演論	近現代演劇特講			卒業演習Ⅱ
4	歌劇論Ⅱ				
5	舞台芸術表現特別 実習Ⅱ	舞台芸術表現特別 実習Ⅱ	舞台芸術表現特別 実習Ⅱ		

(4) 公演実習

「公演実習」は「舞台芸術総合演習Ⅳ」の成果として実施される成果発表であるが、3年次後期に90分を週3コマ配して、実習3単位とする。

(5) 成績評価

- 1) 成績評価は100点法によりおこない、評点が60点以上を合格とする。合格した科目には単位が与えられる。他大学等での学修単位などにおいても、合格基準に達していれば単位が与えられる。なお、試験の受験資格がない場合、および授業の欠席回数が授業時間数の3分の1を超えた場合の成績評価は、原則として失格となり可否の対象とはならない。
- 2) 評点と評価、グレード、グレード・ポイント、可否との関係は次表のとおり。
- 3) 追試験の評点は得点の8割とする。ただし、追試該当事由により適用除外の場合がある。
- 4) 再試験に合格した場合の評点は60点とする。

- 5) 合格点を得た授業科目を再履修することはできない。また、一度修得した単位を取り消すことはできない。
- 6) 不合格となった科目については、改めて履修登録のうえ再履修しなければ単位は与えられない。
- 7) 定期、追試・再試を含めてすべての試験において、1科目でも不正行為があった時は、その期（前期または後期）における全履修科目の成績評価を失格とする。

評点	評価	グレード	グレード・ポイント(GP)	合否	GPA 計算
100 - 90 点	秀	S	4	合格	対象
89 - 80 点	優	A	3		
79 - 70 点	良	B	2		
69 - 60 点	可	C	1		
59 - 0 点	不可	D	0	不合格	対象外
失 格	失格	F	0	-	
留 学 認 定	留(OS)	-	なし	合格	
編 入 学 認 定	編(TC)	-	なし		
その他の認定	認(P)	-	なし		

(2) GPA (Grade Point Average) の概要と計算方法について

- ① GPA (Grade Point Average) とは、履修した授業科目の成績を平均値化したもので、各人の学習指標とすることができます。また、この数値をもとに学習指導や奨学金等の選考に活用することがあります。
- ② GPA は履修登録した卒業要件に含まれる授業科目が対象となりますので、不合格科目（不可や失格）が多い場合は GPA が低くなります。
- ③ GPA の表記は、「通算（累積）GPA」と学期ごとの「学期 GPA」で示します。
- ④ GPA は各学期末に配付する「成績通知票」に記載されますが、「成績証明書」には記載されません。また、教務 Web システムの成績照会で確認することができます。
- ⑤ 不合格となった授業科目の単位数は、その後に再履修し合格となった場合も、「通算（累積）GPA」の計算式の分母に含まれます。
- ⑥ GPA の計算方法は以下のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{\text{(履修登録科目のグレード・ポイント} \times \text{単位数) の総和}}{\text{履修登録科目の単位数の総和 (不可および失格の科目を含む)}}$$

(具体例)

$$S \text{ の成績の単位数の合計 } 12 \text{ 単位} \cdots \cdots 12 \text{ 単位} \times 4 \text{ ポイント} = 48$$

$$A \text{ の成績の単位数の合計 } 18 \text{ 単位} \cdots \cdots 18 \text{ 単位} \times 3 \text{ ポイント} = 54$$

$$B \text{ の成績の単位数の合計 } 8 \text{ 単位} \cdots \cdots 8 \text{ 単位} \times 2 \text{ ポイント} = 16$$

$$C \text{ の成績の単位数の合計 } 6 \text{ 単位} \cdots \cdots 6 \text{ 単位} \times 1 \text{ ポイント} = 6$$

$$D \text{ の成績の単位数の合計 } 2 \text{ 単位} \cdots \cdots 2 \text{ 単位} \times 0 \text{ ポイント} = 0$$

$$F \text{ の成績の単位数の合計 } 2 \text{ 単位} \cdots \cdots 2 \text{ 単位} \times 0 \text{ ポイント} = 0$$

$$\text{履修登録単位数の合計 } 48 \text{ 単位} \qquad \qquad \qquad \text{合計 } 124 \text{ ポイント}$$

$$\text{GPA} = \frac{124}{48} = 2.58 \approx 2.6$$

(6) 履修科目の年間登録上限

各年次にわたり無理なく効果的な学修をおこなうことを目的として、1年間に履修登録できる単位数の上限を設けている。履修登録にあたっては、下記の上限単位を超えないように

すること。上限単位には実習科目も含む。なお、教職・司書科目等の一部の卒業要件単位に含まれない資格関係科目は除く。

学年	上限単位数
1年次	48単位
2年次	48単位
3年次	48単位
4年次	48単位

(7) 海外舞台芸術研修

舞台芸術表現学科では、「ロンドン研修」を2年次後期必修科目として設定する。事前学習（学内）において、英国演劇の歴史と基礎知識について学び、夏季約1週間の期間で、集中的に演劇や舞台芸術の研修を行う。演劇の学術的評価が確立しているロンドンの名門演劇校 MOUNTVIEW Academy of Theatre Arts で英国でのカリキュラムに則った研修を受けることによって、演劇や舞台芸術について理解を深める。帰国後の事後学習では、ロンドン研修における課題を発表し、学習内容を総括する。ロンドンではフィールドワークも実施し、イギリスの文化や芸術に触れ、ウェストエンドの劇場における観劇やバックヤードツアー等を予定している。現地での授業の受講に備え、1年次よりネイティブ英語教員による「English for Performing Arts I/II」および2年次に日本人英語教員による「English for Performing Arts III/IV」を開講する。

(8) 取得可能な資格

本学科では、次の資格を取得することができる。なお、いずれの資格取得も卒業の必須条件としていない。

- ・メディカルヨガインストラクター（民間資格）
- ・メディカルピラティスインストラクター（民間資格）
- ・パーソナルフードデザイナー（民間資格）
- ・日本メイクアップ知識検定（民間資格）
- ・カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス（民間資格）
- ・予防医学食養生士（民間資格）
- ・クリニカルアロマインストラクター（民間資格）
- ・メイクアップ技術検定2級・3級（民間資格）
- ・IHTA 認定ビューティボディメイクデザイナー（民間資格）
- ・IHTA 認定セルフコンディショニングアドバイザー（民間資格）

6. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

舞台芸術表現学科のアドミッション・ポリシー

舞台芸術表現学科は、舞台芸術を文化的・歴史的背景と結びつけて深く学び、理論的理解と実践的応用を通じて新たな価値を創造できる人材を求める。特に以下の素養を有する入学者を歓迎する。

【アドミッション・ポリシー】

（入学者の受け入れの方針）以下のような学生を受け入れる

- ①舞台芸術に広く関心を持ち、協働的な演劇創造に主体的に取り組む意欲のある人
- ②舞台芸術に関わる自己表現に関心を持ち、自ら舞台表現に取り組む意欲のある人
- ③世界の諸問題や現代社会の課題に広い関心を持ち、舞台芸術を通じて社会との関係を構築していきたいと考えている人
- ④舞台芸術全般に広い関心を持ち、歴史・理論・実践の諸側面から総合的に舞台芸術を学びたいと考えている人
- ⑤これからの社会の中で女性としての自己実現のあり方を舞台芸術に関わることで見つけていきたいと考えている人

以上のアドミッション・ポリシーに適う者の入学を期待して学生募集を行う。なお、入学者の選抜にあたっては、基礎学力だけでなく意欲や多様な個性や能力を評価するため、舞台芸術エレガンス入試・指定校推薦入試・総合型公募制学力入試・一般入試、大学入学共通テスト利用入試など、様々な選抜方法による選考区分を設け、多元的評価と複数の受験機会において個々の力が発揮できるような選抜方法を実施する。具体的には次節のような選抜方法を予定している。

(2) 入学者選抜方法

1) 入学試験区分と募集人員

舞台芸術表現学科では、アドミッション・ポリシーに基づき、以下のとおり入学試験を実施する。表中の「○」および「◎」は、各選考方法とアドミッション・ポリシーとの関連度の高い項目を表す。

入学試験区分名称	募集人員	アドミッション・ポリシー				
		1	2	3	4	5
舞台芸術エレガンス入試Ⅰ期	10名	◎	◎	○	○	○
舞台芸術エレガンス入試Ⅱ期		◎	◎	○	○	○
総合型公募制学力入試Ⅰ期	6名	◎	◎	○	○	○
総合型公募制学力入試Ⅱ期	3名	◎	◎	○	○	○

総合型公募制学力入試Ⅲ期	2名	◎	◎	○	○	○
指定校推薦入試	4名	◎	◎	○	○	○
学内推薦入試	3名	◎	◎	○	○	○
一般入試Ⅰ期	8名	○	○	○	◎	◎
一般入試Ⅱ期	2名	○	○	○	◎	◎
大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期	2名	○	○	○	◎	◎
大学入学共通テスト利用入試Ⅱ期		○	○	○	◎	◎
ファミリー入試Ⅰ期	若干名	◎	◎	○	○	○
ファミリー入試Ⅱ期	若干名	◎	◎	○	○	○
指定強化クラブ入試Ⅰ期	若干名	◎	◎	○	○	○
指定強化クラブ入試Ⅱ期	若干名	◎	◎	○	○	○
社会人入試	若干名	○	○	○	◎	◎

2) 入学者選抜方法

ア. 総合型選抜

入学試験区分名称	選抜方法
舞台芸術エレガンス入試Ⅰ期	・実技（歌、踊り、芝居）または舞台に関するプレゼンテーションのどちらかを選択。
舞台芸術エレガンス入試Ⅱ期	・志望理由書 ・調査書
総合型公募制学力入試Ⅰ期	<スタンダード型>学力試験（2教科2科目）、実技（歌、踊り、芝居）
総合型公募制学力入試Ⅱ期	<調査書利用型>学力試験（1教科1科目）、実技（歌、踊り、芝居）のうち点数の高いもの、調査書（全体の学習成績の状況）
総合型公募制学力入試Ⅲ期	<スタンダード型>学力試験（1教科1科目）および実技（歌、踊り、芝居） <調査書利用型>学力試験（1教科1科目）、実技（歌、踊り、芝居）のうち点数の高いもの、調査書（全体の学習成績の状況）

・舞台芸術エレガンス入試Ⅰ期・Ⅱ期は、実技（歌、踊り、芝居）または舞台に関するプレゼンテーションのどちらかを選択に加えて、志望理由書、調査書によって選抜する。さらに英語に関する外部検定試験の資格・スコアは加点評価を行う。

・総合型公募制学力入試Ⅰ期・Ⅱ期は、「スタンダード型」に加えて、「調査書利用型」を併用することが出来る。「スタンダード型」は実技（歌、踊り、芝居）試験と、「国語」「外国語」「数学または理科（生物）」の中から2教科選択する学力試験を行う。「調査書利用

型」は「スタンダード型」で受験した実技（歌、踊り、芝居）試験と受験した学力試験 2 教科の 3 種類の中の最高得点 1 種類、そこに調査書による全体の学習成績の状況を点数化し加点したもので選抜する。さらに「スタンダード型」「調査書利用型」共に英語に関する外部検定試験の資格・スコアは「外国語」のみなし得点として評価する。

・総合型公募制学力入試Ⅲ期は、「スタンダード型」に加えて、「調査書利用型」を併用することが出来る。「スタンダード型」は実技（歌、踊り、芝居）試験と、「国語」「外国語」のどちらか 1 教科を選択する学力試験を行う。「調査書利用型」は「スタンダード型」で受験した実技（歌、踊り、芝居）試験と受験した学力試験 1 教科の 2 種類の中の最高得点 1 種類、そこに調査書による全体の学習成績の状況を点数化し加点したもので選抜する。さらに「スタンダード型」「調査書利用型」共に英語に関する外部検定試験の資格・スコアは「外国語」のみなし得点として評価する。

・総合型公募制学力入試の各教科の出題範囲は、「国語」現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く）、「外国語」英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ（リスニングを除く）、「数学」数学Ⅰ・数学 A、「理科（生物）」生物基礎とする。

イ. 学校推薦型選抜

入学試験区分名称	選抜方法
指定校推薦入試	面接、書類審査（調査書、推薦書）
学内推薦入試	

指定校推薦入試および学内推薦入試は、本学が定める推薦基準を満たしている必要があり、また学校長の推薦が必須となる。選抜方法は面接および書類審査により実施する。

ウ. 一般選抜

入学試験区分名称	選抜方法
一般入試Ⅰ期	<スタンダード型>学力試験（2教科2科目）、面接 <得意教科重視型>学力試験（2教科2科目）、面接 ※高得点の1教科を2倍に換算
一般入試Ⅱ期	学力試験（2教科2科目）

・一般入試Ⅰ期は、学力試験として「国語」「外国語」「数学または理科（生物）」の中から2教科選択する「スタンダード型」に加えて「得意教科重視型」を併用することが出来、学力試験の中の最高得点教科1教科を2倍に換算し選抜する。さらに「スタンダード型」「得意教科重視型」共に英語に関する外部検定試験の資格・スコアは「外国語」のみなし得点として評価、併せて面接も課する。

・一般入試Ⅱ期は、学力試験として「国語」「外国語」2教科で選抜する「スタンダード型」に加えて「得意教科重視型」を併用することが出来、点数の高い1教科を2倍に換算し選抜する。さらに「スタンダード型」「得意教科重視型」共に英語に関する外部検定試験の資格・

スコアは「外国語」のみなし得点として評価、併せて面接も課する。

・一般入試の各教科の出題範囲は、「国語」現代の国語、言語文化（古文・漢文を除く）、「外国語」英語コミュニケーションⅠ・英語コミュニケーションⅡ（リスニングを除く）、「数学」数学Ⅰ・数学A、「理科（生物）」生物基礎とする。

入学試験区分名称	選抜方法
大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期	大学入学共通テストの得点を本学の配点に換算する。 (2教科2科目)
大学入学共通テスト利用入試Ⅱ期	

大学入学共通テストの得点を利用し選抜を行う。本学科では、大学入学共通テストの「国語」は近代以降の文章のみを使用し点数を100点に換算する。「外国語」は英語のみ（リスニングを除く）を使用し点数を100点に換算する。「地理歴史・公民」は『地理総合/歴史総合/公共』から2出題範囲を1科目として扱い、「理科」は『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』から2出題範囲を1科目として扱う。なお、英語の外部検定試験の資格・スコアは外国語のみなし得点として評価する。

エ. ファミリー入試

ファミリー入試Ⅰ期・Ⅱ期は、志願者が本学園の「卒業生あるいは在学生」の4親等以内の親族であれば出願することが出来る入試区分となっている。選抜は書類審査（志望理由書、調査書）、小論文、面接を実施する。書類審査において、課外活動および英語の外部検定試験の資格・スコアは加点評価を行う。

オ. 指定強化クラブ入試

指定強化クラブ入試Ⅰ期・Ⅱ期は、書類審査（志望理由書、調査書）、面接を実施する。書類審査において、英語の外部検定試験の資格・スコアは加点評価を行う。

カ. 社会人入試

社会人入試では、書類審査（志望理由書）、面接を実施する。書類審査において、英語に関する外部検定試験の資格・スコアは加点評価を行う。なお、本学では社会人入試の出願資格として、入学時に満22歳以上であることと、次の3つのうちいずれかを満たしていれば出願することが可能である。1.高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者、2.通常の課程による12年の学校教育を修了した者、3.学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者。

3) 入学者選抜実施体制

入学者の選抜体制は、選考区分ごとの合否判定資料を作成し、学長、学部長、学科長およびその他学長が指名する者で構成される代議員会で審議し、合否判定を行う。

7. 教育研究実施組織等の編制の考え方および特色

舞台芸術表現学科の設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえ教育研究実施組織に関して以下のように編制を考えている。

(1) 教員配置の考え方と妥当性

舞台芸術表現学科の学びの分野は演劇、舞踊、企画制作の3分野がある。ここに現在11名の基幹教員を配置することを予定している。演劇に6名、舞踊（歌唱を含む）に3名、企画制作に2名の編制である。（基幹教員のアルファベットは35ページ以下による）主要授業科目と担当者は、以下の通りである。

「演劇史」（基幹教員 A）

「ミュージカル入門」（基幹教員 E）

「舞台芸術入門」（基幹教員 E）

「アート・プロデュース論」（基幹教員 A）

「舞台制作・企画実務」（基幹教員 J）

「脚本・演出基礎」（基幹教員 F）

「舞台芸術基礎演習 A（演劇学分野） I / II / III / IV」（基幹教員 B、F）

「舞台芸術基礎演習 B（舞踊学分野） I / II / III / IV」（基幹教員 G）

「舞台芸術基礎演習 C（企画制作分野） I / II / III / IV」（基幹教員 J）

「舞台芸術総合演習 I / II / III / IV」（基幹教員 B、F、G、H、J、K）

「卒業演習 I / II」（基幹教員 A、C、D、E、F、G）

(2) 中心的な研究分野と実務家教員の役割

先の項目「中心的な学問分野」（p.7）で、舞台芸術表現学科では「新たに展開される学問分野としては、これに演劇、舞踊、そして身体表現系の演習・実習、さらに舞台企画制作領域においては、演出法に加え、戯曲の読解・読み合わせを重点的に行う演習が加わる」と述べた。すなわち、「演劇」「舞踊」「舞台企画制作」の3分野である。

演劇を担当する基幹教員 A は「演劇史」や「モダンドラマ論」など演劇の歴史や、手法などの研究が専領域とする。基幹教員 C は西洋演劇および英文学を、基幹教員 D は即興芸術を専門領域とする。基幹教員 B（実務家教員）はミュージカルの脚本・演出・振付・制作を、基幹教員 J（実務家教員）はストレートプレイの企画・制作・演出、基幹教員 H（実務家教員）はミュージカルの歌唱部門を担当し、同時に副専攻科目のヴォイストレーニングを受け持つ。また、基幹教員 G（実務家教員）は舞踊・振付、基幹教員 K は身体表現を専門領域とする。基幹教員 E は演劇の文化の研究が専門領域である。また、基幹教員 I は演劇に必要な映像などのデジタルコンテンツを専門とする。

演劇および舞踊における基礎および理論系の科目担当には研究業績が豊富な教員を配置し、舞踊および企画制作分野には実務経験が豊富な教員を配置する。

(3) 年齢構成 (*は実務家教員)

令和 11 (2029) 年度 3 月 31 日 (完成年度) における基幹教員の年齢構成は下記の通り。

70 代 : 2 名

60 代 : 3 名

50 代 : 5 名

30 代 : 1 名

基幹教員 A (「演劇史」等担当) : 70 代

基幹教員 B* (「舞台芸術総合演習」等担当) : 70 代

基幹教員 C (「シェイクスピア劇上演論」等担当) : 60 代

基幹教員 D (「即興芸術論」等担当) : 60 代

基幹教員 E* (「ミュージカル入門」等担当) : 60 代

基幹教員 F* (「演技演出基礎」等担当) : 50 代

基幹教員 G* (「Performing Arts」等担当) : 50 代

基幹教員 H* (「Performing Arts」等担当) : 50 代

基幹教員 I (「情報処理演習」等担当) : 50 代

基幹教員 J* (「Performing Arts」等担当) : 50 代

基幹教員 K (「Performing Arts」等担当) : 30 代

学科開設年度より完成年度までの間に 65 才の定年を越えている基幹教員は 3 名であるが、定年後の再雇用を定めた諸規定に基づき、当該 3 名の雇用継続が確保される (資料 14)。基幹教員 A、B、および C については、完成年度後に後任の補充人事を行う。後任は文学もしくは演劇分野で補充を行う予定である。

(4) 学年進行中に他大学から採用する教員との同意

現在、学年進行中に他大学から教員を採用する予定はない。

8. 研究の実施についての考え方、体制、取組

研究の実施についての考え方、体制、取組については、研究を活性化し、持続的に優れた研究成果が創出されるよう研究環境の整備と充実が行われている。その内容は次のとおりである。

(1) 教員の就務

以下、「女子大学教育職員の基準持時間数取扱規程」に次の通り示されている。

(目的)

第1条 この規程は、女子大学に勤務する専任の教育職員（以下「教育職員」という。）にかかる授業担当の基準持時間数（以下「持時間数」という。）について定める。

(持時間数)

第2条 教育職員の1週間に担当する持時間数（コマ数）は、12時間（6コマ）とする。

2 前項の持時間数とは、大学設置基準第21条に定める講義、演習、実験・実習および実技の担当授業時間数をいう。

(2) 教員の研究費

専任教員の個人研究費は年間300,000円、特任教員A、B、Cについては年間200,000円が支給される。詳細については「個人研究費規程」に定められている。

(3) 大学の研究費助成制度

専任教員に対して、「研究助成」「プロジェクト研究助成」の助成金支給制度がある（資料15）。令和5（2023）年度は研究助成が5件、プロジェクト研究助成が2件採択されている。

(4) 競争的資金

令和5（2023）年度における科学研究助成金の実績は、代表による新規5件、継続10件、延長4件の計19件、分担によるものが17件、年間課題数は36件であった。この内訳は、基盤（C）が27件、若手研究5件、スタート支援2件、基盤（B）1件、挑戦的（萌芽）1件となっている。

(5) 研究活動における不正防止

研究活動における不正防止については、「梅花女子大学 研究活動に関する不正への対応について」および「研究活動に関する不正防止計画」が定められており（資料16）、年に1度「研究倫理教育講習会」が実施されており、令和6（2024）年度については「研究をとりまく環境」「研究活動におけるコンプライアンス」「研究活動における不正行為および研究公正」に関するセミナーが実施された。

(6) 教員の国内外研修

教員の国内外の研修に関しては、「研修規程」により以下のように定められており、「国内出張旅費規程」および「海外出張旅費規程」により運用されている。（資料17）

(目的)

第1条 この規程は、専任教職員が職務遂行上の資質、能力の向上を目的として見学、視察、調査その他研修（以下「研修」と総称する。）に参加するときの取扱いを定めたものである。

（研修の定義）

第2条 この規程にいう研修とは次のものをいう。

- (1) 文部科学省、大阪府、中高連その他所属長が適当と認める機関団体の主催によるもので、原則として授業に支障のない期間に開催されるもの。
- (2) 研修の目的、内容、期間等が学園の国内研究員規程、国外研究員規程に該当せず研修期間が2か月以内のもの。

（研修の区分）

第3条 研修を国内研修と国外研修に区分する。

2 国内研修とは国内において研修に参加する場合をいい、中高教諭が学園に設置されている女子大学に定期的に受講し、研修を受ける場合も含む。

3 国外研修とは国外における研修に参加する場合をいう。ただし、国外研修は主催する機関又は団体から研修必要費の50%以上の助成が行われる場合に限る。

（研修員の資格）

第4条 研修に参加できる者（以下「研修員」という。）の資格は次のとおりとする。

- (1) 専任教職員で勤続5年以上の者
- (2) 勤務成績が良好で心身健全な者
- (3) 教育研究について相当の実績を有し又は新たに研究を行わんとする者
- (4) 研修終了後も引き続き勤務することが確実に見込まれる者

（研修員の選考決定）

第5条 研修員の選考は、所属長が行い研修の内容と候補者に関する意見を附して理事会に推薦する。

2 理事会は、前項の推薦に基づき審査して研修員を決定する。

（研修員の人数）

第6条 毎年度の研修員の人数は、次のとおりとする。

国外研修 学園を通じ原則として1名以内

国内研修 学園を通じ原則として2名以内

（報告）

第7条 研修員は、研修終了後に特別の事由のない限り2週間以内に所属長に研修報告書を提出しなければならない。

（給与）

第8条 研修期間中の給与は、全額支給する。ただし、給与計算期間の全期間が研修期間に含まれるときは、その期間の通勤手当は支給しない。

（研修費）

第9条 研修員の研修に要する費用の取扱いは、次のとおりとする。

(1) 参加費（又は受講料） 支給する

(2) 旅 費

ア 宿泊を要しない場合

交通費実費を支給し、日当は原則として支給しない。

イ 宿泊を要する場合

交通費実費を支給し、宿泊費は旅費規程第3表に定める額を限度として実費を支給する。

日当は原則として支給しない。

2 参加費に交通費・宿泊費などが含まれている場合は、その分については旅費を支給しない。

3 主催者からの助成がある場合は、第1項、第2項の規定により計算した額から助成額を差し引いて支給する。

4 第7条に定める報告書を提出しない者、又は研修成果の著しく不良な者については、第1項から第3項までの規定により支給した額の返却を命ずることがある。

(7) 研究協力体制

「演劇」「舞踊」「企画制作」の3分野の各教員が協力体制を構築し、有機的な結びつきを維持しながら各種のプロジェクトを開始することを計画する予定である。「演劇」の研究者提案による古典作品のミュージカル化、あるいは「企画制作」分野からの提案を受けた外国語脚本の共同翻訳の研究体制の構築等が想定される。

(8) 研究活動のサポート

本学には教育・研究支援センターが設置されており、日本学術振興会の科学研究費助成金の申請手続き業務のサポートおよび各種助成金への申請を積極的に促している。

9. 施設、設備

(1) 校地、運動場の整備状況

本学の校地は、大阪府茨木市郊外の静かな環境にある。「舞台芸術表現学科」の設置に伴う校地および運動場用地の整備については、既設学部との校地を共用する。

校地等面積 63,635.52 m² (内校舎敷地 23,766.14 m²、運動場用地 2,984.00 m² 計 26,750.14 m²) あり、校舎敷地には校舎、体育館、図書館等の施設をバランスよく配置しており、授業ごとの移動もスムーズに行えるように整備している。運動場用地としては、屋外運動場を有し、体育の授業やクラブ活動に利用している。

また、学生が自由に語りあえるスペースの充実にも取り組んでおり、講堂の隣接地にウッドデッキテラスを設置し、既存の校地中央の芝生広場、学生会館前広場同様、適宜ベンチを

相当数配置し、学生の利用に備えている。これ以外にも学生の憩いのスペースとして、キャンパス各所の遊歩道を整備している。

(2) 校舎等施設の整備状況

本学では、教室・演習室等の施設は、「看護保健学部看護学科」、「看護保健学部口腔保健学科」「食文化学部食文化学科」「食文化学部管理栄養学科」の専用施設を除き、全学で共用しており、「文化表現学部舞台芸術表現学科」においても、基本的に既存の校舎内の施設で対応する計画であるが、すでに梅花歌劇団「劇団この花」を設立した時点で、舞踊や歌唱に供する空間は整備されており、舞台芸術表現学科はこの劇団の施設を引き継ぐことになる。STAGE Gと呼ばれる音響設備の整った練習場や身体表現系科目に適した教室が他に2か所、さらに公演実習の発表の場ともなる澤山記念ホールもまた実践的な教育の場と想定している。その他、個人レッスン用の小教室、学生と教員が共有する空間として「コミュニティールーム」「学生ロッカールーム」の設置も計画中である。計画や用途については、「舞台芸術表現学科関連施設・設備使用計画一覧」に示す。基幹教員については、個人研究室が供与され、オフィスアワーや学生指導の場として一定のプライバシーが確保できる。

舞台芸術表現学科関連施設・設備使用計画一覧

場所	施設	専用/ 大学共通	設備	面積(m ²)	用途	工事計画 (工事は各所並 行して実施)
学生会館1階	スタジオ (STAGE G)	専用	リノリウム 床 鏡 音響設備 パレエパー	193.75	身体表現を伴う授業を中心に使用。芝居、ダンス、歌など表現力を向上する為、全面鏡張りになっている。ミニステージとして発表もできるスタジオになっている。	既存のまま使用
	コミュニティスペース	専用	机・椅子	193.75	教員と学生、学生同士が自習をしたり、コミュニケーションを日常的にとることのできるスペース。教員に質問をしやすいように、講師控室横のスペースに設置している。	既存のまま使用
	ロッカー室	専用	ロッカー	71.25	学生1人に1ロッカー(鍵付き)があり、実技授業のため着替えのできるロッカー室となっている。更衣室としての用途もある	2026年2月3日 ～3月10日

					め、エアコンが設置されている。	
	講師控室	専用	机椅子・PC等	110.72	講師控室。	既存のまま使用
	和室	専用		75.20 廊下 41.42	身体表現に使用でき、着付けなど舞台に必要な知識・技能を学ぶことができる。	既存のまま使用
学生会館 2 階	個人レッスン室A	専用	ピアノ 椅子 音響設備	20.25	個人指導やスキルアップのために予約制で自習室としても使用することができる。	2026年2月3日 ～3月10日
	個人レッスン室B	専用	ピアノ 椅子 音響設備	20.25		
	個人レッスン室C	専用	ピアノ 椅子 音響設備	20.25		
学生会館 3 階	スタジオ (STAGE T)	専用	リノリウム 床 鏡 音響設備	193.75	STAGE G と同様に、身体表現を伴う授業を中心に使用。STAGE G より天井が高く、スタジオの違いによる、空間の使い方の表現も学ぶことができる。	2026年2月3日 ～3月10日
	教室	専用	ピアノ 机 椅子	85.68	主に講義系の授業、芝居やヴォイストレーニングなどに使用できる教室。机・椅子が整然と並ぶ教室ではなく、アクティビティにも使用できる。	既存のまま使用
	倉庫(衣装部屋)	専用		257.04	資料・衣装・舞台セット等の保管。	2026年2月3日 ～3月10日
光風館 1 階	講義室(101)	大学共通	リノリウム 床 鏡(カーテン有) 音響設備	163.80	芝居、歌、ダンスをはじめとした身体表現の授業が可能な教室となっている。講義教室との併用が可能なため、多目的に使用できる。	既存のまま

光風館 6 階	実習室 (601)	大学共通	ピアノ 机 椅子	129.15	歌唱やヴォイストレーニングなどを 中心に行うことのできる、講義形 式の教室。机が可動式のためアク ティビティにも使用できる。	既存のまま使用
	実習室 (602)	大学共通	リノリウム 床 鏡 (カーテ ン有) 音響設備	126.00	一面鏡張り (カーテン有) のた め、芝居、歌、ダンスなどの身体 表現に主に利用。集中しやす い環境となっており、特に思考を 深める授業に適している。	既存のまま使用
澤山記念館 (澤山記念ホ ール)	講堂	大学共通	舞台 音響設備 照明設備	570.93	公演やリハーサル・舞台稽古な ど本格的な舞台空間のなか で、学びの知識や技術を応用的 に表現できる場所として使用。 表現者、舞台技術、演出、製 作、プロデュースなどの実践的 学びも行う。	既存のまま使用

(3) 図書館等の資料および図書館の整備状況

図書館所蔵資料では、書架収容可能冊数約 41 万冊のうち、現在約 38 万冊、雑誌・紀要約 3,000 タイトル、視聴覚資料約 25,000 タイトル (電子資料含む) が所蔵されており、そのほとんどは開架式の状態で展示、保存されている。図書館システムにより、学外、自宅からもインターネットを通じて、WEB 上や携帯電話での検索可能となっており、教員・学生の利便性を図っている。

「舞台芸術表現学科」の設置に際し、教育および研究に必要となる図書については、演劇、舞踊、企画制作各分野の図書 9,462 冊 (内、内国書 9,258 冊、外国書 204 冊) を既に収蔵している。開設前年度に学術雑誌 20 種以上を配備し、さらに蔵書を充実させていく計画である。

デジタルデータベースについては、現在、国立情報学研究所の CiNii、朝日新聞記事検索データベース「聞蔵」の他、食物栄養学に関連する分野では、雑誌を導入している。本学図書館は、1～6 階まであり、建物延面積 6,396 m²、閲覧座席数は 570 席、グループ閲覧室 3 室、閲覧個室 9 室、参考調査・データベースの検索や相談等に応じるためのレファレンスカウンターを整備している。ラーニングコモンズのエリアでは、インターネットや電子資料を利用することができる。また、蔵書の検索ができる利用者端末 8 台、ブルーレイ・DVD・ビデオ・CD等が視聴できる個室 (3 室、42 席)、ブース (7 席) を設置している。

その他、館内に「パウダールーム」を備える。

他の大学図書館等との協力については私立大学図書館協会に加盟しており、加盟館同士の相互貸借や文献複写を行い、自館所蔵以外の学術論文への要求に応じている。また、全国の国公立大学図書館および公立図書館とも同様の協力関係を保っている。

10. 管理運営

大学学則に定める教育研究の目的を達成するとともに、大学を学園の一組織として機能かつ適正に運営することを目的として「大学組織運営規程」等を制定している(資料18)。本学にはこの規程に基づき教学の管理運営にあたる機関として部長会、教授会がある。学長と各部長から構成される部長会は、大学の運営に関わる重要な事項を審議する。(学則第54条)

(1) 部長会

1) 部長会の役割

部長会は「大学組織運営規程第4条」の規定により大学の運営にかかわる基本的な事項を審議し決定する。

2) 部長会の構成員

部長会は学長、各学部長、研究科長、入試広報部長、教務部長、学生部長、図書館情報センター長、就職部長、宗教部長、総務部長、企画部長をもって構成している。議長は学長が務める。

3) 開催頻度

毎月1回開催。

4) 審議事項

- ア. 大学の機構、組織ならびに制度に関する事項
- イ. 教学上の基本方針および教育研究環境に関する事項
- ウ. 事業計画および予算に関する事項
- エ. 教員人事の基準および調整に関する事項
- オ. 大学の予算、決算に関する事項
- カ. 入学に関する事項
- キ. その他、学長より諮問された事項

(2) 教授会

1) 教授会の役割

教授会は、「学則第 52 条」の規定により、大学の教学運営並びにこれにかかわる諸事項を審議する役割を担う。また、教授会は理事会と一体となって大学の健全な運営や教育研究の充実に資する役割も担っている。

2) 教授会の構成員

教授会は、専任の教授、准教授、講師をもって構成する。

3) 開催頻度の予定

原則として月 1 回開催。臨時で行うことがある。

4) 審議事項

ア. 学生の入学および卒業に関する事項

イ. 学位の授与に関する事項

ウ. 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

11. 自己点検・評価

本学では、「梅花女子大学学則」第 2 条に自己点検・評価を行う旨規定し、その実施方法等について「梅花女子大学自己点検・評価規程」に定めている。また、認証評価機関による評価、いわゆる「認証評価」についても同規程に定めるところによって実施することとしている。

(1) 実施方法

1) 自己点検・評価の実施に当たっては、まず自己点検・評価運営委員会（以下、運営委員会）を組織する。この運営委員会が自己点検・評価を行う項目、実施単位や実施部会（必要に応じて運営委員会の下に置かれる。）の体制や作業日程等について定める。

2) これに基づき行った自己点検・評価の報告を運営委員会において検証する。

3) この検証結果に基づいて、報告を全学的な視野から検討し、総合的・体系的な自己点検・評価報告書を作成する。

4) さらに、運営委員会は自己点検・評価活動について定期的に検証し、自己点検・評価制度の改善に努める。

(2) 実施体制

自己点検・評価の中心的役割を担う運営委員会は、次の委員をもって構成している。

- 1) 学長（委員長職を務める）
- 2) 学部長、研究科長
- 3) 入試広報部長、学生部長、教務部長、宗教部長、図書館情報センター長
- 4) 総務部長、就職部長、企画部長

運営委員会の事務は大学総務部が担う。また、自己点検・評価の実施単位ごとに実施部会の設置を常としている。実施部会は運営委員会が定めた自己点検・評価項目について自己点検・評価を実施し、報告書を作成して運営委員会に提出する。

(3) 結果の活用・公表および評価項目等

自己点検・評価作業が、教育研究活動および管理運営を総括し、改善すべき点がある場合はその改善の方策を探る上で重要な取り組みであるとの認識に立ち、自己点検・評価報告を報告書としてまとめるだけにとどめず、評価結果の良い点はさらにそれを伸ばし、改善すべき点は緊急性の高いものから随時改善策の具体化を図ることとするなどしてPDCAサイクルを確立している。評価結果は、学外に向けてHPで公開し、学内外のステークホルダーが閲覧できるようにしている。なお、直近の自己点検・評価の公表としては、令和5(2023)年度に行った自己点検・評価の報告書を本学ホームページにて公開中である。また、点検・評価項目は、下記の通りである。

- 1) 使命・目的および教育目的の設定
- 2) 学生の受け入れ
- 3) 学修支援
- 4) キャリア支援
- 5) 学生サービス
- 6) 学修環境の整備
- 7) 学生の意見・要望への対応
- 8) 単位認定、卒業認定、修了認定
- 9) 教育課程および教授方法
- 10) 学修成果の点検・評価
- 11) 教学マネジメントの機能性
- 12) 教員の配置・職能開発等
- 13) 職員の研修
- 14) 研究支援

- 15) 経営の規律と誠実性
- 16) 理事会の機能
- 17) 管理運営の円滑化と相互チェック
- 18) 財政基盤と収支
- 19) 会計
- 20) 内部質保証の組織体制
- 21) 内部質保証のための自己点検・評価
- 22) 内部質保証の機能性
- 23) 女性の感性をいかす地域連携・産学連携
- 24) 梅花歌劇団「劇団この花」による質の高い舞台芸術を発信することによる地域文化への寄与

(4) 認証評価について

自己点検・評価への取り組みは、第三者による評価である「認証評価」を視野に入れ、前述の運営委員会が自己点検・評価の結果をまとめ、定期的に認証評価を受審することとしている。実際の認証評価を受審する際には、運営委員会が、その実施体制の編成や工程管理を行う体制を採っている。

認証評価は、文部科学大臣認証の評価機関を利用して受審することとしており、直近では令和5（2023）年度に、日本高等教育評価機構による認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしていると認定する」との評価を得た。

12. 情報の公表

本学では「学校教育法第113条」「学校教育法施行規則第172条の2」に基づき、大学の社会への説明責任を果たすという観点から本学の教育研究活動等の状況をホームページ上に公表している。具体的には以下のとおりの内容および方法により情報を公表している。

1) 大学の教育研究上の目的に関すること

学部・学科・課程・研究科・専攻ごとの名称および教育研究上の目的、必修・選択・自由科目別の必修単位修得数および取得可能学位等に関しては「大学院要覧」「大学要覧」に記載。

2) 教育研究上の基本組織に関すること

学部・学科・課程・研究科・専攻ごとの名称および教育研究上の目的、必修・選択・自由科目別の必修単位修得数および取得可能学位等に関しては「大学院要覧」「大学要覧」に記載。

- 3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位および業績に関すること
「組織図」「教員データベース」「大学教職員数等状況」に記載。
- 4) 「入学者に関する受け入れ方針および入学者の数」「収容定員および在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数および就職者数その他進学および就職等の状況に関すること
ア. 受け入れ方針については「受入方針（アドミッションポリシー）」の項目に記載。
イ. 入学者数・学生数については「各研究科・学部」の項目に記載。
ウ. 入学定員・編入学定員・収容定員については「大学・大学院学則」に記載。
エ. 卒業・修了者数、進学者数、就職者数については「大学進路状況」に記載。
- 5) 授業科目、授業の方法および内容並びに年間の授業計画に関すること
大学「講義要項（シラバス）」に記載。
- 6) 学修の成果に係る評価および卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
学部・学科・課程・研究科・専攻ごとの名称および教育研究上の目的、必修・選択・自由科目別の必修単位修得数および取得可能学位等に関しては「大学院要覧」に記載。
- 7) 校地、校舎等の施設および設備、その他の学生の教育研究環境に関すること
「キャンパス概要」「運動施設概要」「学習環境」「交通手段」の項に記載。
- 8) 授業料、入学金その他大学が徴収する費用に関すること
「入学金、授業料等」「寮費」の項に記載。
- 9) 大学が行う学生の修学、進路選択および心身の健康等に係る支援に関すること
「学生の修学、心身の健康」「海外留学生支援等」「進路選択」の項に記載。
- 10) その他（教育上の目的に応じ、学生が修得すべき知識および能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）について
ア. 教育上の目的に応じ、学生が修得すべき知識および能力に関する情報および学則等については、研究科の各ホームページ「目標・特色」の項を参照。また科目ごとの目標については大学「講義要項（シラバス）」に記載。
イ. 学則については、「学則」の項に記載。
ウ. 設置認可申請書、設置計画履行状況等報告書については、「設置認可申請書、設置計画履行状況等報告書」の項に記載。

エ. 自己点検評価報告書、認証評価の結果については、令和 5（2023）年度財団法人日本高等教育評価機構による認証評価を受け、令和 6（2024）年 3 月 15 日付けで「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準を満たしている」と認定された。

「評価結果」ならびに「自己評価報告書」は「認証評価」の項に記載。

13. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では FD 活動を推進する中心として教育・研究支援センターを設置し、教育研究支援センター長が委員長となり、全学部長・学科長を委員とする FD 委員会を構成している。FD 委員会は月 1 回以上開催され、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な取り組みを推進している。現在行っている取り組みとしては、以下のようなものがある。

(1) 授業アンケートによる学生評価の実施

前期後期の授業終了時に、すべての講義・演習科目を対象に、マークシート方式の「授業アンケート」を実施している。アンケートの内容は、「シラバスに沿った内容であった」「授業の内容が理解できた」「私はこの授業に満足した」などで、それぞれの授業に対する教育目的の達成度や満足度を評価し、また自由記述欄を設け、マークシートに盛り込めない内容についても把握できるようにしている。アンケートの評価結果は自由記述を除き、一定期間 Web で科目ごとに学内に公開し、学生・教職員が自由に閲覧できるようになっている。

また平成 28（2016）年度より、マークシート配布により回答する方式を、Web を利用し学生がスマートホンやタブレット・PC 等を用いて回答する方式に改め、より負担無くスムーズにアンケートが実施できるシステムを導入している。

アンケートの評価結果は、自由記述を含め、全て教員にフィードバックし、折り返し教員からの評価結果に対する意見や感想、今後の改善方法を必ず返信するように求めている。返信された教員のコメントは、アンケートの評価結果と共に科目ごとに Web で公開され、学生・教職員が自由に閲覧できるようになっている。また、評価結果において問題のある教員については、学長が把握し、所属学科長を通じて、あるいは学長から直接に、改善に向けて措置を取るよう指導を行っている。

(2) 教職員研修会・授業実践報告の実施

毎年全教職員を対象にした教員研修会を実施し、教育のあり方、授業方法の改善など、異なるテーマを取り上げながら啓発に取り組んでいる。さらに平成 27（2015）年度後期より、専任教員全員を対象にした授業実践報告会を月 1 回開催している。これは教授会の前の時間を利用して、毎回 1～2 名の教員が 1 人 20 分程度の持ち時間で自分の授業で行っている工夫や授業での課題等を報告し、その後に質疑応答を行うもので、様々な授業で行われてい

る工夫や、各授業で生じている問題等を教員たちが共有し、話し合うという点で、意義のある取り組みとなっている。

(3) 教員相互による授業参観の実施

平成 26 (2014) 年度後期より、専任教員相互による授業参観を実施し、参観レポートを授業担当者と所属学科長に提出することを義務づけている。提出された参観レポートは、教育・研究支援センターにおいて取りまとめられ、学長に提出され、問題のある場合には、学長が学科長を通じ、あるいは直接に教員に問題点を伝え、改善を促すようにしている。

(4) 梅花コミュニケーションカードによるきめ細かい授業改善の試み

同じく平成 26 (2014) 年度後期より、専任教員が担当する毎回の授業において「梅花コミュニケーションカード」を配布し、毎回の授業で学生とのコミュニケーションを図りながら、授業の問題点を早期に改善する取り組みを行っている。

(5) 学修状況調査の実施

平成 27 (2015) 年度前期において、授業アンケート以外に教室内外の学修状況に関する学生アンケートを実施し、授業以外の事前・事後学習等の学習状況について調査を行った。学修状況調査実施後、項目ごとに統計処理を行い、平成 27 (2015) 年度においては、大学全体、年次別、学部別に結果をまとめ、分析結果をもとに学長が部長会において各部長に問題点等を報告・指摘して改善を促した。平成 28 (2016) 年度からは業者による調査を導入し、個人別の学修状況調査にまで精度を高め、全学的に定期的実施している。

14. 社会的・職業的自立に関する指導等および体制

(1) 教育課程内での取り組みについて

教育課程内においては、全学的な「共通教育科目」の中に「キャリア基礎科目」として「初年次セミナー」(1年次前期)を必修科目として配置している。この「初年次セミナー」は、前半を大学生活のスタートをサポートする内容、後半を就学意欲の喚起につながる内容とし、入学直後から自らの大学卒業後の進路を見据えた学生生活をそれぞれが考える機会としている。「初年次セミナー」については、実際の授業の運営にあたり、教育・研究支援センターが中心となっており、きめ細かいサポートを行っている。

「初年次セミナー」を受けて、1年次後期に「問題発見・解決セミナーⅠ」、2年次前期に「問題発見・解決セミナーⅡ」を必修科目として配置している。これらは少人数クラス・グループ単位で自ら問題を発見・解決する能力と、それを発信し伝えるための手法(プレゼンテーション技術)を、段階を追って鍛錬する科目であり、「問題発見・解決セミナーⅠ」で

は、初歩的なグループワークを行いつつ、ブレン・ストーミングやプレゼンテーションの初歩的な訓練を行い、これをもとに2年次の「問題発見・解決セミナーⅡ」でより高度な問題を扱いながら、プレゼンテーション技術をみがいていく。さらに共通教育科目には、「キャリア基礎科目」に選択科目として「キャリアデザイン」を置く。

また、舞台芸術、エンターテインメントに携わる人材としてのキャリアデザインを考えることができるように、舞台芸術表現学科2年次必修科目「エンターテインメントキャリア論」を設定している。学生の到達目標としては、舞台芸術・エンターテインメント分野の仕事をしていく時に必要となる労働契約、時間管理、健康管理、マネープランなどの基礎知識や情報収集およびめざす職業につながるキャリアプランをデザインする。舞台制作会社、関西の劇場などと連携をし、実践的に職業選択を行うことを計画している。授業内においても、実務家教員はもとよりゲストスピーカーなどから業界の最新情報などについても情報収集できる機会を設ける。また、俳優などをめざし、就職活動としてオーディションを受ける学生の対応としてワークショップなどを行う。企業の就職などと異なる就職活動も想定されるために、学科と就職部が連携を図りながら職業的自立に関する指導を行う。

(2) 教育課程外の取り組みについて

教育課程外では、就職部を中心に、3年次の前期・後期に全30回（1回90分）の就職部主催の「就活ゼミ」を実施し、4年次に入っても引き続き学科ごとに専門相談員が担任となり個人面談を中心に就職指導を行っている。「就活ゼミ」では「社会を知る」「自分のことを伝える」をキーワードに業界研究セミナーや面接実習を中心に様々なプログラムを実施している。また就活ゼミのプログラム外にもインターンシップや学内の各部署での就活のためのトレーニング、スーパーチャレンジ短期集中特訓講座（選抜型・全5回）、学内合同企業説明会などを実施している。

以上の教育課程内外での社会的・職業的自立のプログラムを図示すると、次頁に掲げた表のようになる。このように教育課程の内外で連携を取りながら学生の社会的・職業的自立に関する支援を続けることにより、「就活ゼミ」やその他プログラムへの参加率が向上し、学生の卒業後の就職に対する意識や意欲も飛躍的に高まった結果、就職内定率も対前年の同時期に比べ向上した。

(3) 社会的・職業的自立に関する指導体制の整備

本学全体の社会的・職業的自立に関する体制としては、就職部がその任に当たっている。就職部による社会的・職業的自立に関する指導としては、上述の教育課程外の取り組みがそれに当たり、学科ごとにキャリアカウンセラーの有資格者を専門相談員として担任制を敷き、個人面談を中心に就職指導を行うなど、いわゆる就職活動を、学生ごとにきめ細かく全面的に支援・指導する体制を整えている。学科ごとの専門相談員は、それぞれの学科長を通じて学科の教員、とくに指導対象の学生のゼミ担当の教員と連絡を密に取れるようにして

おり、また教員間については、学科会議等で就職状況の報告を各々行うことで情報共有の場を作るようにして、社会的・職業的自立に関する指導における連携体制を整備している。

梅花女子大学における社会的・職業的自立に関する支援体制

	課程内での取り組み	課程外での取り組み	
	共通科目 (★必修科目 ☆選択科目)	就職部	教育・研究支援センター
1年次	<p>★「初年次セミナー」 (教育・研究支援センターが運営サポート) 大学での学びとこれからの生き方を考える。</p> <p>★「問題発見・解決セミナーⅠ」 初歩的なグループワークとプレゼンテーションの訓練を行う。</p> <p>★「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」 コンピュータ運用能力養成。</p>	<p>・入学時ガイダンス キャリア支援部の紹介ならびに活用法の説明。</p>	<p>・各種資格・検定試験の実施 <主な実施試験></p> <p>・日本漢字能力検定</p> <p>・MOS 試験 (Microsoft Office Specialist)</p> <p>・TOEIC®IP</p>
2年次	<p>★「問題発見・解決セミナーⅡ」 グループワークを通して様々な問題を取り上げ、解決していく力とプレゼンテーション技術をみがく。</p> <p>★「キャリアデザイン」 社会に出て、自己実現するために必要な知識と自分のデザインを考える。</p>	<p>・「キャリアアップ・就職」に関する質問への個別対応（キャリアカウンセラー対応）</p>	
3年次		<p>・就活ゼミ (全30回)</p> <p>・就活ワークショップ</p> <p>・インターンシップ</p> <p>・学内就活トレーニング</p>	
4年次		<p>・キャリアカウンセラーによる個別進路指導 (進路決定まで)</p>	

目次

【資料1a】	特色ある学科・コースを設置する高等学校について (13)芸術関係の特色ある学科・コースの例	...p.2
【資料1b】	特色ある学科・コースを設置する高等学校について (15)その他の特色ある学科・コースの例	...p.16
【資料2】	第1章 理論編	...p.28
【資料3】	梅花中学校・梅花高等学校	...p.74
【資料4】	梅花歌劇団「劇団この花」	...p.83
【資料5】	人材需要 昨今の劇場新設状況	...p.102
【資料6】	夢洲まちづくり基本方針	...p.104
【資料7】	文化芸術推進基本計画(第2期)	...p.111
【資料8】	令和5年度文化芸術振興費補助金による助成対象活動の決定につ いて 〔芸術家等人材育成〕	...p.115
【資料9】	社会的な必要性 国民の意識直接鑑賞)	...p.119
【資料10】	学生確保の見通し 舞台芸術系学科志願者動向全国)	...p.120
【資料11】	「劇団この花」後援会	...p.121
【資料12】	産官学連携	...p.123
【資料13】	梅花歌劇団「劇団この花」	...p.125
【資料14】	嘱託専任教授等(有期)取扱規程	...p.127
【資料15】	研究助成・研究補助規程	...p.129
【資料16】	梅花女子大学 研究活動に関する不正への対応について	...p.137
【資料17a】	国内研究員規程	...p.142
【資料17b】	国外研究員規程	...p.144
【資料18】	大学組織運営規程	...p.146
【図1】	舞台芸術表現学科の学びの全体像(本文p.12)	...p.151
【図2】	カリキュラムツリー(本文 p.21)	...p.152

6 特色ある学科・コースを設置する高等学校について (13) 芸術関係の特色ある学科・コースの例

公立

都道府県等名	学校名	設置(予定)年度	設置学科・コース	募集定員	概要
青森県	青森戸山高校	平成15年	美術科	30	<ul style="list-style-type: none"> • 普通科1学級を転換 • 主たる専攻は「油彩」、「日本画」、「彫刻」、「ビジュアルデザイン」の4つ • 副専攻で「版画」や「クラフトデザイン」、「陶芸」も選択可能
宮城県	宮城野高校	平成7年	美術科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 美術、デザインに関する専門的知識及び技術を習得 • 単位制による教育課程の編成 • 素描を中心的な科目として位置づけ、専攻を洋画、日本画、彫刻、デザインとする
福島県	福島西高校	平成7年	デザイン科学科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 2年次から、ファイナー

					ト、コンピュータグラフィック、ファッションデザイン、ビジュアルデザインの4つのコースに分かれてデザインについて学習
群馬県	西邑楽高校	平成11年	芸術科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽コースと美術コースを設置 • 音楽、美術の持つ特性を追求し、豊かな感性と芸術性を養い、創造的な表現力や鑑賞能力の向上を図る • 個に応じた選択授業と総合選択性を実施
埼玉県	芸術総合高校	平成12年	映像芸術科	40	ビデオ機器やコンピュータを利用して、芸術としての映像に関する専門的な学習を行い、創造的・芸術的な表現力を高め、豊かな感性を育てる映像芸術、映像技術、CG概論、映像処理、テレビ放送等を学習

			舞台芸術科	40	自己表現とコミュニケーション能力を高め、想像力を豊かにし、人間形成を図る 劇表現、作品の創作や上演、クラシックバレエ、モダンダンス、音声表現、身体表現などを学習
東京都	総合芸術高校 (仮称)	平成22年	芸術科 (仮称)	-	<ul style="list-style-type: none"> 音楽科・美術科の既設校を移転改編し、これに加えて演劇科、メディア表現科を設置(学科名は仮称) 基本計画未定
新潟県	新潟中央高校	平成9年	音楽科	40	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ、声楽、管弦打楽器、邦楽(箏)の専攻分野を設け、将来、音楽専門家として芸術文化の創造を担う人材の育成を目指す
三重県	飯野高校	昭和62年	応用デザイン科	80	<ul style="list-style-type: none"> 「商業デザイン」「服飾デザイン」「コンピュータグラフィック」「美術」の各コースに分け、きめ細かい指導を実施 「繊維染色デザイン」「映像」「服飾史」「陶

					芸」等の特色ある科目の開設
大阪府	夕陽丘高校	平成7年	音楽科	40	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に関する専門的な学習を通して、創造的な表現に必要な知識や技術の習得、音楽に対する豊かな感性と音楽文化の発展に寄与する態度の育成
	港南造形高校 (港南高校)	平成15年	総合造形科	200	<ul style="list-style-type: none"> 美術領域、デザイン領域、工芸領域、造形教養領域を設置
兵庫県	明石高校	昭和58年	美術科	40	<ul style="list-style-type: none"> 構成、素描、美術史、デザイン等の学習に加え、「課題研究」を開設 基礎技術の上に、油絵、日本画、彫刻、デザイン等を専門的に学習し、創造力豊かな人材を育成
	西宮高校	昭和58年	音楽科	40	<ul style="list-style-type: none"> 「音楽理論」「音楽史」「演奏法」を開設

					<ul style="list-style-type: none"> • 12種の専攻に分かれ、専門的学習の上に、調和のとれた人間形成を図る
	宝塚北高校	昭和60年	演劇科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 「舞踊」「伝統芸能」「劇表現」等を開設し、専門家が指導 • 観劇や舞台稽古見学などの校外活動も実施 • 演劇に関する基本的な知識や技能を身につけるだけでなく、豊かな表現力や協調性を育成
奈良県	高円高校	平成17年 (予定)	音楽科	35	<ul style="list-style-type: none"> • 声楽、器楽、作曲等の専門教育をとおして、演奏家としての基礎知識・技術を学ぶ
			美術科	35	<ul style="list-style-type: none"> • 日本画、洋画、彫塑等の専門教育をとおして、造形活動に必要な基礎知識・技術を学ぶ
			デザイン科	35	<ul style="list-style-type: none"> • コンピュータグラフィックスを活用し

					ながら、ビジュアルデザイン、プロダクトデザインなど、デザインに関する基礎知識・技術を学ぶ
熊本県	第二高校	昭和54年	美術科	40	<ul style="list-style-type: none"> 個性に応じた美術の基礎教育を施し、創造力豊かな人材の育成を図ることを目的とし、美術系大学への進学を促すとともに芸術文化振興に寄与する人材の育成を図る
鹿児島県	松陽高校	平成7年	美術科	40	<ul style="list-style-type: none"> 絵画彫刻専攻とデザイン専攻 ヨーロッパ海外研修(ウィーン、パリ: 6泊7日)
			音楽科	40	<ul style="list-style-type: none"> 声楽、器楽(ピアノ・管・弦・打楽)、作曲を主専攻 ヨーロッパ海外研修(ウィーン、パリ: 6泊7日)
沖縄県	開邦高校	昭和61年	芸術科	40	<ul style="list-style-type: none"> 将来、音楽及び美術に関する職業

					を希望する生徒の要望に応える教育を実施 <ul style="list-style-type: none"> 音楽コースと美術コース
	真和志高校	平成16年	クリエイティブアートコース	40	<ul style="list-style-type: none"> 感性・創造性を引き出し、美術教育を通し全人教育を行うとともに上級学校への進学を支援し、専門的指導者の育成を目指す
大阪市	工芸高校	昭和57年	美術科	40	<ul style="list-style-type: none"> 造形芸術の基礎としての絵画、彫刻、デザインなどの知識と技術を習得 表現力を伸ばして、感性豊かで創造的な人間を育成

私立

都道府県等名	学校名	設置年度	設置学科・コース	募集定員	概要
北海道	札幌大谷高校	平成15年	音楽科	30	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年までの普通科芸術(音楽)コースを改編
			美術科	50	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年までの普通科芸術(美術)コースを改編

青森県	青森明の星高校	昭和43年	音楽科	20	<ul style="list-style-type: none"> • 「ピアノ」「声楽」の2専攻に分かれ、それぞれの専門科目の個人指導を実施 • ソルフェージュ、聴音、音楽理論、音楽史、合唱、声楽合奏等の授業を通して、将来音楽方面へ進む実力を育成。
	八戸工業大学第二高校	昭和58年	普通科美術コース	40	<ul style="list-style-type: none"> • 美術系大学等に進学希望の生徒のために実技科目を多く取り入れたカリキュラムを編成し、指導にあたる
宮城県	常盤木学園高校	昭和36年	音楽科	30	<ul style="list-style-type: none"> • グレード別のソルフェージュ授業で個々の力を伸ばす • ウィーン・ザルツブルグへの研修旅行実施 • 各種コンサート、依頼演奏などのステージを多く経験
	東北生活文化大学高校	平成13年			<ul style="list-style-type: none"> • 美術に関する専門的な学習やCG、絵画、さらに陶芸・染色・七宝などの工芸科目を学習
	西山学院高校	平成15年	普通科陶芸コース	10	<ul style="list-style-type: none"> • 陶芸の基本的な知識・技術の習得と成長期に大切な感性を養う

茨城県	聖徳大学附属聖徳高校	昭和58年	音楽科	45	<ul style="list-style-type: none"> 作曲、声楽、ピアノ、電子オルガン、管楽器、弦楽器、打楽器の7専攻を有する 将来教員、音楽療法士として活躍するための基礎的能力を養成
千葉県	東京学館総合技術高校	平成15年	美術工芸科	40	<ul style="list-style-type: none"> デッサンや色彩、図法などの基礎を学んだうえで、木工・金工・陶芸などものづくりの技術を身に付ける CADやCGなどコンピュータを使った表現にチャレンジ
東京都	国立音楽大学附属音楽高校	昭和24年	音楽科	約80	<ul style="list-style-type: none"> 声楽、ピアノ、電子オルガン、弦楽器、管楽器、打楽器、作曲 以上専攻 音楽理論、演奏法、音楽史、ソルフェージュ、リトミック等々
	日本音楽高校	昭和50年	音楽科 音楽コース	25	<ul style="list-style-type: none"> 長い歴史の中で厳選されてきた本校独自のカリキュラムでテクニックの向上と表現力の養成に力を注ぐ。 音楽教育を通して人間性を磨く
		昭和63年	音楽科 バレエコース	25	<ul style="list-style-type: none"> バレエの実技のほか、バレエの教養科目や音楽教育も取り入れたユ

					ニークなバレエ教育を行う
	吉祥女子高校	昭和44年	芸術コース	35	<ul style="list-style-type: none"> • 普通科の中に1クラス設置 • 音楽専攻と美術専攻に分かれ、専門的で高度な技術・知識・感性の育成を目指す
福井県	仁愛女子高校	昭和53年	音楽科	25	<ul style="list-style-type: none"> • 徹底したマンツーマン授業著名な演奏家による特別講義などで個人の能力を伸ばし音楽、教育系の大学への進学を目指す
山梨県	甲府湯田高校	平成6年	音楽科	20	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽大学の教授、助教授、講師による徹底した専門指導 • 週12時間の充実した音楽専門科目の学習 • 個人レッスンに力を注ぎ、それぞれの志望校に応じた適切な個人指導
	駿台甲府高校	昭和60年	美術デザイン科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 美術系大学・専門学校への進学 • デザイン科を改組
長野県	エクセラシオン高校	平成11年	美術科	20	<ul style="list-style-type: none"> • 美術のスペシャリストと、美的感性をもとに各方面で活躍できる人材の養成。 • 1年次は専門の基礎科目と素描を共通に履修。

					<ul style="list-style-type: none"> • 2・3年次は日本が・洋画・彫刻・工芸・デザインの1分野を専攻。 • 少人数によるきめ細かな指導。 • 美術館研修、作品発表会、公開講座、写生旅行、展覧会、作品出品など多彩な学習活動。 • 美術大学教授や社会人講師など、外部講師による専門学習の充実。 • 進学対応教科学習の充実と美大現役合格を目指す。
京都府	京都芸術高校	平成13年	美術科	175	<ul style="list-style-type: none"> • 美術全般に係る知識、技能を取得 • 2年次から絵画表現コース、総合造形表現コース、デザイン表現コースの3つの中から1つを選択して、専門的な技術・知識を取得 • 毎週水曜日を「特別実習」とし、1～6限まですべてのクラスにおいて希望者が美術を学習する。
大阪府	相愛高等学校	昭和28年	音楽科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽の芸術的陶冶と共に鑑賞能力の向上に力を注ぎ常に音楽的人材を養成し、向上に努める

兵庫県	神戸山手女子高校	昭和41年	音楽科	35	<ul style="list-style-type: none"> 音楽大学への進学を志す生徒のための音楽専門コース 一般教科と共に、ピアノや声楽・管・弦・打楽器・作曲などを専門的に学習
	夙川学院高校	昭和42年	美術科		<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度より2コース制 絵画立体コースは絵画(日本画又は洋画)と立体造形を主たる専門科目とするコース デザインコースは、基礎デザイン、グラフィックデザイン、プロダクトデザインを主たる専門科目とするコース 両コースとも版画工芸、素描、CG演習、コンベンションワークなどを必修
絵画立体コース			30		
デザインコース			30		
	日ノ本学園高等学校	昭和43年	音楽科	20	<ul style="list-style-type: none"> 高度な専門科目の授業を行い、豊かな感性と創造表現力を高め、有名音楽大進学を目指す
奈良県	檀原学院高校	昭和43年	美術科	70	<ul style="list-style-type: none"> 絵画(油彩・日本画)、ビジュアルデザイン、コンピュータ造形の3コースを第2学年から選択、生徒のニーズに即した芸術感性の高揚を目指す。

岡山県	岡山県 作陽高校	昭和43年	音楽科	30	<ul style="list-style-type: none"> ピアノ、声楽、管楽器、打楽器、電子音楽、邦楽のどれか1つを主専攻 「音楽理論」「音楽史」「演奏法」「ソルフェージュ」「合唱」「合奏」「重奏」等を開設
愛媛県	済美高校	昭和34年	音楽科	40	<ul style="list-style-type: none"> 県内唯一の音楽科 実技専攻では声楽、器楽に分かれ、専門教師による徹底した個別指導
		昭和34年	美術科	40	<ul style="list-style-type: none"> 県内唯一の美術科 実技専攻では日本画、洋画、彫塑、デザインに分かれ、より専門的な美を追求 専門教師による徹底した個別指導
熊本県	熊本中央高校	平成元年	芸術コース	40	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年4月、募集停止した保育科の流れをくむコースとして誕生。 書道、音楽、美術のいずれかを選択し、芸術における専門的視野を広げる。 年度末に外部施設を利用し、オープン見学の発表会を実施。
宮崎県	宮崎日本大学	平成13年	情報デザイン科	70	<ul style="list-style-type: none"> デザイン、美術の授業を週10時間

高校

程度入れ、デザイン系、美術系の大学進学若しくは就職を目指す。二科展をはじめ、多くの美術展に多数入選・入賞している。

国立

都道府県等名	学校名	設置年度	設置学科・コース	募集定員	概要
東京都	東京芸術大学音楽学部 附属音楽高校	昭和29年	音楽科	40	<ul style="list-style-type: none">洋楽専攻(作曲・声楽・ピアノ・弦楽器・管楽器・打楽器)邦楽専攻(箏曲・尺八・長唄三味線・囃子)

お問合せ先

初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室

(初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室)

-- 登録:平成21年以前 --

6 特色ある学科・コースを設置する高等学校について (15)その他の特色ある学科・コースの例

公立

都道府県等名	学校名	設置(予定)年度	設置学科・コース	募集定員	概要
青森県	八戸東高校	平成15年	表現科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 人文学科を転換して設置 • 日本語や外国語による言語表現、詩歌、朗唱などの学習を通して、自己表現力の慎重を図る • 専門教育に関する教科として「表現」を設け、映像メディア表現、舞台芸術などの科目を学習
神奈川県	未定 (相模原南部方面)	平成17年	総合産業科	240 (予定)	(「2 全日制課程における単位制高等学校の設置について」を参照)
三重県	津西高校	平成12年	国際科学科	80	<ul style="list-style-type: none"> • 単位制 • 「自己教育力」「国際感覚」「望ましい職業観」の育成により、将来国際舞台に幅広く活躍できる人材を育成

					<ul style="list-style-type: none"> • 「国際科学システム」 「英語理解」 「英米事情」 「理数数学」 等の専門科目の開設 • 総合的な学習の時間をゼミナール形式として設置 • 「英語検定」 「国内フィールドワーク」 「先端科学技術研修」 等の学校外における学修の単位認定
大阪府	千里高校	平成17年 (予定)	検討中	-	<ul style="list-style-type: none"> • 国際化、情報化の進展に対応し、外国語と情報機器を活用し、豊かな国際感覚や国際理解の下に、あらゆる分野においてグローバルに活躍できる人材の基礎となる資質・能力の育成をめざすため、国際理解教育や実験・実習を重視した新たな専門高校として設置する
	住吉高校				
	泉北高校				

	東住吉 高校	平成5年	芸能文化科	40	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の伝統文化・芸能に親しみ、それを理解し伝承する能力を養うとともに、国際理解に寄与する態度を育てる。
兵庫県	姫路工業大学 附属高校	平成6年	総合科学科	160	<ul style="list-style-type: none"> 大学教授による特別講義や大学での実験・研究・聴講など、高大連携による教育を推進 「理数数学」「理数物理」など自然科学系の科目の他、「国際理解」「情報科学総論」など国際・情報系の科目も開講 姫路工業大学への特別推薦制度
	舞子高校	平成14年	環境防災科	40	<ul style="list-style-type: none"> 「社会環境と災害」「自然環境と災害」「人としての生き方・在り方」を中心に置き、阪神・淡路大震災の体験から、「命の大切さ」「人と人との助け

					<p>合い」「コミュニティ」などを中心課題として学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地球規模で考え、地球で活動する」人間の育成を図る
和歌山県	貴志川高校	平成11年	人間科学科	40	<ul style="list-style-type: none"> 保育科を改編 幼児期から高齢期に至る各ステージにおける幅広い生涯学習の推進に寄与できる人材の育成 「生涯学習概論」、「ヒューマンライフ」等を開設
	桐蔭高校	平成11年	総合人文科	80	<ul style="list-style-type: none"> 人文・社会科学分野全般に関する専門性の基礎を培う 「日本文化」、「人間科学」、「国際コミュニケーション」、「比較文化英文講読」等開設
	向陽高校	平成14年	文化科学科	40	<ul style="list-style-type: none"> 国語、英語、地歴・公民に関する専門領域を深く学習

					<p>し、理数に関する学習も重視</p> <ul style="list-style-type: none"> • 将来の高等教育機関におけるより専門的な学問や研究につながる基礎となる力を養成 • 「現代を読む」、「現代国際政治」、「時事英語講読」、「現代英語評論」、「数理解明」等開設
	粉河高校	平成15年	人文科学科	40	<ul style="list-style-type: none"> • 人文科学系各分野の基礎となる幅広い専門科目を学び、将来にわたって学究的態度や能力を育成 • 「人文国語」、「人間と世界」、「時事社会」、「English on WW W」、「異文化コミュニケーション」等開設
岡山県	児島地域新高校 (校名未定)	平成17年	普通系専門学科 (学科名未定)	(未定)	<ul style="list-style-type: none"> • 普通科と商業科の枠を超えた特色ある普通系専門学科で、実社会

					<p>との関わりを積極的に求めた教育を展開し、生涯を通じて主体的・積極的に生きる意欲や行動力を養う</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育活動の中核として、共通履修科目「未来創造学」を開設 • 人文・社会、数理・自然、ビジネスの3分野で多様な科目を開設
吉井・和気地域新高校 (校名未定)	平成17年	キャリア探求科	120	<ul style="list-style-type: none"> • 普通系専門学科で、ビジネス、情報、福祉、環境等に関する科目を開設、生徒の多様な興味・関心や進路目的に応える 	

福岡県	大川樟風高校	平成15年	文理科	40	<ul style="list-style-type: none"> 文科系から理科系まで幅広い基礎学力を育成するとともに、高校入学後の進路選択に応じた弾力的な教育課程のもとで発展的な学習を実施
長崎県	小浜高校	平成11年	国際観光科	40	<ul style="list-style-type: none"> 観光に関する知識と技術の習得 外国語教育
熊本県	湧心館高校	平成6年	情報科学科 科学技術コース	40 (10)	<ul style="list-style-type: none"> 定時制単位制高校夜間部の情報科学科に設けた「科学技術コース」は、工業と商業の専門科目を有する複合学科で、県立熊本高等技術訓練校との間に技能連携制度を導入
横浜市	科学技術高等学校 (仮称)	平成21年 (予定)	科学技術科 (仮称)	240 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> 横浜サイエンスフロンティア地区に立地する特性を生かした、先端的科学技術を学ぶことのできる学科の創設

京都市	堀川高校	平成11年	人間探究科	80	<ul style="list-style-type: none"> • 人文系統の学習を深め、人間の文化や社会・行動等について、探究する能力を養う学科 • 学習内容をベース・コア・オプション科目に分類し、基礎基本の充実、興味関心の深化、進路希望の実現に対応
	西京高校 (西京商業高校)	平成15年	エンタープライジング科	200	<ul style="list-style-type: none"> • これまでの商業科を発展的に解消し、普通科・商業科の枠を超えた新たな専門学科を、平成15年4月に開設 • 経済社会の国際化、情報化、ボーダレス化に対応し、グローバルな視点で自然現象や社会事象を考察する豊かな知識と独創的な発想力、積極果敢な行動力をもって、21世紀をリードするに相応しい能力

					と態度を育成
大阪市	南高校	平成3年	国語科	80	<ul style="list-style-type: none"> 国語の正しい理解、優れた言語感覚と広い文化的視野の育成 文学踏査、古典芸能鑑賞など特色ある行事
	扇町高校	平成4年	人文学科	80	<ul style="list-style-type: none"> 人間と文化、文学と歴史の学習 国語、社会、英語の文科系専門科目を充実 少人数ゼミ形式やフィールドワーク（実地調査）等を取り入れた授業

私立

都道府県等名	学校名	設置年度	設置学科・コース	募集定員	概要
秋田県	秋田経済法科大学附属高校	平成17年（予定）	普通科の中にコース制の設置	40	<ul style="list-style-type: none"> 検討中、進学コース
東京都	関東国際高校	昭和61年	外国語科	200	<ul style="list-style-type: none"> 英語科を改編（昭和57年） 外国語科-英語コース（昭和61年）、中国語コース（昭和61年）、ロシア語コース（平成3年）、韓国語コース（平成12年）

					<ul style="list-style-type: none"> 各コースとも、2年次にて海外短期留学(約45～60日間)を実施し、各国の人々とのふれあいにおいて生きた語学力を学習する
		昭和59年	演劇科	40	<ul style="list-style-type: none"> 演劇を通して、知力、情操、体力をバランスよく学習・育成する
	淑徳高校	平成2年	留学類型	45	<ul style="list-style-type: none"> 高校1年の8月から高校2年の7月までアメリカ、イギリス両国の提携校に生徒を留学させ、両国で取得した単位を認めている。その為、1年間休学することなく3年間で卒業できる
静岡県	清陵高校	平成13年	高・大一貫コース	160	<ul style="list-style-type: none"> 高校と大学連携による教育プログラムの下で、機械、電子、物質、情報分野の知識を習得 各分野の実験を集中講座で実施
	浜松海の星高校	平成13年	演劇コース	30	<ul style="list-style-type: none"> 演劇を実践的に学ぶことをつうじて、情操及び感性を豊かにして創造性を養う。
京都府	京都暁星高校	平成16年	進学		<ul style="list-style-type: none"> 個別指導による授業の実施

大阪府	飛翔館 高校	平成11年	普通科 美容コース	40	<ul style="list-style-type: none"> 美容実技、美容理論を3年間で14単位学習、卒業後半年で美容師の国家試験の受験資格が得られる
	堺女子 高校	平成13年	美容進学コース	37	<ul style="list-style-type: none"> 美容実習では、シザーズカッティングやピンカールなどをマスター 美容技術の初歩から高度なテクニックまでを身に付けさせる 堺女子短期大学美容進学科への進学を目指す
		平成15年	メイクアートコース	37	<ul style="list-style-type: none"> メイクアート関連事業を学習 「色彩学」や「社会福祉基礎」「基礎介護」などこれからのメイクアートに大切な専門的な知識を幅広く身に付ける 堺女子短期大学美容文化学科ビューティーメイクコースへの進学を目指す
		平成16年	アクティブアートコース	37	<ul style="list-style-type: none"> 感受性が豊かな3年間で「自分自身を表現する」能力を高める 音楽、演技、ダンスの基礎から実践までを学ぶ
和歌山県	高野山 高校	平成13年	宗教科 -設置の趣旨(資料)-26-	30	<ul style="list-style-type: none"> 僧侶を志すものの養成を目指し、明確な目的

					意識をもたせ、 専門的な素養を 身につける
鹿児島県	鹿児島 城西高 校	平成15年	トータルエステティ ック科	40	<ul style="list-style-type: none"> • エステ、メイク、 ネイル実習を通 して美容産業界 で即戦力になる 人材を育成
	鹿屋中 央高校	平成15年	人間科学科	255	<ul style="list-style-type: none"> • 既存の普通科、 商業科、医療業 務科、調理科を 統合し、5つのコ ースで複数の免 許や資格を取得 する • 人間科学の専門 科目では、コミュ ニケーション能力 や道徳基礎、人 間関係のあり方 等を学習
	鹿児島 情報高 校	平成16年	e-プレップ科	30	<ul style="list-style-type: none"> • 海外留学(3ヶ月 又は1年間)やe- ラーニングを必須 とするなど、英語 教育を特化して、 難関大学への進 学を目指すとも に、英語とIT技術 を国際舞台で駆 使できる人材を 育成する

お問合せ先

初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室

(初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室)

-- 登録:平成21年以前 --



第1章 理論編

第1節 「表現運動系及びダンス」のねらいと内容

1 学習指導要領の改訂のねらい

(1) 「生きる力を育む」

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われています。

このような知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性を増大させています。このような状況において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっていきます(図1)。

こうした時代の変化を受けて、60年ぶりに改正された教育基本法及び学校教育法では、知・徳・体のバランス(教育基本法第2条第1号)とともに、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し(学校教育法第30条第2項)、学校教育においてはこれらを調和的に育むことが必要である旨が法律上規定されました。

新しい学習指導要領は、「生きる力」の育成に向けてより具体化し充実させるという視点から改訂が行われました。

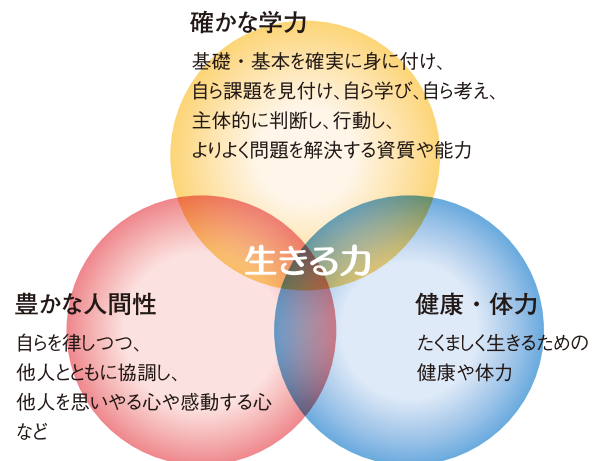


図1 「生きる力」の育成イメージ

(2) 体育科・保健体育科の改訂の趣旨

「生きる力」は、これまでと同様に、学校教育全体で育むことが求められますが、健やかな体の育成の基礎を担う体育科・保健体育科における役割はますます重要であると言えます。

中央教育審議会答申(平成20年1月)で、体育科・保健体育科について、次のような課題が指摘されています。

〈体育の分野〉

- ①運動する子どもとそうでない子どもの二極化
- ②子どもの体力の低下傾向が依然深刻
- ③運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜び、その基盤となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力が十分に図られていない例も見られること
- ④学習体験のないまま領域を選択しているのではないか

〈保健の分野〉

- ①今後、自らの健康管理に必要な情報を収集して判断し、行動を選択していくことが一層求められること
- ②生活習慣の乱れが小学校低学年にも見られるとの指摘があること

これらの課題を踏まえて、小学校から高等学校までを見通して、次の視点を重視した改訂が行われました。

生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し改善を図る。
その際、心と体をより一体としてとらえ、健全な成長を促すことが重要であることから、引き続き保健と体育を関連させて指導することとする。

また、学習したことを実生活、実社会において生かすことを重視し、学校段階の接続及び発達の段階に応じて指導内容を整理し、明確に示すことで体系化を図る。

（『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について』〈答申〉）
平成20年1月17日 中央教育審議会

（3）小学校から高等学校までを見通した指導内容の体系化

体育の分野（小学校運動領域、中学校体育分野、高等学校科目体育）では、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、小学校から高等学校までを見通して、指導内容の改善が図られました。

図2のように、従前の学習指導要領では「基本の運動」の「内容」として示されていたものが「領域」として示されました。「体づくり運動」については、すべての学年に位置付けられています。

「体づくり運動」の領域の内容のうち、すべての学年で「体ほぐしの運動」が

位置付けられるとともに、小学校低学年及び中学年では、直接体力の向上を目指すのではなく、基本的な動きを身に付けることに重点を置いた「多様な動きをつくる運動（遊び）」が新たに位置付けられました。

「体づくり運動」と「体育理論」を除く、他の運動の領域では、小学校から中学校第2学年までは、従前の中学校学習指導要領で選択であった武道及びダンスを含めたすべての領域が必修となり、児童生徒が共通の学習を行うこととなっています。そして、中学校第3学年からは領域の選択がはじまり、中学校第3学年及び高等学校入学年次では、領域のまとまりからそれぞれ選択し学習した後、高等学校入学年次以降の学習では、必修を除くすべての運動領域の中から生徒自らが選択できるようにすることで、生涯にわたって取り組むようなスポーツと出会い、主体的な学習に取り組めるよう体育学習が進められていきます。また、小学校から高等学校までの三つの段階では、次のような指導が期待されます。

【第1段階】

小学校低・中学年では、核となる易しい運動を幅広く行い、基本的な動きを身に付けていくことが大切です。また、児童は仲間とかかわったり、動きを工夫したりしながら運動遊びや運動の楽しさを味わうことが求められます。一方、教師は、高学年以降につながる運動やスポーツの基本となる動きや意欲の育成に努め、結果として体力の養成を目指します。

小学校			中学校		高等学校		
1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	3年	入学年次	次の年次	それ以降
体づくり運動		体づくり運動		体づくり運動			
器械・器具を使った運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技	陸上競技
水遊び	浮く・泳ぐ運動	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
表現・リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス	ダンス
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技	球技	球技
			武道	武道	武道	武道	武道
			体育理論		体育理論		
	保健領域		保健分野		科目保健		

*学習指導要領では、選択となる領域は、器械運動、陸上競技、水泳、球技、武道、ダンスの順で示されている。

図2 体育の分野 小学校から高等学校までの指導内容

【第2段階】

小学校高学年、及び中学校第1学年及び第2学年の段階は、中学校第3学年以降に始まる領域の選択に向けて次第に本格的な運動やスポーツに近づける段階です。全ての運動領域において、それぞれの特性や魅力に触れることができる指導が大切です。小学校高学年と中学校第1学年の校種の接続に配慮した指導が求められます。

【第3段階】

中学校第3学年から高等学校卒業時までの最終段階です。運動の特性や魅力に応じた領域のまとまりから自ら選択をし（中学校第3学年及び高等学校入学年次）、自己のスポーツの嗜好性を確認した後、高等学校入学年次以降においては、自らが取り組みたい領域を選択し、卒業後の豊かなスポーツライフの実現を図るため、主体的な取り組みを促す指導の工夫が求められます。

このように、小学校、中学校、高等学校の校種の接続を踏まえた指導によって、「生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現」を図ります。

また、体育理論では、中学校及び高等学校でのスパイラルな学習を通して運動やスポーツの科学的、文化的、社会的側面を学びます。

さらに、保健は、小学校第3学年から高等学校入学年次の次の年次までの継続履修を通して、健康・安全に関する実践力の育成を図ります。

2 「表現運動系及びダンス」（以下「ダンス系」領域という）のねらいと内容

(1) 「ダンス系」領域の学習

「ダンス系」領域についての学習では、体育科・保健体育科の目標に掲げられている「心と体をより一体としてとらえること」が重要です。さらに、平成20年1月の中央教育審議会答申の中で体育の改善の基本方針として「体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通してコミュニケーション能力を育成することや、筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通して論理的思考力を育むことにも資する」と示されていますが、ダンス系領域の学習にはこれらの趣旨に合致している要素が豊富に含まれています。例えば、リズムに乗って全身を動かし心身を解放して楽しく踊ることは、多様な身体能力の向上とともに心身のほぐし（癒し）の機能をもちます。また、イメージやリズムにふさわしい動きを見付けたり作品を創作・鑑賞したりする中には、仲間との話し合いや互いのよさを生かし合ってダンスを工夫していく活動が頻繁に行われます。このように、ダンス系領域の学習は、「いま・ここ」で感じた身体感覚や発想を手掛かりに課題解決的な学習を展開します。これらの一連の学習を通して「身体による豊かなコミュニケーション能力」が培われるのです。

(2) 「ダンス系」領域の改訂

次に「ダンス系」領域における改訂の要点について解説します。

一点目は、中学校第1学年及び第2学年で「ダンス」領域が必修になったことです。昭和52年改訂の学習指導要領以前は、主として男子が「格技（武道）」、女子が「ダンス」を履修することとされていました。平成元年の改訂以降は性差による履修の違いがなくなったものの、中学校第1学年で「武道」と「ダンス」のいずれかを選択すること、第2学年からは「球技」「武道」「ダンス」の中から2領域を選択することにとどまっていた。そのため、結果としてダンスの学習経験がないまま、ダンスを含めた運動を選択することになっていました。その改善を図り、平成20年の改訂では中学校第1学年及び第2学年において「武道」「ダンス」を含め、すべての運動領域が必修となりました。小学校の表現運動系の領域はこれまでも必修であることから、

今回の改訂により、「ダンス系」領域は、小学校第1学年から中学校第2学年まで必修となりました。こうしたダンス系領域の必修化は、学習経験の量的な拡大と共に、心身の解放や「身体表現を通じたコミュニケーション能力の育成（中央教育審議会答申、平成20年）」といったダンス系領域の特徴的な学びを保証する質的な高まりの可能性においても期待されます。

二点目は、指導内容の体系化が図られたことです。学習指導要領における「ダンス系領域」を小学校から高等学校までの三つの「発達の段階のまとまり」として捉えると、およそ次のように置き換えることができます。小学校第1学年から第4学年は、「いろいろなリズムや表現の遊びを体験して、多様な身体感覚やコミュニケーションの基礎を身に付けるなど、楽しく活動しながらダンスの基礎を培う時期」です。小学校第5学年から中学校第2学年は、「いろいろなダンスを体験して、それぞれのダンスの特性（楽しさや魅力）に触れる時期」であり、運動のよさを踏まえた上で、将来に向けて運動を選択できる力を養うことが大切です。特に、中学校第1学年と第2学年のうちに、ダンスの三つの内容をバランスよく経験しておくことが中学校第3学年以降に生徒自身がダンスを選択する上でより適切に選択できるようになることが期待できます。中学校第3学年から高等学校は、その後の生涯スポーツに向けて、「好きなダンスを選び、自己の課題やテーマ等に基づいて学びを深めていく時期」です。こうした考え方により、おおよそ4年ごとのまとまりで、表現遊び・表現・創作ダンス（以下、「表現系ダンス」という）、リズム遊び・リズムダンス・現代的なリズムのダンス（以下、「リズム系ダンス」という）、フォークダンスの運動種目ごとの指導内容が整理され、系統化されました。

三点目は、指導内容の明確化が図られたことです。特に、小学校から高等学校まで共通して、「技能」の内容（題材やテーマ・リズム・曲目とそれに対応する動きなど）が従前よりも具体的に示され、何を指導したらよいのかが明確になりました。これは、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を培う観点から、それぞれの運動の特性に応じた指導ができるように具体的な内容が示されたものです。その際、指導内容の確実な定着を図ることができるように、運動の取り上げ方を弾力化し、小学校から中学校第2学年までにおいては、小学校運動領域、中学校体育分野のうち、体づくり運動、体育理論を除く全ての領域で2学年のいずれかの学年で取り上げ指導することができるようになりました。

(3) 「ダンス系」領域の内容とねらい

①運動種目ごとのダンス（以下、「三つのダンス」という）の特性など

「ダンス系」領域は、「表現系ダンス」「リズム系ダンス」「フォークダンス」の「三つのダンス」で構成され、小学校から高等学校へのつながりと発展性を持つようにしています（表1）。これらの「三つのダンス」の特性は、それぞれ「イメージをとらえたり深めたりして表現する」、「リズムの特徴をとらえてリズムに乗って全身で踊る」、「伝承されてきた踊りを踊って交流する」ことです。表現系とリズム系のダンスがいずれも自由に動きを工夫する創造的な学習で進められるのが特徴であるのに対して、フォークダンスは伝承された踊りを再現して踊る定形の学習で進められるところに違いがあります。

そもそもダンスは、人類の最古の文化の一つであり、踊りを持たない民族はないといわれるように、今日に至るまで、時代とともに変容しながら常に人間の生活と深く関わって存在してきた文化です。ダンスの語源の一つに「生命の欲求：desire of life」という意味があるように、人々は様々な思いや欲求を身体で語りかけ、生きる証として踊り、踊りを通して他者と共感・交流してきました。そして、現在、老若男女を問わず、多種多様なダンスがさまざまな地域で踊られています。踊って楽しむ娯楽的なダンスや、観て楽しむ芸術的なダンス、民俗的発生の特徴を持つ歌舞伎舞踊やフラダンス、舞台芸術としてのバレエなどは、その一例と言えます。

ではなぜ、これらの多種多様なダンスの中で、学校教育においては「三つのダンス」を行うのかについて、ダンスの発生の歴史と教育的価値から解説します。「フォークダンス」は世界各国・各地域で自然発生し、伝承されてきた地域固有のダンスであり、決まった様式や動きには国や地域の風土や文化が反映されています。

「表現系ダンス」は、1920年代に確立された「モダンダンス」に由来し、一人一人の個性に応じて創造的なダンスで表したいイメージや思いを自由な動きで踊ります。「リズム系ダンス」は、1950年代に現れたロック(ロックンロール)や近年のストリートダンスを背景とするヒップホップなど、ビートが主体のリズムに乗って全身で踊るダンス(アフリカンダンスの原初的なリズムと動きに由来すると考えられている)の総称であり、人々を踊りに誘う「律動の快感」があります。ですから、これらの「表現系ダンス」「リズム系ダンス」は世界の人々に共通して楽しまれているダンスと言えます。なお、「表現・創作ダンス」、「リズムダンス・現代的なリズムのダンス」などの名称は、社会におけるダンスを背景にしながら、学校におけるダンスの内容として固有に用いられている名称です。

その他のダンスも価値としては等価ですが、「表現系ダンス」は文化の創造、「リズム系ダンス」は人間に内在する根源的な律動(リズム)の生成、「フォークダンス」は文化の伝承という、異なる価値を持った典型として設定されています。さらに、小学生から高校生までの男女を問わず、誰もが学習する内容を明確にもち、体育科・保健体育科の年間授業時数(90～105時間)の中で習得可能なダンスの内容を考慮した時に、学校における学習内容として取り上げられたのが「三つのダンス」です。

表1 表現運動系及びダンス領域の内容構成 *表中の()は主内容に加えて指導してもよい内容

学年	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校・高等学校
領域名称	表現リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス
内容	ア. 表現遊び イ. リズム遊び (リズム遊びに簡単なフォークダンスを含む)	ア. 表現 イ. リズムダンス (フォークダンス)	ア. 表現 イ. フォークダンス (リズムダンス)	ア. 創作ダンス イ. フォークダンス ウ. 現代的なリズムのダンス (中学校はその他のダンス、高校は社交ダンス等のその他のダンスも履修させることができる)

②「ダンス系」領域の発達の段階に応じた内容構成

続いて、これらの「三つのダンス」が発達の段階に応じてどのように取り上げられているかについて、小学校から高等学校まで順に述べていきます。

小学校の「表現運動系」の領域は、低学年の「表現リズム遊び」、中・高学年の「表現運動」で構成されています。主な内容として、低学年の「表現リズム遊び」では「表現遊び」「リズム遊び」の二つで、中・高学年の「表現運動」では、「表現」「リズムダンス」「フォークダンス」の三つの内容で構成されています。これらの内容は、自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる特性をもった運動です。

低学年の「表現リズム遊び」では、「表現遊び」と「リズム遊び」を組み合わせた遊びの体験を通して、即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを培えるようにすることが大切です。これらの運動は、身近な動物や乗り物などの題材の特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりして楽しむことができる運動遊びです。また、友達といろいろな動きを見つけて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりして楽しむ運動遊びでもあります。なお、内容の取扱いとして「リズム遊び」には、簡単な「フォークダンス」を含めて指導できることが新たに示されています。これは、中学年で行う「リズムダンス」と高学年で行う「フォークダンス」へのつながりを考慮するとともに、低学年の発達特性を踏まえると、リズムに乗って楽しく踊ることが、リズム遊びに近いことから、三つの易しい内容を含めて指導することもできると考えられるからです。

中学年では「表現」と「リズムダンス」を内容として、身近な生活などの題材から多様な動きを即興的に踊ったり、ロックやサンバなどのリズムに乗って自由に踊ったりする体験を大切にしています。高学年では、様々なイメージをとらえた「表現」や、「フォークダンス」の学習を通して我が国の文化や異文化に触れる体験をします。なお、地域や学校の実態に応じて、中学年では「フォークダンス」を、高学年では「リズムダンス」を加えて指導できるようにしています。指導内容の系統性を考慮すると三つの内容を低学年から高学年まで継続して指導することが望ましいのですが、体育の年間授業時数（中学年 105 時間、高学年 90 時間）の中で、7 領域（中学年からは保健も入る）を指導することから、中学年・高学年における「表現運動」はそれぞれ二つの内容を重点的に学習するように示されています。

中学校・高等学校の「ダンス」領域は、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の三つの内容で構成されています。これらの内容は、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流によって仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動で、仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動です。

このように小学校の6年間で三つのダンスを体験した子ども達は、中学校第1学年及び第2学年で三つの内容をバランスよく体験することによって、その後のダンスを選択して取り組む授業にスムーズに移行できるようにすることも考えられます。したがって、このような小中高へと連続した学習体験を児童生徒に保障していけるような内容の取り上げ方を工夫していくことが重要です。なお、中学校第1・2学年では、学習指導要領に「2年間でアからウまでの中から選択して履修できるようにすること。」と示されています。

(4) 「ダンス系」領域における指導内容の明確化・体系化

平成 20 年の学習指導要領の改訂では、「表現運動系及びダンス」領域の内容には従前と大きな変更はないものの、指導内容の系統性・明確化・体系化を重視していることから、指導内容が具体的に示されているのが特徴です。そのため「学習指導要領解説（以下、「解説」という）」では、特に「技能」の内容について多くの例示がされていますが、これらを全て行うということではなく、目の前の子ども達の状況に即して指導することが大切です。

①表現系ダンス

「表現系ダンス」では、技能を「何を」と「どのように」表現するかという二つの観点から示されています。「何を」にあたるのは題材やテーマからとらえたイメージであり、「どのように」にあたるのは表したい題材やテーマにふさわしい動き（動き方）です。解説では、発達の段階や学習経験に応じて、具体的なものから抽象的なものまで例示されています。

小学校では、低学年は児童に身近で特徴のある動きを多く含む題材と動き、中学年は身近な生活や空想の世界からの題材と動き、高学年は激しい感じや群が生きる題材と動きなど、2学年ごとに「題材と動きの例示」がされています。中学校・高等学校では、AからFまでの「多様なテーマと題材や動きの例示」がされています。題材とともに示されている「テーマ」は、より幅広く多様な表現の手がかりとして設定されたものであり、Aは「身近な生活や日常動作」、Bは「対極の動きの連続」、Cは「多様な感じ」、Dは「群の動き」、Eは「ものを使う」、Fは「はこびとストーリー」に当たります。このAからFの指導の順序性はありませんが、DやFは学習経験が進んだ段階で指導することが望ましい内容と言えます。

「どのように」にあたる動き（動き方）は、「即興的な表現」と「簡単なひとまとまりの表現・作品創作」の二つであり、表現・創作に必要な内容（どんな動きで、どう表現すればよいか）を示しています。「即興的な表現」とは、「題材やテーマから思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きに変えて表現し、その動きを誇張したり、変化を付けたりして、表したいイメージの一番大事な部分を『ひと流れの動き』にして表現すること」を意味しており、表現系ダンスでは最も基本となる重要な技能として位置付けられます。その具

体的な内容は、「そのものになりきって全身の動きで踊る」「変化や連続のあるひと流れの動きで踊る」「誇張したり繰り返したりして踊る」「ダイナミックにメリハリをつけて踊る」など、学年が進むにつれて重点は異なっているものの、小学校・中学校・高等学校を通してどの段階においても必要な技能です。「簡単なひとまとまりの表現・作品創作」は、小学校低学年では「即興的な表現」が中心であるため内容に示されていませんが、中学年では中心になる場面に「はじめとおわり」をつける、高学年から中学校・高等学校では、表したいイメージを「はじめ—なか—おわり」の場面構成を工夫して「ひとまとまりの動き」で表現することを目指しています。なお、「発表」については、小学校の「なりきって踊る」「感じを込めて踊る」、中学校・高等学校の「踊り込んで」というように、発達に対応して発展するように示されています。

②リズム系ダンス

「リズム系ダンス」は、平成10年告示の学習指導要領で新たに導入された内容です。ロックやサンバ、ヒップホップなどの現代的なリズムの音楽に乗って自由に弾んで踊るダンスは、子どもたちの関心も高く、今の時代に合った学習内容であるとして、内容に位置付けられました。リズム系ダンスは、表現系ダンスと同様に、自由に表現して踊るダンスです。取り上げるリズムとして、小学校ではロックやサンバ、中学・高校ではロックやヒップホップが例示されており、小学校ではロックやサンバのリズムに乗って弾んで踊る「律動の体験」、すなわち「踊る原点」としての体験を重視しています。中学・高校においても、このような自由に弾んで踊る律動の体験を基にヒップホップの踊りに発展できるようにしています。したがって、今流行のヒップホップダンスだけを特に学ぶという意味ではありません。また、リズム系ダンスの重要な技能は、教師が振り付けした動きをそのまま踊るのではなく、全身で弾んで友達と関わって自由に踊ることができることです。

リズム系ダンスの技能を表現系ダンスと同様に考えてみると、「何を」にあたるのはロックやサンバ、ヒップホップなどの「リズム」であり、「どのように」にあたるのはリズムの特徴をとらえて「全身で自由に踊る」と「まとまりをつけて踊る」の二つになります。小学校低学年の「リズム遊び」や中学年の「リズムダンス」では、軽快なロックやサンバの曲に乗って全身で弾んで自由に踊ったり、友達と関わって踊ったりすることが中心であり、中学・高校では、ややスローなテンポのヒップホップも加えて、「全身で自由に踊る」初歩的な段階と、「まとまりをつけて踊る」発展的な段階があります。

③「フォークダンス」

「フォークダンス」の内容は、伝承されてきた日本の「民踊」と外国の「フォークダンス」の二つで構成されています。日本の「民踊」では、各地域で伝承されてきた民踊や代表的な日本の民踊の中から、軽快なリズムの踊りや力強い踊り、優雅な踊りなどの踊りの特徴や、難易度を踏まえて選び、躍動的な動きや手振り、腰を落とした動きなどの日本の民踊の特徴をとらえて踊ることが大切です。外国の「フォークダンス」では、世界の代表的な曲目から、曲調をとらえて、踊り方（ステップ、動き、隊形、組み方など）の難易度を考慮して、様々な国や地域の踊りを取り上げて、仲間と楽しく踊って交流することが大切です。

なお、これらの「三つのダンス」の特性と重点的な内容などをまとめたのが表2です。

表2 「三つのダンス」の特性と重点的な内容

	表現（小）・ 創作ダンス（中・高）	リズムダンス（小）・現代的な リズムのダンス（中・高）	フォークダンス （小・中・高）
運動の特性 （楽しさや魅力）	表したいイメージを自由に動き を工夫して踊り表現する 【自由に踊る創造的な学習】	ロックやサンバ、ヒップホップ などのリズムに乗って自由に友 達と関わって踊る 【自由に踊る創造的な学習】	日本や外国の伝承された踊りを 身に付けてみんなと一緒に踊っ て交流する 【再現して踊る定形の学習】
特性と関わる重点	イメージになりきって自由に踊る	リズムに乗って自由に踊る	踊りを共有して人と交流して踊る
主な技能の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全身を使って、大きさに表現（誇張）して踊る ・変化を付けた「ひと流れの動き」で踊る（即興的な表現） ・「はじめ～なか～おわり」の「ひとまとまりの動き」にして踊る（ひとまとまりの表現・作品） 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに乗って全身で弾んで踊る ・リズムの特徴をとらえて、体幹部でリズムに乗って踊る ・変化とまとまりをつけて連続して踊る 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なステップや組み方を身に付けて通して皆で踊る ・踊りの背景や特徴を捉えて味わって（洗練させて）皆で踊る
工夫の視点や 楽しみ方	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージと動きの多様な関わり ・即興的な表現と作品創作の二つの楽しみ方 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽のリズムと動きの多様な関わり ・相手との関わり方の工夫 ・交流会などの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・踊りの特徴や感じの違い ・踊り方の難易度等（易しい～難しい、単純～複雑）

第2節 「表現運動系及びダンス」の具体的な指導内容

1 技能について -技能の捉え方と特徴-

「ダンス系」領域では、子どもたちが、「表現系ダンス」「リズム系ダンス」「フォークダンス」のそれぞれのダンスの特性に触れ、楽しさや喜びを十分に味わいながら、そのために必要な技能を身に付けていけるよう指導していくことが大切です。

しかしながら、「ダンス系」領域では、「技能の指導が難しい、どのように指導したらよいかかわりにくい」という声がよく聞かれます。それは、「ダンス系」領域の中でも、特に「表現系ダンス」と「リズム系ダンス」という創造的なダンスでは、他の多くの運動領域のように、具体的な技や技能の系統性や構造がはじめにあって、易しいものから難しいものへとその習得を段階的に目指すものではないからでしょう。「ダンス系」領域における技能は、子ども一人一人の多様な表現を認め、引き出すことによって、広がる多様な技能です。つまり、技能は一律のものではなく、多様で複線的に高まりが見られるところに特徴があります。

学習指導要領の「技能」の表記においても、「ダンス系」領域と他領域では違いが見られます。例えば、以下は小学校第5・6学年の各運動領域（体づくり運動は除く）の技能の文章ですが、全ての運動領域で「次の運動の楽しさや喜びに触れ、」までは共通ですが、「表現運動」領域ではその後に、「表したい感じを表現したり踊りの特徴をとらえたりして」と第5・6学年で取り上げる「表現」や「フォークダンス」の特性に言及しているところに特徴があり、技能の習得が前面に出るのではなく、特性と関連した技能が重視されていることがわかります。

表現運動：次の運動の楽しさや喜びに触れ、表したい感じを表現したり踊りの特徴をとらえたりして踊ることができるようにする。

器械運動：次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。

陸上運動・水泳・ボール運動：

次の運動の楽しさや喜びに触れ、その技能を身に付けることができるようにする。

このように、「ダンス系」領域は、勝敗もなく、他領域に比べると「できる・できない」が明確に見えにくいものの、三つのダンスそれぞれに「よい動き」と評価できる動きはあり、子ども一人一人が求める動きや表現の多様な広がりの中にも共通に押さえない技能のポイントがあります。

「ダンス系」領域における技能とは、それぞれのダンスの特性に関わる「動きの面白さ」＝「よい動き」を示すものであり、教師は三つのダンスの特性を十分に理解した上で、子どもの発達の段階や学習状況に応じて学習のねらいを明確に設定し、子どもたちが確実に技能を身に付けて踊ることの楽しさや喜びを味わえるよう、指導に当たらなければなりません。

(1) 表現系ダンス

①技能のポイント

表現系ダンスでは、題材やテーマからとらえたイメージを、「ひと流れの動きで即興的に表現すること」と「ひとまとまりの表現や簡単な作品にまとめて踊ること」の二つをねらいとしています。

すなわち、表現系ダンスの技能は、先述のように、「何を」（テーマや題材からとらえたイメージ）、「どのように表現するか」（即興的な表現、ひとまとまりの表現・作品創作）という観点で見ることが大切です。

「即興的に表現する」とは、1時間の授業の中で、テーマや題材から思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きに変えて表現し、その動きを誇張したり変化を付けたりして、表したいイメージの一番大事な部分を「ひと流れの動き」にして表現することです。

次に、「ひとまとまりの表現（あるいは簡単な作品）にまとめて踊る」とは、単元の後半に数時間をかけて、「ひと流れの動き」をふくらませ、表したいイメージを「はじめ—なか—おわり」の場面構成を工夫して表現することです。

また、即興的な表現でも、ひとまとまりの表現でも、見せ合いや発表の場で、感じを込めて、なりきって踊ることができるようにすることも大切です。

表現系ダンスの技能のポイントを簡潔にまとめると、以下のようになります。

- ・表したいイメージにふさわしい動きを見付けることができる。
- ・全身を使って、大げさに表現（誇張）することができる。
- ・動きに変化を付けてメリハリのある表現にすることができる。
- ・動きをスムーズにつなげて連続させ、気持ちも途切れずに踊ることができる。
- ・感じを込めてなりきって踊ることができる。

また、次のように、空間、時間、力性の三つの観点から工夫し、強調して表現することで、動きを誇張したり、変化とメリハリを付けたりすることができます。

- ・＜空間—体幹＞跳んだり、転がったり伏せたりという高低の変化、捻り、面の変化、回転などいろいろな動きをすることができる。
- ・＜空間—軌跡・隊形（群構成）＞空間を大きく使うことができる。空間の使い方（軌跡・隊形）、群の使い方（個と群、2群など）を工夫することができる。
- ・＜時間＞リズムや速さに変化（速く—ゆっくり、急にストップ、スローモーション）を付けることができる。
- ・＜力性＞強弱やアクセントを付けることができる。

技能のポイントとして、第一に、「表したいイメージにふさわしい動きを見付けることができる」ことを挙げていますが、表現系ダンスで注意すべき点は、同じ題材でもどのようなイメージをとらえて表現するかによって、イメージにふさわしいよい動きは変わることです。例えば、中学校第1・2学年に例示された「B対極の動きの連続など」の「走る—跳ぶ—転がる」では、「台風」をイメージした子どもは、台風の目を渦を巻きながら表現したり、激しく吹き付ける雨風を大きなジャンプの後ゴロゴロと激しい勢いで転がって表現したりして、まさにダイナミックに表現するかもしれません。それに対し、「タンポポの綿毛」をイメージした子どもは、風に乗って飛ばされる綿毛を軽く、音も立てず繊細に跳び、ふわっと地面に落ち、柔らかく転がって表現するかもしれません。すなわち、全身を使ってなりきって踊るという技能は共通ですが、表したいイメージによって動きを変化（例えば、空間性：大きく—小さく、時間性：速い—ゆっくり、力性：強い—軽い）させることで、動きの質感は多様な広がりを見せることができます。ここに表現系ダンスの特性と動きの面白さがあり、同時に指導と評価が難しい点でもあります。教師は子どもの多様な表現を認めつつ、イメージにふさわしい「よい動き」を観察する力をもって指導していくことが大切です。すなわち、取り上げるテーマや題材から「よい動き」を予測して子どもから引き出す指導をすること、更に、子どもの動きを見て「よい動き」になるように即座に助言していくという、場面に応じた臨機応変の指導が必要となります。

小学校学習指導要領解説（以下、「小学校解説」という）では、[題材と動きの例示]として、「○」に題材例が示され、「・」の一つめが「即興的な表現」の動き（動き方）、二つめが「ひとまとまりの表現」の動き（動き方）について、それぞれ変化とまとまりの付け方が例示されています。

中学校学習指導要領解説（以下、「中学校解説」という）および高等学校学習指導要領解説（以下、「高等学校解説」という）においては、中学校第1・2学年では＜多様なテーマと題材や動きの例示＞、中学校第3学年・高等学校では＜表したいテーマと題材や動きの例示＞として、AからF（中学校第1・2学年はE）まで六つのテーマが示され、括弧内にそのテーマから浮かび上がる題材や関連する動き、並びに展開例が示され、「・」に変化とまとまりの付け方が例示されています。

②発達の段階ごとの技能の内容

各校種の解説に示された表現遊び、表現、創作ダンス、選択して取り組む創作ダンス、それぞれの段階における技能の内容と特徴（枠の中は学習指導要領に示された内容）は以下の通りです。また、別表1（p.234）は、12年間の表現系ダンスの技能の内容を一覧にまとめたものです。

■ 表現遊び

<小学校第1学年及び第2学年>

表現遊びでは、身近な題材の特徴をとらえ全身で踊ること。

低学年の児童は、自分ではない何かに変身して虚構の世界に没入し、変身すること自体を楽しむことが好きです。小学校解説では、題材例として「身近な動物や乗り物など」を挙げており、身近な動物や乗り物などのいろいろな題材の様子や特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊ることができるようにします。

その中に、跳ぶ、回る、這うなどの動きによって、高低の差や速さの変化をつけたり、動きの中に「大変！○○だ」のような事件や急変する場面を入れて流れに変化を付けたりして、低学年の段階から簡単な変化とメリハリをつけて、表現系ダンスの動きの面白さを体験し、身に付けることができるようにすることが大切です。

■ 表現

<小学校第3学年及び第4学年>

表現では、身近な生活などの題材からその主な特徴をとらえ、対比する動きを組み合わせたり繰り返したりして踊ること。

<小学校第5学年及び第6学年>

表現では、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとまとまりの表現で踊ること。

中学年の児童は、多様なものへの探究心が旺盛で、現実的な題材よりも探検や忍者といった空想の世界に遊びながら、多様な場面の表現や、スリルに富みダイナミックに動ける題材を好む傾向があります。したがって、「身近な生活などの題材」例として、小学校解説では「具体的な生活からの題材（○○づくり、一日の生活など）」と、それと対比する「空想の世界からの題材（「○○探検」や、忍者や戦いなど二人組で対比する動きを含む題材）」の二つの題材を例示しています。それらの中から表したい題材を見付け、その主な特徴や感じをとらえてひと流れの動きで即興的に表現したり、表したい感じを中心に「はじめとおわり」を付けた動きにしたりして表現することができるようにします。

高学年になると、動きについては変化と起伏を好み、また心情を表現することも可能になりますが、題材についての好みは多様化し、個人差が広がってきます。したがって、「いろいろな題材」として、次の題材が例示されており、これらの中から、表したい感じやイメージを強調するように、変化を付けたひと流れの動

きで即興的に表現したり、グループで「はじめ—なか—おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現することができるようにします。

- ・「激しい感じの題材」
（生活や自然から「激しく〇〇する」や「急に〇〇する」など、変化や起伏のある動きを含む題材）
- ・「群（集団）が生きる題材」（生活や社会、自然などから特徴的な群の動きや迫力のある題材）
- ・題材を一つに固定せず、児童が関心のある題材を自由に選ぶことのできる「多様な題材」
（「私たちの地球」「小学校の思い出」など、社会や生活の中からグループで選んだ関心のある題材）

■ 創作ダンス

<中学校第1学年及び第2学年>

創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。

中学校第1・2学年では、「多様なテーマ」（括弧内は題材例など）として次の五つが例示され、日常的・具体的な題材から抽象的な題材、群の表現やものを使った表現まで幅広く取り上げられています。

- A「身近な生活や日常動作」（スポーツいろいろ、働く人々 など）
- B「対極の動きの連続など」（走る—跳ぶ—転がる、走る—止まる、伸びる—縮む など）
- C「多様な感じ」（激しい、急変する、軽快な、やわらかい、鋭い など）
- D「群（集団）の動き」（集まる—とび散る、磁石、エネルギー、対決 など）
- E「もの（小道具）を使う」（新聞紙、布、ゴムなど）

これらの多様なテーマから、自らが表現したいイメージをとらえ、動きを誇張したり、変化を付けたりして、ひと流れの動きにして表現することができるようにします。そして、表したいイメージを変化と起伏（盛り上がり）のある「はじめ—なか—おわり」のひとまとまりの構成で表現して踊ることができるようにします。

■ 創作ダンス（選択）

<中学校第3学年及び高等学校入学年次>

創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。

<高等学校その次の年次以降>

創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、対極の動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ること。

「表したいテーマ」として、中学校第1学年及び第2学年の五つのテーマに「はこびとストーリー」という作品の構成・展開に関わるテーマを加え、次の六つのテーマと題材例（中学3年・高校入学年次／高校その次の年次以降）が例示されています。

- A 「身近な生活や日常動作」(出会いと別れ、街の風景、綴られた日記／「ただ今、猛勉強中」、シャッターチャンス、クラス討論 など)
- B 「対極の動きの連続など」(ねじる一回る一見る／伸びる一落ちる一回る・転がる など)
- C 「多様な感じ」(静かな、落ち着いた、重々しい、力強い など／激しい・静かな、急変する・持続する、鋭い・柔らかい、素早い・ゆっくりしたなどの多様な感じの中から対照的な感じを表現する)
- D 「群(集団)の動き」
(大回り一小回り、主役と脇役、迷路、都会の孤独／カノン、ユニゾン、密集—分散 など)
- E 「もの(小道具)を使う」(椅子、楽器、ロープ、傘 など／大きな布、ゴム、机、ティッシュペーパー、新聞紙のボール、など質感や大きさの異なる「もの」を取り上げる)
- F 「はこびとストーリー」
(序破急、起承転結、物語 など／気に入った小説、詩、絵画などのテーマから作品をまとめる)

これらの多様なテーマから、表現にふさわしいテーマを選んで、見る人に伝わりやすいように、中心となるイメージをとらえ、主役と脇役の動き、ユニゾン(全員が合わせて踊ること)やばらばらの異なる動きなどの個や群の動きで、緩急(時間的要素)や強弱(力の要素)を最大限に強調した対極の動きや、列・円・渦巻き・密集—分散などの空間の使い方に変化を付けて、思いつくままにとらえたイメージをすぐに動きに変えて表現することができるようにします。

そして、即興的な表現から、表したいテーマにふさわしいイメージを一層深めて、中心となるイメージを強調した「はじめ—なか—おわり」の構成で、表現して踊ることができるようにします。そのためには、特に「なか」に当たる展開に、最も特徴的な動きや構成を強調した盛り上がりのある起伏を付けて、個性を生かした作品に高めて踊ることが大切です。

(2) リズム系ダンス

①技能のポイント

リズム系ダンスでは、ロックやサンバ、ヒップホップなどのリズムの特徴をとらえ、①リズムに乗って全身で自由に踊ることと、②まとまりを付けて踊ること、の二つをねらいとしています。

まずはリズムに乗って全身で弾んで踊る楽しさを味わうことができるように、小学校のリズム遊び・リズムダンスでは、軽快でリズムのとりやすいロックと、ラテン系の陽気なリズムに乗って弾んで踊りやすいサンバのリズムを取り上げています。続いて、中学校・高等学校の現代的なリズムのダンスでは、小学校で学んだロックのリズムに加えて、まさに現代のリズム系ダンスの代表と言えるヒップホップのリズムを取り上げています。

注意すべき点は、中学校解説において、指導に際しては、「既存の振り付けなどを模倣することに重点があるのではなく、変化とまとまりを付けて、全身で自由に続けて踊ることを強調することが大切である」と示されているように、リズム系ダンスは表現系ダンスと同じく創造的な自由なダンスであり、振り付けされたダンスのステップを習い覚えて踊ったり、そろえて踊る練習に時間をかけたりするのではなく、音楽のリズムに身を委ねて友達と自由に関わって踊ることにねらいがあることです。

そのため、指導の際には、先生から児童生徒へという一方向の指導だけではなく、例えば、児童・生徒同士が二人組になって、相手と向かい合って自由に関わり合い、掛け合いながら踊るような活動を早くから取り入れることなどが考えられます。また、リズム系ダンスは見せるよりも参加して踊る方が楽しめるダンスであるので、見せ合いも、踊る側と見る側が分かれている発表形式だけではなく、一曲の中で各グループが工夫した動きをメドレー形式やバトル形式(互いに掛け合ったりしてノリを競い合って踊る)で踊って見せ合ったり、参加して一緒に踊り合ったりするなどの交流を含んだ活動、すなわち「交流会」を取り入れることが効果的です。

リズム系ダンスの技能のポイントを簡潔にまとめると、以下のようになります。

- ・体幹部（おへそ）でリズムを取り、全身で、また体の各部位でリズムに乗って踊ることができる。
- ・素早いターンを入れたり、ポーズで止まったり（フリーズしたり）して、リズムをくずす瞬間をつくり、リズムへの乗り方を深めることができる。
- ・体が突っ立ったままにならず、ねじったり、回ったり、跳んだり、体の状態をいろいろに変えて、全身でしなやかにリズムに乗って踊ることができる。
- ・友だちと真似し合ったり、掛け合ったり、反対の動きをしたり、離れたりくっついたり、くぐり抜けたり、追いかけたりなど、いろいろな関わり方で相手と対応しながら踊ることができる。

また、それぞれのリズムの特徴と乗り方（動き）の工夫のポイントは、表3の通りです。

表3 リズムの特徴と乗り方（動き）の工夫のポイント ※BPMとは1分間のビート（拍）の数を示し、曲の速さ（テンポ）の目安となる。

リズム	リズムの小分類とその特徴	リズムの乗り方や動きの工夫のポイント
ロック (ポップス)	アップテンポ (BPM140～150) ・弾んで踊れるテンポで初心者にも踊りやすくどんな動きでも対応できる ややゆっくり (BPM120～130) ・歩くテンポ、強いビートに乗せたステップ系の動きが中心となる かなり速いテンポ (BPM150以上) ・駆け足のテンポ ・ユーロビートの曲を含む	○リズムに同調して全身で（体幹部で）リズムをとらえてその場で弾んで踊ったり、スキップしたりして移動を加えて踊る。手をつないで回ったりハイタッチしたりして掛け合って踊る。 ○アフタービート（後打ち）のリズムでアクセントを付けて踊る。回る、跳ぶ等の動きで変化をつけて相手と対応して踊る。アップテンポの曲より体幹部でリズムに乗るのは難しい。 ○リズムに合わせて単純な動きを繰り返して踊るにはよい。体幹部でリズムに乗ったり、いろいろな動きで変化を付けたりするにはテンポが速すぎて適さない。
サンバ (ラテン系)	ややゆっくり (BPM120～130) からアップテンポ (BPM140～150) まで ・「ウン・タッタ」の2拍の中にリズムの変化（シンコペーション）があり、打楽器の小刻みなラテンのリズムと陽気な感じが特徴。（・がアクセント）	○打楽器の小刻みなリズムを体の各部位で取って踊る ○腰（おへそ）の前後揺れとシンコペーションの特徴をつかんで踊る。 ○ロックと同様に動きに変化やアクセントを付けたり、相手との対応の仕方を工夫したりしているような動きで踊る。
ヒップホップ (R&Bを含む)	スローなテンポ (BPM80～100) ・1拍毎に強いアクセントのあるビートと細分化されたリズムが特徴。今最も流行しているリズム。厳密には様々なスタイルがあり、総称して「ストリートダンス」とも呼ばれる。 やや速いテンポ (BPM120前後) ・歩く速さの曲で、ヒップホップの最初の段階で取り上げるとよい。	○1拍毎にアクセントがある強いビートを体幹部でとらえて縦ノリのリズムでその場で踊る。上下のダウンのビートにアクセントを付けて踊る。ゆっくりした曲のテンポに対して動きは倍のテンポをとって踊る。また、1拍毎に動きを止めてロボットのように動いたり、床を使った極限的な動きや移動の動きを入れたりして動きに変化をつけて続けて踊る。 ○スローな曲の前にやや速いテンポの曲で縦ノリのリズムを取って踊る。慣れてきたらヒップホップ本来のスローなテンポの曲で深い上下の動きで踊ってみる。

小学校解説では、[リズムと動きの例示]として、「○」にリズム（曲）の例が示され、「・」に自由に踊る際のリズムの乗り方、変化の付け方や友だちとの対応の仕方が例示されています。また、中学校解説および高等学校解説では、<リズムと動きの例示>として、自由に踊る際とまとまりを付けて踊る際のリズムの乗り方、変化の付け方やまとまりの付け方が例示されています。

②発達の段階ごとの技能の内容

解説に示されたリズム遊び、リズムダンス、現代的なリズムのダンス、選択して取り組む現代的なリズムのダンス、それぞれの段階における技能の内容と特徴（枠の中は学習指導要領に示された内容）は以下の通りです。また、別表3（p.238）は、12年間のリズム系ダンスの内容を一覧にまとめたものです。

■ リズム遊び

＜小学校第1学年及び第2学年＞

リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。

低学年では、弾んで踊れるようなやや速いテンポのロックやサンバなどの軽快なリズムの曲や児童にとって身近で関心の高い曲に乗って、弾んで自由に踊ったり、友達と調子を合わせたりして楽しく踊ることができるようになります。

■ リズムダンス

＜小学校第3学年及び第4学年＞

リズムダンスでは、軽快なリズムに乗って全身で踊ること。

中学年では、弾んで踊れる軽快なテンポのロックやサンバのリズムの曲や、いろいろな速さや曲調の異なるロックやサンバのリズムの曲に乗って、まずは全身で即興的に踊ったり、友達と自由にかかわり合って踊ったりして楽しく踊ることができるようになります。その際に、ロックやサンバのリズムの特徴をとらえ、体の各部分でリズムをとったり、体幹部（おへそ）を中心にリズムに乗ったりして全身で踊ることができるようになります。さらに、動きにアクセントを付けたり、素早い動きやストップなどでリズムに変化を付けたり、体をねじる・回るなどの動きを組み合わせたり、また、友達と調子を合わせたり対応したりして、メリハリのある動きにして続けて踊ることができるようになります。

■ 現代的なリズムのダンス

＜中学校第1学年及び第2学年＞

現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。

中学校第1・2学年では、ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの特徴をとらえ、まずは、体幹部を中心にリズムに乗って全身で自由に弾んで踊ることができるようになります。

次に発展的な段階として、手拍子、足拍子、スキップ、片足とび、両足とび、蹴る、歩く、走る、ねじる、回る、転がる、振る、曲げるなどの動きを素早く動いてみたり、止まったりするなどの変化のある動きを組み合わせ、踊ることができるようになります。

■ 現代的なリズムのダンス（選択）

＜中学校第3学年及び高等学校入学年次＞

現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。

＜高等学校その次の年次以降＞

現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ること。

中学校第3学年・高等学校入学年次でも、まずはロックやヒップホップなどの現代的なリズムの特徴をとらえ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにしていきますが、この段階ではさらに体の各部位の動きをずらしたり連動させたりして踊ったり、ダイナミックなアクセントを加えたり、違うリズムを取り入れたりして、変化を付けて連続して踊ることができるようにすることを目指します。

次に発展的な段階として、短い動きを繰り返す、対立する動きを組み合わせる、ダイナミックなアクセントを加えるなどの変化や、個と群の動きを強調してまとまりを付けて踊ることができるようにします。また、まとまりのある動きをグループで工夫するときは、一人一人の能力を生かす動きや相手と対応する動きなどを取り入れながら、仲間とのかかわりをもって踊ることに留意します。

続いて、高等学校その次の年次以降では、まずはシンコペーション、ダウンビートやアップビートなどのロックやヒップホップのリズムの特徴をとらえてリズムに乗ったりはずしたり、重心の上下動や非対称の動きを強調したりして全身で自由に踊ることができるようにします。

まとまりを付ける際には、中学校第3学年・高等学校入学年次のねらいからさらに発展させて、仲間の動きをリードしたり、仲間の動きに合わせたり、異なる動きで高低や緩急強弱を付けて互いの動きを強調したりするなど、仲間といろいろな対応をして踊ることができるようにしていきます。

中学校第3学年以降では、指導の段階に応じて、まとまりを付ける学習では、グループごとに選曲させて、選んだりリズムや曲想に合わせて独自の動きを工夫して楽しんだり、仲間やグループ間で簡単な作品を見せ合う発表や一緒に踊り合う交流の活動を取り入れたりすることが大切です。

(3) フォークダンス

①技能のポイント

フォークダンスでは、伝承されてきた日本の地域の踊り（民踊）や外国の踊り（フォークダンス）から、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて、特徴的なステップや動きと組み方で仲間と楽しく踊ることができるようにすることをねらいとしています。

フォークダンスは、他の二つのダンスとは異なり、伝承された踊りを身に付けて、特定の踊り方を再現して踊る定形の学習で進められるのが特徴です。

フォークダンスには、「例えば、日本の民踊には、着物の袖口から出ている手の動きと裾さばきなどの足の動き、低く踏みしめるような足どりと腰の動き、ナンバの動き、小道具を操作する動き、輪踊り、男踊りや女踊り、歌や掛け声を伴った踊りなどの特徴がある」。また「外国のフォークダンスには、靴で踏む軽快なステップやポルカステップ、輪や列になって手をつないで踊る、パートナーと組んで踊る、グランド・チェーンなどのパートナーチェンジを伴って踊るなどの特徴的なステップや動きがある」と中学校解説で説明されているように、その踊りが生まれた地域の風土や歴史に根ざした独特の踊り方の特徴があります。

踊りの選曲に当たっては、そうした踊りの特徴（感じ、曲想）や踊り方（ステップ、動き、隊形、組み方など）の違いや、地域が異なるものから選ぶという観点と、踊り方の難易度を考慮するという観点から、子どもの学習状況や関心に応じて選ぶようにします。また、日本の民踊については、例示に挙げられている日本の代表的な民踊だけでなく、学校のあるそれぞれの郷土で親しまれている踊りを積極的に取り上げることも大切です。

したがって、指導する際には、ただ動きを覚えて踊ることができるようにするだけではなく、取り上げた踊りが伝承されてきた国や地域の風土や風習、歴史などの踊りの由来や、踊りに込められた心情などを資料

やVTRなどを使って説明したり、子どもたち自身が調べたりすると良いでしょう。このように、フォークダンスの踊りは文化の影響を受けていることを理解して、踊り方の特徴をとらえて踊るところにフォークダンスの特性や魅力があります。例えば、小学校高学年で例示されている「マイム・マイム」はイスラエルの踊りであり、開拓農民が乾燥した砂漠地帯に水源を見つけ、水源を囲んで「水、水、水、水、嬉しいな！（マイム マイム マイム マイム ウ マイム ベッサンソン）」と皆で歌いながら水源発見の喜びを踊る踊りであると知ったとき、児童の踊りは一層生き生きとしたものになるでしょう。

フォークダンスの技能のポイントを簡潔にまとめると、以下のようになります。

- ・ 踊りの特徴を捉え、ステップや動き、組み方を身に付けて、正確に、大きく踊ることができる。
- ・ 唄や音楽に合わせて、1曲通して踊ることができる。
- ・ 踊りが生まれた地域や風土の背景や情景を思い浮かべ、踊りに込められた感情を表現して踊ることができる。

各校種の解説には小学校及び中学校第1学年及び第2学年までは「踊りと動きの例示」として、中学校第3学年および高等学校では「曲目と動きの例示」として、日本の民踊と外国のフォークダンスそれぞれについて、特徴や感じが異なる踊り方が曲目例と共に数例ずつ「・」で示されています。

②発達の段階ごとの技能の内容

各校種の解説に示されたリズム遊び、フォークダンス（日本の民踊を含む）、フォークダンス、選択して取り組むフォークダンス、それぞれの段階における技能の内容と特徴（枠の中は学習指導要領に示された内容である）は以下の通りです。また、別表2（p.236）は、12年間のフォークダンスの内容を一覧にまとめたものです。

■ リズム遊び（簡単なフォークダンスを含めて指導する場合）

＜小学校第1学年及び第2学年＞

リズム遊びでは、軽快なリズムに乗って踊ること。

小学校第1学年及び第2学年では、「表現遊び」と「リズム遊び」で内容を構成しているが、「リズム遊び」の中に簡単なフォークダンスを含めて指導することができることが「内容の取扱い」に示されています。高学年で初めてフォークダンスに出会うのではなく、できれば低学年のうちに簡単なフォークダンスに触れさせておくとい良いでしょう。

その場合の「リズム（踊り）と動きの例示」には、ジェンカ（フィンランド）、キンダーポルカ（ドイツ）、タタロチカ（ロシア）など、軽快なリズムと易しいステップの繰り返しで構成される簡単なフォークダンスが例として挙げられており、これらのフォークダンスを、スキップやランニングなどの簡単なステップで、音楽に合わせてみんなで楽しく踊ることができるようにします。

■ フォークダンス（日本の民踊を含む）

＜小学校第5学年及び第6学年＞

フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて簡単なステップや動きで踊ること。

小学校第5学年及び第6学年では、伝承されてきた日本の地域の踊りや外国の踊りから、踊り方の特徴をとらえ、基本的なステップや動きを身に付けて、音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流することができ

るようにします。また、踊りを通して日本のいろいろな地域や世界の文化に触れるようにすることも大切です。

〔踊りと動きの例示〕には、日本の民踊では、特徴が異なる踊りや簡単な動きで構成されている踊りとして、阿波踊りなどの軽快なリズムの踊りや、ソーラン節やエイサーなどの力強い踊りが挙げられています。また、フォークダンスでは、特徴や感じが異なる踊りや簡単な隊形・ステップ・組み方で構成される踊りとして、マイム・マイム（イスラエル）などのシングルサークルで踊る力強い踊り、コロブチカ（ロシア）などのパートナーチェンジのある軽快な踊り、グスタフス・スコール（スウェーデン）などの特徴的な隊形と構成の踊りが挙げられています。

■ フォークダンス

<中学校第1学年及び第2学年>

フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。

中学校第1学年及び第2学年では、さらに日本の民踊に見られる特徴的な足どりや手振りの動き、外国のフォークダンスでの軽快なステップなどで踊ることができるようにします。

<踊りと動きの例示>には、日本の民踊では、花笠音頭などの小道具（花笠）を操作する踊り、炭坑節などの労働の作業動作に由来を持つ踊り、鹿児島おはら節などの躍動的な動作が多い踊りが挙げられています。また、フォークダンスでは、オクラホマ・ミクサー（アメリカ）などのパートナーチェンジのある踊り、ドードレブスカ・ポルカ（旧チェコスロバキア）などの隊形が変化する踊り、バージニア・リール（アメリカ）などの隊形を組む踊りが挙げられています。

■ フォークダンス（選択）

<中学校第3学年及び高等学校入学年次>

フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。

<高等学校その次の年次以降>

フォークダンスでは、踊り方の特徴を強調して、音楽に合わせて多様なステップや動きと組み方で仲間と対応して踊ること。

中学校第3学年及び高等学校入学年次では、ステップや動き方、音楽、小道具、地域などの踊りに見られる特有の動きなどの異なった特徴をとらえ、音楽に合わせて、躍動的な動きや手振りの動きを強調する日本の民踊などの特徴的な動き、外国のフォークダンスでのパートナーとのステップや動きと組み方（オープン・ポジションやクローズド・ポジションをはじめとした様々な組み方）で踊ることができるようにしていきます。

<曲目と動きの例示>には、日本の民踊では、よさこい鳴子踊りなどの小道具（鳴子）を操作する踊り、越中おわら節などの労働（稲作）の作業動作に由来をもつ踊りが挙げられています。また、フォークダンスでは、パティケーキ・ポルカ（アメリカ）などの早いリズムに合わせて拍手などを入れた踊り、ヒンキー・ディンキー・パーリ・ブー（アメリカ）などのゲーム的な要素の入った踊り、ハーモニカ（イスラエル）などの軽やかなステップの踊り、オスローワルツ（イギリス）などの順次パートナーを替えていく踊りが挙げられています。

高等学校その次の年次以降では、ステップや動き方、音楽、小道具、地域などの踊りに見られる特有の動きなどの異なった特徴を強調して、音楽のリズムや曲想に合わせて踊ることができるようにします。日本の民踊では、躍動的な動きや手振り、腰を落とした動きを強調するなどの多様な動きで踊り、外国のフォークダンスではパートナーとの多様なステップや動きとオープン・ポジションやクローズド・ポジションをはじめ

めとした様々な組み方で、仲間とタイミングや調子を合わせて、組んだ手で軽く押したり引いたり、ステップやターンなど相手の動きに対応して手や足を動かしたりパートナーチェンジをしたりします。また、踊りやすい適切な距離を保って隊形を作ったり動き易い組み方をしたりするなどのいろいろな対応をして踊ることができるようにしていきます。

＜曲目と動きの例示＞には、日本の民踊では、佐渡おけさなどの砂浜などの「踊られた場所」に由来をもつ踊りや、さんさ踊りなどの女踊りと男踊りのある踊りが挙げられています。また、フォークダンスでは、トゥ・トゥール（デンマーク）などの速いリズムに合わせた踊り、ミザルー（ギリシア）などのオープンサークルの踊り、アレクサンドロフスカ（ロシア）などのカップルダンス、タンゴ・ミクサー（アメリカ）などの切れ味のよい踊りが挙げられています。

2 態度について

「ダンス系」領域における態度の指導内容には、その運動への自主的・自発的な取組（愛好的態度）、公正や協力に関すること、責任や参画に関すること、健康・安全に関することなどがあります。特に、「ダンス系」領域では、勝敗を競ったり、より難しい課題を克服したりすることが特性ではないため、グループや一人一人の個性的な動きや発想を大切に、「互いの違いやよさを認め合う」ことがこの領域特有の大切にしたい態度の内容です。

表4 学習指導要領で示された態度に関する主な表記

学 校 種	小学校			中学校・高等学校		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	中学3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
領 域	表現リズム遊び	表現運動		ダンス		
ア 共通事項 (愛好的態度)	進んで取り組むこと			積極的に取り組むこと	自主的に取り組むこと	主体的に取り組もうとする
イ 公正・協力	きまりを守り、だれとでも仲良く踊ること	きまりを守り、友達と励まし合って練習や発表、交流をすること	約束を守り、友達と助け合っ練習や発表、交流をすること	よさを認め合おうとする	互いの違いやよさを認め合おうとする	互いに共感し高め合おうとする
ウ 責任・参画				仲間の学習を援助しようとする	互いに助け合い教え合おうとする	互いに助け合い高め合おうとする
				分担した役割を果たそうとする	自己の責任を果たそうとする	役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする
エ 健康・安全	安全に気を付ける	安全を確かめる	安全に気を配る	健康・安全に気を配る	健康・安全を確保する	
						合意形成に貢献しようとする

「愛好的態度」に関する内容については、小学校では、各学年共通して「進んで取り組む」こと、中学校第1・2学年では、「積極的に取り組む」こと、中学校第3学年及び高校入学年次は「自主的に取り組む」こと、その次の年次以降は「主体的に取り組む」ことができるよう指導することとなっています。

「ダンス系」領域の学習は、創造的で自発的な活動を中心に進めることから「思い切り体を動かして表現したい」「リズムに乗って踊りたい」といった児童・生徒の願いを大切にします。したがって、指導に際しては、児童生徒が自ら進んで学習に取り組むために、一人一人の個性が生きる開放的な環境や人間関係をつくり、個に応じた課題を設定したり、練習方法や場作りの方法を示したりするなど、練習や発表などに意欲をもって活動できるよう工夫することが大切です。

「公正・協力」に関する内容については、小学校では、友達と仲良く、励まし合い助け合って活動することができるようにします。また、中学校第1・2学年では「よさを認め合おうとする」こととして、仲間のよさを認めたり、自分のことだけでなく共に学ぶ仲間に対して必要な支援をしたりすることに積極的な意志を持つことができるよう指導します。

中学校第3学年以降においては、人にはそれぞれ違いがあることを認めた上で、仲間のよさや違いを指摘したり、課題を共有して互いに助け合ったり教え合ったりすることに主体的に取り組もうとする意志をもつ

ことが大切です。

特に、「ダンス系」領域の学習では、「踊ることが恥ずかしい」「動きを笑われるのではないか」といった抵抗感や不安感をもっている児童生徒も少なくないことでしょう。そこで、指導に際しては、まず、どんな動きや発想も受け入れられる受容的な雰囲気と人間関係を作ることが大切です。こうした空間の中で、互いのよさや違いを認め合って学習することで、コミュニケーションが深まり、互いの運動意欲が高まることを理解させ、教師が「素晴らしい!」「カッコイイ!」「君にしかできない動きだ!」といった肯定的な言葉かけを頻繁に行い、動きを見せ合う活動を通して互いのよいところを探したり、グループ内でのよい動きを賞賛したりする場面を設定するなど、指導方法を工夫することが授業づくりのポイントです。

「責任・参画」に関する内容については、小学校段階の表現運動系では、学習内容に応じて学習資料の配付・掲示や視聴覚機器の設置、グループ活動での役割など、責任に関する初歩的なことについて、しっかり指導する必要があります。

中学校第1学年及び第2学年では、「分担した役割を果たそうとする」こととして、自分の役割に積極的に取り組もうとすることについて指導します。

中学校第3学年及び高校入学年次では、「自己の責任を果たそうとする」こととして、自分の役割に自主的に取り組もうとすることができるようにします。その次の年次以降には、「役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする」こととして、仲間と合意した役割を積極的に引き受け、責任をもって主体的に取り組もうとすることができるよう指導します。

また、この段階では「合意形成に貢献しようとする」こととして、個人や学習グループの課題の解決に向けて、自己の考えを述べたり、相手の話を聞いたりするなど、グループの話し合いに責任をもってかかわろうとすることが重要です。そのため、相互の信頼関係を深めるためには、対立意見が出た場合でも、仲間を尊重し相手の感情に配慮しながら発言したり、提案者の発言に同意を示したりして話し合いを進めることなどが大切であることを理解し、取り組めるようにする必要があります。

なお、中学校第1学年及び第2学年、中学校第3学年・高校入学年次においては、話し合いへの参加等に関する内容が示されていませんが、言語活動の充実が求められていることから、ダンス学習においてもグループ活動における課題解決に向けて、自らの考えを述べるなど積極的に話し合いに参加しようとする態度を育成することは重要です。しかし、話し合う活動が学習の中心にならないよう、指導に当たっては、話し合う内容の明確な指示や時間の設定など、工夫が必要です。

「健康・安全」に関する内容については、小学校低学年では「安全に気を付け」、中学年では「安全を確かめ」、高学年では「安全に気を配る」態度を育成します。

中学校第1学年及び第2学年では、「健康・安全に気を配る」こととして、自己の体調の変化に気を配ったり、用具や場所の安全に留意したりすることができるようにします。中学校第3学年以降は「健康・安全を確保する」こととして、中学校第3学年に自己の体調の変化に応じて段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認したりすることができるようにします。

これらを踏まえ、高等学校その次の年次以降においては、中学校までの内容に加え、天候や気温の変化などを予見して危険を回避し、けがや疾病を未然に防ぐことができるようにします。

健康・安全に関する事項については、意欲をもつことにとどまらず、実践することが重要です。

3 知識、思考・判断について

「ダンス系」領域の学習は、児童生徒一人一人やグループの願いを創造的に実現していく課題解決的な学習に特徴があります。したがって、ある特定の技や技能を身に付けることをねらいとした学習ではなく、それぞれの個性や違いを生かした動きを生み出していく過程を大切にされた複線的な学習が基本となります。つまり、合理的なフォームと比較して、どうすればそのフォームに近づくのかを課題にするのではなく、どうすれば「みんなのよさが生き、一層みんながよくなる」のかを課題とし、その解決に向けて創意工夫することが大切です。

表5 学習指導要領（解説含む）で示された知識、思考・判断に関する主な表記

学 校 種	小学校			中学校・高等学校		
	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年	中学3年・高校入学年次	高校その次の年次以降
領 域	表現リズム遊び	表現運動		ダンス		
知 識 (※小学校は解説で示した思考・判断に含まれる内容)	(基本的な動き方) (題材やリズムの特徴)	(題材やリズムの特徴) (動きのポイント) (よい動き)	(課題の解決の仕方) (自分やグループの持ち味)	ダンスの特性	ダンスの名称や用語	ダンスの名称や用語
				表現の仕方	踊りの特徴と表現の仕方	文化的背景と表現の仕方
				関連して高まる体力	体力の高め方	体力の高め方
				踊りの由来		
					交流の仕方	
						課題解決の方法
					運動観察の方法	鑑賞の仕方
思考・判断	簡単な踊り方を工夫	自己の能力に適した課題を見つけ、練習や発表の仕方を工夫	自分やグループの課題解決に向けて練習や発表の仕方を工夫	課題に応じた運動の取り組み方を工夫	自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫	自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫

中学校・高等学校において「知識、思考・判断」としているのに対し、小学校では「思考・判断」としています。これは、小学校においては、一般化された科学的な知識や理論ではなく、児童が動きの実践の中での学習の仕方やつ・知恵なども含めて「知識」を身に付けていくことを重視したことによります。しかし、児童が「思考・判断」という学びを深めるには、その前提として教えておかなければならない「知識」が存在するという考え方から、学習指導要領解説においては基本的に「〇〇の行い方・課題解決の仕方等を知り（知識）、△△を選んだり、見付けたりすることができる（思考・判断）。」と示しています。

具体的な「知識」の内容について、小学校低学年では「基本的な動き方」「題材やリズムの特徴」、中学年では「題材やリズムの特徴」「動きのポイント」「よい動き」、高学年では「課題の解決の仕方」「自分やグループの持ち味」が理解できるようにしていきます。

中学校では、第1・2学年において「ダンスの特性」や「踊りの由来」などを、第3学年において「ダンスの名称や用語」「踊りの特徴と表現の仕方」などが理解できるようにします。

高等学校では、「文化的背景と表現の仕方」「課題解決の方法」などを理解することが加わります。これは、「体育理論」の内容を精選したことに伴い、各領域に関連させて指導する方が効果的な知識を各領域で取り上げることとしたためです。このため、指導に際しては、直感や経験に基づく知恵などの暗黙知をも含めた知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知

識と技能を関連させて学習することが大切です。

「思考・判断」については、小学校低学年での「簡単な踊り方を工夫」するとは、楽しく踊るための動きを選んだり、友達のよい動きを見付けたりすることであり、題材やリズムの特徴にふさわしい動きを選んだり見付けたりすることです。中学年での「自己の能力に適した課題を見付け、練習や発表の仕方を工夫」するとは、自分の能力にあった題材やリズムを選ぶこと、楽しく踊るための自分にあった課題を見付けること、友達のよい動きを自分の踊りに取り入れることです。高学年での「自分やグループの課題解決に向けて、練習や発表の仕方を工夫」するとは、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、構成を変えたりすること、練習や発表会、交流会で自分やグループの持ち味を生かす動きや活動を工夫することです。中学校では、第1学年及び第2学年における「思考・判断」に関する指導内容は、「課題に応じた運動の取り組み方を工夫」すること、第3学年では「自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫」することです。そして、高等学校では、中学校での内容を発展させ、「グループや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫」することができるように指導します。具体的には、「思考・判断」とは、各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用したり、応用したりすることですが、中学校1・2学年における「課題に応じた運動の取り組み方」とは、基礎的な知識や技能を活用して、学習課題への取り組み方を工夫できるようにすることです。また、第3学年における「自己の課題に応じた運動の取り組み方」とは、領域及び運動の選択の幅が広がることから、これまで学習した知識や技能を活用し、自己の課題に応じて解決することが求められます。

さらに、高等学校においては、多くの運動の中から自分に適した領域を選択し、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題の解決がより重要になります。このため、ダンスでは、表現の仕方や交流の仕方などに関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断の中から、解説に示された次の例示を参考にして授業を組み立てることが大切です。

表6 学習指導要領解説で各段階に示された知識、思考・判断の例示

学年	中学校1・2学年	中学校3学年・高校入学年次	その次の年次以降
例示	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の興味や関心に合ったテーマや踊りを設定すること。 ○課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ○発表の場面で、仲間のよい動きや表現などを指摘すること。 ○学習した安全上の留意点を仲間と学習する場面に当てはめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表したいテーマにふさわしいイメージを見付けること。 ○それぞれのダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けること。 ○発表や仲間との交流の場面では、互いの違いやよさを指摘すること。 ○健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶこと。 ○ダンスを継続して楽しむための自己に適したかかわり方を見付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を踏まえて、目標に応じたグループや自己の課題を設定すること。 ○課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたグループや自己の課題を見直すこと。 ○仲間との交流や発表後の話合いの場面では、互いの違いやよさを指摘し、合意を形成するための調整の仕方を見付けること。 ○練習、交流や発表の場面で、健康・安全を確保・維持するために自己や仲間の体調に応じた活動の仕方を選ぶこと。 ○ダンスを生涯にわたって楽しむため自己に適したかかわり方を見付けること。

「思考・判断」に関する指導においては、教師が児童生徒に適した課題を的確に把握し、児童生徒の状況とその課題の関係を常に見極めながら軌道修正する指導力が必要です。具体的には、児童生徒の学習経験や今もっている力に応じて、それぞれの個性や違いが生きる題材や音楽の選択、「これだけは押さえない」動きの指導、一人一人の創意工夫が生きるような多様な活動や場の工夫などが必要になります。

4 内容の取扱いと留意点

<「ダンス系」の領域の内容の取扱い>

学 校 種	小学校			中学校・高等学校						
領 域	表現リズム遊び	表現運動		ダンス						
学 年	1・2年	3・4年	5・6年	1・2年		中学3年・高校入学年次		高校その次の年次以降		
内容及び 取扱い	ア 表現遊び	ア 表現	ア 表現	ア 創作ダンス	必修	2年間で ア～ウか ら選択	B 器械運動、 C 陸上競技、 D 水泳、 G ダンス から ①以上選択	ダンス領 域の ア～ウ から選択	B 器械運動、 C 陸上競技、 D 水泳、 E 球技、 F 武道、 G ダンスから ②以上選択	ダンス領 域の ア～ウ から選択
	イリズム 遊び	/	イフォー クダンス	イ フォークダ ンス						

<小学校>

○ 第1・2学年 表現リズム遊び

内容の「F表現リズム遊び」の(1)のイについては、簡単なフォークダンスを含めて指導することができる。

「リズム遊び」について、軽快なリズムに乗って踊るという視点がフォークダンスと共通することから、簡単なフォークダンスを含めて指導することができるということが示されています。

○ 第3・4学年 表現運動

内容の「F表現運動」の(1)については、地域や学校の実態に応じてフォークダンスを加えて指導することができる。

「F表現運動」について、「フォークダンス」を地域や学校の実態に応じて加えて指導することができるということが示されています。

○ 第5・6学年 表現運動

内容の「F表現運動」の(1)については、地域や学校の実態に応じてリズムダンスを加えて指導することができる。

「F表現運動」について、地域や学校の実態に応じて「リズムダンス」を加えて指導することができるということが示されています。

<中学校>

「Gダンス」の(1)の運動については、アからウまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができる。

1 ダンス領域は、従前、第1学年においては、武道またはダンスから男女とも1領域を選択して履修できるようにすることとしていたことを改め、第1学年及び第2学年においては、全ての生徒に履修させることになりました。また、第3学年では、器械運動、水泳、陸上競技及びダンスのまとまりの中から1以上を選択して履修できるようにすることとされています。

2 ダンスの指導内容は、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の中から選択して履修できるようにすることとしているので、生徒の発達や学年の段階等に応じた学習指導が必要です。

なお、地域や学校の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができることとしています。原則としてその他のダンスは、学習指導要領に示された指導内容に加えて履修させることとし、地域や学校の特別な事情がある場合には、替えて履修させることもできます。

<高等学校>

「Gダンス」の(1)の運動については、アからウまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、社交ダンスなどのその他のダンスについても履修させることができること。

- 1 ダンスの領域の取扱いは、入学年次においては、「B器械運動」「C陸上競技」「D水泳」及び「Gダンス」のまとまりの中から1以上を選択し履修することができるように示されています。また、その次の年次以降においては、「B器械運動」から「Gダンス」までの中から2領域以上を選択して履修できるように示されています。

このことは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育むため、12年間を見通して体系化を図る中で、入学年次は、中学校第3学年と同様の選択の仕方に改善を図るとともに、その次の年次以降は、領域選択の一層の弾力化を図ることとしたものです。

したがって、自ら運動に親しむ能力を高め、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続することができるようにするため、希望する生徒に対して、ダンスの学習機会が確保されるよう年間指導計画を工夫することが大切です。

- 2 ダンスの指導内容は、「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の中から選択して履修できるように示されています。

その際、履修できる運動種目等の数については、特に制限を設けていませんが、その領域に配当する授業時数との関連から指導内容の習熟を図ることのできる範囲にとどめるとともに、生徒の技能・体力の程度に応じて指導の充実及び健康・安全の確保に配慮することが大切です。

- 3 地域や学校の実態に応じて、社交ダンスなどのその他のダンスについても履修させることができるとしていますが、原則として、社交ダンスなどのその他のダンスは、学習指導要領に示された指導内容に加えて履修させることとし、地域や学校の特別の事情がある場合には、替えて履修させることもできます。

1 指導計画等の作成

(1) 年間指導計画作成のポイント

小学校、中学校、高等学校において、児童・生徒が「ダンス系」領域の「三つのダンス」に出会い、その特性に触れていくことができるように、発達の段階に応じた年間指導計画を吟味することが大切です。子どもの発達を踏まえた学びの連続へ向けて実践を積み重ねていくためには、単に内容を羅列した指導計画ではなく、どのような力をつけるための計画であるのかを見失わないよう、その運動で学ぶ内容となる「ねらい」を明確にした指導計画を工夫していくことが重要です。

【ポイント1】小学校では低・中・高学年の各2年間を見通した指導計画を立てる

①低学年における2年間を見通した計画

低学年の2年間は幼児期から児童期への接続期でもあり、児童の興味関心はまだ未分化なものです。また、低学年の児童は心も体も大変しなやかで、リズムに乗って弾んで踊る律動を好むとともに、何かを表現するというより、変身すること自体を楽しみ、その変身の対象の魅力にひかれて活動する特性をもっています。そのため、表現リズム遊びにおいては、「表現遊び」と「リズム遊び」を分けて学ぶより、1時間の中に二つの内容を組み合わせる形で学習することが望ましいと言えます。また、一つの内容をじっくりやるよりも、いろいろな内容に次々と取り組む方が低学年のよさが生かされるので、第1、2学年のそれぞれの学年で、短い単元で時期を変えて2単元取り上げる方法が考えられます。

リズム遊びと表現遊びを組み合わせる場合、1時間の中に内容を詰め込みすぎると、時間的に無理が生じるため、「表現遊び」と「リズム遊び」のどちらに重点を置くのかを決めた方がよいと思われます。そこで、重点の置き方の違いによる計画例を以下に二つ示しました。

A校の例は、第1学年ではリズム遊びに、第2学年では表現遊びに重点を置いた計画例です。この計画例では、第1学年では、リズム遊びで複数の曲や複数の簡単なフォークダンスを取り上げて時間をかけ、表現遊びでは題材のいろいろな様子を全身で踊って楽しむことを大切にします。そして第2学年では、第1学年の学習を生かして表現遊びに重点を置き、複数の曲でリズム遊びを行った後に、表現遊びで題材のいろいろな様子を踊ることに加えて、どこかに急変する場面を入れた変化のある動きで楽しめるようにしていきます。

B校の例は、各学年で単元ごとに重点の置き方が異なる計画例です。第1、2学年の各学年で、最初の単元は「はじめの段階」として簡単なフォークダンスを含んだリズム遊びに重点を置き、後の単元は「やや進んだ段階」として表現遊びに重点を置いた計画例です。

表現遊びで取り上げる題材は、第1学年では、「動物」や「昆虫」などの児童にとって身近で動きの特徴をつかみやすい題材で、児童が変身対象になりきって表現遊びを楽しめるようにしていきます。第2学年では、第1学年よりも動きが活発になり想像力も膨らんでくるため、「遊園地」や「ジャングルの生き物」など、スピーディーな動きやストーリー性のある題材を取り上げて、第1学年での内容からやや発展した内容で楽しむことができるようにします。また、リズム遊びでは、弾んで踊れるようなややテンポの速いロックやサンバなどの軽快なリズムで身近で関心の高い曲を取り上げるようにします。

A校の例：

第1学年でリズム遊び、第2学年で表現遊びに重点を置いた計画例

第1学年	
5～6時間 〈リズム遊び〉 (簡単なフォークダンスを含む) 〈表現遊び①〉	5～6時間 〈リズム遊び〉 (簡単なフォークダンスを含む) 〈表現遊び①〉
第2学年	
5～6時間 〈リズム遊び〉 〈表現遊び②〉	5～6時間 〈リズム遊び〉 〈表現遊び②〉

B校の例：

各学年で單元ごとに重点の置き方が異なる計画例

第1学年	
5～6時間 〈リズム遊び〉 (簡単なフォークダンスを含む) 〈表現遊び①〉	5～6時間 〈リズム遊び〉 〈表現遊び②〉
第2学年	
5～6時間 〈リズム遊び〉 (簡単なフォークダンスを含む) 〈表現遊び①〉	5～6時間 〈リズム遊び〉 〈表現遊び②〉

内容〈表現遊び①〉 題材の特徴をとらえ、全身で踊る。

〈表現遊び②〉 題材の特徴をとらえ、いろいろな様子を踊る。どこかに急変する場面を入れて踊る。

〈リズム遊び〉 身近な曲やロックやサンバのリズムに乗って踊る (簡単なフォークダンスを含める)。

② 中学年における2年間を見通した計画

中学年の児童は、生活経験の広がりによって多様な身体感覚が身に付き、探求心旺盛にエネルギーに動きたい時期です。低学年での活動自体を楽しむ時期から、イメージやリズムをさらに広げ、多様な動きや変化のある動きを見付け、工夫を加えて楽しむことができるようになってきます。中学年では、こうした児童の興味・関心や欲求が生かされるように、多様なとらえ方のできる内容を取り上げていくことが重要です。また、その一方で、客観的な思考も芽生え、低学年のように容易に変身しにくくなる「心の曲がり角」として、その後の表現運動・ダンスへの関わりに重大な影響をもつ時期だともいわれています。

中学年からは領域名が「表現運動」となり、「表現」と「リズムダンス」の内容が示され、それぞれの特性に触れることが重視されると共に、「内容の取扱い」ではフォークダンスを加えて指導することもできています。中学年では、高学年以降に重大な影響を持つ時期であることを踏まえて、以下に二つの計画例を示します。

C校の例は、第3、4学年のそれぞれの学年で「リズムダンス」と「表現」に取り組む計画例です。この計画例の場合、第3学年を「はじめの段階」、第4学年を「やや進んだ段階」として位置付け、第4学年では、児童自身が動きを広げたり、工夫したりできる活動時間を多めにとることによって、2年間でより確かな力を身に付けていくことができるようにしていきます。

D校の例は、「内容の取扱い」に示されているフォークダンスを加えて三つの内容を2学年で取り組む計画例です。この計画例は、第3学年では「リズムダンス」に重点を置き、「フォークダンス」を加えて学習できるようにしています。第4学年では、「表現」の単元を二つ位置付け、最初の単元では「はじめの段階」として具体的な生活からの題材を取り上げ、後の単元では「やや進んだ段階」として空想の世界からの題材を取り上げ、表現の特性に十分触れていくことができるようにしています。

表現で取り上げる題材は、第3学年では、「〇〇づくり」や「1日の生活」などの身近な生活の中から、イメージがとらえやすく多様な感じを含む題材を中心に取り上げ、日常生活の中のおもしろい動きを誇張して楽しむことができるようにします。第4学年になると、論理的な思考力が身に付く一方で、「〇〇探検」のような空想の世界の題材の方が、独自の捉え方を生かして楽しむことができます。また、リズムダンスでは、弾んで踊れる軽快なテンポのロックやサンバのリズムの曲や、いろいろな速さや曲調の異なる曲を取り上げ、弾みとともに多様な動きの変化を楽しめるようにしていきます。

C校の例：

2学年それぞれで「リズムダンス」と「表現」に取り組む計画例

第3学年	
4～6時間	6～7時間
<リズムダンス>	<表現①>
第4学年	
4～6時間	6～7時間
<リズムダンス>	<表現②>

D校の例：

リズムダンスを第3学年だけで取り組む計画例（フォークダンスを含む）

第3学年	
7～8時間	
<リズムダンス>	
第4学年	
5～6時間	5～6時間
<表現①>	<表現②>

内容

<表現①> 具体的な生活からの題材からイメージをひろげ、ひと流れの動きや「はじめとおわり」を付けた動きにして踊る。題材の特徴をとらえ、全身で踊る。

<表現②> 空想の世界からの題材からイメージをひろげ、ひと流れの動きや「はじめとおわり」を付けた動きにして踊る。

<リズムダンス> ロックやサンバのリズムの特徴をとらえて、全身で即興的に自由に踊る。

<フォークダンス> 日本の民謡や外国のフォークダンスを身に付けて踊る。

③高学年における2年間を見通した計画

高学年における2年間は、「様々な表現運動を体験して、表現運動の特性（楽しさや魅力）に触れる段階」です。高学年の児童は、表したいイメージや踊りたい音楽などに対する好みが多様化すると共に個別化してきて、変化と起伏のある個性的な表現を志向するようになってきます。その一方で、異性に対する意識や踊ることに対する恥ずかしさや抵抗感も大きくなり、自由に踊りにくい状況も出てきます。そのため、一人一人のよさを生かしやすい、より大きなまとまりをもった内容の取り上げ方を工夫するとともに、踊りに没入できるような導入の工夫が大切となってきます。

高学年の表現運動では、「表現」と「フォークダンス」の内容が示され、それぞれの内容の特性に触れることが重視されるとともに、「内容の取扱い」ではリズムダンスを加えて指導することもできるようになっています。高学年では、中学年までの学習の積み重ねを生かし、それぞれの内容を楽しむためのより確かな力を身に付ける学習を実現していけるよう、以下に二つの計画例を示します。

E校の例は、「表現」と「フォークダンス」の内容を2学年で分けてそれぞれにじっくり時間をかけて取り組む計画例です。この計画例では、第5学年で「表現」の大単元を位置付け、「表現」の特性に深く触れながら学習できるようにします。また、この表現の単元では、「内容の取扱い」に示されているリズムダンスを毎時間の表現の導入として帯状に位置付け、高学年における学習の停滞をなくし楽しく学習がスタートできる

ようにしています。そして第6学年では、「フォークダンス」の大単元を位置付けて、日本の民踊と外国のフォークダンスをじっくり学習できるようにしています。

F校の例は、第5、6学年の2学年それぞれで「表現」と「フォークダンス」に取り組む計画例です。この計画例の場合、第5学年を「はじめの段階」、第6学年を「やや進んだ段階」として位置付け、第6学年では、児童自身が群の動きやひとまとまりの動きの構成を工夫したり、踊りの特徴を生かして踊ったりする時間を多くとることによって、2年間でより確かな力を身に付けていくことができるようにしています。

E校の例：

「表現」と「フォークダンス」に2学年でじっくり取り組む計画例

第5学年	
7～9時間	
〈表現①〉 ※毎時間導入としてリズムダンスを取り入れる	
第6学年	
6～8時間	
〈フォークダンス〉 ※毎時間導入としてリズムダンスを取り入れる	

F校の例：

2学年それぞれで「表現」と「フォークダンス」に取り組む計画例

第5学年	
5～7時間	3～4時間
〈表現①〉	〈フォークダンス①〉
第6学年	
5～7時間	3～4時間
〈表現②〉	〈フォークダンス②〉

内容

〈表現①〉 激しい感じの題材や多様な感じの題材などからイメージをひろげ、ひと流れの動きや簡単なひとまとまりの動きにして踊る。

〈表現②〉 群が生きる題材や多様な題材などからイメージをひろげ、ひと流れの動きや簡単なひとまとまりの動きにして踊る。

〈フォークダンス①〉 外国のフォークダンスを身に付けて踊る。

〈フォークダンス②〉 日本の民踊を身に付けて踊る。

なお、表現リズム遊びや表現運動の「授業」と運動会などの「学校行事」で扱うダンスはねらいが異なる場合が一般的です。体育の授業では、学習指導要領に示された内容を課題解決的に学習し、表現運動系の特性に十分触れることが求められます。学びを連続させていくために、「授業」と「学校行事」との「ねらいの違い」を明確にし、授業の中で運動の特性に触れていくことができる年間指導計画を作成することが重要です。

【ポイント2】 中学校では必修の2年間を見通した計画を立て選択して取り組む第3学年につなぐ

中学生になると、一層心身共に成長し、異性への意識はさらに大きくなるとともに、自己表現の仕方に戸惑いながらも、自己を確立していきます。そうした時期の生徒たちが、仲間と共にダンスの魅力に触れながら自己実現していくことは、自分自身の生き方にも大きな影響を与える貴重な体験となります。しかし、小学校での表現運動の学習経験の差が大きいことも考えられ、中学校第1・2学年の必修の時期に、どのようなダンスを履修するかは、中学校第3学年からの選択に大きな影響を与えていきます。そこで、この時期は「いろいろなダンスを体験して、それぞれのダンスの特性に触れる段階」であることととらえると、ダンス領域の内容である「創作ダンス」「フォークダンス」「現代的なリズムのダンス」の三つのダンスの全てを学習するといった、2年間を見通した計画を立てることなどが考えられます。

ここでは、2学年それぞれで複数のダンスに取り組む計画例と、2学年で三つのダンスにじっくり取り組む計画例、第2学年で（領域内）選択して取り組む計画例の三つを以下に示します。

G校の例は、第1学年で「現代的なリズムのダンス」「創作ダンス」「フォークダンス」のそれぞれのダンスの核となる内容（特性と関連して一番おもしろいところを凝縮した内容）を学習し、第2学年で「現代的なリズムのダンス」と「創作ダンス」の二つを取り上げる例です。この計画例では、第1学年を「はじめの段階」、第2学年を「やや進んだ段階」として位置付けることができます。小学校での学習経験の違いが大きいことを考えると、このG校の計画例のように、第1学年で三つのダンスの特性に触れる方法も考えられます。

H校の例は、第1学年で「現代的なリズムのダンス」と「フォークダンス」を学習し、第2学年では「創作ダンス」のみを大単元で学習するという、2学年かけて三つのダンスの特性に深く触れながらじっくり学習に取り組む計画例です。この例の場合、第1学年において「現代的なリズムのダンス」の全身で弾んで踊る学習と「フォークダンス」の定型の踊りを皆で交流して踊る学習をすることにより、第2学年において初めて学習する「創作ダンス」でも抵抗なく取り組むことが期待できます。また、「創作ダンス」の単元の後半の学習では、表したいテーマ別グループで「ひとまとまりの表現」にしていくところに十分な時間をとることができます。

I校の例は、第1学年でG校の例と同様に「現代的なリズムのダンス」「創作ダンス」「フォークダンス」のそれぞれの内容を学習し、第2学年ではダンス領域の三つのダンスから好きなダンスを選んで学習を進める計画例です。この例は、第1学年で学習した三つのダンスを基に、第2学年では一つのダンスを自分で選択し、同じダンスを選択した仲間とともに学習を深めていくことができ、第3学年からの選択制の授業への移行がしやすい例といえます。

なお、どの学年で三つのダンスのうちからいくつのダンスを取り上げ、何時間配当するするかについては、生徒の実態や内容の習熟を図ることができる時間数等を考慮し、各学校で適切に決定する必要があります。

G校の例：2学年それぞれで複数のダンスに取り組む計画例

9～12			
中学1年	〈現代的なリズムのダンス〉	〈創作ダンス〉	〈フォークダンス〉
中学2年	〈現代的なリズムのダンス〉	〈創作ダンス〉	

H校の例：2学年で三つのダンスにじっくり取り組む計画例

9～12			
中学1年	〈現代的なリズムのダンス〉	〈フォークダンス〉	
中学2年	〈創作ダンス〉		

I校の例：第2学年で領域内選択して取り組む計画例

10～13			
中学1年	〈現代的なリズムのダンス〉	〈創作ダンス〉	〈フォークダンス〉
中学2年	〈既習のダンス〉	〈選択したグループで創作・練習・発表会・交流会〉 ①創作ダンス班 ②フォークダンス班 ③現代的なリズムのダンス班	

内容

〈創作ダンス〉多様なテーマから表したいイメージをとらえ、即興的に表現したり、ひとまとまりの表現にしたりする。

〈フォークダンス〉外国や日本の踊りの踊り方の特徴をとらえて踊り、交流する。

〈現代的なリズムのダンス〉ロックやヒップホップのリズムの特徴をとらえて即興的に自由に踊る。

【ポイント3】領域を選択する4年間では内容の選択と生徒の主体的な学習計画を吟味する

中学校第3学年から高等学校までの領域を選択する時期は、ダンス領域を選択した生徒たちが、「好きなダンスを選び、時間・場所・仲間に応じてダンスを再構成・再構築してダンスの特性を深める」ことができるように、内容の選択の仕方や、選択した後の生徒による学習計画を吟味することが重要となります。

この時期は他の運動領域との選択であるため、単元は20時間近い時間の設定が可能となります。グループごとの活動に入ってから、生徒が主体的に学習を進めることができるように、活動の進め方や、動きや踊りの工夫のポイントなどについて、指導者がグループを回って個別にアドバイスしていきます。また、毎時間、その日の活動をグループごとに振り返り、成果と課題を明らかにして全体の場で報告し合ったり、発表し合ったりするなど、互いに交流できる場の工夫をしていくことが大切です。

選択制の授業における教師のあり方は、生徒自身が主体的に学習を進めていく上でのコーディネーターとしての役割を果たしていくことが求められます。

(2) 単元計画作成のポイント

①単元で取り上げる運動の特性とねらいを明確にする

単元を計画するにあたっては、何をどのように取り上げていくか、つまり単元で取り上げる三つのダンス(内容)のそれぞれの特性を生かす学習過程をどのように構想するかが重要となります。冒頭の「表現運動系及びダンス」のねらいと内容(「4・4・4」の括りによるダンスの発展)において示されているように、小学校から中学校・高等学校に至る児童生徒の発達の段階とダンスの系統性を踏まえ、児童生徒が各単元で取り上げたダンスの特性や魅力に触れ、楽しさや喜びを十分に味わうとともに、特性と関連した技能を身に付けることができるようにすることが求められます。また、児童生徒が「三つのダンスの内容」をどのように受け止め、どこにおもしろさを感じているか等を十分に把握し、それを踏まえた上で、「技能」「態度」「知識、思考・判断」の内容をバランスよく組み込むよう留意して、単元で取り上げる運動の特性とねらいを明確にすることが大切です。

②具体的な内容(題材やテーマ、リズムや踊り、動き等)の取り上げ方を工夫する

解説において具体的な内容(題材やテーマ、リズム、踊りとそれに対応した動き等)が多く例示されています。単元で取り上げる具体的な内容を決定する際、表現系ダンスでは「題材と動きの例示」(小学校)、「テーマと題材や動きの例示」(中学校・高校)、リズム系ダンスでは「リズムと動きの例示」、フォークダンスでは「踊りと動きの例示」等、解説で示された例示を参考にするとよいでしょう。

また、表現系ダンスでは、多様な動きをイメージしやすい題材を取り上げることにより、児童生徒の関心や意欲を高め、個の違いを生かした表現ができるよう工夫します。リズム系ダンスでは、児童生徒の発達の段階や実態に応じて単元で取り上げるリズムの特徴や音楽の速さなどを考慮した選曲を十分に検討するとともに、全身でリズムに乗って自由に弾んで踊ることの楽しさや動きの面白さを児童生徒が味わうことができるようにします。フォークダンスでは、児童生徒の発達の段階や実態に応じて単元で取り上げる踊りや曲目を検討するとともに、仲間とかかわり合って踊ることの楽しさや喜びを児童生徒が味わうことができるようにします。さらに、毎時間の発表(見せ合い)や交流、単元の最後に行う発表会・交流会を楽しく行うための工夫(発表方法や役割分担等)の仕方について明確にして指導に当たることも重要です。

③学習のねらいを達成するための学習の進め方(学習過程)を工夫する

「ダンス系」領域の学習は、「踊る－創る－見る」活動を毎時間取り入れ、いわゆる習得を重視した学習活動と活用を図る学習活動を相互に往還しながら学びを深め、探究の学習へとつなげていきやすい領域と

らえることができます。このような領域の特性を踏まえ、単元の学習過程の作成にあたっては、「何を身に付けるのか」、そして「それらをどのように身に付けるのか」を両輪としつつ、運動の楽しさが十分味わえるよう学習の道すじを適切に構成することが求められます。

「表現系ダンス」の単元における学習過程は、「いろいろな題材やテーマからの即興的な表現」から「簡単な作品づくり」へと、二つの段階で構成されるところに特徴があります。単元前半の即興的な表現の段階では、その時間の中で学ばせたい重要なイメージと動きを、教師と一緒に動きながらみんなでやってみることから始め、教師が示した内容を材料やヒントに、児童生徒が自分達で動きを自由に再構成し、1時間の終わりには即興的な踊りを「ひと流れの動き」にして見せ合い、このような学習を毎時間積み重ねていくようにします。そして、単元後半の「簡単な作品づくり」では、「いろいろな題材やテーマからの即興表現」の学習経験を生かして、グループで好きな題材やテーマを選び、表したいイメージを強調するようにグループで「ひとまとまりの表現(作品)」へと発展させていきます。解説における「題材と動きの例示」、「テーマと題材や動きの例示」の内容は、このような即興表現から作品創作へとという学習の道すじに従って示されているので、それを参照しながら単元の学習過程を工夫することが大切です。

「リズム系ダンス」の単元における学習過程は、表現系ダンスと同様の創造的で自由な学習が進められ、リズムや曲調の異なるいろいろな曲のリズムに乗って「自由に弾んで踊る活動」から「リズムの特徴を生かした乗り方や対応の仕方を工夫して踊る活動」という二段階の構成で学習を進めていくようにします。児童生徒の発達の段階や実態に応じて、教師が児童生徒と一緒に踊りながら進める前半の活動の割合を調整するようにします。また、技能の習得のみに偏らず、他者と関わって踊ることの大切さを理解していけるような活動形態を工夫するようにします。毎時間の授業のまとめとして、工夫した踊りを見せ合い交流する活動を行うとともに、単元のまとめとしても皆で踊る交流会を行うことが重要になります。

「フォークダンス」の単元における学習過程は、日本の民踊や外国の代表的なフォークダンスの中から、児童・生徒の発達の段階や実態に応じて難易度を考慮し、また特徴の異なる踊りをいくつか選んで構成します。単元の前半では、曲目毎に、特徴的なステップや動きと組み方を覚え、みんなで楽しく交流しながら繰り返して踊る活動を積み重ね、単元の後半では、それぞれの踊りの由来を改めて確認し理解を深めたり、踊りに伴う掛け声等をつけたりして踊りの雰囲気高め、学習した踊りをみんなで踊る交流会をします。また、踊りを通して、日本のいろいろな地域や世界の文化に触れることができるよう工夫することが大切です。

④適切な時間を配当する

領域ごとの配当時間数は決まっていますが、学習指導要領や解説を参考に、それぞれの踊りの楽しさや魅力(特性)に十分に触れ、深めていくためにはどれくらいの時間を配当するとよいかを検討し、適切な配当時間を各学校で設定することが求められます。

小学校低学年、中学年、高学年、中学校第1・2学年においては、2学年ごとのまとまりで指導内容が示されているため、2学年ともに「ダンス系」領域の内容を位置づける場合は、「態度」「知識、思考・判断」(小学校は「思考・判断」)は2年間で全ての内容が学習できるようにし、「技能」についても例示の取り上げ方を学年の目標に応じて選択する等、弾力的な扱いを工夫することが大切です。また、中学校第3学年からの接続を踏まえ、高等学校においては、内容の習熟を図ることができるよう考慮し適切な時間を配当することが大切です。

このように、複数学年を見通した弾力的な年間指導計画に基づいて単元計画を作成することは、一人一人の児童生徒がじっくりと学習に取り組むことや、学習内容の確実な定着を図ることを可能とし、生涯にわたって運動やスポーツを豊かに実践していく力を培うことを促すものとなります。

(3) 単元計画のモデルと作成上の留意点

①表現系ダンス

ア) 表現リズム遊び (小学校低学年)

小学校低学年の「表現リズム遊び」は、「表現遊び」と「リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、中学年からの表現運動につながる即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを培えるようにします。そのため、1時間の学習の中に「表現遊び」と「リズム遊び」の二つの内容を組み合わせたり関連をもたせたりするなど、いろいろなものになりきりやすく、律動的な活動を好む低学年の児童の特性を生かした即興的な活動を中心とした学習指導の進め方を工夫することが大切です。

また、「態度」に関わる内容としては、誰とでも仲良く踊ったり、場の安全に気をつけたりする等の自他を尊重する態度を育むことに留意する必要があります。「思考・判断」に関わる内容に関しては、楽しく踊るための動きを選んだり、友達のよい動きを見付けたりできるようになることを目指します。そのためには、教師が児童のアイデアを大いに活用し、児童の実態に応じて、思考力や判断力を育むことができるよう指導方法を工夫することが大切です。

表1・表2は、「表現リズム遊び」の単元計画モデルです(低学年における2年間を見通した年間指導計画をもとに具体化したもの)。留意点としては、単元を通して毎時間「リズム遊び」と「表現遊び」を行い、単元の最後には、気に入った動きを出し合うことで、みんなで一緒に続けて踊る活動を行って締めくくるといふ流れをつくることが挙げられます。

表1 「表現リズム遊び」はじめの段階の単元計画モデル

「どうぶつランドでへんしん！」

軽快なリズムに乗って踊ったり、動物のいろいろな様子や特徴をとらえた動きで即興的に踊ったりする。		どうぶつランドメドレー
1～5		6
リズム遊び	軽快なリズムの曲に乗って自由に踊る。 (ジェンカやタタロチカのような軽快なフォークダンスを含む)	
○教師のリードで、友達と動きを真似し合って、友達と動きを続けて、友達と気に入った動きをつないでなど、いろいろな活動の仕方です。		
表現遊び	小テーマの特徴的な動きをみんなでいくつかやってみたり、友達と好きな動物を選び、簡単なお話で続けて踊ったりする。	
動物	昆虫	海の生き物
○特徴の異なる動物を取り上げ、教師のリードで即興的に踊る。 ○取り上げた動物の中から好きな動物を選び、簡単なお話で続けて踊る。		
		これまで踊った中で面白かった動物の様子や動きをみんなで一緒に踊る。

表2 「表現リズム遊び」やや進んだ段階の単元計画モデル

「ゆうえんちへいこう」

軽快なリズムに乗って踊ったり、遊園地にある乗り物などの特徴をとらえた動きで即興的に踊ったりする		ゆうえんちメドレー
1～5		6
リズム遊び	軽快なリズムの曲に乗って弾んで自由に踊る (ジェンカやタタロチカのような軽快なフォークダンスを含む)	
○教師のリードで、友達と動きを真似し合って、友達と動きを続けて、友達と気に入った動きをつないでなど、いろいろな活動の仕方です。		
表現遊び	小テーマの特徴的な動きをみんなでいくつかやってみたり、友達と好きな乗り物などを選び、簡単なお話で続けて踊ったりする。	
乗り物	びっくりハウス	パレードが通る
○教師のリードで、急変するような場面を入れながら即興的に踊る。 ○取り上げた乗り物等の中から好きな乗り物等を選び、急変するような場面を入れながら続けて踊る。		
		これまで踊った中で面白かった様子や動きをメドレーで踊る。

イ) 表現 (小学校中学年・高学年)

小学校中学年・高学年の「表現」では、身近な生活などから題材を選んで、表したいイメージや思いを表現できるようにすることがねらいとなります。こうしたねらいに迫るため、児童がその時点で身に付けている技能を把握し、個の違いを生かせるような題材や音楽を選ぶとともに、多様な活動や場を工夫して、一人一人の課題の解決に向けた創意工夫ができるようにしていくことが大切です。従って、単元前半は多様な題材での即興的な表現の活動、単元後半は簡単なひとまとまりの動きにして踊って楽しむ活動という、二つの学習の段階による単元構成が考えられます。

中学年の「表現」の単元計画モデル（はじめの段階：表3、やや進んだ段階：表4）では、単元前半は毎時間異なる料理の小テーマからの即興的な表現を繰り返した後、単元後半の「表したい場面や様子をひとまとまりの動きにする活動」につなげるようにします。単元後半の学習は中学年で初めて行うことから、表したい様子に「はじめとおわり」をつけた易しい動きで発表するようにしたり、メドレー形式などにより、発表の工夫をしたりすることも考えられます。

また、単元計画モデルには時間数が示されていますが、前半の即興的な表現の時間と後半のひとまとまりの動きにして踊る時間の割合は、学習経験などの児童の実態を踏まえて柔軟に考えてください。

表3 小学校中学年の「表現」はじめの段階の単元計画モデル

「お料理しましょ！」

「お料理しましょ！」のいろいろな様子や場面の特徴をとらえて、ひと流れの動きで即興的に踊る。				「お料理しましょ！」から好きな場面を選び、「はじめとおわり」をつけた動きにして踊る。
おかし・パン ・めんづくり	魚や貝で つくろう	おなべで つくろう	はりきり クッキング	
1～5				6・7
<ul style="list-style-type: none"> ○「お料理しましょ！」の小テーマから思い浮かぶ特徴的な様子や場面をいくつかみんなで作ってみる。 ○小テーマから好きなイメージを選び、ひと流れの動きにして踊る。 ○一番気に入ったひと流れの動きを見せ合う。 				<ul style="list-style-type: none"> ○表したい場面に「はじめとおわり」をつけた動きにして踊る。 ○見せ合って感想を伝え合う。 <p style="text-align: right;">○発表会をする。</p>

表4 小学校中学年の「表現」やや進んだ段階の単元計画モデル

「○○探検」

「○○探検」のいろいろな様子や場面の特徴をとらえて、ひと流れの動きで即興的に踊る。				「○○探検」の中から好きな探検と場面を選び、「はじめとおわり」をつけた動きにして踊る。
オリエン テーション	ジャングル 探検	宇宙探検	海底探検	
1	2～4			5・6
<ul style="list-style-type: none"> ○探検からイメージを出し合う。 ○学習の進め方を知る。 ○いくつか即興的に踊ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テーマの特徴的な場面や動きをいくつかみんなで作ってみる。 ○小テーマからの好きなイメージをひと流れの動きにして即興的に踊る。 ○一番気に入ったひと流れの動きを見せ合う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○グループで気に入った場面を選び、「はじめとおわり」をつけた動きにして踊る。 ○見せ合って感想を伝え合う。 <p style="text-align: right;">○発表会をする。</p>

小学校高学年の「表現」の単元計画モデル（はじめの段階・表5、やや進んだ段階・表6）では、それまでの学習経験を生かしながら、表現の特性にさらに触れていくことをねらって単元後半の時間数を多めにとり、グループごとの「ひとまとまりの動きにして楽しむ活動」を充実させていくことがポイントです。また、単元前半の「即興的な表現を楽しむ活動」の中では、よい動きのポイントを理解しながら、自分の動きに取り入れていくことができるように学習を進め、単元後半の活動に生かしていくことが大切です。

表5 高学年の「表現」はじめの段階の単元計画モデル

「対決！」

「対決！」のいろいろなイメージを、ひと流れの動きで即興的に踊る。				「対決！」から好きなイメージを選び、グループでひとまとまりの動きにして踊る。
オリエンテーション	2人の戦い	追いつ追われつ	危機一髪！○○	
1	2～4			5～7
<ul style="list-style-type: none"> ○「対決！」からイメージを出し合う。 ○学習の進め方を知る。 ○いくつか即興的に踊ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テーマからの特徴的な動きをいくつかみんなでやってみる。 ○小テーマからの好きなイメージをひと流れの動きにして踊る。 ○一番気に入ったひと流れの動きを見せ合う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○表したいイメージが強調されるように、ひとまとまりの動きにして踊る。 ○見せ合って感じを確かめ合い、アドバイスし合う。 <p style="text-align: right;">○発表会をする。</p>

表6 高学年の「表現」やや進んだ段階の単元計画モデル

「大変だ！○○」（激しい感じの表現）

「大変だ！○○」のいろいろなイメージを、ひと流れの動きで即興的に踊る。				「大変だ！○○」の中から好きなイメージを選び、グループでひとまとまりの動きにして踊る。
オリエンテーション	身近な生活編	自然・社会編	群が生きる内容編	
1	2～4			5～7
<ul style="list-style-type: none"> ○「大変だ！○○」からイメージを出し合う。 ○学習の進め方を知る。 ○いくつか即興的に踊ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小テーマからの特徴的な動きをいくつかみんなでやってみる。 ○小テーマからのイメージをひと流れの動きにして踊る。 ○一番気に入ったひと流れの動きを見せ合う。 			<ul style="list-style-type: none"> ○表したいイメージが強調されるように、ひとまとまりの動きにして踊る。 ○見せ合って感じを確かめ合い、アドバイスし合う。 <p style="text-align: right;">○発表会をする。</p>

ウ) 創作ダンス（中学校・高等学校）

小学校における「表現」で学習した「身近な題材から見付けてなりきって踊ることや表したい感じを表現して踊ること」などを受けて、中学校・高等学校における「創作ダンス」では、多様なテーマの中から表したいイメージを生徒一人一人が捉えたり深めたりして踊ることや、生徒同士が協力し、ひとまとまりの表現にして発表することができるようにしていきます。

中学校第1・2学年での「創作ダンス」のはじめの段階の単元計画モデル（表7）では、多様なテーマから即興的に踊って楽しむ学習を積み重ね、生徒が表したいイメージをとらえて踊ることができるような学習指導の進め方を工夫しています。このような即興的な表現の活動では、教師自らが生徒と一緒に動きながら学ばせたい内容を示すことや、2～4人程度の少人数のグループによる活動を大切にすること等に留意します。また、小学校とは異なる新しい集団での学習となる場合が考えられることから、授業の導入でリズムに乗って心身をほぐす活動や既習の内容などを取り入れること、また、開放的な雰囲気を作ることなどに留意します。

表7 中学校第1・2学年「創作ダンス」はじめの段階の単元計画モデル

単元前半					単元後半	
多様なテーマを手がかりに、変化を付けたひと流れの動きで即興的に表現する。					表したいイメージを選んで、グループで変化と起伏のあるひとまとまりの動きにして踊る。	
オリエンテーション ダンスの特性を知る	テーマA 身近な生活や日常動作「スポーツいろいろいる」	テーマB 対極の動きの連続「伸びるー縮む」	テーマE もの(小道具)を使う「新聞紙」	テーマC 多様な感じ「激しい感じ」	既習のテーマから、グループで好きなテーマを選択して動きを工夫して踊る。	発表会
1	2	3	4	5	6～8	9
○毎時間のテーマから、イメージを膨らませて、思い浮かぶ特徴的な動きを即興的に表現する。 ○2～4人組で、表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて、ひと流れの動きで表現する。 ○ペアグループ間で見せ合って、感想を伝え合う。					○変化と起伏のある「はじめーなかーおわり」のひとまとまりの動きにして表現する。 ○動きを見せ合って発表する。 ○互いの良いところを認め合う。	

中学校第3学年から高等学校入学年次における創作ダンスの単元計画は、小学校や中学校第1・2学年での学習経験が十分であるならば、進んだ段階の内容にすることが理想的です。進んだ段階の単元計画では、「即興表現」から「簡単な作品」へという2段階の学習指導のうち、特に単元後半の「簡単な作品」の創作過程が重要となり、イメージを捉えた表現からさらにイメージを深めた表現へと学習が深まっていくことが期待されます。したがって、テーマにふさわしいイメージを捉えた「ひと流れの動き」を繰り返したり誇張したりしながら、グループの仲間と協力して、変化のある「はじめーなかーおわり」の簡単な作品にまとめ、発表することができるようにすることがねらいとなります。さらに、イメージを深めた表現ができるよう、踊り込みやグループ間での中間発表等を積極的に取り入れること等に留意します。

なお、三つのダンスを選択して取り組む単元計画モデルを表8に示していますが、これは限られた時間数の中でできるだけ多様なダンスに触れることを念頭においた単元計画モデルとして考案されているため、単元前半に現代的なリズムのダンスとフォークダンスも含まれていますが、実態に応じて選択しながら計画を立てることが可能です。

表8 中学校第3学年～高等学校入学年次領域内選択単元計画モデル

※「創作ダンス」の進んだ段階の単元計画モデルとしても活用することが可能です。

	1	2～4	5～7	8～10	
単元前半	オリエンテーション	《共通の学習①》 フォークダンス 日本の民踊、 外国のフォークダンス	《共通の学習②》 現代的なリズムのダンス ロック、ヒップホップ 選んだリズム	《共通の学習③》 創作ダンス 群の動き、ものを使って はこびとストーリー	
単元後半	11	12～17		18	
	ダンスの 選択 グループ 作り 学習計画	《創作ダンスグループ》		中間発表会 合同発表 交流会 まとめ	
		【簡単な作品創作】 表したいイメージが強調されるように動きや構成を工夫する。			【作品の修正と踊り込み】 アドバイスを生かして
		《フォークダンスグループ》			【踊りの確認と踊り込み】 アドバイスを生かして
【踊りの特徴の理解と洗練化】 踊りの全体を覚える。踊りの由来等の文化的背景を調べ、特徴をとらえて踊る。		【ダンスの修正と踊り込み】 アドバイスを生かして			
	《現代的なリズムのダンスグループ》				
	【オリジナルダンスづくり】 選んだリズムや音楽の特徴をとらえ、変化のある動きをつなげたり、群の構成を工夫したりして、まとまりを付けて踊る。				

②リズム系ダンス

ア) リズムダンス (小学校中学年)

小学校における「リズムダンス」のねらいは「軽快なロックやサンバなどのリズムに乗って仲間とかかわって自由に踊る」楽しさを学習することにあります。こうしたねらいに迫るため、はじめの段階の単元計画モデル(表9)のように、毎時間全身でリズムに乗って踊る活動と仲間とかかわり合いながら即興的に踊る活動を積み重ね、単元の最後にダンス交流会で締めくくるなど、児童が自由に動きを工夫して楽しむことができるような創造的な学習の場を創出することが求められます。

表9 小学校中学年「リズムダンス」はじめの段階の単元計画モデル

「ロックやサンバのリズムにのって」

ロックやサンバのリズムの特徴をとらえて、友達とかかわり合いながら踊る。					ダンス交流会
軽快なロック		ビートの強いロック	サンバ		
1	2	3	4	5	6
○リズムの特徴をとらえて、複数の曲をみんなで即興的に踊る。 ・2～3分の曲を数曲用意し、教師と共にリズムの特徴をとらえながらメドレーで踊る。 ・リズムの特徴をとらえ、変化をつけた動きを入れて続けて踊る。 ○全体で1曲を選び、リズムの特徴をとらえた動きで、2～4人組で即興的に踊る。					○学習してきたリズム(曲)から、クラス全員で人気の高かった曲を選び、みんなで踊る。

表10 小学校中学年「リズムダンス」やや進んだ段階の単元計画モデル

「リズムで交流！」

ロックやサンバのリズムの特徴をとらえて踊る。		ロックやサンバから好きなリズム(曲)を選んで踊る。	リズムダンス交流会
ロック	サンバ		
1	2	3～5	6
○リズムの特徴をとらえて、みんなで即興的に踊る。 ○リズムの特徴をとらえて、2～4人組で即興的に踊る。		○好きなリズム(曲)を選んで、4～6人組で即興的に踊る。 ・毎時間全体で4曲選び、固定した4～6人組でその中から1曲選び、選んだ曲で即興的に踊る。 ○他の4～6人組とお気に入りの動きを交換し合ったり教え合ったりする。	○人気の高かった曲を選んで、リズムダンス交流会をする。

イ) 現代的なリズムのダンス (中学校・高等学校)

中学校・高等学校における「現代的なリズムのダンス」の特性は「ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの曲に乗り、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊ること」です。こうした特性に生徒一人一人が触れることができるように、小学校におけるリズムダンスのロックやサンバのリズムに乗って弾んで踊る学習経験を基に、ヒップホップのリズムを加えた「現代的なリズムのダンス」のはじめの段階の単元計画モデル(表11)を示しています。この単元では、リズムに乗って弾む動きを中心に、全身で自由に踊る段階を多めに設定し、単元の最後に仲間とかかわりながら、リズムの乗り方や動き方を工夫して踊る「交流会」で締めくくるという流れを大切にしています。ここでの留意点は、生徒の実態に応じて、リズムの特徴をとらえやすく踊りやすいテンポや曲調の音楽を選択するようにすることです。また、ロックやヒップホップのリズムの特徴をとらえ、体の各部位の動きのずれや連動、ダイナミックなアクセント等、変化を付けて連続して踊る等の発展が考えられます。

このように、リズムの乗り方や特徴をつかむ単元前半と、仲間同士で工夫を加える、後半の2段階の学習指導の進め方にし、単元後半の活動の中で、仲間同士が対応しながら踊る交流の活動を多く取り入れる等、かかわって踊ることの楽しさや喜びにさらに触れ、学習を深めていくことができるよう工夫することが大切です。

表11 中学校第1・2学年「現代的なリズムのダンス」はじめの段階の単元計画モデル

単元前半					単元後半			
ロックやヒップホップなどのリズムに乗って、自由に弾んで楽しく踊る。					変化のある動きを組み合わせるリズムに乗って続けて踊る。			
オリエンテーション	軽快なロック	ビートの強いロック	簡単なヒップホップ	アクセントのきいたヒップホップ	グループでオリジナルダンスづくり			交流会
1	2	3	4	5	6	7	8	9
○現代的なリズムのダンスの特性と学習の進め方を知る。	○ロックのリズム ・特徴をとらえて踊る ・全身で大きく弾んで踊る。		○ヒップホップのリズム ・特徴をとらえて踊る。 ・全身を使って縦ノリのリズムで踊る。 ○ダンスの掛け合い(ダンスバトル)		○ロックやヒップホップのリズムの特徴をとらえ、動きを続けて自由に踊る。 ○オリジナルダンスの作成 ・リズム別のグループで、自由な動きをもとにして、変化のある動きを組み合わせるオリジナルダンスをつくる。			○仲間同士互いの違いや良さを認め合う。

なお、「現代的なリズムのダンス」の進んだ段階の単元計画モデルとしては、表8を参照のこと。

③フォークダンス

フォークダンスは、「世界の代表的な踊りや地域に伝わる踊りを身に付けて踊ったり、踊りの特徴を味わって踊ったりして交流することが楽しい運動」であり、外国のフォークダンスと日本各地域の民踊から構成されています。

小学校におけるフォークダンスの学習では、表12の単元計画モデルのように、毎時間踊りを変えながら、「既習の踊りを踊る」→「新しい踊りを身に付けて踊る」→「踊りの特徴をとらえて踊る」という流れで活動していくことが、児童にとって学びやすいと考えられます。また、6時間の中に踊りを五つ示しているため、児童にとって1時間で身に付けることがやや難しかった踊りについては2時間にわたって学習することが可能となります。

表12 小学校高学年「フォークダンス」単元計画モデル

「簡単なフォークダンスを踊って交流しよう」 ※この計画は2年間の中で行います。

外国のフォークダンスを身に付けて、みんなで楽しく踊る。			日本の民踊を身に付けて、みんなで楽しく踊る。		交流会
マイムマイム	コロブチカ	グスタフス・スコール	日本の代表的な踊り	郷土の踊り	
1～5					6
○既習の踊りをみんなで踊る。(前時の復習を含む) ○新しい踊りを身に付けて、みんなで踊る。 ・全体を四つくらいに分けて大づかみに身に付けてから通して踊る。 ○踊りの特徴をとらえて、みんなで踊る。 ・全体で踊りの特徴を確認し、踊りの特徴を意識しながらみんなで踊る。					○学習した踊りを思い出しながら、みんなで踊って交流する。

中学校や高等学校におけるフォークダンスの学習では、「踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること」のフォークダンスの特性に迫ることができるように、日本の民踊や外国の代表的なフォークダンスの中から生徒の実態に応じて難易度を検討し、地域や特徴が異なる踊りをいくつか選んで単元を構成します。表13に中学校第1、2学年の「フォークダンス」の単元計画モデルを示しましたが、ここでは仲間と楽しく踊り交流する活動を積み重ねながら、踊りが生まれ伝承されてきた地域や風土等の背景や情景をグループで調べ理解を深める活動や、踊りや動きの中に込めたい感じの理解を深める活動を加え、単元のまとめの交流会を充実させていく等の工夫がポイントです。単元のはじめの雰囲気づくりには、小学校で学んだ既習の内容を改めて踊って楽しむ活動を取り入れることも有効でしょう。

表13 中学校第1・2学年次「フォークダンス」単元計画モデル

日本の民踊や外国のフォークダンスの特徴をとらえてみんなで踊る。					グループで選んだ踊りの特徴を強調して練習し交流して踊る。	
オリエンテーション	日本の民踊		外国のフォークダンス		グループで選曲	フォークダンスメドレー
	春駒・炭坑節	郷土の踊り	オクラホマ・ミクサー、バージニア・リール	ボードレブスカ・ポルカ		
1	2	3	4	5	6	7
○小学校での既習の踊りを踊る。 ○学習を見通す。	○踊りの全体を大づかみに覚えて踊る。 ○踊りの由来を理解し難しい踊り方を取り出して踊る。 ○みんな楽しく踊って交流する。				○曲目を選択して踊る。 ○選んだ踊りの特徴がより生きるように工夫し、グループ間で見せ合ったり、教え合ったりして踊る。	交流会

④三つのダンスを選択して取り組む単元計画モデル

中学校第3学年から高等学校にかけては、ダンス領域を選択した生徒が、創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスの中から好きなダンスを選び、時・場所・仲間に応じてダンスを再構成・創造してダンスの特性を深めていく単元計画を考えていくことを目指します。なぜなら、生徒自らが好みに応じてダンスを選択し実践することは、生涯スポーツとして将来ダンスを実践する可能性を生徒に伝えるという意味で大変重要であるからです。特に高等学校においては、他の運動領域との選択で実施することから、ある程度まとまりのある単元時数を確保し、生徒自らが時間をかけて主体的に学習していくことも可能です。ただし、生徒の主体性を尊重するとともに、学習のねらいや種目の選択方法、選択後の学習計画の立て方などについて、指導者が生徒に学習の道すじを示すことは必要です。

例えばグループ毎の活動に入ってから、生徒が主体的に学習を進めることができるように、学習の進め方や、動きや踊り方の工夫の仕方等について、教師がグループを回って指導、助言を行います。毎時間、その日の活動をグループ毎にふり返るとともに、中間発表の際にそれまでの成果と課題を明らかにし、授業の後半に向かって生徒同士が互いに交流しながら主体的な学習をさらに深めていくことができるよう指導に当たることが求められます。

このように、選択して取り組む授業においても教師は、生徒の主体的な学習を支援する役割を担うことが重要となります。

なお、表14は中学校第3学年、表15は高等学校その次の年次以降における領域内選択の単元計画モデルとなっており、それぞれの校種での集大成としてとらえることができます。

表 14 中学校第3学年「三つのダンスを選択して取り組む」単元計画モデル

単元前半	1	2・3	4・5	6・7		
	オリエンテーション	《共通の学習①》 フォークダンス 日本の民踊、 外国のフォークダンス	《共通の学習②》 現代的なリズムのダンス ロック、ヒップホップ	《共通の学習③》 創作ダンス 多様な感じ、「見る」×群		
単元後半	8	9～11		12・13		
	ダンスの 選択 グループ 作り	〈創作ダンスグループ〉 【作品創作】 共通の学習で踊ったテーマから表したイメージを選び、自分達でまとまりのある作品を創って踊る。			グループ毎に発表や交流の仕方を工夫し練習する	合同発表・交流会
		〈フォークダンスグループ〉 【練習】 共通の学習で踊った踊りの中から、気に入った踊りを選び、踊りの特徴が生きるように練習し、皆で交流して踊る。				
		〈現代的なリズムのダンスグループ〉 【オリジナルダンスづくり】 共通の学習で踊ったリズムを選び、変化とまとまりを付けてオリジナルダンスを創って踊る。				

表 15 高等学校その次の年次以降「三つのダンスを選択して取り組む」単元計画モデル

1	2～5
オリエンテーション	三つのダンスの復習（各1時間）とグループ分け創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンスについて、1時間ずつ教師主導で活動を行い、それぞれのダンスの特性と活動の進め方を復習してから、三つのダンスから一つを選択し、グループ分けを行う。

グループごとに計画的に練習 6～13		踊り込みと準備、本番 14～19	
○やってみたい内容を試してみよう！ グループごとに、踊りたいテーマ／踊り／音楽の候補を2～3曲選び、試してみる。 リーダー会議	中間発表・交流会① ○決定した内容の練習に計画的に取り組もう！ グループごとに、決定したテーマ／踊り／音楽について、作品やオリジナルダンスづくり、練習に取り組む。 リーダー会議	中間発表・交流会② ○踊り込みと準備をしよう！ ・グループごとに、踊り込み、衣装や小道具、音楽等の準備、最終確認を行って、完成度を高める。 ・合同発表・交流会の係打ち合わせ、準備を行う。 ・通し練習やリハーサルを行う。 リーダー会議	合同発表・交流会

まとめ「自分に適したダンスとのかかわり方を考えよう！」 20 合同発表・交流会とそれまでの活動を振り返ると共に、生徒一人一人が自分に適したダンスとのかかわり方を見出せるようにする。

第3節

2 学習評価の考え方と実施上の留意点

(1) 目標に準拠した学習評価の考え方

学習評価は、学習指導要領の示す目標に照らして児童生徒の実現状況を見るものが求められるものです。さらに、学習評価は、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものと言えます。

各学校における学習評価は、指導と評価の一体化を目指し、学習指導に係るPDCAサイクルの中で適切に実施されることが重要です(図3)。目標に準拠した評価のメリットは、児童生徒に対する評価だけでなく、教師の授業改善にもつながるものです。そこで、目標に準拠した評価を行うに当たっては、これまで以上に学習指導要領を理解した授業づくりをすることが大切です。

体育科・保健体育科における評価について考える上では、次の4点についておさえ、学習評価の妥当性、信頼性について確認することが大切です。

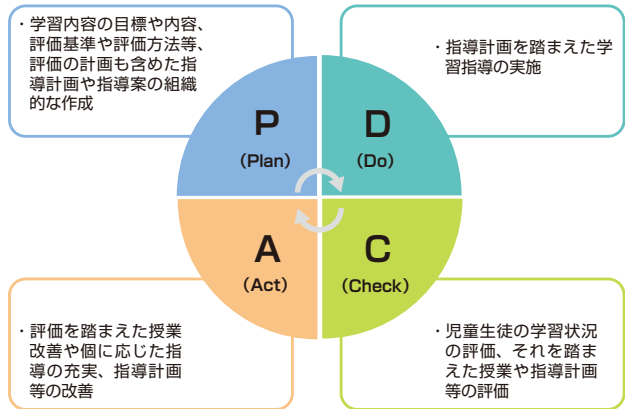


図3 学習指導に係るPDCAサイクル考・判断の例示

①指導内容が学習指導要領に基づいているか

学習評価は、学習指導要領に基づいて行われた指導内容に対して行うものです。ですから、指導内容が学習指導要領とずれてしまうと、評価として妥当性、信頼性が失われることになります。

②指導したことが評価されているか

「技能」のみを指導するだけでなく、「態度」や「思考・判断」についても指導し評価することが大切です。

③評価方法は適切なものであるか

児童生徒の実現状況を多面的に把握するために、適切に評価できるよう評価方法を工夫します。

④効果的・効率的な評価であるか

学習評価だけを単独で考えるのではなく、指導を充実させ児童生徒が力を付けていくために評価が必要なものと捉えることが大切です。そこで、評価に当たっては、指導内容を明確にした上で、指導を工夫し、評価するようにしていきます。また、評価をした際、指導内容が十分に身に付いていない児童生徒が多いようであれば、指導を改善し、児童生徒が確実に学習内容を身に付けることができるようにすることが必要です。このようにすることで、指導と評価が分離せず、効果的・効率的な評価となります。

(2) 「ダンス系」領域の学習評価の留意点

学習評価は、指導した結果を児童生徒の姿から見取っていくものであり、何を評価するのかが、何を指導したかということと一体です。「ダンス系」領域においても、他の運動領域と同じように、指導内容の明確化、系統化が図られましたが、「表現系ダンス」や「リズム系ダンス」においては、ゴールがいくつもあるため、何をどのように評価すればいいのかが分かりにくいと感じる教師も多いでしょう。この点を踏まえて、ここでは、「ダンス系」領域の学習評価の留意点について「児童生徒の動きの何を見て評価するのか」「評価計画の工夫」「評価方法の工夫例」の三つの側面から示します。

①児童生徒の動きの何を見て評価するのか

ア) 表現系ダンス

「表現系ダンス」では、題材やテーマから思い浮かんだ表したいイメージによって、児童生徒の動きは多様になります。そのため、どの動きをもって「よい動き」と評価すればいいのかが分かりにくい面があります。そこで、評価に当たっては、発達の段階を踏まえつつ、以下の視点を参考に動きを見取るようにすることが考えられます。

◆動きの誇張（デフォルメ）

…動きの特徴を明確にとらえ、その特徴を強調した動きであるか。

◆連続した動き

…気持ちと動きが途切れることなく、表す対象になりきって「ひと流れの動き」や「ひとまとまりの動き」にして動いているか。

◆変化とメリハリ

…同じ調子の動きが続くのではなく、何か事件が起きたり、場面が急展開したり、急変した動きが入ったりして、緩急のついた動きで見る者をハッとさせる瞬間があるか。

イ) リズム系ダンス

「リズム系ダンス」では、授業で取り上げたリズムによってリズムへの乗り方が異なり、その乗りをベースに生まれてくる動きは、児童生徒によって異なります。しかし、指導内容がリズムでくくられているため「表現系ダンス」に比べると評価の観点はしほりやすいでしょう。評価に当たっては、発達の段階を踏まえつつ、以下の視点を参考に動きを見取るようにすることが考えられます。

◆リズムの特徴をとらえているか

…ロックでは「弾みや後打ち」、サンバでは「前後スイングや後打ち」、ヒップホップでは「ダウンやアップの縦ノリ」などのリズムの特徴をとらえた動きとなっているか。

◆連続した動き

…気持ちと動きが途切れることなく、曲のリズムと一体となって続けて踊っているか。

◆変化と対応の仕方

…動きにアクセントをつけたり、素早い動きやストップなどでリズムに変化を付けたり、友達や相手と調子を合わせたり、対応したりして踊っているか。

ウ) フォークダンス

「フォークダンス」では、伝承された日本の民踊や外国のフォークダンスによって、踊りの特徴や難易度が異なるものの、指導内容は定形の踊りでくくられているため、「表現系ダンス」「リズム系ダンス」の内容よりもさらに評価の観点はしほりやすいでしょう。評価に当たっては、発達の段階を踏まえつつ、以下の視点を参考に動きを見取るようにすることが考えられます。

◆踊りの特徴をとらえているか

…踊りの由来などを調べて特徴をとらえ、感じを込めて踊っているか。

◆踊りを正確に身に付けているか

…踊りの特徴をとらえ、ステップや動き、組み方を身に付けて、正確に1曲を通して踊っているか。

◆踊りで交流できているか

…共に踊る仲間と対応しながら、スムーズに楽しく踊っているか。

②評価計画の工夫

指導をし、評価する（指導と評価の一体化）ことから、指導内容と評価の観点を明確にする必要があります。そこで、次の2点を踏まえて評価計画を作成するとよいでしょう。

ア 指導内容と評価の観点を含めた単元計画の作成

単元計画を作成する段階で、いつ、何を指導し評価するかということを示した指導と評価の計画を作成します。その際、「運動への関心・意欲・態度」「運動についての思考・判断」「運動の技能」「運動についての知識・理解」（高等学校は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」）の四つの観点について、どの時間にどの観点を評価するかなど、単元計画の中に位置付けるようにします。実際の授業では毎時間全ての観点を評価するのは難しいため、単元全体を通してバランスよく指導を行い、評価するという計画を作成することが大切です（図4）。なお、実際の評価に当たっては、単元の目標にどれだけ迫ることができたかについて、具体的な指導をしていないと評価ができません。そこで、指導と評価の計画を作成する際には、具体的な指導内容を示すようにするとよいでしょう。

また、小学校、中学校、高等学校では「ダンス系」領域の単元に当てる時間配当は異なり、小学校よりも、中学校、高等学校の方が配当時間が長いことが考えられます。したがって、小学校では指導したら短時間のうちに評価をすることになることから、1時間の途中で評価し、授業の最後にもう一度評価することで効果が上がります。中学校、高等学校では、大単元としてある程度まとまった時間の指導が可能であることから、観点によっては、指導をした後そのことをすぐに評価せず少し時間を空けてから評価するようにすることが考えられます。このように、いつ、どこで、何を評価するのかをきちんと計画することが評価を効果的・効率的に行う上で大切です。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	多様なテーマからふさわしいイメージをとらえひと流れの動きで即興的に表現する					表したいイメージを深めてひとまとまりの表現にする			
	テーマBから伸びる・縮む	テーマEからゴム	テーマCから急変する	テーマDからエネルギー	テーマDから対決	① グループ毎に表したいテーマ、内容を決定する ② 動きを誇張したり、繰り返したり、場の使い方を工夫したりして、簡単な作品にまとめる ③ グループ間で見せ合う			発表会
	① 心身をほぐす ② その時間の題材から思い浮かぶ特徴的な動きをみんなでいくつか即興的に表現する ③ 2〜4人組で、表したいイメージを膨らませて、変化のあるひと流れの動きで表現できるようにする ④ ひと流れの動きを見せ合って、感想を伝え合う								
技能	表したいテーマや題材からの表現 ・ふさわしいイメージをとらえて踊る ・動きや空間の使い方に変化を付けて踊る ・簡単な作品にまとめて踊る								
態度	自主的に取り組む		違いやよさを認め合う			自己の責任を果たす			
	←-----健康・安全の確保-----→								
知識	ダンスの名称や用語など			交流の仕方			体力の高め方		
思考・判断	イメージを見付ける			構成を見付ける					
	体調に応じた練習方法を選ぶ		互いの違いやよさを指摘する		継続して楽しむかわり方を見付ける				

図4 中学校第1・2学年の創作ダンスの指導と評価の計画の例

イ 単元における具体的評価規準と「努力を要する状況（C）」の児童生徒への支援の計画の作成

評価の妥当性、信頼性を得るために、児童生徒の「概ね満足できる」「十分満足できる」状況について教員内で共通理解しておく必要があります。そのために、あまり評価規準を細かくしすぎないようにするとよいでしょう。また、評価規準を設定した後に、学年内や学校内、教科部会等で話し合い、実現状況を子どもの具体的な姿を確認することで、評価の信頼性が高まります。このように指導と評価の計画を含めた単元計画ができた段階で、単元における具体的評価規準の一覧を作成し、その後「努力を要する状況（C）」の児童生徒に対しどのように支援していくかの計画を作成するようにします。

③評価方法の工夫例

授業における実際の評価は、「教師の観察」が最も大きなウェイトを占めます。しかし、1時間の授業で

30～40人の児童生徒の評価全てを教師の観察だけで行うことは難しく、客観性が乏しくなりがちです。そこで、以下のような評価方法を複数考えておく必要があります。

ア 教師による観察

- ・その時間に評価する観点をしばって評価したり、複数回の評価機会を設定したりする。
- ・単元の最初では、特に「運動への関心・意欲・態度」の「努力を要する状況（C）」の児童生徒のチェックに重点を置き、その上でその児童生徒を中心に支援する。
- ・単元の中盤では、活動の仕方に慣れて「楽しく踊るための動きや活動の仕方の工夫」が顕著に見られるようになると思われることから、「運動についての思考・判断」について評価する。さらに、それらの工夫例を学級全体に紹介するなどして、「努力を要する状況（C）」の児童生徒の支援に役立てる。
- ・「運動の技能」については、動きや活動の工夫にともない単元の後半に顕著に見えてくると思われることから、単元の後半を中心に評価する。
- ・毎時間のまとめの活動として、グループごとにメドレー形式で踊るような発表（見せ合い）の機会を設定し、その場で踊る児童生徒を中心に評価する。

イ 児童生徒同士による相互評価

- ・「ダンス系」領域においては、見せ合う活動自体が運動の楽しさの一部となっていることと合わせて、互いの動きを見せ合うことで、よい動きを見取る観点を確認し合ったり、互いの動きのよさを認め合ったりする。それらを教師の評価の参考にする。
- ・毎時間見せ合ったり、単元最後に発表会として見せ合ったりしながら相互評価を行う。
- ・「ひと言メッセージ」「今日のベストダンサー」などの観点を取り入れて相互評価を行うことで教師の評価に生かす。
- ・学習カードに相互評価の項目を加えることで、自分の学習だけでなく友達のよさを確認するなど互いに高め合えるための資料として活用する。

ウ 学習カードによる児童生徒の自己評価

- ・学習カードを活用することで、児童生徒自身が学習を振り返って自己評価し、次の学習へのめあてをもつことができる。また、教師が児童生徒の学習の様子や思いを把握して次時への指導に役立てたり、児童生徒の学習状況を評価する際の参考資料にしたりする。



梅花中学校

— BAIKA Junior High School —

梅花ならではの経験で育まれる
豊かな感性

梅花の伝統 / 磨かれる表現力



充実の学習環境で築く
礎となる学び

英語の梅花 / 深まる思考力

梅花中学校=未来をつくる場所

梅花中学校では、様々な教育を通して、「生涯学び、挑戦・成長する姿勢」を身につけた「こころ美しく聡明な人」を育成しています。
その資質は、自分の人生を切り拓き、世界で活躍するために必要な力となります。

梅花に息づく 伝統と創立者の精神

一人にしてもらいたいと思うことは
何でも、あなたがたも人にしなさい

朝の礼拝

一日の始まりは美しい歌声と心静かに祈る時間から。朝を礼拝から始めることで、心を整えて一日を迎えます。



一日一善の実践

創立者澤山保羅先生の想いを実践。朝の朝礼時に自ら考えた一善を心に留めて一日を過ごすことで、思いやりの心を育みます。



梅花ならではの 国際教育

Morning English

週に1度、英語を集中して「聴く」時間を持ち、音楽や絵本の朗読を通じて英語に親しみます。

英語多読(コツコツReading)

梅花に4,000冊あるReading Collection(英語絵本)から自分が読んだ冊数と単語数を図書館が個別に登録。3年間でどれだけ英語にふれたのかが確認でき、「読む」力の向上だけでなく、達成感も得られます。

校内開催の英語暗唱大会・スピーチ大会

校内はもちろん、外部スピーチコンテストへの出場も後押しします。

段階的な英語研修 ▶ P.07

ECC英検対策講座と教員による 英検2次試験対策

オーストラリア夏期語学研修 ▶ P.31

つながる学び、 深まる思考

“未来のために学ぶ土曜日”SFF (Saturday For Future)

正課授業とは別に、日々の授業の学習内容の定着を図るためのフォローアップ、また、特別講座(希望制)、検定受験など、明日も含めた未来のために役立つプログラムを土曜日に設定し実施します。

細やかな学習指導で基礎学力の定着
スタディサプリを利用し、個別最適な学習を行います。

習熟度別授業

「英語」と「数学」は習熟度別にクラス分けを行い、各自の習熟度に合わせて一人ひとりの得意を伸ばします。

※オーラル以外の授業

家庭-自分-学校をつなぐ学びのツールを活用

Google Classroom、Classi、スタディサプリを活用しています。

磨かれる、「自分」を 表現する力

A Grain of Seed ～一粒の種～

梅花の教員が考案したオリジナルの3年間の生活・学習記録ノート。目標や課題設定、振り返りを通し、自ら考え、学ぶ姿勢を身につけていきます。礼拝ノートとしても使用します。

多様な自己表現の機会

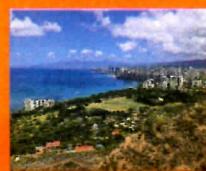
多彩な学校行事や日常の授業を通じて、写真、絵、プレゼンテーション、ディベート、身体表現(ダンスなど)、スピーチなど様々な手段で自分の感情や個性、思考を表現する力を磨きます。

学びを深め 感性を磨く機会

梅花ならではの多彩な学校行事

- ・マナー講座
- ・校外学習
- ・梅花祭
- ・コーラス大会
- ・芸術鑑賞*
- ・フレンドシップキャンプ(中1)
- ・International Camp(中2)
- ・School Trip in Hawaii(中3)

※宝塚歌劇団、劇団四季、劇団この花などの演劇鑑賞、豊中市文化事業「ホールでオーケストラ♪」鑑賞など



充実した 学びのための環境

ICT機器と校内Wi-Fi

iPadを「文房具」として活用し、目的に応じて多様なアプリを使用します。

シリコンバレーラボ ▶ P.30

PCやLEGO®等を使い、プログラミング教育を行います。

EOS(English Only Space)

在室するネイティブ教員とリスニング・スピーキングの力を鍛えます。

スタディサプリ・スタディサプリEnglish

年2回の到達度テストを実施し、基礎学力・言語運用能力の向上を図ります。



「英語の梅花」は楽しむ英語から

習熟度別のクラスで一人ひとりの得意を伸ばすと同時に、各学年で実践的に英語を学ぶ機会を設けています。
楽しみながら、自然に英語力を伸ばすカリキュラムです。

1
年生

たしかな英語の
基礎力を養成

Job Experience in Baika

十数名のイングリッシュスピーカーを校内に招き、グループごとに英語を使ったロールプレイングでの仕事体験にチャレンジします。



多彩な国内・海外研修

2
年生

英語を活用する
機会の増加

International Camp

イングリッシュスピーカーとともに和歌山マリーナシティで行う、オールイングリッシュの3日間研修。出発から学校帰着まで、イングリッシュスピーカーとフィールドワークやゲームをして過ごします。現地ではコース料理をいただきながらテーブルマナーも学びます。



3
年生

英語での実践的な
コミュニケーション
能力を養成

School Trip in Hawaii

3年間で身につけた英語力をハワイで実践！美しい大自然、文化、歴史にふれ、現地で女学校の生徒と交流を深めるなど、様々なプログラムに参加します。



英語暗唱大会

1年生は暗唱大会、2・3年生はスピーチコンテストを実施。各学年ごとに予選を行い、その代表が優勝を競います。暗唱力だけでなく、英語での表現力を磨くことができます。

英語スピーチコンテスト

ネイティブ教員と
日本人の教員による
Oral Englishの授業

ネイティブ教員のための
Oral Englishの授業

1年生はネイティブ教員&日本人教員、2・3年生はネイティブ教員のみで授業を行います。授業以外でも、EOS(English Only Space)でネイティブ教員とオールイングリッシュで過ごすことが可能です。

習熟度別の自分に合った環境で英語を学習

Topics グローバル人材育成プロジェクト

梅花中学校3年生を対象とする、梅花学園同窓会の海外留学支援制度。一定条件を満たせば高校1年生でグローバルコース留学プログラムに参加することができます。▶ P.15



「未来」を見つける
進学チャレンジコース



POINT
1

独自のカリキュラムと
きめ細やかな学習指導

基礎・基本の定着を図り、応用・発展的な学習ができるカリキュラムです。特に英語は時間数も多く(週7時間)丁寧な指導を行います。

POINT
2

プログラミング特別授業

テスト後のチャレンジデイズ(特別プログラム期間)を使ってプログラミング授業を行います。筋道を立てて考える力、物事を深く考える力、最後までやり抜く力を育てます。

Pick Up

進学チャレンジコース特別授業

公立中学校よりも多い週6時間の英語の授業に加え、進学チャレンジコース特別英語授業を行います。

CURRICULUM

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年	国語 4			社会 3			数学 4			理科 3			音楽 1.5	美術 1.5	保健体育 3			技術家庭 2	英語 6						聖書 1	総合 2	HR 1						
2年	国語 4			社会 3			数学 4			理科 4			音楽 1	美術 1	保健体育 3			技術家庭 2	英語 6						特別授業	聖書 1	総合 2	HR 1					
3年	国語 4			社会 4			数学 4			理科 4			音楽 1	美術 1	保健体育 3			技術家庭 1	英語 6						聖書 1	総合 2	HR 1						

●カリキュラムの内容については変更する場合があります。

(33単位/1週間)

「魅せる」を学ぶ
舞台芸術エレガンスコース



Pick Up

舞台芸術エレガンスコース特別授業

ダンスやバレエのレッスン、年に1度の芸術発表会に向けての練習を行います。超一流の舞台講師陣から直接指導を受けることができる貴重な時間です。「特別授業」の1時間に加え、保健体育のうち1時間についても、ダンスなどの授業が受けられます。

POINT
1

感性と表現力を育む充実の環境

経験豊富な講師陣が基礎から丁寧に指導します。授業を通して、想像力、観察力、表現力を高め、舞台人に必要な豊かな人間性を育みます。

POINT
2

一流の舞台で経験を積む

梅田芸術劇場シアター・ドラマシティなど、一流の場で芸術発表会を実施。高校の舞台芸術コースの生徒とも関わりを持ちながら本物の舞台経験を積みます。他にも、3年生が出演する卒業公演では、振り付け、衣装、照明なども自分たちで考え舞台に立ちます。



梅花高等学校

— BAIKA High School —

New! 2025年4月、 未来につながる学びの5コースが誕生!

1 特別進学コース >> P.11

Vision

- 国公立・難関私立大学をめざしたい
- 理系の学部・学科をめざしたい

特別な授業プログラムのもとで、国公立・難関私立大学の入試を突破できる実力を身につけます。受験に必要な科目を個々に選択することで、効率的に受験対策ができます。



Saturday Self Investment

土曜日は自分の未来に投資する時間!

正規のカリキュラムに加え、土曜日は学びをさらに発展させ深めるための時間として有効活用します。特色ある内容が設定されています。

2 看護医療コース >> P.13

Vision

- 医療現場で活躍したい
- 人に寄り添える人になりたい

医療現場に求められるコミュニケーションスキル、基礎知識に加え、人の命に関わるために大切な精神と姿勢を身につけます。



キャリアデザインコース

未来の自分をデザインする
4つのフィールド

進学探求

一日大学生体験や、産学連携コラボへの参加、色々な資格や検定試験などにチャレンジできます。

>> P.21



アート・イラスト

イラスト、絵画、陶芸など様々なモノづくりに挑戦!芸術分野の基礎知識や色彩感覚を学べます。

>> P.23



3 グローバルコース >> P.15

Vision

- 留学を通じて多文化にふれたい
- 英語力を高めて国際的に活躍したい

在学中にコース生全員が学期留学に行き、グローバルな視野と実践的な英語力を身につけます。留学前と留学後の総合的な成長を実感できます。



調理・製菓

調理・製菓実習が充実!食の安全の大切さ、現場で求められるチームワークを学べます。

>> P.25



4 舞台芸術コース >> P.17

Vision

- 歌いたい、踊りたい、演じたい
- 身体表現の可能性を追求したい

一流の講師陣、一流の舞台経験から豊かな感性を育みます。クラスメイトと切磋琢磨して学ぶことで、協調性と主体性を身につけます。



こども教育

キャンパス内にある梅花幼稚園の園児と日常的にふれあいながら、こどもと向き合う姿勢を体得します。

>> P.27



5 キャリアデザインコース >> P.19

Vision

- 自分の未来を高校で見つけたい
- 自分の可能性を様々なことに試してみたい

4つのフィールドの学びを自分なりにカスタマイズでき、自分好みのスタディライフが楽しめます。夢や得意分野が異なるクラスメイトと一緒に、活動的な授業を楽しむことで、未来の自分が見つかります。



高等学校

舞台芸術コース

自分を魅せる喜び

— Performing Arts Course —



Saturday Self Investment
土曜日は自分の未来に投資する時間!

土曜日はスキルアップの日

土曜日は、学業と学外活動の両立を図るためのスキルアップの日としています。学内の活動としては、芸術発表会や卒業公演に向けて、「合同練習」を行います。練習では、学年を超えたつながりを持ち、互いに刺激を受け合いながら作品の完成をめざします。この練習を通じて心・技・体のスキルを高めます。また、学内の活動がない日には、習い事など、学外での活動を存分に行うことができ、さらなるスキルアップをめざすことができます。



【コースのPOINT】

一流の指導と舞台で学び磨かれる
魅せる力と主体性

一流の指導と舞台

充実の講師陣による本格指導



結乃 かなり 講師
宝塚歌劇団宙組出身。娘役として活躍し、2018年『天は赤い河のほとり/シトラスの風-Sunrise-』にて退団。



大和 真意 講師
大阪音楽大学短期大学部 声楽科 首席卒業。「美女と野獣」タンス夫人役他、年間200ステージ以上の舞台に立ち劇団四季に12年間在籍。



森 桜子 講師
大阪音楽大学声楽専攻卒業。おかあさんといっしょ等、NHKイベントで歌のお姉さんとして各地の舞台に出演中。



池田 舞風 講師
HIPHOP界のワールドカップであるWDC2019優勝など、ストリートダンスで活躍。

自分を磨く学び

「魅せる」を学ぶ

ダンス、歌、演技を発表する様々な体験を通してセルフプロデュース力を高めます。



- 1 人前に立つことに慣れる、自分の魅せ方を見つける、自己アピール力が身につく
- 2 1つのジャンルに限らず多ジャンルを融合したパフォーマーとしての魅せ方も学べる
- 3 舞台の技術だけでなく、人としての礼儀、立ち居振る舞いが身につく

舞台制作で育まれる主体性

卒業公演では音楽編集、プログラム、構成案、照明案、振り付け、台本、すべてを生徒が担当。舞台を作り上げていく上で、舞台芸術の現場のプロの方々との打ち合わせなどを通じて社会とのつながりを経験できます。また、先輩後輩での関わりが多くリーダーシップも自然と身につきます。



プロが立つ舞台を経験

劇団四季、宝塚歌劇、海外修学旅行でのオペラ観劇など、国内外での芸術鑑賞特別プログラムを通して本物にふれ、普段と異なる目線で舞台を体験。成果発表の場として、梅田芸術劇場シアター・ドラマシティで行われる「芸術発表会 Dream Fest」、グランフロント大阪での「うめコレ(梅花エレガンスコレクション)」をはじめとする舞台出演の機会が多数用意されています。



CLOSE UP

多彩な進路

本コースの生徒の進路は多種多様です。舞台芸術での学びを生かしてプロの道をめざし、大阪芸術大学、大阪音楽大学、あるいは劇団四季や宝塚音楽学校、テーマパークダンサーをはじめとする舞台分野へ進む生徒がいます。また、本校で育んだ表現力を生かし、指定校制推薦や総合型選抜、一般選抜で関関同立、産近甲龍など様々な大学へ進学する生徒もいます。さらに、梅花女子大学へ内部進学する生徒は、様々な学科に在籍しながら「梅花歌劇団」に所属し、プロの演出家や振付家から本格的な舞台人としての指導を受けることが可能です。

11年連続 宝塚音楽学校に合格

(2024年度 3名合格)

梅花出身の宝塚音楽学校生は日本最多の126名!
2024年度も3名が合格し、11年連続の快挙となりました。

2024年度 宝塚音楽学校合格者

合格者40名/受験者数480名(競争率12.0倍)

1次合格者……15名
2次合格者……6名
3次合格者……3名

CURRICULUM

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
1年	現代の国語 2	言語文化 2	歴史総合 2	地理総合 2	数学Ⅰ 3	数学A 2	科学と人間生活 2	生物基礎 2	英語コミュニケーションⅠ 4	舞台特講 2	体育 2	保健 1	芸術Ⅰ(音楽) 2	家庭基礎 2	聖書 1	総合 1	HR 1																
2年	論理国語 2	古典探究 3	公共 2	英語コミュニケーションⅡ 3	英語演習Ⅰ 3	体育 2	保健 1	芸術Ⅱ(音楽) 2	舞台特講 7				情報Ⅰ 2	聖書 1	総合 1	HR 1																	
3年	論理国語 2	文学国語 4	政治経済 2	英語コミュニケーションⅢ 4	英語演習Ⅱ 3	体育 3	舞台特講 7						家庭基礎 2	聖書 1	総合 1	HR 1																	

●カリキュラムの内容については変更する場合があります。

-設置の趣旨(資料)-81-

(1年:33単位、2・3年:30単位/1週間)

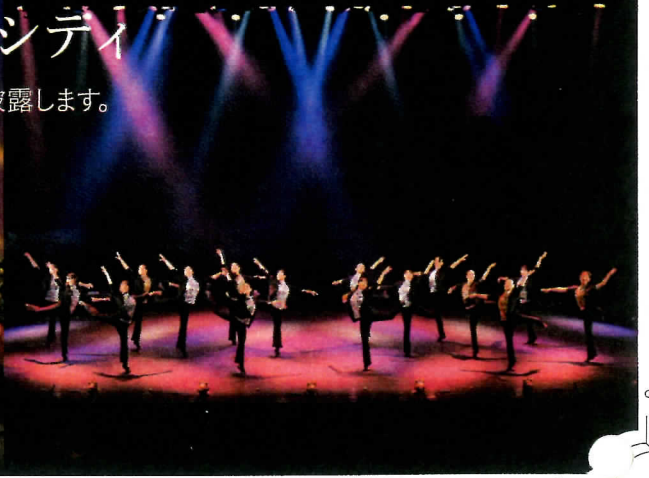
2024 11.12 (火)

芸術発表会2024 ~夢の祭典~

DREAMFEST.

梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ

ダンス・ミュージカル・チアリーディングなどの本格パフォーマンスを披露します。
一人ひとりの情熱あふれる夢のステージをぜひご覧ください。



- ・阪急電鉄宝塚線『豊中』駅から徒歩13分
- ・大阪モノレール『少路』駅からスクールバスで10分
- ・阪急バス『千里中央』から23分『梅花学園前』下車すぐ
『桃山台駅』から18分『梅花学園前』下車すぐ

梅花中学校・梅花高等学校

〒560-0011 大阪府豊中市上野西1丁目5番30号

TEL:06-6852-0001(代表) 06-6852-0002(入試広報部直通) <https://www.baika-jh.ed.jp>

-設置の趣旨(資料)-82-



「劇団この花」

Press

＜文舞両立＞
学問と舞台芸術の融合

「劇団この花」は梅花女子大学の学問と融合した歌劇団です。各学科で学びながら高い教養と資格を取得。豊かな自己表現力を身につけ、生涯輝き続ける女性をめざします。



今年で4年目を迎える梅花歌劇団「劇団この花」。8月24日（土）、25日（日）、26日（月）の3日間でオリジナルミュージカル第2弾となる「マザー・テレサ～愛はほほえむことで始まる～」を上演。第2部では世界をダンスでめぐるSHOW CASE「ワールドステップ」を披露。

第1部

エレガンス・レディ・ミュージカル Vol.2
「マザー・テレサ
～愛はほほえむことで始まる～」

芸術監督・演出・振付・作詞：謝 珠栄
原作：齋藤 栄作
作曲：小澤 時史

Story

インド・カルカッタに渡り、貧しい人々のために一生をささげたカトリック教会の修道女・マザー・テレサ。愛に溢れた一人の女性の生涯を、歌声とダンスで柔らかに美しく描き出す。

感動の声も 続々と！

- ・劇団員のみなさんのひたむきな姿に胸が熱くなり泣きそうになってしまいました。
- ・初めて観覧しましたが、クオリティの高さ、パワフルさにも驚かされるばかりでした。
- ・学生とは思えないほどの完成度とレベルの高さを感じ、終始、世界観に惹き込まれていました。



第2部 SHOW CASE 「ワールドステップ」

世界各国のテイストを取り入れたダンスを披露。演者が舞台を降りて観客の目の前で踊るなど、会場全体が活気にあふれる舞台となった。

エレガンス・レディ・ミュージカルとは

世界中で、有名・無名であること、表舞台・裏側でのサポートにかかわらず、素晴らしい生き方をしている女性たちの物語を、芸術監督 謝 珠栄プロデュースのもと「劇団この花」オリジナルミュージカルとしてシリーズで発表。

- [日本] 乱:今中 友子(振付)
- [中国] Lovers:蔡 曉強(振付)
- [イギリス] n138:かんた 正樹(振付)
- [ラテン] EL ANILLO:謝 珠栄(振付)
- [アフリカ] Glad You Came:圓月 久美子(振付)
- [スペイン] Asian Roses:川田 幸子(振付)
- [ゴスペル] Everything I Desire:謝 珠栄(振付)、古屋 博美(歌唱指導)



芸術監督 謝 珠栄先生が語る「劇団この花」

制約のなかでも、 最高のパフォーマンスを

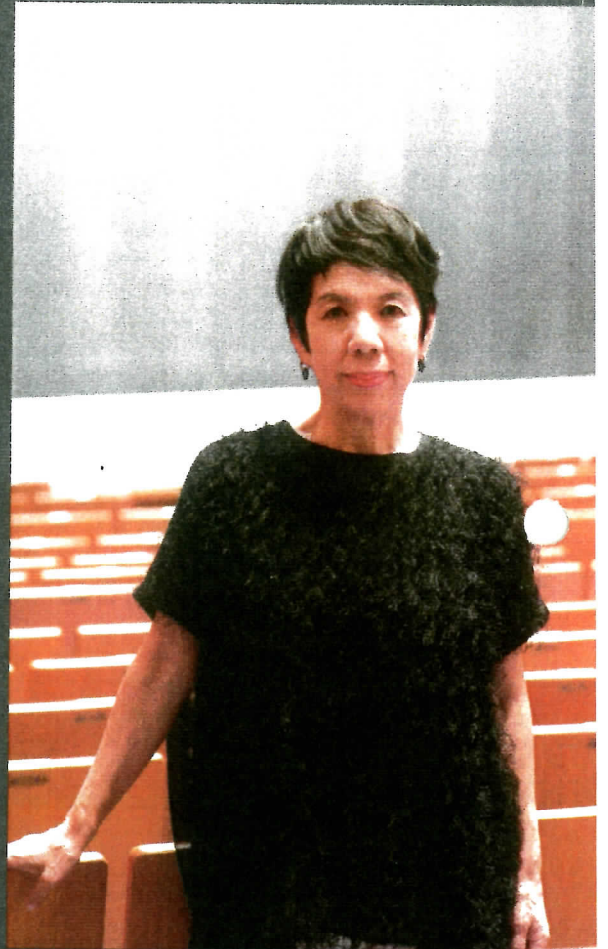
エレガンス・レディ・ミュージカルは、梅花女子大学のスクールモットーである「チャレンジ&エレガンス」にあう女性を世界中からピックアップし、その生涯を描くもの。前作では作曲家コール・ポーターの妻を、今回はマザー・テレサを取り上げ、その生きざまを歌とダンスで表現しました。舞台を作るうえで苦勞するのは、制作の予算や設備、演者たちの練習時間が限られているなかで、お客様



勢。どこのグループに所属しても恥ずかしくないような、人間的に成熟した人になってほしいと思いますね。「劇団この花」に在籍していました」と胸を張って言えるような存在に、劇団全体を成長させていきたいです。学生たちに重ねて言っているのは、「人についていくだけではだめ」ということ。自分自身が「自立している」という意識をしっかりと持ったうえで、正しい方向を見据えなさいと教えています。

これからの舞台芸術と 「劇団この花」

関西には舞台芸術を構成する人々が働く場が確保できていないという現状があります。舞台で成功を夢見る人々、才能を持つ人々が東京だけをめざすのではなく、関西圏で活動できる場を作るようなきっかけを、梅花女子大学の「劇団この花」が作れたら良いと考えています。文化を育てることは、心を育てること。そのような一端を担えたらと思っています。劇団としては、公演を見に来てくださるお客様がもっと増え、自分たちの自主公演が成り立つような、独立した存在をめざしています。



Tamae Sha Profile

演出・振付・作詞 謝 珠栄

梅花歌劇団「劇団この花」芸術監督
梅花女子大学 客員教授

大阪府出身。幼少期よりクラシックバレエや日舞、琴を習い、山田卓氏にジャズダンスを師事。1971年に57期生として宝塚歌劇団に主席で入団し、1975年の退団後はアメリカ・NYのFIT (Fashion Institute of Technology ファッション工科大) にてファッションの勉強に励む。帰国後は振付家として複数の劇団の公演に参加。個性的かつ“演劇的な踊り”で人々を魅了している。劇団四季や宝塚歌劇団、映画やテレビの演出など多方面で活躍。1985年にTSMミュージカルファンデーションを設立。



に最高のパフォーマンスをお届けすること。また、ピックアップした素晴らしい女性の生涯を、短い時間で表現しつくさなければならぬことも、難しさを感じるポイントです。そのために90分は必要だと思うのですが、お客様のことを考えると、やはり70分くらいが上演に適切な時間。そのようなことも考えて、舞台全体の構成を組み立てています。さまざまな思いを抱えて作った演目を、演者である学生たちが良いパフォーマンスをし、それを見たお客様が感動してくださったときには大きな喜びを感じます。舞台での女性たちの生き方を通して、自分の生き方を顧みるような、感銘を受ける作品になっていければうれしいです。

人についていくだけではだめ。 人間的に成長する場に

今は「劇団この花」に所属する彼女らも、将来は全員が舞台人やエンターテイナーになるわけではありません。ですので、指導をする際には、舞台の技術とともに学生たちが社会で生きていくうえで必要になるような、基本的なマナーは必ず伝えようと思っています。例えば、遅刻をしないことや、「NO」と言い切らずにまずはチャレンジしてみる姿

「劇団この花」

Press

「学問と舞台芸術の融合」をモットーに活動する、梅花歌劇団「劇団この花」。2021年2月、エレガンス・レディ・ミュージカル Vol.3「THE CHINESE CONSCIENCE」が上演された。

エレガンス・レディ・ミュージカルって？

世界中で、有名・無名であることや、表舞台・裏側でのサポートにかかわらず、素晴らしい生き方をしている女性たちの物語を描く、芸術監督 謝 珠栄 プロデュースによる「劇団この花」のオリジナルミュージカルシリーズ。

第2部

THE CHINESE CONSCIENCE

Story

後に中国の命運を左右する“宋家の三姉妹”が少女だったころの物語。舞台は1909年アメリカの寄宿舍。中国からの留学生だった三姉妹が、同級生たちと舞台の稽古中。平等、理想、良心とは？ 圧巻の演技と歌声、パフォーマンスを通して描き出した。

芸術監督・演出・振付・作詞：謝 珠栄
脚本：大谷 美智浩
作曲：小澤 時史



第3部

DANCE&SONGS

「見上げてごらん夜の星を」などの歌謡曲から、「THIS IS ME」などの洋楽までを見事に歌い上げた。力強い歌声とダンスで観客を魅了し、会場全体が活気にあふれた。

- 演出・振付：謝 珠栄
- 歌唱指導：有田 優子 / 古屋 博美
- 編曲：若山 祐美

50



第1部 DANCE SHOW

ヒップホップやモダンジャズ、カンファーなど、さまざまなジャンルで迫力満点のダンスを披露。エネルギー溢れるパフォーマンスで、会場は熱気に包まれた。 ■振付:池田 舞風 / 陳 静 / 蔡 曉強 / 今中 友子



〜感動の声、続々〜

学生たちのパフォーマンスの完成度の高さに驚かされました。コロナで集団練習もままならない中、よくそこまで!という感じでした。

池田舞風さん(振付) 池田舞風さん(振付) 陳静さん(振付) 蔡晓强さん(振付) 今中友子さん(振付)

学生さんたちの頑張りがひしひしと伝わってきました! 舞台上立つ学生さんたちの目がキラキラと輝いていました。

年々スキルアップして、どんな物が出てくるかわくわくしました。特にお芝居は出演者すべてが自信を持って演じられているのに感動しました。

池田舞風さん(振付) 陳静さん(振付) 蔡晓强さん(振付) 今中友子さん(振付)

コロナで何かとつらい日常をひととき忘れることができ、新鮮な気持ちで帰路につくことができました。芸術って素晴らしい。

池田舞風さん(振付) 陳静さん(振付) 蔡晓强さん(振付) 今中友子さん(振付)

演出・振付・作詞 謝 珠栄

梅花歌劇団 劇団この花 芸術監督 梅花女子大学 客員教授



大阪府出身。幼少期よりクラシックバレエや日舞、琴を習い、山田卓氏にジャズダンスを師事。1971年に57期生として宝塚歌劇団に首席で入団し、1975年の退団後はアメリカ・NYのFIT(Fashion Institute of Technology)にてファッションの勉強に励む。帰国後は振付家として複数の劇団の公演に参加。個性的かつ“演劇的な踊り”で人々を魅了している。劇団四季や宝塚歌劇団、映画やテレビの演出・振付家としても活躍。1985年にTSミュージカルファンデーションを設立。

「劇団この花」2期生にインタビュー

「劇団この花」は私にとっての大きな存在

私は卒業研究のテーマを「エンターテインメントがもたらす力」として、研究を進めました。私の大学生活で、「劇団この花」はとても大きな存在だったので、卒業研究にも経験をいかしたいと思いました。研究の一環で、謝先生へのインタビューも行いまし

た。謝先生のような方にインタビューができる機会はなかなかないと思うので、とても貴重な経験になりました。劇団と学問の両立は、時には大変なこともありましたが、最終的には双方の学びが繋がってより深いものになったと感じています。

坂元 美貴さん 2020年度文化表現学部 情報メディア学科卒業(梅花高等学校出身)学生時代は、2019年8月に上演した『マザー・テレサ～愛はほほえむことで始まる～』で主演のマザー・テレサを演じた。現在は、株式会社 パソナスマイル(公演制作チームクリエイティブユニット)にて公演などにも出演。

大学初の

SHOW RESTAURANT に潜入!!

パフォーマンス最後は
全員出演の「This is me」

「劇団この花」による初めての取り組み、
ショーレストラン。
華やかな舞台やその裏側に潜入!

ダンスパフォーマンス×ディナーで素敵な夜を…

梅花の新たなチャレンジであるショーレストランが、劇団公演にあわせ8月末にプレオープン。「劇団この花」芸術監督・謝 珠栄先生による演出・振付・作詞の「Route66」、「I want to be happy」、「For once in my life」、「This is me」の4曲を披露。観客は食文化学部が考案した体に優しくおいしい料理とともにダンスパフォーマンスを楽しんだ。



ピンクの衣装がキュートな「For once in my life」



プロの音楽家が奏でるすばらしい音色



「Route66」帽子を使ったパフォーマンスも華麗



陽気な演技が印象的な「I want to be happy」



料理のサーブも「劇団この花」劇団員が担当

劇団員からひとこと

観客の皆さまを笑顔にしたい一心で練習に励んできました。お客様との距離が近く、緊張しましたが、**会場全体があたたかい雰囲気**で、自分たちも楽しめました。

ミュージカルと並行しての練習だったので少しハードでしたがコメディタッチの「I want to be happy」は**自分の殻を破る機会**にもなってすごく楽しかったです!

「Route66」
「This is me」出演
健康学部 4年
柳川 萌さん



「I want to be happy」
「This is me」出演
情報メディア学科 3年
坂元 美貴さん



来場者コメント

ダンスにサーブに、一生懸命な学生さんの姿に心を打たれました!
おもてなしの心を感じました。

華やかなショーはもちろん、**身体のことを考えられたメニュー**も素晴らしいかったです。

スクールモットーの「**チャレンジ&エレガンス**」をひしひしと感じる素晴らしいプログラムでした。

メニューは、
管理栄養学科と
食文化学科の
学生が考案!

MENU



ヘルシーで体にやさしいメニュー

食文化学科 神田 正幸教授
管理栄養学科 西村 智子教授 監修

食文化学科3年生・
管理栄養学科2年生の学生たち

枝豆の冷製スープ

サラダ

鴨胸肉のポワレ
ラタトゥイユ添えマデラソース

紅茶のパウンドケーキと
夏のフルーツ添え

コーヒー



私たちが作りました!

日本製粉株式会社×「劇団この花」

アマニ油製品TVCMに バックダンサーとして出演中!

パスタや小麦粉製品などで知られる「日本製粉株式会社」。
商品やCM撮影のウラガワに密着!

PR商品
はコレ!



WHAT IS アマニ油?

ゴマよりも一回りほど大きな「亜麻」という植物の種子。植物繊維やリグナン、α-リノレン酸などを豊富に含んだ、健康に良い今大注目の食品。

CMでは「ラデツキー行進曲」をアレンジした「アマニ行進曲」にのせて、キャッチーでキュートな「アマニきらめきダンス」を披露。監修は「劇団この花」の芸術監督を務める謝 珠栄先生。

日本製粉 アマニの世界へようこそ
<https://up.nippon-info.com/amarani-sekai/>



歌を担当するのは、俳優の別所哲也さん。「劇団この花」とのダンスも息ピッタリ



SNSで誰でも参加できる「歌って踊ろう!ご当地自慢」にも出演

撮影の
ウラガワに
密着!



撮影は大阪市中央公会堂で

撮影セットは、CGや合成を一切使わず「本物」にこだわって制作!

金色の衣装が目を引きます



アマニをイメージした衣装もかわいい

日本製粉株式会社 担当者よりコメント

「本物」を追求したCMに。

「ニッポンのアマニ」ブランドのCMを制作するうえでめざしたのは「本格感」。ニッポンはアマニのリーディングカンパニーとして間違いのない商品を販売してきたことから、それを表現するイメージをCMに求めました。曲、歌、踊り、すべてにこだわり、その中で「踊り」は本格的なダンスに取り組む梅花の学生の皆さんにお願いしました。軽快な音楽に本格的でチャーミングなダンスがびびったり。皆さまに親しまれるCMに仕上がりました。ただいまアマニ製品セットが当たるキャンペーンを実施中。ぜひ、皆さまもCMを見て、アマニを食べて、きらめく毎日をお過ごしください。

新CM
発表会に
潜入!



新CM発表会は東京都内で開催。報道関係82社、計130名が新CMを見守った

日本製粉株式会社
経営企画部 次長 兼
企画開発チームマネージャー
アマニプロジェクトリーダー
ヘルスケア事業部 主席
有川 由紀子さん



梅花女子大学の

舞台芸術の学び

新入試制度スタート

社会のニーズに
対応する4つの専攻



梅花女子大学

情報メディア学科

梅花歌劇団

劇団この花



150th
Toward the 150th
Anniversary in 2028

チャレンジ&エレガンス
梅花女子大学

2028年に創立150周年を迎える梅花の学び

150th

Toward the 150th
Anniversary in 2028

梅花女子大学 6つの特長

POINT

1

時代とともにしなやかに変化
梅花女子大学の歴史と伝統

1878(明治11)年に創立した梅花女学校。その頃から、チャレンジ精神あふれるエレガントで自立した女性の育成を続けている。

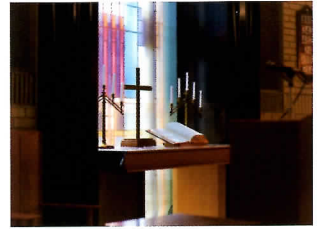


POINT

2

愛と品性をはぐくむ
キリスト教主義教育

キリスト教精神に基づき、さまざまな価値観を認めて他人を受け入れ、自分の生きる道を見出し歩む力を身につける人を育てる。



POINT

3

掛け合わせの学びで
ワンランク上のキャリアをめざす

主専攻、副専攻、教養科目の掛け合わせでさまざまな資格の取得が可能。多彩な視点で物事を判断できる応用力を身につける。



POINT

4

実社会で役立つ課題解決能力
産学連携プロジェクト

各学科での学びで培った発想と感性で、多彩な企業とコラボ。次世代の課題に対してさまざまなアプローチで解決し、新たな商品やサービスを生み出している。



330件
(2024年3月現在)



POINT

5

一人ひとりの個性をいかす
日本トップクラスの少人数教育

check!

教員1名に対する学生数

平均15.4名

関西の女子大学の平均:19.6名
関西での4年制大学の平均:31.4名

「University Fact 2023」一般社団法人日本私立大学連盟
※関西の収容定員2,000名以上の4年制大学平均

POINT

6

豊かな感性を養う
花と緑と水辺のキャンパス

四季折々の花が咲き誇り、澄んだ空気に水辺のせせらぎ。心安らく美しいキャンパスは感性を養う学びの場として学生たちを迎え入れる。



梅花女子大学の舞台芸術の学びに注目!!

Special Conversation *Message*

「パフォーマンスは社会に出てどんな職業を選んでもいかせる」



しや たまえ
謝 珠栄 教授

梅花女子大学教授、梅花歌劇団芸術監督。1971年に宝塚歌劇団へ首席入団。現在は演出家、振付家として活躍。宝塚歌劇団や劇団四季のミュージカルや映画も多数手掛ける。

かやま よしひこ
香山 善彦 教授

情報メディア学科教授。複雑系と人工生命が専門。2019年フラクタル化の概念を導入し「フラクタル セル・オートマトン」を定式化。新たな暗号化手法で特許を取得した。

謝先生 インターネットが普及して誰もが簡単に発信できるようになり、表現者を名乗る人が増えています。その中には自分が見せるだけで満足する人が多いように感じるんです。私がパフォーマンスを教えるときに大事にしているのは、見る人に何を訴えたいかをしっかり考えること。見る側に何かを感じ取ってもらうのが大切なんですよね。

香山先生 情報や自分の考えを他者に効果的に伝える力、発信力は、情報メディア学科でも重要視しているポイントです。きちんと考えを持っていてもうまく表現できない人が多いです。プレゼンテーションするときも、いかにわかりやすく相手に伝えるかを考え、相手の立場で相手を思いやりながら発信するよう教えています。

謝先生 パフォーマンスを学ぶことで、自分の意見を伝える能力を高められるかもしれません。自分をアピールしたり表現したりするパフォーマンスの力は、社会に出てどんな職業を選んでもいかせると考えています。

マスコミ・パフォーマンス専攻

【将来像】 企業の広告・広報担当 映像表現者など
各種メディアのCM・PV制作、広告デザイン、舞台・映像パフォーマンスのための実践的な技術と表現方法を学びます。パソコン技術を活用しながら、創造力を培う授業を展開し、プロデュース力を備えた人材をはぐくみます。

AI・デジタルデザイン専攻

【将来像】 システムエンジニア Webデザイナーなど
AI社会の基礎技術、パソコンスキルとプログラミングを活用したデジタルデザインを学び、各種アプリケーションを制作する実践的な知識と技術を習得します。

社会のニーズに
対応する
4つの専攻

ファッションビジネス専攻

【将来像】ファッションアドバイザー 商品企画担当者など
女性ならではの細やかな視点で社会とファッションの変化をとらえ、ファッションの力で社会を元気にするビジネスウーマンを育成します。

医療事務・図書館司書専攻

【将来像】医療秘書 ソーシャルワーカーなど
医療業界を支える人材を育てます。また、情報検索、情報整理のスキルを身につけ、図書館司書の資格を取得して、情報化社会で即戦力となる人材を育成します。

例えば

こんな授業があります

ライブ・パフォーマンス概論

情報社会で想像力が低下しているなか、表現者として声や身体をめざめさせ、想像する力を向上させる。学外実習では、謝先生の作品を実際に観劇し、感性や想像力を養う。

ボディ・パフォーマンス基礎演習

呼吸を大切にしたいボディーコンディショニングの実技演習及び基本的な考え方の学習、解剖学の知識の学習。ストレッチによって身体をほぐし、コアステビリティを中心に鍛える。

ヴォイス・パフォーマンス基礎演習

声は舞台や映像だけでなく、プレゼンテーションや電話対応などあらゆる場面で人間がパフォーマンスする際に必須。「人の心に伝える言語表現」のために必要な声を作り上げる。

ボディ・パフォーマンス応用演習Ⅰ・Ⅱ

自分の体と向き合うため、身体表現の基礎トレーニングを行う。マイムを利用した自己表現・感情表現の楽しさと難しさを日常的な側面から学び、作品創作等も行う。

ヴォイス・パフォーマンス応用演習Ⅰ・Ⅱ

舞台俳優としての基礎的な訓練やナレーション、様々なキャラクターのセリフなど表情豊かな魅力ある声の表現をめざす。

「ライブ・パフォーマンス概論」に潜入

学生の間でも人気の「ライブ・パフォーマンス概論」

ダンスや発声だけではなく文章やパントマイムを使っでの表現などさまざまな角度から表現力を学ぶ

1 ウォーミングアップ

まずはウォーミングアップ。準備体操や発声練習、グループでの手拍子など、そのあとに続くさまざまな表現をするために入念に体をほぐしていく。



2 メタモルフォーゼ

3人一組になり、パントマイムで最初の動きから連想する動きをつなげていく。歯磨きの動きから絵を描く動きにつながるなど、グループで話し合い表現を考えた。



3 文章作成

先生が提示する擬態語を使って文章を作る。「スルスル」という題では「体重がスルスル落ちる」や「汚れがスルスル取れる」など、さまざまな文章を発表した。



4 即興劇

先生が最初の一言を決め、そこから2往復やりとりをするという即興劇。「どうして?」や「まさか」「おねがい」など、一言から物語を紡いでいく。相手の言葉の意味を理解することが表現をより具体的にすると先生からのアドバイスも。



5 音に合わせて表現

次々と変わっていく音に合わせて歩いたり、観客がいる想定で踊ったり、普通のダンスとは少し違うアプローチで表現。頭も身体も自分を解放し、自分の身体を探って表現を発見して!と先生からの指導もあった。



さらに表現力を“追求”するゼミも

3年生 謝 珠栄先生ゼミ
「情報メディア演習Ⅰ」

想像し、自ら考える力をはぐくむ

物語を読むお稽古では、主人公はどんな状況にいるのか、どういった気持ちでいるのかを瞬時に考え、声の強弱のほか身振り手振りを交えながら音読するなど、全身を使ってパフォーマンス力を磨き上げる。

受講生の声

実際に授業を受講している学生たちのリアルボイス

日常生活に表現力のヒントがあります

今までの経験や想像から作り出していく表現方法が様々で、日常生活から色々なものを観察してキャッチすることで表現の幅が広がると思いました。劇団この花では、公演やイベントなどで人に見てもらえる機会が多いので見られている意識が身につきました。

情報メディア学科3年
津田 千尋さん(梅花高等学校出身)
・ライブ・パフォーマンス概論受講
・ライブ・パフォーマンス応用演習受講
・劇団この花所属



色々なことに興味を持つのが表現の幅を広げる近道

日常生活にアンテナを張り、色々なことに興味を持つことが表現の幅を広げることにつながるのだと学びました。みんなで相談したり団結したりすることで、自分の未熟な部分と向き合い、成長することができました。

情報メディア学科3年
松川 優生子さん(梅花高等学校出身)
・ライブ・パフォーマンス概論受講
・ライブ・パフォーマンス応用演習受講
・劇団この花所属



これまで気にもしていなかったことに興味を持つように

人に「伝える」ということは、想像以上にエネルギーを使うということを知りました。劇団この花にも所属していますが、授業や舞台の経験を通して舞台人としての基礎だけでなく、人間性も成長したと感じています。

情報メディア学科1年
澤頭 小雪さん(梅花高等学校出身)
・ライブ・パフォーマンス概論受講
・劇団この花所属



表現することはエネルギーが必要 それだけ自分も成長します

マイムの授業の際にその人がどんな仕事をしているか思いつかないことがあり、先生から自分の周りに興味を持つように言われました。今まで気にしたことのないようなことから発見し、実際に表現することで表現の幅が広がりました。

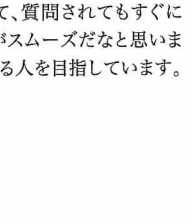
情報メディア学科2年
吉原 なごみさん(梅花高等学校出身)
・ライブ・パフォーマンス概論受講
・劇団この花所属



自分の意見を持ち、きちんと伝えることの大切さ

一緒に受けている子はきちんと自分の意思があって、質問されてもすぐに自分の意見を伝えられるので、コミュニケーションがスムーズだなと思いました。私も自分の意思をきちんと持って、主張ができる人を目指しています。

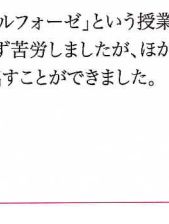
情報メディア学科3年
坂田 薫南さん(華頂女子高等学校出身)
・ライブ・パフォーマンス応用演習受講



ほかの学生と話し合うことで 難しい課題もクリアできました

最初の動きから連想する動きをつなげていく「メタモルフォーゼ」という授業が印象に残っています。はじめはなかなか思いつかず苦労しましたが、ほかの学生と一緒に話し合ったことでたくさんの考えを出すことができました。

情報メディア学科1年
神樂所 真琴さん(英真学園高等学校出身)
・ライブ・パフォーマンス概論受講



謝 珠栄 先生

「アナウンサーやファッションモデル、YouTuberなど幅広い表現に興味がある人に向けた授業です」

—ライブ・パフォーマンス概論は、 どのようなことを学ぶ授業ですか？

この授業のテーマは「表現」。「ライブ・パフォーマンス概論」という名前ですが、パフォーマンスに限らず、アナウンサーやコピーライター、フォトグラファー、ファッションモデル、YouTuberなど幅広い表現に興味がある人に向けた授業です。そういう授業って、他の大学を見ても意外と少ないんじゃないかな。「これは面白いな」って思えるようなクラスを作りたいです。

—表現全般について学べるのですね！ 授業では、具体的にどんなことをするのでしょうか？

表現するということは、自分自身が商品になるということ。その第一歩となるのは、言葉話すことです。自分の声を使いこなして、しっかり喋ることができる人って実はなかなか少ないんですよね。なので、まずは声の出し方を学びます。それから、立ち居振る舞い、パントマイムなどを通して、基本的な身体の使い方を覚えます。あとは、写真を見てキャッチコピーを考えるなど、想像力を働かせることにも挑戦してもらいます。

—まずは、表現において 大切なことは何ですか？

文章でも写真でも、何かを人に伝えるためには、「何を伝えたいのか」を明確にしないといけない。そのためには想像力が必要です。今の時代、スマホで調べれば何でも出てくるし、情報があふれていて想像力がなくても生きていけると思うんです。だから想像力がない人が多いんですよね。こどもの頃って、何もなかったところから想像するのが楽しかった記憶がありませんか？童心に返った豊かな想像力を持つことが大切だと思います。

—高校生にメッセージをお願いします。

「興味を持つ」ということが、想像力や感性を豊かにすることにつながると思うんです。世の中のあらゆることに対して興味を持つこと。季節の移り変わりや空の色、道端の花とか日常に注意を払って、生きることにキラキラしてください。そうすることで生活も変わっていくし、自分自身を研ぎ澄ましていくことができると思います。



「劇団この花」でプロの舞台人をめざす

「劇団この花」のカリキュラム

梅花歌劇団「劇団この花」は、地域社会の文化や芸術の振興に寄与するとともに、現代演劇に貢献することを目的とします。舞台に関する総合的な学びの場として、舞台上で必要とされる基本的な技術や知識、豊かな自己表現力を身につけ、劇団員一人ひとりの可能性を広げながら舞台人としてのあこがれを現実の世界へと導きます。また、日々の活動を通じて清楚で礼儀正しく精神力豊かな人材を育成します。

ミュージカル総合I～VI
(前期・後期)
[劇団員専門1～4年次]

ミュージカル公演に必要な多様なジャンルの踊りに挑戦し、舞台上に欠かせない歌唱力や演技力向上、身体表現の基本を学びます。

- ダンス
- 歌唱
- 芝居・演技
- その他
- コンテンポラリー
- ミュージカル
- アクロバット
- 日本舞踊
- ヒップホップ
- ジャズなど
- マイム
- 殺陣
- ジャズ
- クラシックバレエ
- 太鼓

梅花歌劇団「劇団この花」

梅花歌劇団「劇団この花」は、年に1回の定期公演で本格的なミュージカルの公演を実施。そのほかにもさまざまな場面でパフォーマンスを披露し、表現の場は多岐にわたる。

エレガンス・レディ・ミュージカルシリーズ

2016年から始まった芸術監督 謝 珠栄プロデュースによるオリジナルミュージカル。世界中で、有名・無名であることや表舞台・裏側でのサポートにかかわらず、素晴らしい生き方をしている女性たちの物語を描く。

2024

アガサ・クリスティ



1Day・2Day Campus

&
うめコレ—梅花エレガンスコレクション—



梅花学園創立145周年 記念イベント



アマニ油TVCM



第1部

Agatha Christie

アガサ・クリスティ

物語を紡ぐことが、こんなに楽しいだなんて思いもよらなかった。

脚本・演出・振付・作詞：謝 珠栄 原作：斎藤 栄作 音楽：玉麻 尚一

第2部

DANCE & SONGS

演出：謝 珠栄

2024.2.23 金祝 24 土 25 日

① 開演16:00

① 開演11:00

① 開演12:30

② 開演14:30

出演：梅花歌劇団「劇団この花」

梅花女子大学澤山記念ホール

主催：学校法人 梅花学園 / 茨木市(文化振興課)



後援：梅花学園同窓会

「茨木市×梅花女子大学連携事業」

劇団 この花
Konohana
— 梅花歌劇団 —

145th
Anniversary

梅花学園創立145周年記念

エレガンス・レディ・ミュージカル

♪ 第1部 ♪

SON IN LOVE

総合演出：謝 珠栄

♪ 第2部 ♪ Dance & Songs

梅花女子大学
澤山記念ホール

出演

梅花歌劇団「劇団この花」

2023

2.17 fri

① 開演 16:00~
開場 15:30

2.18 sat

① 開演 12:30~
開場 12:00

② 開演 16:00~
開場 15:30

2.19 sun

① 開演 12:30~
開場 12:00

主催：学校法人 梅花学園

後援：茨木市



次なる
茨木へ。

梅花学園同窓会

Act I

エレガンス・レディ・ミュージカル Vol.4

COCO

— シャネル 翼をひろげた日 —

演出・振付・作詞: 謝 珠栄 脚本: 正塚 晴彦

Act II

DANCE & SONGS

演出: 謝 珠栄

2022年 2月 19日 SAT ① 12:30~ 開場12:00 ② 16:00~ 開場15:30
20日 SUN ① 12:30~ 開場12:00 ② 16:00~ 開場15:30
21日 MON ① 14:00~ 開場13:30

梅花女子大学 澤山記念ホール

プログラム
program

エレガンス・レディ・ミュージカル VOL.3

演出・振付・作詞：謝 珠栄

脚本：大谷 美智浩 作曲：小澤 時史

THE CHINESE CONSCIENCE

第Ⅰ部 DANCE SHOW

振付：池田 舞風 / 陳 静 / 蔡 曉強 / 今中 友子

第Ⅲ部 DANCE & SONGS

演出・振付：謝 珠栄

2021.2.20 SAT 21 SUN

開演時間：各日 ① 12:30 - ② 16:00 -

梅花女子大学 澤山記念ホール

主催：梅花女子大学

茨木市(文化振興課)

次なる
茨木へ。
茨木には、茨がある。

後援：梅花学園同窓会

第1部 <茨木市 × 梅花女子大学> 連携事業
エレガンス・レディ・ミュージカル Vol.2

マザー・テレサ

～ 愛はほほえむことで始まる ～

演出・振付・作詞：謝 珠栄
原作：斎藤 栄作
作曲：小澤 時史

劇団 この花

Konohana

梅花歌劇団



第2部

SHOWCASE
ワールドステップ

マザー・テレサ生誕日


2019年
8月

24日(土)
15:30

25日(日)
12:00 / 15:30

26日(月)
12:00(貸切) / 15:30

場所：梅花女子大学 澤山記念ホール

主催：  チャレンジ&エレガンス
梅花女子大学

茨木市(文化振興課)

 次なる
茨木へ。
茨木には、次がある。

後援：梅花学園同窓会

梅花歌劇団 劇団この花

Konohana

×

Shota Lee Big Band

〔第1部〕
私は、作曲家
コール・ポーターの妻
～リンダ・リー・トーマスの物語～

&

〔第2部〕
劇団この花
ショーケース



2018.8.24fri/25sat/26sun

開場 12:00 開演 12:30 ・ 開場 16:00 開演 16:30

開場 13:00 開演 13:30

場所 梅花女子大学 澤山記念ホール

主催・制作 学校法人梅花学園

後援 梅花学園同窓会・劇団この花後援会

-設置の趣旨(資料)-100-



梅花学園は2018年に
創立140年を迎えます

いま花ひらくエレガンスな梅花たち

梅花歌劇団

劇団この花 発表会



*First
Performance*



1部 アンサンブル / 2部 ミュージカル「タック」

2017 **1.14** sat. 2017 **1.15** sun.

[1回目] 開場 12:30 開演 13:00
[2回目] 開場 16:30 開演 17:00

[1回目] 開場 10:30 開演 11:00
[2回目] 開場 14:30 開演 15:00

梅花女子大学 茨木ガーデンキャンパス
澤山記念館 講堂

1-3. 人材需要 3) 昨今の劇場新設状況

2023年以降、中規模劇場・ホールが誕生している。
 多くが演劇や音楽、演芸など多目的で利用できる構造としており、幅広い層の利用者・来場者を見込んで計画されている。

主な新設劇場/ホール

劇場名	所在地	開場年月日	規模	用途
高槻城公園芸術文化劇場	高槻市	2023年3月18日	トリシマホール：1,505席 太陽フォルマティックホール：205席 サンユレックホール：168席 北館中ホール：602席	音楽コンサート・講演会・伝統芸能
岡山芸術創造劇場ハレノワ	岡山市	2023年9月1日	大劇場：1,753席 中劇場：807席 小劇場：300席	演劇・ミュージカル・音楽
扇町ミュージアムキューブ	大阪市北区	2023年10月2日	CUBE01：251席 CUBE02：107席 CUBE03：55	演劇・映画
IMM THEATAR	東京都文京区	2024年1月	705席	演劇・ミュージカル・漫オライブ
SkyシアターMBS	大阪市北区	2024年3月27日	約1,300席	演劇・ミュージカル・音楽・演芸
シアターH	東京都品川区	2024年6月予定	747席	演劇・ミュージカル・音楽

大阪 万博記念公園駅前に1.8万人収容の西日本最大級アリーナ

加藤綾 2021年5月19日 18:35

X | [ポスト](#) | [リスト](#) | [f](#) | [シェア](#) | [B!](#) | [はてブ](#) | [note](#) | [in](#) | [LinkedIn](#)



イメージパース(全体)

大阪府は、公募型プロポーザル方式により提案募集を行なった万博記念公園駅前周辺地区活性化事業について、契約交渉相手となる最優秀提案者を決定。最大18,000人収容のアリーナを中心に、商業・カジュアルホテル棟、ホテル棟、オフィス棟、共同住宅を整備する提案を採択した。

提案者は三菱商事都市開発、Anschutz Entertainment Group、関電不動産開発で構成される共同企業体。

アリーナ棟は、最大収容人数18,000人、固定観客席13,400席の「西日本最大級のスペック」という規模で、延床面積は69,550m²。開業目標を2027年秋頃とし、年間の想定来館者数約180万人を見込む。招聘交渉可能な国際スポーツ大会は、世界フィギュアスケート選手権、プロテニスWTAツアー、NBA公式戦など。

国際的なスポーツ大会やコンサート等が開催できる規模を持ち、広範な利用が可能な世界最先端の機能を有する優れたアリーナが提案されている点が選定理由の1つ。そのほか、ポストコロナ時代における新しいまちづくり、景観に対する配慮、スマートシティの実現に向けた取り組みや交通計画等も考慮された計画であることが評価された。

出典：Impress Watch

■ 夢洲まちづくり基本方針 ～国際観光拠点の形成に向けて～



<まえがき>

夢洲まちづくりは、2014年から経済界、大阪府、大阪市で構成する検討会により、民間事業者の提案も参考にしながら議論を行い、夢洲での国際観光拠点・国際物流拠点の形成について、パブリックコメントも経て、2017年8月に夢洲まちづくり構想を策定した。

同構想において想定されていた「IR」や「万博」に関し、IRについては、国において「IR推進法」が2016年、「IR整備法」が2018年に成立し、それを受けて府市として2019年2月に大阪IR基本構想（案）をまとめたところであり、万博については、2025年に夢洲での開催が決定したところである。

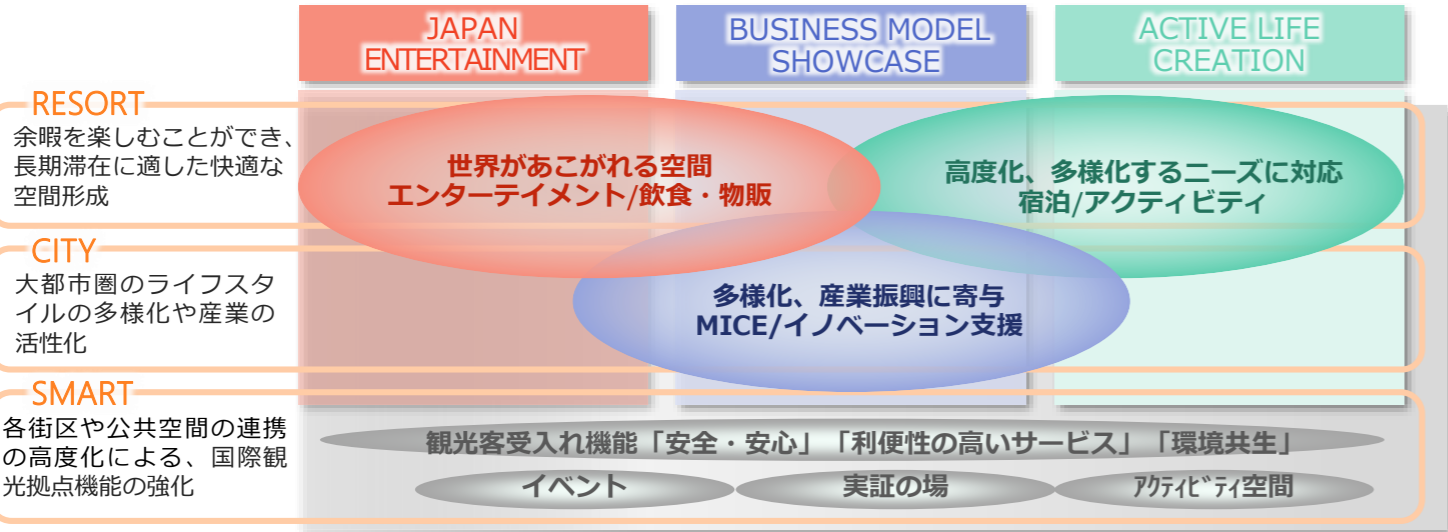
この基本方針は、同構想策定後の上記の状況を踏まえ、特に国際観光拠点の形成に向けて、今後、具体的にまちづくりを進めるため、経済界、府、市により方向性をとりまとめたものである。

SMART RESORT CITY

夢と創造に出会える未来都市

SMART RESORT CITYの方向性

- 夢洲では、「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取り組みによって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図る。
- 夢洲で万博が開催されることを踏まえ、その意義や理念を活かしたまちづくりをめざす。



■ RESORT : 世界に類を見ないリゾート空間の実現

- 夢洲に行くことでしか体験し得ない多様なエンターテインメント機能の集積、日常生活と切り離されたリゾート空間の形成 (エンターテインメント、日本文化、水・みどり、空間デザイン 等)
- 【JAPAN ENTERTAINMENT】
 - ・スポーツやイベント、ライブ等国际的な催しを開催するアリーナや我が国の文化を体験・観賞する施設の整備
 - ・海に囲まれた立地や広大な土地を活かした大規模屋外イベントや、24時間いつでも楽しめるナイトメニューの充実
 - ・舞洲等における機能・施設との連携を図ることによる臨海部全体の魅力向上
- 【ACTIVE LIFE CREATION】
 - ・リピートや長期滞在につながる高付加価値サービス・送客機能の提供
 - ・高度化・多様化するニーズに対応し、長期滞在に資する宿泊施設の整備

■ CITY : 大阪の都市的な魅力をもつライフスタイルやビジネスシーンを活性化させる機能の導入を中心とした関西の産業育成環境をMICE等により醸成

- 来訪者の視点から利便性を追求した国際競争力が高いMICE施設の整備及び産業育成環境の形成
- 【BUSINESS MODEL SHOWCASE】
 - ・国際的な規模のレセプション対応が可能な大ホール及び国際的な水準のサービス提供が可能な会議室により、多様な国際会議の誘致・円滑な開催が可能な会議場を整備
 - ・大規模な展示会、見本市、その他の催しが開催できる世界水準の展示場の整備及び会議場との一体的運用による高度かつ多様なビジネス機会の創出
 - ・万博の理念を具現化する、大阪が強みを有する産業や研究機関の成果などに来訪者が気軽に触れられるショーケース機能の導入や、広大な土地を活かした最先端技術の実践・実証

■ SMART : 国際観光拠点機能をもつ確かな技術と最先端技術による支援・実践

- 最先端のスマート技術やエリアマネジメントにより、まち全体を連携し、「安全・安心」「利便性の高いサービス」「環境共生」を実現する空間を形成
- 【JAPAN ENTERTAINMENT】
 - ・エリアマネジメントによる公共空間を利活用したイベントの開催などによる質の高いにぎわいづくり
- 【BUSINESS MODEL SHOWCASE】
 - ・観光客(人や交通)データの収集・分析等により、来訪者の利便性や満足度の向上につながるプロジェクト等の創出を推進する、スマートシティプラットフォームの整備・運営
 - ・構造化された情報をオープンデータ化することによる、新たな産業機会の創出支援
 - ・エネルギーマネジメントの実施等による、我が国最高水準の環境都市(二酸化炭素排出量の抑制)の実現
- 【ACTIVE LIFE CREATION】
 - ・スマートシティプラットフォームの活用などによる最先端技術を活用した安全・安心で快適に過ごせる空間の創出

新たな国際観光拠点として関西・大阪の活力をけん引

○ゾーニングの考え方(観光・産業ゾーン)

【第1期：統合型リゾート(IR)を中心としたまちづくり】

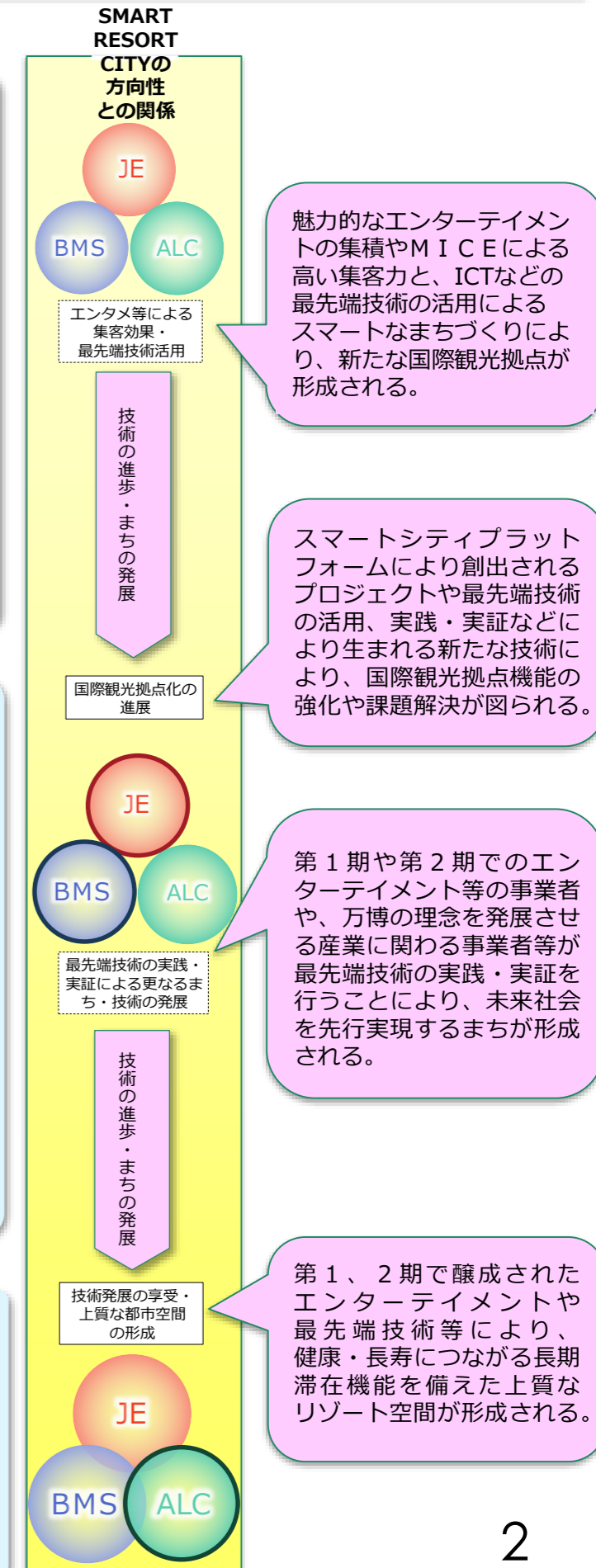
- ・夢洲の広大な土地や海に隣接した立地を活かした、夢洲でしか見ることができない、体験できない多様な国際的なエンターテインメントを集積させる。
- ・関西・日本が育ててきた和の文化・芸能等に国内外からの来訪者が触れることができる施設やコンテンツ・サービスを導入し、関西・日本に対する理解を深め、更なる興味喚起、各地の観光地への来訪につなげる。
- ・競争力の高い大規模展示場や会議場などを整備し、都市力向上や産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化する。
- ・このような、こどもから大人まで様々な人々が楽しめ、また訪れたいまちを、統合型リゾート(IR)を中心とし、民間の創意工夫を最大限活用して進める。

【第2期：万博の理念を継承したまちづくり】

- ・国際観光拠点にふさわしい大規模で、統一されたコンセプトに基づくエンターテインメント機能やレクリエーション機能の導入を図ることで国際観光拠点の強化及び更なる集客を図る。
- ・第1期の導入機能との連続性を確保するとともに、大阪が強みを有する産業(健康・医療産業など)や研究機関の研究成果などに来訪者が気軽に接することができるショーケースや最先端技術の実践・実証の取り組みや、様々な都市データの収集・構造化・オープン化・分析を行い、そのデータを活用した様々なプロジェクトを創出するスマートシティプラットフォームの構築など、万博理念を継承する取り組みを展開する。
- ・整備にあたっては、万博計画と跡地計画の整合を図り、相互に効率的な整備を行う。

【第3期：第1・2期の取り組みを活かした長期滞在型のまちづくり】

- ・海に隣接した立地特性を活かすとともに、第1・2期において導入された来訪者の利便性の向上に資する最先端技術等を取り入れた施設やサービスにより、生活の質(QOL)を高め、非日常空間を感じ、ゆとりある滞在時間を過ごせる上質なリゾート空間を創出する。



■ 夢洲まちづくりの方向性 ～国際観光拠点の形成に向けて～

○空間形成の考え方

【都心部にはない非日常感と圧倒的なみどりの空間】

- ・オーシャンフロントの立地・瀬戸内海方向を望む景観や、多様な用途・高質なデザインの建築物の建築、新たなインフラ整備などにより、夢洲にしかない景観・夢洲でしか体験できない空間を創出し、「非日常」を演出する都市空間を形成する。
- ・夢洲滞在のスタート地点となる駅前空間では、「非日常」を感じ、期待感や高揚感を覚えさせる、夢洲の玄関口にふさわしい空間を形成する。
- ・広大な土地を活かして、夢洲全体においてゆとりあるみどりを確保することにより、都心部にはない圧倒的なみどりの空間を創出する。
- ・歩行者空間の街路樹や外縁部の親水空間と一体となったオープンスペースの配置など、みどりを身近に感じ憩いや安らぎを提供する空間を創出する。
- ・建築物の敷地内においても、周辺施設との連続性や歩行者空間との一体感に配慮しながらパブリックスペースや親水空間・緑地を設け、みどりあふれる空間を創出する。
- ・空や海からの視点を意識した景観、魅力的な夜間景観等にも配慮した、大阪の新たなランドマークとなる都市景観を形成する。
- ・インフラ整備や施設配置などについては、隣接するゾーン各々の機能を最大限に発揮できるように配慮する。

○まちの骨格の考え方

【うるおい軸：シンボルプロムナード】

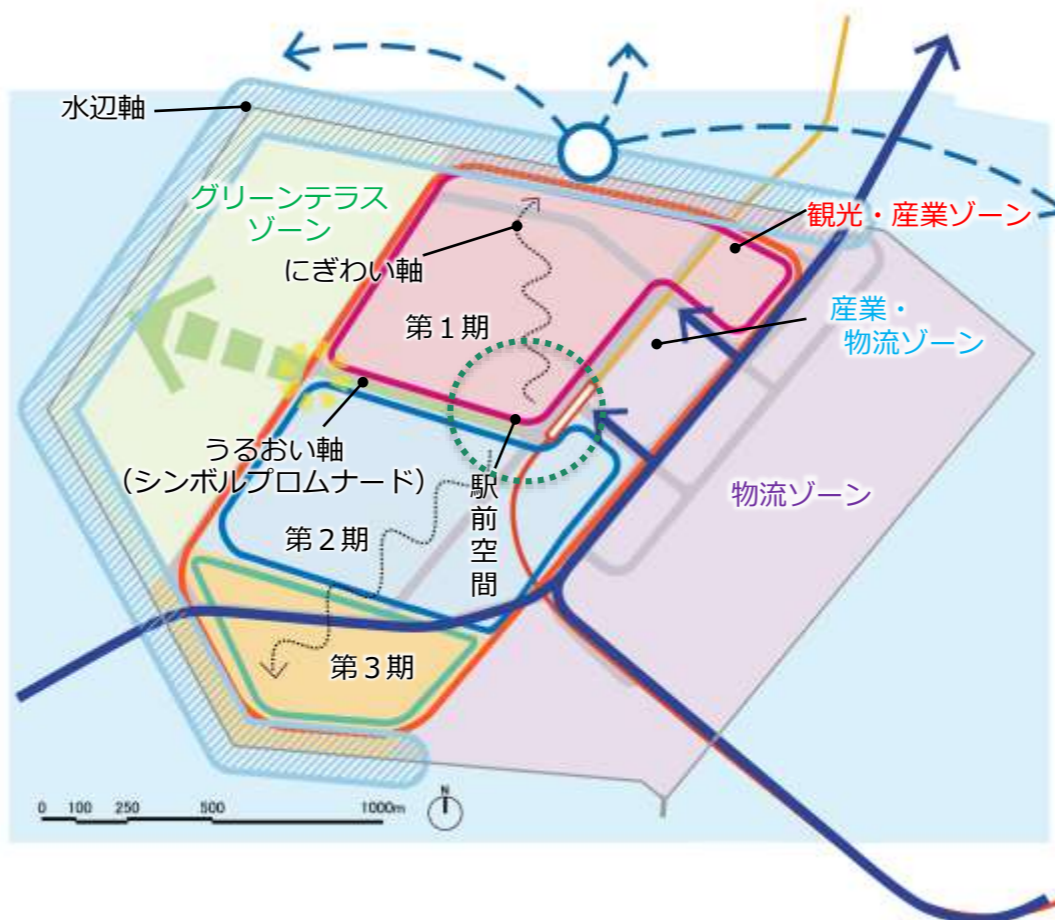
- ・シンボルプロムナードは、夢洲の玄関口である駅前からグリーンテラスに向けて伸びる軸線であり、水辺軸（大阪湾）へ直線的に眺望を唯一確保できることから、夢洲のシンボルとして開放的な眺望を有する空間を形成する。
- ・四季を感じることでできる水とみどりあふれ、沿道のにぎわいを感じられるとともに、玄関口のおもてなしを意識した景観を有する、リゾートアイランドとしてのイメージを高めるパブリック空間を形成する。

【水辺軸：水都大阪にふさわしい質の高い水辺環境】

- ・水辺軸と水辺軸に隣接する空間を一体的にデザインし、水都大阪に相応しい質の高い水辺環境・にぎわい空間を形成する。
- ・散策路や憩いの場、レクリエーションも可能なたまり空間を配置し、水とみどりを身近に感じられ安らぎのある歩行者空間として、豊かな水辺環境を創出する。
- ・季節に応じたイベントや取り組みの実施など、日本の季節感を感じられる（オールシーズン楽しめる）仕掛けづくりに取り組む。
- ・水辺軸と水辺軸に隣接する空間では、夢洲からの眺望を活かすため、水辺に向け開放的な空間を形成するとともに、海上交通アクセス拠点との一体感を意識した空間を形成する。

【にぎわい軸：上質なにぎわいのある歩行者空間】

- ・駅前から水辺軸につながるにぎわい軸は、上質なにぎわいを創出する歩行者空間とし、周辺施設等と調和した空間を形成する。
- ・イベントや憩いの場となるたまり空間（にぎわい広場）などにより、歩いて楽しめる空間を創出する。



○まちのインフラの考え方

【多様な交通アクセス・快適な移動交通による利便性向上】

- ・夢洲までは、鉄道・道路に加えて、海上アクセスや航空アクセスなど多様なアプローチを確保するとともに、安全・快適な移動手段により、来訪者の利便性や回遊性の向上をめざす。
- ・夢洲内の観光ゾーンへの動線と物流関連の動線は、道路の拡幅、高架道路の整備などにより、相互の分離を図る。
- ・夢洲内の円滑な移動を実現する交通システムの導入などにより、域内交通の利便性の向上をめざす。

【土地利用の柔軟性を確保する外周道路】

- ・外周道路は、段階整備ごとに整備することとし、第1期の北側では、水際線と一体的な親水性の高いエリアの形成に配慮した配置とする。
- ・歩行者の道路横断部は、立体的な動線分離により安全な歩行者動線を確保するとともに、土地利用の一体性・連続性に配慮する。

【安全・安心なライフラインの構築】

- ・多様な都市機能と都市活動を支える都市基盤として、通信、上下水道、エネルギーなどを供給するライフラインのネットワークを構築する。
- ・整備にあたっては、電線類を地中化するなど、道路空間の安全性や快適性の確保及び街路樹やオープンスペースと調和した良質な景観を形成する。

○まちの連携の考え方

【第1期エリアと第2期エリアの空間的な連携】

- ・シンボルプロムナードに面して開かれたファサードとするなど、シンボルプロムナードを通行するひとや車がまちの一体感を感じることができる景観・空間とする。
- ・駅前のシンボルプロムナードでは、第1期と第2期のエントランス空間をつなぐなど、ひとの交流やにぎわいの連続性を確保する。

【多様な交流型コミュニティの実現】

- ・観光客とビジネス客の来訪の機会が創出されることから、産業・ビジネス機能を担う事業者やその事業者が持つ最先端技術と来訪者との、ひと・技術の交流がうまれる仕掛けづくりを行う。
- ・ユニークベニューによる社交場や、ベンチャー等との共創を生み出すネットワーキングが生まれる拠点の整備などにより大阪・関西の産業や研究機関などと来訪者をつなぐ機能を整備する。
- ・新たな産業の創出や、育成・高度化を目指すため、ベンチャー企業が成長しやすい研究・開発環境を整備する。
- ・大阪が強みを有する最先端技術などの実践・実証を行うなどし、来訪者が最先端技術に気軽に触れられ、オープンイノベーションを促す環境を整備する。

【夢洲の玄関口・にぎわいの拠点となる駅前空間】

- ・駅前広場は、夢洲の玄関口として、鉄道駅を中心とした円滑な交通アクセス機能を確保する。
- ・駅前広場は、人の交流や憩いの場となるアメニティ豊かな空間とするとともに、隣接する建築物やシンボルプロムナードとの一体性・連続性を確保し、夢洲の玄関口としてふさわしいシンボル性の高い空間とする。
- ・第1期と第2期のエントランス空間をつなぎ、まちにつながりを確保する。
- ・地下に位置する新駅と駅前広場は、十分な規模の通路・縦動線などで、円滑に接続させる。



■ 夢洲まちづくりの方向性 ～国際観光拠点の形成に向けて～

夢洲まちづくりのイメージ

○ 土地利用の方針

【第1期 (70ha)】

統合型リゾート (IR) を中心としたまちづくり

魅力的なエンターテインメントの集積、国際競争力を有するMICE施設の整備やICT等最先端技術を活用したスマートなまちづくりによる国際観光拠点を形成する。

《導入施設》・国際会議場および展示施設

・魅力増進施設 (注1)

・送客施設 (注2)

・宿泊施設 等

【注1】

・我が国の観光の増進に資する劇場、演芸場、音楽堂、競技場、映画館、博物館、美術館、レストランその他の施設

【注2】

・各地の様々な観光情報の提供や来訪者の要望に沿った旅行の手配などを行う施設

【第2期 (60ha)】

万博の理念を継承したまちづくり

万博の理念を継承し、最先端の取り組みなどを進めるとともに、大規模なエンターテインメント・レクリエーション機能導入、第1期において創出されたにぎわいの継承などによりまちづくりを進めることで、第1期のまちづくりと合わせて国際観光拠点機能の更なる強化を図る。

《導入機能例》・最先端技術・研究などの実験・実証、情報発信機能

・宿泊機能

・大規模エンタメ・レクリエーション機能 等

【第3期 (40ha)】

第1・2期の取り組みを活かした 長期滞在型のまちづくり

第1、2期で創出・醸成されたエンターテインメントや最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成する。

《導入機能例》・第1期及び第2期に導入される機能 (エンターテインメント、産業・ビジネスなど) の拡充

・長期滞在型リゾート機能

・ウェルネスツーリズム 等

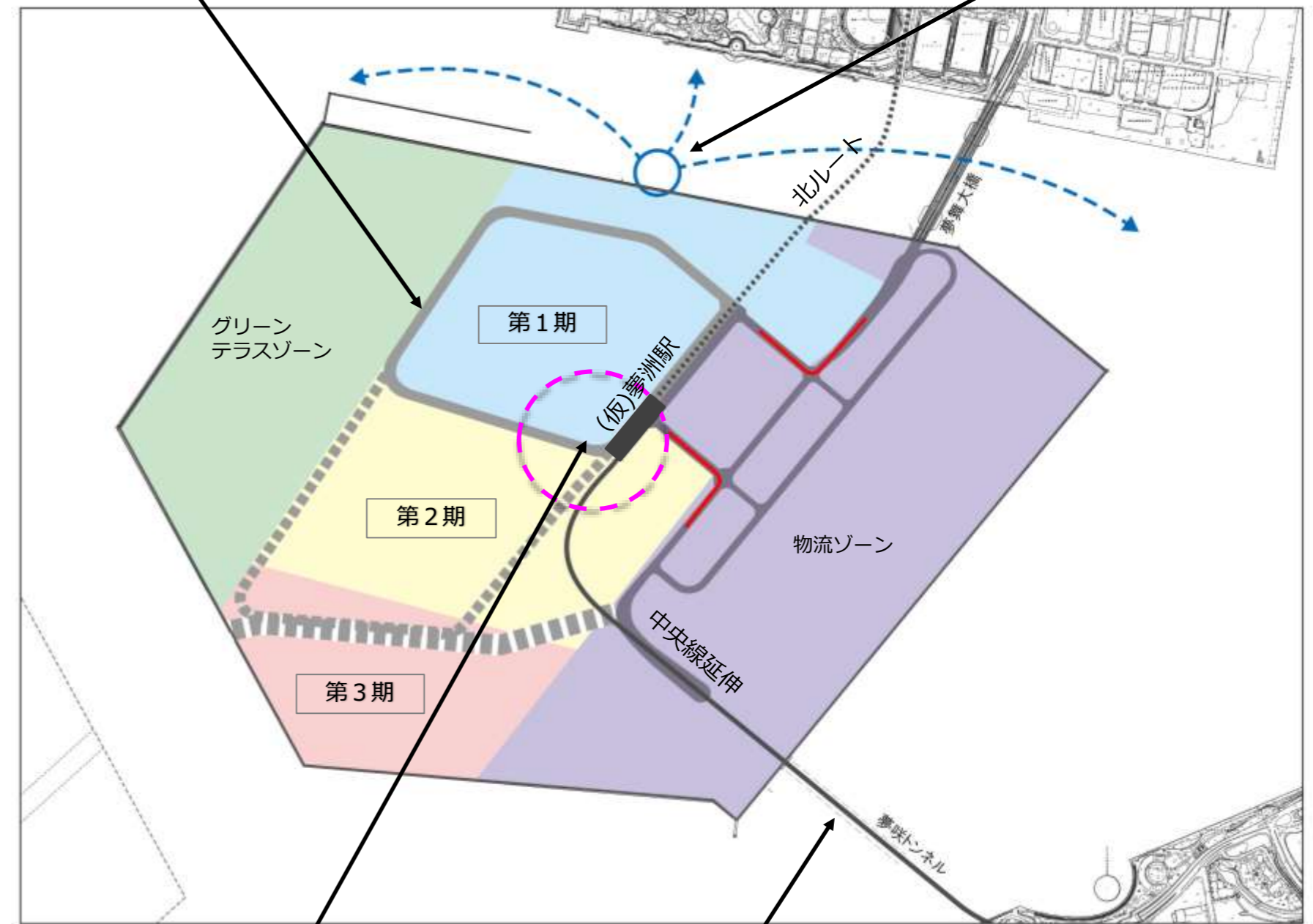
○ インフラ等の整備方針

【道路】

観光ゾーンの外縁部に整備することとし、第1期においては、北側の水際線 (臨港緑地) と建築物等による親水性の高い空間形成を可能とする位置に配置する。第2期以降については、開発時期に合わせ段階的に整備することとする。

【海上アクセス拠点】

関空はもとより、多くの他のエリアからのアプローチを可能とする海上アクセス拠点を、臨港緑地との一体性に配慮しながら北側水際線に整備し、来訪者の利便性の向上及び集客力の強化を図る。



【駅前空間 (駅前広場)】

夢洲の玄関口となる駅前広場を地下駅との連続性や夢洲内外からのアクセス拠点となること等に配慮するとともに、にぎわい交流の場として、アメニティの高い空間を整備する。

【鉄道】

港湾機能や国際観光拠点などを支える鉄道網の整備により、交通負荷の分散に寄与し、周辺道路交通等に与える影響の軽減を図る。※北ルートについては、第2期以降の段階的な土地利用の状況に応じ検討

■ 夢洲まちづくりの方向性 ～国際観光拠点の形成に向けて～

○ スマートなまちづくり

▶ 夢洲におけるスマートなまちづくりの方向性

- ・国際観光拠点機能の強化には、「観光客数の増加（競争力向上）」と「滞在期間の長期化（滞在型観光）」をめざす取り組みが重要である。
- ・夢洲においては、各街区と公共空間等が連携し、まち全体で

「安全・安心なまちの実現」

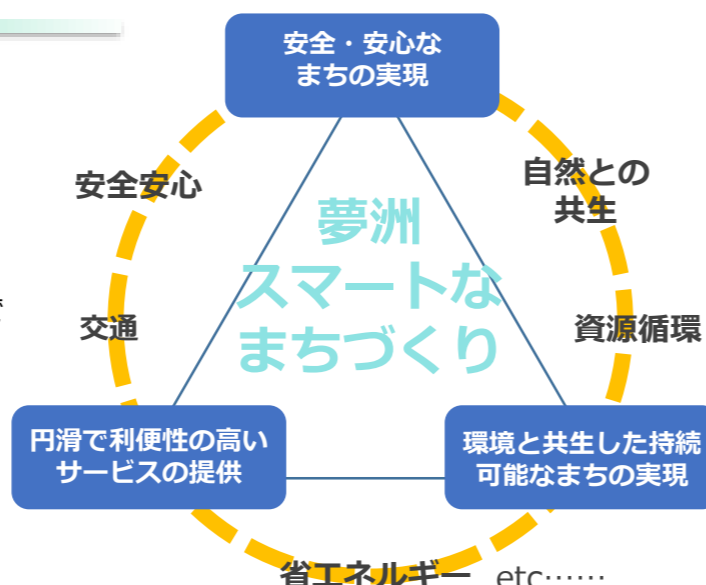
「円滑で利便性の高いサービスの提供」

「環境と共生した持続可能なまちの実現」

による

国際観光拠点機能の強化

をめざす。



小項目：国土交通省「スマートシティについて」

■ 取り組みのイメージ（例）

安全・安心なまちの実現	円滑で利便性の高いサービスの提供	環境と共生した持続可能なまちの実現
(取組例) ・災害リスクの見える化 ・気象データの利活用・連携 ・災害・緊急速報の情報のリアルタイム取得 (実証実験例) ・見守りカメラとデータ解析による犯罪防止	(取組例) ・ラストワンマイルの移動サービス ・シームレスなキャッシュレス ・駐車場予約システム等による観光渋滞の緩和 (実証実験例) ・無人自動運転・空のモビリティの実用実験	(取組例) ・再生可能エネルギーによる持続可能なまち ・グリーンインフラの活用によるSDGsの推進 ・高度なエネルギーマネジメント (実証実験例) ・水素のサプライチェーン構築

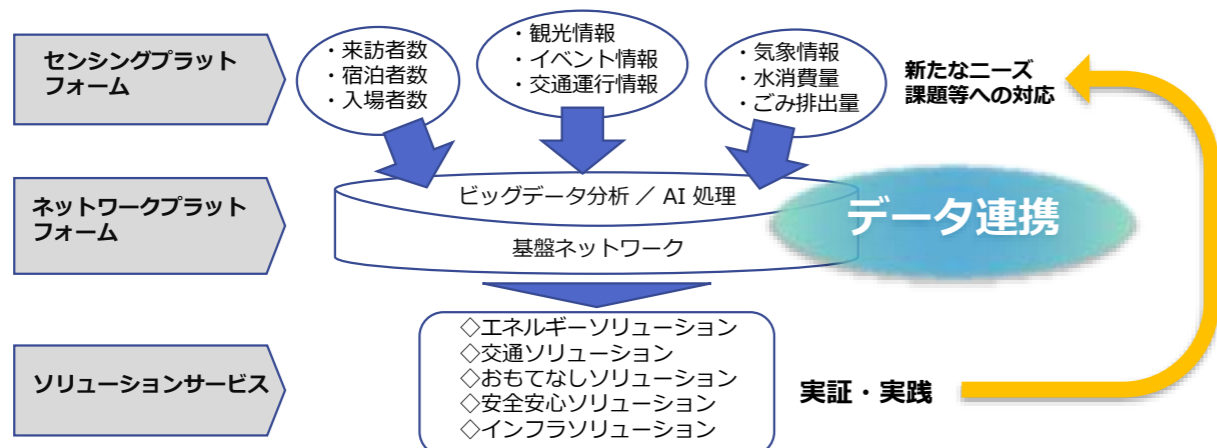
▶ スマートなまちづくりに向けた取り組み

夢洲では、スマートなまちづくりを実践するため、スマートな取り組みやエリアマネジメントなどにより、第1期～第3期の各街区や公共空間が連携し、利便性の向上や課題解決をめざす。

① スマートなまちづくりに向けた最先端の取り組み

- ・スマートな取り組み等にあたっては、夢洲が広大なスペースを有し、特区制度等による規制緩和等といった利点の活用も見据えて、エンターテインメントや非日常空間の体験、交通・移動、エネルギー、セキュリティをはじめ、様々な最先端技術の実証・実践の場であることにも配慮する。
- ・また、夢洲で開催される2025年大阪・関西万博がSDGs（Sustainable Development Goals）達成に貢献することをめざしていることから、万博でのSDGs達成に向けた取り組みにも配慮したまちづくりをめざす。
- ・さらに、エネルギー源の多様化・多重化を図り、非常時における持続可能性の高いエネルギー環境を整備するため、複数の供給拠点を確保する等夢洲全体でのエネルギー供給の連携をめざすとともに、交通、安全・安心など、まち全体で共有すべき様々な取り組みや課題への対応についてICTを活用し、来訪者ニーズに応じた様々なソリューションサービスを提供することで、ホスピタリティの高いまちづくりをめざす。

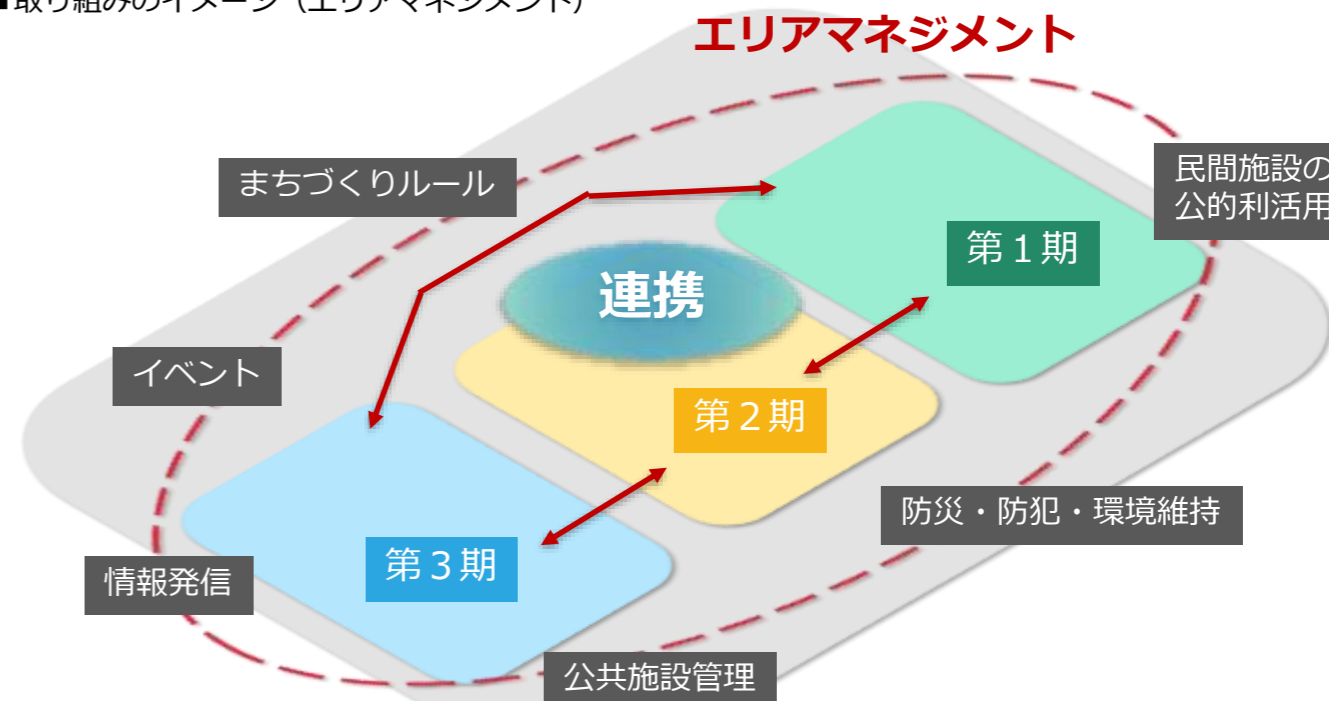
■ 取り組みのイメージ（ICT活用）



② スマートなまちづくりを支えるエリアマネジメント

- ・夢洲の将来像を見据えつつ、夢洲全体で統一感を持ったまちづくりを推進するため、民が主役となり、スマートなまちづくりを含めた、まち全体のマネジメント、情報発信および危機管理を行うことで、魅力的であり続けるまちづくりをめざす。
- ・特に「安全・安心なまちの実現」については、まちづくりの根幹をなす内容であることから、第1期～第3期の事業者が連携しながら、緊急時には行政とも速やかに連携できるよう取り組みを進める。

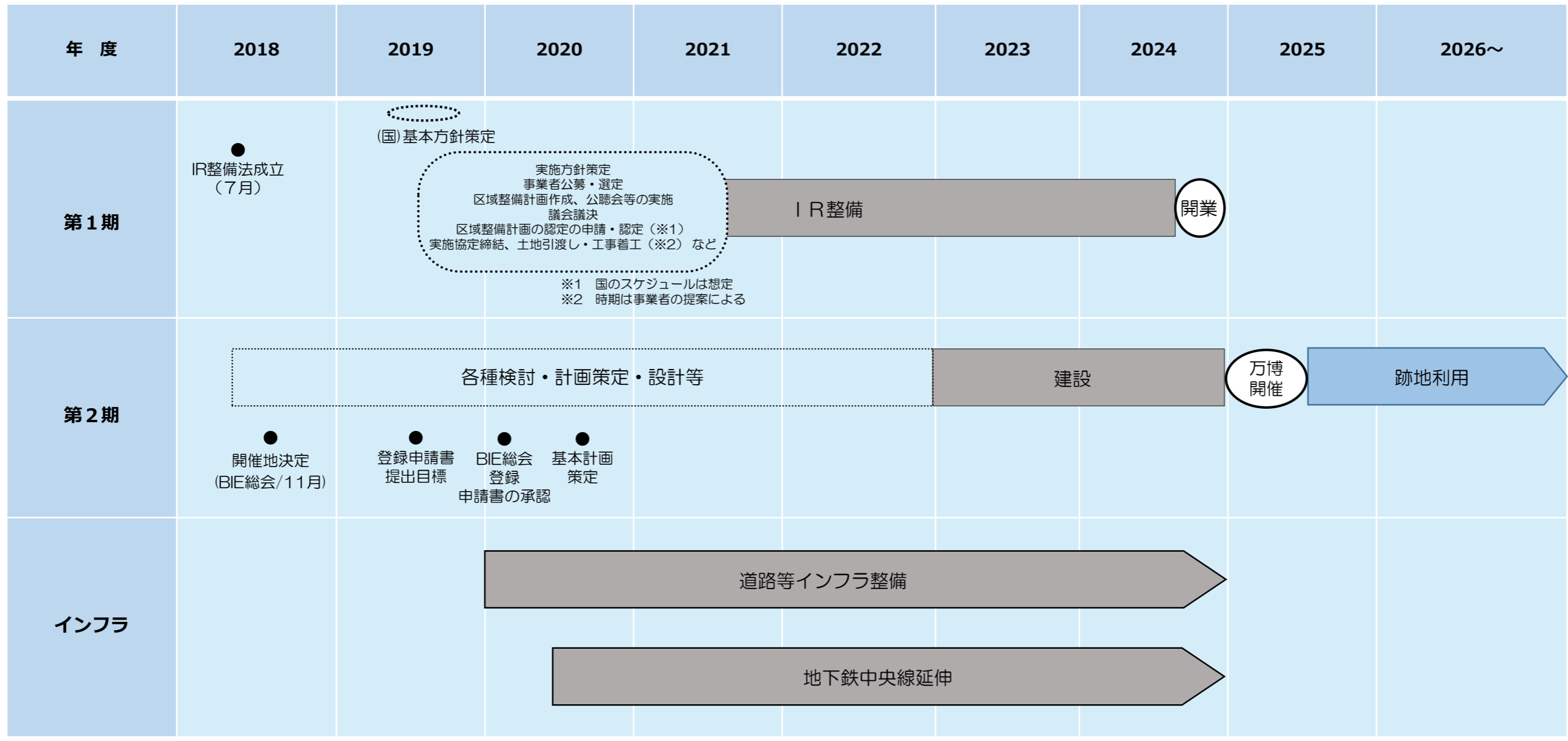
■ 取り組みのイメージ（エリアマネジメント）



項目：国土交通省「エリアマネジメントについて」

■ 夢洲まちづくりの方向性 ～国際観光拠点の形成に向けて～

○第1期・第2期まちづくりに係るスケジュール（想定）



<あしがき>

今後、夢洲での国際観光拠点の形成を具体化するには、都市計画などの行政手続きを進めるだけでなく、観光施設及び物流施設のそれぞれが最大限に機能を発揮できるようまちづくりを進めるとともに、まちづくりの進展に応じて、経済界や府・市をはじめとする関係機関の連携が必要である。

また、他のベイエリア（舞洲、咲洲、天保山・築港地区・此花西部臨海地区等）との連携強化についても、夢洲で導入される機能や実現される施設等を見据えて、それぞれの地区での取り組みやそれをつなぐ仕組みの具体化を図る必要がある。

夢洲まちづくり基本方針検討会 規約

(名称)

第1条 本会は「夢洲まちづくり基本方針検討会（以下「検討会」という）」と称する。

(目的)

第2条 検討会は、府、市、経済界で策定した「夢洲まちづくり構想」を基本に、大阪・関西万博の開催決定や大阪IR基本構想（案）のとりまとめなどを踏まえ、夢洲の国際観光拠点形成に向けた基本方針をとりまとめることを目的とする。

(検討内容)

第3条 検討会は、前条の目的を達成するため、以下の検討・協議を行う。

- (1) 国際観光拠点での都市空間形成、導入機能
- (2) スマートシティ（情報基盤、エネルギー、交通システム、エリアマネジメント等）
- (3) 国際観光拠点形成の進め方
- (4) その他、夢洲まちづくりを進めるうえで必要となる事項等

(組織)

第4条 検討会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

(会議の運営)

第5条 検討会は会議の運営に関し、以下のとおり定める。

- (1) 検討会には、ワーキングを置くものとする。
- (2) 検討会には、関係行政機関がオブザーバー参加する。
- (3) 検討会の事業に必要と認める場合は、委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。
- (4) 検討会で、とりまとめた基本方針は公表するものとする。
- (5) 検討会は書面により開催することができる。
- (6) 検討会の事務局は大阪市都市計画局と大阪府市IR推進局とする。

(解散)

第6条 検討会は、第2条の目的を達成した時に解散する。

(その他)

第7条 この規約に定めるもののほか、検討会の運営などに関して必要な事項は委員の協議により定める。

附則

この規約は、平成31年3月29日より施行する。

附則

この規約は、令和元年7月9日より施行する。

(別表)

<委員>

公益社団法人関西経済連合会専務理事

一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長

大阪商工会議所専務理事

大阪府住宅まちづくり部部长

大阪府市IR推進局局长

大阪市経済戦略局局长

大阪市都市計画局局长

大阪市港湾局局长

<オブザーバー>

大阪府政策企画部万博協力室長

大阪府都市整備部事業管理室長

《基本計画の位置づけ・経緯》

- 文化芸術基本法において、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、政府が定めなければならないこととされている基本的な計画。
- 第1期計画期間が令和4年度で終了するため、令和5年度からの5か年を対象とした第2期計画の策定に向け、令和4年6月に文化審議会に諮問。
- 同審議会における有識者・団体ヒアリング、委員発表等を通じた集中的な審議を経て、令和5年3月に答申を受け、同月24日に閣議決定。

前文

- **文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉。**
- 我が国には、各地に魅力的な有形・無形の文化財が数多く存在し、雅楽・能楽・文楽・歌舞伎・組踊等の**伝統芸能**の上演が行われるなど、長い歴史を通じて地道な努力により今日まで受け継がれてきた誇るべき価値を有する。
- 現代の美術・音楽・演劇・舞踊等の**芸術**、映画・マンガ・アニメーション・ゲームといった**メディア芸術**、和食・日本酒等の食文化を含む**生活文化**、**建築・ファッション**などは、世代を問わず人々の心を捉え、デジタル技術を芸術活動に活用する**デジタル芸術**というべき試みも多く生まれつつあり、**我が国の文化芸術の幅の広さ、奥深さ、質の高さ**を示している。
- **新型コロナの感染拡大**が、人々の身体的な接触を妨げ、心理的な距離も生じさせるなど**多くの人々に行動変容を迫る困難**にあつて、文化芸術は、人々に安らぎ、**勇気、希望を与えるという本質的価値が改めて認識**され、その灯を消さぬよう**次世代への継承の努力**が継続。
- また、文化芸術は、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等との緊密な連携の下、**デジタル化等の技術革新を取り入れながら、創造的な社会・経済活動の源泉として新たな価値や収益を生み、それが本質的価値の向上のために再投資される好循環**を通じて、我が国の発展に寄与。
- 国際的にも多様性、包摂性、持続可能性をキーワードに、**地球規模の課題の解決**に向けた動きが活発化する中、**人々のウェルビーイングの向上**を図るためにも、文化芸術が果たすべき役割が増大。

第1：我が国の文化芸術を取り巻く状況

1. 第1期計画期間中における文化芸術を巡る主な動向

- ・文化庁の**京都移転決定**を契機として、文部科学省設置法を改正し、文化庁が中核となって「**文化に関する施策を総合的に推進**」する権限を新たに規定、「**芸術に関する教育**」や「**博物館に関する事務**」を文科省から文化庁へ移管。
- ・日本で初めて**第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会**を開催し、その理念を踏まえ**博物館法**を改正。
- ・**文化観光推進法**を制定、**日本博**を展開。
- ・2度にわたり**文化財保護法**を改正。「**文化財の匠プロジェクト**」を策定。

2. 新型コロナウイルス感染症が文化芸術に与えた影響

- ・新型コロナの感染拡大により、**文化芸術イベントは中止・延期・規模縮小、人々の行動自粛**。
- ・文化芸術を専門的に支える個人や団体の**文化芸術活動の減少、観光需要の減少、海外との文化交流の停滞、地域の祭礼等の中止、学校における子供の文化芸術活動の減少**など極めて甚大な影響。
- ・改めて**文化芸術の持つ本質的及び社会的・経済的価値の重要性**とともに、**今後有事が生じた場合の迅速な対応の必要性**等について再認識。

3. 社会状況の変化

- ・**デジタル化の急速な進展**による表現形態の多様化、幅広い需要に応えられる創造空間の実現、NFTの活用など取引形態の多様化。
- ・**急激な少子高齢化**により、特に地方部での文化芸術の担い手が減少、鑑賞者など需要の減少・市場の縮小。
- ・**国際的／地球規模の課題**に対する文化芸術の貢献への認識の深まり。
- ・**アジア発のコンテンツが興隆**。**我が国の文化芸術のグローバル展開が急務**。

第2 第1期計画で示された施策の実施状況／達成状況の評価

○第1期計画における「今後5年間の文化芸術政策の基本的な方向性」の進捗状況に関し、文化審議会にて中間評価を実施。

【評価の概要】

- ・計画期間当初には戦略に掲げた目標の一定の進捗が見られたものの、令和2年以降は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、進捗が芳しくない、評価することが適切でないといった状況。

(課題)

- ・コロナ禍において、我が国の文化芸術の担い手の活動基盤が脆弱であることが明らかに。安定的に活動を継続することができる環境の整備や、団体等の特性に応じた自律的・持続的な発展に資する取組の強化が課題。
- ・アート市場活性化、文化観光の推進については、ポストコロナを見据え、市場の回復及び更なる振興が課題。
- ・新型コロナウイルスの影響を大きく受けた日本博については、2025年の大阪・関西万博に向けた一層の充実が課題。
- ・障害者をはじめ、誰でも文化芸術に触れることができる環境の充実が課題。
- ・文化芸術の担い手を確保するための方策を多面的・長期的に検討することが課題。
- ・地方公共団体における文化財保存活用に関する計画の作成の促進が課題。
文化芸術に対する寄附の受入れ拡大のため、文化芸術に対する寄附意識の醸成が課題。

第3：文化芸術政策の中長期目標

○中長期目標：「文化芸術基本法」に基づき策定された第1期計画の中で掲げられている「目標」を基本的に踏襲

中長期目標① 文化芸術の創造・発展・継承と教育・参加機会の提供

文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていることを目指す。

中長期目標② 創造的で活力ある社会の形成

文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランドの形成に貢献し、創造的で活力ある社会が形成されていることを目指す。

中長期目標③ 心豊かで多様性のある社会の形成

あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されていることを目指す。

中長期目標④ 持続可能で回復力のある地域における文化コミュニティの形成

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地に形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域における文化コミュニティが形成されていることを目指す。

第4：第2期計画における重点取組及び施策群

1. 第2期計画における重点取組：心豊かで活力ある社会を形成するため「文化芸術と経済の好循環」を実現すべく7つの重点取組を推進

	重点取組	主な取組例
1	ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術水準の向上 ・ 文化芸術分野の活動基盤強化 ・ 文化芸術団体等の自律的・持続的な発展に資する支援の実施 ・ 文化芸術創造エコシステムの確立 ・ 我が国のアートの持続的発展の推進 ・ 映画・マンガ・アニメーション・ゲーム等のメディア芸術の振興 ・ ナショナルセンターとしての国立文化施設の機能強化 ・ 文化施設の運営等におけるPPP/PFI活用等による官民連携の促進
2	文化資源の保存と活用の一層の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文化財の匠プロジェクト」の着実な推進 ・ 文化財の保存に関する集中的な取組 ・ 我が国固有の伝統芸能をはじめとする無形の文化財の保存・活用 ・ 地域の伝統行事等の振興と次世代への着実な継承 ・ 近現代建築の保存・活用の推進等による建築文化の振興
3	文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における文化芸術教育の充実・改善と我が国の伝統文化の継承 ・ 子供たちが、文化芸術・伝統芸能等の本物に触れることができる鑑賞・体験機会の確保 ・ 文化部活動の円滑な地域連携・移行の促進
4	多様性を尊重した文化芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず活動できる環境の整備 ・ 共生社会の実現に向けた障害者等による文化芸術活動への参画の促進 ・ 外国人に対する日本語教育の水準の維持向上による、日常生活及び社会生活を円滑に営むことができる環境整備 ・ 文化芸術活動の推進に当たっての多様な財源の確保方策の促進
5	文化芸術のグローバル展開の加速	<ul style="list-style-type: none"> ・ トップアーティスト等のグローバルな活動の支援を含む戦略的な文化芸術の海外発信 ・ 「日本博2.0」の推進をはじめとする世界中の人々を惹きつける開かれた文化芸術の拠点形成に向けた環境づくり ・ CBX*による海外展開の推進 ・ 世界の様々な国や地域を対象とした国際的な文化交流の充実 ・ 気候変動や持続可能な開発といった地球規模の課題への文化芸術政策としての対応
6	文化芸術を通じた地方創生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の博物館・美術館等の機能強化・設備整備の促進 ・ 全国の劇場・音楽堂等の機能強化・設備整備の促進 ・ 文化観光拠点・地域や「世界遺産」、「日本遺産」等の文化資源を最大限活用した文化観光の推進 ・ 地方における文化芸術公演の積極的な展開の支援 ・ 食文化をはじめとする生活文化の振興 ・ 地域における文化芸術振興を推進する人材の育成と体制の整備・構築 ・ 公共空間等のアーティスト等への開放
7	デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急速に進化するデジタル技術を活用した文化芸術活動の推進 ・ DX時代に対応し、権利保護と利用の円滑化を踏まえた著作権制度・政策の推進によるコンテンツ創作の好循環の実現 ・ 文化芸術のデジタル・アーカイブ化の促進、デジタル技術を用いた文化財の保存・活用 ・ 文化芸術と科学技術をつなぐ研究開発の促進

第4：第2期計画における重点取組及び施策群

2. 第2期計画における施策群

第2期計画期間中、効果的かつ着実に文化芸術政策を推進するために16の施策群を整理し、具体的な取組を詳細に設定。

- ① コロナ禍からの復興と文化芸術水準の向上等
- ② 基盤強化、自律的運営による文化芸術の持続可能な発展
- ③ 「文化財の匠プロジェクト」の推進等による文化資源の保存と活用の好循環の構築
- ④ 国際協力を通じた文化遺産の保存・活用（世界文化遺産・無形文化遺産等）
- ⑤ 国土強靱化に資する文化財の防火・防災対策の推進
- ⑥ 文化芸術教育の改善・充実、子供たちによる文化芸術鑑賞・体験機会の確保
- ⑦ 障害者等の文化芸術の参画促進による共生社会の実現
- ⑧ 国語の振興、国内外での日本語教育の推進
- ⑨ 世界を視座とした戦略的な文化芸術の展開
- ⑩ 海外との連携による文化芸術の好循環の創出
- ⑪ 国立美術館・博物館、国立劇場等の文化振興のナショナルセンターとしてのマネジメント機能の強化、博物館行政の充実
- ⑫ 地域における文化芸術振興拠点の整備・充実
- ⑬ 文化観光の推進による好循環の創出
- ⑭ 食文化をはじめとした生活文化の振興
- ⑮ デジタル技術を活用した文化芸術の振興
- ⑯ DX時代に対応した著作権制度の構築

第5：第2期計画推進のために必要な取組

1. 社会課題に適時的確に対応するための政策形成・評価と体制構築

- 多様なデータと分析に基づくロジックモデルの構築、モニタリング指標やデータに基づく実態把握、状況の変化に応じた機動的かつ柔軟な施策の改善。
- 国内外の文化芸術活動・施策の動向把握や文化芸術の持つ価値の評価等のため、大学や独立行政法人等と連携し調査機能を強化。

2. 第2期計画の戦略的な広報・普及活動の展開

- 広報ツール（SNS、動画配信サービス等）の活用や、対象となる層に応じた情報提供を実施。

3. 国・地方公共団体等が一体となった文化芸術の振興

- 地方公共団体に対して、第2期文化芸術推進基本計画を参酌した「地方文化芸術推進基本計画」の改定・策定を促進。こうした地方公共団体の取組を促すため、国としても必要な情報提供等を実施。
- 地方公共団体において、文化芸術の振興を通じて地域の諸課題解決のための継続的な取組に関係部局等が一体となって取り組めるよう、文化芸術担当部局に限らず、様々な部局が連携して施策に取り組む。

(公表資料)

令和5年度 文化芸術振興費補助金による

助成対象活動の決定について

〔芸術家等人材育成〕

令和5年4月3日

独立行政法人 日本芸術文化振興会

独立行政法人日本芸術文化振興会では、令和5年度文化芸術振興費補助金による助成対象活動を決定しました。

応募のあった活動96件について助成金の交付の適否を文化庁において事前審査を行い、芸術文化振興基金運営委員会で審査しました。

審査の結果、採択件数は55件、助成金交付予定額は6億3千980万円とする旨の答申を受け、これを踏まえ別添のとおり決定しました。

令和5年度文化芸術振興補助金による採択状況
〔芸術家等人材育成〕

区分・分野		応募件数	採択件数	助成金交付 予定額（千円）
人材育成	音楽	19	5	81,500
	舞踊	9	6	146,400
	演劇	19	11	215,100
	大衆芸能	6	4	25,200
	伝統芸能	18	11	22,600
	その他	13	7	58,700
年鑑・調査研究		12	11	90,300
合計		96	55	639,800

分野	団体名	事業名	助成金交付予定額 (千円)
音楽	公益財団法人日本オペラ振興会	イタリア著名国際オペラフェスティバルの優秀指導者を招聘して実施する国際的オペラ歌手人材育成事業	9,100
音楽	公益社団法人日本演奏連盟	新進演奏家育成プロジェクト①リサイタル・シリーズ(札幌・東京・名古屋・京都・大阪・大分)②オーケストラ・シリーズ(札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡)③公開マスタークラス	45,600
音楽	一般社団法人ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン	ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン ヨコハマ2023	14,000
音楽	公益財団法人東京二期会	新進芸術家海外研修制度の成果「明日を担う音楽家による特別演奏会」	11,400
音楽	一般社団法人コジマ・ムジカ・コレギア	若手アーティストの育成を目的とした国際音楽フェスティバル実施事業(「しまなみ海道・秋の音楽休暇村2023」のうち3公演)	1,400
舞踊	公益社団法人日本バレエ協会	新進バレエ芸術家育成事業	41,800
舞踊	一般社団法人日本バレエ団連盟	新進バレエダンサー・運営スタッフの育成、並びにバレエ団運営基盤整備および次世代の観客育成に向けた調査	14,300
舞踊	特定非営利活動法人ダンスボックス	国内ダンス留学@神戸 9期	24,900
舞踊	株式会社キャメルアーツ	舞踏家育成公演及び舞踏ワークショップ&野外公演	11,400
舞踊	特定非営利活動法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク(JCDN)	コンテンポラリーダンス新進振付家育成事業2023	28,300
舞踊	一般社団法人現代舞踊協会	現代舞踊新進芸術家育成Project	25,700
演劇	一般社団法人日本演出者協会	令和5年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業【次代の若手演出家育成事業】①演出家・俳優養成セミナー2023 演劇大学 ②国際演劇交流セミナー2023 ③日本の戯曲研修セミナー2023 ④若手演出家コンクール2023	53,300
演劇	一般社団法人日本劇作家協会	次代を担う劇作家を育成するためのプロジェクト	23,900
演劇	公益社団法人日本劇団協議会	日本の演劇人を育てるプロジェクト	74,800
演劇	公益社団法人国際演劇協会日本センター	「次代の翻訳者育成セミナー」(「ワールド・シアター・ラボ」)	7,300
演劇	一般社団法人日韓演劇交流センター	日韓演劇交流ラボ vol.1(仮)	4,200
演劇	一般社団法人全国専門人形劇団協議会	専門人形劇演技者育成講座2023~2024	10,900
演劇	特定非営利活動法人愛知人形劇センター	P 新人賞NEXT	3,700
演劇	一般社団法人江原河畔劇場	世界をめざす劇場芸術家養成事業-次世代のコンクール人材を育成する連続企画	7,300
演劇	日本児童・青少年演劇団協同組合	次代の児童・青少年演劇人育成 連続講座	21,900
演劇	一般社団法人エーシーオー沖縄	日本におけるノンバーバルコミュニケーション演劇の確立と拡充	4,000
演劇	社会福祉法人トット基金日本ろう者劇団	次代を担うろう者の新進芸術家育成事業2023	3,800
大衆芸能	公益社団法人落語芸術協会	若手落語家育成公演	15,100
大衆芸能	公益社団法人上方落語協会	上方若手落語家育成公演	7,900
大衆芸能	公益社団法人日本奇術協会	奇術の登竜門	1,600
大衆芸能	一般社団法人落語協会	二ツ目勉強会(若手落語家育成公演)	600
伝統芸能	公益社団法人日本舞踊協会	令和6年各流派合同新春舞踊大会	4,900
伝統芸能	公益社団法人鎌仙会	能・狂言鑑賞と教え方講座-能・狂言の授業をするために-	700
伝統芸能	特定非営利活動法人日本音楽集団	日本音楽集団 夏期講習会'2023'	800

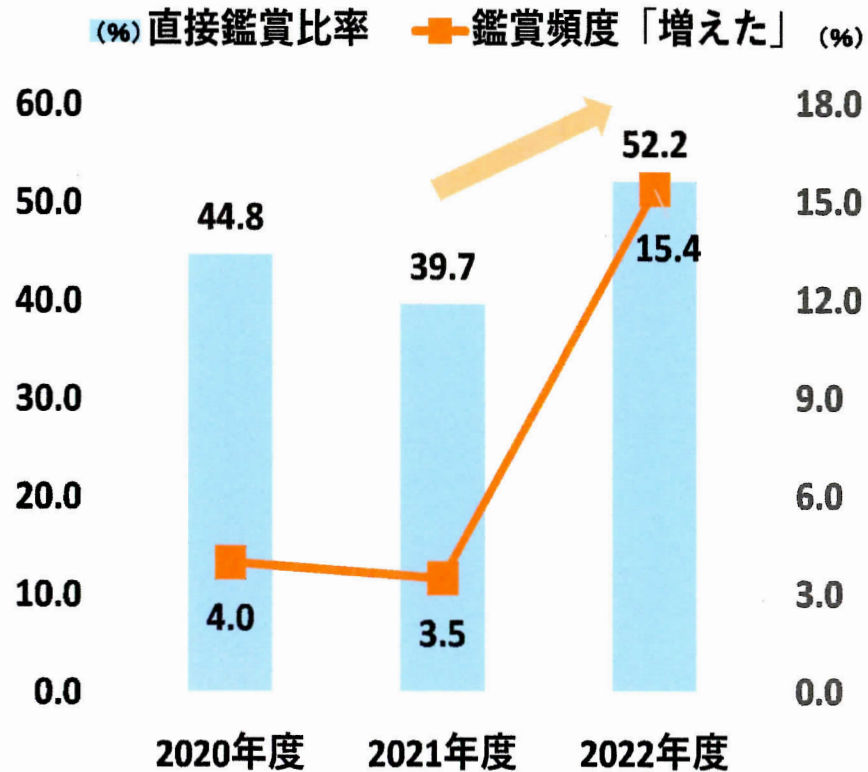
分野	団体名	事業名	助成金交付予定額 (千円)
伝統芸能	当道音楽保存会	平家(平家琵琶)演奏家育成のための研修と廃絶曲の復元、および成果発表演奏会	1,400
伝統芸能	公益財団法人現代人形劇センター	人形浄瑠璃乙女文楽・各座合同研修講座	2,400
伝統芸能	公益社団法人能楽協会	若鯨研究発表会「若鯨能」	900
伝統芸能	公益社団法人日本三曲協会	三曲新進演奏家研修支援事業	900
伝統芸能	公益財団法人日本民謡協会	少年少女・青年層に対する民謡民舞育成事業	3,400
伝統芸能	公益財団法人梅若会	Noh meets Jazz ～能楽を通して日本人の感性を認識する若手育成プロジェクト～	3,700
伝統芸能	新内・如月派	新内浄瑠璃、若手演奏家の技芸向上と新しいリーダー創出のための育成事業	1,600
伝統芸能	一般社団法人賢順記念全国箏曲祭振興会	賢順記念全国箏曲祭	1,900
その他	公益社団法人日本照明家協会	舞台・テレビジョンのための新進照明家育成公開講座(中央講座)	2,800
その他	公益社団法人日本舞台音響家協会	舞台音響家のための公開講座	11,600
その他	特定非営利活動法人BEPPU PROJECT	地域から世界へ次代を担うアーティスト・クリエイターのためのプログラム(仮)	5,500
その他	一般社団法人コミュニティシネマセンター	映画上映専門家(映像アートマネージャー)育成のためのワークショップシリーズ2023	14,700
その他	特定非営利活動法人映画美学校	映画・演劇を横断し活躍する俳優養成講座2023～演技を通じた新しいクリエイター創出を目的とする～	7,400
その他	協同組合日本映画・テレビ美術監督協会	「明日を拓く映画美術スタッフ育成プロジェクト2023「映画美術スタッフ塾」	15,700
その他	特定非営利活動法人シアタープランニングネットワーク	持続可能な文化芸術のあり方を探るー環境配慮の視点から学ぶ連続講座	1,000
年鑑・調査研究	公益社団法人日本演奏連盟	演奏年鑑2024-音楽資料(通巻第50号)	13,100
年鑑・調査研究	公益社団法人企業メセナ協議会	民間のメセナ活動および国内外の芸術文化振興に関わる調査研究	13,700
年鑑・調査研究	公益社団法人国際演劇協会日本センター	『国際演劇年鑑』(日本編・海外編)の編集と発行	16,800
年鑑・調査研究	公益社団法人日本オーケストラ連盟	日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑2023	4,700
年鑑・調査研究	特定非営利活動法人日本現代音楽協会	『日本作曲年鑑2022』作成・出版事業	3,200
年鑑・調査研究	公益社団法人日本演劇協会	次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「演劇年鑑」の作成	8,800
年鑑・調査研究	特定非営利活動法人国際人形劇連盟日本センター	「'23日本の人形劇」の発行	2,500
年鑑・調査研究	一般社団法人現代舞踊協会	舞踊公演アーカイヴ事業 《舞踊年鑑2023と舞踊公演データベース》	12,900
年鑑・調査研究	一般社団法人日本劇作家協会	現代日本の劇作(英語)	3,600
年鑑・調査研究	一般社団法人コミュニティシネマセンター	「映画上映活動年鑑2023」の作成	9,700
年鑑・調査研究	協同組合日本シナリオ作家協会	'22年鑑代表シナリオ集(2023年発行)	1,300

1-2. 社会的な必要性 6) 国民の意識 (直接鑑賞)

文化芸術を鑑賞する方法として、直接鑑賞をする比率は2022年度は52%と半数を超えた。コロナ禍ではどうしても直接鑑賞の機会は少なくならざるを得なかったが、増加傾向にある。ミュージカル系と演劇系とで直接鑑賞比率を見たところ、ミュージカル系は演劇系の約2倍が直接鑑賞をしていることがわかった。

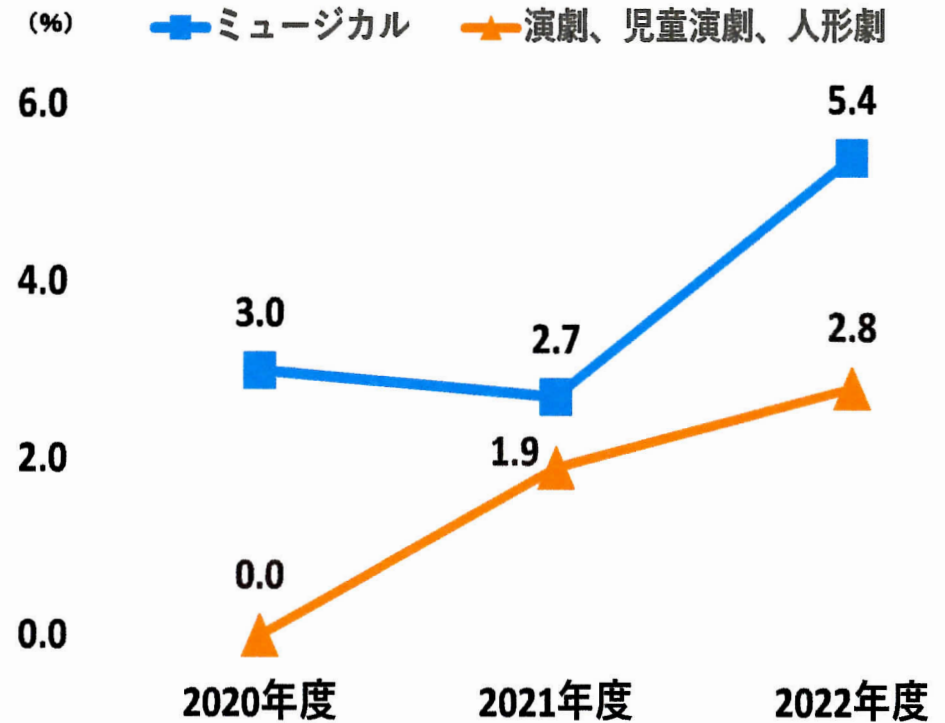
文化芸術の直接鑑賞比率と※頻度増減 (N=3,000)

※2022年度は「この1年で」2020、2021年度は「コロナ前と比べて」



出典：文化庁「文化に関する世論調査報告書」各年

ミュージカル、演劇の直接鑑賞比率 (N=3,000)



出典：文化庁「文化に関する世論調査報告書」各年

II-1. 学生確保の見通し 10) 芸術系学科志願者動向（全国）

全国大学志願者数推移を学科系統別にみると、芸術・文学・表現分野の志願者中「舞台・演劇学」志願者は2022年、2023年とも3000人前後で1%弱である。舞台・演劇学の学科を持つ大学はまだ少なく、全国で14学科、定員も1050名であること、舞台・演劇を目指す学生の志望度は高いと思われるため、本学科系統の中で他大学との差別化が受験生獲得の鍵となると考えられる。

志願者数推移（全国）

※単独分野・複合分野 延べ数（複合分野=複数の分野がある学科）

	2022年 学科系統(分野)	全国				
		学科数	定員数	志願者数	志願倍率	
文化・ 地理・ 歴史	地理学	17	1,906	23,436	12.30	
	歴史学	71	6,846	77,401	11.31	
	考古学	10	915	6,442	7.04	
	文化人類学	103	9,266	64,740	6.99	
	日本文化学	80	6,268	51,123	8.16	
	言語学	36	2,753	13,706	4.98	
	教養学	41	3,996	26,963	6.75	
	計	358	31,950	263,811	8.26	
	分野内 複合	88	8,351	70,959	8.50	
	(単科) 合計	270	23,599	192,852	8.17	
芸術・ 文学・ 表現	音楽	54	3,928	7,980	2.03	
	美術	99	7,746	34,864	4.50	
	デザイン	194	14,906	110,070	7.38	
	舞台・演劇学	13	1,025	3,094	3.02	
	日本文学	62	6,794	80,993	11.92	
	外国文学	98	12,303	114,362	9.30	
	児童文学	1	45	118	2.62	
	文芸学	26	1,948	8,103	4.16	
		計	547	48,695	359,584	7.38
		分野内 複合	106	12,738	122,004	9.58
	(単科) 合計	441	35,957	237,580	6.61	

	2023年 学科系統(分野)	全国			
		学科数	定員数	志願者数	倍率
文化・ 地理・ 歴史	地理学	20	2,607	23,758	9.11
	歴史学	71	7,137	73,770	10.34
	考古学	11	960	6,750	7.03
	文化人類学	101	9,148	58,686	6.42
	日本文化学	80	6,162	45,712	7.42
	言語学	35	2,629	12,752	4.85
	教養学	42	4,107	25,454	6.20
	計	360	32,750	246,882	7.54
	分野内 複合	88	8,865	66,439	7.49
	(単科) 合計	272	23,885	180,443	7.55
芸術・ 文学・ 表現	音楽	54	4,102	8,195	2.00
	美術	99	7,658	36,255	4.73
	デザイン	197	15,296	108,479	7.09
	舞台・演劇学	14	1,050	2,644	2.52
	日本文学	62	6,999	76,238	10.89
	外国文学	98	12,736	108,489	8.52
	児童文学	1	70	106	1.51
	文芸学	26	1,812	6,374	3.52
	計	551	49,723	346,780	6.97
	分野内 複合	104	13,158	117,252	8.91
	(単科) 合計	447	36,565	229,528	6.28

出典：リクルート進学総研「学科・定員数・志願者数の状況2022、2023」

学校法人 梅花学園
後援 梅花学園同窓会



「劇団この花」後援会のご入会について

「劇団この花」
後援会会長 浦野 祐美子

梅花学園 梅花歌劇団「劇団この花」は、地域社会の市民文化や芸術文化の振興に寄与するとともに、現代演劇に貢献することを目的とします。バレエ・ダンス、ミュージカルを通して舞台芸術の基本的な技術や知識、豊かな自己表現力を身につけ、劇団員一人ひとりの可能性を広げながら舞台人としてのあこがれを現実の世界へと導きます。

また、日々の活動を通じて清楚で礼儀正しく精神力豊かでプロフェッショナルな人材の育成を図ります。

さらに、梅花女子大学との連携により、将来への多彩な進路に適応する幅広い学習、高い教養を身につけ、コミュニケーション能力やチーム力を育み、バレエやダンス、ミュージカルの基本技能、照明・音響・舞台技術・舞台衣装などの知識と舞台芸術に関する幅広い教養など、学問と芸術の融合を図ることも特色の一つです。

可能性を広げながら未来に向かって羽ばたく劇団員を、梅花学園同窓会も応援しています。

主旨ご理解の上、「劇団この花」をご支援いただきますよう謹んでお願い申し上げます。

お申込みについて

【年会費】

1口 3,000円から（個人・法人とも）

<振込先>口座番号：00950-8-208133

口座名義：梅花歌劇団「劇団 この花」後援会

- 郵便局にて、ブルーの払込用紙（払込取扱票）でお手続きください
- 通信欄に以下の必要事項をご記入ください
ご入会者の住所・氏名（ふりがな）・電話番号
・旧姓・最終卒年

次の必要事項をお電話、FAX、メール、郵送でお申し込み先（裏面）までお知らせください。

・お名前 ・ご住所 ・お電話 / FAX番号
・メールアドレス

※お申し込み時の個人情報は歌劇団からのお知らせ以外には使用いたしません。

“劇団この花”は、梅花学園の新しい挑戦

梅花歌劇団「劇団この花」は、学校法人梅花学園「愛なる女学校」の新時代への挑戦です。

芸術監督には、演出・振付家として名高い謝 珠栄先生が、梅花女子大学客員教授ならびに芸術監督としてご就任くださいました。

謝先生の作品は、先生自身の豊かな心や感性、創造力に根ざした個性的で斬新な振り付けによるオリジナル・ミュージカルとして知られています。

「劇団この花」は、梅花女子大学における学問と融合した歌劇団です。一人ひとりが各学科で学びながら高い教養と資格を取得し、他の可能性や選択肢を絶えず思い描きながら、社会人として自立していくことをめざします。

その上に、各人が有する芸の魅力をさらに高め、いつの時も喝采される喜びを感じながら、見られていることを前提にそこに立っている、どんなつらい時も表情を曇らすことなく、いつも笑顔で澁刺として美しく、しかもエレガントでいる。それが「劇団この花」の団員であると思っています。

これは、みんなで描く歌劇団、みんなで育む歌劇団です。真っ白いキャンパスに次々とどんな絵が描かれるのだろうか。謝先生と共に時を隔ててもなお大いなる「夢」を追いかけていと願ってやみません。



芸術監督 /
梅花女子大学 客員教授
謝 珠栄

Tamako Sha

担当：ミュージカル総合

幼少の頃にはクラシックバレエ・日舞・琴を習う。山田卓氏にジャズダンスを師事。

1971年、57期生として宝塚歌劇団に首席入団。

1975年の退団後はNYにてFIT (Fashion Institute of Technology ファッション工科大) でファッションの勉強をする。帰国後は振付家として東京キッドブラザース、夢の遊眠社、こまつ座の公演に参加。“演劇的な踊り”が高く評価され、その個性的な振り付けは演劇界に大きな衝撃を与えた。その後も斬新な振り付けで劇団四季、宝塚歌劇団、東宝などのミュージカルや映画・TVの各分野で広く活躍し、1990年より本格的に演出家へと転向する。1987年にTSミュージカルファンデーションを設立。オリジナル・ミュージカルの企画・制作をし、話題作を発信し続けている。

🌸 活動内容 🌸

女性をテーマとしたミュージカル作品の発表。
その他、地域でのイベント出演。



エレガンス・レディ・ミュージカル
「So in Love」
2023年2月上演



エレガンス・レディ・ミュージカル Vol.4
「COCO - シャネル 翼をひろげた日 -」
2022年2月上演



「Dance & Songs」より「Asturias」
2023年2月上演

【お申し込み・お問い合わせ先】

学校法人梅花学園 企画部 梅花歌劇団事務局

〒567-8578 大阪府茨木市宿久庄 2-19-5 TEL: 072-643-6352 (直通) FAX: 072-643-6355 kagekidan@baika.ac.jp

産官学連携

女子大学生の“感性”と“学び”から新しい「価値」が生まれる！

梅花女子大学は、社会でチャレンジする機会として、「産学連携」の取り組みを推進しています。
女子大学生の感性をいかし、キャンパス内外でさまざまな企業とのオリジナリティあふれる企画に参加。
多岐にわたる活動は、注目を集めています！

産学連携協定・産官学連携協定を締結

1 大阪モノレール株式会社

情報メディア学科の学生とコラボした配信や、モノレールの駅で開催されるイベントにも参加。



2 ダイキン工業株式会社 ダイキン工業ショールーム「フーハ大阪」

ダイキン工業が大切にしているキーワードをもとに、学生がオリジナルの紙芝居4作品を制作。



3 阪急電鉄株式会社

阪急電鉄と駅を中心とする地域の活性化に向けた取り組みを進める連携協定を締結！



4 株式会社音羽

食文化学科がクリスマスメニューや毎月29日限定発売「ご縁福巻」の商品開発を行い、販売数アップに貢献。



5 大阪府中央卸売市場

食の分野から社会に貢献することをめざし、2011年に連携協定を締結。全国の産地とも協力しながら、食に関する情報発信を行っています。



6 株式会社アーテック

こども教育学科とのコラボから生まれた4つのアイデアが商品化されたことを機に、2021年に新商品開発にあたり連携・協力する協定書を締結。



7 瀧本株式会社

現役女子大学生による、学生のための商品づくり企画を行い、展示会で発表されました。



8 三井不動産株式会社

創造力とアイデア、表現力でともに地域の発展と活性化をめざす、産学連携協定を締結。EXPOCITYにて、ルビーフェスタを開催。



9 上新電機株式会社・東洋紙業株式会社

大手家電量販店Joshinとともに、「若者が興味を持つような売り場」を検討。ヘアドライヤーと高級炊飯器における新しい販売アイデアが、ジョーシン茨木店とジョーシンみのおキューズモール店の売り場で展開されました。

10 一般社団法人大阪青年会議所・公益財団法人大阪観光局

大阪を観光で盛り上げ、持続的に成長する都市へと導く事業「モテラシーOSAKA」に学生が加わり、5つの企業とともに大阪の観光における課題解決に挑戦。学生にとっては、政治・経済活動について主体的に考える機会に。

11 茨木市／茨木商工会議所

茨木市地域活性化をめざした産・官・学連携基本協定を締結。産業、教育、文化、芸術、スポーツなどの分野において、相互に連携、協力をを行い、地域の活性化を促進させることを目的としています。

12 箕面市・箕面市教育委員会

保育・幼児教育の質の向上において、包括連携協定を締結。専門性の高い知識・情報、人材の交流と活用により、保育・幼児教育の調査研究と専門知識の向上に貢献します。

産学連携の拠点 グランフロント大阪ナレッジキャピタル

「ワクワク♡笑顔♡ぬくもりLab」

[グランフロント大阪 北館3階 ナレッジキャピタル The Lab. みんなで世界一研究所内]

学生や卒業生の制作物や研究成果などを常設展示。学生が参加するワークショップも開催しています。ラボでの出会いが、さまざまなコラボレーションにつながっています！



うめコレ(梅花エレガンスコレクション)



常設ブース展示



連携企業例



株式会社イオンイーハート
(イオングループ)



池永鉄工株式会社



MBS (株式会社毎日放送)



一般社団法人大阪青年会議所



大阪府警察



株式会社オートボックスセブン



大阪ガスネットワーク株式会社
株式会社大阪ガスクッキングスクール



カゴメ株式会社



株式会社海遊館 (NIFREL)



京都さかの宮



グランフロント大阪
一般社団法人ナレッジキャピタル
CAFE Lab.



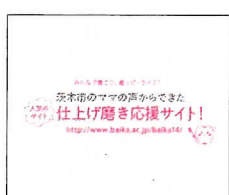
水都大阪コンソーシアム



敷島製パン株式会社



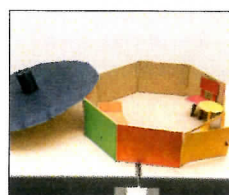
株式会社大丸松坂屋百貨店



丹平製菓株式会社



東芝ライフスタイル株式会社



株式会社バックインタカギ



株式会社阪急阪神百貨店
阪急うめだ本店



飛騨野菜出荷組合 (JAひだ)



株式会社ポーラ (POLA)



株式会社丸福商店 (丸福珈琲店)
JR西日本SC開発株式会社 (ルクア大阪)
株式会社オリエンタルペーカリー



株式会社未来屋書店
(イオングループ)



株式会社 Mutter



守田整理収納建築研究所



株式会社ロゴスコーポレーション

青森県 大阪情報センター
旭松食品株式会社
味の素株式会社
amini
イオンスタイル新茨木 (イオングループ)
イオンリテール株式会社
株式会社池田泉州銀行
大阪府茨木保健所
うすくち文化研究所
エー・ピー・シー開発株式会社
XPACE
FM千里 83.7 MHz
近江八幡市
大阪観光局
大阪食品株式会社
大阪新阪急ホテル
大阪トヨタ自動車株式会社
小倉美術印刷株式会社
オハヨー乳業株式会社
金本徳株式会社
関西エアポート株式会社

関西地区青森りんごの会
関西テレビ放送株式会社
株式会社京都放送
株式会社キョードー関西
KUMICOBO
倉敷ひらまつ農園
株式会社鯖や
JA大津松茂
JA紀南
JAグループ熊本
JA全農岐阜
JA全農ながさき
JA全農長野
JA鳥取いなば
JAみなみ信州
株式会社JF兵庫県生花
株式会社シティライフNEW
旬食ソシオ
株式会社スーパーフェスティバル
ステュアート株式会社
せいこう・データコンサルティング

大正製薬株式会社
株式会社大水直売
株式会社高木包装
高槻商工会議所
株式会社高谷
デリケア株式会社
電気事業連合会
徳島県政策創造部関西本部
TOPPANホールディングス株式会社
中田食品株式会社
株式会社日本アクセス
日本細菌検査株式会社
日本出版販売株式会社
日本福祉給食株式会社 (豊泉家グループ)
日本料理 成田家
株式会社二和商事 (IBASQUE)
株式会社ハートフレンド (スーパーフレスコ)
株式会社博報堂
株式会社阪急阪神百貨店 阪神梅田本店
株式会社阪食 (阪急オアシス)
パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社

日の出医療福祉グループ
ファイ工業株式会社
株式会社不二家商事
株式会社フレーバーライフ社
株式会社プロマート
株式会社北海 (神戸三宮さんちか「麺ロード」)
マッスル株式会社
ミキハウス (三起商行株式会社)
都シティ 大阪天王寺
株式会社 八木研
有限会社 re・make

ほか

<https://www.baika.ac.jp/company/>

取り組みの詳細は
ホームページをご覧ください。





劇団 この花

Konohana

ダンスが好き、演劇が好き、
歌が好きなみんな、あつまれ！



エレガンス・レディ・ミュージカル「アガサ・クリスティ」2024年2月上演

MESSAGE

“劇団この花”は、梅花学園の新しい挑戦の始まり

梅花歌劇団「劇団この花」は、学校法人梅花学園「愛なる女学校」の新時代への挑戦です。

芸術監督には、演出・振付家として名高い謝 珠栄先生が、梅花女子大学客員教授ならびに芸術監督としてご就任くださいました。

謝先生の作品は、先生自身の豊かな心や感性、創造力に根ざした個性的で斬新な振り付けによるオリジナル・ミュージカルとして知られています。

「劇団この花」は、梅花女子大学における学問と融合した歌劇団です。一人ひとりが各学科で学びながら高い教養と資格を取得し、他の可能性や選択肢を絶えず思い描きながら、社会人として自立していくことをめざします。

その上に、各人が有する芸の魅力さをさらに高め、いつの時も喝采される喜びを感じながら、見られていることを前提にそこに立っている、どんなつらい時も表情を曇らすことなく、いつも笑顔で撥刺として美しく、しかもエレガントでいる。それが「劇団この花」の団員であると思っています。

これは、みんなで描く歌劇団、みんなではぐくむ歌劇団です。いま、真っ白いキャンパスにどんな絵が描かれるのだろうか。謝先生とともに時を隔ててもなお大いなる「夢」を追いかけたいと願ってやみません。



芸術監督

しゅ たまき
謝 珠栄

梅花歌劇団「劇団この花」芸術監督
梅花女子大学教授

1971年、宝塚歌劇団に首席入団。退団後は留学を経て、振付家として宝塚歌劇団や劇団四季、東宝などの作品、映画、TVと活躍の幅を広げていき、「演劇的な踊り」と高く評価される。1987年TSミュージカルファンデーションを設立。以後演出、振付、企画でオリジナル作品を作り続ける。第43回芸術選奨文部大臣新人賞、第16回読売演劇大賞 最優秀スタッフ賞、第34回松尾芸能賞、第43回紀伊國屋演劇賞個人賞他多数の受賞歴を持つ。

宝塚歌劇団「眩耀の谷」「ELPIDIO」「Lilacの夢路」において脚本、演出、振付、作詞の1人4役をこなす。

カリキュラム

【ミュージカル総合】

- 芝居・演技
- ダンス
【コンテンポラリー・ジャズ・ヒップホップ・クラシックバレエ】
- 声楽
【ミュージカル・ジャズ】
- アクロバット
- 日本舞踊
- 殺陣
- マイム
- 太鼓

講師陣



正塚 晴彦
芝居・演技



今中 友子
ダンス
(ジャズ)



蔡 曉強*
ダンス
(コンテンポラリー・ジャズ
アクロバット)



池田 舞風
ダンス
(ヒップホップ)



黒木 かほ
ダンス
(コンテンポラリー)



坂本 慶子
クラシック
バレエ



東海林 まゆ美*
クラシック
バレエ



有田 優子
歌唱



鈴木 あゆこ
歌唱



芦澤 瑞貴
歌唱ほか



かんだ 正樹
殺陣



上田 秀一郎
太鼓



陳 静
中国武術

ほか

* 副専攻も担当

その他、多彩な講師、スペシャルゲストによるレッスンを予定しております。

舞台人としての具体的なアドバイス、テクニックの習得をはじめ
女性としての素敵な生き方に通じるメッセージにあふれたレッスンです。



エレガンス・レディ・ミュージカル
「マザー・テレサ ～愛はほほえむことで始まる～」
2019年8月上演



エレガンス・レディ・ミュージカル
「The Chinese Conscience」2021年2月上演



エレガンス・レディ・ミュージカル
「COCO-シャネル 翼をひろげた日-」2022年2月上演



エレガンス・レディ・ミュージカル
「So In Love」2023年2月上演

嘱託専任教授等（有期）取扱規程

制定 1979年4月1日

改正 2024年4月1日

第1章 総則

（目的）

第1条 この規程は、嘱託専任教授（有期）、嘱託専任准教授（有期）および嘱託専任講師（有期）の取扱いについて定める。

2 この規程に定めのない事項については、嘱託専任教授等（有期）就業規則の定めるところによる。

（嘱託専任教授等（有期））

第2条 女子大学（以下「大学」という。）を定年退職した専任教授、専任准教授、専任講師を、常務理事会が学長の意見を徴し、嘱託専任教授（有期）、同准教授（有期）、同講師（有期）（以下「嘱託専任教授等（有期）」という。）として採用することがある。

2 他大学等を退職し、本学園の定年年齢を超える専任教授、准教授、講師を、常務理事会が学長の意見を徴し、嘱託専任教授等（有期）として採用することがある。

3 嘱託専任教授等（有期）は、役職者任免規則第2条に定める役職者には任用されない。ただし、学園長、学長を除く。

4 前項に関わらず、理事長が特に学園運営上必要と認めた場合は、役職に任用することができる。

（年齢制限）

第3条 嘱託専任教授等（有期）の雇用は、次の年齢に達した年度の3月31日を超えることはない。

嘱託専任教授 68歳

嘱託専任准教授・嘱託専任講師 65歳

第2章 雇用期間

（雇用期間）

第4条 嘱託専任教授等（有期）の雇用は、1年ごとの契約とする。

2 欠勤が引続き3か月に及ぶ場合は契約を解除する。

第3章 給与

（基本給）

第5条 嘱託専任教授等（有期）の基本給は、雇用契約により別に定める。

2 嘱託専任教授等（有期）の基本給については、定期昇給を行わない。

(諸手当及び一時金)

第6条 通勤手当、持時間超過手当及び入試手当は、専任教育職員に準じて支給する。

2 その他の手当（扶養手当、住宅手当等）及び一時金は支給しない。

(退職金)

第7条 嘱託専任教授等（有期）には、退職金を支給しない。

(個人研究費)

第8条 嘱託専任教授等（有期）の個人研究費は、個人研究費規程を準用し、支給する。

附 則

- 1 この規程は、2024年4月1日から施行する。
- 2 この規程の改廃は、理事会において行う。

研究助成・研究補助規程

制定 1982年 3月18日

改定 2017年 4月 1日

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この規程は、学術の振興と学園の教育内容充実に寄与することを目的として、学園の女子大学、高等学校・中学校及び幼稚園に勤務する専任教員の研究を助成し又は補助するために必要な事項を定めたものである。

(研 究)

第2条 この規程にいう研究とは、専門分野における研究、業績であって、学園の教育研究活動の水準向上に貢献すると認められるものをいう。

第2章 研究助成

(研究助成)

第3条 この規程にいう研究助成とは次のものをいう。

(1) 研究助成

専任教員が個人で、当年度に行う特定の研究に対して助成金を交付して助成することをいう。

(2) プロジェクト研究助成

学園の専任教員が共同で、当年度に行う特定プロジェクト研究に対して助成金を交付して助成することをいう。

(助成金の対象)

第4条 助成金の対象となる物件は、次の各号に該当するもので証憑書類を得られるものとする。

(1) 図 書 費

(2) 文献複写費、印刷費

(3) 研究用機器及び消耗品費

(4) 調 査 費

(5) 論文発表、学会発表に要する費用

(助成金の額)

第5条 助成金の額は次のとおりとする。

(1) 研 究 助 成 1件当たり 20万円以内

(2) プロジェクト研究助成 1件当たり 30万円以内

(申 請)

第6条 助成金の交付希望者（プロジェクトチームにあつては代表者）は、所定の申請書（様式第1号）を所属長に提出して申請する。この場合、女子大学にあ

っては所属学科長を、また高校・中学にあつては所属校の教頭を通じて申請する。

2 申請書の提出時期は次のとおりとする。

(1) 研究助成 当該年度の5月31日まで。

(2) プロジェクト研究助成 当該年度の5月31日まで。

3 申請にあたり、学内で推奨する研究倫理教育・コンプライアンス教育に関するプログラムの受講をしていることを要件とする。

(研究成果報告)

第7条 助成金の交付を受けた者（プロジェクトチームにあつては代表者）は、交付を受けた年度の翌年度の5月31日までに様式第3号により研究経過・成果報告書を提出しなければならない。

2 前項の報告をしなかった者又は所属長が研究経過・成果が申請の内容と著しく差があると判断した者には、助成金の交付を取り消し、交付額の全部又は一部を返却させることがある。

(公表の義務)

第8条 助成金の交付を受けた者は、助成金の支給を受けた年度の翌年度中に、研究成果を学術誌又は学内の機関誌に公表しなければならない。この場合に本規程による助成を受けたことを明記するものとする。

2 前項の公表をしなかった者には、前条第2項の報告をしなかった者に準じた取扱いをする。

第3章 研究補助

(研究補助)

第9条 この規程にいう研究補助とは、専任教員個人の当年度に行った研究活動に対し補助金を交付して補助することをいう。

(補助金の対象)

第10条 補助金の対象となる物件は、第4条に定める助成金の対象となる物件と同じとする。

(補助金の額)

第11条 補助金の額は、1件当たり20万円以内とする。

(申請)

第12条 補助金の交付希望者は、所定の申請書（様式第1号及び第2号）を所属長に提出して申請する。この場合、女子大学にあつては所属学科長を、また高等学校・中学校にあつては所属校の教頭を通じて申請する。

2 申請書は、当年度の2月10日までに提出するものとする。

3 申請にあたり、学内で推奨する研究倫理教育・コンプライアンス教育に関するプログラムの受講をしていることを要件とする。

第4章 審査・交付決定

(審査)

第13条 助成金又は補助金の交付申請があった場合は、審査委員会（以下「委員会」という。）で審査して被交付候補者及び交付概算額を決定する。

2 審査は書類審査による。ただし、必要があるときは、申請者の説明を聞くことがある。

（審査委員会）

第14条 委員会は、学園長と各申請者の所属長で構成し、学園長が委員長となり、委員会を招集し、主宰する。

2 委員会は、申請者の所属する学校が女子大学のときは所属学科長、また高等学校・中学校のときは所属校の教頭の意見を予め聞くものとする。

3 委員会は、審査に際して必要に応じて専門家の意見を聞くことができる。

4 学園長不在のときは、女子大学長が委員長の職務を代行する。

5 委員会は、申請締切日以降2週間以内に開催する。

（交付決定）

第15条 委員長は、被交付候補者及び交付概算額が決定したときは、所見を付して常務理事会へ報告する。この場合候補者が複数あるときは、順位を付して報告する。

2 常務理事会は、前項の報告に基づき審議して被交付者及び交付額を決定する。

3 前項の決定があったときは、常務理事会から所属長に連絡し、所属長が本人に交付決定通知書（様式第4号）により通知する。

4 交付の決定を受けた者は、当該交付予算について自己管理を行う。

第5章 交付金の請求手続きと支出

（請求）

第16条 交付金の請求は次により行う。

(1) 助成金の請求

ア 第4条に規定する対象物件について、請求伝票に研究助成金又はプロジェクト研究助成金であることを明示して証憑書類を添え、女子大学学部長（高等学校・中学校・幼稚園事務長）に提出する。プロジェクトチームにあっては、請求手続きは代表者が行うものとする。

イ 女子大学学部長、高等学校・中学校・幼稚園事務長は請求伝票に所属長の承認印を受けて、証憑書類と共に総務部財務グループに送付する。

ウ 1個又は1組の価格が10万円以上で且つ耐用年数が1年以上の器材を購入するときは、稟議の手続きをとらねばならない。

(2) 補助金の請求

ア 第9条に規定する対象物件ごとに、証憑書類を付して明細書（様式第2号）を作成し、3月10日までに請求伝票に研究補助金であることを明示して、明細書と共に女子大学学部長、高等学校・中学校・幼稚園事務長に提出して一括請求する。

イ 女子大学学部長、高等学校・中学校・幼稚園事務長は請求伝票及び明細書に、所属長の承認印を受けて、総務部財務グループに送付する。

(支 出)

第17条 交付金の支出は総務部財務グループを通じて行う。

第6章 補 則

第18条 本規程の定める助成金又は補助金で購入した図書及び研究用機器は、全て学校に帰属する。その取扱いについては個人研究費に準じて行う。

附 則

- 1 この規程は、2017年4月1日から実施する。
- 2 この規程の改廃は、理事会が行う。

年 月 日					
学(校・園)長 殿					
所属	職名	氏名 ⑤			
私は今年度の <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">研究助成金</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">プロジェクト研究助成金</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">研究補助金</td> </tr> </table> の交付を下記のとおり申請します。			研究助成金	プロジェクト研究助成金	研究補助金
研究助成金					
プロジェクト研究助成金					
研究補助金					
研究倫理教育の受講確認欄	受講した研究倫理・コンプライアンス教育	受講報告書(修了書)等の提出日			
	「科学の健全な発展のために(Green Book)」の通読 「eL CoRE: eラーニングプログラム」の受講	年 月 日			
	「研究倫理・コンプライアンス講習会」の受講	年 月 日			
研究題目					
研究目的 及び 研究実施理由					

研究計画				
予 算	規程第4条、第10条の対象物件分類ごとに記入のこと。			
	対象物件	予算額	対象物件	予算額
	図書費	円	調査費	円
	文献複写費		論文発表学会発表費	
	印刷費			
	研究用機器			
消耗品費		合計		
※ 所属 学科(科)長 又は教頭の 意見	意見			
職名	氏名 ⑤			
※ 審査委員会	開催年月日 年 月 日			
	所見			
	申請順位 件中 第 位			
※ 理事長決裁	決裁月日 年 月 日			
	交付金額 _____ 円			
承認印				

※印欄は記入しない。

(注) 記入された個人情報については、法令及び「学校法人梅花学園個人情報保護に関する規程」に基づき当該業務目的にのみ使用し、他には使用しません。

年度 研究経過・成果報告書	
学(校・園)長 殿	
所属	職名 氏名 ⑩
年 月 日提出	
研究題目	
研究経過・成果	
支出明細	別添「研究助成金支出明細書」のとおり
学長所見	

863

月・日	費目	品名	金額

(注) 1. 費目は、図書費、文献複写費、印刷費、研究用機器、消耗品費、調査費、論文・学会発表費別に記入のこと。
 2. 記入された個人情報については、法令及び「学校法人梅花学園個人情報保護に関する規程」に基づき当該業務目的にのみ使用し、他には使用しません。

様式第4号

		年	月	日
年度	}	研 究 助 成 金		
		プロジェクト研究助成金	交付決定通知書	
		研 究 補 助 金		
所属	_____ 職名 _____			
	_____ 殿 _____			
	学（校・園）長 _____ ⑩			
	あなたの下記の研究に対して	助成金	の 交付が決定しましたので	
		補助金		
	通知します。			
研究題目	記			
交付金額				

(注) 記入された個人情報については、法令及び「学校法人梅花学園個人情報保護に関する規程」に基づき当該業務目的にのみ使用し、他には使用しません。

梅花女子大学 研究活動に関する不正への対応について

制定 2015年9月 9日

改正 2023年4月 1日

研究活動に関する不正の疑いが生じた場合の対応とその役割および責任者について、次の通り定める。

(1) 不正の定義について

① 不正行為

- ・捏造 存在しないデータ、研究結果等を作成するもの。
- ・改ざん 研究資料・機器・過程を変更する操作を行ない、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工するもの。
- ・盗用 他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用するもの。
- ・二重投稿 同一の研究成果を複数の機関に提出することによって、論文等の原著性を損ない、著作権の帰属に混乱をきたし、研究実績の不当な水増しにつながる行為。
- ・不適切なオーサiership
共同研究において、貢献していない者への成果を評価する（実績として認める）場合と、研究へ貢献をしたにも関わらず、成果として評価しない（実績として認めない）場合の二通りがある。共同研究における研究者の役割や成果を意図的に偽り、論文や研究の信用を損なう行為。
- ・利益相反 外部や個人との、継続的・個人的な利益関係により、公的研究で必要とされる「公正」かつ「適正」な判断が損なわれる行為。

② 不正使用

- ・預け金 業者に架空取引を指示するなどして、虚偽の請求書等を作成させることにより、所属機関から研究費を支出させ、そのお金を業者に管理させるもの。
- ・プール金（カラ出張・カラ謝金）
出張申請や出勤簿の改ざん等により、旅費や謝金等を不正に請求するなどして、そのお金を研究室や個人が管理するもの。
- ・書類の書換え（差換え、品替え、品転）
業者に虚偽の請求書等を作成させることにより、所属機関から研究費を支出させ、実際には契約した物品とは異なる物品に差し替えて納入させるもの。

※上記に示すものは代表例であり、これら以外の不適切と認められるものを除外するものではない。

③その他

- ・故意または研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠った結果、不備と認められた場合においても、不正行為・不正使用とみなすものとする。

(2) 通報窓口の設置

公的研究費の不正使用や研究活動上の不正行為について、学内外からの通報を受け付ける窓口を設置する。

【通報窓口】 総務部庶務グループ **【責任者】** 総務部庶務グループ GM

TEL : 072-643-9018 E-mail : k-report@baika.ac.jp

(3) 通報等の取扱い

通報は、窓口に対する書面・電話・FAX・電子メール・面談などを通じて、本学に直接行なわれるべきものとする。

また、原則として顕名により行なわれ、不正を行なったとする研究者・グループ、不正の態様等、事案の内容を明示するものとし、不正とする科学的な合理性のある理由が示されていることとする。ただし、匿名による通報があった場合でも、その内容に応じ、顕名の通報に準じて取り扱うことができる。また、学会・報道・会計検査院等の外部機関からの指摘による場合も、同様の取り扱いとする。

通報窓口は、通報を受けた場合、速やかに最高管理責任者及び不正防止計画推進部に報告する。

【責任者】 総務部長、総務部庶務グループ GM

(4) 通報者・被通報者の取扱い

通報窓口は、不正に関する通報を受け付ける場合、電話やメールを担当者以外が見聞できないようにする等、秘密を守るために適切な処置を講じる。また告発者、被告発者、告発内容及び調査内容について、調査結果の公表まで、第三者に漏えいしないよう、秘密保持を徹底する。

【責任者】 総務部長、総務部庶務グループ GM

(5) 不正調査委員会の設置

公的研究費の不正使用や研究活動に関する不正の疑いが生じた場合、速やかに調査を実施するため、不正調査委員会を設置する。

【委員長・責任者】 総務部長

【構成員】 監事、教育・研究支援センター長、内部監査担当者、公認会計士、弁護士等

※公正かつ透明性確保の観点から、構成員の半数以上は外部有識者で構成し、全ての調査委員は通報者・被通報者と直接の利害関係を有しない者であること。

(6) 予備調査

通報を受けるなどして公的研究費の不正使用や研究活動に関する不正の疑いが生じ

た場合、不正調査委員会は受付から 30 日以内に通報等の内容の合理性を確認し、本調査の要否を判断するとともに、最高管理責任者及び配分機関へ報告する。なお、本調査を行わない場合は、その旨を理由とともに通報者に通知する。この場合、予備調査資料を保存し、配分機関及び通報者の求めに応じて開示できるものとする。

【責任者】総務部長

(7) 本調査

① 通知・報告

本調査を行なうことを決定した場合、最高管理責任者は通報者及び被通報者に対し、本調査を実施する旨を通知し、調査への協力を求める。

不正調査委員会は、実施の決定後 30 日以内に本調査を開始する。

本調査の実施に際し、調査方針・調査対象・方法等について、当該事案に係る配分機関等へ報告・協議したうえで、本調査を行なう旨を文部科学省へ報告する。

② 調査体制

本調査に当たっては、調査委員の氏名や所属を通報者及び被通報者に示すものとする。これに対し、通報者及び被通報者は、通知された日から 14 日以内に異議申し立てをすることができる。異議申し立てがあった場合、最高管理責任者はその内容を審査し、その内容が妥当であると判断した場合は、調査委員を交代させるとともに、通報者及び被通報者に通知する。

③ 調査方法・対象

本調査は、通報された事案に係る各種資料の精査や、関係者のヒアリング等により行ない、不正の有無や内容、関与した者及びその関与の程度等について調査する。この際、被通報者の弁明の聴取を行なう。

調査の対象には、通報された事案に係る研究活動の他、不正調査委員会の判断により調査に関連した被通報者の他の研究活動も含めることができる。

④ 調査中における措置

本調査に当たって、通報された事案に係る証拠となるような資料等を保全する措置を取る。また、必要に応じて被通報者等の調査対象となっている者に対し、調査対象制度の研究費の使用停止を命ずる。

これらの措置に影響しない範囲内であれば、被通報者の研究活動を制限しない。

⑤ 調査の中間報告

調査の過程であっても、不正の事実が一部でも確認された場合には、速やかに認定し、配分機関等へ報告する。

配分機関等の求めに応じ、調査の終了前であっても、調査の進捗状況報告及び中間報告を配分機関等に提出する。

また、調査に支障がある等、正当な事由がある場合を除き、当該事案に係る資料の提出又は閲覧、現地調査に応じる。

【調査・異議申立や不正調査委員会に関する責任者】総務部長

【調査の通知・報告と調査全体に関する責任者】学長

(8) 認定

不正調査委員会は、本調査開始後 150 日以内に、調査内容について不正の有無を判定し、不正と認定した場合は、不正の内容、関与した者及びその関与の程度、不正使用の相当額等について認定する。

不正調査委員会は、調査によって得られた、物的・科学的証拠、証言、被告発者（調査対象者）の自認等の諸証拠を総合的に判断し認定を行う。

調査の結果、本来存在すべき基本的な要素の不足により、不正行為の疑いを覆すに足る証拠が示されない場合は、不正行為・不正使用と認定する。

不正が行なわれなかったと認定される場合、調査を通じて通報が悪意に基づくものであることが判明したときは、不正調査委員会は併せてその旨の認定を行なう。ただし、この認定を行なうに当たっては、通報者に弁明の機会を与える。

【責任者】総務部長

(9) 調査結果の通知及び報告

不正調査委員会は、調査結果を速やかに最高管理責任者及び通報者・被通報者へ報告する。

最高管理責任者は、不正調査委員会の調査結果を、告発等の受理から 210 日以内に、調査結果・不正発生要因・不正関与者関連の他の研究費の管理監査体制や状況・再発防止策等を最終報告書にまとめ、当該事案に係る配分機関等及び文部科学省へ報告する。なお、210 日以内での調査完了が難しい場合は、中間報告を行う。

【調査・不正調査委員会に関する責任者】総務部長

【結果確認および、調査報告に関する責任者】学長

(10) 不服申立て

不正を認定された被通報者及び悪意に基づくものと認定された通報者は、調査結果を通知された日から 14 日以内に不服申立てをすることができる。

不服申立ての審査は不正調査委員会が行なう。ただし不服申立ての趣旨が、不正調査委員会の構成等その公正性に関わるものである場合には、最高管理責任者の判断により、調査委員の交代若しくは追加、または不正調査委員会に代えて他の者に審査させることができる。

不正調査委員会（代わる者を含む）は、不服申立ての趣旨・理由等を勘案し、当該事案の再調査を行なうか否かを速やかに決定する。

不服申立てが提出された場合、当該事案に係る配分機関等及び文部科学省に対して、最高管理責任者より、その旨を報告する。さらに、再調査開始を決定したとき、また申立てを却下したときも、同様に配分機関等及び文部科学省へ報告する。

再調査を行なう決定をした場合には、不正を認定された被通報者からの不服申立てについては 50 日以内、悪意に基づくものと認定された通報者からの不服申立てについては 30 日以内に、本調査の結果を覆すか否かを決定し、最高管理責任者及び通報者・被通報者へ報告する。

最高管理責任者は、再調査結果を、当該事案に係る配分機関等及び文部科学省へ報告する。

【不服申し立て等に関する責任者】 総務部長

【調査結果・報告に関する責任者】 学長

(1 1) 調査結果の公表

最高管理責任者は、不正調査委員会において不正が行なわれたと認定したときは、速やかに不正に関与した者の氏名・所属、不正の内容、公表までに行なった措置の内容、不正調査委員会の氏名・所属、調査方法・手順等、調査結果を公表する。

不正が行なわれなかったと認定したときは、原則として調査結果を公表しない。ただし、論文等に故意によるものではない誤りがあった場合等は、調査結果を報告する。また、悪意に基づく通報の認定があったときは、通報者の氏名・所属を併せて公表する。

【責任者】 学長

(1 2) 通報者及び被通報者に対する措置

不正が行なわれたと認定された場合、当該研究に係る研究費の使用中止や不正と認定された論文等の取り下げ勧告等を行なう。また、懲戒処分等必要な措置を講じる。不正が行なわれなかったと認定された場合、本調査に際して行なった措置を解除し、名誉を回復するための措置及び不利益が生じないための措置を講じる。

通報が悪意に基づくものと認定された場合、懲戒処分等必要な措置を講じる。

【責任者】 学長

(1 3) 通報者・被通報者の保護

単に通報したことを理由として、通報者に対して解雇その他不利益な取り扱いを行なってはならない。

不正が認定されなかったにも関わらず、単に通報されたことのみをもって、被通報者に対して解雇その他不利益な取り扱いを行なってはならない。

【責任者】 学長

附 則 1 この規程は、2023 年 4月 1日から施行する。

2 この規程の改廃は、部長会の議を経て、学長が行うものとする。

国内研究員規程

制定 1973年11月 1日

改正 2004年 4月 1日

(目的)

第1条 この規程は国内研究員について定めたものである。

(国内研究員)

第2条 国内研究員とは、学園の専任教育職員が特に命ぜられて国内の他大学、研究所等で専攻する学科等の研究及び教育一般に関する研究調査等に専念する者をいう。

(資格)

第3条 国内研究員の資格は、専任教育職員として満2年以上勤続した原則として満55歳以下の者とする。

(選考)

第4条 国内研究員候補者の選考は、所属長がこれを行い、毎年11月末日までに翌年度における国内研究員候補者について意見を具して理事会に推薦するものとする。

(決定)

第5条 理事会は、前条の推薦に基づき審査して翌年度の国内研究員を決定する。

2 国内研究員の人員は、国外研究員と合計して学園を通じ毎年2名以内の範囲で決定する。

(研究期間)

第6条 国内研究期間は6か月とする。ただし、所属長が必要があると認めかつこれを理事会において承認した場合は、1か年とすることができる。

(給与)

第7条 国内研究員には、その期間中役職手当、教務手当、通勤手当を除く給与並びに一時金を支給する。

2 一時金算出の基礎には給与規則第33条第2項の規定にかかわらず教諭手当を除く。

(義務)

第8条 国内研究員は学園以外において兼職してはならない。ただし、所属長が研究上必要があると認めた場合はこの限りでない。

2 国内研究員は、研究期間終了後2年以上の期間は学園に在職しなければならない。

(報 告)

第9条 国内研究員は、研究期間終了後3か月以内にその研究又は調査に関する成果報告書を所属長に提出しなければならない。

(資格の停止)

第10条 国内研究員が病気その他の理由により不相当と認められた場合は、理事長は所属長と協議のうえ研究員を命ずることができる。

(国内研究期間中の身分)

第11条 国内研究期間中は休職とする。ただし、定期昇給を行い退職金規程第6条の規定にかかわらず退職金支給の勤続年数に100%加算する。

附 則

- 1 この規程は、2004年4月1日から実施する。
- 2 この規程の改廃は、理事会が行う。

国 外 研 究 員 規 程

制定 1973年11月 1日

改定 2004年 4月 1日

(目 的)

第1条 この規程は、国外研究員について定めたものである。

(国外研究員)

第2条 国外研究員とは、学園の専任教育職員が特に命ぜられて国外の大学、研究所等において学術研究又は教育事情の研究調査等に専念する者をいう。

(資 格)

第3条 国外研究員の資格は次のとおりとする。

- (1) 専任教育職員として勤続3年以上の者
- (2) 国外留学帰国後5年、内地留学終了後2年を経過した者
- (3) 原則として年齢が満50歳以下の者

(選 考)

第4条 国外研究員候補者の選考は所属長がこれを行い、毎年11月末日までに翌年度における国外研究員候補者について意見を具して理事会に推薦するものとする。

(決 定)

第5条 理事会は、前条の推薦に基づき審査して翌年度の国外研究員を決定する。

2 国外研究員の人員は、国内研究員と合計して学園を通じ毎年2名以内の範囲で決定する。

(国外滞在研究費及び旅費の補助)

第6条 国外研究員に対しては、国外滞在研究費及び旅費の補助を行う。ただし、学外の教育研究機関又はその他の団体から国外滞在研究費及び旅費を支給される場合は、この限りでない。

2 国外滞在研究費は、私学研修福祉会の支給基準（同一地域滞在30日まで1日当たり7,700円、同一地域滞在30日を超える日数1日当たり6,160円）により算出した額とし、支給限度額を次のとおりとする。

(国外滞在期間)	(支給限度額)
89日以下	50万円
90日以上 179日以下	100万円
180日以上 365日まで	200万円

3 旅費の補助は、運賃実費額とし、その限度額は20万円とする。

(給 与)

第7条 国外研究員には、研究期間一か年に限り役職手当、教諭手当、通勤手当を除く給与並びに一時金を支給する。ただし、研究期間が一か年以上に及ぶ場合は、理事会の承認を得て本文に定める給与を支給することがある。

2 一時金算定の基礎には、給与規則第33条第2項の規定にかかわらず教諭手当を除く。

(義 務)

第8条 国外研究員は帰国後3年以上の期間は学園に在職しなければならない。

2 国外研究員であった者が前項の義務を履行しないときは、所属長の意見を聴いて補助金の一部又は全額を返還させることがある。

(報 告)

第9条 国外研究終了後は、帰国後3か月以内にその成果について所属長に報告しなければならない。

(国外研究期間中の身分)

第10条 国外研究期間中は休職とする。ただし、定期昇給を行い退職金規程第6条の規定にかかわらず退職金支給の勤続年数に100%加算する。

附 則

1 この規程は、2004年4月1日から実施する。

2 この規程の改廃は、理事会が行う。

大学組織運営規程

制定 2004年4月1日

改正 2024年6月1日

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は学園事務組織基本規程第1条第2項の規定に基づき、梅花女子大学学則第1条に掲げる目的を達成するとともに、梅花女子大学（以下「大学」という。）の組織を機能的かつ適正に運営するため、必要な事項を定めるものである。

(学長)

第2条 学長は大学の校務をつかさどり教職員を統督する。

2 学長は校務全般についての決定権をもつ。

3 学長は教授会を招集する。

4 学長に事故があるとき又は学長が欠けたときは、研究科長および学部長の中から、あらかじめ学長が定めた順位に従い、研究科長および学部長がその職務を代理し、又はその職務を行う。

第3条 削除

(部長会)

第4条 大学の運営に関わる重要な事項を審議する諮問機関として部長会を置く。

2 部長会は学長、学部長、研究科長、入試広報部長、学生部長、教務部長、宗教部長、図書館長、教育・研究支援センター長、就職部長、総務部長、企画部長および経営戦略部長をもって構成する。

3 部長会の運営に関する規程は別に定める。

(教授会)

第5条 教授会は大学の教学運営に関する事項について審議する。

2 教授会は専任の教授、准教授、講師をもって構成する。

3 教授会の運営に関する規程は別に定める。

(職員会)

第6条 職員が連絡協議を行う機関として、総務部長のもとに職員会を置く。

2 職員会は、事務職員および教務職員をもって構成する。

3 職員会の運営に関する規程は別に定める。

(組織編成)

第7条 大学に大学院、学部、入試広報部、学生部、教務部、宗教部、就職部、図書館、教育・研究支援センター、総務部、企画部および経営戦略部を置く。

第2章 大学院および学部

(大学院)

第8条 大学院はその教育および研究に関する事項を分掌する。

2 大学院に研究科長および研究科専攻主任を置く。

(大学院委員会)

第9条 大学院委員会は大学院の教学運営に関する事項について審議する。

2 大学院委員会は学長、研究科長、研究科専攻主任および大学院の授業を担当する専任の教授、准教授、講師並びに入試広報部長、学生部長、教務部長および図書館長をもって構成する。

3 大学院委員会の運営に関する規程は別に定める。

(研究科長)

第10条 研究科長は学長を補佐し、研究科の教育および研究に関する事項を掌理する。

2 研究科長は、当該研究科の学務を主管し、所属する教職員を統轄する。

3 研究科長は当該研究科の研究科委員会を招集する。

(研究科専攻主任)

第11条 研究科専攻主任は研究科長を補佐し、専攻の教育および研究に関する事項を掌理する。

2 研究科専攻主任は当該専攻の学務を主管し、所属する教職員を統轄する。

3 研究科専攻主任は当該専攻の専攻会議を招集する。

第12条 学部はその教育および研究に関する事項を分掌する。

2 学部に学部長を置く。

(学部長)

第13条 学部長は学長を補佐し、学部の教育および研究に関する事項を掌理する。

2 学部長は当該学部の学務を主管し、学部に属する教職員を統轄する。

3 学部長は学部会議を招集する。

(学 科)

第14条 学生の教育指導に資するため、学部に学科を置く。

2 学科に学科長を置く。

3 学科の教員は、学科長の職務遂行に協力する。

4 学科に、教務部長の命を受け、学科長の指示に基づき教育活動に必要な業務を行う教務職員を置くことがある。

(学科長)

第15条 学科長は学部長を補佐し、学科の教育および研究に関する事項を掌理する。

2 学科長は当該学科の学務を主管し、学科に属する教職員を統轄する。

3 学科長は当該学科の学科会議を招集する。

第3章 入試広報部

(入試広報部)

第16条 入試広報部は学生募集および入試広報に関する事項を分掌する。

2 入試広報部に入試広報グループを置く。入試広報グループの業務については別に定める。

(入試広報部長)

第17条 入試広報部に入試広報部長を置く。

2 入試広報部長は学生募集および入試広報に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統轄する。

第4章 学生部

(学生部)

第18条 学生部は学生生活および福利厚生に関する事項を分掌する。

2 学生部に学生支援グループを置く。学生支援グループの業務については別に定める。

(学生部長)

第19条 学生部に学生部長を置く。

2 学生部長は学生生活および福利厚生に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統轄する。

第5章 教務部

(教務部)

第20条 教務部は教育及び研究に関する事項を分掌する。

2 教務部に教務グループおよび国際交流グループを置く。各グループの業務については別に定める。

(教務部長)

第21条 教務部に教務部長を置く。

2 教務部長は教育および研究に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統轄する。

第6章 宗教部

(宗教部)

第22条 宗教部はキリスト教精神に基づく宗教活動に関する事項を分掌する。

2 宗教部に宗教グループを置く。宗教グループの業務については別に定める。

(宗教部長)

第23条 宗教部に宗教部長を置く。

2 宗教部長はキリスト教精神に基づく宗教活動に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統轄する。

(宗教主事)

第24条 宗教部の活動を円滑に行うため、宗教部に宗教主事を置くことがある。
2 宗教主事は宗教部長を補佐し、キリスト教精神に基づく宗教活動に関する事項の業務を行う。

第7章 就職部

(就職部)

第25条 就職部は学生の就職相談、就職指導及び就職斡旋に関する事項を分掌する。

2 就職部に就職支援グループを置く。就職支援グループの業務については別に定める。

(就職部長)

第26条 就職部に就職部長を置く。

2 就職部長は学生の就職に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統轄する。

第8章 図書館

(図書館)

第27条 図書館は本学の学生および教職員などの学習、教育、研究に必要な図書・メディア資料および学園資料を収集・保管し、その利用に供する。

2 図書館に図書グループを置く。図書グループの業務については別に定める。

(図書館長)

第28条 図書館に図書館長を置く。

2 図書館長は図書館に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統轄する。

第9章 教育・研究支援センター

(教育・研究支援センター)

第29条 教育・研究支援センターは教育内容や方法の改善等の支援および教員の研究とその成果の活用の支援に関する事項を分掌する。

2 教育・研究支援センターの運営および業務については別に定める。

(教育・研究支援センター長)

第30条 教育・研究支援センターに教育・研究支援センター長を置く。

2 教育・研究支援センター長は教育研究に関する事項の業務を主管し、所属する職員を統括する。

第10章 総務部

(総務部)

第31条 総務部は大学の管理運営に関する事項を分掌する。

2 総務部に庶務グループ、人事グループ、財務グループ、メディアグループを置く。各グループの業務については別に定める。

(総務部長)

第32条 総務部に総務部長を置く。

- 2 総務部長は大学の管理運営に関する業務を主管し、大学に所属する職員を統轄する。

第 11 章 企画部

(企画部)

第33条 企画部は大学の企画広報に関する事項を分掌する。

- 2 企画部に企画グループ、広報グループを置く。各グループの業務については別に定める。

(企画部長)

第 34 条 企画部に企画部長を置く。

- 2 企画部長は大学の企画広報に関する業務を主管し、所属する職員を統轄する。

第 12 章 経営戦略部

(経営戦略部)

第 35 条 経営戦略部は大学の経営戦略に関する事項を分掌する。

- 2 経営戦略部に経営戦略グループを置く。経営戦略グループの業務については別に定める。

(経営戦略部長)

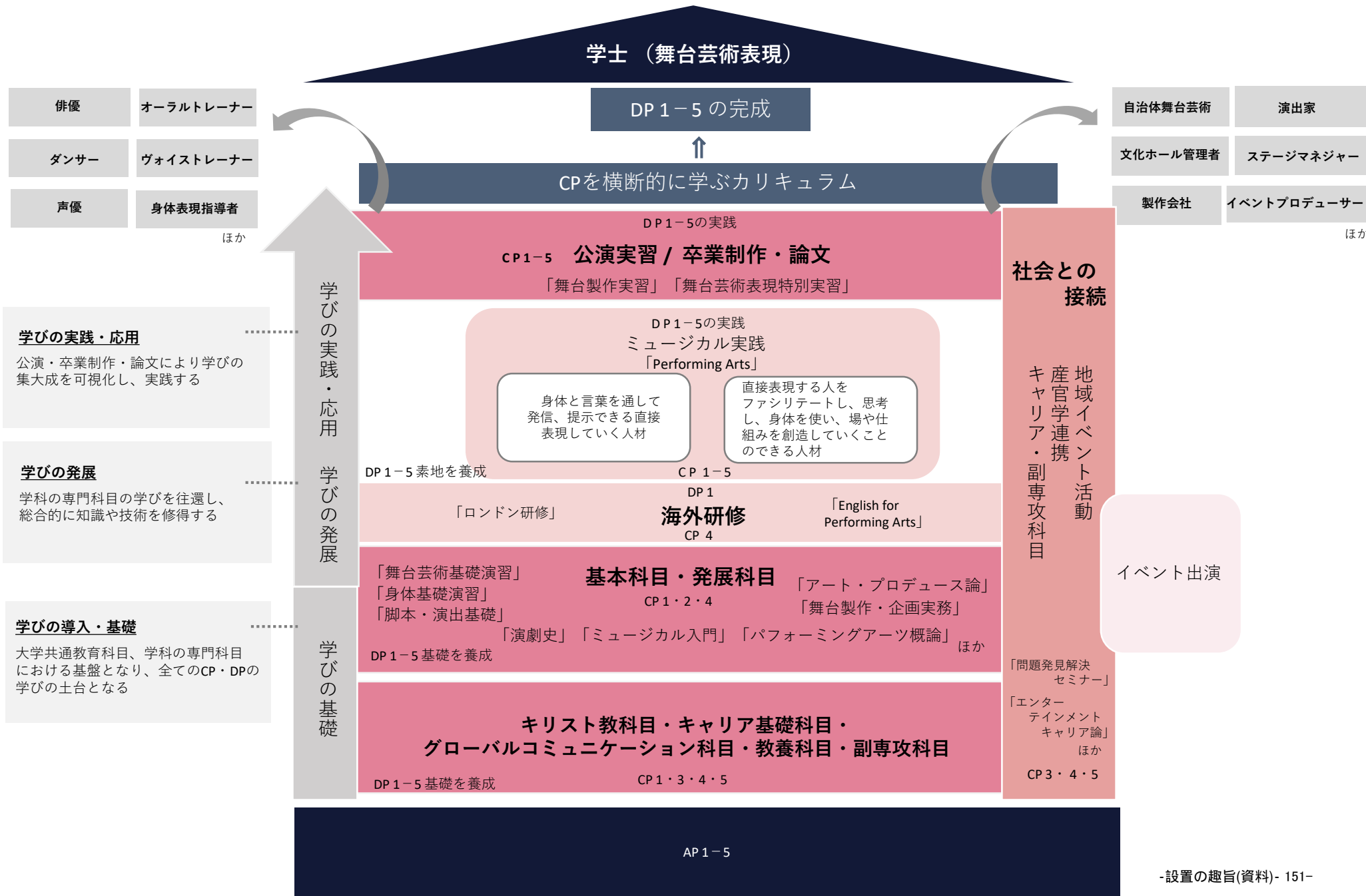
第 36 条 経営戦略部に経営戦略部長を置く。

- 2 経営戦略部長は大学の経営戦略に関する業務を主管し、所属する職員を統轄する。

附 則

- 1 この規程は、2024年6月1日から施行する。
- 2 この規程の改廃は、部長会の議を経て理事会において行う。

舞台芸術表現学科の学びの全体像



アート思考・デザイン思考を活用し、既存の枠にとらわれない創造力と課題解決力を備え、国内外の芸術文化と社会の発展に貢献できる人材の育成

身体と言葉を使った身体表現を通して、創造的に発信できる人材

場のプロデュースやファシリテーションができる人材

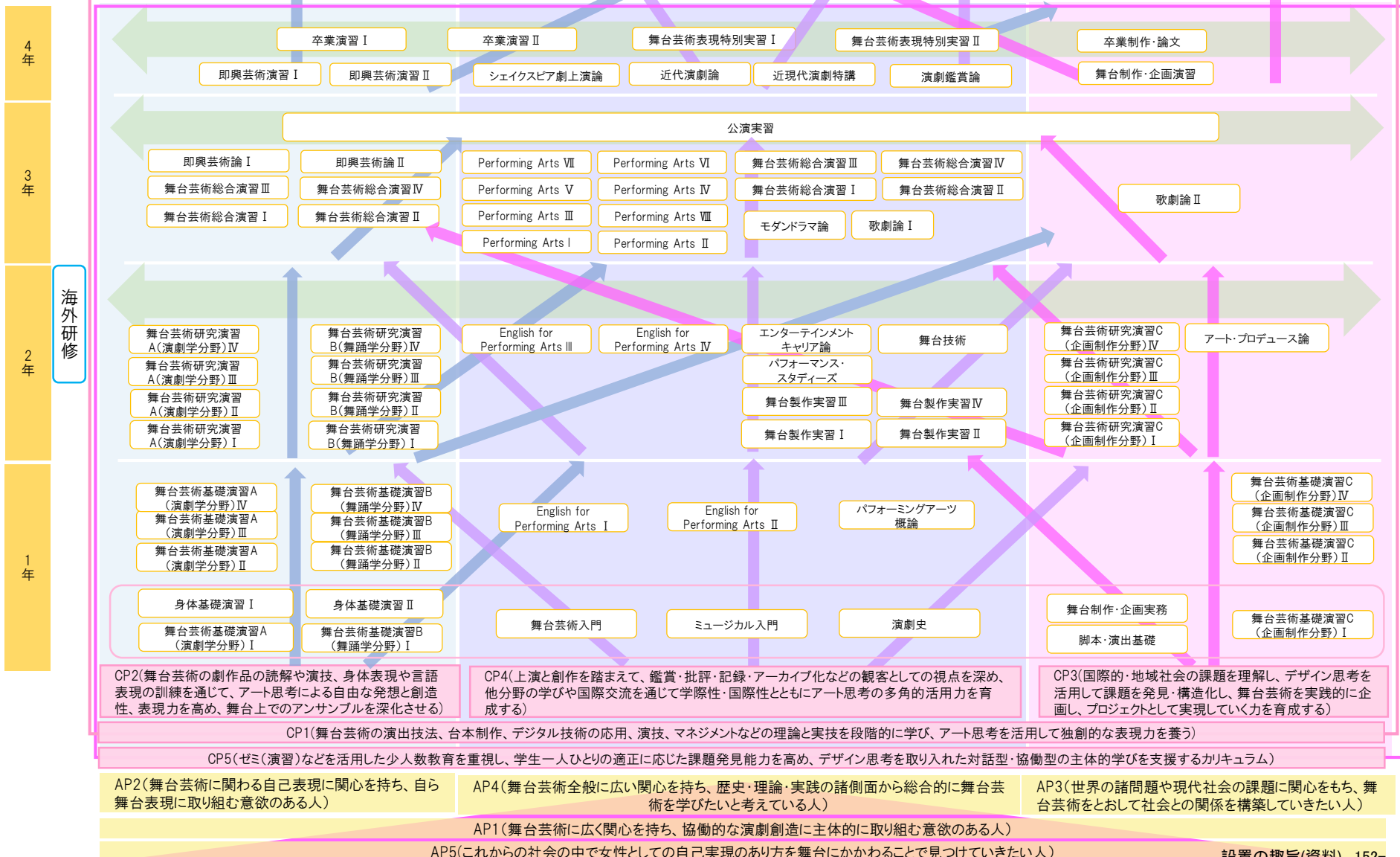
DP5(舞台芸術や関連する表現活動で培ったアート思考とデザイン思考を基盤に、これからの時代の女性としての自己の生き方を主体的に社会に発信していく)

DP2(舞台芸術の歴史や劇作品を、とりわけ実践を通して、自己の身体を媒介にアート思考を用いた創造的な表現活動を行う)

DP4(舞台芸術を通じて、自己と他者をよりよく理解し、デザイン思考に基づく対話や協働を通じて社会と円滑な関係を構築・維持できるコミュニケーションの力)

DP3(舞台芸術の総合的な学識と実践経験を踏まえ、デザイン思考を活用してさまざまな社会課題を発見し、舞台芸術を応用して協働的に解決していく)

DP1(舞台芸術に関する専門的な知識と技能を体系的に修得し、世界の多様な文化や価値観を理解するとともに、アート思考を活かして舞台芸術を実践していく)



学生の確保の見通し等を記載した書類（本文）

目次

(1) 新設組織の概要	- 2 -
①新設組織の概要	- 2 -
②新設組織の特色	- 2 -
(2) 人材需要の社会的な動向等	- 4 -
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	- 4 -
②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	- 6 -
③新設組織の主な学生募集地域	- 7 -
④既設組織の定員充足の状況	- 9 -
(3) 学生確保の見通し	- 11 -
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	- 11 -
②競合校の状況分析	- 14 -
③学生確保に関するアンケート調査	- 17 -
④人材需要に関するアンケート調査等	- 23 -
(4) 新設組織の定員設定の理由	- 24 -

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

事項	内容
学部の名称（英文名称）	文化表現学部【Faculty of Cultural and Expression Studies】
学科の名称（英文名称）	<u>舞台芸術表現学科</u> 【Department of Performing Arts】
修業年限	4年
入学定員	<u>40人</u>
収容定員	<u>160人</u>
学位の分野	<u>文学関係・美術関係</u>
学位または称号（英文名称）	<u>学士（舞台芸術表現）</u> 【Bachelor of Performing Arts】
開設時期及び開設年次	令和8（2026）年4月 1年次
所在地	大阪府茨木市宿久庄2丁目19番地5号

②新設組織の特色

「舞台芸術表現学科」では、文学、演劇、音楽、舞踊など、舞台芸術の各分野における深い理解と実践的な技術を習得できる教育課程を提供する。また、国内外の芸術文化との接点を大切にし、国際的な視野を養うことをめざしている（海外研修を予定）。特に、舞台芸術の創造的表現や発信力を強化する実践的な学びを重視し、学生が現代社会における舞台芸術の役割を理解し、積極的に社会に貢献できる能力を養う（ミュージカル公演を予定）。加えて、地域社会やグローバルな舞台との連携を促進し（インターンシップ・産官学連携を予定）、芸術活動を通じて社会に影響を与える力を育成する。このように、舞台芸術表現学科では経験豊かな教授陣により学生一人ひとりが持つ多様な可能性を引き出し、舞台芸術を通じて社会に新たな価値を創造することをめざす。

【教育面の特色1】舞台芸術の確かな知識・技術を修得する教育

舞台芸術の多様な分野における基礎から応用までを体系的に学び、実践を通じて確かな技術を習得する。演劇、舞踊など、各分野の専門知識を深めることをめざし、理論（「舞台芸術基礎演習」等）と実技（「舞台芸術研究演習」等）をバランスよく組み合わせたカリキュラムを提供する。学生は、舞台芸術の歴史や理論的背景を学ぶ一方で、演技や演出（「舞台制作・企画実務」等）などの実技的なスキルを身につけ、現場で即戦力として活躍できる能力を養う。

【教育面の特色2】社会応用を志向する人材の育成

学生は、舞台芸術が地域社会や文化的環境に与える影響について探求し、芸術を通じて人々との交流や社会問題に対する意識を高めることをめざす（産官学連携プロジェクト）。

実践的なプロジェクトや地域連携活動を通じて、舞台芸術の持つ可能性を広げ、社会的課題の解決に貢献できる力を養う。また、舞台芸術を通じて新たな価値観や視点を創出し、文化的多様性を尊重する姿勢を身につける。

【教育面の特色 3】現場重視の実践教育

実際の舞台制作や公演活動に参加し、現場で必要とされるスキルを身につけることを重視する。授業は理論や技術を学ぶだけでなく、演劇公演や企画制作実務に直接関わる機会を提供する。学生は、演出、演技、制作などの多岐にわたる分野を実際の舞台で体験し、チームワークやコミュニケーション能力を養いながら、プロフェッショナルとしての感覚を磨く。また、プロの舞台スタッフやアーティストと共に制作に参加することで、業界の実情や舞台制作の流れを理解し、現場で求められる柔軟な対応力や問題解決能力を育てる。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

政府は、我が国の文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、令和5年3月24日に「文化芸術推進基本計画（第2期）－価値創造と社会・経済の活性化－」を閣議決定した。その前文においては、文化芸術の重要性について次のように説明されている【資料1】。

- 文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉。
- 我が国には、各地に魅力的な有形・無形の文化財が数多く存在し、雅楽・能楽・文楽・歌舞伎・組踊等の伝統芸能の上演が行われるなど、長い歴史を通じて地道な努力により今日まで受け継がれてきた誇るべき価値を有する。
- 現代の美術・音楽・演劇・舞踊等の芸術、映画・マンガ・アニメーション・ゲームといったメディア芸術、和食・日本酒等の食文化を含む生活文化、建築・ファッションなどは、世代を問わず人々の心を捉え、デジタル技術を芸術活動に活用するデジタル芸術というべき試みも多く生まれつつあり、我が国の文化芸術の幅の広さ、奥深さ、質の高さを示している。
- 新型コロナの感染拡大が、人々の身体的な接触を妨げ、心理的な距離も生じさせるなど多くの人々に行動変容を迫る困難にあって、文化芸術は、人々に安らぎ、勇気、希望を与えるという本質的価値が改めて認識され、その灯を消さぬよう次世代への継承の努力が継続。
- また、文化芸術は、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等との緊密な連携の下、デジタル化等の技術革新を取り入れながら、創造的な社会・経済活動の源泉として新たな価値や収益を生み、それが本質的価値の向上のために再投資される好循環を通じて、我が国の発展に寄与。
- 国際的にも多様性、包摂性、持続可能性をキーワードに、地球規模の課題の解決に向けた動きが活発化する中、人々のウェルビーイングの向上を図るためにも、文化芸術が果たすべき役割が増大。

本計画の推進にあたっては以下に挙げるような方策が重点的な取り組みとして示されている。

- 「文化芸術の担い手」となる団体関係者や文化芸術活動への支援強化、芸術教育の充実
- 我が国の有形・無形文化財、伝統芸能、ポップカルチャー、ライブ・エンタテインメント、現代アート等の多様な文化芸術のグローバルな展開
- 文化芸術の担い手の育成や振興拠点の強化

また文化庁は平成 23(2011)年より「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」を実施している。新進芸術家等が基礎や技術を磨くために必要な公演や展覧会などの実践的な研修機会を提供するとともに、創造・創作の源泉となる視野、見聞を広め、幅広い知識を得るためのワークショップ、セミナーの実施を通して、次代を担い、世界に通用する創造性豊かな芸術家等の育成を目的とする事業で、令和 5(2023)年度以降は、独立行政法人日本芸術文化振興会が舞台芸術等総合支援事業のメニューとして実施している。令和 5 年度は、採択件数合計 55 件のうち「音楽」「舞踊」「演劇」が 22 件で、助成金の 70%が交付され、特に演劇に対しては多くの交付金が割り当てられている。

次に、舞台芸術に関連する「ライブ・エンタテインメント産業」の市場規模推移を見ると、令和 2(2020)年には新型コロナウイルス感染症拡大により 6,295 億円から 1,106 億円と急激に縮小したものの、5 類移行後の令和 5(2023)年には、コロナ前の令和元(2019)年規模をわずかながら上回るまで回復している。今後も微増ではあるが着実に市場が伸びていくと予想されており、令和 17(2035)年には 6,732 億円規模の市場となる見込みである【資料 2】。また、「社会意識」に関する世論調査では、我が国の誇りに思うことの第 3 位に「優れた文化や芸術」が選ばれている【資料 3】。また、「国民生活」の世論調査では、自由時間の過ごし方として「映画鑑賞、コンサート、スポーツ観戦、演芸などの趣味・娯楽」が 4 割強となっており【資料 4】、国民の我が国の文化・芸術に対する認知度は高く、また、実際に会場へ足を運んで芸術鑑賞をすることへの意識も高いことがわかる。

舞台芸術系の就業人口を見ると、コロナ禍にも関わらず、舞台芸術系の就業人口は平成 22(2010)年以降一貫して増加傾向にある。増加の要因は、舞踊家、俳優、演出家、演芸家といった「パフォーマー」が増えていることによる【資料 5】。このことから、舞台芸術の担い手育成のニーズは今後も高まっていくと考えられる。

本学が立地する大阪府内においても、令和 3(2021)年 3 月に「第 5 次大阪府文化振興計画

～文化芸術が未来を切り拓く～」が策定された【資料 6】。この計画は「誰もが、文化芸術活動を通じて、自分らしくいきいきとした人生を送ることができる都市」の実現を目指したものであり、施策の基本方向「文化が都市を変革する」において、文化芸術の担い手の育成・支援について次の通り触れている。

文化芸術は、人々の創造性を育み、その表現力を高め、また、新たな需要や高い付加価値を生み出すことで質の高い経済活動を実現するなど、社会の様々な分野の発展に寄与するものであり、都市を変革する力を有しています。こうしたことから、文化芸術の担い手の育成・支援、多彩な大阪文化の活用、新たな文化の創造・発信、他文化との交流促進などを通じて、持続可能な文化芸術の振興や、さらなる都市魅力の向上等を図ります。

また令和 5(2023)年以降、大阪府内では「高槻城公園 芸術文化劇場（高槻市）」「扇町ミュージアムキューブ（大阪市北区）」「Sky シアターMBS（大阪市北区）」など中規模劇場・ホールが次々と誕生している。さらに「令和 7(2025)年 大阪・関西万博」の開催地である夢洲では、万博跡地を活用したまちづくりの方針として「統合型リゾート（IR）を中心としたまちづくり」を掲げており、魅力的なエンタテインメントが集積する国際観光拠点を目指すとしている【資料 7】。このことも、舞台芸術業界にとって大きな追い風になると考えられる。

以上より、全国的・地域的に文化芸術の重要性が認識されており、多様化・複雑化が進む今後の社会においてその価値はさらに向上していくと考えられる。それに応じて文化芸術の担い手育成に対するニーズも高まっていくと予想されることから、新学科で養成しようとする人材の需要は十分に確保できると見込まれる。

新学科においては、舞台芸術に関する専門知識のみならず、舞台・芸術・エンターテインメント・モノづくりに共同で取り組む中で、「コミュニケーション力」や「自ら考え抜きチャレンジし続ける力」を育むことにも重点を置いている。採用の観点から、大卒者に特に期待する資質として上位に挙がるものに「主体性」「チームワーク・リーダーシップ・協調性」「実行力」があるが、新学科で育む女性はまさにこうした資質を備えた女性である。この点でも、新学科で養成しようとする人材に対する需要が期待できる。

②中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

我が国の18歳女子人口の推移を見ると、平成17(2005)年には約57万人であったものが、令和5(2023)年は約54万人まで減少している。今後、令和17(2035)年には初めて50万人を割って約47万人となり、さらに令和22(2040)年には約40万人にまで減少する可能性が予測されている【資料8】。令和17(2035)年にかけての減少率はエリアによって差が大きく、最も減少率が高い東北エリアは19.9%減、最も減少率が低い南関東エリア（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）は5.1%減で、全国では11.7%減となっている【資料9】。

本学が位置する近畿エリアの18歳女子人口は13.1%減と、全国平均と比較すると減少率は低い。このことから、近畿エリアは全国各地域と比較して、人口減少の影響が比較的小さい地域であるといえる【資料9(再掲)】。次に、近畿エリアの大学進学者数・進学率(女子/現役)を見ていく。令和5(2023)年の大学進学者数は48,396人、大学進学率は61.1%となっており、9年前(平成26(2014)年)の大学進学者数42,992人、大学進学率50.1%と比較すると、大学進学者数・進学率いずれも上昇している【資料10】。大阪府だけで見ると、令和5(2023)年の大学進学者数は20,043人、大学進学率は60.4%であり、9年前(平成26(2014)年)の大学進学者数17,207人、大学進学率48.3%と比較して上昇しており、近畿エリア全体と比較して上昇率が高くなっている。

次に、大阪府の大学進学者(女子)の地元残留率は56.1%となっており、全国平均の47.2%を大きく上回っている。また、大学進学時の他県への流出数(9,457人)よりも他県からの流入数(11,670人)が約20%上回っていることから、18歳女子にとって大阪府の大学への進学は魅力あるものと考えられる。

以上より、近畿エリアは18歳女子人口の流出が少なく、大阪府を中心とした地元の大学へ進学していることから、安定した学生確保が可能な地域であるといえる。

③新設組織の主な学生募集地域

新学科の主な学生募集地域は、既設学部における入学者の出身地域で上位を占める近畿エリア(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県)の2府4県を想定している。

大阪府内において舞台芸術系の学部・学科・専攻を有する大学は3大学(大阪芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科、近畿大学 文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻、大手前大学 建築&芸術学部 映画・演劇専攻)あり、その入学定員数の合計は令和6(2024)年度時点で240人となっている【資料11】。以降では女子に限定した学生募集について見ていくため、便宜的に女子に割り当てられた定員数を115人(令和5(2023))年度における進学者の男女比である男子51.9%、女子48.1%より算出)と仮定する。これに新学科の40人を加えると、大阪府内の舞台芸術系の入学定員(女子)の合計は155人となる。

令和5(2023)年度における大阪府内の大学への進学者数(女子)を出身高校の所在地県別に見ていくと、次のようになる。

- ・大阪府(12,107人)
- ・兵庫県(2,903人)

- ・京都府（1,383人）
- ・奈良県（1,184人）
- ・和歌山県（675人）
- ・滋賀県（497人）

ここに、大学進学率が継続的に上昇している状況を考慮し、今後の大学進学率の上昇を加味した進学者数を求める。計算には近畿エリア全体の進学率を用いた。平成26(2014)年には50.1%だった女子の大学進学率が、令和5(2023)年には61.1%まで上昇していることから、直近9年間における1年あたりの平均上昇率は1.22%となる。

次のように仮定した時、令和17(2035)年における女子の大学進学率は70.5%となる。

※この上昇率が令和17(2035)年まで続くと仮定。

※男性の進学率が令和5(2023)年度（65.5%、直近9年間における1年あたりの平均上昇率は1.12%と比較して5pt以上上回った場合、+5ptを上限として以降据置き。

※女性の進学率が男性の進学率を上回った場合、以降を男性の進学率と同値と仮定。

母数となる18歳女子人口を一定とした場合、令和17(2035)年における大阪府内の大学への進学者数（女子）は次のようになる。

- ・大阪府（13,970人）
- ・兵庫県（3,350人）
- ・京都府（1,596人）
- ・奈良県（1,366人）
- ・和歌山県（779人）
- ・滋賀県（568人）

次に、18歳女子人口の減少を加味する。それぞれの府県について、令和7(2023)年の18歳女子人口を100とした時、令和17(2035)年の18歳女子人口は次の通りである。

- ・大阪府（87.9）
- ・兵庫県（88.3）
- ・京都府（84.2）
- ・奈良県（83.0）
- ・和歌山県（81.0）
- ・滋賀県（88.6）

以上より、令和17(2035)年の大阪府内の大学への進学者数（女子、出身高校所在地県別）は次のように予測できる。

- ・大阪府（12,279人）

- ・兵庫県 (2,958 人)
- ・京都府 (1,344 人)
- ・奈良県 (1,134 人)
- ・和歌山県 (631 人)
- ・滋賀県 (503 人)

このうち、舞台芸術系学部志望者の割合を、令和 5(2023)年における音楽／美術／舞台・演劇学分野志願者の割合 0.83%【資料 12】と同等とした場合、大阪府内の舞台芸術系学部への入学者数は次の通りとなる。

- ・大阪府 (102 人)
- ・兵庫県 (25 人)
- ・京都府 (11 人)
- ・奈良県 (9 人)
- ・和歌山県 (5 人)
- ・滋賀県 (4 人)

これらの人数を合計すると令和 17(2035)年時点の入学者数は 156 人となり、前述の定員数 155 人を上回る。また、本学既設学部においては中国・四国エリアからの入学者も存在し、新学科においてもこれら地域からの入学が見込まれる。このことから、今後の 18 歳人口の減少が見込まれる状況下においても、新学科では継続的に入学定員を確保できると考える。令和 17(2035)年と比較して令和 7(2025)年の 18 歳女子人口が多いことを踏まえると、令和 8(2026)年の開設時点においても問題なく入学定員を確保可能といえる。

④既設組織の定員充足の状況

既設学科の直近 5 年間の入学定員の充足状況は、【別紙 2】に示すとおりである。新学科と関連の深いマスコミ・パフォーマンス専攻を有する文化表現学部情報メディア学科の入学定員充足率は直近 5 年間の平均で 1.38 となっており、新学科でも定員の充足が可能であると考える。

なお、既設の国際英語学科の収容定員充足率は 0.68 で 0.7 倍未満となっているが、その要因としては、英語スキルの習得に焦点を当てた「国際英語学科」の名称が、変化する社会のニーズと乖離してしまった点が考えられる。現代のグローバル人材には英語スキルのみならず、国際社会に関する知識や異文化理解力が求められている。そこで、国際英語学科は令和 8(2026)年度に「国際教養学科」への学科名称変更を計画しており、時代に即した教育を提供していることを、新学科名を通して訴求していく。この施策により、定員充足率の向上を見込んでいる。この名称変更については令和 6(2024)年 10 月に運営委員会への事前相談を行っており、手続き可能との結果を伝達されている。

また、今回の新学科設置では大学全体の定員数の変更は行わず、主に定員未充足の既設学科からの定員振替を行う。これにより、国際英語学科の既設学科についても定員充足率の向上が見込まれる。さらに、令和 9(2027)年には文化表現学部の改組、令和 10(2028)年には食文化学部・看護保健学部の改組を計画(いずれも大学全体の定員数は据え置き)しており、令和 10(2028)年の梅花学園創立 150 周年に向けて教育内容の充実および情報発信の強化を進めていく。この施策により、既設組織においても定員の充足が可能であるとする。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

i) 大学案内パンフレット等の制作及び配付

梅花女子大学の理念やポリシー、各学科における学びの内容、就職サポート・就職実績、キャンパスライフ等に関する情報を掲載した大学案内パンフレットを制作し、資料請求者への郵送、高等学校への配付、進学イベントでの配布を行っている。

令和 5(2023)年度入試を対象としたパンフレットは 19,951 部配付した。このうち受験対象者数は 9,265 人、受験者数は 1,307 人(受験率 14.1%)、入学者数は 447 人(入学率 4.8%)と推定される。

令和 6(2024)年度入試を対象としたパンフレットは 22,813 部配付した。このうち受験対象者数は 10,046 人、受験者数は 948 人(受験率 9.4%)、入学者数は 407 人(入学率 4.1%)であったと推定される。

ii) オープンキャンパスの開催

受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設学部の特徴や養成する人材像の紹介、模擬授業、キャンパスツアー、個別相談を実施している。

令和 5(2023)年度入試を対象としたオープンキャンパス(令和 4(2022)年度実施)は 3 月から 12 月にかけて計 12 回開催し、計 3,483 人が参加した。うち 1,236 人が受験対象者であった。このうち受験者数は 596 人(受験率 48.2%)、入学者数は 316 人(入学率 25.6%)と推定される。

令和 6(2024)年度入試を対象としたオープンキャンパス(令和 5(2023)年度実施)は 3 月から 12 月にかけて計 11 回開催し、計 4,491 人が参加した。うち 1,337 人が受験対象者であった。このうち受験者数は 468 人(受験率 35.0%)、入学者数は 287 人(入学率 21.5%)であったと推定される。

iii) 進学相談会への参加

近畿地方、四国地方、中国地方、中部地方、関東地方の各地で開催される進学相談会にスタッフが赴き、教育内容や入試制度について、高校生や保護者からの相談に直接対応している。

令和 5(2023)年度入試を対象とした進学相談会(令和 4(2022)年度実施)には 1,060 人が参加した。うち 453 人が受験対象者であった。このうち受験者数は 113 人(受験率 24.9%)、入学者数は 47 人(入学率 10.4%)と推定される。

令和 6(2024)年度入試を対象とした進学相談会(令和 5(2023)年度実施)には 657 人が参

加した。うち 385 人が受験対象者であった。このうち受験者数は 102 人（受験率 26.5%）、入学者数は 92 人（入学率 23.9%）であったと推定される。

iv) 高等学校への訪問・説明

学生募集地域の高等学校をスタッフが訪問し、進路指導部の教員等に対して、就職状況、入試情報等について説明するとともに、オープンキャンパス告知、推薦入試への出願促進を行った。訪問対象は大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県を中心としている。

令和 5(2023)年度入試に向けての高校訪問では計 405 校を訪問し、訪問先の高校からは 12,625 件の資料請求があった。うち受験対象者数は 5,690 人であった。このうち受験者数は 943 人（受験率 16.6%）、入学者数は 391 人（入学率 6.9%）であったと推定される。

令和 6(2024)年度入試に向けての高校訪問では計 454 校を訪問し、訪問先の高校からは 12,855 件の資料請求があった。うち受験対象者は 6,311 人であった。このうち受験者数は 621 人（受験率 9.8%）、入学者数は 348 人（入学率 5.5%）であったと推定される。

イ 新設組織における取組とその目標

新学科の入学者を安定的に確保するため、従来から既設学科で実施している取組に加え、新学科独自の新たな取組を通して、高校生や保護者、高等学校教員をはじめ社会一般への認知度向上を図る。広報活動は既設学科を含めて全学的な組織で行い、対象地域は既設学科入学者の 95.4%を占める大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県・和歌山県を重点地域とし、各種広報ツールの活用やイベントの参加等を展開していく。対象者と対象地域を定めて各種の取組を展開することで、ターゲットとする対象者の新学科への認知度向上、興味関心度向上が効果として見込まれる。具体的な取組を以下に記載する。

i) 学科紹介リーフレット等の制作及び配付

新学科の名称や教育面の特徴、カリキュラムのポイント、理念・ポリシー等を掲載した「舞台芸術表現学科紹介リーフレット」【資料 13】やポスター等の各種ツールを制作し、新学科の認知度・理解度向上を図る。リーフレットについては高校生や保護者、高校教員への配付、梅花高等学校の芸術発表会を含むイベントでの配付を行う。

ii) 大学案内パンフレット等の制作及び配付

過去の大学案内に掲載している梅花女子大学の特色に加え、新学科の理念やカリキュラム、学習用施設・設備についても詳細に説明し、新学科に対する理解度のさらなる向上につなげる。

iii) オープンキャンパスの開催

例年3月から12月にかけて計12回開催しているオープンキャンパスについて、令和7年度も同時期に12回の開催を予定している。このオープンキャンパスで既設学部での取り組みに加え、新学科の学びの特徴紹介や模擬授業を実施するとともに、新学科に関する受験相談コーナーを設け、志願者の獲得につなげる。

iv) 進学相談会への参加

例年同様、各地で開催される進学相談会にスタッフが赴き、高校生や保護者からの相談に直接対応する。その中で新学科の情報を伝え、認知度・理解度向上を図る。

v) 付属校を含めた演劇・音楽関連の高等学校への訪問・説明

「舞台芸術コース」を有する本学付属校 梅花高等学校をはじめ、演劇・音楽関連のカリキュラムを展開している高等学校を重点的に訪問し、進路指導部の教員等に対して新学科の特長を説明する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

上記ア・イを踏まえ、新学科で同様の取り組みをした場合に見込まれる入学者数は次の通りとなる。

※受験対象者のうち「美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味あり」は全体の8.8%と仮定

※受験率および入学率は過去と同等（令和5(2023)年度・令和6(2024)年度の平均値）と仮定

i) 大学案内パンフレット等の制作及び配付による入学者数 37人

ii) オープンキャンパスの開催による入学者数 27人

iii) 進学相談会への参加による入学者数 6人

iv) 付属校を含めた演劇・音楽関連の高等学校への訪問・説明による入学者数 33人

計103人となるが、この入学者数は延べ数であり、重複を考慮した場合に見込まれる入学者数は57人となる（算出過程を以下に示す）。これは新学科の定員数40名を上回る人数である。

学生確保に関するアンケート調査【資料17】における「あなたはどのような方法で受験候補先の情報を収集していますか。」との質問に対して、以下の結果が得られた。

i) 大学案内等パンフレット 2,425人

ii) オープンキャンパス 2,117人

iii) 進学・入試説明会 800人

iv) 高校の先生に話を聞く 829人

延べ6,171人となるが、実数は3,381人であった。

$$3,381 \div 6,171 = 0.55$$

この比率を見込み入学者数（延べ数）に掛け合わせ、見込み入学者数（実数）を算出した。

$$103 \times 0.55 = 57$$

②競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

新学科の競合校としては、同一分野の学科を有し、関西エリアに位置する大阪芸術大学、京都芸術大学、近畿大学、芸術文化観光専門職大学を想定している。各校の特色と、それに対する新学科の優位性を以下に示す（詳細な競合校分析は【資料14】に記載）。

競合校の名称 および学部学科名称	競合校の特色	梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科の優位性
大阪芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科	業界との強力な連携を活かし、演技や舞台制作に加えて、映画や音楽などの「専門関連科目」を提供している。さらに、学生は自分が所属する学科以外の授業も受講することができる。	少人数制教育により、 <u>きめ細かな指導が行われ、舞台芸術業界との密接な連携を活かした実習機会が豊富で、学生の成長を支援する体制が整っている。</u>
京都芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科	芸術全般において深い理解を得られるカリキュラムを提供しており、舞台芸術分野でも高い専門性を誇る。特に、美術、デザイン、舞台技術の分野においては、専門性の高い教育が行われ、学生の自主性を尊重したカリキュラムが特徴である。	舞台芸術に特化し、より実践的な学びに重点を置いている。特に、 <u>宝塚歌劇団や梅田芸術劇場との協力により、舞台芸術の現場でプロから学ぶ体験が充実しており、学生は即戦力として活躍できる機会を多く提供している。</u>
近畿大学 文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻	舞台芸術関連の教育を芸術学部の一環として提供。演劇や舞踊などの舞台芸術を、創作から批評・研究まで広範囲に学ぶ。「演劇創作系」「舞踊創作系」「戯曲創作系」「TOP (Theatre	<u>舞台芸術、とりわけミュージカルに特化したカリキュラムや実践的な学びに強みがあり、少人数制で個別対応が行われるため、学生一人ひとりの成長に対するサポートが手厚い。ま</u>

	Organization Planning) 系」の4つの学びの角度から、豊かな表現力を培う。	た、舞台芸術業界との密接な連携により、実習やインターンシップの機会も豊富で、学生は業界の最前線で学びながら経験を積むことができる。
芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科	芸術文化と観光の融合をテーマにした教育を行っている。学生は、地域活性化における芸術文化と観光の役割を理解し、実践的なプログラムを通じてプロフェッショナルなスキルを習得する。	舞台芸術に特化したカリキュラムと実習の機会が豊富であり、「舞台芸術表現」の分野において、より深い実践的な教育を行っている。

これらに加えて、女性の個性を尊重し、学生の自立と自己表現を重視した教育を行っている点も本学ならではのポイントといえる。また、舞台芸術の本場であるロンドンへの研修に在籍者全員が参加し、国際的な視野を広げることができる点も他の大学にはない大きな強みである。

学生納付金補助や奨学制度も充実しており、経済的な理由で修学が難しい学生を支援する「澤山奨学金」や「特別奨学金」を提供している。特待生制度においては、学業成績やクラブ活動の実績に基づいて授業料の軽減を受けられる「一般S特待生」「指定強化クラブ特待生」「舞台芸術エレガンス特待生」等があり、修学支援に関しては競合校よりも柔軟かつ個別対応が進んでいる点も魅力といえる。

また就職支援では、前述したように実践的な舞台芸術教育に力を入れており、学生は、これにより実践的な経験を積むことができ、卒業後の舞台芸術分野での就職活動において大きな強みを得ることができる。

入試面においては、受験生の個性や能力に応じた多様な入試制度を設けており、受験生が自分に最適な入試方式を選択できるようになっている。AO入試（受験生の意欲や適性を評価）や総合型公募制学力入試（学力と総合的な能力を評価）、指定強化クラブ入試（特定のクラブ活動での実績を評価）、舞台芸術エレガンス入試（舞台芸術分野での適性を評価）、ファミリー入試（家族に本学の卒業生がいる受験生を対象）など、受験生は自分の学力や背景に最も適した方法で入試を受けることができる。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校となる学科等の過去3年間の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）を収集・集計した結果【資料15】、各大学とも志願者数の多少の変動はあるものの、安定的に志願者を集めている状況が見える。平均倍率も一定の競争水準を保

っている。また定員充足率も直近3年間の平均が100%を超えており、本学が参入するにあたり十分な志願者数を見込むことができる。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等

競合校の定員充足率がほぼ100%を超えているため割愛する。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

本学の舞台芸術表現学科の学生納付金（1,790,000円、2年次以降は1,670,000円）は、競合校と比較して適切な設定である。大阪芸術大学（1,840,000円）や京都芸術大学（1,920,000円）より低く、負担が少ない一方、十分な教育内容を提供している。全員参加のロンドン研修費もこの学費内に含まれている。また、少人数制教育や学外実習の充実により、学生に質の高い学びを提供するため、この納付金設定は妥当である。学内の既存リソースを活用し、過度な投資を避けつつ、舞台芸術の教育を高いレベルで実現しており、競争力のある金額となっている【資料16】。

③学生確保に関するアンケート調査

新学科の設置検討にあたり、学生募集におけるニーズを客観的に捉えるため、第三者機関に依頼し、高校2年生を対象に、アンケートによる調査を実施した【資料17】。調査概要は以下の通りである。

ア 調査の概要

目的	梅花女子大学が令和8(2026)年4月に設置を構想している舞台芸術表現学科について、本アンケート調査により学生確保の見通しを測ることを目的とする。
対象	梅花女子大学既設学部への志願状況、学力水準および所在地等を踏まえて、調査対象高校52件を選定した。アンケート対象者は令和8(2026)年に大学入試を受験する可能性が最も高い、令和6(2024)年度現在の高校2年生とした。
時期	令和6(2024)年6月～12月
調査方法	各校の教職員の監督の下、 i) アンケート用紙と学科概要紹介リーフレット【資料13(再掲)】を配布する方式 ii) Webアンケート調査回答フォームの案内を記した依頼状と学科概要紹介リーフレットを送付し、Webアンケートに回答する方式 上記から方式を選択してもらい実施した。
調査内容	17問の選択枝式。 回答者の基本情報(性別、高校所在地等)、卒業後の進路、学びたい分野、梅花女子大学舞台芸術表現学科(仮称)の魅力・受験意向・入学意向等。
回収件数	4,351件

イ 調査結果のポイント

調査結果を基に、梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科が新設された場合の入学者数を算出したところ、126人以上の入学希望者が予想される結果となった。新学科の定員数40名を上回る人数であることから、学生確保の見通しは十分であると考えられる。算出の過程を以下に示す。

「卒業後の進路」「進学を希望する場合の大学等の設置者」「興味のある学問分野」「新設組織の受験希望の有無」「新設組織に合格した場合の入学希望の有無」の条件に基づきクロス集計を行ったところ、次の結果となった。

i) 「大学進学希望」は3,105人(71.4%)であった。

ii) 「大学進学希望」かつ「私立大学を志望」は2,659人(61.1%)であった。

iii) 「大学進学希望」かつ「私立大学を志望」かつ「美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味あり」は479人(11.0%)であった。

iv) 上記iiiのうち、

「新学科を第一志望で受験」「新学科への入学を希望する」と回答したのは3人

「新学科を第二志望で受験」「新学科への入学を希望する」と回答したのは7人

「新学科を第三志望以降で受験」「新学科への入学を希望する」と回答したのは1人であった。

ウ 調査結果から類推される学生確保の見通し

新学科への明確な入学意向(「新学科を第一志望で受験」かつ「新学科への入学を希望する」)が確認されたのは3人であったが、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者の入学も見込まれる。第二志望で新学科を受験するのは24人であるが、第一志望に落ちて第二志望大学に合格する割合を18.9%とした時【資料18】、新学科に入学するのは5人と予測される。次に、第三志望以降で新学科を受験するのは53人であるが、第一・第二志望に落ちて第三志望以降の大学に合格する割合を12.6%とした時【資料18(再掲)】、新学科に入学するのは7人と予測される。

ここまでの試算で入学が予測されるのは15人となった。ただし本調査は、上記概要に示した通りサンプル調査であるため、調査対象としなかった高校や、回答を得られなかった高校からの新学科入学希望者がいることも想定できる。そこで以下の仮定の基、入学希望者の予測値を算出した。

i) 本学既設学部入学者の96.2%が近畿エリア(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県)出身である現状から、上記試算による「入学意向者」15人についても近畿エリア出身者と仮定する。

ii) 令和5年度学校基本調査によると、近畿エリアの高等学校に在籍する2年の女子生徒数は大阪府32,878人、兵庫県19,938人、京都府10,691人、奈良県4,908人、和歌山県3,501人、滋賀県5,592人の合計77,508人である。

iii) 今回の進学需要調査は回答者の高校所在地別に回答数を確認しており、大阪府2,925人(69.1%)、兵庫県463人(10.9%)、京都府383人(9.1%)、奈良県267人(6.3%)、滋賀県57人(1.3%)の近畿エリアで合計4,095人(96.8%)から回答を得ている。これは、上記ii)の「近畿エリアの高等学校に在籍する2年の女子生徒数77,508人」の5.3%にあたる。

以上の予測から、新学科において126人以上の入学希望者が見込め、学生確保の見通しは十分であると考える。

エ、学生確保の見通しに関する追加アンケート調査

1. 追加アンケートについて

定員を充足できる根拠として、令和7(2025)年3月1日～6月22日の期間に受験対象となる令和8年(2026)年卒業の高校3年生女子を対象とした追加アンケートを実施し、定員充足の見通しの検証を行った。結果、第一希望者は42名となった。舞台芸術という専門分野の特性上、関連する学びのある高等学校などでは入学意向が高くなり、また、特にオープンキャンパス来場かつ舞台芸術表現学科ワークショップ参加者は、第1志望で入学を希望する生徒が多いことがわかった。指向性の高い分野のため絞られているターゲットからは入学意向が強く出ており、結果、分野興味層への丁寧なアプローチを繰り返していくことが重要であることがわかった。

【令和7(2025)年3月1日～6月22日追加アンケートクロス集計の合計】

	1.卒業後の進路	2.進学を希望する場合の大学等の設置者	3.興味のある学問分野	4.新設組織の受験希望の有無	5.新設組織に合格した場合の入学希望の有無	入学意向者計
第一希望	44	44	44	42	42	42
第二希望	53	53	53	35	8	8
第三希望	29	29	29	11	3	3

以下は、時期別アンケート内訳

追加1

実施時期：令和7(2025)年5月25日、6月8日、6月22日

実施場所：梅花女子大学オープンキャンパス

対象者：高校3年生 女子

重複者：なし

アンケート：「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・構想中）入学意向アンケート調査」

	1.卒業後の進路	2.進学を希望する場合の大学等の設置者	3.興味のある学問分野	4.新設組織の受験希望の有無	5.新設組織に合格した場合の入学希望の有無	入学意向者計
第一希望	21	21	21	21	21	21
第二希望	7	7	7	7	2	2
第三希望	0	0	0	0	0	0

追加2

実施時期 : 令和7(2025)年3月1日～5月6日

実施場所 : 進学ガイダンス・オープンキャンパス来場者

対象者 : 高校3年生 女子

重複者 : なし

アンケート:「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科(仮称・構想中)入学意向アンケート調査」

	1.卒業後の進路	2.進学を希望する場合の大学等の設置者	3.興味のある学問分野	4.新設組織の受験希望の有無	5.新設組織に合格した場合の入学希望の有無	入学意向者計
第一希望	13	13	13	13	13	13
第二希望	23	23	23	10	4	4
第三希望	16	16	16	4	2	2

追加3

実施時期 : 令和7(2025)年4月

対象者 : アンケート有効回答者:621名 高校3年生 女子

重複者 : なし

アンケート:「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科(仮称・構想中)入学意向アンケート調査」

	1.卒業後の進路	2.進学を希望する場合の大学等の設置者	3.興味のある学問分野	4.新設組織の受験希望の有無	5.新設組織に合格した場合の入学希望の有無	入学意向者計
第一希望	4	4	4	2	2	2
第二希望	14	14	14	9	2	2
第三希望	13	13	13	7	1	1

アンケート追加実施高校

No.	高校名	人数	No.	高校名	人数
1	咲くやこの花高校	15	16	相愛高校	不明
2	あべの翔学高校	304	17	須磨ノ浦高校	不明
3	クラーク記念国際高校	42	18	昇陽高校	不明
4	大阪国際高校	100	19	神戸龍谷高校	不明
5	金光大阪高校	4	20	金沢商業高校	不明
6	帝塚山学院泉ヶ丘高校	6	21	如水館高校	不明
7	甲南女子高校	100	22	清林館高校	不明
8	夙川高校	3	23	相模女子大学高等部	不明
9	賢明女子学院高校	3	24	滋賀学園高校	不明
10	帝塚山高校	2	25	履正社高校	不明
11	追手門学院大手前高校	6	26	愛知工業大学名電高校	不明
12	精華高校	6	27	千葉明德高校	不明
13	日ノ本学園高校	4			
14	大商学園高校	6			
15	大阪産業大学	5			
		計			606

追加4

梅花高等学校舞台芸術専攻生徒を対象に追加でアンケート実施

実施時期 : 令和7(2025)年4月

対象者 : 梅花高校舞台芸術専攻3年生

アンケート内容: 大学案内・学科説明後に改めて梅花高校3年生舞台芸術専攻在籍者のみ追加アンケートを実施した。

(クロス集計による試算)

	1.卒業後の進路	2.進学を希望する場合の大学等の設置者	3.興味のある学問分野	4.新設組織の受験希望の有無	5.新設組織に合格した場合の入学希望の有無	入学意向者計
第一希望	6	6	6	6	6	6
第二希望	9	9	9	9	0	0
第三希望	0	0	0	0	0	0

2, 内部進学者への施策について

梅花中学校・高等学校は、宝塚音楽学校に合格者が131名（記録上残されている件数）おり日本最多である。梅花高等学校に舞台芸術専攻が設置されて以降は、12年連続合格者がいる。その他、劇団四季、テーマパークダンサーとして就職した卒業生も多数いる。令和7(2025)年4月現在、梅花高等学校舞台芸術専攻に105名、梅花中学校に73名、キッズスクールに229名が通っており、身体表現、舞台芸術への指向性の高い次世代が学園内に在籍しており、将来的な入学生としても期待できる。3月、4月、5月に内部進学者への説明会を実施。令和7(2025)年4月から高大連携の一環として、梅花中学校・高等学校の舞台芸術コースでのダンス授業を、「梅花歌劇団 劇団この花」や大学の授業で指導している教員で、舞台芸術表現学科でも授業科目を担当予定の教員が3名指導に入っている。また、舞台芸術表現学科就任予定教員の演出作品の観劇なども実施している。中学生・高校生が舞台芸術に、様々な視点から造詣が深まるような連携を一層図っていく予定がある。

3, 募集について

① 広報活動

アンケート結果に加え、昨今の入試の早期化傾向、新設時広報といったことを鑑み、実際の広報活動も高校訪問だけにとどまらず、ダンススクール、ミュージカル上演劇場をはじめ指向性が高い高校生へのアプローチも実践している。募集エリアは、大阪の北摂エリアで18歳人口の減少が少ないエリアであり、ダンススクール、バレエスクールをはじめ文化的な習い事をしている家庭の多いエリアとなっている。また、大阪の北摂エリアには同様の学びを専門的に学ぶことのできる大学がないことから受験生のニーズがあると考えている。エンターテインメント事業を専門としている本学園理事長もトップセールスとして、演劇、ダンスなどを強化している高等学校に訪問を繰り返している。近隣公立高校には、宝塚北高等学校、咲くやこの花高等学校、東住吉高等学校をはじめ演劇関連学科が設置されている高等学校が複数ある。高校訪問等では、積極的な進学先として高大連携についても準備が進んでいる。専門性の高い分野であることを鑑み、丁寧に広報活動および直接的説明を繰り返していく。

② オープンキャンパスからの出願者

具体的には、オープンキャンパスのワークショップでは、「梅花歌劇団 劇団この花」在籍の学生と一緒にいき、ワークショップ終了後は座談会を行っている。講師からのアドバイスコメントも渡しコミュニケーションを重ね、リピーターも増えている。7月からのオープンキャンパスについても引き続き、丁寧に説明や対応を重ねていき出願につながるよう施策を行う。

④人材需要に関するアンケート調査等

新学科卒業生のニーズを客観的に捉えるため、就職が想定される業種の事業所を対象に人材需要の見通し調査を第三者機関に依頼し、アンケートによる調査を実施した【資料 19】。調査概要は以下の通りである。

ア 調査の概要

目的	梅花女子大学が令和 8（2026）年 4 月に設置を構想している舞台芸術表現学科について、本アンケート調査により人材需要の見通しを測ることを目的とする。
対象	近隣府県と東京都を対象として、梅花女子大学舞台芸術表現学科を卒業後に採用が想定される企業 147 社に回答を依頼した。
時期	令和 6（2024）年 6 月～7 月
調査方法	調査対象先の採用担当者宛てに Web アンケート調査回答フォームの案内を記した依頼状と学科概要紹介リーフレット【資料 13（再掲）】を送付し、Web アンケートによる調査を実施した。
調査内容	12 問の選択肢式。 回答企業の基本情報（所在地、業種、従業員数）、採用活動の実績、梅花女子大学舞台芸術表現学科の卒業生に対する採用意向等。
回収件数	107 件

イ 調査結果のポイント

- i) 新卒採用時に期待する知識・スキル（複数回答可）については、「プレゼンテーション力」が 57.0%と最も多く、次に「企画・プロデュース」が 53.3%と多かった。新学科では、自らの感情や思考を創造的な表現で発信できる人材の養成を目標としており、この点が企業のニーズと合致しているといえる。
- ii) 新学科に対して「興味関心がある」との回答は 32.7%、「ある程度興味関心がある」との回答は 38.3%で、約 7 割の企業が興味関心を寄せられている。
- iii) 新学科の卒業生が「採用対象になる」との回答は 35 件（32.7%）、「おそらく採用対象になる」との回答は 25 件（23.4%）で、両者を合わせると 60 件（56.1%）となった。

ウ 調査結果から類推される人材需要の見通し

新学科の卒業生の採用意向については、「採用対象になる」「おそらく採用対象になる」とした企業は 60 件（56.1%） となっており、新学科の定員 40 人を上回る企業が採用の意向を示す結果となった。本調査はサンプル調査であり、調査対象としなかった企業、そして回答を得られなかった企業からの新学科卒業生採用意向が潜在することも想定できる。これらを勘案すると、新学科卒業生の人材需要は十分であると考えられる。

(4) 新設組織の定員設定の理由

既設の文化表現学部情報メディア学科マスコミ・パフォーマンス専攻でも舞台芸術関係の科目を提供しており、例として「ヴォイストレーニング基礎演習」は例年 30 人程度、「バレエ I (入門)」は例年 20 人程度、「バレエ II (基礎)」は例年 15 人程度の学生が履修している。また、学内に有する劇団「劇団この花」には毎年 10 数人の学生が所属して活動を行っている。こうした舞台芸術関連の学びに興味がある学生を新学科に取り込めると予想している。さらに、付属校の梅花高等学校に設置された「舞台芸術コース」には 1 学年に約 35 人の生徒が在籍している。これまでは他大学の舞台芸術関連学科に進学していたが、一定数が新学科に入学すると見込まれる。こうした現状と、少人数制の質の高い教育を提供していくことを考え、定員を 40 人と設定した。

文化芸術の社会的価値の高まりや、大阪府内における舞台芸術系学部・学科・専攻への志願動向、高校生および企業のニーズ等からも、この定員設定は適切かつ合理性があるといえる。

なお今回の新学科設置では、大学全体の定員数の変更は伴わない。既存の学部学科編成では継続的な入学者確保が困難であると判断し、既設学科の定員を一部新学科に振り替える形とした。今の時代に求められる新学科を設置することによって、大学全体としての定員充足率向上を図っていく。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

別紙 1	新設組織が置かれる都道府県への入学状況	2
別紙 2	既設学科等の入学定員の充足状況	3
別紙 3	既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績	12
資料 1	文化庁 文化芸術推進基本計画の概要	13
資料 2	ぴあ総研 ライブ・エンタテインメント市場規模の将来予測	17
資料 3	内閣府 社会意識に関する世論調査 令和 5 年 11 月（抜粋）	19
資料 4	内閣府 国民生活に関する世論調査 令和 6 年 8 月（抜粋）	21
資料 5	舞台芸術系就業人口の推移	23
資料 6	第 5 次大阪府文化振興計画（抜粋）	24
資料 7	夢洲のまちづくり	28
資料 8	18 歳人口（男女別）の将来推計	30
資料 9	リクルート進学総研 マーケットリポート 2023（全国版）（抜粋）	31
資料 10	リクルート進学総研 マーケットリポート 2023（近畿版）（抜粋）	34
資料 11	舞台芸術系学科募集定員推移（関西）	38
資料 12	リクルート進学総研 【都道府県別×学問分野別】学科・定員数・志願者数の状況 2023	39
資料 13	梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科リーフレット	41
資料 14	競合校分析	43
資料 15	競合校の入学志願動向	44
資料 16	競合校の初年度学校納入金	45
資料 17	学生確保に関するアンケート調査報告書	46
資料 18	じゅけラボ予備校 大学受験の合否結果に関する調査（抜粋）	78
資料 19	人材需要に関するアンケート調査報告書	80

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位5都道府県）※令和6年度、女子

	都道府県名	人 数	構成比
1	大阪府	12,080人	50.2%
2	兵庫県	2,875人	12.0%
3	京都府	1,432人	6.0%
4	奈良県	1,195人	5.0%
5	和歌山県	672人	2.8%
	全 体	24,042人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	大阪府	102.97%	101.38%	101.46%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	芸術系学部（大学）	105.50%	105.32%	104.77%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2-1

大学学部学科等名：梅花女子大学 文化表現学部 情報メディア学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		13人	10人	36人	33人	23人	
	延べ人数	志願者数		16人	13人	43人	47人	30人
		受験者数		16人	12人	43人	45人	29人
		合格者数		15人	12人	40人	42人	27人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		1人	0人	3人	3人	2人
	実人数	志願者数		16人	13人	23人	30人	21人
		受験者数		16人	12人	23人	28人	20人
		合格者数		15人	12人	23人	28人	20人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		1人	0人	3人	3人	2人
	入学者数		8人	12人	15人	19人	14人	
	学校推薦型選抜	募集人数	18人	17人	20人	6人	16人	15人
		延べ人数	志願者数	185人	158人	100人	40人	39人
受験者数			182人	148人	88人	40人	39人	99人
合格者数			81人	81人	85人	40人	39人	65.2
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			4人	1人	0人	0人	0人	1
実人数		志願者数	98人	80人	63人	40人	39人	64
		受験者数	97人	80人	61人	40人	39人	63.4
		合格者数	62人	69人	61人	40人	39人	54.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	1人	0人	0人	0人	1
入学者数		49人	65人	56人	40人	39人	49.8	
一般選抜		募集人数	29人	17人	17人	15人	13人	18.2
		延べ人数	志願者数	243人	132人	117人	69人	34人
	受験者数		234人	118人	103人	67人	31人	110.6
	合格者数		33人	24人	40人	45人	22人	32.8
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		1人	0人	0人	1人	0人	0.4
	実人数	志願者数	78人	41人	36人	17人	18人	38
		受験者数	76人	37人	30人	17人	17人	35.4
		合格者数	18人	10人	13人	13人	14人	13.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0.4
	入学者数	10人	2人	6人	6人	5人	5.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3
		延べ人数	志願者数	17人	6人	14人	4人	3人
受験者数			17人	6人	14人	4人	3人	8.8
合格者数			3人	3人	9人	4人	3人	4.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	17人	6人	14人	4人	3人	8.8
		受験者数	17人	6人	14人	4人	3人	8.8
		合格者数	3人	3人	9人	4人	3人	4.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		2人	0人	1人	0人	0人	0.6	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		延べ人数	志願者数	11人	12人	5人	7人	4人
	受験者数		11人	12人	5人	7人	4人	7.8
	合格者数		11人	11人	3人	7人	4人	7.2
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	11人	12人	5人	7人	4人	7.8
		受験者数	11人	12人	5人	7人	4人	7.8
		合格者数	11人	11人	3人	7人	4人	7.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	11人	11人	3人	7人	4人	7.2	
	合計	募集人数	50人	50人	50人	60人	65人	55人
		延べ人数	志願者数	456人	324人	249人	163人	127人
受験者数			444人	300人	222人	161人	122人	250人
合格者数			128人	134人	149人	136人	110人	131人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			5人	2人	0人	4人	3人	3人
実人数		志願者数	204人	155人	131人	91人	94人	135人
		受験者数	201人	151人	122人	91人	91人	131人
		合格者数	94人	108人	98人	87人	88人	95人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	0人	4人	3人	3人
入学者数		72人	86人	78人	68人	67人	74人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	50人	50人	50人	60人	65人	55
入学定員充足率	1.44	1.72	1.56	1.13	1.03	1.38
歩留率	0.56	0.64	0.52	0.50	0.61	0.57

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

大学学部学科等名：梅花女子大学 文化表現学部 日本文化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		7人	6人	15人	14人	11人	
	延べ人数	志願者数		9人	7人	19人	24人	15人
		受験者数		9人	7人	18人	22人	14人
		合格者数		9人	7人	14人	20人	13人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	1人	1人	1人	1人
	実人数	志願者数		9人	7人	9人	10人	9人
		受験者数		9人	7人	8人	9人	8人
		合格者数		9人	7人	8人	9人	8人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	1人	1人	1人	1人
	入学者数		8人	6人	5人	7人	7人	
	学校推薦型選抜	募集人数	12人	11人	12人	3人	6人	9人
		延べ人数	志願者数	102人	89人	77人	16人	17人
受験者数			101人	79人	69人	16人	17人	56人
合格者数			61人	56人	62人	16人	17人	42.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			2人	3人	1人	0人	0人	1.2
実人数		志願者数	52人	46人	35人	16人	17人	33.2
		受験者数	51人	41人	34人	16人	17人	31.8
		合格者数	38人	36人	34人	16人	17人	28.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	3人	1人	0人	0人	1
入学者数		25人	25人	28人	16人	17人	22.2	
一般選抜		募集人数	15人	10人	10人	10人	8人	10.6
		延べ人数	志願者数	124人	79人	79人	39人	14人
	受験者数		121人	77人	78人	37人	13人	65.2
	合格者数		19人	20人	33人	31人	11人	22.8
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	2人	0人	1人	0人	0.6
	実人数	志願者数	40人	20人	21人	13人	2人	19.2
		受験者数	39人	19人	20人	12人	2人	18.4
		合格者数	7人	10人	10人	11人	2人	8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	2人	0人	1人	0人	0.6
	入学者数	5人	3人	2人	2人	0人	2.4	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	2人	2人	2人	2人	2.2
		延べ人数	志願者数	7人	0人	10人	2人	1人
受験者数			7人	0人	10人	2人	1人	4
合格者数			2人	0人	8人	2人	1人	2.6
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	7人	0人	10人	2人	1人	4
		受験者数	7人	0人	10人	2人	1人	4
		合格者数	2人	0人	8人	2人	1人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		0人	0人	1人	0人	1人	0.4	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		延べ人数	志願者数	0人	1人	3人	1人	3人
	受験者数		0人	1人	3人	1人	3人	1.6
	合格者数		0人	1人	3人	1人	3人	1.6
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	1人	3人	1人	3人	1.6
		受験者数	0人	1人	3人	1人	3人	1.6
		合格者数	0人	1人	3人	1人	3人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	1人	3人	1人	3人	1.6	
	合計	募集人数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
		延べ人数	志願者数	233人	178人	176人	77人	59人
受験者数			229人	166人	167人	74人	56人	138人
合格者数			82人	86人	113人	64人	52人	79人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			2人	5人	2人	2人	1人	2人
実人数		志願者数	99人	76人	76人	41人	33人	65人
		受験者数	97人	70人	74人	39人	32人	62人
		合格者数	47人	56人	62人	38人	32人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	5人	2人	2人	1人	2人
入学者数		30人	37人	40人	24人	28人	32人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	30人	30人	30人	30人	30人	30
入学定員充足率	1.00	1.23	1.33	0.80	0.93	1.06
歩留率	0.37	0.43	0.35	0.38	0.54	0.41

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		7人	6人	15人	14人	11人	
	延べ人数	志願者数		6人	4人	16人	20人	12人
		受験者数		5人	4人	14人	16人	10人
		合格者数		5人	4人	13人	12人	9人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数		6人	4人	5人	10人	6人
		受験者数		5人	4人	4人	10人	6人
		合格者数		5人	4人	4人	9人	6人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		5人	4人	2人	7人	5人	
	学校推薦型選抜	募集人数	12人	11人	12人	3人	6人	9人
		延べ人数	志願者数	101人	64人	25人	13人	9人
受験者数			95人	60人	23人	13人	9人	40人
合格者数			52人	43人	23人	13人	9人	28
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			5人	3人	3人	0人	0人	2.2
実人数		志願者数	56人	33人	17人	13人	9人	25.6
		受験者数	53人	33人	17人	13人	9人	25
		合格者数	41人	25人	17人	13人	9人	21
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	3人	3人	0人	0人	2.2
入学者数		28人	21人	12人	13人	9人	16.6	
一般選抜		募集人数	15人	10人	10人	10人	8人	10.6
		延べ人数	志願者数	171人	50人	43人	33人	1人
	受験者数		164人	46人	42人	31人	1人	56.8
	合格者数		28人	13人	34人	27人	1人	20.6
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		1人	2人	1人	0人	0人	0.8
	実人数	志願者数	71人	23人	12人	8人	1人	23
		受験者数	69人	21人	12人	8人	1人	22.2
		合格者数	18人	8人	10人	7人	1人	8.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	2人	1人	0人	0人	0.8
	入学者数	9人	3人	1人	2人	0人	3	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	2人	2人	2人	2人	2.2
		延べ人数	志願者数	6人	2人	5人	2人	1人
受験者数			6人	2人	5人	2人	1人	3.2
合格者数			2人	2人	5人	2人	1人	2.4
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	6人	2人	5人	2人	1人	3.2
		受験者数	6人	2人	5人	2人	1人	3.2
		合格者数	2人	2人	5人	2人	1人	2.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		延べ人数	志願者数	3人	3人	2人	2人	1人
	受験者数		3人	3人	2人	2人	1人	2.2
	合格者数		2人	3人	2人	2人	1人	2
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	3人	3人	2人	2人	1人	2.2
		受験者数	3人	3人	2人	2人	1人	2.2
		合格者数	2人	3人	2人	2人	1人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	2人	3人	2人	2人	1人	2	
	合計	募集人数	30人	30人	30人	30人	30人	30人
		延べ人数	志願者数	281人	125人	79人	66人	32人
受験者数			268人	116人	76人	62人	28人	110人
合格者数			84人	66人	68人	57人	24人	60人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			6人	5人	4人	0人	1人	3人
実人数		志願者数	136人	67人	40人	30人	22人	59人
		受験者数	131人	64人	40人	29人	22人	57人
		合格者数	63人	43人	38人	28人	21人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	5人	4人	0人	1人	3人
入学者数		39人	32人	19人	19人	17人	25人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	30人	30人	30人	30人	30人	30
入学定員充足率	1.30	1.07	0.63	0.63	0.57	0.84
歩留率	0.46	0.48	0.28	0.33	0.71	0.45

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		19人	14人	36人	25人	24人	
	延べ人数	志願者数		12人	6人	30人	34人	21人
		受験者数		11人	6人	30人	31人	20人
		合格者数		10人	5人	30人	28人	18人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	6人	2人	2人
	実人数	志願者数		12人	6人	18人	18人	14人
		受験者数		11人	6人	18人	16人	13人
		合格者数		10人	5人	18人	16人	12人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	6人	2人	2人
	入学者数		6人	5人	9人	10人	8人	
	学校推薦型選抜	募集人数	25人	21人	31人	6人	11人	19人
		延べ人数	志願者数	147人	115人	87人	28人	26人
受験者数			143人	108人	81人	28人	26人	77人
合格者数			81人	87人	81人	28人	26人	60.6
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			7人	4人	6人	0人	0人	3.4
実人数		志願者数	89人	74人	52人	28人	26人	53.8
		受験者数	88人	71人	50人	28人	26人	52.6
		合格者数	66人	66人	50人	28人	26人	47.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	7人	4人	6人	0人	0人	3.4
入学者数		50人	57人	33人	28人	26人	38.8	
一般選抜		募集人数	42人	27人	22人	15人	11人	23.4
		延べ人数	志願者数	155人	97人	51人	51人	24人
	受験者数		148人	87人	46人	49人	19人	69.8
	合格者数		52人	30人	38人	40人	19人	35.8
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	3人	0人	1人	2人	1.2
	実人数	志願者数	66人	36人	17人	11人	10人	28
		受験者数	63人	33人	17人	10人	9人	26.4
		合格者数	33人	15人	13人	7人	9人	15.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	3人	0人	1人	2人	1.2
	入学者数	22人	4人	3人	3人	2人	6.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3
		延べ人数	志願者数	10人	5人	6人	0人	0人
受験者数			10人	5人	6人	0人	0人	4.2
合格者数			4人	4人	6人	0人	0人	2.8
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
辞退者数			0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	10人	5人	6人	0人	0人	4.2
		受験者数	10人	5人	6人	0人	0人	4.2
		合格者数	4人	4人	6人	0人	0人	2.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		0人	0人	1人	0人	0人	0.2	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		延べ人数	志願者数	7人	5人	4人	2人	1人
	受験者数		7人	5人	4人	2人	1人	3.8
	合格者数		7人	5人	4人	2人	1人	3.8
	うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	7人	5人	4人	2人	1人	3.8
		受験者数	7人	5人	4人	2人	1人	3.8
		合格者数	7人	5人	4人	2人	1人	3.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	7人	5人	4人	2人	1人	3.8	
	合計	募集人数	70人	70人	70人	60人	50人	64人
		延べ人数	志願者数	319人	234人	154人	111人	85人
受験者数			308人	216人	143人	109人	77人	171人
合格者数			144人	136人	134人	100人	74人	118人
うち追加合格者数			0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数			7人	7人	6人	7人	4人	6人
実人数		志願者数	172人	132人	85人	59人	55人	101人
		受験者数	168人	125人	83人	58人	52人	97人
		合格者数	110人	100人	78人	55人	52人	79人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	7人	6人	7人	4人	6人
入学者数		79人	72人	46人	42人	39人	56人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	70人	70人	70人	60人	50人	64
入学定員充足率	1.13	1.03	0.66	0.70	0.78	0.86
歩留率	0.55	0.53	0.34	0.42	0.53	0.47

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		15人	12人	32人	32人	23人	
	延べ人数	志願者数		8人	9人	57人	54人	32人
		受験者数		7人	9人	55人	54人	31人
		合格者数		6人	9人	50人	50人	29人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	4人	3人	2人
	実人数	志願者数		8人	9人	28人	30人	19人
		受験者数		7人	9人	27人	30人	18人
		合格者数		6人	9人	27人	30人	18人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	4人	3人	2人
	入学者数		4人	9人	18人	20人	13人	
学校推薦型選抜	募集人数	19人	17人	22人	6人	12人	15人	
	延べ人数	志願者数	194人	161人	98人	39人	23人	103人
		受験者数	192人	151人	94人	39人	23人	100人
		合格者数	83人	115人	85人	39人	23人	69
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	5人	2人	1人	0人	2.4
	実人数	志願者数	99人	78人	43人	39人	23人	56.4
		受験者数	99人	76人	41人	39人	23人	55.6
		合格者数	63人	75人	41人	39人	23人	48.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	4人	5人	2人	1人	0人	2.4
	入学者数	52人	65人	35人	38人	23人	42.6	
一般選抜	募集人数	33人	20人	18人	14人	13人	19.6	
	延べ人数	志願者数	286人	154人	86人	64人	37人	125.4
		受験者数	268人	144人	81人	64人	33人	118
		合格者数	57人	29人	59人	52人	32人	45.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	2人	2人	0人	1
	実人数	志願者数	115人	55人	39人	23人	15人	49.4
		受験者数	110人	54人	38人	23人	14人	47.8
		合格者数	32人	14人	29人	20人	13人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	2人	2人	0人	1
	入学者数	24人	3人	8人	4人	5人	8.8	
共通テスト利用入試	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3	
	延べ人数	志願者数	10人	6人	6人	5人	3人	6
		受験者数	10人	6人	6人	5人	3人	6
		合格者数	4人	5人	5人	5人	3人	4.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	10人	6人	6人	5人	3人	6
		受験者数	10人	6人	6人	5人	3人	6
		合格者数	4人	5人	5人	5人	3人	4.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	2人	1人	1人	1人	1	
その他の特別選抜	募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!	
	延べ人数	志願者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2
		受験者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2
		合格者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2
		受験者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2
		合格者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	2人	5人	1人	2人	1人	2.2	
合計	募集人数	55人	55人	55人	55人	60人	56人	
	延べ人数	志願者数	492人	334人	200人	167人	118人	262人
		受験者数	472人	313人	191人	165人	114人	251人
		合格者数	146人	160人	159人	148人	109人	144人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	5人	4人	7人	3人	5人
	実人数	志願者数	226人	152人	98人	97人	72人	129人
		受験者数	221人	148人	95人	96人	71人	126人
		合格者数	101人	105人	85人	93人	70人	91人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	5人	4人	7人	3人	5人
	入学者数	78人	79人	54人	63人	50人	65人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	55人	55人	55人	55人	60人	56
入学定員充足率	1.42	1.44	0.98	1.15	0.83	1.16
歩留率	0.53	0.49	0.34	0.43	0.46	0.45

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		16人	12人	36人	32人	24人	
	延べ人数	志願者数		15人	9人	25人	19人	17人
		受験者数		15人	9人	25人	19人	17人
		合格者数		14人	9人	24人	17人	16人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数		15人	9人	14人	5人	11人
		受験者数		15人	9人	14人	5人	11人
		合格者数		14人	9人	14人	5人	11人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		13人	9人	10人	5人	9人	
	学校推薦型選抜	募集人数	21人	20人	27人	6人	12人	17人
延べ人数		志願者数	98人	93人	84人	22人	32人	66人
		受験者数	96人	89人	80人	22人	32人	64人
		合格者数	89人	84人	78人	22人	32人	61
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	1人	1人	0人	0人	0.6
実人数		志願者数	52人	49人	58人	22人	32人	42.6
		受験者数	52人	48人	56人	22人	32人	42
		合格者数	50人	47人	56人	22人	32人	41.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	1人	1人	0人	0人	0.6
入学者数		34人	38人	43人	22人	32人	33.8	
一般選抜		募集人数	36人	21人	18人	15人	13人	20.6
	延べ人数	志願者数	137人	89人	54人	21人	11人	62.4
		受験者数	128人	85人	50人	21人	9人	58.6
		合格者数	71人	46人	38人	19人	9人	36.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	0人	3人	0人	0人	1.2
	実人数	志願者数	66人	34人	12人	3人	5人	24
		受験者数	61人	32人	11人	3人	4人	22.2
		合格者数	45人	19人	10人	3人	4人	16.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	0人	1人	0人	0人	0.8
	入学者数	18人	2人	1人	0人	3人	4.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3
延べ人数		志願者数	10人	2人	8人	2人	0人	4.4
		受験者数	10人	2人	8人	2人	0人	4.4
		合格者数	8人	2人	7人	2人	0人	3.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	10人	0人	8人	2人	0人	4
		受験者数	10人	2人	8人	2人	0人	4.4
		合格者数	8人	2人	7人	2人	0人	3.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		2人	0人	0人	1人	0人	0.75	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	4人	6人	1人	5人	4人	4
		受験者数	4人	6人	1人	5人	4人	4
		合格者数	4人	5人	1人	5人	4人	3.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	4人	6人	1人	5人	4人	4
		受験者数	4人	6人	1人	5人	4人	4
		合格者数	4人	5人	1人	5人	4人	3.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	4人	5人	1人	5人	4人	3.8	
	合計	募集人数	60人	60人	60人	60人	60人	60人
延べ人数		志願者数	249人	205人	156人	75人	66人	150人
		受験者数	238人	197人	148人	75人	64人	144人
		合格者数	172人	151人	133人	72人	62人	118人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	4人	1人	0人	2人
実人数		志願者数	132人	104人	88人	46人	46人	83人
		受験者数	127人	103人	85人	46人	45人	81人
		合格者数	107人	87人	83人	46人	45人	74人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	2人	1人	0人	2人
入学者数		58人	58人	54人	38人	44人	50人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	60人	60人	60人	60人	60人	60
入学定員充足率	0.97	0.97	0.90	0.63	0.73	0.84
歩留率	0.34	0.38	0.41	0.53	0.71	0.47

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		9人	7人	22人	21人	15人	
	延べ人数	志願者数		26人	17人	54人	36人	33人
		受験者数		26人	17人	52人	36人	33人
		合格者数		21人	16人	50人	36人	31人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		3人	0人	4人	2人	2人
	実人数	志願者数		26人	17人	22人	19人	21人
		受験者数		26人	17人	21人	19人	21人
		合格者数		21人	16人	21人	19人	19人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		3人	0人	4人	2人	2人
	入学者数		18人	16人	13人	11人	15人	
	学校推薦型選抜	募集人数	14人	12人	14人	2人	5人	9人
延べ人数		志願者数	144人	128人	81人	16人	10人	76人
		受験者数	142人	121人	77人	16人	10人	73人
		合格者数	118人	84人	76人	16人	10人	60.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	7人	6人	0人	0人	5
実人数		志願者数	83人	50人	39人	16人	10人	39.6
		受験者数	83人	47人	38人	16人	10人	38.8
		合格者数	77人	38人	38人	16人	10人	35.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	7人	6人	0人	0人	5
入学者数		30人	25人	27人	16人	10人	21.6	
一般選抜		募集人数	23人	17人	17人	14人	12人	16.6
	延べ人数	志願者数	91人	110人	71人	37人	26人	67
		受験者数	85人	107人	65人	32人	23人	62.4
		合格者数	35人	23人	32人	28人	16人	26.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	36人	35人	26人	16人	9人	24.4
		受験者数	32人	34人	24人	15人	9人	22.8
		合格者数	21人	11人	12人	13人	6人	12.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	10人	1人	4人	2人	2人	3.8	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	2人	2人	2人	2人	2.2
延べ人数		志願者数	4人	2人	4人	1人	1人	2.4
		受験者数	4人	2人	4人	1人	1人	2.4
		合格者数	3人	1人	4人	1人	1人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	4人	2人	4人	1人	1人	2.4
		受験者数	4人	2人	4人	1人	1人	2.4
		合格者数	3人	1人	4人	1人	1人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		0人	1人	0人	0人	0人	0.2	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
		受験者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
		受験者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
		合格者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	0人	2人	0人	0.4	
	合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
延べ人数		志願者数	239人	266人	173人	110人	73人	172人
		受験者数	231人	256人	163人	103人	70人	165人
		合格者数	156人	129人	128人	97人	63人	115人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	10人	6人	4人	2人	7人
実人数		志願者数	123人	113人	86人	57人	39人	84人
		受験者数	119人	109人	83人	55人	39人	81人
		合格者数	101人	71人	70人	53人	36人	66人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	10人	6人	4人	2人	7人
入学者数		40人	45人	47人	33人	23人	38人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.00	1.13	1.18	0.83	0.58	0.94
歩留率	0.26	0.35	0.37	0.34	0.37	0.34

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		18人	12人	42人	42人	29人	
	延べ人数	志願者数		71人	18人	207人	115人	103人
		受験者数		70人	18人	195人	110人	98人
		合格者数		29人	15人	126人	103人	68人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		4人	0人	11人	8人	6人
	実人数	志願者数		71人	18人	117人	69人	69人
		受験者数		70人	18人	111人	65人	66人
		合格者数		29人	15人	88人	62人	49人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		4人	0人	11人	8人	6人
	入学者数		21人	15人	50人	33人	30人	
	学校推薦型選抜	募集人数	37人	26人	38人	13人	15人	26人
延べ人数		志願者数	363人	437人	248人	55人	43人	229人
		受験者数	355人	430人	231人	55人	43人	223人
		合格者数	177人	121人	128人	55人	43人	104.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	6人	9人	0人	0人	4.8
実人数		志願者数	207人	229人	158人	55人	43人	138.4
		受験者数	202人	225人	148人	55人	43人	134.6
		合格者数	121人	102人	105人	55人	43人	85.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	9人	6人	9人	0人	0人	4.8
入学者数		83人	87人	89人	55人	43人	71.4	
一般選抜		募集人数	49人	43人	37人	32人	30人	38.2
	延べ人数	志願者数	336人	436人	243人	139人	85人	247.8
		受験者数	320人	413人	224人	129人	82人	233.6
		合格者数	68人	50人	75人	44人	39人	55.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	3人	2人	2人	0人	2
	実人数	志願者数	162人	215人	118人	77人	47人	123.8
		受験者数	157人	203人	110人	72人	45人	117.4
		合格者数	43人	31人	43人	29人	24人	34
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	3人	2人	2人	0人	2
	入学者数	18人	8人	11人	8人	11人	11.2	
	共通テスト利用入試	募集人数	4人	3人	3人	3人	3人	3.2
延べ人数		志願者数	11人	13人	5人	7人	4人	8
		受験者数	11人	13人	5人	7人	4人	8
		合格者数	3人	3人	2人	5人	4人	3.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	11人	13人	5人	7人	4人	8
		受験者数	11人	13人	5人	7人	4人	8
		合格者数	3人	3人	2人	5人	4人	3.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		1人	0人	1人	1人	0人	0.6	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
	延べ人数	志願者数	1人	0人	1人	2人	2人	1.2
		受験者数	0人	0人	1人	2人	2人	1
		合格者数	0人	0人	1人	2人	2人	1
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	0人	1人	2人	2人	1.2
		受験者数	0人	0人	1人	2人	2人	1
		合格者数	0人	0人	1人	2人	2人	1
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	0人	0人	1人	2人	2人	1	
	合計	募集人数	90人	90人	90人	90人	90人	90人
延べ人数		志願者数	711人	957人	515人	410人	249人	568人
		受験者数	686人	926人	479人	388人	241人	544人
		合格者数	248人	203人	221人	232人	191人	219人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	13人	11人	13人	8人	11人
実人数		志願者数	381人	528人	300人	258人	165人	326人
		受験者数	370人	511人	282人	247人	159人	314人
		合格者数	167人	165人	166人	179人	135人	162人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	13人	11人	13人	8人	11人
入学者数		102人	116人	117人	116人	89人	108人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90
入学定員充足率	1.13	1.29	1.30	1.29	0.99	1.20
歩留率	0.41	0.57	0.53	0.50	0.47	0.50

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

1. 各選抜方法の状況

		2020	2021	2022	2023	2024	平均	
		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者		
総合型選抜	募集人数		20人	15人	42人	37人	29人	
	延べ人数	志願者数		39人	18人	34人	45人	34人
		受験者数		38人	18人	33人	43人	33人
		合格者数		31人	18人	30人	40人	30人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		2人	0人	0人	3人	1人
	実人数	志願者数		39人	18人	17人	21人	24人
		受験者数		38人	18人	16人	21人	23人
		合格者数		31人	18人	16人	21人	22人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数		2人	0人	0人	3人	1人
	入学者数		24人	17人	10人	11人	16人	
	学校推薦型選抜	募集人数	30人	21人	28人	7人	16人	20人
延べ人数		志願者数	125人	145人	72人	29人	37人	82人
		受験者数	119人	141人	68人	29人	37人	79人
		合格者数	113人	95人	64人	29人	37人	67.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	7人	3人	1人	0人	0人	2.2
実人数		志願者数	80人	68人	47人	29人	37人	52.2
		受験者数	77人	67人	47人	29人	37人	51.4
		合格者数	75人	60人	47人	29人	37人	49.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	7人	3人	1人	0人	0人	2.2
入学者数		46人	45人	38人	29人	37人	39	
一般選抜		募集人数	37人	26人	24人	18人	14人	23.8
	延べ人数	志願者数	150人	107人	38人	25人	21人	68.2
		受験者数	140人	101人	32人	23人	21人	63.4
		合格者数	66人	28人	27人	21人	9人	30.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0.4
	実人数	志願者数	65人	46人	13人	10人	7人	28.2
		受験者数	62人	43人	10人	10人	7人	26.4
		合格者数	34人	16人	9人	9人	3人	14.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0.4
	入学者数	26人	5人	2人	3人	1人	7.4	
	共通テスト利用入試	募集人数	3人	3人	3人	3人	3人	3
延べ人数		志願者数	2人	2人	4人	2人	3人	2.6
		受験者数	2人	2人	4人	2人	3人	2.6
		合格者数	2人	1人	4人	1人	2人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
実人数		志願者数	2人	2人	4人	2人	3人	2.6
		受験者数	2人	2人	4人	2人	3人	2.6
		合格者数	2人	1人	4人	1人	2人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
入学者数		1人	0人	0人	0人	1人	0.4	
その他の特別選抜		募集人数	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
	延べ人数	志願者数	1人	6人	4人	3人	0人	2.8
		受験者数	1人	6人	4人	2人	0人	2.6
		合格者数	1人	4人	4人	2人	0人	2.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	6人	4人	3人	0人	2.8
		受験者数	1人	6人	4人	2人	0人	2.6
		合格者数	1人	4人	4人	2人	0人	2.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数	1人	4人	4人	2人	0人	2.2	
	合計	募集人数	70人	70人	70人	70人	70人	70人
延べ人数		志願者数	278人	299人	136人	93人	106人	182人
		受験者数	262人	288人	126人	89人	104人	174人
		合格者数	182人	159人	117人	83人	88人	126人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	7人	1人	0人	3人	4人
実人数		志願者数	148人	161人	86人	61人	68人	105人
		受験者数	142人	156人	83人	59人	68人	102人
		合格者数	112人	112人	82人	57人	63人	85人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	7人	1人	0人	3人	4人
入学者数		74人	78人	61人	44人	50人	61人	

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	70人	70人	70人	70人	70人	70
入学定員充足率	1.06	1.11	0.87	0.63	0.71	0.88
歩留率	0.41	0.49	0.52	0.53	0.57	0.50

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：梅花女子大学 大学案内パンフレットの配付

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	19951人	22813人	①取組概要 梅花女子大学の理念やポリシー、各学科における学びの内容、就職サポート・就職実績、キャンパスライフ等に関する情報を掲載した大学案内パンフレットを制作。資料請求者への郵送、高等学校への配付、進学イベントでの配布を行った。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・受験対象者のうち「美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味あり」は全体の8.8%と仮定 ・受験率および入学率は過去と同等（令和5年度・令和6年度の平均値）と仮定 すると、新学科で同様の取り組みを行った場合の入学者数等の見込みは次の通り。 受験対象者数：9671×0.088=851人 受験者数：851×0.117=100人 入学者数：851×0.044=37人
うち受験対象者数(b)	9295人	10046人	
うち受験者数(c)	1307人	948人	
うち入学者数(d)	447人	407人	
(受験率 c/b)	14.1%	9.4%	
(入学率 d/b)	4.8%	4.1%	

※本学への資料請求者数を母数にしております。

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：梅花女子大学 全学オープンキャンパス

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	3483人	4491人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、キャンパスツアー、個別相談を実施した。 R5年度入試対象（R4開催）：計12回開催 (3/20, 4/29, 5/29, 6/5, 6/12, 7/17, 8/6, 8/7, 8/28, 9/11, 10/2, 12/11) R6年度入試対象（R5開催）：計11回開催 (3/19, 4/29, 5/28, 6/25, 7/17, 7/23, 8/6, 8/11, 8/27, 9/10, 11/12) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・受験対象者のうち「美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味あり」は全体の8.8%と仮定 ・受験率および入学率は過去と同等（令和5年度・令和6年度の平均値）と仮定 すると、新学科で同様の取り組みを行った場合の入学者数等の見込みは次の通り。 受験対象者数：1287×0.088=113人 受験者数：113×0.416=47人 入学者数：113×0.235=27人
うち受験対象者数(b)	1236人	1337人	
うち受験者数(c)	596人	468人	
うち入学者数(d)	316人	287人	
(受験率 c/b)	48.2%	35.0%	
(入学率 d/b)	25.6%	21.5%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：梅花女子大学 進学相談会

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	1060人	657人	①取組概要 近畿、四国、中国、中部、関東の各地で開催される進学相談会にスタッフが赴き、教育内容や入試制度について、高校生や保護者からの相談に対応した。 R5年度入試対象（R4開催）：計267回開催 R6年度入試対象（R5開催）：計196回開催 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・受験対象者のうち「美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味あり」は全体の8.8%と仮定 ・受験率および入学率は過去と同等（令和5年度・令和6年度の平均値）と仮定 すると、新学科で同様の取り組みを行った場合の入学者数等の見込みは次の通り。 受験対象者数：419×0.088=37人 受験者数：37×0.257=10人 入学者数：37×0.171=6人
うち受験対象者数(b)	453人	385人	
うち受験者数(c)	113人	102人	
うち入学者数(d)	47人	92人	
(受験率 c/b)	24.9%	26.5%	
(入学率 d/b)	10.4%	23.9%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：高等学校への訪問・説明

	R5年度入試	R6年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)※	12625人	12855人	①取組概要 学生募集地域の高等学校をスタッフが訪問し、進路指導部の教員等に対して、就職状況、入試情報等について説明するとともに、オープンキャンパス告知、推薦入試への出願促進を行った。訪問対象は大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県を中心としている。 R5年度入試対象（R4実施）：計405校を訪問 R6年度入試対象（R5実施）：計454校を訪問 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・受験対象者のうち「美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味あり」は全体の8.8%と仮定 ・受験率および入学率は過去と同等（令和5年度・令和6年度の平均値）と仮定 すると、新学科で同様の取り組みを行った場合の入学者数等の見込みは次の通り。 受験対象者数：6001×0.088=528人 受験者数：528×0.264=139人 入学者数：528×0.062=33人 ※高校訪問をしている高校からの資料請求者数を参加者等総数とみなしています。
うち受験対象者数(b)	5690人	6311人	
うち受験者数(c)	943人	621人	
うち入学者数(d)	391人	348人	
(受験率 c/b)	16.6%	9.8%	
(入学率 d/b)	6.9%	5.5%	
高校訪問回数 延べ	1038回	778回	

《基本計画の位置づけ・経緯》

- 文化芸術基本法において、文化芸術に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、政府が定めなければならないこととされている基本的な計画。
- 第1期計画期間が令和4年度で終了するため、令和5年度からの5か年を対象とした第2期計画の策定に向け、令和4年6月に文化審議会に諮問。
- 同審議会における有識者・団体ヒアリング、委員発表等を通じた集中的な審議を経て、令和5年3月に答申を受け、同月24日に閣議決定。

前文

- 文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、人々の心のつながりを強め、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉。
- 我が国には、各地に魅力的な有形・無形の文化財が数多く存在し、雅楽・能楽・文楽・歌舞伎・組踊等の伝統芸能の上演が行われるなど、長い歴史を通じて地道な努力により今日まで受け継がれてきた誇るべき価値を有する。
- 現代の美術・音楽・演劇・舞踊等の芸術、映画・マンガ・アニメーション・ゲームといったメディア芸術、和食・日本酒等の食文化を含む生活文化、建築・ファッションなどは、世代を問わず人々の心を捉え、デジタル技術を芸術活動に活用するデジタル芸術というべき試みも多く生まれつつあり、我が国の文化芸術の幅の広さ、奥深さ、質の高さを示している。
- 新型コロナの感染拡大が、人々の身体的な接触を妨げ、心理的な距離も生じさせるなど多くの人々に行動変容を迫る困難にあって、文化芸術は、人々に安らぎ、勇気、希望を与えるという本質的価値が改めて認識され、その灯を消さぬよう次世代への継承の努力が継続。
- また、文化芸術は、観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等との緊密な連携の下、デジタル化等の技術革新を取り入れながら、創造的な社会・経済活動の源泉として新たな価値や収益を生み、それが本質的価値の向上のために再投資される好循環を通じて、我が国の発展に寄与。
- 国際的にも多様性、包摂性、持続可能性をキーワードに、地球規模の課題の解決に向けた動きが活発化する中、人々のウェルビーイングの向上を図るためにも、文化芸術が果たすべき役割が増大。

第1：我が国の文化芸術を取り巻く状況

1. 第1期計画期間中における文化芸術を巡る主な動向

- ・文化庁の京都移転決定を契機として、文部科学省設置法を改正し、文化庁が中核となって「文化に関する施策を総合的に推進」する権限を新たに規定、「芸術に関する教育」や「博物館に関する事務」を文科省から文化庁へ移管。
- ・日本で初めて第25回ICOM（国際博物館会議）京都大会を開催し、その理念を踏まえ博物館法を改正。
- ・文化観光推進法を制定、日本博を展開。
- ・2度にわたり文化財保護法を改正。「文化財の匠プロジェクト」を策定。

2. 新型コロナウイルス感染症が文化芸術に与えた影響

- ・新型コロナの感染拡大により、文化芸術イベントは中止・延期・規模縮小、人々の行動自粛。
- ・文化芸術を専門的に支える個人や団体の文化芸術活動の減少、観光需要の減少、海外との文化交流の停滞、地域の祭礼等の中止、学校における子供の文化芸術活動の減少など極めて甚大な影響。
- ・改めて文化芸術の持つ本質的及び社会的・経済的価値の重要性とともに、今後有事が生じた場合の迅速な対応の必要性等について再認識。

3. 社会状況の変化

- ・デジタル化の急速な進展による表現形態の多様化、幅広い需要に応えられる創造空間の実現、NFTの活用など取引形態の多様化。
- ・急激な少子高齢化により、特に地方部での文化芸術の担い手が減少、鑑賞者など需要の減少・市場の縮小。
- ・国際的／地球規模の課題に対する文化芸術の貢献への認識の深まり。
- ・アジア発のコンテンツが興隆。我が国の文化芸術のグローバル展開が急務。

第2 第1期計画で示された施策の実施状況／達成状況の評価

○ 第1期計画における「今後5年間の文化芸術政策の基本的な方向性」の進捗状況に関し、文化審議会にて中間評価を実施。

【評価の概要】

- ・ 計画期間当初には戦略に掲げた目標の一定の進捗が見られたものの、令和2年以降は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、進捗が芳しくない、評価することが適切でないといった状況。

(課題)

- ・ コロナ禍において、我が国の文化芸術の担い手の活動基盤が脆弱であることが明らかに。安定的に活動を継続することができる環境の整備や、団体等の特性に応じた自律的・持続的な発展に資する取組の強化が課題。
- ・ アート市場活性化、文化観光の推進については、ポストコロナを見据え、市場の回復及び更なる振興が課題。
- ・ 新型コロナウイルスの影響を大きく受けた日本博については、2025年の大阪・関西万博に向けた一層の充実が課題。
- ・ 障害者をはじめ、誰でも文化芸術に触れることができる環境の充実が課題。
- ・ 文化芸術の担い手を確保するための方策を多面的・長期的に検討することが課題。
- ・ 地方公共団体における文化財保存活用に関する計画の作成の促進が課題。
文化芸術に対する寄附の受入れ拡大のため、文化芸術に対する寄附意識の醸成が課題。

第3：文化芸術政策の中長期目標

○ 中長期目標：「文化芸術基本法」に基づき策定された第1期計画の中で掲げられている「目標」を基本的に踏襲

中長期目標① 文化芸術の創造・発展・継承と教育・参加機会の提供

文化芸術の創造・発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていることを目指す。

中長期目標② 創造的で活力ある社会の形成

文化芸術に効果的な投資が行われ、イノベーションが生まれるとともに、文化芸術の国際交流・発信を通じて国家ブランドの形成に貢献し、創造的で活力ある社会が形成されていることを目指す。

中長期目標③ 心豊かで多様性のある社会の形成

あらゆる人々が文化芸術を通して社会に参画し相互理解が広がり、多様な価値観が尊重され、心豊かな社会が形成されていることを目指す。

中長期目標④ 持続可能で回復力のある地域における文化コミュニティの形成

地域の文化芸術を推進するためのプラットフォームが全国各地に形成され、多様な人材や文化芸術団体・諸機関が連携・協働し、持続可能で回復力のある地域における文化コミュニティが形成されていることを目指す。

第4：第2期計画における重点取組及び施策群

1. 第2期計画における重点取組：心豊かで活力ある社会を形成するため「文化芸術と経済の好循環」を実現すべく7つの重点取組を推進

	重点取組	主な取組例
1	ポストコロナの創造的な文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術水準の向上 ・ 文化芸術分野の活動基盤強化 ・ 文化芸術団体等の自律的・持続的な発展に資する支援の実施 ・ 文化芸術創造エコシステムの確立 ・ 我が国のアートの持続的発展の推進 ・ 映画・マンガ・アニメーション・ゲーム等のメディア芸術の振興 ・ ナショナルセンターとしての国立文化施設の機能強化 ・ 文化施設の運営等におけるPPP/PFI活用等による官民連携の促進
2	文化資源の保存と活用の一層の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「文化財の匠プロジェクト」の着実な推進 ・ 文化財の保存に関する集中的な取組 ・ 我が国固有の伝統芸能をはじめとする無形の文化財の保存・活用 ・ 地域の伝統行事等の振興と次世代への着実な継承 ・ 近現代建築の保存・活用の推進等による建築文化の振興
3	文化芸術を通じた次代を担う子供たちの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校における文化芸術教育の充実・改善と我が国の伝統文化の継承 ・ 子供たちが、文化芸術・伝統芸能等の本物に触れることができる鑑賞・体験機会の確保 ・ 文化部活動の円滑な地域連携・移行の促進
4	多様性を尊重した文化芸術の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず活動できる環境の整備 ・ 共生社会の実現に向けた障害者等による文化芸術活動への参画の促進 ・ 外国人に対する日本語教育の水準の維持向上による、日常生活及び社会生活を円滑に営むことができる環境整備 ・ 文化芸術活動の推進に当たっての多様な財源の確保方策の促進
5	文化芸術のグローバル展開の加速	<ul style="list-style-type: none"> ・ トップアーティスト等のグローバルな活動の支援を含む戦略的な文化芸術の海外発信 ・ 「日本博2.0」の推進をはじめとする世界中の人々を惹きつける開かれた文化芸術の拠点形成に向けた環境づくり ・ CBX*による海外展開の推進 ・ 世界の様々な国や地域を対象とした国際的な文化交流の充実 ・ 気候変動や持続可能な開発といった地球規模の課題への文化芸術政策としての対応
6	文化芸術を通じた地方創生の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の博物館・美術館等の機能強化・設備整備の促進 ・ 全国の劇場・音楽堂等の機能強化・設備整備の促進 ・ 文化観光拠点・地域や「世界遺産」、「日本遺産」等の文化資源を最大限活用した文化観光の推進 ・ 地方における文化芸術公演の積極的な展開の支援 ・ 食文化をはじめとする生活文化の振興 ・ 地域における文化芸術振興を推進する人材の育成と体制の整備・構築 ・ 公共空間等のアーティスト等への開放
7	デジタル技術を活用した文化芸術活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急速に進化するデジタル技術を活用した文化芸術活動の推進 ・ DX時代に対応し、権利保護と利用の円滑化を踏まえた著作権制度・政策の推進によるコンテンツ創作の好循環の実現 ・ 文化芸術のデジタル・アーカイブ化の促進、デジタル技術を用いた文化財の保存・活用 ・ 文化芸術と科学技術をつなぐ研究開発の促進

第4：第2期計画における重点取組及び施策群

2. 第2期計画における施策群

第2期計画期間中、効果的かつ着実に文化芸術政策を推進するために16の施策群を整理し、具体的な取組を詳細に設定。

- ① コロナ禍からの復興と文化芸術水準の向上等
- ② 基盤強化、自律的運営による文化芸術の持続可能な発展
- ③ 「文化財の匠プロジェクト」の推進等による文化資源の保存と活用の好循環の構築
- ④ 国際協力を通じた文化遺産の保存・活用（世界文化遺産・無形文化遺産等）
- ⑤ 国土強靱化に資する文化財の防火・防災対策の推進
- ⑥ 文化芸術教育の改善・充実、子供たちによる文化芸術鑑賞・体験機会の確保
- ⑦ 障害者等の文化芸術の参画促進による共生社会の実現
- ⑧ 国語の振興、国内外での日本語教育の推進
- ⑨ 世界を視座とした戦略的な文化芸術の展開
- ⑩ 海外との連携による文化芸術の好循環の創出
- ⑪ 国立美術館・博物館、国立劇場等の文化振興のナショナルセンターとしてのマネジメント機能の強化、博物館行政の充実
- ⑫ 地域における文化芸術振興拠点の整備・充実
- ⑬ 文化観光の推進による好循環の創出
- ⑭ 食文化をはじめとした生活文化の振興
- ⑮ デジタル技術を活用した文化芸術の振興
- ⑯ DX時代に対応した著作権制度の構築

第5：第2期計画推進のために必要な取組

1. 社会課題に適時的確に対応するための政策形成・評価と体制構築

- 多様なデータと分析に基づくロジックモデルの構築、モニタリング指標やデータに基づく実態把握、状況の変化に応じた機動的かつ柔軟な施策の改善。
- 国内外の文化芸術活動・施策の動向把握や文化芸術の持つ価値の評価等のため、大学や独立行政法人等と連携し調査機能を強化。

2. 第2期計画の戦略的な広報・普及活動の展開

- 広報ツール（SNS、動画配信サービス等）の活用や、対象となる層に応じた情報提供を実施。

3. 国・地方公共団体等が一体となった文化芸術の振興

- 地方公共団体に対して、第2期文化芸術推進基本計画を参酌した「地方文化芸術推進基本計画」の改定・策定を促進。こうした地方公共団体の取組を促すため、国としても必要な情報提供等を実施。
- 地方公共団体において、文化芸術の振興を通じて地域の諸課題解決のための継続的な取組に関係部局等が一体となって取り組めるよう、文化芸術担当部局に限らず、様々な部局が連携して施策に取り組む。

[HOME](#) [ニュース一覧](#) [ライブ・エンタテインメント市場は力強く回復。2023年予測値は前水準より一段の上振れ濃厚／ぴあ総研が2022年確定値公表、及び将来予測値を更新](#)

ニュース一覧

[プレスリリース](#)

[IR情報](#)

[CSR活動](#)

[ぴあ総研](#)

バックナンバー

[2025年](#)

[2024年](#)

[2023年](#)

[2022年](#)

[2021年](#)

[2020年](#)

[2019年](#)

[2018年](#)

[2017年](#)

[2016年](#)

[2015年](#)

[2014年](#)

[2013年](#)

[2012年](#)

[2011年](#)

最新のニュース

[株式の売出し及び主要株主の異動に関するお知らせ](#)

[いちばん早い、まるごと一冊万博本『大阪・関西万博びあ』2月27日発売決定！大阪のグルメ&レジャー情報もたっぷり](#)

[2024年度第3四半期決算のお知らせ](#)

[2024年度第3四半期決算の](#)

ライブ・エンタテインメント市場は力強く回復。2023年予測値は前水準より一段の上振れ濃厚／ぴあ総研が2022年確定値公表、及び将来予測値を更新

CSR情報 [ライブ・エンタメ市場](#) [音楽関連](#) [ステージ関連](#)

ポスト

いいね！ 3

2023年12月22日

ぴあ総研が、毎年行っているライブ・エンタテインメント市場の調査結果、及び最新の将来予測値を公表しました。

コロナ禍3年目だった2022年。感染拡大抑制と経済活動の両立が図られるなかで、ライブ・エンタテインメント市場は復活への着実な歩みを進め、市場規模はコロナ禍前(2019年)の89.8%の5,652億円まで回復しています。コロナ禍で抑制された供給・需要の双方における反動増が、市場回復を促しました。特に、集客力のある大規模イベントが市場の伸びを牽引し、加えて、平均単価の上昇がプラスに働きました。

2023年は、アフターコロナの経済環境への移行が本格化し、より力強い回復が続いています。ぴあ総研では、ライブ・エンタテインメント市場は早ければ2023年にコロナ前の水準に回復する可能性がある、との予測値を2021年時点で公表していましたが、足元の市況を踏まえ、2023年の予測値を6,330億円から6,408億円に上方修正しました。

ただし、回復は力強いものの不均衡で、特に小規模公演の復活が遅れていることが懸念材料です。さらに、深刻な人員・人材不足が顕在化していることが、持続的な成長のブレーキになりかねない状況を招いており、今後の動向に注視する必要があります。

調査結果は以下のとおりです。

ライブ・エンタテインメント市場規模の将来予測：ベースシナリオ



【2022年のライブ・エンタテインメント市場規模 (確定値)】

2022年の国内ライブ・エンタテインメント市場規模は、前年の3,072億円から2,580億円増加し5,652億円(対前年増減率+84.0%)、コロナ禍前の2019年の6,295億円との比較では10.2%減まで回復しました。ただし、コロナ禍によるダメージは尾を引いており、公演回数は2019年からの増減率-37.5%の8万4,988回、延べ動員数は同-17.9%の6,801万人、と市場規模に比べ回復が遅れています。公演回数の回復の遅れ

を、公演規模の拡大と、平均単価の上昇がカバーしている状況で、平均単価(=市場規模÷動員数)が2019年の7,600円から8,310円に上昇しています。

ジャンル別にみると、音楽の市場規模は2019年からの増減率-6.9%の3,946億円、ステージは-17.1%減の1,705億円と、音楽の回復率がステージを上回りました。2022年になってイベント開催における収容人数や収容率の制限緩和が進んだことで、長期化した行動制限の影響が色濃く残っていた音楽ジャンルが急速なペースで復活しました。

■本調査結果のサマリーは[こちら](#)

↳市場規模、公演回数、動員数についての2017年からの推移をまとめています。

【2023年から2035年までのライブ・エンタテインメント市場規模（将来予測値）】

対面での体験の価値が再認識される中、リアルライブの価値が増えています。びあ総研では、足元の市況を踏まえ、2021年時点で公表した2023年以降のライブ・エンタテインメント予測値をこのたび更新しました。

2023年のライブ・エンタテインメント市場規模を、前回の6,330億円から6,408億円に上方修正。このままライブ・エンタテインメント参加意欲が衰えず、新たに各地でオープンする新規会場が安定稼働するならば、2035年には6,732億円まで市場が拡大する可能性もあるとみています。全国各地において計画されている大規模会場の新設により、コロナ禍前に市場成長の阻害要因となっていた大規模会場不足問題が解消に向かうであろうことと、平均単価の上昇が不可逆的であろうことが主因です。

一方で、帝国劇場が2025年から一時休館するなど、高度経済成長期に設置された劇場・音楽堂等の改修・建替え等が今後相次ぐことや、深刻な人員・人材不足が顕在化していることは持続的な成長のブレーキになりかねません（マイナス要因として2035年までの予測値に織り込み済み）。現在、市場規模が急回復に向かう中、コロナ禍で浮き彫りになった様々な課題への対策や、新たな取り組みへの動きを止めることなく、持続可能な成長に向けた抜本的な変革に取り組む必要があると考えています。

* ライブ・エンタテインメント市場規模=音楽コンサートとステージでのパフォーマンスイベントのチケット推計販売額合計と定義。

* オンラインライブは含まない。

* 2022年1月～12月に開催されたイベントが今回の確定値の対象。

* 2021年に公表した2023年以降の将来予測を、2023年12月時点の推計として更新。

[びあ総研の各種調査結果はこちらから](#)

[▶ ニュース一覧に戻る](#)



「社会意識に関する世論調査」の概要

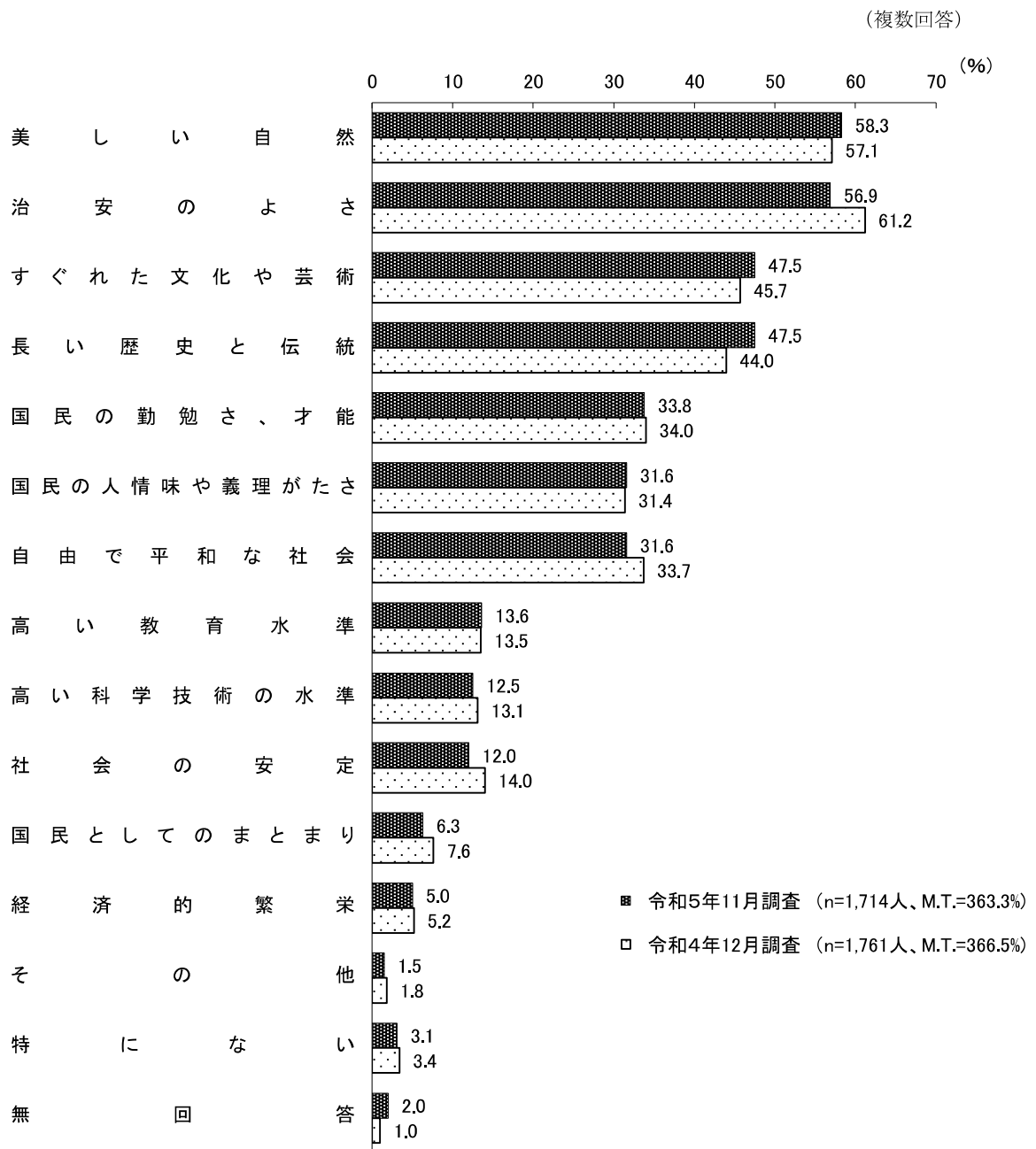
令和6年3月
内閣府政府広報室

- 調査対象 全国18歳以上の日本国籍を有する者 3,000人
有効回収数 1,714人（有効回収率 57.1%）
- 調査期間 令和5年11月16日～12月24日
- 調査方法 郵送法
- 調査目的 社会や国に対する国民の基本的意識の動向を調査し、広く行政一般のための基礎資料とする。
- 調査項目
- 1 国や社会との関わりについて
 - 2 社会の現状に対する認識について
 - 3 国の政策に対する評価について
- 調査実績 昭和43年度から原則毎年度実施し、今回は52回目。
- その他
- 1 個別面接聴取法で実施した令和2年1月までの調査と郵送法で実施した令和3年12月以降の調査は、調査方法が異なるため単純比較は行わない。
また、平成27年度までは、調査対象者の年齢が20歳以上であったが、平成28年度以降は18歳以上の方を調査対象に実施している。
 - 2 本資料では、過去の調査結果との比較において、統計学的に有意差（信頼度95%）が認められる回答については、「↑」（比率の上昇を表す）または「↓」（低下を表す）と記載している。
 - 3 図表の数値（%）は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、内訳の合計が100にならないこともある。

(3) 日本の誇り

問 11. あなたは、日本の国や国民について、誇りに思うことはどんなことですか。(〇はいくつでも)

	(上位4項目)	
	令和4年12月	令和5年11月
・美しい自然	57.1%	58.3%
・治安のよさ	61.2%	56.9% ↓
・すぐれた文化や芸術	45.7%	47.5%
・長い歴史と伝統	44.0%	47.5% ↑



「国民生活に関する世論調査」の概要

令和6年12月
内閣府政府広報室

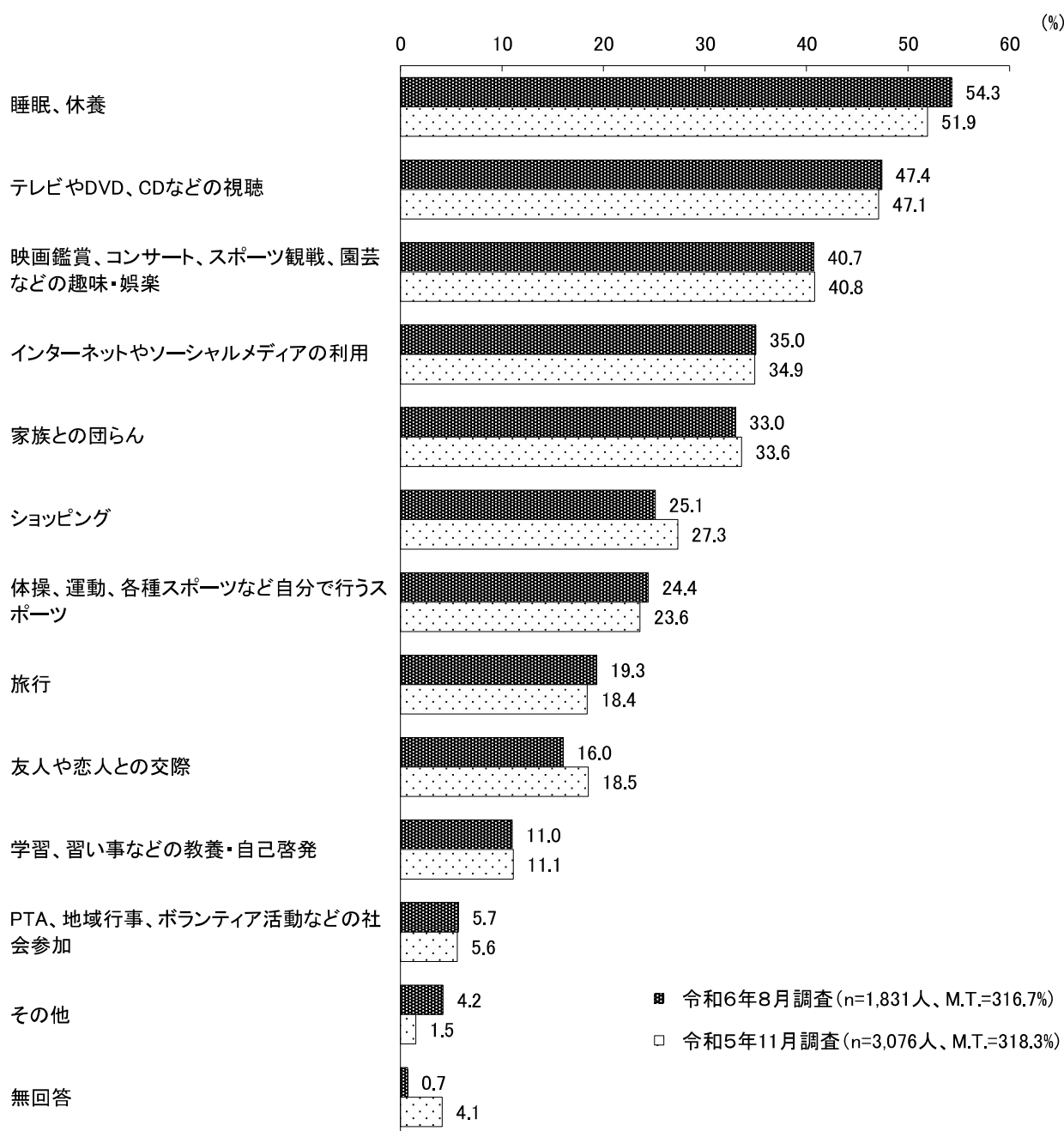
- 調査対象 全国18歳以上の日本国籍を有する者 3,000人
有効回収数1,831人（有効回収率61.0%）
- 調査期間 令和6年8月8日～9月15日
- 調査方法 郵送法
- 調査目的 現在の生活や今後の生活についての意識、家族・家庭についての意識など、国民の生活に関する意識や要望を種々の観点でとらえ、広く行政一般の基礎資料とする。
- 調査項目
- 1 現在の生活について
 - 2 今後の生活について
 - 3 生き方、考え方について
 - 4 政府に対する要望について
- 調査実績 昭和32年度から原則毎年度実施し、今回は67回目。
- その他
- 1 個別面接聴取法で実施した令和元年6月までの調査と郵送法で実施した令和3年9月以降の調査は、調査方法が異なるため単純比較は行わない。
また、平成27年度までは、調査対象者の年齢が20歳以上であったが、平成28年度以降は18歳以上の方を調査対象に実施している。
 - 2 本資料では、過去の調査結果との比較において、統計学的に有意差（信頼度95%）が認められる回答については、「↑」（比率の上昇を表す）または「↓」（低下を表す）と記載している。
 - 3 図表の数値（%）は、表章単位未満の位で四捨五入しているため、内訳の合計が100にならないこともある。

(7) 自由時間の過ごし方

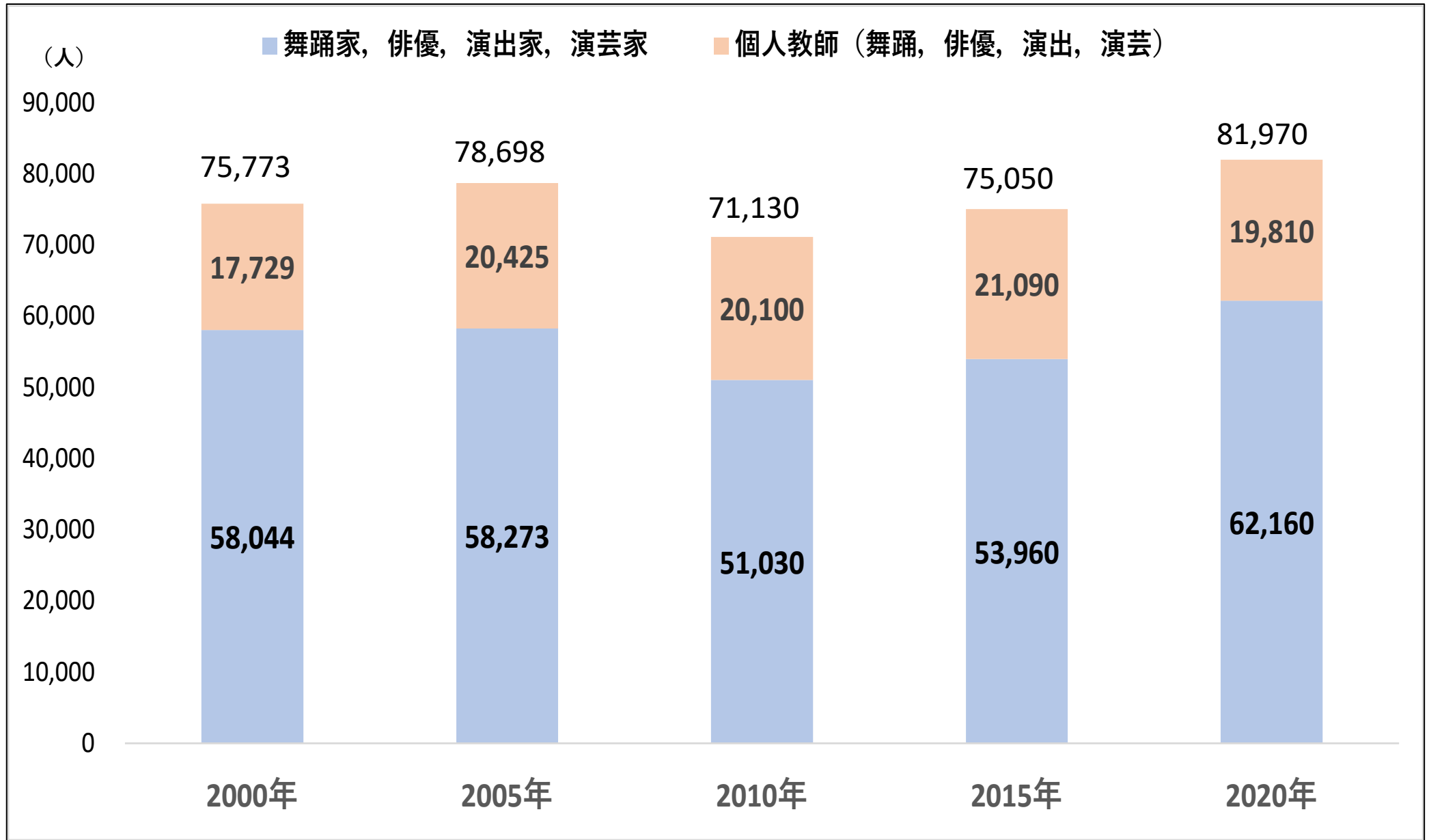
問9. あなたは、現在、どのようなことをして、自分の自由になる時間を過ごしていますか。
(〇はいくつでも)

	令和5年11月	→	(上位5項目) 令和6年8月
・睡眠、休養	51.9%	→	54.3%
・テレビやDVD、CDなどの視聴	47.1%	→	47.4%
・映画鑑賞、コンサート、スポーツ観戦、園芸などの 趣味・娯楽	40.8%	→	40.7%
・インターネットやソーシャルメディアの利用	34.9%	→	35.0%
・家族との団らん	33.6%	→	33.0%

(複数回答)



舞台芸術系就業人口の推移



総務省「国勢調査」各年を基に作成

第 5 次 大 阪 府 文 化 振 興 計 画

～文化芸術が未来を切り拓く～

令和 3 年（2021年）3月

大阪府

「文化共創都市 大阪」～文化芸術が未来を切り拓く～

文化芸術は、人々の創造性を育み、表現力を高め、さらには、心のつながりや相互理解、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものです。また、都市ブランドの形成や地域経済、産業の活性化など、社会の様々な分野の発展にも寄与するものでもあります。そのような社会的価値や公益性を有する文化芸術は、人が生きていくために欠かすことのできないものであり、年齢、障がいの有無、経済的な状況や居住する地域に関わらず等しく、文化芸術を創造し、享受できる環境を整備することなどが求められています。

今般の新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態によって、様々な文化芸術活動は、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」等を踏まえた感染防止対策が求められる中、これまでと同様の活動が困難な状況にあって、改めて、人の心を豊かにし、生きる糧となるといった文化芸術が持つ力が必要とされています。今一度、文化芸術の役割を再認識し、その価値をより一層高めていくとともに、地域の文化力の向上や、観光、まちづくりなど、関連する分野における施策との有機的な連携を通じて、都市全体の魅力のさらなる向上を図る必要があります。さらに、大阪にある多彩で豊かな文化芸術を、途絶えることなく次世代へと継承していかなければなりません。

大阪は、府民一人ひとりの多様な価値観を尊重しつつ、行政のみならず様々な立場の人々が、大阪の文化芸術を“共に創り”、支え、育み、その価値を高め、文化芸術の力で、心豊かで活力ある未来を切り拓いていくことができるよう、『「文化共創都市 大阪」～文化芸術が未来を切り拓く～』を目指す将来像として掲げ、誰もが、文化芸術活動を通じて、自分らしくいきいきとした人生を送ることができる都市を目指します。

第2章 計画の基本的な考え方

2-2 基本理念

目指す将来像の実現に向けて、以下の3つの基本理念を定め、文化芸術施策の振興に取り組めます。

① あらゆる人々が文化を享受できる都市

(都市のイメージ)

府民市民の自主性、創造性が発揮されることはもとより、あらゆる人々が年齢、障がいの有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞、参加、創造できるような環境が整備され、途絶えることなく次世代へと継承されている。

② 大阪が誇る文化力を活用した魅力あふれる都市

(都市のイメージ)

国内外から芸術家等が集い、様々な文化芸術が交流し、新たなつながりや創造が促進されることにより、自由で多彩な文化芸術活動がより活性化し、大阪の文化力や都市の魅力の更なる向上につながっている。

③ あらゆる人々が文化を通じていきいきと活動できる都市

(都市のイメージ)

あらゆる人々が文化芸術を通じて社会参加し、心のつながりや相互理解が広がり、多様性を受け入れ、尊重し合う土壌が育まれ、心豊かで、誰もがいきいきと活動できる社会が形成されている。

第2章 計画の基本的な考え方

2-3 施策の方向性

本計画では、基本理念を踏まえ、施策の方向性として3つの基本方向を定め、それぞれの下に各施策を位置付け、文化芸術施策を体系的に推進します。

基本方向A「文化にかかわる環境づくり」

文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることに鑑み、あらゆる人々が年齢などにかかわらず、文化芸術を鑑賞、参加、創造できるような環境の整備を図ることが求められています。また、少子高齢化など、様々な社会状況の変化に対応した総合的な文化芸術施策を展開する必要があります。

このため、文化芸術を鑑賞する機会等の充実、子どもや青少年が文化芸術を通じて成長する機会の提供、文化芸術を支え、育て、次世代へと継承する意識の醸成などに取り組みます。

基本方向B「文化が都市を変革する」

文化芸術は、人々の創造性を育み、その表現力を高め、また、新たな需要や高い付加価値を生み出すことで質の高い経済活動を実現するなど、社会の様々な分野の発展に寄与するものであり、都市を変革する力を有しています。

こうしたことから、文化芸術の担い手の育成・支援、多彩な大阪文化の活用、新たな文化の創造・発信、他文化との交流促進などを通じて、持続可能な文化芸術の振興や、さらなる都市魅力の向上等を図ります。

基本方向C「文化が社会を形成する」

文化芸術を通じて、他者の文化や価値観を理解し、共生していく基盤をつくることは、人々が幸せに暮らしていくために欠くことができないものであり、心豊かな活力ある社会の形成にとって重要な意義を有しています。

夢洲のまちづくり

～新たな国際観光拠点の形成～

夢洲・咲洲エリアの
詳細はこちら



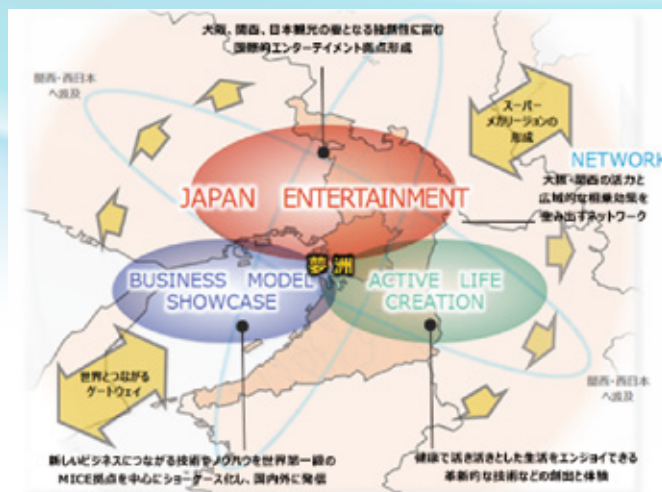
夢洲において、国内外から人・モノ・投資を呼び込む大阪経済成長の起爆剤となる「新たな国際観光拠点」の形成に向けて、「2025年大阪・関西万博」の開催、統合型リゾート（IR）や万博跡地の活用に向けた取組を進めています。また、咲洲などの臨海部の各機能や施設との連携により、臨海部全体の活性化をめざします。

■コンセプト

SMART RESORT CITY

夢と創造に出会える未来都市

「リゾート」と「シティ」の要素を融合させた空間を形成し、「スマート」な取組によって、まち全体の連携を高度化し、国際観光拠点機能の強化を図ります。



出典：夢洲まちづくり構想

■まちづくり方針

【第1期】統合型リゾート（IR）を中心としたまちづくり

魅力的なエンターテインメントの集積、国際競争力を有するMICE施設の整備やICT等最先端技術を活用したスマートなまちづくりによる国際観光拠点を形成します。

【第2期】万博の理念を継承したまちづくり

大規模なエンターテインメント・レクリエーション機能や万博の理念、最先端の取組及び第1期において創出された賑わいを継承したまちづくりを進めることで、第1期のまちづくりと合わせて国際観光拠点機能の更なる強化を図ります。

【第3期】第1・2期の取組を活かした長期滞在型のまちづくり

第1・2期で創出・醸成されたエンターテインメントや最先端技術等により、健康や長寿につながる長期滞在型の上質なリゾート空間を形成します。



出典：夢洲まちづくり基本方針を加工して作成

■2025年大阪・関西万博開催跡地の活用

- 「いのち輝く未来社会のデザイン」をメインテーマに、令和7（2025）年4月13日～10月13日（184日間）に、2025年大阪・関西万博を開催予定、想定来場者約2,800万人を見込んでいます。
- 万博跡地については、万博の理念を継承し、大阪の成長をけん引する国際観光拠点の形成をめざした、まちづくりが円滑に進むよう取り組んでいます。



提供：2025年日本国際博覧会協会

咲洲のまちづくり ～多様で高度な都市機能が集積する拠点の形成～



■コンセプト

夢洲と共に臨海部全体の魅力向上に寄与し、大阪の成長をけん引する国際物流・国際交流及び研究開発拠点エリアの形成をめざします。

■まちづくりの方針

- 咲洲において、国際交易・交流、先端技術開発、情報通信等の多様で高度な都市機能の集積を図る地域として、コスモスクエア駅周辺が『都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域』に指定されました。
- 海外からのインバウンドの誘致を視野に入れて、交流拠点となるインテックス大阪を中心としたMICE機能の強化を図り、国際的な交易・交流機能等の集積を促進しています。
- 「関西イノベーション国際戦略総合特区」の指定により、先端産業分野におけるイノベーション実践の拠点として、関連企業の集積を進めています。



都市再生緊急整備地域で活用可能な主な支援措置

咲洲地区の上図の範囲 は、都市再生緊急整備地域（大阪コスモスクエア駅周辺地域＜約154ha＞）に指定されています。緊急整備地域内では、法制上の支援措置や財政・金融・税制支援を受けることが可能です。

《主な支援措置》

●都市再生特別地区

都市再生に貢献し土地の高度利用を図るため、既存の用途地域等に基づく規制にとらわれず自由度の高い計画を定めることにより、容積率制度の緩和等が可能

●税制支援

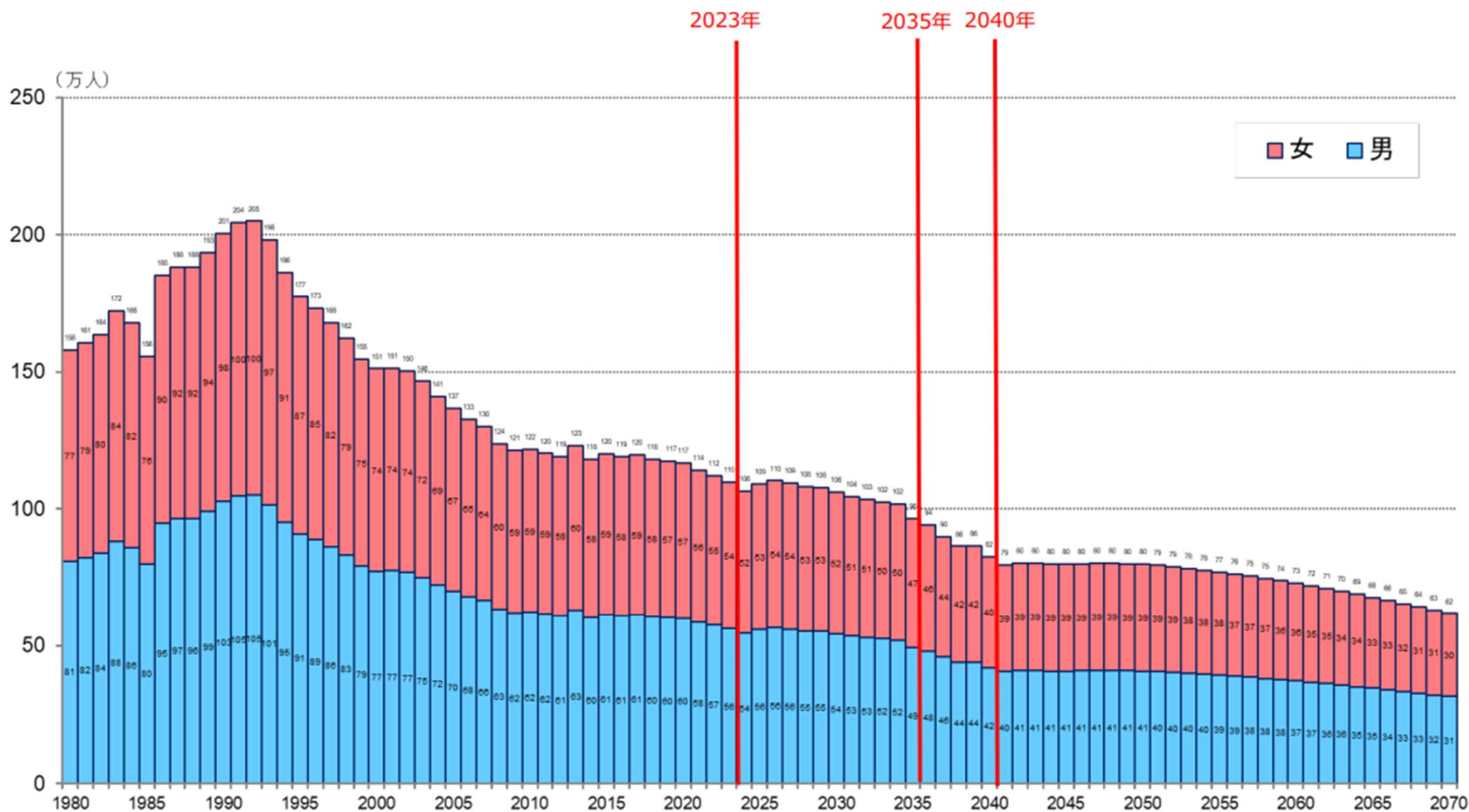
固定資産税・都市計画税について、5年間、課税標準から市町村の条例で定める割合を控除
(例)大阪市の場合
課税標準×3/5 (2/5控除)



(例) グランフロント大阪
容積率:800%→1600%

等

18歳人口（男女別）の将来推計



出典：2022年以前は文部科学省「学校基本統計」、
2023年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）（出生中位・死亡中位）」を基に作成

【全国版】

18歳人口予測

大学・短期大学・専門学校進学率

地元残留率の動向

【将来予測 2023～2035年】

■ 18歳人口予測 P4～P9

- ・ 2023年109.7万人→2035年97.0万人（12.7万人減少）
- ・ 東北の減少率が高く、6県中4県で減少率20%以上
- ・ 2023年比減少率が高いのは東北（79.7%）、減少数が大きいのは近畿（23,357人減）

【経過推移 2014年～2023年】

■ 進学率（現役・過年度含）の推移 P10～P16

大学進学率（現役）

- ・ 2014年48.1%→2023年56.9%（8.8ポイント上昇）
- ・ 上昇が大きいのは、1位 北海道（135.5）、2位 四国（122.8）、3位 甲信越（121.4）※注
- ・ 進学率が高いのは、南関東、近畿、東海の三大都市圏

短期大学進学率（現役）

- ・ 2014年5.3%→2023年3.4%（1.9ポイント低下）
- ・ 低下が大きいのは、1位 南関東（56.4）、2位 近畿（58.3）、3位 北海道（59.3）※注
- ・ 進学率が高いのは、甲信越、東北、北陸

専門学校進学率（現役）

- ・ 2014年17.0%→2023年16.1%（0.9ポイント低下）
- ・ 低下が大きいのは、1位 四国（84.7）、2位 中国（91.2）、3位 南関東（92.4）※注
- ・ 進学率が高いのは、北海道、北陸、九州沖縄

都道府県別進学率（現役・2023年）

- ・ 大学進学率1位は東京、短期大学進学率1位は大分、専門学校進学率1位は新潟

大学・短期大学・専門学校進学率（現役・過年度含 比較・2021～2023年）

- ・ 2023年現役と過年度含の進学率の差は、大学は0.8ポイント（過年度含が高い）
- ・ 短期大学は差なし。専門学校は5.8ポイント（過年度含が高い）
- 注）※の（）内の数値は、2014年を100としたときの2023年の指数

■ 地元残留率の推移 P17～P25

- ・ 大学入学者の地元残留率は、2014年43.2%→2023年44.8%（1.6ポイント上昇）
- ・ 短期大学入学者の地元残留率は、2014年68.7%→2023年71.3%（2.6ポイント上昇）
- ・ 大学入学者の地元残留率1位は愛知（72.1%）
- ・ 短期大学入学者の地元残留率1位は福岡（93.3%）

■ 18歳人口減少率×地元残留率 P26・27

- ・ 大学入学者：都道府県別：2023→2035年
- ・ 短期大学入学者：都道府県別：2023→2035年

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルート リクルート進学総研 <https://souken.shingakunet.com/>

※データ等を引用される場合は出典（「リクルート進学総研」）を明記いただきますようお願いいたします。

分析・データについて

■ 分析・データについて

データ元：文部科学省「学校基本調査」

- 18歳人口概算は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - 18歳人口 = 3年前の中学校卒業業者及び中等教育学校前期課程修了者数 + 「義務教育学校卒業業者数（H29年度より）」
 - 中学校卒業業者数 = 高校生 + フリーター + 就職者 全て含む
- 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専修学校専門課程（専門学校）） ÷ 高等学校卒業業者数（全日制・定時制 + 中等教育学校後期課程）で算出した。
- 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合。（浪人含）
- 図表で利用している百分率（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため、四捨五入の結果で数値の和が100.0にならない場合がある。
- エリア別分析における各エリアに含まれる都道府県については以下の通り。

北海道：北海道
 東北：青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
 北関東：茨城、栃木、群馬
 南関東：埼玉、千葉、東京、神奈川
 甲信越：新潟、山梨、長野
 北陸：富山、石川、福井
 東海：岐阜、静岡、愛知、三重
 近畿：滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
 中国：鳥取、島根、岡山、広島、山口
 四国：徳島、香川、愛媛、高知
 九州沖縄：福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

【年早見表】

学校基本調査		18歳人口		3年前の中学・中等教育卒業業者数
		図表（年）	人数	
確報	学校基本調査公表	2023	1,097,416	(令和2年) 2020年 の中学校卒業業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業業者数
確報	進学総研集計（予測）	2024	1,063,451	(令和3年) 2021年 の中学校卒業業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業業者数
確報	進学総研集計（予測）	2025	1,090,562	(令和4年) 2022年 の中学校卒業業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業業者数
確報	進学総研集計（予測）	2026	1,092,664	(令和5年) 2023年 の中学校卒業業者+中等教育学校前期課程修了者+義務教育学校卒業業者数
確報	進学総研集計（予測）	2027	1,085,148	(令和5年) 2023年 の中学校3年生+中等教育学校前期課程3年生+義務教育学校9年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2028	1,069,005	(令和5年) 2023年 の中学校2年生+中等教育学校前期課程2年生+義務教育学校8年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2029	1,066,810	(令和5年) 2023年 の中学校1年生+中等教育学校前期課程1年生+義務教育学校7年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2030	1,050,986	(令和5年) 2023年 の小学校6年生+義務教育学校6年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2031	1,035,215	(令和5年) 2023年 の小学校5年生+義務教育学校5年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2032	1,024,042	(令和5年) 2023年 の小学校4年生+義務教育学校4年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2033	1,013,894	(令和5年) 2023年 の小学校3年生+義務教育学校3年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2034	1,005,714	(令和5年) 2023年 の小学校2年生+義務教育学校2年生の生徒数
確報	進学総研集計（予測）	2035	970,429	(令和5年) 2023年 の小学校1年生+義務教育学校1年生の生徒数

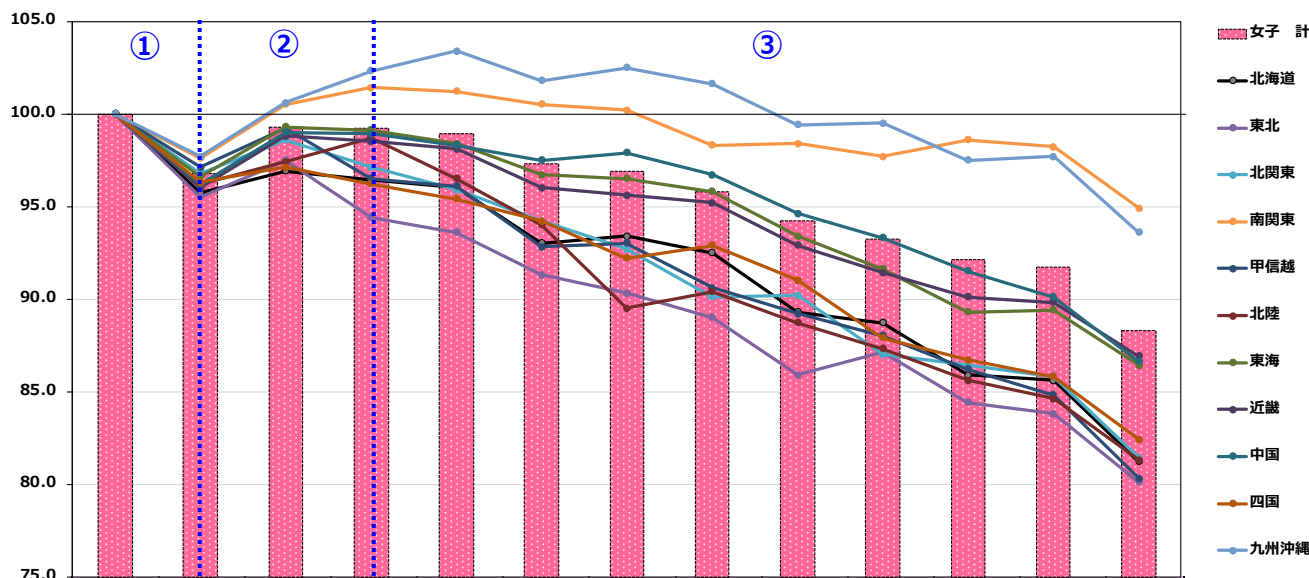
18歳人口予測（女子：エリア別：2023～2035年）

■減少率が高いのは東北（2023年比80.1%）、減少数が大きいのは近畿（11,614人減）

- ・減少率が高いのは、1位 東北（2023年比80.1%）、2位 甲信越（80.3%）、3位 北海道（81.2%）。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿（11,614人減）、2位 東海（9,181人減）、3位 東北（7,331人減）。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東（94.9%）、2位 九州沖縄（93.6%）、3位 近畿（86.9%）。
- ・③期において2026年～2035年の女子人口は、北海道（3,202人減）、東北（5,252人減）、北関東（4,727人減）、南関東（9,347人減）、甲信越（3,585人減）、北陸（2,289人減）、東海（8,594人減）、近畿（10,235人減）、中国（3,910人減）、四国（2,217人減）、九州沖縄（5,634人減）。

注）減少率=2035年人数÷2023年人数で算出。

指数=2023年を100とした値



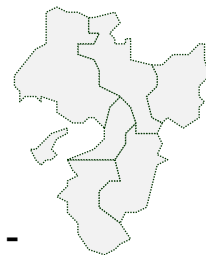
		2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
女子 計	人数	536,904	519,493	533,094	532,827	531,037	522,507	520,431	514,220	505,975	500,501	494,711	492,549	473,835
	指数	100.0	96.8	99.3	99.2	98.9	97.3	96.9	95.8	94.2	93.2	92.1	91.7	88.3
北海道	人数	20,946	20,041	20,305	20,201	20,110	19,486	19,554	19,365	18,704	18,571	17,995	17,923	16,999
	指数	100.0	95.7	96.9	96.4	96.0	93.0	93.4	92.5	89.3	88.7	85.9	85.6	81.2
東北	人数	36,873	35,212	35,943	34,794	34,496	33,680	33,299	32,826	31,657	32,099	31,126	30,889	29,542
	指数	100.0	95.5	97.5	94.4	93.6	91.3	90.3	89.0	85.9	87.1	84.4	83.8	80.1
北関東	人数	30,099	29,133	29,666	29,224	28,874	28,366	27,895	27,118	27,155	26,189	26,014	25,838	24,497
	指数	100.0	96.8	98.6	97.1	95.9	94.2	92.7	90.1	90.2	87.0	86.4	85.8	81.4
南関東	人数	144,085	140,565	144,784	146,133	145,829	144,765	144,406	141,628	141,796	140,825	142,112	141,541	136,786
	指数	100.0	97.6	100.5	101.4	101.2	100.5	100.2	98.3	98.4	97.7	98.6	98.2	94.9
甲信越	人数	22,184	21,533	21,996	21,406	21,314	20,588	20,626	20,096	19,790	19,515	19,125	18,818	17,821
	指数	100.0	97.1	99.2	96.5	96.1	92.8	93.0	90.6	89.2	88.0	86.2	84.8	80.3
北陸	人数	13,131	12,633	12,792	12,960	12,672	12,344	11,755	11,871	11,652	11,469	11,241	11,113	10,671
	指数	100.0	96.2	97.4	98.7	96.5	94.0	89.5	90.4	88.7	87.3	85.6	84.6	81.3
東海	人数	67,683	65,365	67,223	67,096	66,575	65,483	65,286	64,818	63,197	61,981	60,451	60,526	58,502
	指数	100.0	96.6	99.3	99.1	98.4	96.7	96.5	95.8	93.4	91.6	89.3	89.4	86.4
近畿	人数	88,985	85,428	87,907	87,606	87,322	85,404	85,036	84,743	82,680	81,321	80,195	79,948	77,371
	指数	100.0	96.0	98.8	98.5	98.1	96.0	95.6	95.2	92.9	91.4	90.1	89.8	86.9
中国	人数	31,941	30,730	31,608	31,574	31,392	31,156	31,255	30,884	30,225	29,803	29,225	28,773	27,664
	指数	100.0	96.2	99.0	98.9	98.3	97.5	97.9	96.7	94.6	93.3	91.5	90.1	86.6
四国	人数	16,152	15,549	15,678	15,531	15,411	15,215	14,896	15,002	14,700	14,201	13,998	13,852	13,314
	指数	100.0	96.3	97.1	96.2	95.4	94.2	92.2	92.9	91.0	87.9	86.7	85.8	82.4
九州沖縄	人数	64,825	63,304	65,192	66,302	67,042	66,020	66,423	65,869	64,419	64,527	63,229	63,328	60,668
	指数	100.0	97.7	100.6	102.3	103.4	101.8	102.5	101.6	99.4	99.5	97.5	97.7	93.6

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

近畿版

- 滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県 -



【将来予測 2022～2035年】

▶18歳人口予測 P2～P4

- ・2023年181,639人→2035年158,282人（23,357人減少）
- ・減少率が高いのは、奈良県と和歌山県（2023年比較19.0%減少）
- ・減少数が多いのは、大阪府（2023年75,864人→2035年66,574人、9,290人減少）

【経過推移 2014～2023年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・大学は、2014年90,952人→2023年100,594人（9,642人増加）と、10.6%増加
- ・短期大学は、2014年10,374人→2023年5,526人（4,848人減少）と、46.7%減少
- ・専門学校は、2014年25,447人→2023年21,941人（3,506人減少）と、13.8%減少

進学率（現役）

- ・大学は、2014年52.8%→2023年63.3%（10.5ポイント上昇）
- ・短期大学は、2014年6.0%→2023年3.5%（2.5ポイント低下）
- ・専門学校は、2014年14.8%→2023年13.8%（1.0ポイント低下）

▶地元残留率の推移 P11～P13

- ・大学は、2014年44.7%→2023年47.9%（3.2ポイント上昇）
- ・短期大学は、2014年66.6%→2023年69.4%（2.8ポイント上昇）

▶近畿エリア概要（全体：府県別） P14～P16

■分析・データについて

- 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・18歳人口＝3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業生数
 - ・中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者 全て含む
- 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- 卒業生数とは、高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）。
- 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数。
- 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）で算出した。
- 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
- 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：近畿：2014～2023年）

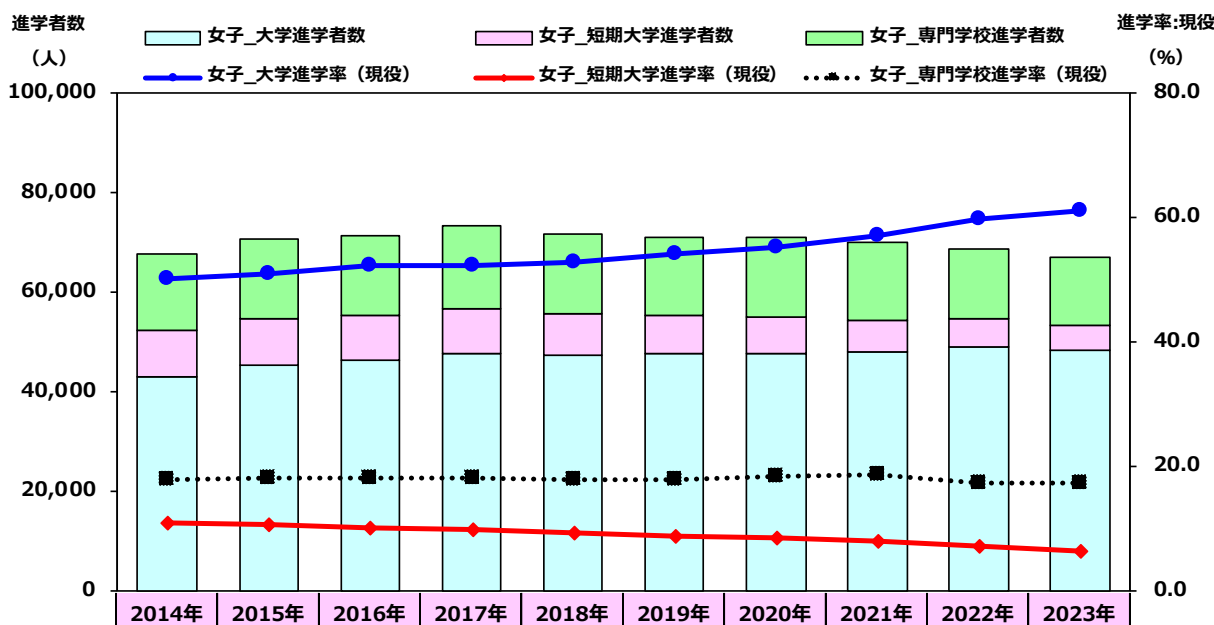
- 女子では、大学進学率が11.0ポイント上昇し、進学者数も5,404人増加
- 一方、短期大学進学率は4.8ポイント、専門学校進学率は0.4ポイント低下し、短期大学進学者数は4,567人、専門学校進学者数は1,543人減少

進学者数

- ・ 大学は、2014年42,992人→2023年48,396人（5,404人増加）と、12.6%増加。
- ・ 短期大学は、2014年9,467人→2023年4,900人（4,567人減少）と、48.2%減少。
- ・ 専門学校は、2014年15,299人→2023年13,756人（1,543人減少）と、10.1%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2014年50.1%→2023年61.1%（11.0ポイント上昇）。
- ・ 短期大学は、2014年11.0%→2023年6.2%（4.8ポイント低下）。
- ・ 専門学校は、2014年17.8%→2023年17.4%（0.4ポイント低下）。



		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
近畿	卒業生数	85,727	88,423	88,678	91,277	89,628	88,188	86,471	83,688	81,798	79,235	
	進学者数	大学	42,992	45,227	46,368	47,765	47,389	47,762	47,717	47,903	48,868	48,396
		短期大学	9,467	9,458	8,974	9,015	8,275	7,700	7,421	6,544	5,776	4,900
		専門学校	15,299	15,903	15,979	16,581	15,942	15,657	15,933	15,455	14,210	13,756
	進学率 (現役)	大学	50.1	51.1	52.3	52.3	52.9	54.2	55.2	57.2	59.7	61.1
		短期大学	11.0	10.7	10.1	9.9	9.2	8.7	8.6	7.8	7.1	6.2
		専門学校	17.8	18.0	18.0	18.2	17.8	17.8	18.4	18.5	17.4	17.4

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

- ・ 卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）
- ・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制+中等教育学校後期課程）
- ※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：府県別：2014～2023年）

		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	
滋賀	卒業生数（人）		5,914	6,072	6,135	6,276	6,270	6,135	6,187	6,121	5,853	5,748
	進学者数 （人）	大学	2,686	2,688	2,794	2,913	2,843	2,886	3,013	3,024	3,056	3,114
		短期大学	708	756	706	726	708	626	603	555	503	436
		専門学校	1,171	1,235	1,225	1,244	1,278	1,269	1,219	1,326	1,141	1,140
	進学率 （%）	大学	45.4	44.3	45.5	46.4	45.3	47.0	48.7	49.4	52.2	54.2
		短期大学	12.0	12.5	11.5	11.6	11.3	10.2	9.7	9.1	8.6	7.6
専門学校		19.8	20.3	20.0	19.8	20.4	20.7	19.7	21.7	19.5	19.8	
京都	卒業生数（人）		11,238	11,579	11,385	11,907	11,658	11,823	11,425	11,045	10,986	10,764
	進学者数 （人）	大学	6,425	6,698	6,675	7,017	6,963	7,208	7,079	7,151	7,282	7,374
		短期大学	1,162	1,110	1,077	1,087	998	861	879	728	670	526
		専門学校	1,779	1,908	1,867	1,973	1,862	1,836	1,819	1,731	1,703	1,683
	進学率 （%）	大学	57.2	57.8	58.6	58.9	59.7	61.0	62.0	64.7	66.3	68.5
		短期大学	10.3	9.6	9.5	9.1	8.6	7.3	7.7	6.6	6.1	4.9
専門学校		15.8	16.5	16.4	16.6	16.0	15.5	15.9	15.7	15.5	15.6	
大阪	卒業生数（人）		35,609	36,883	37,291	38,548	37,738	37,118	36,110	35,111	34,270	33,194
	進学者数 （人）	大学	17,207	18,267	19,173	19,674	19,363	19,610	19,522	19,704	20,279	20,043
		短期大学	4,267	4,274	4,025	4,045	3,786	3,565	3,386	2,998	2,657	2,208
		専門学校	6,521	6,862	6,794	7,199	6,989	6,940	7,072	6,796	6,316	5,910
	進学率 （%）	大学	48.3	49.5	51.4	51.0	51.3	52.8	54.1	56.1	59.2	60.4
		短期大学	12.0	11.6	10.8	10.5	10.0	9.6	9.4	8.5	7.8	6.7
専門学校		18.3	18.6	18.2	18.7	18.5	18.7	19.6	19.4	18.4	17.8	
兵庫	卒業生数（人）		22,624	23,301	23,430	23,986	23,546	23,202	22,720	21,957	21,468	20,873
	進学者数 （人）	大学	12,131	12,684	12,781	13,247	13,345	13,230	13,071	13,162	13,313	13,110
		短期大学	2,109	2,115	2,061	2,007	1,808	1,762	1,737	1,502	1,237	1,127
		専門学校	3,930	3,987	4,078	4,162	3,803	3,856	3,970	3,884	3,456	3,488
	進学率 （%）	大学	53.6	54.4	54.5	55.2	56.7	57.0	57.5	59.9	62.0	62.8
		短期大学	9.3	9.1	8.8	8.4	7.7	7.6	7.6	6.8	5.8	5.4
専門学校		17.4	17.1	17.4	17.4	16.2	16.6	17.5	17.7	16.1	16.7	
奈良	卒業生数（人）		5,891	6,053	5,985	6,067	6,038	5,676	5,839	5,532	5,365	5,124
	進学者数 （人）	大学	2,827	3,171	3,097	3,104	3,133	3,029	3,115	2,987	3,012	3,005
		短期大学	713	675	607	645	536	501	482	458	403	319
		専門学校	990	906	1,066	1,084	1,049	881	963	882	835	824
	進学率 （%）	大学	48.0	52.4	51.7	51.2	51.9	53.4	53.3	54.0	56.1	58.6
		短期大学	12.1	11.2	10.1	10.6	8.9	8.8	8.3	8.3	7.5	6.2
専門学校		16.8	15.0	17.8	17.9	17.4	15.5	16.5	15.9	15.6	16.1	
和歌山	卒業生数（人）		4,451	4,535	4,452	4,493	4,378	4,234	4,190	3,922	3,856	3,532
	進学者数 （人）	大学	1,716	1,719	1,848	1,810	1,742	1,799	1,917	1,875	1,926	1,750
		短期大学	508	528	498	505	439	385	334	303	306	284
		専門学校	908	1,005	949	919	961	875	890	836	759	711
	進学率 （%）	大学	38.6	37.9	41.5	40.3	39.8	42.5	45.8	47.8	49.9	49.5
		短期大学	11.4	11.6	11.2	11.2	10.0	9.1	8.0	7.7	7.9	8.0
専門学校		20.4	22.2	21.3	20.5	22.0	20.7	21.2	21.3	19.7	20.1	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

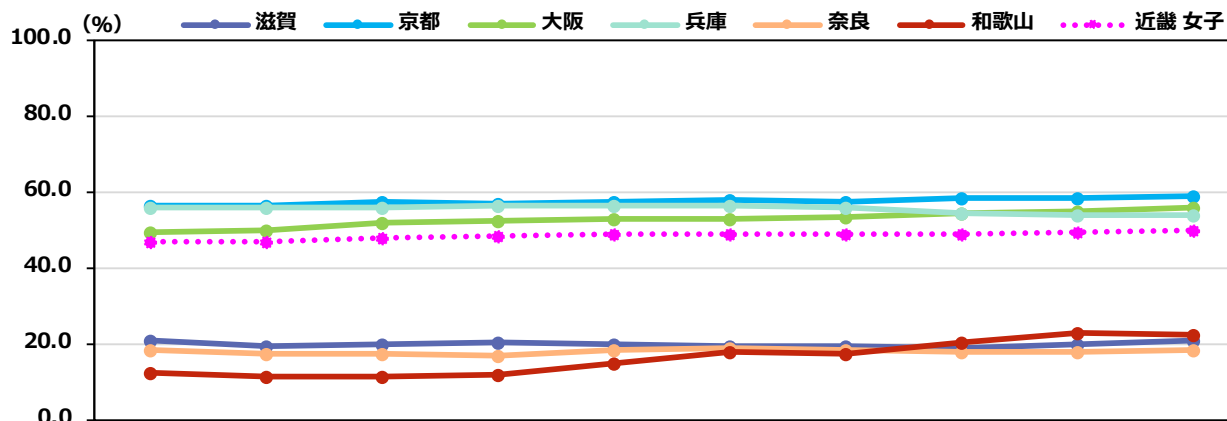
- ・卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
- ・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
- ※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（女子：近畿：2014～2023年）

■ 大学は、2014年47.0%→2023年50.0%（3.0ポイント上昇）
 短期大学は、2014年67.9%→2023年70.3%（2.4ポイント上昇）

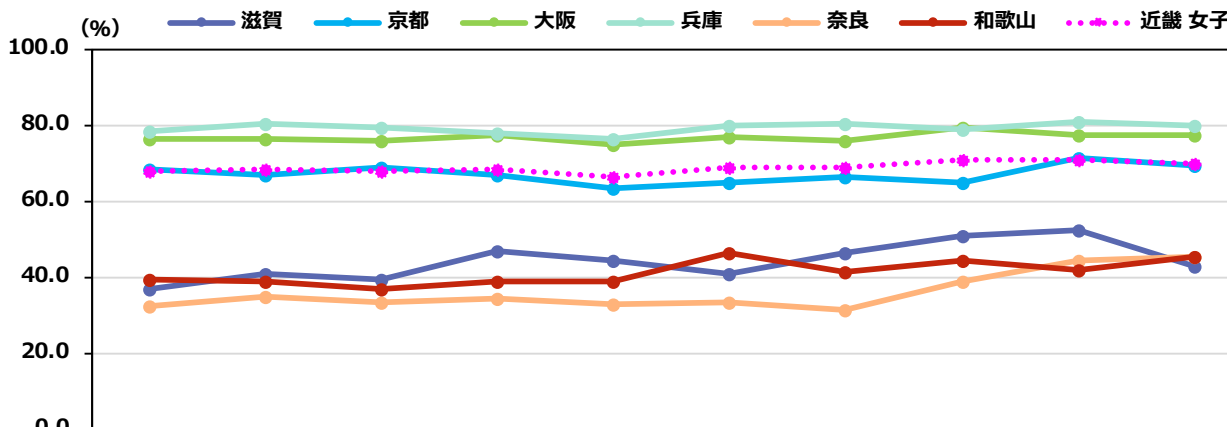
- ・ 大学で上昇率が高いのは、和歌山県（2014年12.3%→2023年22.4%、10.1ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、奈良県（2014年32.5%→2023年45.6%、13.1ポイント上昇）。

大学女子：地元残留率



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
近畿	47.0	46.8	47.9	48.3	48.8	48.9	48.8	49.1	49.4	50.0
滋賀	21.1	19.7	19.8	20.3	19.8	19.7	19.3	19.1	20.0	20.9
京都	56.4	56.3	57.5	57.1	57.6	57.9	57.4	58.4	58.6	58.9
大阪	49.7	49.8	51.8	52.5	52.8	52.8	53.7	54.5	55.1	56.1
兵庫	56.1	55.9	56.1	56.3	56.7	56.3	55.8	54.4	54.1	54.0
奈良	18.4	17.7	17.7	17.0	18.4	19.0	18.6	18.1	18.2	18.3
和歌山	12.3	11.3	11.6	11.9	14.7	17.9	17.7	20.7	22.8	22.4

短期大学女子：地元残留率



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
近畿	67.9	68.5	68.3	68.7	66.7	69.0	69.1	71.2	71.1	70.3
滋賀	37.0	41.1	39.7	46.9	44.4	40.9	46.4	50.9	52.3	43.2
京都	68.5	67.0	69.3	67.3	63.6	65.3	66.7	65.3	71.5	69.5
大阪	76.7	76.5	76.2	77.5	75.1	77.0	76.1	79.8	77.5	77.8
兵庫	78.7	80.6	79.6	78.1	76.8	79.9	80.6	79.3	81.3	79.9
奈良	32.5	34.9	33.3	34.7	32.9	33.5	31.3	39.1	44.3	45.6
和歌山	39.5	38.8	37.1	38.9	39.0	46.7	41.6	44.6	42.2	45.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

舞台芸術系学科 募集定員推移（関西）

（人）

		2021年	2022年	2023年	2024年
大阪芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	170	170	170	170
近畿大学	文芸 芸術学科<舞台芸術専攻>	50	50	50	50
大手前大学	建築&芸術学部	180	170	170	170
京都芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	60	60	60	90

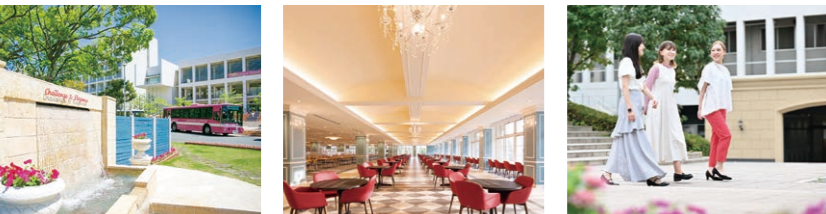
出典：各校ホームページ/旺文社「パスナビ」

Table with columns for National, Hokuriku, Tohoku, Kanto, Chubu, Kansai, and Kyushu/Kyugoku. Rows include various disciplines like Culture, Education, Law, Medicine, and Agriculture, with sub-rows for specific subjects and summary rows for each region.

交通アクセス

女性の個性をいかす 花と緑あふれる茨木エレガンスキャンパス

1878年に大阪初の女学校として開校した梅花女学校。創立当時の建学の精神を受け継ぎ、「チャレンジ&エレガンス」を掲げ、社会で活躍できる真におしゃれな女性の育成をめざしています。



梅花女子大学の特徴

少人数教育

教員1名に対する学生数 **15.4名**

高い就職率

就職者数 468名 / 就職希望者数 471名
就職率 **99.4%**
(2024年5月1日現在 / 2024年3月卒業生)

日本トップクラスの 産学連携

連携プロジェクト実施件数 **330件**
(2024年2月現在)

初年度学費（予定）

入学金 | 250,000円

POINT 伝統校としての 実践

1878(明治11)年から創造力を育む教育、豊かな表現や感性を大切にする教育の風土があります。



授業料 | 750,000円

POINT 一流の 特別講師陣

エンターテインメント業界で活躍する一流の講師陣から学びます。



施設設備費 | 300,000円

POINT プロの現場に 近い設備

最新設備を完備した「澤山記念ホール」をはじめ、充実した学びをサポートする多彩な施設を整えています。



教育充実費 | 240,000円

POINT 在籍者全員が 海外研修へ

全ての在籍者が舞台芸術の本場、ロンドンに研修。海外ツアーコンダクター資格を取得することも可能です。



設置の理念

舞台芸術表現学科(仮称)は、思考や感情を身体を通じて表現する舞台芸術の総合的理解と創造的实践を学びの基本理念とし、わが国および諸外国の芸術文化の継承発展に寄与することを設置の目的とする。また、国際的なエンターテインメントを学ぶ機会を設け、世界に通用する質の高い一流の資質をもつ舞台人、アーティストおよびクリエイターを育成することにより、演者にとっても観客にとっても東京一極集中となっている芸術文化が、関西圏において一層醸成される方略の一助になればと考える。わが国において、すでに小学校で表現運動が、中学校でダンス教育が必修化され、高等学校においても身体表現の学びが推進されている。発達段階を踏まえた系統性のある改善が試みられながら、初等・中等教育において取り入れられてきた身体表現教育は、高等教育機関においてもなお、その継続の必要性が求められる。梅花学園では、2013年に高等学校に、2014年に中学校に舞台芸術を学ぶコースが、また、2016年には女子大学に拠点を置く梅花歌劇団「劇団この花」が設立され、学園全体として舞台芸術の文化事業を強力に推進してきた。劇団の創作活動は大学のカリキュラムとも連動しており、一流の講師陣から舞台人に必要な技術とプロとしての取り組み方を学ぶ授業スタイルがすでに確立されている。現在、本学の文化表現学部情報メディア学科のマスコミ・パフォーマンス専攻には、社会から求められる「アート思考」「デザイン思考」のベースとなる想像および創造することの楽しさ、日々のアンテナのはり方、感性の養い方、またその技術や表現の仕方学ぶカリキュラムが用意されている。同様に、各学科の副専攻科目にも「舞台技術」「バレエ」「ダンス」等の身体表現系科目が展開されている。舞台芸術表現学科(仮称)ではこれら既存科目の学びを活用しながら、科目を再構成、補充強化することによって、円滑に教育課程の編成が進むものとする。これらを踏まえ、本学科には舞台芸術における身体表現者および舞台芸術における制作者を育成する学びを置き、設立の理念の実現と目標の達成に資する教育課程を定めるものとする。

アドミッション・ポリシー

学科の特質にしたがって、次のような能力・意欲を持った学生を求め選抜する。

- ① 身体表現による舞台芸術の創造に強い関心を持つ人。
- ② 創造的共同作業を通して人間社会の本質を追求することに関心を持つ人。
- ③ 芸術的表現による高度なコミュニケーションの追求に関心を持つ人。

育成する人材像

舞台芸術表現学科(仮称)は、本学園の創立時からの理念である「観察力、理解力、想像力を養い(中略)同時に実用的な技芸を学ぶ」ことにより、洗練された感性と確かな技術・知識、豊かな表現力を持つ自立した人間力の高い女性を育成する。総合芸術とされる舞台芸術を基盤としつつ、グローバルに思考しながら、新たな価値を生み出す独創性を持ち、地域社会の中核となるような人材を育成する。



文化表現学部 舞台芸術表現学科 (仮称)

2026年4月開設予定 (設置構想中)

※本リーフレットは「入学意向アンケート調査」および「人材需要等に関するアンケート調査」に回答する際の参考情報提供を目的としたものです。
※記載の教育内容は現在計画中の予定であり、変更になる場合があります。



梅花女子大学

お問い合わせ
〒567-8578 大阪府茨木市宿久庄2-19-5 TEL:072-643-6303



挑戦心と品性を磨き、夢の“舞台人”へ

チャレンジ&エレガンス

ついに梅花女子大学に、“舞台芸術”

2016年4月にスタートした梅花歌劇団「劇団この花」。舞台と学問が融合した劇団として、一流の講師陣による指導により、全国的にも類をみない形で質の高い学びと公演を行ってきました。また、日本を代表する演出・振付家 謝 珠栄教授が芸術監督として、女性をテーマとしたオリジナルミュージカルシリーズを発表してきました。この実績と情報メディア学科におけるパフォーマンス専攻での実践的学びをさらに体系化・発展させ、2026年4月に新学科を設置いたします。

学びの特徴

舞台芸術と向き合う中で エレガンスに 生き抜くための 3つの力を育む

舞台、芸術、エンターテインメント、モノづくりを共同することによるコミュニケーション力など、さまざまな力を身につけ、幅広い分野で活躍できる女性を育成します。

- 1 自ら考え抜き
チャレンジ
し続ける力
- 2 本質を見極め
自立する力
- 3 自らの個性を知り
セルフプロデュースする力



舞台芸術とあゆみを進めてきた梅花女子大学 -伝統と進化-

現代は女性の社会進出・躍進が必須となり、先行き不透明な時代に入り「アート思考」「デザイン思考」など新しい価値を生みだし、表現できる力が経営にも必要不可欠となっています。梅花の創立時からの理念を実践し、総合芸術を基盤とする<洗練された感性><確かな技術・知識><豊かな表現力>を持つ自立した人間力の高い女性を育成します。

卒業後の進路モデル*

※ 構想中モデル

洗練された感性を持ち、仕事力ある女性として
社会の幅広いシーンで活躍

ミュージカル俳優	声優	歌手	ダンサー
演出家	プロデューサー	照明家	音響家
			衣裳

ほか

カリキュラムのポイント

POINT 1 履修者全員がロンドン研修へ（海外ツアーコンダクター資格取得可）



シェイクスピアグローブ座、フェニックス劇場、ロンドンパラディウム劇場などの観劇を行います。



美術館、博物館（ナショナルテートギャラリー、大英博物館他）、バッキンガム宮殿などの見学。

POINT 2 一流の講師陣による授業・演習



謝 珠栄 教授

1971年、宝塚歌劇団に首席入団。退団後、ニューヨークへ留学。振付家として宝塚歌劇団、劇団四季、東宝等の作品、映画、TVと活躍の幅を広げていき、“演劇的な踊り”と高く評価される。1987年TSミュージカルファンデーションを設立。以後、演出・振付・脚本・企画でオリジナル作品を作り続ける。第43回芸術選奨文部大臣新人賞、第16回読売演劇大賞 優秀スタッフ賞、第34回松尾芸能賞、第43回紀伊国屋演劇賞 個人賞他多数の受賞歴を持つ。

POINT 3 本物の“舞台”で学ぶ実習



学内施設の「澤山記念ホール」における実習やプロの現場との提携による実習、実践に近い形での演習の機会を豊富に設けます。

POINT 4 プロフェッショナルによる特別講義

特別講師に学ぶ集中講義などの機会があります。

カリキュラム例

- 舞台芸術入門
- ミュージカル入門
- 演技演出概論
- 演劇史
- 舞台制作・企画
- ヴォイストレーニング
- 基礎実習(演技)
- 基礎実習(ダンス)
- 舞台芸術基礎演習
- 舞台芸術総合実習
- 卒業演習
- ほか

【競合校分析（舞台芸術関連）】

大学/学部/学科	競合校設定の観点				競合校との比較分析の観点				
	入学定員	学問分野	所在地	学力層	教育内容と方法	入試	奨学金制度(大学独自) ※抜粋	就職支援	取得可能資格
大阪芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科	170名	芸術	大阪府南河内郡河内町東山469	47～53	業界との強力な連携を活かし、演技や舞台制作に加えて、映画や音楽などの「専門関連科目」を提供している。さらに、学生は自分が所属する学科以外の授業も受講することができる。	共通テスト利用選抜入学試験を除く、すべての入学試験で面接を実施している。志望理由のほか、高校までの学修について、入学後の学修計画、自身が描くキャリアイメージ、アドミッションポリシーに対する自己評価などを面接によって総合的に判断する。	【特待生制度】 入試の成績優秀者に対して、学費の一部または全額が免除される制度。一般入試、総合型選抜、学校推薦型選抜など、様々な入試区分で設けられている。 【前年度成績優秀者奨学金】 前年度の学業成績が優秀な学生に対して、奨学金が支給される制度。学部生、大学院生を対象とした制度。 【緊急奨学金】 家計支持者の死亡などにより、家計が急変し、修学が困難になった学生に対して、奨学金が支給される制度。	学生一人ひとりの個性と才能を活かしたキャリア形成を支援することに力を入れている。また、業界や企業理解を深めるためのイベントや、芸術系大学ならではの専門性の高い講座も開催している。さらに、企業との連携プロジェクトなどを通して、学生が将来の仕事に対する興味関心を育める機会も提供している。	司書 学芸員
京都芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科	90名	芸術	京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116	53～56	芸術全般において深い理解を得られるカリキュラムを提供しており、舞台芸術分野でも高い専門性を誇る。特に、美術、デザイン、舞台技術の分野においては、専門性の高い教育が行われ、学生の自主性を尊重したカリキュラムが特徴である。	熟意や挑戦する姿勢で可否を判定する授業形式型の試験や面接形式型の試験、筆記形式など、さまざまな入試を実施している。	なし	学生一人ひとりの個性と才能を最大限に引き出し、社会で活躍できる人材を育成するために、充実した就職支援体制を整えている。専門のキャリアカウンセラーが個別の相談に応じ、学生の進路選択から就職活動までを全面的にサポート。履歴書やエントリーシートの添削、模擬面接、ポートフォリオ作成のアドバイスなどを行う。	学芸員
近畿大学 文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻		芸術	大阪府東大阪市小若江3-4-1	58～62	舞台芸術関連の教育が芸術学部の一環として提供。演劇や舞踊などの舞台芸術を、創作から批評・研究まで広範囲に学ぶ。「演劇制作系」「舞踊制作系」「戯曲制作系」「TOP (Theatre Organization Planning) 系」の4つの学びの角度から、豊かな表現力を培う。	一般選抜、総合型選抜、大学入学共通テスト利用入試など、多様な入試方式が用意されている。また大学が指定する各種資格試験等の得点、資格を「外国語」の得点にみなして換算する、「外部試験利用制度」を設けている。	【世耕弘一奨学金（入学前予約採用型給付）】 近畿大学への入学を強く希望する学生を対象とした、入学前の予約採用型給付奨学金。入学後の経済支援を目的としている。 【近畿大学災害特別奨学金】 過去5年以内に災害にあり、経済的に学業の継続が困難な人が対象。 【近畿大学応急奨学金】 家計支持者の失職・破産・倒産・離別・病氣・死亡などにより家計が急変し、学業の継続が困難な人が対象。	学生が社会で活躍できるよう、キャリアセンターと連携した手厚い就職支援を提供している。入学直後の新入生ガイダンスから始まり、就職相談フェアや学内合同企業セミナーなど、多彩なプログラムを通して学生のキャリア形成をサポートしている。	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語） 司書 学芸員
芸術文化観光専門職大学 芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科		芸術	兵庫県豊岡市山王町7-52	53～55	芸術文化と観光の融合をテーマにした教育を行っている。学生は、地域活性化における芸術文化と観光の役割を理解し、実践的なプログラムを通じてプロフェッショナルなスキルを習得する。	高等学校卒業程度の知識等を問う学力試験のほか、それらを基に自己の考えをまとめ表現する能力や大学での学修意欲、主体性・多様性・協働性を重点的に評価する小論文、グループワーク、面接などを取り入れた選抜方法を実施している。	【授業料の減免制度】 経済的理由により授業料の納付が困難な学生や、災害などにより学費の支払いが難しくなった学生を対象とした、授業料の減免制度がある。 【高等教育の修学支援新制度】 国の制度である「高等教育の修学支援新制度」の対象大学となっており、授業料等の減免と給付型奨学金の支援を受けることができる。	専門職大学としての特性を活かし、学生が卒業後に芸術文化観光分野で即戦力として活躍できるよう、実践的な就職支援に力を入れている。芸術文化と観光の両分野に特化した専門性の高い学びと並行し、インターンシップや企業との連携プロジェクトなど、実務経験を積む機会を豊富に用意している。	なし
梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科	40名	芸術	大阪府茨木市宿久庄2-19-5		表現者（パフォーマー）としての学びに加えて舞台の企画・演出を学ぶ（演出家・プロデューサー）の学びも行う。さらには全員参加のロンドン研修において名門演劇学校でのワークショップやロンドンウエストエンドでの観劇を通じ本場、本物を学ぶ。一方副専攻科目を履修するカリキュラムとなっているため美容や食に関する資格を取得することが可能である。	一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、大学入学共通テスト利用入試など、多様な入試方式を用意している。また大学が指定する各種資格試験等の得点、資格を「外国語」の得点にみなして換算、若しくは加点したりする「外部検定試験利用制度」を取り入れている。	【奨学金制度】 入学後経済的理由により就学困難な学生や、震災、家計支持者の死亡その他突発的な理由により家庭の経済事情が急変し、就学が著しく困難となった学生に対して「湊山奨学金」「特別奨学金」がある。 【特待生制度】 入学前には課外活動を含む高校時代の実績、入学試験時の成績に対して優遇である者に対する様々な「特待生」制度を充実させている。 【その他】 授業料等の納付時にも「延納」「分納」の制度を整え個人に対して柔軟かつ個別対応が可能な体制も整えている。	本学は全ての学科で少人数であるため一人ひとりにあわせてサポート体制が整っている。また独自の取り組みとしての「就活ゼミ」「就活クラス」を軸としたサポートプログラムにより、個人にあわせて随時「個人面談」を行い、個性や適性を踏まえた相談により支援を行う。	

（出典）
 ・「学問分野」は学校基本調査「学科系統分類表」を参照。
 ・「学力層」はベネッセマナビジョン(https://manabi.benesse.ne.jp/)を参照。
 ・上記以外は各大学のホームページを参照。

競合校の入学志願動向等

出典：各校ホームページ

		2022年度	2023年度	2024年度
大阪芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科	入学定員	170	170	170
	志願者数	409	402	330
	受験者数	-	-	-
	合格者数	-	-	-
	入学者数	189	185	161
	入学定員充足率	111.2%	108.8%	94.7%

		2022年度	2023年度	2024年度
京都芸術大学 芸術学部 舞台芸術学科	入学定員	60	60	90
	志願者数	519	574	455
	受験者数	-	-	-
	合格者数	-	-	-
	入学者数	64	63	91
	入学定員充足率	106.7%	105.0%	101.1%

		2022年度	2023年度	2024年度
近畿大学 文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻	入学定員	50	50	50
	志願者数	476	557	573
	受験者数	-	-	-
	合格者数	160	155	264
	入学者数	-	-	- ※非公表
	入学定員充足率	-	-	-

		2022年度	2023年度	2024年度
近畿大学 文芸学部	入学定員	515	515	515
	志願者数	-	-	-
	受験者数	-	-	-
	合格者数	-	-	-
	入学者数	555	523	540
	入学定員充足率	107.8%	101.6%	104.9%

		2022年度	2023年度	2024年度
芸術文化観光専門職大学	入学定員	80	80	80
	志願者数	282	370	272
	受験者数	278	359	268
	合格者数	95	98	98
	入学者数	84	86	84
	入学定員充足率	105.0%	107.5%	105.0%

舞台芸術学関係学部学科設置校 初年度学校納入金

設置大学	学部学科名称	初年度 学校納入金 総額	入学金	授業料	施設設備等	その他
大阪芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	1,840,000	280,000	1,100,000	460,000	
京都芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	1,920,000	250,000	1,320,000	350,000	
近畿大学	文芸学部 芸術学科 舞台芸術専攻	1,718,500	250,000	1,462,000		6,500
芸術文化観光専門職大学	芸術文化・観光学部 芸術文化・観光学科	958,800	423,000	535,800		

出典：各校ホームページ

学生確保に関するアンケート調査 集計結果

2025年2月

学生確保に関するアンケート調査

(1) 調査の目的

梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の需要を確認し、学生確保の見通しを図ることを目的に、学科紹介リーフレットを配布した上で、高校生の舞台芸術への興味・関心、舞台芸術表現学科への受験・入学の意向についてアンケート調査を実施する。

(2) 調査の対象

梅花女子大学の学生確保の基盤となる、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県を中心とする高等学校において、梅花女子大学に例年多くの生徒の受験・入学実績があり、2024（令和6）年現在、高校2年生として在籍する生徒。
（新学科設置時に大学進学時期を迎える者）

(3) 調査方法

郵送配布、郵送回収 及び Webフォームによる自記式（無記名）

(4) 調査実施時期

2024年6月～12月

(5) 有効回収数

4,351サンプル

Ⅱ. 調査結果

Q1. 性別

「男性」の回答を除外し、「女性」（4255件）、「回答しない」（96件）の合計4351件を対象に集計を行った。

Q2. 高等学校所在地

回答者の高等学校所在地は「大阪府」が67%でもっとも高い。次いで「兵庫県」（11%）、京都府（11%）。

問2. あなたが在学している高等学校の所在地をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	大阪府	2927	67.3
2	兵庫県	463	10.6
3	京都府	497	11.4
4	滋賀県	62	1.4
5	その他	398	9.1
	無回答	4	0.2
	合計	4351	100.0

※「その他」の内訳は奈良県267件（6.1%）、広島県129件（3.0%）。

Q3. 所属クラス

所属クラスは「文系」が51%、「理系」が11%、「コース選択はない」「その他」が19%。

問3. あなたが所属するクラスをお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	文系クラス（文系コース）	2219	51.0
2	理系クラス（理系コース）	468	10.8
3	コース選択はない	814	18.7
4	その他	823	18.9
	無回答	27	0.6
	合計	4351	100.0

Ⅱ. 調査結果

Q4. 卒業後の進路

「大学」進学希望者が71%。専門職短期大学まで含めた進学希望者は90%。

問4. 高校卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまる番号すべてに○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	大学	3105	71.4
2	短期大学	492	11.3
3	専門職大学	238	5.5
4	専門職短期大学	88	2.0
5	専門学校	1084	24.9
6	就職	256	5.9
7	その他	136	3.1
	合計	4351	

進学希望者のうち、「私立」の大学等への進学希望が85%と最も高い。

上記設問で1～4を選択した方は、下記の質問にお答えください。

問4-②.志望する大学等の設置者（国立／公立／私立）の希望をお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	国立	701	21.0
2	公立	1239	37.1
3	私立	2827	84.6
	合計	3342	

II. 調査結果

Q5. 興味のある学問分野

1. 進学先として興味のある学問分野の上位3つは以下の通り。

- ①美術、舞台、演劇学、音楽関係 (20%)
- ②文学、史学、哲学関係 (16%)
- ③教育学関係 (15%)

2. 文学、史学、哲学関係に興味のある層は「美術、舞台、演劇学、音楽関係」への興味も比較的高い。

問5. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を、次の中から選択してください。
(あてはまる番号すべてに○)

		=全体より10ポイント以上高い												=全体より10ポイント以上低い												(%)	
		N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
			哲学関係、文学、史学、	法学、政治学関係	商学、経済学関係	社会学関係	演劇学、音楽関係	美術、舞台、音楽関係	数学、物理学関係	化学関係	生物関係	地学関係	機械工学関係	情報工学関係、電気通信工学、	農学関係												
合計		4,351	16.4	7.4	14.1	9.4	19.5	1.8	1.5	4.4	0.6	1.3	1.7	1.5													
所在地	大阪府	2,927	15.3	7.0	13.2	8.3	21.0	2.0	1.8	4.7	0.7	1.5	1.9	1.5													
	兵庫県	463	17.5	5.4	11.9	7.8	17.1	1.5	0.9	3.9	0.4	1.1	1.9	2.2													
	京都府	497	19.9	10.5	21.7	15.1	17.5	2.0	1.4	3.0	0.8	1.2	1.4	1.0													
	滋賀県	62	21.0	8.1	12.9	19.4	9.7	-	-	-	-	-	-	-													
	その他	398	18.3	8.8	14.3	10.8	15.6	0.8	0.5	4.5	0.3	0.5	0.3	1.5													
クラス	文系クラス (文系コース)	2,219	22.8	10.4	18.9	12.8	18.5	0.5	0.3	1.8	0.5	0.3	0.5	0.7													
	理系クラス (理系コース)	468	3.4	3.2	7.7	3.8	11.1	8.3	7.9	14.1	1.7	7.3	6.8	6.0													
	コース選択はない	814	14.7	5.5	11.9	8.1	19.7	1.6	1.4	5.4	0.9	0.7	1.2	1.1													
	その他	823	8.6	3.8	7.0	4.9	27.0	1.9	1.3	4.9	0.2	1.1	2.6	1.3													
卒業後	大学	3,105	20.7	9.3	18.1	12.1	18.4	2.1	2.0	4.1	0.7	1.5	2.1	1.7													
	短期大学	492	13.4	4.3	10.2	7.5	26.8	2.6	1.6	3.7	0.6	1.4	1.2	1.0													
	専門学校	1,084	7.5	2.5	4.7	2.9	26.0	0.8	0.6	5.4	0.4	0.6	1.0	0.7													
設置者	国立	701	20.7	10.8	17.1	10.7	19.0	5.7	4.6	7.0	2.0	3.9	3.7	3.3													
	公立	1,239	18.9	8.9	16.0	9.1	22.4	2.8	2.8	6.1	1.1	2.3	2.5	2.3													
	私立	2,827	20.1	9.0	17.9	12.5	18.7	1.8	1.6	3.6	0.6	1.1	1.8	1.6													
分野	文学、史学、哲学関係	714	100.0	15.3	21.3	23.7	23.1	1.8	1.4	3.2	1.8	0.8	0.7	1.8													
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	19.5	5.0	10.1	8.5	100.0	2.2	2.4	4.0	0.9	2.2	2.2	2.2													
	教育学関係	639	14.2	3.9	9.2	7.4	13.3	3.0	1.6	3.1	0.9	0.6	0.6	1.1													
関心度	興味関心がある	132	22.0	7.6	7.6	6.8	43.9	1.5	1.5	1.5	0.8	2.3	3.0	1.5													
	やや興味関心がある	759	23.3	7.9	13.7	10.7	38.3	2.6	1.8	4.0	0.7	1.6	1.4	1.8													
	あまり興味関心はない	1,702	17.5	6.9	15.7	9.7	18.6	1.5	1.5	4.8	0.5	0.9	1.5	1.2													
	興味関心はない	1,695	12.1	7.9	13.3	9.0	10.1	1.8	1.4	4.5	0.8	1.4	1.9	1.7													
受験意向	第一志望として受験	32	25.0	-	3.1	3.1	25.0	-	-	-	-	3.1	-	-													
	第二志望として受験	53	18.9	9.4	7.5	3.8	73.6	1.9	1.9	-	-	-	1.9	1.9													
	第三志望として受験	155	22.6	3.9	12.3	9.0	49.7	1.9	3.2	6.5	1.3	1.9	1.3	3.2													
	受験しない	3,986	16.3	7.8	14.5	9.7	17.6	1.8	1.5	4.4	0.7	1.3	1.8	1.4													
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	20.0	-	-	4.0	32.0	-	-	-	-	4.0	-	-													
	:条件付き入学する	3	66.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	:入学しない	3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-													
	第二志望:入学する	12	18.2	9.1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-													
	:条件付き入学する	35	17.1	11.4	11.4	2.9	68.6	2.9	2.9	-	-	-	2.9	-													
	:入学しない	4	25.0	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-	-	-	25.0													
	第三志望:入学する	7	28.6	14.3	14.3	28.6	42.9	-	-	-	-	-	-	-													
	:条件付き入学する	131	24.2	3.1	12.5	7.8	55.5	2.3	3.9	7.0	1.6	1.6	1.6	3.1													
:入学しない	15	-	6.7	6.7	6.7	20.0	-	-	6.7	-	-	-	6.7														

II. 調査結果

Q5. 興味のある学問分野<続き>

問5. 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	13 獣 医 学 畜 産 学 関 係	14 薬 学 関 係 、 歯 学 、	15 看 護 学 関 係	16 家 政 学 関 係	17 食 物 学 関 係	18 被 服 学 関 係	19 教 育 学 関 係	20 体 育 学 関 係	21 国 際 関 係 学 関 係	22 人 間 関 係 学 関 係	23 そ の 他
合計		4,351	3.3	10.0	14.2	2.3	8.3	4.3	14.7	6.3	13.2	7.6	7.8
所在地 高校	大阪府	2,927	3.5	10.5	14.1	1.6	7.5	4.2	14.1	6.1	12.9	7.4	8.6
	兵庫県	463	2.8	8.9	14.3	2.6	9.1	5.0	14.0	5.6	14.0	6.9	6.5
	京都府	497	2.2	9.1	13.1	3.4	7.0	4.8	14.9	5.0	14.3	6.6	7.0
	滋賀県	62	3.2	9.7	25.8	3.2	9.7	3.2	22.6	9.7	19.4	6.5	8.1
	その他	398	4.0	8.8	14.3	5.5	14.1	3.8	18.1	9.5	11.6	11.8	4.3
クラス 所属	文系クラス（文系コース）	2,219	2.4	5.2	11.5	2.2	6.0	4.5	15.9	5.9	19.0	8.8	6.0
	理系クラス（理系コース）	468	6.4	32.7	28.4	3.0	8.3	1.9	7.7	3.4	4.1	3.6	4.7
	コース選択はない	814	3.4	11.5	14.3	2.2	9.7	5.9	15.0	8.6	8.1	8.6	11.1
	その他	823	3.8	8.4	13.1	2.2	12.8	3.2	15.3	6.8	7.8	5.8	11.3
卒業後 進路 高校	大学	3,105	2.9	10.6	15.3	2.5	7.6	3.7	16.2	7.3	16.4	8.8	5.1
	短期大学	492	3.3	8.9	14.0	3.7	13.6	7.5	28.7	6.5	10.6	7.5	8.1
	専門学校	1,084	6.8	11.4	19.0	1.9	10.0	7.7	10.1	5.8	6.6	4.1	15.0
設置者 等 志望	国立	701	3.3	17.5	17.8	2.4	8.0	3.6	20.5	9.0	15.5	6.8	4.7
	公立	1,239	3.9	12.3	16.8	2.2	9.0	4.6	18.4	8.3	13.9	8.6	6.1
	私立	2,827	2.7	10.1	14.9	2.6	8.0	3.9	17.1	7.2	16.2	8.9	5.6
興味あ る学 問 分 野	文学、史学、哲学関係	714	2.5	3.6	4.3	2.7	6.7	4.8	12.7	4.2	15.5	15.1	2.2
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	3.9	4.5	5.7	2.6	5.7	8.3	10.0	3.4	10.0	10.4	4.8
	教育学関係	639	2.5	6.7	12.1	2.8	6.1	3.3	100.0	14.6	8.9	10.0	3.3
関心 度 新 学 科	興味関心がある	132	1.5	6.8	13.6	1.5	7.6	6.1	13.6	6.8	10.6	15.2	9.8
	やや興味関心がある	759	4.0	9.1	12.3	2.6	6.9	5.4	17.8	5.9	14.5	10.1	6.3
	あまり興味関心はない	1,702	3.3	10.2	14.4	2.6	9.1	4.8	15.2	6.3	13.3	7.5	7.0
	興味関心はない	1,695	3.1	10.4	15.2	1.9	8.0	3.3	13.3	6.5	12.7	6.1	9.3
受 験 意 向 新 学 科	第一志望として受験	32	3.1	3.1	9.4	3.1	-	3.1	15.6	9.4	9.4	6.3	15.6
	第二志望として受験	53	-	3.8	11.3	-	5.7	7.5	17.0	9.4	5.7	17.0	-
	第三志望として受験	155	3.2	7.7	9.7	1.3	10.3	5.8	15.5	5.8	16.8	10.3	6.5
	受験しない	3,986	3.3	10.2	14.5	2.4	8.3	4.2	14.8	6.3	13.2	7.4	8.0
受 験 意 向 別 の 入 学 意 向	第一志望:入学する	25	4.0	4.0	4.0	4.0	-	4.0	20.0	12.0	8.0	8.0	16.0
	:条件付き入学する	3	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	-
	:入学しない	3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	第二志望:入学する	12	-	-	18.2	-	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	36.4	-
	:条件付き入学する	35	-	5.7	11.4	-	5.7	5.7	20.0	11.4	5.7	8.6	-
	:入学しない	4	-	-	-	-	-	25.0	-	-	-	25.0	-
	第三志望:入学する	7	-	-	14.3	-	14.3	-	-	-	14.3	-	-
	:条件付き入学する	131	3.9	8.6	10.2	1.6	9.4	7.0	16.4	6.3	17.2	8.6	7.0
:入学しない	15	-	6.7	6.7	-	20.0	-	20.0	-	13.3	33.3	6.7	

II. 調査結果

Q6. 進学先で身につけたいスキル

1. 進学先で身につけたいスキルは「自分の考えを口頭でわかりやすく伝える力」(44%)が最も高く、次いで「チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力」「幅広い知識・教養」(いずれも32%)が高い。
2. 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層では、「他者の心を動かす表現力」「既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す力」が、全体と比べて15ポイント以上高い。

問6. 進学先で身につけたいと思うスキルを、次の中から選択してください。(あてはまる番号すべてに○)

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1	2	3	4	5	6	7
			わ自 か分 りの 考考 ええ すを くを 伝口 え頭 るで 力	他 者 の 心 を 動 か す 表 現 力	活 用 す る ユ ー タ ー A I を	異 力 外 文 化 理 解 力	物 事 に 進 ん で 取 り 組 む 主 体 性	問 題 を 解 決 す る 力	創 造 的 に 諸 問 題 を 解 決 す る 力
合計		4,351	44.2	29.3	10.9	25.1	25.5	19.3	9.6
所在地	大阪府	2,927	43.3	29.0	11.1	24.2	25.1	17.8	9.2
	兵庫県	463	47.5	27.4	10.6	27.0	28.1	22.7	9.9
	京都府	497	47.3	29.2	10.3	27.6	23.3	23.3	11.1
	滋賀県	62	51.6	38.7	9.7	37.1	41.9	24.2	12.9
	その他	398	42.5	31.7	11.1	24.4	25.6	20.9	9.3
クラス	文系クラス(文系コース)	2,219	44.6	29.0	9.6	29.9	23.5	18.5	10.2
	理系クラス(理系コース)	468	43.4	27.1	16.0	21.2	29.5	29.5	11.1
	コース選択はない	814	46.2	29.5	10.8	21.5	27.5	17.6	9.3
	その他	823	42.2	31.2	11.9	18.2	26.7	18.0	7.5
卒業後	大学	3,105	47.3	30.7	12.5	28.9	27.1	22.5	11.4
	短期大学	492	42.9	33.9	11.6	20.5	32.5	21.1	8.5
	専門学校	1,084	39.0	28.7	8.7	16.8	26.2	13.7	4.2
設置者	国立	701	52.4	38.1	16.5	33.4	32.5	30.2	15.1
	公立	1,239	47.9	33.7	15.1	27.6	29.0	24.1	11.6
	私立	2,827	47.0	30.7	12.1	28.0	27.3	21.9	11.1
分野	文学、史学、哲学関係	714	61.1	40.9	16.0	36.0	30.3	26.5	16.4
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	44.2	48.3	16.5	23.6	26.2	17.5	11.3
	教育学関係	639	53.4	40.7	9.5	20.0	29.9	19.4	9.2
関心度	興味関心がある	132	51.5	40.2	12.1	28.0	19.7	16.7	9.8
	やや興味関心がある	759	50.1	37.8	12.6	30.3	26.6	19.9	10.9
	あまり興味関心はない	1,702	45.1	28.9	10.6	23.4	27.3	19.9	9.4
	興味関心はない	1,695	41.2	25.5	10.4	24.5	24.0	19.2	9.4
受験意向	第一志望として受験	32	53.1	34.4	9.4	25.0	18.8	9.4	12.5
	第二志望として受験	53	56.6	45.3	13.2	32.1	26.4	11.3	7.5
	第三志望として受験	155	43.9	44.5	13.5	31.6	23.9	14.8	11.0
	受験しない	3,986	44.5	28.8	11.0	24.9	26.0	20.1	9.7
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	52.0	40.0	12.0	20.0	12.0	12.0	12.0
	:条件付き入学する	3	66.7	33.3	-	100.0	66.7	-	33.3
	:入学しない	3	66.7	-	-	-	33.3	-	-
	第二志望:入学する	12	54.5	36.4	9.1	36.4	18.2	9.1	9.1
	:条件付き入学する	35	51.4	51.4	14.3	31.4	28.6	11.4	8.6
	:入学しない	4	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-
	第三志望:入学する	7	28.6	57.1	-	14.3	28.6	14.3	14.3
	:条件付き入学する	131	46.1	43.8	14.8	33.6	25.8	15.6	10.9
:入学しない	15	26.7	53.3	6.7	26.7	13.3	6.7	13.3	

II. 調査結果

Q6. 進学先で身につけたいスキル<続き>

問6. 進学先で身につけたいと思うスキルを、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	8	9	10	11	12	13	14	
			新しいアイデアを出す力	既存の枠にとらわれず、思いや責任を果たす力	自分の役割や責任を果たす力	新しい知識・能力を身に付けてほしいと知識・能力を	幅広い知識・教養	ビジネスやプロジェクトに関する専門知識	他者との良好なコミュニケーションを築く力	その他
合計		4,351	23.3	32.2	26.4	32.3	11.2	30.8	1.5	
所在地	大阪府	2,927	23.4	31.8	26.6	31.7	10.4	29.8	1.6	
	兵庫県	463	21.2	31.5	23.5	34.6	15.1	34.1	1.3	
	京都府	497	22.3	32.2	24.9	32.6	11.7	32.2	1.8	
	滋賀県	62	38.7	46.8	40.3	32.3	12.9	43.5	-	
	その他	398	23.6	32.9	27.9	33.7	12.1	30.9	0.8	
クラス	文系クラス（文系コース）	2,219	23.7	30.7	23.3	30.6	12.1	30.6	0.7	
	理系クラス（理系コース）	468	25.6	39.5	36.8	42.5	11.8	33.1	1.3	
	コース選択はない	814	21.1	31.9	28.3	30.3	9.2	29.5	2.5	
	その他	823	23.1	32.7	27.6	33.8	10.9	31.7	2.8	
卒業後	大学	3,105	25.2	33.1	27.6	36.0	11.9	32.1	1.0	
	短期大学	492	27.8	37.8	32.1	37.0	9.1	36.2	0.6	
	専門学校	1,084	24.7	34.1	29.1	27.7	12.1	33.7	1.7	
設置者	国立	701	30.7	37.7	33.2	43.8	16.3	37.4	0.7	
	公立	1,239	27.4	36.7	30.6	37.8	12.6	35.1	1.3	
	私立	2,827	25.6	33.9	27.8	35.9	11.8	32.3	0.9	
分野	文学、史学、哲学関係	714	31.4	28.7	27.3	39.1	14.7	33.8	0.4	
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	41.2	29.6	26.3	28.9	13.3	34.1	0.9	
	教育学関係	639	23.9	43.2	28.8	40.7	9.9	42.1	0.8	
関心度	興味関心がある	132	28.0	31.1	25.0	31.1	11.4	37.1	1.5	
	やや興味関心がある	759	29.6	36.2	27.3	32.1	12.3	34.1	0.8	
	あまり興味関心はない	1,702	24.0	33.9	28.1	33.7	10.9	31.6	0.9	
	興味関心はない	1,695	19.6	29.6	25.1	31.7	11.4	28.7	2.4	
受験意向	第一志望として受験	32	12.5	15.6	15.6	12.5	9.4	21.9	3.1	
	第二志望として受験	53	34.0	34.0	32.1	24.5	9.4	34.0	-	
	第三志望として受験	155	30.3	36.1	18.1	30.3	12.9	37.4	1.3	
	受験しない	3,986	23.3	32.4	27.1	32.9	11.4	30.8	1.4	
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	12.0	20.0	16.0	12.0	12.0	20.0	4.0	
	:条件付き入学する	3	-	-	-	33.3	-	33.3	-	
	:入学しない	3	-	-	33.3	-	-	33.3	-	
	第二志望:入学する	12	27.3	18.2	27.3	9.1	9.1	18.2	-	
	:条件付き入学する	35	37.1	42.9	34.3	34.3	11.4	45.7	-	
	:入学しない	4	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	
	第三志望:入学する	7	14.3	14.3	14.3	42.9	-	42.9	-	
	:条件付き入学する	131	33.6	39.8	19.5	31.3	14.1	38.3	0.8	
:入学しない	15	13.3	20.0	13.3	13.3	6.7	26.7	6.7		

II. 調査結果

Q7. 受験候補先の情報収集手段

1. 受験候補先の情報収集手段は「大学案内等パンフレット」（56%）が最も高く、次いで「オープンキャンパス」（49%）、「公式ホームページ」（47%）が高い。
2. 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層でも同様の傾向がみられる。

問7. あなたはどのような方法で受験候補先の情報を収集していますか。次の中から選択してください。
(あてはまる番号すべてに○)

			=全体より10ポイント以上高い							=全体より10ポイント以上低い							(%)
		N	1	2	3	4	5	6	7								
			大学案内等パンフレット	公式ホームページ	公式YouTube	オープンキャンパス	進学・入試説明会	受験情報誌	受験情報サイト								
合計		4,351	55.7	47.0	3.1	48.7	18.4	2.9	9.0								
所在地	大阪府	2,927	53.7	46.1	3.2	48.2	17.0	2.9	8.8								
	兵庫県	463	56.4	49.0	1.3	51.0	16.2	2.8	11.0								
	京都府	497	61.6	45.1	2.4	52.7	26.0	3.4	8.7								
	滋賀県	62	80.6	56.5	6.5	61.3	22.6	3.2	11.3								
	その他	398	59.0	51.8	4.5	42.7	21.4	2.8	8.3								
クラス所属	文系クラス（文系コース）	2,219	58.0	47.7	2.7	51.1	21.4	2.9	9.3								
	理系クラス（理系コース）	468	59.2	51.7	2.8	52.4	20.1	4.1	13.5								
	コース選択はない	814	53.1	42.8	3.6	43.9	12.7	2.9	8.4								
	その他	823	50.7	46.7	3.8	44.5	15.4	2.3	6.7								
卒業後進路	大学	3,105	63.3	50.1	3.1	52.0	21.4	3.5	10.9								
	短期大学	492	60.8	45.5	4.7	56.1	19.9	2.6	6.5								
	専門学校	1,084	47.5	47.0	3.1	49.1	15.4	2.1	5.7								
設置者等	国立	701	62.5	51.4	3.3	48.6	23.1	5.1	15.5								
	公立	1,239	59.7	50.9	3.2	49.3	21.6	3.6	11.5								
	私立	2,827	64.7	50.5	3.1	53.4	21.6	3.6	10.4								
分野	文学、史学、哲学関係	714	68.5	52.0	3.8	52.9	25.1	5.7	14.3								
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	58.5	53.1	4.8	49.5	21.3	2.9	7.3								
	教育学関係	639	64.2	49.5	3.4	51.2	18.6	3.3	9.1								
関心度	興味関心がある	132	58.3	47.0	7.6	38.6	20.5	3.0	6.8								
	やや興味関心がある	759	62.2	49.5	4.2	49.5	21.2	4.6	9.7								
	あまり興味関心はない	1,702	57.8	48.5	2.5	50.8	18.8	2.4	8.7								
	興味関心はない	1,695	51.7	45.4	2.9	47.8	16.9	2.8	9.4								
受験意向	第一志望として受験	32	50.0	25.0	3.1	18.8	15.6	3.1	-								
	第二志望として受験	53	50.9	50.9	5.7	39.6	24.5	3.8	3.8								
	第三志望として受験	155	63.9	49.0	5.8	47.7	23.2	4.5	11.0								
	受験しない	3,986	56.1	47.5	2.9	49.6	18.4	2.9	9.2								
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	52.0	28.0	4.0	16.0	16.0	4.0	-								
	:条件付き入学する	3	33.3	-	-	66.7	33.3	-	-								
	:入学しない	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-								
	第二志望:入学する	12	54.5	54.5	-	36.4	9.1	-	-								
	:条件付き入学する	35	48.6	51.4	2.9	37.1	28.6	5.7	5.7								
	:入学しない	4	50.0	75.0	25.0	50.0	25.0	-	-								
	第三志望:入学する	7	71.4	42.9	42.9	57.1	42.9	-	28.6								
	:条件付き入学する	131	64.8	50.0	4.7	50.0	23.4	4.7	9.4								
	:入学しない	15	46.7	53.3	-	26.7	20.0	6.7	20.0								

次ページに続く→

II. 調査結果

Q7. 受験候補先の情報収集手段<続き>

問7.あなたはどのような方法で受験候補先の情報を収集していますか。次の中から選択してください。
(あてはまる番号すべてに○)

			=全体より10ポイント以上高い	=全体より10ポイント以上低い	(%)			
		N	8	9	10	11	12	13
			高校の先生に話を聞く	塾や予備校の先生に話を聞く	インターネット検索	L X S I , N S E I (n F s a t c a e g b r o a m k , ,	その他	情報収集はしていない
合計		4,351	19.1	5.8	34.2	17.0	0.9	5.1
所在地	大阪府	2,927	19.2	5.5	33.6	16.3	0.9	5.4
	兵庫県	463	14.0	6.9	34.1	21.6	0.6	6.3
	京都府	497	21.3	7.0	33.8	14.3	0.2	4.4
	滋賀県	62	21.0	11.3	56.5	21.0	1.6	-
	その他	398	21.1	4.0	36.4	20.4	1.5	3.8
クラス	文系クラス (文系コース)	2,219	18.5	6.4	33.3	16.8	0.5	4.5
	理系クラス (理系コース)	468	22.2	9.6	37.2	13.2	0.2	3.6
	コース選択はない	814	17.6	4.4	34.9	19.2	1.1	7.0
	その他	823	20.0	3.3	34.6	18.0	1.9	6.1
卒業後	大学	3,105	20.7	7.2	36.2	16.7	0.6	3.9
	短期大学	492	22.8	4.3	39.4	21.1	1.2	5.9
	専門学校	1,084	16.4	2.4	39.3	25.2	0.7	4.5
設置者等	国立	701	28.0	9.8	45.1	17.3	0.7	4.9
	公立	1,239	24.4	6.6	40.9	18.1	0.8	5.2
	私立	2,827	20.5	7.0	36.2	16.7	0.6	3.5
分野	文学、史学、哲学関係	714	23.0	9.8	38.0	20.9	0.8	2.8
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	21.2	6.6	39.6	19.1	0.6	5.7
	教育学関係	639	23.6	6.7	34.4	18.5	1.1	3.9
関心度	興味関心がある	132	21.2	4.5	31.1	17.4	0.8	3.0
	やや興味関心がある	759	20.6	6.7	34.1	19.8	0.7	4.7
	あまり興味関心はない	1,702	20.3	5.6	37.6	15.9	0.6	4.1
	興味関心はない	1,695	17.5	5.6	32.2	17.2	1.1	6.5
受験意向	第一志望として受験	32	12.5	3.1	15.6	3.1	-	6.3
	第二志望として受験	53	22.6	3.8	43.4	17.0	-	3.8
	第三志望として受験	155	27.7	5.8	32.3	19.4	0.6	1.9
	受験しない	3,986	18.9	5.8	34.9	17.2	0.9	5.3
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	8.0	4.0	12.0	4.0	-	8.0
	:条件付き入学する	3	33.3	-	-	-	-	-
	:入学しない	3	33.3	-	33.3	-	-	-
	第二志望:入学する	12	9.1	9.1	63.6	36.4	-	9.1
	:条件付き入学する	35	28.6	2.9	40.0	14.3	-	2.9
	:入学しない	4	25.0	-	25.0	-	-	-
	第三志望:入学する	7	28.6	14.3	28.6	-	-	14.3
	:条件付き入学する	131	26.6	6.3	33.6	20.3	0.8	1.6
	:入学しない	15	40.0	-	33.3	20.0	-	-

II. 調査結果

Q8. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の魅力点

1. 舞台芸術表現学科(仮称・構想中)の魅力点は「プロの現場を知る一流の講師陣から知識・技術を学べる」(45%)が最も高く、次いで「全員がロンドン研修に参加できる」(37%)、「主専攻(舞台芸術)×副専攻(美容・健康/身体表現・スポーツ)×教養科目(情報/問題発見・解決等)の掛け合わせで、学生一人ひとりに合ったキャリアを目指す」(24%)が高い。
2. 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層では、「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」が、全体と比べて15ポイント以上高い。

問8. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」には以下の特徴があります。魅力に感じる点を、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

		=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い (%)				
		N	1	2	3	4	5	
			知識・技術の現場を学べる一流の講師陣から	専門性現場を学ぶ	「舞台芸術の現場を知る一流の講師陣から」	「基礎から学べる技術」	全員がロンドン研修に参加できる	ロンドンパナル研修を通して、見につく
合計		4,351	44.9	15.5	19.8	36.7	20.6	
所在地	大阪府	2,927	44.2	15.1	20.1	36.1	19.8	
	兵庫県	463	44.3	16.0	17.1	38.4	20.7	
	京都府	497	41.2	14.5	19.3	35.8	22.9	
	滋賀県	62	50.0	22.6	16.1	41.9	24.2	
	その他	398	53.8	17.6	22.4	39.2	22.4	
クラス	文系クラス（文系コース）	2,219	45.3	14.8	19.1	37.7	21.7	
	理系クラス（理系コース）	468	45.3	13.2	23.9	43.4	21.4	
	コース選択はない	814	45.6	16.7	20.0	34.4	19.9	
	その他	823	43.1	17.7	19.6	33.2	18.0	
の卒業後	大学	3,105	46.8	14.9	20.9	39.9	22.6	
	短期大学	492	45.5	17.5	25.2	31.7	22.4	
	専門学校	1,084	44.8	16.4	21.2	32.3	18.7	
設置者等	国立	701	49.4	18.8	25.4	46.1	27.7	
	公立	1,239	46.9	15.7	23.5	39.9	22.4	
	私立	2,827	47.9	15.8	20.4	39.7	22.8	
分野	文学、史学、哲学関係	714	53.2	22.0	27.0	39.4	25.8	
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	52.2	24.8	36.8	34.7	19.2	
	教育学関係	639	48.7	16.3	19.1	37.2	21.4	
関心度	興味関心がある	132	59.8	34.1	35.6	39.4	31.8	
	やや興味関心がある	759	53.5	26.6	33.9	39.9	25.8	
	あまり興味関心はない	1,702	44.8	14.3	20.2	39.2	21.0	
	興味関心はない	1,695	41.4	10.7	12.6	33.5	17.6	
受験意向	第一志望として受験	32	56.3	15.6	12.5	25.0	15.6	
	第二志望として受験	53	52.8	37.7	39.6	47.2	32.1	
	第三志望として受験	155	52.3	25.8	40.6	36.8	31.6	
	受験しない	3,986	45.4	14.9	19.2	37.1	20.3	
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	56.0	20.0	16.0	20.0	16.0	
	:条件付き入学する	3	66.7	0.0	0.0	66.7	33.3	
	:入学しない	3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	
	第二志望:入学する	12	54.5	45.5	45.5	45.5	36.4	
	:条件付き入学する	35	57.1	37.1	42.9	51.4	34.3	
	:入学しない	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	
	第三志望:入学する	7	71.4	57.1	57.1	42.9	28.6	
	:条件付き入学する	131	52.3	24.2	42.2	39.1	34.4	
:入学しない	15	33.3	20.0	26.7	13.3	20.0		

次ページに続く→

Ⅱ. 調査結果

Q8. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の魅力点＜続き＞

3. 第一志望として受験する層では、「プロの現場を知る一流の講師陣から知識・技術を学べる」が全体と比べて10ポイント以上高い。

問8. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」には以下の特徴があります。魅力を感じる点を、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い（%）

			6	7	8	9	10
		N	資格外を取ってできる	豊富な実践的な学びの機会がある	実習舞台経験でプロの現場での	が協働に通じてく	合掛主 つけ攻 た合× キわ× ヤせ副 リで専 ア、攻 を学× 目指一 せる人 の科 目 の り に
合計		4,351	18.3	14.0	19.1	18.9	24.0
所在地	大阪府	2,927	17.6	13.9	18.9	17.6	24.1
	兵庫県	463	18.4	10.6	20.5	19.9	23.8
	京都府	497	20.9	11.9	16.7	21.9	23.9
	滋賀県	62	25.8	6.5	17.7	22.6	24.2
	その他	398	18.3	21.9	22.4	22.9	24.4
クラス	文系クラス（文系コース）	2,219	19.2	13.2	18.8	18.1	22.4
	理系クラス（理系コース）	468	21.2	14.3	19.0	20.9	23.9
	コース選択はない	814	16.2	14.1	19.5	19.7	26.8
	その他	823	16.8	15.9	19.4	19.4	25.6
の卒業後	大学	3,105	19.4	14.6	20.0	19.2	24.3
	短期大学	492	19.3	17.3	21.7	24.8	28.5
	専門学校	1,084	17.9	14.8	20.4	20.2	24.7
設置者	国立	701	24.1	16.4	23.0	21.0	25.7
	公立	1,239	21.1	16.1	20.7	21.0	25.5
	私立	2,827	19.7	15.3	20.6	20.0	24.3
分野	文学、史学、哲学関係	714	20.4	17.4	22.0	21.3	27.2
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	18.2	20.6	27.2	21.8	31.6
	教育学関係	639	18.6	15.5	23.2	22.5	28.5
関心度	興味関心がある	132	21.2	33.3	37.1	25.8	32.6
	やや興味関心がある	759	23.5	22.9	30.3	21.7	32.1
	あまり興味関心はない	1,702	19.7	13.5	17.7	21.0	26.3
	興味関心はない	1,695	14.8	9.2	14.8	15.6	18.2
受験意向	第一志望として受験	32	12.5	9.4	9.4	9.4	9.4
	第二志望として受験	53	18.9	28.3	47.2	18.9	39.6
	第三志望として受験	155	25.2	23.9	29.7	25.2	37.4
	受験しない	3,986	18.2	13.7	18.8	19.1	23.6
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	16.0	8.0	8.0	12.0	12.0
	:条件付き入学する	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
	:入学しない	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0
	第二志望:入学する	12	18.2	18.2	36.4	18.2	27.3
	:条件付き入学する	35	17.1	34.3	48.6	22.9	51.4
	:入学しない	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	第三志望:入学する	7	14.3	42.9	42.9	28.6	28.6
	:条件付き入学する	131	26.6	25.0	32.8	28.1	38.3
:入学しない	15	20.0	13.3	0.0	6.7	33.3	

II. 調査結果

Q9. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）への興味関心

1. 舞台芸術表現学科(仮称・構想中)の興味関心度(「興味関心がある」+「やや興味関心がある」)は20%。
2. 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層では、41%が興味関心を抱いている。

問9. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」に興味・関心がありますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

 =全体より10ポイント以上高い
 =全体より10ポイント以上低い
 （%）

		N	1 興 味 関 心 が あ る	2 興 や 興 や 関 心 が あ る	3 興 あ ま り 関 心 は な い	4 興 味 関 心 は な い	無 回 答
合計		4,351	3.0	17.4	39.1	39.0	1.5
所在地 高校	大阪府	2,927	3.3	17.5	39.0	38.5	1.6
	兵庫県	463	2.2	16.0	36.7	44.5	0.6
	京都府	497	2.2	14.7	40.0	41.9	1.2
	滋賀県	62	3.2	14.5	33.9	45.2	3.2
	その他	398	2.8	22.6	43.0	30.9	0.8
クラス 所属	文系クラス（文系コース）	2,219	3.3	18.4	39.2	37.9	1.2
	理系クラス（理系コース）	468	2.6	13.9	41.0	41.2	1.3
	コース選択はない	814	2.2	16.2	40.3	39.4	1.8
	その他	823	3.4	17.9	36.7	40.3	1.7
卒業 進路 高校	大学	3,105	2.8	18.3	40.4	37.8	0.8
	短期大学	492	3.0	19.1	44.9	32.1	0.8
	専門学校	1,084	2.8	16.9	39.8	39.3	1.3
設置 大学 志望 等	国立	701	3.7	19.0	41.4	35.7	0.3
	公立	1,239	2.7	20.5	41.1	35.2	0.5
	私立	2,827	2.8	18.1	41.2	37.1	0.7
分野 興味 あり	文学、史学、哲学関係	714	4.1	24.8	41.7	28.7	0.7
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	6.8	34.3	37.3	20.2	1.4
	教育学関係	639	2.8	21.1	40.4	35.2	0.5
関心 度 新 学 科	興味関心がある	132	100.0	-	-	-	-
	やや興味関心がある	759	-	100.0	-	-	-
	あまり興味関心はない	1,702	-	-	100.0	-	-
	興味関心はない	1,695	-	-	-	100.0	-
受験 意向 新 学 科	第一志望として受験	32	78.1	9.4	6.3	6.3	-
	第二志望として受験	53	39.6	49.1	9.4	-	1.9
	第三志望として受験	155	13.5	58.7	19.4	7.7	0.6
	受験しない	3,986	1.5	15.5	41.2	41.6	0.2
受験 意向 別 の 入 学 意 向	第一志望:入学する	25	80.0	12.0	4.0	4.0	-
	:条件付き入学する	3	100.0	-	-	-	-
	:入学しない	3	33.3	-	33.3	33.3	-
	第二志望:入学する	12	72.7	18.2	-	-	9.1
	:条件付き入学する	35	34.3	54.3	11.4	-	-
	:入学しない	4	-	75.0	25.0	-	-
	第三志望:入学する	7	42.9	42.9	14.3	-	-
	:条件付き入学する	131	13.3	60.9	18.0	7.0	0.8
	:入学しない	15	6.7	40.0	40.0	13.3	-

Ⅱ. 調査結果

Q10. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の受験希望

1. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の受験意向（第一志望＋第二志望＋第三志望）は6%（240人）。
2. 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層では、15%が受験意向がある。

問10. 「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」が開設された場合、受験を希望しますか。
（あてはまる番号に1つだけ○）

全体より10ポイント以上高い 全体より10ポイント以上低い (%)

		N	1 第 一 志 望 と し て 受 験	2 第 二 志 望 と し て 受 験	3 第 三 志 望 と し て 受 験	4 受 験 し な い	無 回 答
合計		4,351	0.7	1.2	3.6	91.6	2.9
所在地 在学高校	大阪府	2,927	0.9	1.3	3.7	91.0	3.0
	兵庫県	463	0.4	0.9	3.9	92.7	2.2
	京都府	497	0.6	0.8	3.2	92.8	2.6
	滋賀県	62	1.6	-	1.6	93.5	3.2
	その他	398	-	1.5	2.8	93.5	2.3
	クラス 所属	文系クラス（文系コース）	2,219	0.7	1.0	3.8	92.1
理系クラス（理系コース）		468	0.6	0.2	4.7	93.2	1.3
コース選択はない		814	0.6	1.6	2.5	91.2	4.2
その他		823	1.0	1.8	3.5	90.2	3.5
卒業後 の進路	大学	3,105	0.5	1.2	4.1	93.2	1.0
	短期大学	492	0.2	1.4	4.9	92.3	1.2
	専門学校	1,084	0.5	1.3	3.1	93.5	1.6
設置者 等	国立	701	1.0	1.1	3.7	93.7	0.4
	公立	1,239	0.3	1.5	3.9	93.7	0.6
	私立	2,827	0.5	1.2	4.1	93.4	0.8
分野 興味あり	文学、史学、哲学関係	714	1.1	1.4	4.9	90.9	1.7
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	0.9	4.6	9.1	82.7	2.7
	教育学関係	639	0.8	1.4	3.8	92.3	1.7
関心 度	興味関心がある	132	18.9	15.9	15.9	46.2	3.0
	やや興味関心がある	759	0.4	3.4	12.0	81.3	2.9
	あまり興味関心はない	1,702	0.1	0.3	1.8	96.4	1.4
	興味関心はない	1,695	0.1	-	0.7	97.9	1.2
受験 意向	第一志望として受験	32	100.0	-	-	-	-
	第二志望として受験	53	-	100.0	-	-	-
	第三志望として受験	155	-	-	100.0	-	-
	受験しない	3,986	-	-	-	100.0	-
受験 意向 別の 入学 意向	第一志望:入学する	25	100.0	-	-	-	-
	:条件付き入学する	3	100.0	-	-	-	-
	:入学しない	3	100.0	-	-	-	-
	第二志望:入学する	12	-	100.0	-	-	-
	:条件付き入学する	35	-	100.0	-	-	-
	:入学しない	4	-	100.0	-	-	-
	第三志望:入学する	7	-	-	100.0	-	-
	:条件付き入学する	131	-	-	100.0	-	-
	:入学しない	15	-	-	100.0	-	-

II. 調査結果

Q10-②. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の入学希望

- 「受験する」と回答した回答者に入学意向を尋ねたところ「入学する」は18%（44人）、「他の志望校が不合格の場合に入学する」を含めた入学意向は89%（213人）。
- 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層では、94%が入学意向がある。

問10-②. 「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

=全体より10ポイント以上高い
=全体より10ポイント以上低い
(%)

		N	1 入学する	2 他の志望校に入学する 場合の順位が上位合格	3 入学しない	無回答
合計		240	18.3	70.4	9.2	2.1
所在地 高校	大阪府	174	19.0	69.0	9.8	2.3
	兵庫県	24	4.2	91.7	4.2	-
	京都府	23	26.1	65.2	4.3	4.3
	滋賀県	2	100.0	-	-	-
	その他	17	11.8	70.6	17.6	-
所属 クラス	文系クラス（文系コース）	123	16.3	71.5	9.8	2.4
	理系クラス（理系コース）	26	11.5	84.6	3.8	-
	コース選択はない	38	21.1	71.1	5.3	2.6
	その他	52	25.0	59.6	13.5	1.9
卒業後 進路	大学	181	13.8	77.3	7.7	1.1
	短期大学	32	18.8	78.1	3.1	-
	専門学校	53	11.3	77.4	9.4	1.9
設置者 等	国立	41	17.1	80.5	2.4	-
	公立	70	11.4	82.9	4.3	1.4
	私立	163	13.5	76.1	9.2	1.2
興味あ る分野	文学、史学、哲学関係	53	18.9	75.5	3.8	1.9
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	124	17.7	76.6	4.8	0.8
	教育学関係	38	15.8	73.7	7.9	2.6
関心度 新学科	興味関心がある	67	47.8	47.8	3.0	1.5
	やや興味関心がある	120	6.7	83.3	7.5	2.5
	あまり興味関心はない	37	5.4	73.0	21.6	-
	興味関心はない	14	7.1	64.3	21.4	7.1
受験意 向 新学科	第一志望として受験	32	78.1	9.4	9.4	3.1
	第二志望として受験	53	22.6	66.0	7.5	3.8
	第三志望として受験	155	4.5	84.5	9.7	1.3
	受験しない	-	-	-	-	100.0
受験意 向 別の 入学 意 向	第一志望:入学する	25	100.0	-	-	-
	:条件付き入学する	3	-	100.0	-	-
	:入学しない	3	-	-	100.0	-
	第二志望:入学する	11	100.0	-	-	-
	:条件付き入学する	35	-	100.0	-	-
	:入学しない	4	-	-	100.0	-
	第三志望:入学する	7	100.0	-	-	-
	:条件付き入学する	128	-	100.0	-	-
	:入学しない	15	-	-	100.0	-

Ⅱ. 調査結果

Q10-③. 芸術系大学の受験予定

- 「受験する」と回答した回答者に他の芸術系大学の受験予定を尋ねたところ「受験する（梅花女子大学より志望度が高い大学）」は27%、「受験する（梅花女子大学より志望度が低い大学）」は15%であった。
- 新学科に興味関心がある層では、「受験する（梅花女子大学より志望度が高い大学）」が全体と比べて10ポイント以上高い。

問10-③. 芸術系大学を受験する予定はありますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

 =全体より10ポイント以上高い
 =全体より10ポイント以上低い（%）

		N	1 志（受 望梅 験 度花 す が女 る 高子 い大 学よ り）	2 志（受 望梅 験 度花 す が女 る 低子 い大 学よ り）	3 受 験 し な い	無 回 答
合計		240	27.1	14.6	56.3	2.0
所在地	大阪府	174	25.9	15.5	55.7	2.9
	兵庫県	24	41.7	8.3	50.0	-
	京都府	23	26.1	8.7	65.2	-
	滋賀県	2	100.0	-	-	-
	その他	17	11.8	23.5	64.7	-
クラス	文系クラス（文系コース）	123	27.6	12.2	58.5	1.6
	理系クラス（理系コース）	26	15.4	11.5	73.1	-
	コース選択はない	38	36.8	21.1	36.8	5.3
	その他	52	23.1	17.3	57.7	1.9
卒業後	大学	181	27.1	13.3	58.0	1.7
	短期大学	32	40.6	9.4	46.9	3.1
	専門学校	53	35.8	18.9	45.3	-
設置者等	国立	41	29.3	22.0	46.3	2.4
	公立	70	32.9	12.9	50.0	4.3
	私立	163	27.0	12.9	58.3	1.8
分野	文学、史学、哲学関係	53	22.6	20.8	52.8	3.8
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	124	35.5	18.5	45.2	0.8
	教育学関係	38	21.1	10.5	68.4	-
関心度	興味関心がある	67	37.3	11.9	49.3	1.5
	やや興味関心がある	120	21.7	15.8	60.0	2.5
	あまり興味関心はない	37	24.3	13.5	59.5	2.7
	興味関心はない	14	35.7	14.3	50.0	-
受験意向	第一志望として受験	32	40.6	15.6	40.6	3.1
	第二志望として受験	53	28.3	17.0	50.9	3.8
	第三志望として受験	155	23.9	13.5	61.3	1.3
	受験しない	-	-	-	-	100.0
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	52.0	16.0	32.0	-
	:条件付き入学する	3	-	33.3	66.7	-
	:入学しない	3	-	-	100.0	-
	第二志望:入学する	11	18.2	27.3	54.5	-
	:条件付き入学する	35	37.1	14.3	45.7	2.9
	:入学しない	4	-	-	100.0	-
	第三志望:入学する	7	57.1	-	42.9	-
	:条件付き入学する	128	25.0	16.4	57.8	0.8
:入学しない	15	-	-	100.0	-	

Ⅱ. 調査結果

Q10-④. 興味のある職業・職種

1. 「受験する」と回答した回答者に興味のある職業・職種を尋ねたところ「役者」「舞台スタッフ」（いずれも25%）が最も高く、次いで「メイクアップアーティスト」（20%）「ダンサー」（19%）が高い。
2. 美術、舞台、演劇学、音楽関係に興味のある層に加え、文学、史学、哲学関係に興味のある層でも「舞台スタッフ」が全体と比べて10ポイント以上高い。
3. 第一志望として受験する層では、「役者」が全体と比べて15ポイント以上高い。

問10-④. 大学卒業後の進路として興味のある職業・職種を次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

		=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い						(%)
		N	1	2	3	4	5	6	7	8
			役者	ダンサー	歌手	演出家	脚本家・劇作家	舞台監督	舞台スタッフ	イベントプランナー
合計		240	25.0	19.2	12.9	12.5	7.1	8.3	24.6	10.8
所在地	大阪府	174	28.2	21.8	13.2	12.6	5.7	6.9	22.4	9.8
	兵庫県	24	29.2	20.8	16.7	16.7	12.5	8.3	29.2	12.5
	京都府	23	13.0	8.7	-	4.3	4.3	8.7	26.1	13.0
	滋賀県	2	50.0	-	100.0	-	-	100.0	-	50.0
	その他	17	-	5.9	11.8	17.6	17.6	11.8	41.2	11.8
クラス	文系クラス（文系コース）	123	26.0	17.9	13.8	11.4	8.1	8.9	26.0	11.4
	理系クラス（理系コース）	26	26.9	11.5	15.4	23.1	7.7	15.4	38.5	15.4
	コース選択はない	38	15.8	18.4	2.6	10.5	2.6	2.6	21.1	2.6
	その他	52	28.8	25.0	15.4	9.6	7.7	7.7	17.3	13.5
卒業後進路	大学	181	22.1	18.2	12.7	12.7	7.2	8.3	26.5	12.2
	短期大学	32	28.1	9.4	12.5	28.1	15.6	25.0	31.3	21.9
	専門学校	53	37.7	24.5	20.8	18.9	11.3	11.3	26.4	15.1
設置大学等	国立	41	24.4	19.5	17.1	19.5	17.1	19.5	36.6	12.2
	公立	70	21.4	17.1	12.9	18.6	12.9	12.9	32.9	10.0
	私立	163	23.3	18.4	12.3	12.9	7.4	8.6	25.8	12.3
分野	文学、史学、哲学関係	53	22.6	13.2	11.3	18.9	13.2	5.7	35.8	9.4
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	124	32.3	21.8	17.7	23.4	12.9	12.1	38.7	13.7
	教育学関係	38	21.1	23.7	13.2	7.9	2.6	7.9	26.3	5.3
関心度	興味関心がある	67	43.3	29.9	16.4	19.4	11.9	13.4	29.9	13.4
	やや興味関心がある	120	22.5	15.8	11.7	10.8	4.2	5.8	27.5	11.7
	あまり興味関心はない	37	8.1	13.5	13.5	5.4	2.7	5.4	13.5	8.1
	興味関心はない	14	7.1	14.3	7.1	14.3	21.4	14.3	7.1	-
受験意向	第一志望として受験	32	43.8	28.1	9.4	-	-	12.5	12.5	3.1
	第二志望として受験	53	18.9	28.3	9.4	15.1	7.5	11.3	30.2	9.4
	第三志望として受験	155	23.2	14.2	14.8	14.2	8.4	6.5	25.2	12.9
	受験しない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	56.0	28.0	12.0	-	-	16.0	12.0	4.0
	:条件付き入学する	3	-	-	-	-	-	-	33.3	-
	:入学しない	3	-	66.7	-	-	-	-	-	-
	第二志望:入学する	11	18.2	27.3	18.2	18.2	9.1	9.1	27.3	-
	:条件付き入学する	35	22.9	34.3	8.6	17.1	8.6	14.3	34.3	14.3
	:入学しない	4	-	-	-	-	-	-	25.0	-
	第三志望:入学する	7	28.6	28.6	57.1	14.3	14.3	14.3	28.6	28.6
:条件付き入学する	128	26.6	14.8	14.1	15.6	8.6	6.3	27.3	12.5	
:入学しない	15	-	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	

Ⅱ. 調査結果

Q10-④. 興味のある職業・職種＜続き＞

問10-④. 大学卒業後の進路として興味のある職業・職種を次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

			=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い		（％）		
		N	9	10	11	12	13	14	15
			衣装デザイナー	アメリカファッション	クリエイティブ	動画・映像	一般企業・社員	その他	未定・わからない
合計		240	17.9	19.6	6.7	7.5	13.8	4.6	22.9
所在地	大阪府	174	17.2	17.8	6.3	6.9	11.5	5.2	19.0
	兵庫県	24	12.5	12.5	12.5	8.3	12.5	4.2	33.3
	京都府	23	26.1	43.5	4.3	8.7	26.1	4.3	30.4
	滋賀県	2	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0
	その他	17	17.6	17.6	5.9	11.8	17.6	-	35.3
クラス	文系クラス（文系コース）	123	19.5	20.3	5.7	4.1	15.4	4.9	23.6
	理系クラス（理系コース）	26	30.8	26.9	15.4	11.5	19.2	7.7	34.6
	コース選択はない	38	10.5	13.2	2.6	13.2	5.3	-	23.7
	その他	52	13.5	19.2	7.7	9.6	13.5	5.8	15.4
卒業後の進路	大学	181	19.3	19.3	7.2	7.7	17.1	4.4	24.9
	短期大学	32	28.1	28.1	12.5	12.5	12.5	3.1	28.1
	専門学校	53	24.5	22.6	9.4	7.5	11.3	3.8	15.1
設置者等	国立	41	14.6	14.6	12.2	4.9	12.2	12.2	17.1
	公立	70	18.6	17.1	7.1	7.1	11.4	2.9	24.3
	私立	163	19.6	20.2	7.4	8.0	17.8	4.3	23.9
分野	文学、史学、哲学関係	53	13.2	15.1	9.4	9.4	17.0	1.9	37.7
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	124	23.4	16.1	8.1	8.9	9.7	4.8	19.4
	教育学関係	38	18.4	21.1	7.9	-	10.5	7.9	23.7
関心度	興味関心がある	67	14.9	11.9	4.5	9.0	9.0	6.0	13.4
	やや興味関心がある	120	21.7	25.0	8.3	8.3	16.7	4.2	27.5
	あまり興味関心はない	37	16.2	21.6	5.4	5.4	10.8	2.7	27.0
	興味関心はない	14	7.1	7.1	7.1	-	14.3	-	21.4
受験意向	第一志望として受験	32	9.4	6.3	6.3	6.3	6.3	-	15.6
	第二志望として受験	53	13.2	15.1	3.8	7.5	5.7	5.7	22.6
	第三志望として受験	155	21.3	23.9	7.7	7.7	18.1	5.2	24.5
	受験しない	-	-	-	-	-	-	-	-
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	12.0	8.0	4.0	8.0	4.0	-	16.0
	:条件付き入学する	3	-	-	-	-	33.3	-	33.3
	:入学しない	3	-	-	33.3	-	-	-	-
	第二志望:入学する	11	18.2	9.1	-	9.1	-	18.2	18.2
	:条件付き入学する	35	8.6	14.3	5.7	8.6	8.6	2.9	17.1
	:入学しない	4	25.0	25.0	-	-	-	-	50.0
	第三志望:入学する	7	28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	-	14.3
	:条件付き入学する	128	21.1	22.7	7.8	7.8	18.0	6.3	25.0
:入学しない	15	26.7	26.7	-	-	20.0	-	20.0	

II. 調査結果

Q11. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）の充実希望点

1. 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）について、さらなる充実を希望する点としては「舞台技術に関する資格取得のサポート」（30%）が最も高く、次いで「エンターテインメント業界以外でも幅広く活用できるビジネス知識の教授」（27%）が高い。
2. 新学科に興味関心がある層では、「舞台技術に関する資格取得のサポート」が全体と比べて10ポイント以上高い。

問11. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」について、さらなる充実を希望する点（充実すれば入学意欲が向上する点）を次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

			=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い		(%)	
		N	1	2	3	4	5	6
			基礎学、教養の史、教授文化などの	地域や企業と連携した	入学後に学ぶ専門分野を	資格取得のサポート	以て、知識の活用できる	その他
合計		4,351	20.7	14.7	18.0	29.5	27.4	3.0
所在地	大阪府	2,927	20.6	14.4	18.0	29.5	26.4	3.2
	兵庫県	463	22.9	13.6	14.9	32.2	28.7	2.4
	京都府	497	19.7	16.5	15.9	26.0	28.0	2.4
	滋賀県	62	16.1	16.1	21.0	25.8	33.9	-
	その他	398	21.1	15.3	24.4	31.7	32.2	2.8
クラス所属	文系クラス（文系コース）	2,219	23.5	15.9	17.4	27.9	28.1	1.9
	理系クラス（理系コース）	468	16.7	13.7	16.0	35.3	28.4	3.2
	コース選択はない	814	19.3	13.1	20.6	29.5	27.5	2.9
	その他	823	17.4	13.2	18.6	31.2	25.3	5.8
の卒業後	大学	3,105	22.3	15.7	17.3	30.1	27.7	2.5
	短期大学	492	21.5	19.9	20.5	31.1	27.2	2.8
	専門学校	1,084	16.2	13.7	22.3	31.5	26.7	3.3
設置者等	国立	701	27.5	17.7	18.4	32.0	26.7	2.7
	公立	1,239	23.2	16.2	19.9	31.0	28.1	3.2
	私立	2,827	21.5	15.6	17.9	30.8	28.1	2.2
分野興味あり	文学、史学、哲学関係	714	41.2	15.4	18.1	27.9	29.3	1.3
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	19.8	13.7	20.4	40.6	31.5	2.0
	教育学関係	639	18.6	20.5	18.5	31.3	25.2	2.8
関心度	興味関心がある	132	28.8	14.4	18.2	41.7	36.4	3.0
	やや興味関心がある	759	21.7	18.4	21.6	36.5	30.6	1.6
	あまり興味関心はない	1,702	19.7	15.2	19.6	30.4	28.3	2.1
	興味関心はない	1,695	21.1	12.8	14.9	25.0	25.3	4.5
受験意向	第一志望として受験	32	37.5	21.9	21.9	18.8	12.5	3.1
	第二志望として受験	53	17.0	11.3	28.3	43.4	32.1	1.9
	第三志望として受験	155	19.4	17.4	26.5	38.1	32.9	3.2
	受験しない	3,986	21.0	14.7	17.6	29.4	27.7	2.9
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	36.0	20.0	24.0	20.0	16.0	4.0
	:条件付き入学する	3	66.7	-	33.3	33.3	-	-
	:入学しない	3	-	66.7	-	-	-	-
	第二志望:入学する	12	27.3	18.2	27.3	36.4	45.5	-
	:条件付き入学する	35	17.1	11.4	22.9	54.3	25.7	2.9
	:入学しない	4	-	-	50.0	-	50.0	-
	第三志望:入学する	7	42.9	28.6	57.1	14.3	57.1	-
	:条件付き入学する	131	17.2	17.2	23.4	42.2	32.8	2.3
:入学しない	15	20.0	20.0	26.7	13.3	13.3	13.3	

II. 調査結果

Q12. 梅花女子大学のイメージ

1. 梅花女子大学のイメージは「上品である」(35%)が最も高く、次いで「オシャレである」「自由な雰囲気がある」(ともに27%)が高い。
2. 第一志望として受験する層では、「自由な雰囲気がある」が全体と比べて約30ポイント高く、「親しみやすい」が全体と比べて10ポイント以上高い。

問12. あなたが梅花女子大学に対して持つイメージを、次の中から選択してください。(あてはまる番号すべてに○)

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 自由 な 雰 囲 気 が あ る	2 教 育 を し て い る マ ッ チ の イ メ ー ジ	3 元 気 が あ る	4 先 進 的 で あ る	5 親 し み や す い	6 オ シ ヤ レ で あ る	7 明 る い	8 国 際 的 で あ る	9 ア カ デ ミ ッ ク で あ る
合計		4,351	26.8	6.6	17.0	5.4	8.9	27.4	23.3	12.2	5.6
所在地 高校	大阪府	2,927	26.5	5.9	16.8	4.7	9.3	26.5	22.8	11.8	5.1
	兵庫県	463	23.8	6.3	18.8	6.7	8.4	30.9	24.6	9.9	6.7
	京都府	497	29.0	7.8	15.3	6.6	6.6	25.4	21.5	13.9	5.4
	滋賀県	62	32.3	4.8	22.6	6.5	11.3	19.4	22.6	12.9	9.7
	その他	398	28.9	11.1	17.6	7.8	9.3	34.2	28.4	15.8	7.8
クラス 所属	文系クラス(文系コース)	2,219	27.9	6.9	16.2	5.2	7.9	26.7	21.7	11.9	5.8
	理系クラス(理系コース)	468	24.1	4.3	17.5	3.2	8.3	28.0	24.6	12.2	5.8
	コース選択はない	814	26.2	6.6	17.7	5.8	9.8	28.1	24.2	11.4	4.5
	その他	823	26.4	6.9	18.2	6.9	11.3	28.9	26.7	14.2	6.2
卒業 進路 高校	大学	3,105	27.1	6.7	17.2	5.8	9.0	28.2	23.1	12.6	6.1
	短期大学	492	29.9	7.9	18.5	7.1	12.6	36.4	25.4	15.4	6.9
	専門学校	1,084	25.5	7.0	16.7	6.6	8.2	26.8	22.8	12.7	5.2
設置 大学 志望 者等	国立	701	27.2	6.8	18.4	5.8	10.7	28.8	25.7	12.1	7.0
	公立	1,239	25.7	6.1	16.8	6.6	10.4	29.1	24.9	12.3	6.4
	私立	2,827	27.6	7.1	16.9	5.8	9.4	29.0	23.3	12.8	6.2
分野 興味 あり	文学、史学、哲学関係	714	33.1	8.3	19.5	7.3	11.5	30.5	26.9	12.9	7.7
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	27.4	7.1	19.8	6.1	10.6	32.0	27.4	14.5	5.9
	教育学関係	639	27.2	7.5	20.8	5.0	9.7	32.4	28.0	14.1	5.5
関心 度 新学 科	興味関心がある	132	49.2	13.6	21.2	7.6	24.2	38.6	26.5	12.9	9.8
	やや興味関心がある	759	33.2	12.1	22.5	7.9	11.5	38.7	29.5	15.0	7.1
	あまり興味関心はない	1,702	28.3	6.3	17.6	5.5	10.0	28.5	25.3	13.7	5.9
	興味関心はない	1,695	21.3	4.1	13.8	4.1	5.7	21.2	18.8	9.6	4.3
受験 意向 新学 科	第一志望として受験	32	56.3	9.4	6.3	12.5	21.9	25.0	9.4	9.4	9.4
	第二志望として受験	53	41.5	15.1	18.9	7.5	15.1	45.3	32.1	15.1	7.5
	第三志望として受験	155	34.2	7.7	25.2	6.5	16.1	36.1	29.7	17.4	5.2
	受験しない	3,986	26.3	6.4	16.9	5.4	8.5	27.3	23.1	12.1	5.6
受験 意向 別の 入学 意向	第一志望:入学する	25	56.0	8.0	8.0	16.0	16.0	24.0	12.0	8.0	8.0
	:条件付き入学する	3	100.0	-	-	-	66.7	33.3	-	33.3	33.3
	:入学しない	3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-
	第二志望:入学する	12	72.7	9.1	27.3	-	18.2	45.5	36.4	9.1	9.1
	:条件付き入学する	35	31.4	17.1	17.1	8.6	14.3	45.7	28.6	17.1	5.7
	:入学しない	4	50.0	25.0	25.0	-	25.0	50.0	75.0	25.0	25.0
	第三志望:入学する	7	71.4	14.3	14.3	14.3	28.6	42.9	28.6	28.6	-
	:条件付き入学する	131	31.3	7.8	25.8	6.3	14.1	34.4	28.9	18.8	4.7
	:入学しない	15	40.0	6.7	26.7	-	26.7	46.7	26.7	-	13.3

次ページに続く→

Ⅱ. 調査結果

Q12. 梅花女子大学のイメージ<続き>

問12. あなたが梅花女子大学に対して持つイメージを、次の中から選択してください。(あてはまる番号すべてに○)

		=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い		(%)					
		N	10 卒業生が活躍している	11 スポーツ活動がある	12 文化活動がある	13 社会的評価が高い	14 信頼できる	15 ステータスがある	16 チャレンジ精神がある	17 歴史がある	18 上品である
合計		4,351	3.5	5.6	7.9	3.0	3.4	3.5	8.9	13.6	34.8
所在地	大阪府	2,927	3.2	6.5	7.6	3.0	3.4	3.6	8.9	14.8	35.9
	兵庫県	463	2.8	5.2	9.7	3.5	1.7	2.8	8.6	16.6	36.9
	京都府	497	4.2	2.4	6.8	2.6	2.8	3.2	8.5	5.4	26.4
	滋賀県	62	4.8	1.6	4.8	1.6	1.6	3.2	9.7	4.8	40.3
	その他	398	5.8	4.0	9.0	2.8	6.0	3.5	9.8	12.3	33.9
クラス所属	文系クラス(文系コース)	2,219	3.2	4.9	6.9	2.4	3.2	2.7	7.0	11.9	33.4
	理系クラス(理系コース)	468	1.5	8.3	10.0	2.6	3.8	3.8	9.2	15.2	34.0
	コース選択はない	814	4.4	5.5	8.8	3.6	3.1	4.8	10.7	14.5	38.0
	その他	823	4.6	5.8	8.4	4.0	3.6	4.0	11.5	16.4	36.1
卒業後の進路	大学	3,105	3.3	6.1	8.0	2.9	3.4	3.5	8.7	14.6	35.6
	短期大学	492	6.5	3.9	9.1	3.9	4.5	4.3	11.8	15.0	39.0
	専門学校	1,084	4.3	4.4	8.1	3.3	3.9	4.2	10.1	12.4	35.5
設置者等	国立	701	3.7	6.6	7.8	3.3	4.0	4.3	9.3	14.8	36.4
	公立	1,239	3.8	6.1	8.2	2.9	3.0	4.4	9.6	13.9	37.7
	私立	2,827	3.5	5.6	8.3	3.3	3.6	3.6	9.2	14.9	35.6
分野	文学、史学、哲学関係	714	3.1	6.2	10.6	2.9	3.5	4.1	9.2	19.2	36.6
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	3.9	4.8	10.3	4.4	4.6	4.6	12.1	16.2	38.0
	教育学関係	639	3.8	8.3	7.8	2.5	3.0	3.6	10.8	12.1	35.4
関心度	興味関心がある	132	9.1	8.3	10.6	7.6	11.4	8.3	15.9	22.0	38.6
	やや興味関心がある	759	5.8	7.2	11.6	4.6	6.5	4.3	12.0	13.4	37.9
	あまり興味関心はない	1,702	3.4	5.3	8.0	2.9	3.0	3.5	9.3	14.5	34.8
	興味関心はない	1,695	2.4	5.0	5.7	2.0	1.8	2.7	6.7	11.9	33.5
受験意向	第一志望として受験	32	3.1	3.1	9.4	6.3	9.4	9.4	6.3	6.3	12.5
	第二志望として受験	53	7.5	9.4	9.4	11.3	3.8	11.3	15.1	26.4	43.4
	第三志望として受験	155	5.2	5.8	12.9	5.8	7.1	5.8	11.0	17.4	33.5
	受験しない	3,986	3.4	5.6	7.7	2.7	3.1	3.2	8.8	13.4	35.0
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	4.0	4.0	8.0	8.0	12.0	12.0	4.0	8.0	12.0
	:条件付き入学する	3	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3
	:入学しない	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	第二志望:入学する	12	9.1	18.2	-	9.1	-	-	9.1	27.3	45.5
	:条件付き入学する	35	8.6	8.6	14.3	14.3	5.7	11.4	20.0	28.6	51.4
	:入学しない	4	-	-	-	-	-	25.0	-	25.0	-
	第三志望:入学する	7	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6
	:条件付き入学する	131	4.7	4.7	14.1	6.3	6.3	11.7	18.8	18.8	35.2
:入学しない	15	-	13.3	6.7	-	6.7	-	6.7	6.7	26.7	

II. 調査結果

Q13. 学科名称イメージ【舞台芸術表現学科】

1. 【舞台芸術表現学科】という学科名称へのイメージは「センスがある、カッコいい」(39%)が最も高く、次いで「印象に残りやすい」(24%)が高い。
2. 新学科に興味がある層、第一志望として受験する層で「センスがある、カッコいい」が特に高い。

問13. 次あげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。【舞台芸術表現学科】
(あてはまる番号すべてに○)

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 か っ せ ん こ す い が あ る 、	2 印 象 に 残 り や す い	3 親 好 し 感 が 持 て る 、	4 先 進 的 で あ る	5 基 礎 学 力 が 高 い	6 一 流 感 が あ る	7 伝 学 わ び の 内 容 が あ る
合計		4,351	39.0	23.9	9.8	11.9	6.3	16.8	13.6
所在地 在学 高校	大阪府	2,927	38.9	24.3	10.0	11.5	5.9	16.0	14.2
	兵庫県	463	40.2	26.3	8.4	14.0	7.1	19.2	14.3
	京都府	497	35.2	22.1	10.9	12.3	6.6	15.7	9.9
	滋賀県	62	41.9	16.1	4.8	9.7	9.7	12.9	9.7
	その他	398	42.5	22.1	9.5	12.1	7.3	22.4	13.6
	クラス 所属	文系クラス(文系コース)	2,219	39.1	23.5	9.4	11.2	5.8	17.6
	理系クラス(理系コース)	468	40.8	23.1	8.5	10.3	4.9	16.7	15.4
	コース選択はない	814	38.2	22.6	10.4	12.0	6.5	16.0	12.8
	その他	823	38.5	27.0	11.4	14.1	8.1	16.0	13.7
卒業 進路 高校	大学	3,105	38.4	24.6	9.4	12.1	6.2	18.1	14.0
	短期大学	492	40.7	26.6	9.8	11.2	9.6	17.7	11.6
	専門学校	1,084	38.3	25.1	10.7	10.4	6.3	14.9	12.0
設置 大学 志望 者等	国立	701	40.5	24.8	9.3	12.0	6.0	19.1	18.0
	公立	1,239	40.5	24.9	9.5	11.9	6.3	19.8	14.4
	私立	2,827	38.1	25.0	9.4	12.2	6.4	18.0	13.5
分野 興味 ある 質問	文学、史学、哲学関係	714	41.2	23.5	8.4	13.0	4.9	19.3	15.3
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	38.8	26.1	12.4	13.1	9.2	19.2	14.0
	教育学関係	639	39.3	25.0	8.5	11.3	6.1	16.6	15.0
関心 新学 年度 科	興味関心がある	132	56.8	15.2	21.2	11.4	8.3	22.0	13.6
	やや興味関心がある	759	43.9	27.5	12.3	14.1	6.5	19.6	13.7
	あまり興味関心はない	1,702	35.4	26.6	9.6	12.9	6.5	17.3	12.8
	興味関心はない	1,695	39.5	20.7	8.2	10.1	5.7	14.7	14.2
受験 新学 意向 科	第一志望として受験	32	68.8	12.5	12.5	9.4	12.5	6.3	6.3
	第二志望として受験	53	47.2	18.9	20.8	15.1	11.3	26.4	24.5
	第三志望として受験	155	45.8	20.6	16.8	14.2	5.8	16.8	11.0
	受験しない	3,986	38.7	24.6	9.4	11.8	6.2	16.9	13.7
	受験 意向 別の 入学 意向	第一志望:入学する	25	72.0	12.0	16.0	12.0	12.0	8.0
:条件付き入学する		3	66.7	33.3	-	-	-	-	-
:入学しない		3	33.3	-	-	-	33.3	-	-
第二志望:入学する		12	36.4	9.1	45.5	9.1	18.2	45.5	45.5
:条件付き入学する		35	48.6	25.7	17.1	17.1	11.4	22.9	17.1
:入学しない		4	75.0	-	-	25.0	-	-	-
第三志望:入学する		7	85.7	14.3	14.3	14.3	-	28.6	-
:条件付き入学する		131	43.0	24.2	14.1	15.6	6.3	18.0	12.5
:入学しない		15	40.0	-	40.0	6.7	-	6.7	6.7

Ⅱ. 調査結果

Q13. 学科名称イメージ【身体表現学科】

1. 【身体表現学科】という学科名称へのイメージは「センスがある、カッコいい」(20%)が最も高く、次いで「印象に残りやすい」(17%)が高い。
2. ただし【舞台芸術表現学科】と比べると、いずれのイメージも低くなっている。

問13. 次にあげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。【身体表現学科】
(あてはまる番号すべてに○)

			=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い		(%)		
		N	1 か セ ン ス が あ る 、	2 印 象 に 残 り や す い	3 親 し み が あ る 、	4 先 進 的 で あ る	5 基 礎 学 力 が 高 い	6 一 流 感 が あ る	7 伝 学 の 内 容 が あ る
合計		4,351	19.5	16.9	8.1	11.3	8.5	7.4	10.1
所在地	大阪府	2,927	21.0	17.5	8.8	10.9	8.4	7.5	10.3
	兵庫県	463	19.2	17.9	8.2	16.0	11.0	10.4	15.8
	京都府	497	19.9	18.1	7.6	12.9	8.2	6.2	7.8
	滋賀県	62	22.6	19.4	4.8	14.5	16.1	9.7	6.5
	その他	398	7.8	9.5	3.5	5.8	5.3	3.8	5.0
クラス	文系クラス(文系コース)	2,219	18.3	14.9	6.9	10.3	7.6	6.7	8.7
	理系クラス(理系コース)	468	24.8	18.2	5.8	10.9	7.1	7.1	12.8
	コース選択はない	814	17.8	17.9	10.1	10.4	9.1	7.2	10.3
	その他	823	21.9	20.4	10.4	14.5	11.2	9.2	11.9
の卒業後	大学	3,105	18.7	16.6	7.4	11.4	8.0	6.5	10.7
	短期大学	492	17.5	16.1	8.1	12.4	10.8	8.9	8.7
	専門学校	1,084	17.0	16.2	8.2	9.7	8.1	7.6	8.1
設置者	国立	701	18.0	14.3	7.3	10.6	7.1	7.1	13.0
	公立	1,239	18.0	16.1	8.2	11.8	9.1	7.7	10.7
	私立	2,827	18.7	17.3	7.5	11.3	8.3	7.2	10.2
分野	文学、史学、哲学関係	714	17.1	17.1	6.9	10.6	7.3	5.7	10.2
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	19.6	18.0	8.8	12.0	10.8	10.4	9.8
	教育学関係	639	18.6	15.2	8.5	10.5	8.9	7.2	12.2
関心度	興味関心がある	132	34.8	13.6	8.3	10.6	9.8	9.8	9.1
	やや興味関心がある	759	21.1	19.4	8.3	11.7	10.0	7.5	9.9
	あまり興味関心はない	1,702	17.1	18.0	7.6	13.1	8.8	7.6	9.3
	興味関心はない	1,695	20.2	15.1	8.5	9.2	7.5	6.8	11.2
受験意向	第一志望として受験	32	43.8	9.4	12.5	6.3	6.3	9.4	6.3
	第二志望として受験	53	24.5	17.0	7.5	13.2	15.1	11.3	20.8
	第三志望として受験	155	23.9	18.7	13.5	10.3	11.6	5.8	5.8
	受験しない	3,986	19.1	17.0	7.8	11.2	8.4	7.3	10.3
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	52.0	12.0	16.0	4.0	8.0	12.0	8.0
	:条件付き入学する	3	33.3	-	-	33.3	-	-	-
	:入学しない	3	-	-	-	-	-	-	-
	第二志望:入学する	12	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	45.5
	:条件付き入学する	35	25.7	17.1	5.7	14.3	20.0	11.4	17.1
	:入学しない	4	50.0	-	25.0	-	-	-	-
	第三志望:入学する	7	14.3	28.6	14.3	28.6	-	14.3	-
	:条件付き入学する	131	24.2	21.1	10.2	10.2	13.3	5.5	7.0
:入学しない	15	20.0	-	33.3	6.7	6.7	6.7	-	

Ⅱ. 調査結果

Q13. 学科名称イメージ【エンターテインメント学科】

1. 【エンターテインメント学科】という学科名称へのイメージは「センスがある、カッコいい」(29%)が最も高く、次いで「印象に残りやすい」(28%)が高い。
2. 【舞台芸術表現学科】と比べると、「印象に残りやすい」「好感が持てる、親しみやすい」イメージが高くなっている。

問13. 次にあげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。【エンターテインメント学科】
(あてはまる番号すべてに○)

			=全体より10ポイント以上高い		=全体より10ポイント以上低い		(%)		
		N	1	2	3	4	5	6	7
			か セ ン ス が あ る 、	印 象 に 残 り や す い	親 し み が あ る 、	先 進 的 で あ る	基 礎 学 力 が 高 い	一 流 感 が あ る	伝 わ り の 内 容 が よ い
合計		4,351	28.5	27.8	17.7	16.7	5.7	11.8	9.8
所在地	大阪府	2,927	29.3	27.2	17.3	16.5	5.4	11.6	9.8
	兵庫県	463	27.6	31.1	17.3	16.8	8.0	14.7	13.2
	京都府	497	26.8	26.0	19.3	16.7	5.4	8.5	7.2
	滋賀県	62	24.2	29.0	22.6	6.5	4.8	11.3	8.1
	その他	398	26.6	30.9	18.8	18.8	5.3	13.8	9.0
クラス	文系クラス(文系コース)	2,219	29.2	27.2	18.4	16.4	5.1	11.7	9.6
	理系クラス(理系コース)	468	32.1	27.1	16.9	16.9	3.6	11.3	10.0
	コース選択はない	814	27.8	27.5	16.0	16.5	6.9	12.4	9.6
	その他	823	26.1	30.7	18.5	16.9	7.0	11.9	10.8
の卒業進路	大学	3,105	28.1	28.6	17.7	17.4	5.2	11.4	9.9
	短期大学	492	28.7	32.7	21.5	17.5	6.5	13.2	10.2
	専門学校	1,084	27.7	29.0	19.2	14.9	5.6	12.0	9.7
設置者	国立	701	28.8	30.7	18.8	16.8	4.7	11.6	12.0
	公立	1,239	29.0	30.5	19.3	16.5	6.1	13.0	10.4
	私立	2,827	28.0	29.1	17.7	17.4	5.4	11.9	9.9
分野	文学、史学、哲学関係	714	27.7	32.2	16.9	17.6	4.1	12.9	8.8
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	29.2	31.8	20.9	18.6	6.4	14.2	9.4
	教育学関係	639	29.4	24.9	17.4	15.8	8.3	10.8	12.2
関心度	興味関心がある	132	47.7	26.5	17.4	16.7	9.8	14.4	12.1
	やや興味関心がある	759	30.4	30.3	20.0	19.4	6.5	13.6	9.1
	あまり興味関心はない	1,702	26.1	31.0	18.0	16.8	5.8	12.3	8.8
	興味関心はない	1,695	29.3	24.2	16.8	15.3	5.0	10.4	10.9
受験意向	第一志望として受験	32	56.3	21.9	9.4	12.5	6.3	6.3	6.3
	第二志望として受験	53	39.6	41.5	15.1	15.1	9.4	18.9	9.4
	第三志望として受験	155	30.3	26.5	21.9	12.9	5.8	11.6	10.3
	受験しない	3,986	28.4	28.1	17.8	16.9	5.6	11.8	9.9
受験意向別の入学意向	第一志望:入学する	25	60.0	24.0	12.0	12.0	4.0	8.0	8.0
	:条件付き入学する	3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-
	:入学しない	3	33.3	-	-	33.3	-	-	-
	第二志望:入学する	12	36.4	63.6	27.3	36.4	9.1	9.1	9.1
	:条件付き入学する	35	40.0	40.0	14.3	8.6	11.4	20.0	11.4
	:入学しない	4	75.0	25.0	-	-	-	-	-
	第三志望:入学する	7	57.1	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	-
	:条件付き入学する	131	27.3	28.1	21.1	14.1	6.3	11.7	12.5
:入学しない	15	40.0	20.0	26.7	6.7	-	6.7	-	

Ⅱ. 調査結果

Q13. 学科名称イメージ【演劇・ダンス学科】

1. 【演劇・ダンス学科】という学科名称へのイメージは「センスがある、カッコいい」(36%)が最も高く、次いで「印象に残りやすい」(23%)が高い。
2. 【舞台芸術表現学科】と比べると、「好感が持てる、親しみやすい」「学びの内容が伝わりやすい」イメージが高くなっている。

問13. 次にあげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。【演劇・ダンス学科】
(あてはまる番号すべてに○)

=全体より10ポイント以上高い

=全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 か セ ン ス が あ る 、	2 印 象 に 残 り や す い	3 親 好 し 感 が 持 て る 、	4 先 進 的 で あ る	5 基 礎 学 力 が 高 い	6 一 流 感 が あ る	7 伝 学 び の 内 容 が や す い
合計		4,351	35.9	23.1	15.5	10.2	6.6	12.3	17.8
所在地 在学高校	大阪府	2,927	36.1	22.8	15.4	10.1	6.8	11.5	17.7
	兵庫県	463	37.1	24.2	15.8	9.3	6.0	14.0	20.5
	京都府	497	33.6	22.3	14.9	11.1	6.4	13.1	14.7
	滋賀県	62	38.7	25.8	19.4	11.3	8.1	17.7	11.3
	その他	398	35.2	24.1	16.3	11.1	6.0	14.3	20.6
クラス 所属	文系クラス(文系コース)	2,219	36.9	23.4	15.5	9.8	6.4	12.4	16.7
	理系クラス(理系コース)	468	38.5	20.7	15.8	8.5	3.8	7.5	21.6
	コース選択はない	814	34.3	21.0	14.4	10.6	7.7	12.5	17.9
	その他	823	33.7	26.0	16.9	11.8	7.9	14.6	18.5
卒業後 進路	大学	3,105	35.6	23.2	15.6	10.2	6.3	12.7	18.8
	短期大学	492	37.6	26.0	15.4	12.4	7.5	14.6	16.1
	専門学校	1,084	35.6	25.5	17.3	9.7	7.7	11.5	13.7
設置者 等	国立	701	36.4	22.7	14.6	8.8	5.1	14.3	22.4
	公立	1,239	37.8	24.6	15.2	10.4	6.5	14.7	18.6
	私立	2,827	35.7	23.3	15.7	10.4	6.5	12.7	18.8
分野 興味あり	文学、史学、哲学関係	714	33.9	23.4	14.7	11.1	5.3	13.0	20.2
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	35.1	24.2	18.0	9.4	8.6	15.2	20.2
	教育学関係	639	36.0	22.4	14.9	10.3	7.4	12.7	19.2
関心 度	興味関心がある	132	51.5	25.0	19.7	10.6	7.6	15.2	18.9
	やや興味関心がある	759	37.9	24.2	16.9	11.1	7.5	14.6	21.2
	あまり興味関心はない	1,702	34.0	25.6	15.9	9.8	6.9	12.7	16.8
	興味関心はない	1,695	36.3	20.0	14.3	10.6	6.0	10.7	17.4
受験 意向	第一志望として受験	32	59.4	12.5	15.6	6.3	6.3	6.3	6.3
	第二志望として受験	53	35.8	24.5	24.5	11.3	15.1	15.1	26.4
	第三志望として受験	155	38.7	21.3	23.2	9.7	6.5	11.6	16.8
	受験しない	3,986	36.0	23.5	15.3	10.3	6.7	12.4	18.0
受験 意向別の 入学 意向	第一志望:入学する	25	60.0	16.0	16.0	8.0	4.0	8.0	8.0
	:条件付き入学する	3	66.7	-	33.3	-	-	-	-
	:入学しない	3	33.3	-	-	-	33.3	-	-
	第二志望:入学する	12	36.4	27.3	36.4	9.1	9.1	9.1	36.4
	:条件付き入学する	35	34.3	28.6	20.0	14.3	17.1	17.1	28.6
	:入学しない	4	75.0	-	25.0	-	-	-	-
	第三志望:入学する	7	42.9	28.6	28.6	28.6	-	42.9	14.3
	:条件付き入学する	131	37.5	21.9	22.7	10.2	7.0	10.2	19.5
	:入学しない	15	33.3	20.0	26.7	-	6.7	6.7	-

II. 調査結果

Q13. 学科名称イメージ【創造表現学科】

- 【創造表現学科】という学科名称へのイメージは「センスがある、カッコいい」（30%）が最も高く、次いで「印象に残りやすい」（21%）が高い。
- 【舞台芸術表現学科】と比べると、「先進的である」「基礎学力が高い」イメージが高くなっている。

問13. 次にあげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。【創造表現学科】
（あてはまる番号すべてに○）

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 か っ こ ス い が あ る 、	2 印 象 に 残 り や す い	3 親 し み が 持 て る 、	4 先 進 的 で あ る	5 基 礎 学 力 が 高 い	6 一 流 感 が あ る	7 伝 わ り の 内 容 が い
合計		4,351	29.8	21.2	10.5	17.6	11.1	12.1	12.3
所在地 在学高校	大阪府	2,927	30.4	21.5	10.5	17.2	10.5	11.8	11.8
	兵庫県	463	29.4	20.3	10.8	20.1	13.4	12.1	15.1
	京都府	497	26.8	20.7	10.1	17.5	10.7	10.7	11.7
	滋賀県	62	33.9	12.9	6.5	17.7	6.5	16.1	6.5
	その他	398	29.4	21.6	11.3	18.1	14.6	15.1	13.8
クラス 所属	文系クラス（文系コース）	2,219	30.2	22.3	10.6	17.3	10.2	11.5	12.2
	理系クラス（理系コース）	468	33.8	20.3	8.1	17.9	8.8	13.2	13.0
	コース選択はない	814	27.9	15.8	10.4	19.4	12.7	11.8	12.5
	その他	823	29.0	24.4	11.7	16.3	13.9	13.2	11.7
の卒業後 進路高校	大学	3,105	30.3	21.8	10.2	18.2	10.8	12.3	12.2
	短期大学	492	28.9	24.4	10.0	20.5	14.8	13.0	13.2
	専門学校	1,084	28.1	21.4	11.0	17.1	12.0	10.8	12.7
設置者 大学等	国立	701	32.7	21.4	9.0	18.0	11.0	13.6	14.8
	公立	1,239	30.5	22.4	10.7	18.6	12.3	11.8	13.6
	私立	2,827	29.7	22.2	10.5	18.0	11.4	12.7	12.1
分野 興味あり	文学、史学、哲学関係	714	31.4	23.1	10.8	18.6	10.1	12.7	11.6
	美術、舞台、演劇学、音楽関係	848	29.4	25.5	14.0	18.0	13.6	13.8	11.8
	教育学関係	639	31.0	20.3	10.2	16.3	13.0	10.3	14.9
関心 新学科	興味関心がある	132	45.5	22.7	15.2	18.2	14.4	14.4	12.9
	やや興味関心がある	759	31.9	25.4	12.0	17.9	11.2	15.3	11.5
	あまり興味関心はない	1,702	27.4	22.6	11.0	19.0	11.8	12.4	11.5
	興味関心はない	1,695	30.7	18.2	9.0	16.3	10.4	10.1	13.4
受験 新学科	第一志望として受験	32	56.3	18.8	12.5	3.1	6.3	6.3	9.4
	第二志望として受験	53	26.4	24.5	15.1	15.1	20.8	18.9	9.4
	第三志望として受験	155	27.7	27.1	15.5	18.1	9.7	13.5	11.6
	受験しない	3,986	30.1	21.1	10.2	17.9	11.1	12.1	12.4
受験 意向別の 入学意向	第一志望:入学する	25	60.0	12.0	16.0	4.0	8.0	8.0	12.0
	:条件付き入学する	3	33.3	66.7	-	-	-	-	-
	:入学しない	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-
	第二志望:入学する	12	27.3	9.1	36.4	18.2	27.3	9.1	27.3
	:条件付き入学する	35	22.9	31.4	8.6	17.1	22.9	20.0	5.7
	:入学しない	4	75.0	-	25.0	-	-	-	-
	第三志望:入学する	7	28.6	42.9	14.3	42.9	14.3	28.6	14.3
	:条件付き入学する	131	26.6	29.7	12.5	18.0	10.2	14.8	13.3
:入学しない	15	33.3	-	40.0	13.3	-	-	-	

Ⅱ. 調査結果

Q13. 学科名称イメージ（比較表）

1. 各イメージについて、最も強く伝わる学科名称は以下の通り。

- ①センスがある、カッコいい → 舞台芸術表現学科
- ②印象に残りやすい → エンターテインメント学科
- ③好感が持てる、親しみやすい → エンターテインメント学科
- ④先進的である → 創造表現学科
- ⑤基礎学力が高い → 創造表現学科
- ⑥一流感がある → 舞台芸術表現学科
- ⑦学びの内容が伝わりやすい → 演劇・ダンス学科

問13. 次にあげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。

（あてはまる番号すべてに○）

(%)

	1	2	3	4	5	6	7
	か っ こ す い が あ る 、	印 象 に 残 り や す い	親 し み が や す い る 、	先 進 的 で あ る	基 礎 学 力 が 高 い	一 流 感 が あ る	伝 わ り の 内 容 が あ る
舞台芸術表現学科	39.0	23.9	9.8	11.9	6.3	16.8	13.6
身体表現学科	19.5	16.9	8.1	11.3	8.5	7.4	10.1
エンターテインメント学科	28.5	27.8	17.7	16.7	5.7	11.8	9.8
演劇・ダンス学科	35.9	23.1	15.5	10.2	6.6	12.3	17.8
創造表現学科	29.8	21.2	10.5	17.6	11.1	12.1	12.3

梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中） 入学意向アンケート調査 ご回答のお願い

梅花女子大学では2026（令和8）年4月に「文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」の開設を計画しています。本学ではこのアンケート調査を通して、高校生の皆さんからのご意見をお聞きし、構想内容に反映したいと考えています。ご回答いただいた皆さんから得られた情報は、梅花女子大学の学部学科構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力をお願いいたします。設問は13問で、回答の目安は5分程度です。

※別紙の梅花女子大学「文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」の概要を紹介した資料をご覧になった上で、以下の設問にお答えください。
※このアンケート調査は、梅花女子大学から委託された第三者機関（株式会社WAVE）が実施しています。

Webフォームでご回答される場合は、右記二次元コードからアクセスしてください。

<https://forms.gle/8smE6rS6pBksYwRH6>



問1. あなたの性別をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 男性 2. 女性 3. 回答しない

問2. あなたが在学している高等学校の所在地をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 大阪府 2. 兵庫県 3. 京都府 4. 滋賀県 5. その他（ ）

問3. あなたが所属するクラスをお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 文系クラス（文系コース） 2. 理系クラス（理系コース） 3. コース選択はない 4. その他

ー新学科構想説明リーフレットをご覧ください、お答えくださいー

問8. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」には以下の特徴があります。魅力を感じる点を、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

1. プロの現場を知る一流の講師陣から知識・技術を学べる
2. 「舞台パフォーマー」および「舞台クリエイター」としての専門性を深められるカリキュラム
3. 舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる
4. 全員がロンドン研修に参加できる
5. ロンドン研修を通じて、グローバルな視野が見につく
6. 海外ツアーコンダクターの資格を取得できる
7. 学内に劇場・劇団（劇団この花）を有し、実践的な学びの機会が豊富にある
8. 「舞台実習」でプロの現場での実習を経験できる
9. 協働を通じてコミュニケーション能力が身につく
10. 主専攻（舞台芸術）×副専攻（美容・健康／身体表現・スポーツ）×教養科目（情報／問題発見・解決等）の掛け合わせて、学生一人ひとりに合ったキャリアを目指す

問9. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」に興味・関心がありますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 興味関心がある
2. やや興味関心がある
3. あまり興味関心はない
4. 興味関心はない

問10. 「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」が開設された場合、受験を希望しますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 第一志望として受験
2. 第二志望として受験
3. 第三志望として受験
4. 受験しない

上記設問で1～3を選択した方は、下記の質問にお答えください。

問10-②. 「梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 入学する
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
3. 入学しない

問10-③. 芸術系大学を受験する予定はありますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 受験する（梅花女子大学より志望度が高い大学）
2. 受験する（梅花女子大学より志望度が低い大学）
3. 受験しない

問10-④. 大学卒業後の進路として興味のある職業・職種を次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 役者
2. ダンサー
3. 歌手
4. 演出家
5. 脚本家・劇作家
6. 舞台監督
7. 舞台スタッフ（美術、音響、照明）
8. イベントプランナー
9. 衣装デザイナー
10. メイクアップアーティスト
11. サウンドクリエイター
12. 動画・映像クリエイター
13. 一般企業・会社員
14. その他（ ）
15. 未定・わからない

問11. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」について、さらなる充実を希望する点（充実すれば入学意欲が向上する点）を次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 哲学、歴史、文化などの基礎教養の教授
2. 地域や企業と連携した教育プログラム
3. 入学後に学びたい専門分野を決めていく「レイトスペシャライゼーション」
4. 舞台技術に関する資格取得のサポート
5. エンターテインメント業界以外でも幅広く活用できるビジネス知識の教授
6. その他（ ）

—最後に、以下の質問にお答えください—

問12. あなたが梅花女子大学に対して持つイメージを、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 自由な雰囲気がある
2. 時代にマッチした教育をしている
3. 元気がある
4. 先進的である
5. 親しみやすい
6. オシャレである
7. 明るい
8. 国際的である
9. アカデミックである
10. 社会で活躍している卒業生が多い
11. スポーツ活動が盛んである
12. 文化活動が盛んである
13. 社会的評価が高い
14. 信頼できる
15. ステータスがある
16. チャレンジ精神がある
17. 歴史がある
18. 上品である

問13. 次にあげる学科名称に対するイメージを、次の中から選択してください。（各学科名について、あてはまる番号すべてに○）

	1	2	3	4	5	6	7
	か つ こ ス い が い あ る	残 印 象 や に す い	親 好 し 感 み が 持 や 持 す て い る	先 進 的 で あ る	基 礎 学 力 が 高 い	一 流 感 が あ る	伝 学 わ び の や 内 容 い が
① 舞台芸術表現学科	1	2	3	4	5	6	7
② 身体表現学科	1	2	3	4	5	6	7
③ エンターテインメント学科	1	2	3	4	5	6	7
④ 演劇・ダンス学科	1	2	3	4	5	6	7
⑤ 創造表現学科	1	2	3	4	5	6	7

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

（参考）類似する近隣他大学の学部学科

大学名	学部学科名	キャンパス所在地
大阪芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	大阪府南河内郡河南町東山469
京都芸術大学	芸術学部 舞台芸術学科	京都市左京区北白川瓜生山2-116
近畿大学	文芸学部 芸術学科	大阪府東大阪市小若江3-4-1
芸術文化観光専門職大学	芸術文化・観光学部	兵庫県豊岡市山王町7-52

IV. 調査対象とした高等学校一覧

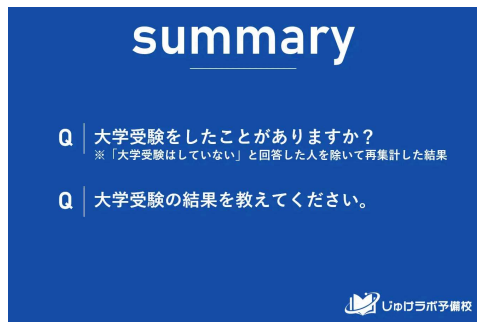
芦屋学園高等学校	神戸星城高等学校
育英西高等学校	向陽台高等学校
上宮高等学校	甲子園学院高等学校
ヴェリタス城星学園高等学校	香里ヌヴェール学院高等学校
英真学園高等学校	四條畷学園高等学校
近江兄弟社高等学校	松蔭高等学校
大阪高等学校	常翔学園高等学校
大阪女学院高等学校	城南学園高等学校
大阪青凌高等学校	進徳女子高等学校
大阪府立香里丘高等学校	宣真高等学校
大阪府立渋谷高等学校	太成学院大学高等学校
大阪府立吹田高等学校	東海大学附属大阪仰星高等学校
大阪府立東淀川高等学校	東大阪大学敬愛高等学校
大阪府立枚方なぎさ高等学校	奈良育英高等学校
大阪府立箕面東高等学校	奈良県立法隆寺国際高等学校
大阪夕陽丘学園高等学校	奈良文化高等学校
大谷高等学校（大阪）	日星高等学校
大谷高等学校（京都）	梅花高等学校
関西福祉科学大学高等学校	羽衣学園高等学校
京都暁星高等学校	兵庫県立伊丹西高等学校
京都翔英高等学校	兵庫県立尼崎小田高等学校
京都聖母学院高等学校	兵庫県立川西明峰高等学校
京都西山高等学校	兵庫県立宝塚東高等学校
京都文教高等学校	プール学院高等学校
金蘭会高等学校	箕面自由学園高等学校
好文学園女子高等学校	百合学院高等学校

大学受験生の62.5%が第一志望大学への【現役合格】を実現

現役合格率は驚異の88.1%！ そのうち約2割は第一志望に落ちても浪人を選択せず第二志望以降の大学へ進学

じゅけラボ予備校

2024年5月7日 08時00分

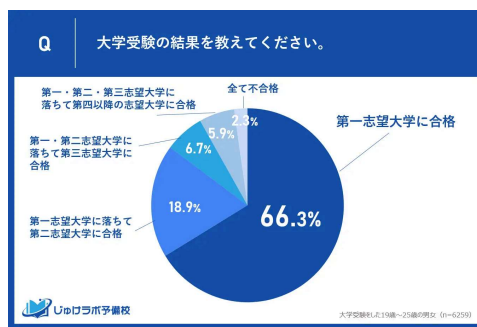


じゅけラボ予備校（所在地：大阪市北区、代表取締役：後藤智則）は、大学受験を経験した19～25歳の男女6259名を対象に、大学受験の可否結果に関する調査を実施しました。

■調査概要

- 調査概要：大学受験の可否に関するアンケート
- 調査期間：2024/2/21～2024/2/28
- 調査方法：インターネット調査
- 有効回答：大学受験をした19～25歳の男女6259名

大学受験で第一志望大学に合格するのは66.3%！ 3人に2人が希望を叶える

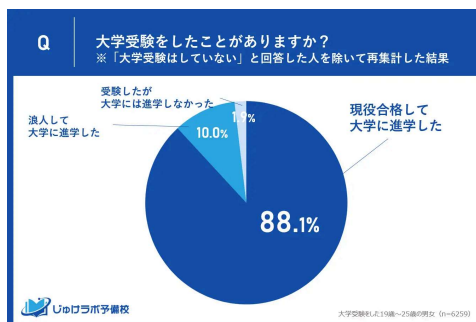


- 第一志望大学に合格：66.3%
- 第一志望大学に落ちて第二志望大学に合格：18.9%
- 第一・第二志望大学に落ちて第三志望大学に合格：6.7%
- 第一・第二・第三志望大学に落ちて第四以降の志望大学に合格：5.9%
- 全て不合格：2.3%

大学受験の可否結果に関する今回の調査結果では、受験者の約三分の二の66.3%が第一志望大学に合格しています。これは現役合格者、浪人合格者どちらも含めた結果です。

この高い割合は、学校や、生徒の進学をサポートする塾や予備校などの外部教育サービス提供事業者の教育システムが効果的であることを示しています。

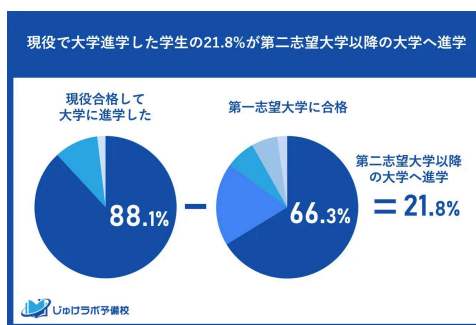
驚異的な88.1%！受験生の圧倒的多数が現役で大学に進学



- 現役合格して大学に進学した：88.1%
- 浪人して大学に進学した：10.0%
- 受験したが大学には進学しなかった：1.9%

現役での大学進学率88.1%という驚異的に高い割合は、高い第一志望大学合格率の背景と同様に学校や塾・予備校などの外部教育サービス提供事業者の教育システムがいかに効果的であることを示しています。

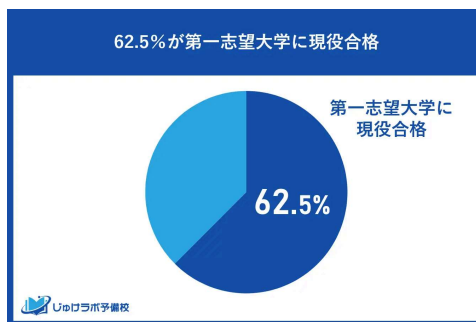
現役で大学進学した学生の21.8%が第二志望大学以降の大学へ進学



しかし、第一志望大学には合格できなかったにも関わらず、他の大学への道を選び、現役で進学している学生も多く存在しています。具体的には、第一志望に合格したのが66.3%に対し、現役で大学に進学した学生の割合は88.1%と、21.8%の開きがあります。つまり約2割の現役合格者が浪人という選択肢を選ばずに、第一志望以外の大学へと進学していることがわかります。

第一志望に合格することは多くの学生にとって重要な目標ですが、第二志望以降に合格した学生の存在は、受験生に提供される教育や進路指導、キャリアの選択肢の多様性を反映しています。これは、一つの目標に固執するのではなく、自分の将来に合った多くの道があることを学生自身が理解していることを意味します。

62.5%が第一志望大学に現役合格。比較的高い合格率。



人材需要に関するアンケート調査 集計結果

2025年2月

人材需要に関するアンケート調査

(1) 調査の目的

梅花女子大学が令和8（2026）年4月に設置を構想している文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）について、卒業後の就職先として見込まれる企業に学科の必要性や卒業生の採用検討意向を聴取し、人材需要を確認するためにアンケート調査を実施した。

(2) 調査の対象

梅花女子大学の卒業生の採用実績がある企業

(3) 調査方法

郵送配布、Webフォームによる自記式（無記名）

(4) 調査実施時期

2024年6月～7月

(5) 有効回収数

107サンプル（有効回答率82.3% 130社配布に対し）

Ⅱ. 調査結果

Q1. 本社所在地

回答企業・団体の本社所在地は「大阪府」が63%、東京都が17%。

問1. 貴社・貴団体の本社所在地をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	大阪	67	62.6
2	東京	18	16.8
3	兵庫	10	9.3
4	京都	5	4.7
5	奈良	2	1.9
6	愛知	1	0.9
7	香川	1	0.9
8	福岡	1	0.9
9	千葉	1	0.9
10	北海道	1	0.9
	合計	107	100.0

Q2. 業種

回答企業の業種は「サービス業（他に分類されないもの）」が19%で最も高い。
次いで「卸売業、小売業」が14%、「製造業」が11%。

問2. 貴社・貴団体の主となる業種をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	サービス業（他に分類されないもの）	20	18.7
2	卸売業、小売業	15	14.0
3	製造業	12	11.2
4	情報通信業	8	7.5
5	金融業、保険業	6	5.6
6	医療、福祉	5	4.7
7	宿泊業、飲食サービス業	5	4.7
8	複合サービス事業	5	4.7
9	生活関連サービス業、娯楽業	4	3.7
10	技術研究、専門・技術サービス業	3	2.8
11	教育、学習支援業	3	2.8
12	不動産業、物品賃貸業	3	2.8
13	運輸業、郵便業	2	1.9
14	建設業	2	1.9
15	電気・ガス・熱供給・水道業	2	1.9
16	クリエイティブ制作・人材派遣・著作物管理運用	1	0.9
17	テレビ・広告	1	0.9
18	マスコミ	1	0.9
19	観光船業	1	0.9
20	企画・制作運営	1	0.9
21	給食委託	1	0.9
22	警察	1	0.9
23	自治体	1	0.9
24	出版・新聞発行・広告業	1	0.9
25	出版業	1	0.9
26	特別職国家公務員	1	0.9
27	BPO、WEB関連、コンタクトセンター事業他	1	0.9
	合計	107	100.0

Ⅱ. 調査結果

Q3. 従業員数

従業員規模は「100人未満」が39%で最も高く、次いで「100～500人未満」「1,000～3,000人未満」が17%。「500人未満」が半数超を占める。

問3. 貴社・貴団体の従業員数（正社員）をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	100人未満	42	39.3
2	100～500人未満	18	16.8
3	500～1,000人未満	12	11.2
4	1,000～3,000人未満	18	16.8
5	3,000人以上	17	15.9
	合計	107	100.0

Q4. 新卒者の最終学歴

新卒者の最終学歴は「大学」が65%で最も高く、次いで「専門学校」が38%。

問4. 2024年度に採用した新卒者の最終学歴をお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	高等学校	24	22.4
2	短期大学	33	30.8
3	大学	70	65.4
4	大学院	27	25.2
5	専門学校	41	38.3
6	新卒は採用しなかった	32	29.9
	合計	107	

Q5. 大学または大学院を卒業した新卒者数

2024年度の新卒者で大学または大学院を卒業した人数は「1～10人」が最も高く24%。次いで「51人以上」「新卒は採用しなかった」が22%。

問5. 2024年度の新卒者のうち、大学または大学院を卒業された方の人数をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

	選択項目	回答件数	構成比 (%)
1	0人	13	12.1
2	1～10人	26	24.3
3	11～20人	8	7.5
4	21～30人	7	6.5
5	31～50人	6	5.6
6	51人以上	23	21.5
7	新卒は採用しなかった	24	22.4
	合計	107	100.0

II. 調査結果

Q6. 新卒者に期待する能力

1. 新卒者に期待する能力は「物事に進んで取り組む力(主体性)」(92%)が最も高く、次いで「相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)」(65%)、「社会のルールや人との約束を守る力(規律性)」(64%)が高い。
2. 情報通信・クリエイティブ関連の業種では「新しい価値を生み出す力(創造性)」と「ストレスの発生源に対応する力(ストレスコントロール)」が全体と比べて10ポイント以上高い。
3. 新学科にある程度関心がある層では「目標を設定し確実に行動する力(実行力)」と「相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)」が7割前後と高くなっている。

問6. 新卒者に期待する能力をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

=全体より10ポイント以上高い
=全体より10ポイント以上低い
(%)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14						
		N	物事に進んで取り組む力(主体性)	他人に働きかけ巻き込む力(影響力)	(実行力) 目標を設定し確実に行動する力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力(課題発見力)	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力(計画力)	新しい価値を生み出す力(創造力)	伝える力(発信力)	相手の意見をわかりやすく	相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)	理解する力(柔軟性)	意見や立場の違いを	関係性を理解する力(状況把握力)	自分と周囲の人々や物事との	守る力(規律性)	社会のルールや人との約束を	(ストレスの発生源に対応する力)	大量の情報から本質を見極め、必要な情報を取り捨てる力(情報処理能力)	大量の情報から本質を見極め、必要な情報を取り捨てる力(情報処理能力)	デジタル機器やソフトウェアを適切に
合計		107	91.6	45.8	57.9	55.1	39.3	47.7	56.1	65.4	53.3	42.1	63.6	43.9	21.5	28.0					
規模	100人未満	42	90.5	35.7	52.4	61.9	42.9	59.5	54.8	57.1	50.0	42.9	59.5	31.0	31.0	42.9					
	100~1,000人未満	30	90.0	43.3	66.7	46.7	26.7	43.3	56.7	73.3	43.3	40.0	66.7	50.0	10.0	16.7					
	1,000人以上	35	94.3	60.0	57.1	54.3	45.7	37.1	57.1	68.6	65.7	42.9	65.7	54.3	20.0	20.0					
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	93.8	37.5	56.3	56.3	31.3	56.3	81.3	62.5	50.0	37.5	62.5	31.3	31.3	12.5					
	サービス関連	55	89.1	52.7	65.5	58.2	47.3	41.8	50.9	67.3	50.9	38.2	61.8	43.6	21.8	27.3					
	情報通信・クリエイティブ関連	14	100.0	28.6	35.7	28.6	35.7	64.3	28.6	57.1	42.9	35.7	50.0	57.1	14.3	28.6					
	金融・教育・医療福祉等関連	22	90.9	45.5	54.5	63.6	27.3	45.5	68.2	68.2	68.2	59.1	77.3	45.5	18.2	40.9					
新学科への関心度	関心がある	35	82.9	40.0	54.3	40.0	42.9	51.4	51.4	57.1	51.4	31.4	57.1	31.4	20.0	22.9					
	ある程度興味関心がある	41	95.1	53.7	68.3	61.0	46.3	46.3	58.5	75.6	61.0	61.0	65.9	56.1	26.8	34.1					
	あまり関心はない	24	95.8	45.8	45.8	62.5	20.8	50.0	50.0	58.3	37.5	25.0	62.5	37.5	16.7	33.3					
	関心はない	7	100.0	28.6	57.1	71.4	42.9	28.6	85.7	71.4	71.4	42.9	85.7	57.1	14.3	-					
必要度の	必要性を感じる	16	81.3	37.5	43.8	31.3	31.3	37.5	37.5	62.5	56.3	25.0	50.0	25.0	12.5	12.5					
	ある程度必要性を感じる	43	90.7	51.2	65.1	55.8	44.2	51.2	58.1	62.8	53.5	69.8	46.5	16.3	27.9						
	あまり必要性を感じない	42	95.2	45.2	52.4	59.5	35.7	45.2	57.1	66.7	47.6	33.3	57.1	45.2	28.6	33.3					
	必要性を感じない	6	100.0	33.3	83.3	83.3	50.0	66.7	83.3	83.3	83.3	66.7	100.0	66.7	33.3	33.3					
採用意向	採用対象になる	35	88.6	45.7	60.0	42.9	40.0	40.0	45.7	68.6	51.4	40.0	65.7	28.6	8.6	11.4					
	おそらく採用対象になる	25	92.0	52.0	60.0	56.0	32.0	48.0	48.0	60.0	56.0	52.0	56.0	20.0	24.0						
	あまり採用対象にならない	40	92.5	47.5	52.5	62.5	45.0	52.5	70.0	67.5	50.0	35.0	62.5	47.5	32.5	40.0					
	採用対象にならない	7	100.0	14.3	71.4	71.4	28.6	57.1	57.1	57.1	71.4	57.1	85.7	14.3	28.6	57.1					

※クロス集計表における「業種」の分類は以下の通り。

【製造・建設・エネルギー関連】

製造業/建設業/電気・ガス・熱供給・水道業

【サービス関連】

サービス業(他に分類されないもの)/卸売業、小売業/宿泊業、飲食サービス業/複合サービス事業/生活関連サービス業、娯楽業/運輸業、郵便業/観光船業/給食委託/警察/自治体

【情報通信・マスコミ・クリエイティブ関連】

情報通信業/クリエイティブ制作・人材派遣・著作物管理運用/テレビ・広告/マスコミ/企画・制作運営/出版・新聞発行・広告業/出版業

【その他金融・教育・医療福祉等関連】

金融業、保険業/医療、福祉/技術研究、専門・技術サービス業/教育、学習支援業/不動産業、物品賃貸業/特別職国家公務員/BPO、WEB関連、コンタクトセンター事業他

Ⅱ. 調査結果

Q7. 新卒採用で重視する能力

1. 新卒採用で重視する能力は「コミュニケーション能力」(86%)が最も高く、次いで「主体性」(78%)、「チャレンジ精神」(69%)が高い。
2. 従業員規模別で見ると、1,000人以上の企業で「協調性」「ストレス耐性」「柔軟性」が全体と比べて10ポイント以上高い。

問7. 新卒採用で重視する能力をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

 =全体より10ポイント以上高い

 =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 シ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 能 力	2 主 体 性	3 協 調 性	4 チ ャ レ ン ジ 精 神	5 ス ト レ ス 耐 性	6 責 任 感	7 論 理 性	8 専 門 性	9 職 業 観	10 創 造 性
合計		107	86.0	77.6	66.4	69.2	47.7	40.2	16.8	12.1	8.4	31.8
従業員規模	100人未満	42	83.3	76.2	57.1	64.3	28.6	45.2	19.0	7.1	7.1	38.1
	100~1,000人未満	30	86.7	76.7	66.7	76.7	56.7	33.3	10.0	13.3	13.3	26.7
	1,000人以上	35	88.6	80.0	77.1	68.6	62.9	40.0	20.0	17.1	5.7	28.6
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	87.5	75.0	50.0	75.0	25.0	31.3	12.5	6.3	-	37.5
	サービス関連	55	94.5	80.0	69.1	74.5	52.7	41.8	18.2	10.9	12.7	23.6
	情報通信・クリエイティブ関連	14	71.4	85.7	64.3	71.4	42.9	50.0	14.3	7.1	-	57.1
	金融・教育・医療福祉等関連	22	72.7	68.2	72.7	50.0	54.5	36.4	18.2	22.7	9.1	31.8
新学科への関心度	関心がある	35	80.0	62.9	60.0	71.4	25.7	28.6	11.4	14.3	5.7	25.7
	ある程度興味関心がある	41	95.1	80.5	65.9	68.3	53.7	48.8	22.0	7.3	9.8	31.7
	あまり関心はない	24	79.2	87.5	66.7	66.7	62.5	33.3	16.7	8.3	-	45.8
	関心はない	7	85.7	100.0	100.0	71.4	71.4	71.4	14.3	42.9	42.9	14.3
新学科の必要度	必要性を感じる	16	75.0	56.3	43.8	68.8	31.3	43.8	12.5	12.5	12.5	25.0
	ある程度必要性を感じる	43	90.7	79.1	74.4	62.8	41.9	41.9	16.3	7.0	9.3	25.6
	あまり必要性を感じない	42	85.7	83.3	66.7	71.4	59.5	31.0	19.0	14.3	-	38.1
	必要性を感じない	6	83.3	83.3	66.7	100.0	50.0	83.3	16.7	33.3	50.0	50.0
採用意向の新学科	採用対象になる	35	85.7	65.7	65.7	77.1	37.1	42.9	8.6	8.6	8.6	28.6
	おそらく採用対象になる	25	92.0	92.0	72.0	48.0	60.0	40.0	24.0	4.0	12.0	28.0
	あまり採用対象にならない	40	85.0	77.5	67.5	77.5	57.5	35.0	20.0	15.0	5.0	35.0
	採用対象にならない	7	71.4	85.7	42.9	57.1	0.0	57.1	14.3	42.9	14.3	42.9

次ページに続く→

II. 調査結果

Q7. 新卒採用で重視する能力<続き>

問7.. 新卒採用で重視する能力をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

=全体より10ポイント以上高い

=全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	11 柔軟性	12 信頼性	13 リーダーシップ	14 一般常識	15 外国語力	16 日本語力	17 数的処理力	18 倫理観	19 感受性	20 デジタルスキル	21 その他
合計		107	49.5	39.3	26.2	46.7	9.3	12.1	4.7	24.3	14.0	18.7	1.9
従業員規模	100人未満	42	40.5	33.3	9.5	52.4	14.3	16.7	4.8	23.8	14.3	33.3	-
	100~1,000人未満	30	46.7	40.0	43.3	46.7	10.0	13.3	3.3	26.7	13.3	6.7	-
	1,000人以上	35	62.9	45.7	31.4	40.0	2.9	5.7	5.7	22.9	14.3	11.4	5.7
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	31.3	31.3	25.0	43.8	-	6.3	6.3	12.5	6.3	12.5	-
	サービス関連	55	52.7	38.2	29.1	45.5	14.5	18.2	5.5	23.6	18.2	20.0	3.6
	情報通信・クリエイティブ関連	14	50.0	35.7	21.4	57.1	7.1	-	-	21.4	14.3	21.4	-
	金融・教育・医療福祉等関連	22	54.5	50.0	22.7	45.5	4.5	9.1	4.5	36.4	9.1	18.2	-
新学科への関心度	関心がある	35	51.4	37.1	14.3	25.7	5.7	5.7	-	8.6	11.4	17.1	2.9
	ある程度興味関心がある	41	51.2	46.3	36.6	65.9	17.1	26.8	9.8	36.6	19.5	22.0	2.4
	あまり関心はない	24	45.8	29.2	29.2	41.7	4.2	-	4.2	29.2	12.5	20.8	-
	関心はない	7	42.9	42.9	14.3	57.1	-	-	-	14.3	-	-	-
新学科の必要性	必要性を感じる	16	43.8	31.3	25.0	37.5	-	-	-	12.5	18.8	6.3	6.3
	ある程度必要性を感じる	43	53.5	41.9	32.6	44.2	14.0	20.9	7.0	20.9	14.0	16.3	-
	あまり必要性を感じない	42	47.6	33.3	23.8	47.6	7.1	9.5	4.8	35.7	14.3	26.2	2.4
	必要性を感じない	6	50.0	83.3	-	83.3	16.7	-	-	-	-	16.7	-
採用意向の新学科	採用対象になる	35	51.4	42.9	28.6	42.9	8.6	8.6	2.9	14.3	8.6	2.9	2.9
	おそらく採用対象になる	25	48.0	44.0	36.0	44.0	16.0	20.0	4.0	32.0	24.0	12.0	4.0
	あまり採用対象にならない	40	55.0	32.5	20.0	47.5	5.0	10.0	7.5	30.0	10.0	35.0	-
	採用対象にならない	7	14.3	42.9	14.3	71.4	14.3	14.3	0.0	14.3	28.6	28.6	-

II. 調査結果

Q8. 新卒者に期待する知識・スキル

1. 新卒者に期待する能力は「プレゼンテーション力」(57%)が最も高く、次いで「企画・プロデュース」(53%)、「プロジェクトマネジメント」(32%)が高い。
2. 新学科にある程度関心がある層では「企画・プロデュース」「プレゼンテーション力」に加えて「文章表現・創作」も高くなっている。

問8. 新卒者に期待する知識・スキルをお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

=全体より10ポイント以上高い

=全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 デザ イト 思考 ・ 思 考 ・	2 プ 企 画 デ ュ ー ス	3 マ ブ ネ ジ エ メ ン ト	4 身 体 表 現	5 創 文 章 表 現 ・ 作 業	6 シ ブ ヨ レ ン ゼ ン テ ー	7 デ ブ ザ ロ イ ダ ク ト	8 プ イ ロ ベ ン ト ユ ー ス	9 デ イ タ 分 析	10 造 形 デ ザ イ ン ・	11 映 音 像 編 集 ・ 音 響	12 照 明 ・ 音 響	13 そ の 他
合計		107	19.6	53.3	31.8	5.6	29.9	57.0	0.9	13.1	29.0	-	8.4	2.8	15.0
従 業 員	100人未満	42	33.3	61.9	33.3	4.8	40.5	52.4	2.4	14.3	26.2	-	16.7	-	14.3
	100~1,000人未満	30	20.0	50.0	26.7	3.3	33.3	66.7	-	13.3	26.7	-	3.3	6.7	10.0
	1,000人以上	35	2.9	45.7	34.3	8.6	14.3	54.3	-	11.4	34.3	-	2.9	2.9	20.0
業 種	製造・建設・エネルギー関連	16	12.5	43.8	37.5	6.3	31.3	62.5	6.3	12.5	25.0	-	18.8	-	-
	サービス関連	55	21.8	54.5	34.5	9.1	32.7	60.0	-	14.5	21.8	-	7.3	5.5	18.2
	情報通信・クリエイティブ関連	14	35.7	64.3	28.6	-	21.4	71.4	-	21.4	28.6	-	-	-	14.3
	金融・教育・医療福祉等関連	22	9.1	50.0	22.7	-	27.3	36.4	-	4.5	50.0	-	9.1	-	18.2
新 学 科 へ の 関 心 度	関心がある	35	20.0	54.3	25.7	11.4	25.7	57.1	-	14.3	25.7	-	14.3	5.7	17.1
	ある程度興味関心がある	41	22.0	63.4	39.0	4.9	43.9	73.2	2.4	14.6	36.6	-	7.3	2.4	2.4
	あまり関心はない	24	20.8	45.8	33.3	-	20.8	37.5	-	12.5	20.8	-	4.2	-	25.0
	関心はない	7	-	14.3	14.3	-	-	28.6	-	-	28.6	-	-	-	42.9
新 学 科 の 必 要 性	必要性を感じる	16	6.3	62.5	31.3	31.3	18.8	50.0	6.3	6.3	18.8	-	12.5	12.5	18.8
	ある程度必要性を感じる	43	23.3	60.5	34.9	2.3	34.9	74.4	-	18.6	30.2	-	9.3	2.3	2.3
	あまり必要性を感じない	42	19.0	47.6	31.0	-	33.3	50.0	-	11.9	33.3	-	7.1	-	16.7
	必要性を感じない	6	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	16.7	-	-	-	83.3
卒 業 生 の 採 用 意 向	採用対象になる	35	11.4	51.4	34.3	14.3	25.7	62.9	2.9	17.1	20.0	-	2.9	5.7	14.3
	おそらく採用対象になる	25	32.0	68.0	32.0	4.0	40.0	68.0	-	16.0	40.0	-	16.0	-	4.0
	あまり採用対象にならない	40	17.5	45.0	35.0	-	30.0	52.5	-	10.0	32.5	-	10.0	2.5	17.5
	採用対象にならない	7	28.6	57.1	-	-	14.3	14.3	-	-	14.3	-	-	-	42.9

II. 調査結果

Q9. 舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）の魅力を感じる点

1. 新学科の魅力点としては「協働を通じてコミュニケーション能力が身につく」(67%)が最も高く、次いで「プロの現場を知る一流の講師陣から知識・技術を学べる」(57%)、「主専攻（舞台芸術）×副専攻（美容・健康/身体表現・スポーツ）×教養科目（情報/問題発見・解決等）の掛け合わせで、学生一人ひとりに合ったキャリアを目指せる」(40%)が高い。
2. 新学科に関心がある層では「学内に劇場・劇団（劇団この花）を有し、実践的な学びの機会が豊富にある」「主専攻×副専攻×教養科目の掛け合わせで、学生一人ひとりに合ったキャリアを目指せる」が、全体と比べ10ポイント以上高い。

問9. 令和8年度に開設する「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）」には以下の特徴があります。魅力を感じる点を、次の中から選択してください（あてはまる番号すべてに○）

■ =全体より10ポイント以上高い □ =全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			知識・技術の現場を学べる一流の講師陣から	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」	「舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる」
合計		107	57.0	29.0	30.8	23.4	29.9	13.1	29.9	25.2	67.3	40.2
従業員規模	100人未満	42	61.9	42.9	42.9	26.2	31.0	23.8	33.3	26.2	61.9	40.5
	100~1,000人未満	30	53.3	20.0	30.0	20.0	20.0	6.7	30.0	30.0	76.7	46.7
	1,000人以上	35	54.3	20.0	17.1	22.9	37.1	5.7	25.7	20.0	65.7	34.3
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	50.0	25.0	37.5	37.5	31.3	18.8	18.8	31.3	75.0	31.3
	サービス関連	55	61.8	34.5	38.2	25.5	23.6	10.9	36.4	30.9	63.6	41.8
	情報通信・クリエイティブ関連	14	42.9	21.4	21.4	14.3	35.7	-	28.6	14.3	85.7	57.1
	金融・教育・医療福祉等関連	22	59.1	22.7	13.6	13.6	40.9	22.7	22.7	13.6	59.1	31.8
新学科への関心度	関心がある	35	57.1	37.1	34.3	25.7	22.9	17.1	45.7	34.3	62.9	60.0
	ある程度興味関心がある	41	65.9	26.8	36.6	26.8	41.5	9.8	26.8	19.5	78.0	36.6
	あまり関心はない	24	50.0	29.2	25.0	20.8	25.0	12.5	16.7	29.2	58.3	25.0
	関心はない	7	28.6	-	-	-	14.3	14.3	14.3	-	57.1	14.3
新学科の必要性	必要性を感じる	16	43.8	37.5	25.0	25.0	43.8	6.3	31.3	18.8	68.8	56.3
	ある程度必要性を感じる	43	60.5	27.9	30.2	27.9	32.6	14.0	34.9	20.9	69.8	51.2
	あまり必要性を感じない	42	59.5	26.2	33.3	16.7	23.8	11.9	23.8	31.0	66.7	26.2
	必要性を感じない	6	50.0	33.3	33.3	33.3	16.7	33.3	33.3	33.3	50.0	16.7
卒業生への採用意向	採用対象になる	35	54.3	25.7	25.7	31.4	42.9	8.6	25.7	20.0	65.7	42.9
	おそらく採用対象になる	25	60.0	40.0	32.0	28.0	32.0	20.0	48.0	24.0	72.0	56.0
	あまり採用対象にならない	40	60.0	22.5	30.0	12.5	17.5	10.0	20.0	30.0	65.0	30.0
	採用対象にならない	7	42.9	42.9	57.1	28.6	28.6	28.6	42.9	28.6	71.4	28.6

Ⅱ. 調査結果

Q10. 舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）の関心度

1. 「舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）に関心がある」と回答した企業は33%。
「ある程度関心がある」を含めた関心度は71%。

問10. 令和8年度に開設する「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）」に関心がありますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

=全体より10ポイント以上高い

=全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 関 心 が あ る	2 関 あ 心 る が 程 あ 度 る	3 関 あ 心 あ ま は り な い	4 関 心 は な い
合計		107	32.7	38.3	22.4	6.5
従業員規模	100人未満	42	35.7	40.5	19.0	4.8
	100~1,000人未満	30	30.0	46.7	20.0	3.3
	1,000人以上	35	31.4	28.6	28.6	11.4
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	37.5	25.0	25.0	12.5
	サービス関連	55	32.7	45.5	18.2	3.6
	情報通信・クリエイティブ関連	14	35.7	28.6	28.6	7.1
	金融・教育・医療福祉等関連	22	27.3	36.4	27.3	9.1
新学科への関心度	関心がある	35	100.0	-	-	-
	ある程度興味関心がある	41	-	100.0	-	-
	あまり関心はない	24	-	-	100.0	-
	関心はない	7	-	-	-	100.0
新学科の必要度	必要性を感じる	16	87.5	12.5	-	-
	ある程度必要性を感じる	43	37.2	58.1	2.3	2.3
	あまり必要性を感じない	42	9.5	33.3	52.4	4.8
	必要性を感じない	6	16.7	-	16.7	66.7
卒業生の採用意向	採用対象になる	35	57.1	31.4	8.6	2.9
	おそらく採用対象になる	25	28.0	60.0	12.0	-
	あまり採用対象にならない	40	17.5	32.5	40.0	10.0
	採用対象にならない	7	14.3	28.6	28.6	28.6

II. 調査結果

Q11. 舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）が養成する人物像の必要性

1. 「舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）の養成する人物に必要性を感じる」と回答した企業は15%。
「ある程度必要性を感じる」を含めた必要度は55%。

問11. 「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）」が養成する人物像について、
貴社・貴団体ではどの程度必要性を感じますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

=全体より10ポイント以上高い

=全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 感 必 じ 要 る 性 を	2 感 必 ぁ じ 要 る る 性 程 を 度	3 感 必 ぁ じ 要 な り 性 い を	4 感 必 じ 要 な 性 い を
合計		107	15.0	40.2	39.3	5.6
従業員規模	100人未満	42	14.3	33.3	42.9	9.5
	100～1,000人未満	30	16.7	50.0	33.3	-
	1,000人以上	35	14.3	40.0	40.0	5.7
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	25.0	18.8	50.0	6.3
	サービス関連	55	16.4	41.8	36.4	5.5
	情報通信・クリエイティブ関連	14	14.3	42.9	42.9	-
	金融・教育・医療福祉等関連	22	4.5	50.0	36.4	9.1
新学科への 関心度	関心がある	35	40.0	45.7	11.4	2.9
	ある程度興味関心がある	41	4.9	61.0	34.1	-
	あまり関心はない	24	-	4.2	91.7	4.2
	関心はない	7	-	14.3	28.6	57.1
新学科の 必要度	必要性を感じる	16	100.0	-	-	-
	ある程度必要性を感じる	43	-	100.0	-	-
	あまり必要性を感じない	42	-	-	100.0	-
	必要性を感じない	6	-	-	-	100.0
卒業生 の 採用意向	採用対象になる	35	40.0	42.9	14.3	2.9
	おそらく採用対象になる	25	8.0	72.0	20.0	-
	あまり採用対象にならない	40	-	20.0	75.0	5.0
	採用対象にならない	7	-	28.6	28.6	42.9

Ⅱ. 調査結果

Q12. 舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）卒業生の採用意向（単年度）

1. 「舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）で学んだ学生は採用対象となる（単年度）」と回答した企業は33%。「おそらく採用対象になる」を含めた採用意向は56%。

問12. 「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・設置構想中）」で学んだ卒業生について、単年度の採用意向をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

=全体より10ポイント以上高い

=全体より10ポイント以上低い

(%)

		N	1 な採用対象に	2 な採用対象に	3 おそれない	4 な採用対象に
合計		107	32.7	23.4	37.4	6.5
従業員規模	100人未満	42	16.7	21.4	47.6	14.3
	100～1,000人未満	30	43.3	33.3	20.0	3.3
	1,000人以上	35	42.9	17.1	40.0	-
業種	製造・建設・エネルギー関連	16	25.0	18.8	50.0	6.3
	サービス関連	55	38.2	23.6	32.7	5.5
	情報通信・クリエイティブ関連	14	35.7	28.6	28.6	7.1
	金融・教育・医療福祉等関連	22	22.7	22.7	45.5	9.1
新学科への関心度	関心がある	35	57.1	20.0	20.0	2.9
	ある程度興味関心がある	41	26.8	36.6	31.7	4.9
	あまり関心はない	24	12.5	12.5	66.7	8.3
	関心はない	7	14.3	-	57.1	28.6
新学科の必要度	必要性を感じる	16	87.5	12.5	-	-
	ある程度必要性を感じる	43	34.9	41.9	18.6	4.7
	あまり必要性を感じない	42	11.9	11.9	71.4	4.8
	必要性を感じない	6	16.7	-	33.3	50.0
卒業生の採用意向	採用対象になる	35	100.0	-	-	-
	おそらく採用対象になる	25	-	100.0	-	-
	あまり採用対象にならない	40	-	-	100.0	-
	採用対象にならない	7	-	-	-	100.0

梅花女子大学 文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中） 人材需要等に関するアンケート調査

ご回答のお願い

本学では教育・研究環境の一層の充実を図るため、2026（令和8）年4月に「文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」の設置を計画しております。

このアンケート調査では、人事・採用のご担当者の皆様からのご意見をお聞きし「文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」の設置に向けての基礎資料とするものですので、何卒ご協力いただきたくお願い申し上げます。

なお、このアンケート結果は、コンピュータにより処理され、梅花女子大学の学部学科構想に係る統計資料としてのみ用います。個別の回答内容について公開することは一切ございません。

※別紙の梅花女子大学「文化表現学部 舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」の概要を紹介したリーフレットをご確認の上で、以下の設問にお答えください。

※このアンケート調査は、梅花女子大学から委託された第三者機関（株式会社WAVE）が実施しています。

問1. 貴社・貴団体の本社所在地をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

4 7 都道府県をプルダウンで選択

問2. 貴社・貴団体の主となる業種をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 農業、林業
2. 漁業
3. 鉱業、採石業、砂利採取業
4. 建設業
5. 製造業
6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 情報通信業
8. 運輸業、郵便業
9. 卸売業、小売業
10. 金融業、保険業
11. 不動産業、物品賃貸業
12. 学術研究、専門・技術サービス業
13. 宿泊業、飲食サービス業
14. 生活関連サービス業、娯楽業
15. 教育、学習支援業
16. 医療、福祉
17. 複合サービス事業
18. サービス業（他に分類されないもの）
19. その他

問3. 貴社・貴団体の従業員数（正社員）をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 100人未満 2. 100～500人未満 3. 500～1,000人未満 4. 1,000～3,000人未満 5. 3,000人以上

問4. 2023年度に採用した新卒者の最終学歴をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高等学校
2. 短期大学
3. 大学
4. 大学院
5. 専門学校
6. その他 ()
7. 新卒は採用しなかった

問5. 2023年度の新卒者のうち、大学または大学院を卒業された方の人数をお答えください。(あてはまる番号に1つだけ○)

1. 0人
2. 1~10人
3. 11~20人
4. 21~30人
5. 31~50人
6. 51人以上
7. 新卒は採用しなかった

問6. 新卒者に期待する能力をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 物事に進んで取り組む力(主体性)
2. 他人に働きかけ巻き込む力(影響力)
3. 目標を設定し確実に行動する力(実行力)
4. 現状を分析し、目的や課題を明らかにする力(課題発見力)
5. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力(計画力)
6. 新しい価値を生み出す力(創造力)
7. 自分の意見をわかりやすく伝える力(発信力)
8. 相手の意見を丁寧に聞く力(傾聴力)
9. 意見や立場の違いを理解する力(柔軟性)
10. 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力(状況把握力)
11. 社会のルールや人との約束を守る力(規律性)
12. ストレスの発生源に対応する力(ストレスコントロール)
13. 大量の情報から本質を見極め、必要な情報を取捨選択できる力(情報処理能力)
14. デジタル機器やソフトウェアを適切に操作・活用する力(デジタルスキル)

問7. 新卒採用で重視する能力をお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. コミュニケーション能力
2. 主体性
3. 協調性
4. チャレンジ精神
5. ストレス耐性
6. 責任感
7. 論理性
8. 専門性
9. 職業観
10. 創造性
11. 柔軟性
12. 信頼性
13. リーダーシップ
14. 一般常識
15. 外国語力
16. 日本語力
17. 数的処理力
18. 倫理観
19. 感受性
20. デジタルスキル
21. その他 ()

問8. 新卒者に期待する知識・スキルをお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. アート思考・デザイン思考
2. 企画・プロデュース
3. プロジェクトマネジメント
4. 身体表現
5. 文章表現・創作
6. プレゼンテーション力
7. プロダクトデザイン
8. イベントプロデュース
9. データ分析
10. デザイン・造形
11. 音楽編集・映像編集
12. 照明・音響
13. その他 ()

－新学科構想説明リーフレットをご覧ください、お答えください－

問9. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」には以下の特徴があります。魅力を感じる点を、次の中から選択してください。（あてはまる番号すべてに○）

1. プロの現場を知る一流の講師陣から知識・技術を学べる
2. 「舞台パフォーマー」および「舞台クリエイター」としての専門性を深められるカリキュラム
3. 舞台芸術の知識・技術を基礎から修得できる
4. 全員がロンドン研修に参加できる
5. ロンドン研修を通じて、グローバルな視野が見につく
6. 海外ツアーコンダクターの資格を取得できる
7. 学内に劇場・劇団（劇団この花）を有し、実践的な学びの機会が豊富にある
8. 「舞台実習」でプロの現場での実習を経験できる
9. 協働を通じてコミュニケーション能力が身につく
10. 主専攻（舞台芸術）×副専攻（美容・健康／身体表現・スポーツ）×教養科目（情報／問題発見・解決等）の掛け合わせで、学生一人ひとりに合ったキャリアを目指す

問10. 2026（令和8）年度に開設する「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」に関心がありますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 関心がある
2. ある程度興味関心がある
3. あまり関心はない
4. 関心はない

問11. 「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」が養成する人物像について、貴社・貴団体ではどの程度必要性を感じますか。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 必要性を感じる
2. ある程度必要性を感じる
3. あまり必要性を感じない
4. 必要性を感じない

問12. 「梅花女子大学文化表現学部舞台芸術表現学科（仮称・構想中）」学んだ卒業生について、単年度の採用意向をお答えください。（あてはまる番号に1つだけ○）

1. 採用対象になる
2. おそらく採用対象になる
3. あまり採用対象にならない
4. 採用対象にならない

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	カワムラ ケイコ 河村 圭子 <令和6年4月>		博士(医学)		梅花女子大学 学長 (令和6年4月~令和9年3月)

教 員 の 氏 名 等																			
(文化表現学部舞台芸術表現学科)																			
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に 従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織 (他の大学等に置かれる学部等 を含む)での基幹教員としての 勤務状況
														教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
16	その他	講師	クノキ かいほ 黒木 かいほ <令和9年4月>		専門学校卒		舞台芸術研究演習B(舞踊学分野) I 舞台芸術研究演習B(舞踊学分野) II 舞台芸術研究演習B(舞踊学分野) III 舞台芸術研究演習B(舞踊学分野) IV		2前 2前 2後 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	芦屋大学非常勤講師 (令和2.4)							
17	その他	講師	カネコ アキラ 金子 彰宏 <令和9年4月>		学士 (芸術)		舞台技術		2・3・4後	2	1	兵庫県立文化芸術センター 舞台技術部 (平14.7)							
18	その他	教授	タカタ タイ 高田 太 <令和8年4月>		博士 (神学)		聖書の世界 澤山保羅と建学の精神		1前 1後	2 2	1 1	梅花女子大学心理こども学部 教授 (平27.4)						梅花女子大学心理こども学部 「基(専)」	
19	その他	講師	トミカ マリコ 富永 麻里子 <令和8年4月>		経済学士		美しい日本語(話し方)		1前	2	1	梅花女子大学 非常勤講師 (平成31.4)							
20	その他	准教授	シゲマツ エミ 重松 恵美 <令和9年4月>		文学修士※		美しい日本語(書き方)		2後	2	1	梅花女子大学文化表現学部 准教授 (令3.4)							
21	その他	講師	ナカ ヨシコ 中 可子 <令和8年4月>		学士(外国 研究)		エレガンスセミナー		1・2・3・4後	2	1	株式会社オフィスフレゾン ビジネスマナー講師 (平成14.10)							
22	その他	講師	ノノタ タカヤ 野村 卓也 <令和8年4月>		文学士		ナレッジイノベーション論		1・2・3・4前	2	1	梅花女子大学客員教授 (令和4.4)							
23	その他	准教授	メグロ シンイチ 目久田 純一 <令和9年4月>		修士※ (心理学)		実践・産学連携演習		2・3・4後	2	1	梅花女子大学心理こども学部 准教授 (平27.4)						梅花女子大学心理こども学部 「基(主専)」	
24	その他	講師	ニシガキ ミコ 西脇 都 <令和8年4月>		学士(英語 学)		英語会話 I 英語会話 II		1前 1後	1 1	1 1	株式会社ECC (令和1.1)							
25	その他	講師	ロジャー フラット ジュニア Roger Flatt Jr. <令和9年4月>		博士 (音楽)		英語会話III 英語会話IV		2前 2後	1 1	1 1	株式会社ECC (令和4.1)							
26	その他	教授	キタ カズトモ 喜多 一友 <令和8年4月>		教育学士		健康とスポーツ(実技) 健康とスポーツ(理論)		1前 1後	1 2	1 1	梅花女子大学心理こども学部 教授 (令5.4)						梅花女子大学心理こども学部 「基(主専)」	
27	その他	講師	カシノキヨウ ヨシエ 上敷領 美絵 <令和8年4月>		修士 (音楽)		フランス語会話		1・2・3・4前	1	1	株式会社ECC (令和4.9)							
28	その他	講師	ニシオ カズコ 西尾 和子 <令和8年4月>		博士 (文学)		中国語会話		1・2・3・4前	1	1	奈良女子大学全学共通非常勤講師 (令和4.4)							
29	その他	講師	チヨ シン 専 美鏡 <令和8年4月>		学士(社会 福祉学)		ハングル講座		1・2・3・4前	1	1	株式会社ECC (令和4.10)							
30	その他	講師	カワチ チカキ 桂 千草 <令和8年4月>		学士(美 術)		手話入門		1・2・3・4前	2	1	梅花女子大学 非常勤講師 (平成8.4)							
31	その他	講師	ハシモト ミチ 橋本 美幸 <令和8年4月>		博士 (法学)		女性と法		1・2・3・4後	2	1	関西大学非常勤講師 (令和6.10)							
32	その他	講師	カノウ ナミ 加納 直美 <令和8年4月>		教育学士		美しい日本語(硬筆入門)		1・2・3・4前	2	1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和5.4)							
33	その他	講師	スガ シウイチ 菅 修一 <令和9年4月>		修士 (学術)		図書館の文化史		2・3・4後	2	1	花園大学文学部准教授 (平成24.4)							
34	その他	講師	タケノカ ショウ 竹下 諒 <令和8年4月>		修士 (法学・政 治学)		日本国憲法		1・2・3・4前	2	1	四天王寺大学非常勤講師 (令和6.9)							
35	その他	講師	カエト ショウタ 上本 翔大 <令和8年4月>		博士 (法学・政 治学)		人間と法(法学)		1・2・3・4前	2	1	日本学術振興会特別研究員 (令和4.4)							
36	その他	講師	タケキ ヒデアト 田崎 嗣人 <令和9年4月>		修士 (公法学)		政治学		2・3・4前	2	1	梅花女子大学 非常勤講師 (平成28.4)							
37	その他	教授	オガワ ユウガク 小川 裕三 <令和8年4月>		博士 (歯学)		生物・化学の基礎		1・2・3・4前	2	1	梅花女子大学看護保健学部 教授 (平27.4)						梅花女子大学看護保健学部 「基(主専)」	
38	その他	講師	マツモト トシカズ 松本 寿一 <令和8年4月>		博士 (情報・シ ステム科 学)		情報科学		1・2・3・4前	2	1	大阪府枚方市第二小学校特別非常勤講師 (平成18.9)							
39	その他	講師	イシワリ ヒロキ 石川 大輝 <令和8年4月>		修士 (人間科 学)		アニマルセラピー入門		1・2・3・4前	2	1	梅花女子大学心理こども学部 講師 (令5.4)							
40	その他	講師	ウエダ ユリ 植田 裕里 <令和8年4月>		短期大学卒		和装で学ぶ日本の美		1・2・3・4前	2	1	梅花女子大学 講師アシスタント (令和6.4)							
41	その他	教授	シバタ ユキ 柴田 由起 <令和8年4月>		修士 (心理臨床 学)		メディカル心理学		1・2・3・4後	2	1	梅花女子大学心理こども学部 教授 (平25.4)						梅花女子大学心理こども学部 「基(主専)」	
42	その他	講師	イト(けい) ナミ 井元(倉屋) 奈緒美 <令和8年4月>		専門学校卒		メディカルヨガ I メディカルヨガ II		1・2・3・4前 1・2・3・4後	1 1	1 1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和3.4)							

教 員 の 氏 名 等																				
(文化表現学部舞台芸術表現学科)																				
調査 番号	教員 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	主要授 業科目	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に 従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織 (他の大学等に置かれる学部等 を含む)での基幹教員としての 勤務状況	
			教授会											教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称				
43	その他	講師	ハヤシ 知可 <令和9年4月>		学士 (法学)		メディカルビラティスⅠ メディカルビラティスⅡ		2・3・4前 2・3・4後		1 1	1 1	ヨガビラティススタジオ AERIAL メディカルビラティスレッスン担当 (平成29.9)							
44	その他	講師	アカハシ マスミ 赤堀 真澄 <令和8年4月>		文学士		食とカラダの診断学		1・2・3・4前		2	1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和4.4)							
45	その他	講師	ハツリ キチコ 服部 幸子 <令和8年4月>		短期大学卒		美と健康の薬膳学		1・2・3・4前		2	1	国際薬膳学院講師 (令和5.4)							
46	その他	講師	オグタ トシコ 奥田 利子 <令和8年4月>		文学士		メイクアップ理論 メイクアップテクニックⅡ		1・2・3・4前 2前		0.5 0.5	1 1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和5.4)							
47	その他	講師	モリ(ツグ) は 毛利(辻田) 美保 <令和8年4月>		経済学士		メイクアップ理論 メイクアップテクニックⅠ メイクアップテクニックⅡ		1・2・3・4前 1後 2前		0.5 1 0.5	1 1 1	ヒューマンアカデミー株式会社非常勤講師 (平成13.4)							
48	その他	教授	フカミ ヒデユキ 深見 秀之 <令和8年4月>		博士 (歯学)		基礎医学		1・2・3・4後		1.9	1	梅花女子大学看護保健学部 教授 (平30.4)							梅花女子大学看護保健学部 「基(主専)」
49	その他	教授	モリキ イシノブ 森崎 市治郎 <令和8年4月>		博士 (歯学)		基礎医学		1・2・3・4後		0.1	1	梅花女子大学看護保健学部 教授 (平27.4)							梅花女子大学看護保健学部 「基(主専)」
50	その他	講師	アトベ サチ 跡部 沙智 <令和8年4月>		高等学校卒		メディカルアロマセラピー概論		1・2・3・4後		2	1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和5.10)							
51	その他	教授	タキト ユカ 瀧本 優子 <令和8年4月>		修士 (社会福祉 学)		メンタルヘルス入門		1・2・3・4前		2	1	梅花女子大学心理こども学部 教授 (平15.4)							梅花女子大学心理こども学部 「基(主専)」
52	その他	講師	ミヅ(サキ) アユム 三村(雑賀) 歩 <令和8年4月>		学士 (外国研 究)		美容整体&ボディデザイン 心身を整えるセルフケア		1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	株式会社ファクトリージャパングループ 技術者教育部 セラピスト (平成23.8)							
53	その他	講師	アサヅリ(イダ) ミズキ 芦澤(飯田) 瑞貴 <令和8年4月>		学士(芸 術)		ヴォイストレーニングⅠ ヴォイストレーニングⅡ ヴォイストレーニングⅢ ヴォイストレーニングⅣ		1前 1後 2前 2後		1 1 1 1	1 1 1 1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和5.4)							
54	その他	講師	シヨウジ マスミ 東海林 まゆ美 <令和8年4月>		学士 (Theatre dance)		バレエⅠ バレエⅡ		1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	梅花女子大学 非常勤講師 (令和3.4)							
55	その他	講師	サキト ケイコ 坂本 慶子 <令和8年4月>		高等学校卒		バレエⅠ バレエⅡ		1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	梅花女子大学 非常勤講師 (平成28.4)							
56	その他	講師	フクノ ナオミ 福島 直美 <令和8年4月>		修士 (芸術制 作)		ダンスⅠ ダンスⅡ		1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	ダンサー(平12) 振付家(平12) インストラクター(平12)							
57	その他	講師	ヤマシ テイヤ 山西 輝也 <令和8年4月>		博士 (学術)		生成AI活用学		1・2・3・4前		1	1	大阪成蹊大学データサイエンス学部 データサイエンス学科教授 (令和4.11)							

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。
- 4 「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は、教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合、欄に「○」を記入すること。
- 5 「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織(他の大学等に置かれる学部等を含む)での基幹教員としての勤務状況」の欄は、基幹教員のみ記載すること。
- 6 「申請に係る学部等以外の組織(他の大学等に置かれる学部等を含む)での基幹教員としての勤務状況」の欄は、申請に係る学部等以外の組織(他の大学等に置かれる学部等を含む)で基幹教員として勤務している場合、その大学及び学部等の名称及びそれらの学部等での教員区分を記載すること。

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	1人	2人	人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	1人	人	人	1人	2人	
准 教 授	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	1人	人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	修 士	1人	人	人	1人	1人	2人	人	5人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短 期 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	1人	2人	人	人	1人	4人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、基幹教員についてのみ作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合、「専任教員」と読み替えること。
- 5 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。